2025年度
千代田コンソ単位互換提供
（他大学向け）科目
講義概要（シラバス）

法政大学

科目一覧［発行日：2025/5/1］最新版のシラバスは、法政大学Webシラバス（https://syllabus.hosei.ac.jp/）で確認してください。

凡例　その他属性

〈他〉：他学部公開科目
〈優〉：成績優秀者の他学部科目履修制度対象科目
〈S〉：サティフィケートプログラム_SDGs
〈ダ〉：サティフィケートプログラム_ダイバーシティ
〈カ〉：サティフィケートプログラム_カーボンニュートラル
〈グ〉：グローバル・オープン科目
〈実〉：実務経験のある教員による授業科目
〈ア〉：サティフィケートプログラム_アーバンデザイン
〈未〉：サティフィケートプログラム_未来教室

【A0001】憲法Ⅰ［金子　匡良］春学期授業/Spring …… 1
【A0002】憲法Ⅱ［金子　匡良］秋学期授業/Fall …… 2
【A0003】憲法Ⅰ［髙橋　正明］春学期授業/Spring …… 3
【A0004】憲法Ⅱ［髙橋　正明］秋学期授業/Fall …… 4
【A0005】憲法Ⅲ［國分　典子］春学期授業/Spring …… 5
【A0006】憲法Ⅳ［國分　典子］秋学期授業/Fall …… 6
【A0010】国際社会と憲法Ⅱ［國分　典子］秋学期授業/Fall …… 7
【A0067】国際人権法Ⅰ［佐々木　亮］春学期授業/Spring …… 8
【A0068】国際人権法Ⅱ［大津　浩］秋学期授業/Fall …… 10
【A0090】労働法総論・労働契約法［藤木　貴史］春学期授業/Spring …… 11
【A0091】労働基準法［藤木　貴史］秋学期授業/Fall …… 13
【A0092】労働法総論・労働契約法［沼田　雅之］春学期授業/Spring …… 15
【A0093】労働基準法［沼田　雅之］秋学期授業/Fall …… 17
【A0094】労働組合法［藤木　貴史］春学期授業/Spring …… 19
【A0095】労働法特論［細川　良］秋学期授業/Fall …… 21
【A0096】社会保障法Ⅰ［沼田　雅之］春学期授業/Spring …… 23
【A0097】社会保障法Ⅱ［沼田　雅之］秋学期授業/Fall …… 25
【A0100】教育法Ⅰ［村元　宏行］春学期授業/Spring …… 27
【A0101】教育法Ⅱ［村元　宏行］春学期授業/Spring …… 28
【A0114】法哲学Ⅰ［大野　達司］春学期授業/Spring …… 29
【A0115】法哲学Ⅱ［大野　達司］秋学期授業/Fall …… 30
【A0237】比較政治論Ⅰ［新川　敏光］春学期授業/Spring …… 31
【A0238】比較政治論Ⅱ［新川　敏光］秋学期授業/Fall …… 32
【A0522】コミュニティ政策（日本）［名和田　是彦］春学期授業/Spring …… 33
【A0523】コミュニティ政策（理論・国際比較）［名和田　是彦］秋学期授業/Fall …… 35
【A0573】憲法Ⅳ［國分　典子］秋学期授業/Fall …… 37
【A0574】憲法Ⅲ［國分　典子］春学期授業/Spring …… 38
【A0663】戦後国際関係史［宮下　雄一郎］秋学期授業/Fall …… 39
【A0664】グローバル・ガバナンス［本多　美樹］春学期授業/Spring …… 40
【A0840】ヨーロッパ政治史Ⅰ［網谷　龍介］春学期授業/Spring …… 42
【A0841】ヨーロッパ政治史Ⅱ［網谷　龍介］秋学期授業/Fall …… 43
【A0898】アメリカ政治史Ⅰ［中野　勝郎］春学期授業/Spring …… 44
【A0899】アメリカ政治史Ⅱ［中野　勝郎］秋学期授業/Fall …… 45
【A2245】現代思想２（フランスの思想）１［大池　惣太郎］春学期授業/Spring …… 46
【A2246】現代思想２（フランスの思想）２［大池　惣太郎］秋学期授業/Fall …… 47
【A2251】宗教学１（伝統宗教）１［松本　力］春学期授業/Spring …… 48
【A2252】宗教学１（伝統宗教）２［松本　力］秋学期授業/Fall …… 49
【A2268】ラテン語１［金子　佳司］春学期授業/Spring …… 50
【A2269】ラテン語２［金子　佳司］秋学期授業/Fall …… 51
【A2270】ギリシア語１［白根　裕里枝］春学期授業/Spring …… 52
【A2271】ギリシア語２［白根　裕里枝］秋学期授業/Fall …… 53
【A2553】日本文芸批評史A［伊東　祐吏］春学期授業/Spring …… 54
【A2555】日本文芸批評史B［伊東　祐吏］秋学期授業/Fall …… 55
【A2561】中国文芸史A［遠藤　星希］春学期授業/Spring …… 56

【A2563】中国文芸史B ［遠藤　星希］秋学期授業/Fall 57
【A2665】日本文芸研究特講（３）中世A ［阿部　真弓］春学期授業/Spring 58
【A2666】日本文芸研究特講（３）中世B ［阿部　真弓］秋学期授業/Fall 59
【A2669】日本文芸研究特講（４）近世A ［小林　ふみ子］春学期授業/Spring 60
【A2703】日本文芸研究特講（１５）国際日本学A ［スティーヴン ネルソン］春学期授業/Spring 61
【A2704】日本文芸研究特講（１５）国際日本学B ［スティーヴン ネルソン］秋学期授業/Fall 62
【A3113】日本考古学 ［高橋　健］秋学期授業/Fall 63
【A3116】日本近世史 ［大橋　幸泰］秋学期授業/Fall 64
【A3152】考古学概論 ［高橋　健］春学期授業/Spring 65
【A3157】日本史特講Ⅳ ［中山　学］秋学期授業/Fall 66
【A3164】東洋史特講Ⅲ ［芦沢　知絵］秋学期授業/Fall 67
【A3171】西洋史特講Ⅳ ［皆川　卓］春学期授業/Spring 68
【A3172】西洋史特講Ⅴ ［皆川　卓］秋学期授業/Fall 70
【A3208】東洋近現代史 ［芦沢　知絵］春学期授業/Spring 72
【A3214】東洋史序説 ［山元　貴尚］春学期授業/Spring 73
【A3215】西洋史序説 ［阿部　衛］春学期授業/Spring 74
【A3216】日本史特講XI ［小倉　慈司］秋学期授業/Fall 75
【A3217】東洋史特講Ⅶ ［徳留　大輔］春学期授業/Spring 76
【A3218】東洋史特講Ⅷ ［松本　隆志］春学期授業/Spring 78
【A3219】西洋史特講Ⅸ ［吉岡　潤］秋学期授業/Fall 79
【A3226】日本史序説 ［齋藤　智志］春学期授業/Spring 80
【A3227】歴史特講 ［柏木　一朗、塩沢　裕仁、内田　康太、皆川　卓、高井　康行］秋学期授業/Fall 81
【A3809】民俗学Ⅰ ［室井　康成］春学期授業/Spring 82
【A3810】民俗学Ⅱ ［室井　康成］秋学期授業/Fall 83
【A3811】イスラム世界論Ⅰ ［松本　隆志］春学期授業/Spring 84
【A3812】イスラム世界論Ⅱ ［松本　隆志］秋学期授業/Fall 85
【A3819】歴史地理学（１）［米家　志乃布］春学期授業/Spring 86
【A3820】歴史地理学（２）［米家　志乃布］秋学期授業/Fall 87
【A3905】社会経済地理学A（1）［小原　丈明］春学期授業/Spring 88
【A3906】社会経済地理学A（2）［小原　丈明］秋学期授業/Fall 89
【A3907】社会経済地理学B（1）［伊藤　達也］春学期授業/Spring 90
【A3908】社会経済地理学B（2）［伊藤　達也］秋学期授業/Fall 91
【A3909】社会経済地理学C（1）［佐々木　達］春学期授業/Spring 92
【A3910】社会経済地理学C（2）［佐々木　達］秋学期授業/Fall 93
専門入門科目100番台【A4013】ファイナンス入門［山嵜　輝］春学期授業/Spring 94
専門入門科目100番台【A4022】統計学入門［高橋　慎］春学期授業/Spring 95
専門入門科目100番台【A4023】統計学入門［高橋　慎］秋学期授業/Fall 96
専門入門科目200番台【A4303】会計学入門Ⅰ ［近藤　大輔］春学期授業/Spring 97
専門入門科目200番台【A4304】会計学入門Ⅱ ［近藤　大輔］秋学期授業/Fall 98
経営学科専門科目200番台【A4353】経営管理論Ⅰ（2019年度以降入学者）［中西　善信］春学期授業/Spring 99
経営学科専門科目200番台【A4354】経営管理論Ⅱ（2019年度以降入学者）［中西　善信］秋学期授業/Fall 100
経営学科専門科目200番台【A4361】キャリア・マネジメントⅠ（2019年度以降入学者）［小川　憲彦］春学期授業/Spring 101
経営学科専門科目200番台【A4362】キャリア・マネジメントⅡ（2019年度以降入学者）［小川　憲彦］秋学期授業/Fall 102
市場経営学科専門科目200番台【A4465】日本経営論Ⅰ ［金　容度］春学期授業/Spring 103
市場経営学科専門科目200番台【A4466】日本経営論Ⅱ ［金　容度］秋学期授業/Fall 104
【A6114】Comparative Education ［Machiko Kobori］秋学期授業/Fall 105
【A6116】TESOL I: Introduction ［Machiko Kobori］春学期授業/Spring 106
【A6207】English Teaching in Primary School ［Machiko Kobori］秋学期授業/Fall 107
【A6208】TESOL II: Teaching Methodology ［Machiko Kobori］春学期授業/Spring 108
【A6277】Comparative Literature ［Gregory Khezrnejat］春学期授業/Spring 109
【A6664】French D I ［ニコラ ガイヤール］春学期授業/Spring 110
【A6665】French D II ［ニコラ ガイヤール］秋学期授業/Fall 111
都市環境デザイン工学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野【B1051】マーケティング［林　奈生子］秋学期授業/Fall 112
建築学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野【B1051】マーケティング［林　奈生子］秋学期授業/Fall 114

システムデザイン学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野【B1051】マーケティング［林　奈生子］秋学期授業/Fall 116
建築学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野【B1053】エコノミクス［李　江南］秋学期授業/Fall 118
システムデザイン学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野【B1053】エコノミクス［李　江南］秋学期授業/Fall.. 120
都市環境デザイン工学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野【B1053】エコノミクス［李　江南］秋学期授業/Fall 122
都市環境デザイン工学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野【B2008】現代企業論［境　新一］春学期授業/Spring 124
システムデザイン学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野【B2008】現代企業論［境　新一］春学期授業/Spring. 126
建築学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野【B2008】現代企業論［境　新一］春学期授業/Spring 128
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B2051】都市デザイン［高見　公雄］春学期前半/Spring(1st half) . 130
システムデザイン学科_専門科目_展開科目【B2051】都市デザイン［高見　公雄］春学期前半/Spring(1st half).... 131
建築学科_専門科目_基礎科目【B2051】都市デザイン［高見　公雄］春学期前半/Spring(1st half) 132
建築学科_専門科目_展開科目【B3011】建築フォーラム［下吹越　武人、赤松　佳珠子、小堀　哲夫、安積　伸、渡邉　竜一、山道　拓人］秋学期授業/Fall 133
【B3581】デザインフォーラム［下吹越　武人、赤松　佳珠子、小堀　哲夫、安積　伸、渡邉　竜一、山道　拓人］秋学期授業/Fall 135
【B3581】デザインフォーラム［下吹越　武人、赤松　佳珠子、小堀　哲夫、安積　伸、渡邉　竜一、山道　拓人］秋学期授業/Fall 137
【B3581】デザインフォーラム［下吹越　武人、赤松　佳珠子、小堀　哲夫、安積　伸、渡邉　竜一、山道　拓人］秋学期授業/Fall 139
【B3590】アントレプレナーシップ［姜　理恵］秋学期前半/Fall(1st half) 141
【C0242】国際文化協力［松本　悟］春学期授業/Spring 143
【C0243】平和学［松本　悟］秋学期授業/Fall 144
【C0245】Religion and Society ［佐々木　一惠］春学期授業/Spring 145
【C0595】ドイツ語アプリケーション［林　志津江］春学期授業/Spring..... 146
【C0596】ドイツ語アプリケーション［小川　敦］春学期授業/Spring 148
【C0597】ドイツ語アプリケーション［Schmidt Ute］秋学期授業/Fall 149
【C0625】フランス語アプリケーション［ル ルー 清野　ブレンダン］春学期授業/Spring 150
【C0626】フランス語アプリケーション［ル ルー 清野　ブレンダン］秋学期授業/Fall..... 151
【C0627】フランス語アプリケーション［カレンス　フィリップ］春学期授業/Spring 152
【C0628】フランス語アプリケーション［ル ルー 清野　ブレンダン］秋学期授業/Fall..... 153
【C0814】文化と生物［島野　智之、川上　裕司、黒沼　真由美、松崎　素道、鈴木　忠、富川　光］秋学期授業/Fall 154
【C0815】文化と環境情報［島野　智之、佐々木　美貴、中西　由季子、忽那　賢志、塚田　訓久、島田　瑞穂、吉川　翠、長谷川　真紀子］秋学期授業/Fall 155
【C0942】フランス語圏の文化Ⅰ（思想）［大中　一彌］秋学期授業/Fall 157
【C0943】フランス語圏の文化Ⅱ（芸術）［岡村　民夫］春学期授業/Spring 160
【C0947】北米文化論（ケベック講座）［廣松　勲］秋学期授業/Fall 161
【C1046】地域協力・統合［大中　一彌］秋学期授業/Fall 162
【C1048】実践国際協力［松本　悟］秋学期授業/Fall..... 164
【C1053】Approaches to Transnational History ［佐々木　一惠］秋学期授業/Fall..... 165
【C2417】環境科学Ⅱ ［藤倉　良］秋学期授業/Fall 167
【C2418】環境科学Ⅲ ［藤倉　良］春学期授業/Spring 168
【C2430】環境モデル論Ⅰ ［渡邊　誠］春学期授業/Spring 169
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C5062】学習の社会史B ［寺崎　里水］春学期授業/Spring 171
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C5089】アート・マネジメント論［荒川　裕子］春学期授業/Spring 172
関連科目【C5298】就業機会とキャリア特講E-働くことと労働組合- ［武石　恵美子、佐藤　厚］秋学期授業/Fall . 173
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群（人文分野）【Q1445】日本史ＬⅠ［貫井　裕恵］春学期授業/Spring 175
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群（人文分野）【Q1446】日本史ＬⅡ［貫井　裕恵］秋学期授業/Fall..... 176
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6111】美術論Ａ［稲垣　立男］春学期授業/Spring 177
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6112】美術論Ｂ［稲垣　立男］秋学期授業/Fall . 180
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6421】第三外国語としてのドイツ語Ａ［林　志津江］春学期授業/Spring..... 182
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6422】第三外国語としてのドイツ語Ｂ［林　志津江］秋学期授業/Fall 184
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6425】教養ゼミⅠ ［上田　知夫］春学期授業/Spring 185
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6426】教養ゼミⅡ ［上田　知夫］秋学期授業/Fall 186

2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6427】ドイツの思想Ａ［吉田　敬介］春学期授業/Spring 187
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6428】ドイツの思想Ｂ［吉田　敬介］秋学期授業/Fall 188
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6429】カルチュラル・スタディーズで見るドイツ語圏Ａ［林　志津江］春学期授業/Spring 189
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6430】カルチュラル・スタディーズで見るドイツ語圏Ｂ［林　志津江］秋学期授業/Fall 191
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6437】ドイツ語圏の公共哲学Ａ［上田　知夫］春学期授業/Spring 193
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6438】ドイツ語圏の公共哲学Ｂ［上田　知夫］秋学期授業/Fall 194
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6439】ドイツ語圏の歴史Ａ［辻　英史］春学期授業/Spring 195
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6440】ドイツ語圏の歴史Ｂ［辻　英史］秋学期授業/Fall 197
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6601】第三外国語としてのフランス語Ａ［廣松　勲］春学期授業/Spring 198
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6602】第三外国語としてのフランス語Ｂ［廣松　勲］秋学期授業/Fall 199
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6605】教養ゼミⅠ［大中　一彌］サマーセッション/Summer Session 200
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6606】教養ゼミⅡ［大中　一彌］オータムセッション/Autumn Session 202
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6607】教養ゼミⅠ［ル ルー 清野　ブレンダン］春学期授業/Spring 204
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6608】教養ゼミⅡ［ル ルー 清野　ブレンダン］秋学期授業/Fall 206
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6609】フランス語コミュニケーション(中･上級)Ａ［ル ルー 清野　ブレンダン］春学期授業/Spring 208
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6610】フランス語コミュニケーション(中･上級)Ｂ［ル ルー 清野　ブレンダン］秋学期授業/Fall 210
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6801】第三外国語としての中国語Ａ［岩田　和子］春学期授業/Spring 212
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6802】第三外国語としての中国語Ｂ［岩田　和子］秋学期授業/Fall 213
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6803】第三外国語としての中国語中級Ａ［木村　佳代子］春学期授業/Spring 214
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6804】第三外国語としての中国語中級Ｂ［木村　佳代子］秋学期授業/Fall 215
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6805】中国語視聴覚中級Ａ［劉　渇氷］春学期授業/Spring 216
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6806】中国語視聴覚中級Ｂ［劉　渇氷］秋学期授業/Fall 217
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6807】中国語作文中級Ａ［楊　心苗］春学期授業/Spring 218
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6808】中国語作文中級Ｂ［楊　心苗］秋学期授業/Fall 219
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6809】中国語コミュニケーション中級Ａ［周　重雷］春学期授業/Spring 220
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6810】中国語コミュニケーション中級Ｂ［周　重雷］秋学期授業/Fall 221
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6811】中国語翻訳･通訳Ａ［王　安］春学期授業/Spring 222
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6812】中国語翻訳･通訳Ｂ［王　安］秋学期授業/Fall 223

2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6817】中国語講読中級Ａ［岩田　和子］春学期授業/Spring 224
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6818】中国語講読中級Ｂ［岩田　和子］秋学期授業/Fall 225
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6821】資格中国語上級Ａ［任　麗潔］春学期授業/Spring 226
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6822】資格中国語上級Ｂ［任　麗潔］秋学期授業/Fall 227
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群（諸外国語分野）【R4297】ドイツの文化と社会ＬＡ［小川　敦］春学期授業/Spring 228
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群（諸外国語分野）【R4298】ドイツの文化と社会ＬＢ［小川　敦］秋学期授業/Fall 229
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群（諸外国語分野）【R5271】フランス語の世界ＬＡ［廣松　勲］春学期授業/Spring 230
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群（諸外国語分野）【R5272】フランス語の世界ＬＢ［廣松　勲］秋学期授業/Fall 232
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群［選択］外国語（英語・諸外国語）【R5273】フランス語コミュニケーション(初級)Ⅰ［ニコラ　ガイヤール］春学期授業/Spring 234
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群［選択］外国語（英語・諸外国語）【R5274】フランス語コミュニケーション(初級)Ⅱ［ニコラ　ガイヤール］秋学期授業/Fall 235
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群［選択］外国語（英語・諸外国語）【R5279】時事フランス語Ⅰ［大中　一彌］春学期授業/Spring 236
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群［選択］外国語（英語・諸外国語）【R5280】時事フランス語Ⅱ［大中　一彌］秋学期授業/Fall 239
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群（諸外国語分野）【R5291】フランスの文化と社会ＬＡ［鈴木　正道］春学期授業/Spring 242
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群（諸外国語分野）【R5292】フランスの文化と社会ＬＢ［鈴木　正道］秋学期授業/Fall 244
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群（諸外国語分野）【R5295】フランス生活文化論ＬＡ［梶谷　彩子］春学期授業/Spring 246
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群（諸外国語分野）【R5296】フランス生活文化論ＬＢ［梶谷　彩子］秋学期授業/Fall 248
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群［選択］外国語（英語・諸外国語）【R7413】中国語コミュニケーション初級Ⅰ［周　重雷］春学期授業/Spring 249
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群［選択］外国語（英語・諸外国語）【R7414】中国語コミュニケーション初級Ⅱ［周　重雷］秋学期授業/Fall 250
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群［選択］外国語（英語・諸外国語）【R7437】資格中国語初級Ⅰ［青木　正子］春学期授業/Spring 251
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群［選択］外国語（英語・諸外国語）【R7438】資格中国語初級Ⅱ［青木　正子］秋学期授業/Fall 252
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群（諸外国語分野）【R7445】中国語の世界ＬＡ［高柳　浩平］春学期授業/Spring 253
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群（諸外国語分野）【R7446】中国語の世界ＬＢ［高柳　浩平］秋学期授業/Fall 254
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群（諸外国語分野）【R7447】中国の文化と社会ＬＡ［山本　律］春学期授業/Spring 255
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群（諸外国語分野）【R7448】中国の文化と社会ＬＢ［山本　律］秋学期授業/Fall 256
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群（諸外国語分野）【R7449】中国の文化と社会ＬＣ［陳　瀟瀟］春学期授業/Spring 257
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群（諸外国語分野）【R7450】中国の文化と社会ＬＤ［陳　瀟瀟］秋学期授業/Fall 259

LAW100AB（法学 / law 100）

憲法Ⅰ

金子　匡良

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
単位数：**2単位**
備考（履修条件等）：**クラス指定科目　※法律1年A-G・法律2〜4年（他学科他学部はクラス指定なし）**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、憲法の土台を成す立憲主義とそれが成立した歴史的経緯を概観した上で、国民主権などの日本国憲法の基本原理、および人権の分類や主体などの人権に関わる総論的な事項について学んでいく。この授業は法律学科のすべてのコースに配置されている。

【到達目標】
①立憲主義の内容およびその歴史的背景について理解する。
②日本国憲法の基本原理、特に国民主権の規範内容について理解する。
③人権の分類と個々の権利の特質について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】
授業は学習支援システム（WebClass）を通じて配布するプリントを教材にして、対面の講義形式で行う。質問に対する回答やリアクションペーパーに対するコメントなどは、適宜授業中に行うことによってフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方や学び方について説明する。
第2回	立憲主義の意義	法体系における憲法の意義と機能、および立憲主義の意義について学ぶ。
第3回	憲法の内容と特質	憲法を構成する規範内容と憲法の特質および憲法の類型について学ぶ。
第4回	憲法の歴史①：近代憲法の成立	近代国家と近代憲法の成立過程について学ぶ。
第5回	憲法の歴史②：現代憲法の成立	近代国家から現代国家への変容と、それに伴う現代憲法の成立について学ぶ。
第6回	日本憲法史	明治憲法と日本国憲法の対比、および日本国憲法成立の法理について学ぶ。
第7回	天皇制	象徴天皇制の意義および天皇の国事行為について学ぶ。
第8回	国民主権	国民主権の意義とその規範的意味について学ぶ
第9回	平和主義	平和主義の内容と戦力不保持規定の意義について学ぶ。
第10回	人権の類型	人権の類型と個々の人権の特質、および新しい人権について学ぶ。
第11回	人権の享有主体	人権の享有主体、特に外国人の人権享有主体性について学ぶ。
第12回	人権の限界	人権の限界、特に公共の福祉の規範的意味について学ぶ。
第13回	人権の私人間効力	人権の私人間効力に関する学説と判例について学ぶ。
第14回	人権の国際的保障	国際人権条約の意義と人権条約の国内適用について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習として、授業前にプリントをよく読み、疑問点や課題を明らかにしておくこと。また、必要に応じて、下記の参考書の該当ページに目を通しておくこと。授業終了後に、復習として、授業内容を振り返り、授業前に抱いた疑問や課題が解消されたか確認すること。必要に応じて参考書の該当ページに目を通すこと。なお、本授業の準備・復習に要する時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは指定しない。授業はWebClassを通じて配布するプリントに沿って行う。

【参考書】
入門レベルのテキストとして、中村睦男ほか編著『はじめての憲法学〔第4版〕』（三省堂、2021年）、標準レベルのテキストとして、新井誠ほか著『憲法Ⅰ・Ⅱ〔第2版〕』（日評ベーシックシリーズ）（日本評論社、2021年）、発展レベルのテキストとして、毛利透ほか著『憲法Ⅰ・Ⅱ』（LEGAL QUEST）（有斐閣、2022年・2023年）を推薦する。また、判例集としては、入門レベルのものとして、小泉良幸ほか編『憲法判例コレクション』（有斐閣、2021年）、標準レベルのものとして、長谷部恭男ほか編『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ』（有斐閣、2019年）を推薦する。

【成績評価の方法と基準】
学期末に行う定期試験の点数によって成績を評価する（100％）。なお、学期中に中間テストを行う場合は、その点数を適宜加味する。

【学生の意見等からの気づき】
理解度向上のために、なるべく平易な解説を心がけるようにしたい。

【その他の重要事項】
【実務経験のある教員による授業】
授業担当者は、国会議員政策担当秘書の資格を有し、かつ実務経験がある。授業では、その経験を活かし、憲法と現実政治との関係についても論及する。

【Outline (in English)】
In this class, we first learn about the contents of constitutionalism, which is the foundation of the constitutional law, and the historical background of the establishment of constitutionalism. Next, we learn about the history and the fundamental principles of the Constitution of Japan.
Before/after each class meeting, students will be expected to read the printouts distributed by WebClass. Your required study time is at least four hours for each class meeting.
Grading will be decided based on term-end examination (100%).

LAW100AB（法学 / law 100）

憲法Ⅱ

金子　匡良

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
単位数：**2単位**
備考（履修条件等）：**クラス指定科目　※法律1年A-G・法律2〜4年（他学科他学部はクラス指定なし）**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、日本国憲法に規定された個々の人権について、保障内容と特質を明らかにした上で、その権利に関する学説・判例を学んでいく。この授業は法律学科のすべてのコースに配置されている。

【到達目標】
①日本国憲法が保障する人権の体系について理解する。
②個々の人権の保障内容について理解する。
③個々の人権に関する論点と、その論点に関する学説・判例を理解する。
④現代社会の様々な人権問題について、憲法学的な視点から分析する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】
授業は学習支援システム（WebClass）を通じて配布するプリントに沿って、対面形式の講義で行う。質問に対する回答やリアクションペーパーに対するコメントなどは、適宜授業中に行うことによってフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方や学び方について説明する。
第2回	人権の類型	日本国憲法が保障する人権の体系と類型について学ぶ。
第3回	法の下の平等（平等権）	法の下の平等の内容と特質、およびそれをめぐる論点に関する学説・判例について学ぶ。
第4回	思想・良心の自由	思想・良心の自由の内容と特質、およびそれをめぐる論点に関する学説・判例について学ぶ。
第5回	信教の自由	信教の自由の内容と特質、およびそれをめぐる論点に関する学説・判例について学ぶ。
第6回	政教分離原則	政教分離原則の内容、およびそれをめぐる論点に関する学説・判例について学ぶ。
第7回	表現の自由①：表現の自由の内容	表現の自由およびそこから派生する権利の内容について学ぶ。
第8回	表現の自由②：表現の自由の限界	表現の自由の限界について、それに関する学説・判例を中心に学ぶ。
第9回	経済的自由権	経済的自由権の内容と特質、およびそれをめぐる論点に関する学説・判例について学ぶ。
第10回	身体的自由権	身体的自由権の内容と特質、およびそれをめぐる論点に関する学説・判例について学ぶ。
第11回	社会権①：生存権	生存権の内容と特質、およびそれをめぐる論点に関する学説・判例について学ぶ。
第12回	社会権②：教育を受ける権利・労働基本権	教育を受ける権利と労働基本権の内容と特質、およびそれをめぐる論点に関する学説・判例について学ぶ。
第13回	参政権	参政権の内容と特質、およびそれをめぐる論点に関する学説・判例について学ぶ。
第14回	国務請求権	国務請求権の内容と特質、およびそれをめぐる論点に関する学説・判例について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習として、授業前にプリントをよく読み、疑問点や課題を明らかにしておくこと。また、必要に応じて、下記の参考書の該当ページに目を通しておくこと。授業終了後に、復習として、授業内容を振り返り、授業前に抱いた疑問や課題が解消されたか確認すること。必要に応じて参考書の該当ページに目を通すこと。なお、本授業の準備・復習に要する時間は、各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは指定しない。授業はWebClassを通じて配布するプリントに沿って行う。

【参考書】
入門レベルのテキストとして、中村睦男ほか編著『はじめての憲法学〔第4版〕』（三省堂、2021年）、標準レベルのテキストとして、新井誠ほか著『憲法Ⅰ・Ⅱ〔第2版〕』（日評ベーシックシリーズ）（日本評論社、2021年）、発展レベルのテキストとして、毛利透ほか著『憲法Ⅰ・Ⅱ』（LEGAL QUEST）（有斐閣、2022年・2023年）を推薦する。また、判例集としては、入門レベルのものとして、小泉良幸ほか編『憲法判例コレクション』（有斐閣、2021年）、標準レベルのものとして、長谷部恭男ほか編『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ』（有斐閣、2019年）を推薦する。

【成績評価の方法と基準】
学期末に行う定期試験の点数によって成績を評価する（100％）。なお、学期中に中間テストを行う場合は、その点数を適宜加味する。

【学生の意見等からの気づき】
理解度を高めるため、なるべく平易な解説を心がけるようにしたい。

【その他の重要事項】
【実務経験のある教員による授業】
授業担当者は、国会議員政策担当秘書の資格を有し、かつ実務経験がある。授業では、その経験を活かし、憲法と現実政治との関係についても論及する。

【Outline (in English)】
In this class, students will learn the content and characteristics of the individual human rights guaranteed by the Constitution of Japan, and then study theories and judicial precedents concerning these rights.
Before/after each class meeting, students will be expected to read the printouts distributed by WebClass. Your required study time is at least four
hours for each class meeting.
Grading will be decided based on term-end examination (100%).

LAW100AB（法学 / law 100）

憲法Ⅰ

髙橋　正明

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
単位数：**2単位**
備考（履修条件等）：**クラス指定科目　※法律1年H-N・法律2〜4年（他学科他学部はクラス指定なし）**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、憲法総論及び人権総論について学び、これらの分野の基本的知識を習得するとともに、憲法問題に関する洞察力を深め、憲法上の課題を論理的に解決する力を養う。この授業は全てのコースに配置されている。

【到達目標】
①基本的知識を習得した上で、具体的な憲法上の課題を論理的に解決する力を養う。
②憲法が日々の生活において果たす機能・役割を知るとともに、市民の間で価値観や利害の対立が生じる背景について洞察する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】
基本的事項に関する講義を行った後、講義内容を復習するための演習問題を解き、解説を行うという流れで進行する。授業はレジュメに沿って進行する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 憲法を学ぶ上での前提知識	授業の全体像、授業の進め方、参考書について説明する。 憲法と法律の違い、法解釈の方法について学ぶ。
第2回	憲法の意味 判例の意味 統治機構・権力分立	学習上、最初に理解しておくべき憲法の基本概念・用語（憲法の意味、判例の意味、統治機構の概要）について学ぶ。
第3回	日本憲法史	明治憲法と日本国憲法それぞれの制定・運用過程について検討し、その違い・特徴を学ぶ。
第4回	平和主義	憲法9条の解釈、自衛隊を巡る問題などについて学ぶ。
第5回	国民主権・天皇制	国民主権の意味や、象徴天皇制に関する諸論点について学ぶ。
第6回	違憲審査制 人権の分類・歴史	憲法判例を分析する上で前提となる違憲審査制の概要について学ぶ。 人権の分類とそれぞれの特徴、人権の歴史的展開について学ぶ。
第7回	人権の限界 人権の主体（1）	公共の福祉、違憲審査の基準について学ぶ。 天皇・皇族、法人の人権について学ぶ。
第8回	人権の主体（2）	こども、外国人の人権（総論・在留制度）について学ぶ
第9回	人権の主体（3）	外国人の参政権、外国人に認められるその他の人権について学ぶ。
第10回	人権の私人間適用	私人間効力の基本的考え方、判例や具体的な適用方法について学ぶ。
第11回	幸福追求権（1）	幸福追求権の基本的な考え方、自己決定権（医療行為関係）について学ぶ。
第12回	幸福追求権（2）	自己決定権（生殖、ライフスタイル、家族形成）について学ぶ。
第13回	幸福追求権（3）	プライバシー権（個人情報保護）について学ぶ。
第14回	平等－総論	平等問題についての基本的な考え方や判例の判断枠組みについて学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習として、授業に関連する参考書や事前に配布されるレジュメを読む。
授業後は、レジュメやノートを基に授業の内容を振り返りつつ、レジュメの文章題の回答を作成すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
六法（特に出版社の指定はない）。

【参考書】
【基本書】
〈入門的なもの〉
中村 睦男・佐々木 雅寿・寺島 壽一 編『はじめての憲法学』第4版（三省堂、2021年）
〈標準的なもの〉
新井誠・曽我部真裕・佐々木くみ・横大道聡『憲法1　総論・統治』『憲法2　人権』（日評ベーシックシリーズ）第2版（日本評論社、2021年）
〈発展的なもの〉
毛利透・小泉良幸・淺野博宣・松本哲治『憲法Ⅰ　総論・統治』『憲法Ⅱ　人権』（LEGAL QUESTシリーズ）第3版（有斐閣、2022年）
【判例集】
＜入門的なもの＞
小泉良幸・松本哲治・横大道聡編『憲法判例コレクション』（有斐閣、2021年）
＜標準的なもの＞
長谷部恭男・石川健治・宍戸常寿編『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ』第7版（有斐閣、2019年）

【成績評価の方法と基準】
期末試験（100％）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【その他の重要事項】
①私語などの迷惑行為については厳しく対処するので、注意すること。
②レジュメは、学習支援システムにアップするので、各自で印刷し、持参するか、パソコンで見られる状態にすること。

【Outline (in English)】
< Course outline>
In this course, students will learn the general theories of constitutional law and human rights, gaining insight into constitutional issues, developing ability to solve them logically.
< Learning Objectives>
The objective of this course is to cultivate ability to solve the specific constitutional issues logically, to know the role of constitution in our daily life, and to cultivate insight into backgrounds of those issues.
< Learning activities outside of classroom>
Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
< Grading Criteria /Policies>
Final grade will be calculated based on term-end examination (100%).

LAW100AB（法学 / law 100）

憲法Ⅱ

髙橋　正明

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
単位数：**2単位**
備考（履修条件等）：**クラス指定科目　※法律1年H-N・法律2〜4年（他学科他学部はクラス指定なし）**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、憲法に規定された個別の人権規定について学び、人権各論分野の基本的知識を習得するとともに、憲法問題に関する洞察力を深め、憲法上の課題を論理的に解決する力を養う。この授業は全てのコースに配置されている。

【到達目標】
①人権各論分野に関する基本的知識を習得した上で、具体的な憲法上の課題を論理的に解決する力を養う。
②憲法、とりわけ個別の人権規定が日々の生活において果たす機能・役割を知るとともに、市民の間で価値観や利害の対立が生じる背景について洞察する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】
基本的事項に関する講義を行った後、講義内容を復習するための演習問題を解き、解説を行うという流れで進行する。授業はレジュメに沿って進行する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 前期授業の振り返り	秋学期授業の進め方について説明する。
	平等（2）－家族形成	憲法訴訟の基本枠組みと、人権論の基本的考え方について確認をする。 平等の各論的問題として家族形成に関する判例について学ぶ。
第2回	思想・良心の自由	思想・良心の自由に関する基本的な考え方と、判例の展開（君が代伴奏・起立斉唱）について学ぶ。
第3回	信教の自由と政教分離（1）	信教の自由に関する判例について学ぶ。
第4回	信教の自由と政教分離（2）	政教分離に関する判例について学ぶ。
第5回	表現の自由（1）	表現の自由の特徴（優越的地位、二重の基準）について説明した上で、判例を素材に内容規制・内容中立規制について学ぶ。
第6回	表現の自由（2）	表現の自由とプライバシー・名誉毀損との調整問題について判例を素材に学ぶ。
第7回	表現の自由（3） 学問の自由	集会の自由に関する判例について学ぶ。 学問の自由の意味や現代的課題について学ぶ。
第8回	経済的自由権（1）	職業選択の自由の意義や関連する判例について学ぶ。
第9回	経済的自由権（2）	財産権に関する基本的考え方や、判例の展開について学ぶ。
第10回	生存権	生存権の法的性格や、判例理論について学ぶ。
第11回	教育を受ける権利 労働基本権	教育を受ける権利の法的性格について学ぶ。 労働基本権の法的性格、関連する判例について学ぶ。
第12回	公務員の労働基本権及び政治活動の自由	公務員の労働基本権、政治活動の自由に対してどのような制約があるかを確認し、関連する判例の展開について学ぶ。
第13回	人身の自由	憲法31条の適正法定手続の内容と、関連する判例について学ぶ。
第14回	参政権 国務請求権	参政権の性質及び関連する判例について学ぶ。 国務請求権の性格・種類について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習として、授業に関連する参考書や事前に配布されるレジュメを読む。
授業後は、レジュメやノートを基に授業の内容を振り返りつつ、レジュメの文章題の回答を作成すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
六法（特に出版社の指定はない）

【参考書】
【基本書】
〈入門的なもの〉
中村 睦男・佐々木 雅寿・寺島 壽一 編『はじめての憲法学』第4版（三省堂、2021年）
〈標準的なもの〉
新井誠・曽我部真裕・佐々木くみ・横大道聡『憲法1　総論・統治』『憲法2　人権』（日評ベーシックシリーズ）第2版（日本評論社、2021年）
〈発展的なもの〉
毛利透・小泉良幸・淺野博宣・松本哲治『憲法Ⅰ　総論・統治』『憲法Ⅱ　人権』（LEGAL QUESTシリーズ）第3版（有斐閣、2022年）
【判例集】
＜入門的なもの＞
小泉良幸・松本哲治・横大道聡編『憲法判例コレクション』（有斐閣、2021年）
＜標準的なもの＞
長谷部恭男・石川健治・宍戸常寿編『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ』第7版（有斐閣、2019年）

【成績評価の方法と基準】
期末試験（100％）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【その他の重要事項】
①私語などの迷惑行為については厳しく対処するので、注意すること。
②レジュメは、学習支援システムにアップするので、各自で印刷し、持参するか、パソコンで見られる状態にすること。

【Outline (in English)】
< Course outline>
In this course, students will learn about constitutional rights guaranteed by individual constitutional provisions, gaining insight into constitutional issues, developing ability to solve them logically.
< Learning Objectives>
The objective of this course is to cultivate ability to solve the specific human rights issues logically, to know the role of constitutional rights in our daily life, and to cultivate insight into backgrounds of those issues.
< Learning activities outside of classroom>
Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
< Grading Criteria /Policies>
Final grade will be calculated based on term-end examination (100%).

LAW200AB（法学 / law 200）

憲法Ⅲ

國分　典子

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
単位数：**2単位**
備考（履修条件等）：**クラス指定科目　※法律2年A-G・法律3〜4年（他学科他学部はクラス指定なし）**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、「行政・公共政策と法」コースに位置づけられるものとして、憲法の統治機構の諸問題を扱います。立法、行政、司法という水平的権力分立と中央と地方という垂直的権力分立の二つの側面から、日本の統治機構のあり方を勉強します。また、立憲主義の発展過程の中で権力分立制がどのように展開されてきたか、さらにそれが民主主義論とどのように結びついているのかを比較法的な視点も踏まえて考察します。

【到達目標】
日本国憲法における権力分立制のあり方を通し、民主主義と立憲主義の関係を理解することが目標です。具体的には、国会、内閣、裁判所、地方自治に関する憲法上のトピックを学び、統治機構の枠組とその現代的変化の状況を把握することを目指します。また振り返って権力分立制がなぜ必要なのか、日本の政治社会の動向の中で統治のしくみがどうあるべきなのかを自ら考えてゆく力を身につけることをも目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】
本授業は講義形式で行います。レジュメや資料を適宜配布し、レジュメに沿って進行します。
学期中に２回ほど○×式の理解度確認テストを学習支援システム上で行い、フィードバックも同システム上で行う予定です。質問は個別にメールでも随時受け付け、メールでお答えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスと本講義の序論	授業の進め方について 権力分立制の歴史的展開と現代的変化
2	権力分立	日本国憲法における権力分立制の枠組と日本国憲法下の天皇制の位置づけ
3	国民主権	国民主権の意味
4	選挙	日本国憲法下の選挙制度とその諸問題
5	国会（１）	国会の権限と活動
6	国会（２）	国会議員の地位
7	内閣（１）	日本国憲法における議院内閣制と内閣の権限を巡る諸問題
8	内閣（２）	総理大臣の地位と権限
9	これまでのまとめ	日本の議院内閣制の比較法的位置づけ
10	裁判所（１）	司法の機能
11	裁判所（２）	司法権の限界
12	裁判所（３）	裁判所の組織と司法権の独立
13	地方自治	地方自治を巡る諸問題
14	これまでのまとめ	後半のまとめと全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で挙げる参考書を事前に読んで授業に臨みます。また授業後は、配布されたレジュメや資料を読み直し、関連判例などを自分で調べるようにします。
新聞その他のメディアにおける政治問題に関心をもって、憲法との関連で考えてみるようにします。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
六法（出版社は指定しないので、使いやすいものを選ぶこと。）

【参考書】
憲法の基本書といわれるものには、
芦部信喜（高橋和之補訂）『憲法』第8版（岩波書店、2023年）
佐藤幸治『日本国憲法論』第2版（成文堂、2020年）
などをはじめとしてさまざまなものがあります。適宜、使いやすいものを選んで頂ければと思いますが、使いやすそうなものをいくつか挙げておきます。
〈入門的なもの〉
中村 睦男・佐々木 雅寿・寺島 壽一 編『はじめての憲法学』第4版（三省堂、2021年）
〈標準的なもの〉
新井誠・曽我部真裕・佐々木くみ・横大道聡『憲法１　総論・統治』『憲法２　人権』（日評ベーシックシリーズ）第2版（日本評論社、2021年）
〈発展的なもの〉
毛利透・小泉良幸・淺野博宣・松本哲治『憲法Ⅰ　総論・統治』『憲法Ⅱ　人権』（LEGAL QUESTシリーズ）第3版（有斐閣、2022年）
また判例集として、
長谷部恭男・石川健治・宍戸常寿編『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ』第７版（有斐閣、2019年）
やコンパクトなものとして、
小泉良幸・松本哲治・横大道聡編『憲法判例コレクション』（有斐閣、2021年）
などがあります。

【成績評価の方法と基準】
定期試験（80％）及び理解度確認テスト（20％）により評する予定です。

【学生の意見等からの気づき】
もう少し時事的な内容を加味して授業をできるように工夫したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
レジュメ等の資料は学習支援システムにアップしますので、あらかじめダウンロードして授業に臨んでください。

【Outline (in English)】
This lecture will focus on the issues of government institutions in terms of comparative perspectives of constitution.
At the end of the course, students are expected to understand the relationship between democracy and Constitutionalism.
Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Final grade will be calculated according to the following process: mid-term examinations (20%) and term-end examination (80%).

LAW200AB（法学 / law 200）

憲法Ⅳ

國分　典子

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
単位数：**2単位**
備考（履修条件等）：**クラス指定科目　※法律2年A-G・法律3〜4年（他学科他学部はクラス指定なし）**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「行政・公共政策と法」コースに位置づけられる科目として、日本国憲法のトピックのうち、違憲審査制、安全保障、財政などの論点について講義を行います。授業では、比較憲法的な視点も踏まえながら、近代立憲主義とその現代的変容という視点から、日本国憲法がどのような民主主義および立憲主義のあり方を想定しているのかをを学んでいきます。

【到達目標】
日本国憲法における違憲審査制、安全保障の問題、憲法保障、財政に関する論点を理解するようにします。またそれらを通じて、現代日本における政治的な問題について法的視点から考え、判断できる能力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】
本授業は講義形式で行います。レジュメと資料を適宜配布し、レジュメに沿って進行します。
学期中に２回ほど○×式の理解度確認テストを学習支援システム上で行い、フィードバックも同システム上で行う予定です。授業の際も受け付けますが、個別にメールでも随時受け付け、メールでお答えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスと違憲審査制（１）	違憲審査制の歴史と諸類型
2	違憲審査制（２）	憲法訴訟の基礎
3	違憲審査制（３）	憲法判断の方法
4	違憲審査制（４）	判例の展開
5	違憲審査制（５）	違憲審査の基準論とその問題
6	これまでのまとめ	違憲審査についてのまとめ
7	安全保障（１）	日本国憲法の想定する平和と安全
8	安全保障（２）	安全保障を巡る変化と政府見解
9	安全保障（３）	安全保障を巡る現代的課題と憲法
10	安全保障（４）	判例の分析
11	財政（１）	財政民主主義
12	財政（２）	財政に関する憲法的論点
13	憲法保障	国家緊急権と抵抗権
14	民主主義と立憲主義	民主主義論からみた本授業のトピックの意味

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　授業に関連する参考書、判例などを事前に読み、授業に臨むようにします。また授業後は、配布されたレジュメや資料を読み直し、理解不十分だった事項については自ら調べるようにします。
　新聞その他のメディアにおける政治問題や社会問題に関心をもって、憲法の観点から考えてみます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
六法（特に出版社の指定はない）。

【参考書】
憲法の基本書といわれるものには、
芦部信喜（高橋和之補訂）『憲法』第8版（岩波書店、2023年）
佐藤幸治『日本国憲法論』第2版（成文堂、2020年）
などをはじめとしてさまざまなものがあります。適宜、使いやすいものを選んで頂ければと思いますが、使いやすそうなものをいくつか挙げておきます。
〈入門的なもの〉
中村 睦男・佐々木 雅寿・寺島 壽一 編『はじめての憲法学』第4版（三省堂、2021年）
〈標準的なもの〉
新井誠・曽我部真裕・佐々木くみ・横大道聡『憲法１　総論・統治』『憲法2　人権』（日評ベーシックシリーズ）第2版（日本評論社、2021年）
〈発展的なもの〉
毛利透・小泉良幸・淺野博宣・松本哲治『憲法Ⅰ　総論・統治』『憲法Ⅱ　人権』（LEGAL QUESTシリーズ）第3版（有斐閣、2022年）
また判例集として、
長谷部恭男・石川健治・宍戸常寿編『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ』第７版（有斐閣、2019年）
やコンパクトなものとして、
小泉良幸・松本哲治・横大道聡編『憲法判例コレクション』（有斐閣、2021年）
などがあります。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（80％）及び2回の理解度確認テスト（20％）により評価する予定です。なお、期末試験は定期試験期間外に行う可能性があります。

【学生の意見等からの気づき】
時間配分に留意したい。また違憲審査論についての説明がわかりにくくなりがちなので、できるだけ平易な説明を工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】
毎回のレジュメや資料は学習支援システム上にアップし、理解度確認テストも学習支援システム上で行う予定です。

【Outline (in English)】
(Course Outline)
This course will focus mainly on the issues of the constitutional review system, the fiscal system, and the national security under the Constitution of Japan.
(Learning Objectives)
At the end of the course, students are expected to develop the ability to think and judge political issues in Japan from a legal perspective
(Learning Activities outside of Classroom)
Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
(Grading Criteria)
Final grade will be calculated according to the following process: mid-term examinations (20%) and term-end examination (80%).

LAW300AB（法学 / law 300）

国際社会と憲法Ⅱ

國分　典子

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
単位数：**2単位**

その他属性：〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近代立憲主義は西洋の産物です。アジア諸国はそれを受容しつつ、自らの法文化と融合させて独自の憲法を発展させてきました。本講義は、東アジアの立憲主義が歴史的にどのように形成されたか、また国際社会のなかで東アジア地域の憲法がどのような特徴をもつものと考えられるかを比較法的視点をもって分析、理解するとともに近代立憲主義の意味をアジアの視点から考え直すことを目標とします。なお、この講義は、「行政・公共政策と法コース」および「国際社会と法コース」に属するものです。

【到達目標】
日本の近隣地域である韓国、台湾、中国の憲法を学ぶことによって、それぞれの政治体制の特徴を把握するとともに、それがこの地域の抱える特有の法的および政治的問題とどのように関係しているかを理解することができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
歴史的背景を踏まえつつ、東アジア地域の今日の憲法状況を概観します。近代化や今日のアジア地域の変化に触れると同時に、東アジア地域で日本の憲法がどのような位置づけを有すると考えられるかも考察します。
時々、出席を兼ねて感想やわからなかった点等についての簡単なコメントを書いてもらい、わからなかった点に関しては、次の授業の際にお答えるようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の概要、教科書、成績の基準等について説明する。
第2回	東アジアの近代国家形成と法	日本を含めた東アジア地域の近代化のなかでの立憲主義の発展について考える。
第3回	韓国の近現代史と憲法	日韓関係をも視野に入れつつ、韓国の憲法史を概観する。
第4回	韓国の憲法の特徴	韓国憲法の特徴と特殊性を検討する。
第5回	韓国の統治機構	韓国の統治機構を概観する。
第6回	韓国の司法と憲法裁判	韓国の法院と憲法裁判所の機能を概観する。
第7回	韓国の違憲審査制	韓国の違憲審査システムの特徴と問題点を考察する。
第8回	台湾の歴史と憲法	台湾の憲法の歴史的背景を概観する。
第9回	台湾の憲法状況	台湾の憲法の特徴と特殊性を概観する。
第10回	台湾の統治機構	台湾の統治機構を概観する。
第11回	中国憲法の形成過程	中華人民共和国の形成過程から中国憲法の特徴を考える。
第12回	中国憲法の特徴	中国憲法前文に見られる特徴を検討する。
第13回	中国の統治機構と人権	統治と人権の観点から中国憲法を概観する。
第14回	東アジアにおける日本・日本法	戦後補償問題等を素材に東アジア地域における日本・日本法の位置づけを考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日頃から東アジア諸国の政治・社会状況について関心をもつようにします。また日本の憲法についての基礎知識についても復習しつつ授業に参加するようにします。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
中国や韓国の憲法条文を参照するために：
初宿正典・辻村みよ子編『新解説　世界憲法集』第５版三省堂2020年などの憲法集を各自用意してください（図書館等で本講義で扱う国の憲法をコピーするのでも結構です）。韓国と台湾の憲法は、ネット上でも見ることができるので、これについては授業の初日に説明します。中国憲法の2018年改正後の最新版の翻訳が出ているのは、おそらく前記の三省堂の憲法集のみではないかと思われます。

【参考書】
尹龍澤ほか編『コリアの法と社会』（日本評論社、2020年）、鮎京正訓編『アジア法ガイドブック』（名古屋大学出版会、2009年）、稲正樹・孝忠延夫・國分典子編『アジアの憲法入門』（日本評論社、2010年）

【成績評価の方法と基準】
時々出してもらうコメントをもって平常点とし、平常点20％と学期末の筆記試験80％によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】
参加者の問題関心を汲み取って説明する必要があると感じています。

【Outline (in English)】
〈Course Outline〉
This course will focus on the constitutional problems of East Asian country from the comparative point of view.
〈Learning Objectives〉
By studying the constitutions of Korea, Taiwan and China, students are expected to understand the characteristics of each political system and how they relate to the specific legal and political issues facing the region.
〈Learning activities outside of classroom〉
Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
〈Grading Criteria〉
Final grade will be calculated according to the following process: comment papers (30%) and term-end examination (70%).

LAW300AB（法学 / law 300）

国際人権法 I

佐々木　亮

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
単位数：**2単位**

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際人権法の歴史や各人権条約の仕組み、それらの国内適用にあたっての憲法上の課題を考えることを通して、基本的人権とは何か、基本的人権を守るためにいかなる制度が用意され、どのように機能し、国内法の下でどのように適用されているのかを理解する。
それを基礎として、受講者が関心を持つ様々な人権問題が、国際人権法上どのように扱われているのかを調査し、どのような権利の主張・擁護の方法があり得るのかを考え、自分の考えをアウトプットできるようになることを目的とする。

【到達目標】
①国家を越えて、人権を国際社会において保障することの意義及びそのための仕組みを理解する。
②国際人権法の国内実施制度について理解する。多様な人権の内容について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業は大別して、以下の3つの要素からなる：
1）現代世界で生じている人権問題に関心を持つ；
2）国際的人権保障制度の意義と限界を理解する；
3）人権の主張や人権擁護のために、国際的人権保障制度を活用する方法について、考えを深める。
現代世界が抱える人権問題に目を向けることに加えて、様々な人権条約と関連付けてその問題を捉え、どのような権利擁護の方法があり得るのか、受講者が自身の見解を持てるようになることを目指して授業を進める。原則として、担当者が作成した資料に基づいて講義を行うが、必要に応じて国際機関のwebサイトや映像等も活用する。また、国際人権法に関連するデータベースを活用した資料収集の実習を行う。
講義資料の配布や授業時間外での質問の受付等のために、学習支援システムを使用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入（授業の内容と進め方・評価方法に関する説明を含む）	国際人権法の枠組で扱う問題、国際人権法を学ぶ意義や方法を概観する。
2	人権の思想的基礎と国際人権法の法源	国際人権法の発展と形成の歴史をたどり、その根底にある哲学的基礎と国際人権保障を支える法的枠組について学ぶ。
3	人権基準の発展と人権の分類（1）：第1・第2・第3世代の人権	国際人権法によって保障されている「人権」とはどのようなものなのか、その歴史的発展を踏まえながら理解する。
4	人権基準の発展と人権の分類（2）：非差別・平等と合理的配慮	社会的弱者を含む全ての人の基本的権利を保護するための法としての国際人権法の基本原則、及び、主要な人権条約によって保障されている権利と、それら諸権利の法的性格を検討する。
5	国家の人権保護・促進義務	国際人権法を遵守するために、国家はどのような義務を履行しなければならないのかを検討する。
6	国連の主要人権条約を通じた国際人権法の実施	世界レベルの主要な人権条約の履行監視制度について検討する。
7	国連人権理事会による国際人権法の実施	国連人権理事会の活動と人権保障におけるその意義、人権条約との異同を検討する。
8	地域的人権保障制度	国際人権保障における地域的国際機構の役割とその意義について検討する。
9	国際人権法の調査とその情報源	国際人権法の実態についてより詳しく調べるために有用な情報源の使い方について学ぶ。
10	公共政策への人権基準の反映と人権擁護	人権侵害の防止や被害者の救済のために、国際人権法をどのように活用し得るのか検討する。
11	地球規模課題と国際人権法	地球規模課題としての気候変動に起因する人権侵害の事例を検討し、持続可能な社会の実現のために、国際人権法がいかなる意義を有するかを考察する。
12	人権の普遍性と文化多様性	「国際人権基準と両立しない文化的慣行 を維持することも人権なのか」という問いについて考えながら、国際人権法及び人権の普遍的性格を再問する。
13	国家の保護を受けられない人々の人権：難民・避難民	国家による人権保障の枠組から排除された存在としての「難民」に注目し、国際的な難民保護の仕組みや日本の難民認定制度の問題点を検討する。
14	武力紛争下での人権保護と平和に対する権利	武力紛争の下で生じる人権侵害を防止するための法的な枠組と、平和のうちに生 きることの人権としての性格を検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に配布レジュメを読んで疑問点を明らかにしておく。各回の講義の後に、資料に示された参考文献も活用しながら十分に復習することが期待される。しっかり復習することは、結果として期末レポートの準備にもなる。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しない。

【参考書】
講義資料の中で、その回の内容に関連する参考文献を紹介するが、授業全体に関わる参考文献として、例えば、以下のものがある：
芹田健太郎、薬師寺公夫、坂元茂樹『ブリッジブック国際人権法』第2版（信山社、2017）
東澤靖『国際人権法講義』（信山社、2022）
横田洋三（編）『新国際人権入門』（法律文化社、2021）
藤田早苗『武器としての国際人権－日本の貧困・報道・差別』（集英社新書、2022）
日本弁護士連合会：国際人権ライブラリー、
https://www.nichibenren.or.jp/activity/international/library.html
外務省：人権外交、
https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/jinken.html

【成績評価の方法と基準】
期末レポート（100%）
国際人権機関が公表している文書を検索しその内容を要約する課題、および、受講者が関心を持つ人権問題について、国際人権法に照らして考察する課題を含む期末レポートにより評価する。

【学生の意見等からの気づき】
映像を使用した授業の希望があったので試みたい。

【学生が準備すべき機器他】
第9週（国際人権法の調査とその情報源）では、PCまたはタブレットを使用します。

【Outline (in English)】
This module aims to provide participants with basic understanding on international human rights law, including a concept of human rights, international mechanisms for human rights protection. It is expected that participants discuss on contemporary global and international affairs based on a comprehensive understanding on human rights.
Participants are expected, at the end of this module, to be able to;
- understand what human rights are, including their historical and philosophical backgrounds, legal basis and contemporary debate on them;
- understand how and by what international mechanisms in both world and regional levels, human rights are protected and promoted; and
- be involved in a debate on contemporary global and international affairs from a viewpoint of human rights.
Learning outcome of participants will be assessed on the basis of the end-of-term essay, in which a survey on international legal materials provided by the database of the UN human rights institutions, and discuss a human rights issue from a legal point of view.

LAW300AB（法学 / law 300）

国際人権法Ⅱ

大津　浩

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
単位数：**2単位**

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
憲法と国際法の両法学の交差点としての国際人権法の意義と内容を学ぶ。受講生は、新たに発展しつつある国際人権法の基礎知識を身に着けるとともに、今後の国際人権法の発展について展望する力を身に着けることが目的である。

【到達目標】
国際人権の法の基礎知識を身に着けて、具体的な国際人権問題について、自分の力で調べ、問題解決を図れる力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義形式で行う。授業中、適宜、質疑応答を行い、あるいはアンケートを採ることがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容の紹介と進め方の説明。
第2回	人権法の成立と国際人権法の基礎（1）	テキスト第1章第1部の内容を説明する。
第3回	人権法の成立と国際人権法の基礎（2）	テキスト第1章第2節と第3節を説明する。
第4回	国際人権法の全体像（1）	テキスト第2章第1節、第2節を説明する。
第5回	国際人権法の全体像（2）	テキスト第2章第3節、第4節を説明する。
第6回	国際人権法の実施メカニズム（1）	テキスト第3章第1節、第2節を説明する。
第7回	国際人権法の実施メカニズム（2）	テキスト第3粗油第3節、第4節を説明する。
第8回	国際人権法各論（1）	存在と人間性に関する権利について説明する。
第9回	国際人権法各論（2）	人間の精神活動に関する権利について説明する。
第10回	国際人権法各論（3）	平等の権利と差別の撤廃について説明する。
第11回	国際人権法各論（4）	司法救済と刑事手続上の権利について説明する。
第12回	国際人権法各論（5）	移動に関わる自由と保護について説明する。
第13回	自治体による国際人権保障（1）	人権の地域的保障をめぐる理論的課題について説明する。
第14回	自治体による国際人権保障（2）	日本における自治体による国際人権保障の現状について説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講生は事前に教科書や参考書の該当ページを予習しておく。授業後は、授業の無いよと許可書を照らし合わせながら、自分の理解の深まりを確認する。

【テキスト（教科書）】
東澤靖『国際人権法講義』（2022年、信山社）

【参考書】
大津浩編『新国際人権法講座第７巻・国際人権法の深化』（2024年、信山社）

【成績評価の方法と基準】
期末テスト（90%）と授業への積極的参加度（10%）。

【学生の意見等からの気づき】
あまり専門的になり過ぎないように分かりやすく講義する。できる限り具体的な事例を紹介し、イメージしやすい授業を心がける。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
なし。

【Outline (in English)】
【Course Outline】
Study of academic contents of human rights international.
【Learning Objectives】
The goal of this course is a recognition of the importance of human rights international in the contemporary world society.
【Learning activities outside of classroom】
Students have to read the text before the class and review of contents after the class by oneself.
【Grading Criteria /Policy】
The test of the end of semester (90%) and the active participation to the class (10%).

LAW200AB（法学 / law 200）

労働法総論・労働契約法

藤木　貴史

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
単位数：**2単位**
備考（履修条件等）：**クラス指定科目　※法律2年A-G・法律3〜4年（他学科他学部はクラス指定なし）**

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
〈概要〉私たちの社会では、多くの人が雇用されて労働し、賃金を得ることで生活しています。しかし、労働者は使用者よりも力が弱いため、適切な法規制がなされないと、さまざまな困難に直面することになります。労働法は、こうした困難を防ぎ、人間が人間らしく生きられようにさまざまな規制を行う法分野です。
　労働法総論・労働契約法では、個別的労働法の枠組み部分を扱います。労働法総論・労働契約法と労働基準法は連続性が強いので、継続して履修することを強く勧めます。
　この科目は選択必修科目であり、全てのコースに属しています。
〈目的〉この分野を学ぶねらいは、次の3点です。
①労働法学の体系的・専門的な知識を身につける
②労働トラブルに対し、法的な問題の妥当な解決を図ることができる
③労働法分野の条文・判例の読み方を自主的に学習できる
〈注意〉この科目は労働法科目（社会法科目）の「選択必修」科目です。この授業か、または秋学期の「労働基準法」の単位を取得できていない場合、３年生以降、火曜４限に開講されるゼミが履修できません。ご注意ください。

【到達目標】
①個別的労働法の基礎的な知識を習得する。
②個別的労働法を知らない人に対して、労働法の仕組みを説明し、職場の問題解決の指針を示すことができる。
③個別的労働法上の問題に対して、自主的・自律的に調査・学習する習慣を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
・対面での講義を予定しています。ただし、オンラインに変更となる可能性があります。
・授業は、教科書の一部をまとめたレジュメを配布して進めます。
・講義中詳細に触れられない点につき、教科書で学習するよう指示することがあります。
・進度は学生の理解に応じて調整されることがあります。授業計画の変更については、学習支援システム等で必要に応じて提示します。確認を怠らないようにお願いします。
・毎回授業ごとに小テスト（&リアクションペーパー）を課すことを予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	労働法の意義／労働法の体系／労働法と紛争解決
第2回	労働者の自由と権利	労働憲章／未成年保護／寄宿舎規定
第3回	労働法のプレーヤー	労働者性／使用者性・事業／労働組合・過半数代表者／労働法の法源
第4回	労働契約規制（1）	本体的権利義務／使用者の付随義務
第5回	労働契約規制（2）	労働者の付随義務
第6回	労働契約規制（3）	労働基準法上の規制／国際的労働契約
第7回	労働契約の開始	労働契約の成立／内定（内々定）／試用期間
第8回	労働契約の終了（1）	合意解約と辞職／定年／解雇制限
第9回	労働契約の終了（2）	解雇権濫用法理
第10回	懲戒	懲戒処分の種類／根拠と限界
第11回	労働条件の決定（1）	労働契約・労使慣行／就業規則
第12回	労働条件の決定（2）	就業規則と労働契約法
第13回	労働条件の決定（3）	就業規則の不利益変更
第14回	労働紛争の実態	労働紛争の実態を検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
［予習］（1時間程度）
・LMS上からレジュメを印刷しましょう。
・レジュメに指示された部分の教科書を読みましょう。
・内容を忘れた場合、前回の該当箇所にさかのぼって教科書を読み直しましょう。
［復習］（3時間程度）
・LMS上の小テストを解きましょう。
・その回の内容を友人・家族に説明できるか試してみましょう。
・その回で取り扱われた判例について、(i)どういう事件だったか、(ii)裁判所はどういうルールを設定したか、(iii)裁判所はそのルールをどう使ったのか、説明してみましょう。
・教科書の「練習問題」を解いてみましょう。

【テキスト（教科書）】
藤本茂・沼田雅之・山本圭子・細川良編著『ファーストステップ労働法』（エイデル研究所　2020年）
大木正俊ほか『労働法判例50！（Start Up）』（有斐閣、2025年）

【参考書】
日本労働政策研究・研修機構『労働関係法規集（2025年版）』
三省堂『デイリー六法』

【成績評価の方法と基準】
到達目標①の計測のために小テストを、到達目標②・③の計測のために中間テスト、期末テストを、それぞれ実施します。
［小テスト］3割（穴埋め問題／選択式問題により、基礎的知識の定着度を測る）
［中間テスト］2割（説明問題／事案問題により、労働法の仕組みを説明できるかを測る）
［期末テスト］5割（説明問題／事案問題により、労働法の仕組みを説明できるかを測る）

【学生の意見等からの気づき】
授業資料については比較的評価が高かったので継続して利用します。中間テストに対するフィードバックはより素早く行えるように準備します。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業時に備えてパソコン等を準備しておいてください。

【その他の重要事項】
［関連科目］
・労働基準法との連続履修を強く勧めます。
・本講義の理解のためには、①日本国憲法、②民法（民法総則、債権総論、契約法）、③行政法、④民事訴訟法などの基礎的知識があることが望ましいです（ただし、これらの科目未履修の学生も、この講義を履修して構いません）
［授業を受ける姿勢］
・休まないで出席することは理解の前提となるので、その旨心がけてください。
・教科書の購入は必須です。試験の際には、原則、教科書・六法のみ持ち込みを認めます。
・六法／法令集も授業に必ず持ってくること。また、自分で必要な条文を探せるようにしておくこと。
・講義中は、適切にノートをとるなど、講義に集中することが求められます。
・ゲームや私事を見つけた場合には止めるよう注意をします。

【Outline (in English)】
1.Course outline

In our society, many people are employed to work and earn wages to make a living. However, because workers have less bargaining power than employers, they face various difficulties if appropriate laws and regulations are not in place. Labor & Employment Law is a field of law that prevents such difficulties and imposes various regulations so that people can live with dignity.
In this lecture, students learn about the framework of individual labor &employment law. Since there is a high degree of continuity between Labor Contract Law and Labor Standards Law, it is strongly recommended that students take these courses consecutively as much as possible.
2.Learning Objectives
(1) Students acquire basic knowledge of individual labor & employment law.
(2) Students are able to explain the structure of labor laws to those who are not familiar with individual labor laws and provide guidelines for solving problems in the workplace.
(3) Students acquire the habit of independently and autonomously researching and learning about individual labor law issues.
3.Learning activities outside of classroom
< Before the class> (about 1 hour)
-Print out your resume from the LMS.
-Read the textbook for the part indicated in the resume.
< After the class> (about 3 hours)
-Take the quiz in LMS.
-Solve the "Exercise Questions" in the textbook.
-Try to explain the case law about (i) what kind of case it was, (ii) what kind of rule the court told
4.Grading Criteria /Policy
-Quiz(30%)
-midterm exam(20%)
-final exam(50%)

LAW200AB（法学 / law 200）

労働基準法

藤木　貴史

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
単位数：**2単位**
備考（履修条件等）：**クラス指定科目　※法律2年A-G・法律3〜4年（他学科他学部はクラス指定なし）**

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
〈概要〉私たちの社会では、多くの人が雇用されて労働し、賃金を得ることで生活しています。しかし、労働者は使用者よりも力が弱いため、適切な法規制がなされないと、さまざまな困難に直面することになります。労働法は、こうした困難を防ぎ、人間が人間らしく生きられようにさまざまな規制を行う法分野です。
　労働基準法では、労働条件に対する法規制や労働契約の展開を規律する法規制を学びます。労働法総論・労働契約法と労働基準法は連続性が高い授業ですので、連続して受講することを強く推奨します。
　この科目は、「企業・経営と法（労働法中心）」コースの中心科目です。また、「法曹コース」を除くすべてのコースで履修が推奨されています。
〈目的〉この分野を学ぶねらいは、次の3点です。
①労働法学の体系的・専門的な知識を身につける
②労働トラブルに対し、法的な問題の妥当な解決を図ることができる
③労働法分野の条文・判例の読み方を自主的に学習できる
〈注意〉この科目は労働法科目（社会法科目）の「選択必修」科目です。この授業か、または春学期の「労働法総論・労働契約法」の単位を取得できていない場合、３年生以降、火曜４限に開講されるゼミが履修できません。ご注意ください。

【到達目標】
①個別的労働法の基礎的な知識を習得する。
②個別的労働法を知らない人に対して、労働法の仕組みを説明し、職場の問題解決の指針を示すことができる。
③個別的労働法上の問題に対して、自主的・自律的に調査・学習する習慣を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
・対面での講義を予定しています。ただし、オンラインに変更となる可能性があります。
・授業は、教科書の一部をまとめたレジュメを配布して進めます。
・講義中詳細に触れられない点につき、教科書で学習するよう指示することがあります。
・進度は学生の理解に応じて調整されることがあります。授業計画の変更については、学習支援システム等で必要に応じて提示します。確認を怠らないようにお願いします。
・毎回授業ごとに小テスト（&リアクションペーパー）を課すことを予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	労働契約法の復習／労働基準法の全体像
第2回	賃金（1）	賃金総論／最低法賃金／賃金支払いの4原則
第3回	賃金（2）	賞与／退職金／休業手当
第4回	賃金（3）	賃金債権の確保／休業手当／解雇と賃金
第5回	労働時間（1）	労働時間の定義／休憩・休日
第6回	労働時間（2）	時間外労働、休日労働／割増賃金／固定残業代
第7回	労働時間（3）	弾力的労働時間制度／裁量労働制／労働時間法制の適用除外
第8回	年次有給休暇	年休権の法的性質／計画年休制度／年休付与義務
第9回	人事制度（1）	配転／出向、転籍
第10回	人事制度（2）	昇進・降職／昇格・降格／人事考課
第11回	企業組織再編	合併／事業譲渡／企業分割
第12回	労災（1）	労災保険とは何か／通勤災害と労災保険
第13回	労災（2）	過労死・過労自殺／労災民訴
第14回	労働基準行政	労働基準の実情を学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
［予習］（1時間程度）
・LMS上からレジュメを印刷しましょう。
・レジュメに指示された部分の教科書を読みましょう。
・内容を忘れた場合、前回の該当箇所にさかのぼって教科書を読み直しましょう。
［復習］（3時間程度）
・LMS上の小テストを解きましょう。
・その回の内容を友人・家族に説明できるか試してみましょう。
・その回で取り扱われた判例について、(i)どういう事件だったか、(ii)裁判所はどういうルールを設定したか、(iii)裁判所はそのルールをどう使ったのか、説明してみましょう。
・教科書の「練習問題」を解いてみましょう。

【テキスト（教科書）】
藤本茂・山本圭子・沼田雅之・細川良編著『ファーストステップ労働法』（エイデル研究所、2020年）
大木正俊ほか『労働法判例50！（Start Up）』（有斐閣、2025年）

【参考書】
日本労働政策研究・研修機構『労働関係法規集（2025年版）』
三省堂『デイリー六法』

【成績評価の方法と基準】
　到達目標①の計測のために小テストを、到達目標②・③の計測のために中間テスト、期末テストを、それぞれ実施します。
・［小テスト］3割（穴埋め問題／選択式問題により、基礎的知識の定着度を測る）
・［期末テスト］7割（説明問題／事案問題により、労働法の仕組みを説明できるかを測る）

【学生の意見等からの気づき】
授業資料についてはおおむね良好な評価を得ているので、引きつづき利用を継続します。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業時に備えてパソコン等を準備しておいてください。

【その他の重要事項】
［関連科目］
・労働法総論・労働契約法との連続履修を強く勧めます。
・本講義の理解のためには、①日本国憲法、②民法（民法総則、債権総論、契約法）、③行政法、④民事訴訟法、⑤刑法などの基礎的知識があることが望ましいです（ただし、これらの科目未履修の学生も、この講義を履修して構いません）
［授業を受ける姿勢］
・休まないで出席することは理解の前提となるので、その旨心がけてください。
・教科書の購入は必須です。試験の際には、原則、教科書・六法のみ持ち込みを認めます。
・六法／法令集も授業に必ず持ってくること。また、自分で必要な条文を探せるようにしておくこと。
・講義中は、適切にノートをとるなど、講義に集中することが求められます。
・ゲームや私事を見つけた場合には止めるよう注意をします。

【Outline (in English)】
1.Course outline

In our society, many people are employed to work and earn wages to make a living. However, because workers have less bargaining power than employers, they face various difficulties if appropriate laws and regulations are not in place. Labor & Employment Law is a field of law that prevents such difficulties and imposes various regulations so that people can live with dignity.
In Labor Standards Law, students learn about laws and regulations governing working conditions and the development of labor contracts. Since there is a high degree of continuity between Labor Contract Law and Labor Standards Law, it is strongly recommended that students take these courses consecutively as much as possible.
2.Learning Objectives
(1) Students acquire basic knowledge of individual labor & employment law.
(2) Students are able to explain the structure of labor laws to those who are not familiar with individual labor laws and provide guidelines for solving problems in the workplace.
(3) Students acquire the habit of independently and autonomously researching and learning about individual labor law issues.
3.Learning activities outside of classroom
< Before the class > (about 1 hour)
-Print out your resume from the LMS.
-Read the textbook for the part indicated in the resume.
< After the class > (about 3 hours)
-Take the quiz in LMS.
-Solve the "Exercise Questions" in the textbook.
-Try to explain the case law about (i) what kind of case it was, (ii) what kind of rule the court told
4.Grading Criteria /Policy
-Quiz(30%)
-Final exam(70%)

LAW200AB（法学 / law 200）

労働法総論・労働契約法

沼田　雅之

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
単位数：**2単位**
備考（履修条件等）：**クラス指定科目　※法律2年H-N・法律3〜4年（他学科他学部はクラス指定なし）**

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「労働法総論」部分については、労働法関連科目を通じた労働法の目的・必要性、すなわち基本原則について説明する。「労働契約法」部分については、解雇や労働条件の変更といった問題を扱う。2008年3月に施行された労働契約法の内容を説明し、関連する多くの判例法理を整理して講義する。
◆注意◆この科目は労働法科目（社会法科目）の「選択必修」科目です。この授業か、または秋学期の「労働基準法」の単位を取得できていない場合、３年生以降、火曜４限に開講されるゼミが履修できません。ご注意ください。◆注意◆

【到達目標】
１．授業の概要で示した法領域とそれに関連する判例法理について理解できる。
２．授業の概要で示した法領域とそれに関連する判例法理についての基本的
な問題や少し難易度の高い問題（ワークルール検定・法学検定アドバンスト
〈上級〉コースレベル）に解答できるようになる。
３．授業の概要で示した法領域とそれに関連する判例法理に関する事例問題
（司法試験の問題を平易にしたもの）に文章で解答できる。
４．１〜３で獲得した知識をもって、労働関係の発展的な問題に、リーガル
マインドをもって積極的に関与できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
※履修登録前に、学習支援システムにて最新情報を確認すること※
・本講義は、対面授業とします。
・授業の進め方の説明については、第1回目のガイダンス（4月8日（火））で行います。
・講義は、PowerPointを用いながら講義形式で授業を進めます。
・授業に関する質問等については、授業終了後・オフィスアワー・電子メールにて対応し、その場でフィードバックします。
・試験に関しては最終授業時あるいは学習支援システムにてフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義内容や評価方法について。労働法の全体像について
第2回	労働法の法源と労働条件決定ルール	労働条件決定の多様なツールについて
第3回	労働関係のプレイヤー	労働者、使用者について
第4回	労働契約上の権利・義務	労働契約上当然にある権利・義務について
第5回	労働契約の終了（1）	解雇の手続き規制、法律上の解雇理由規制、労使の自主的ルールによる規制について
第6回	労働契約の終了（2）	解雇権の濫用について
第7回	労働関係の終了（3）	整理解雇について
第8回	労働関係の終了（4）	辞職、合意解約、定年、当事者の消滅について
第9回	懲戒	企業秩序遵守義務とその違反に関するルールについて
第10回	採用・採用内定・試用	採用内定の取消しや、試用期間後に本採用しないこと（本採用の拒否）に関するルールについて
第11回	就業規則と労働条件の変更	就業規則による労働条件の不利益変更法理について
第12回	人事（1）	同一使用者のもとでの労働者の異動である配転について
第13回	人事（2）	異なる使用者間の労働者の異動である出向・転籍について
第14回	紛争解決	労働関係の紛争解決手段について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・事前に配布するレジュメ、資料を熟読のうえ受講すること。
・労働関係、労働法に関心を持ち、日頃から新聞、雑誌などの記事を読んでおくこと。法改正の動向は厚生労働省のホームページなどで随時確認すること。
・関連科目である労働契約法、労働基準法について、履修前に自学しておくこと。
・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・藤本茂・山本圭子・沼田雅之・細川良編著『ファーストステップ労働法』（エ
イデル研究所、2020年）
・プリント教材

【参考書】
・ジュリスト増刊『労働法の争点』（2014年、有斐閣）
・別冊ジュリスト『労働判例百選（第10版）』（2022年、有斐閣）

【成績評価の方法と基準】
試験（80点）
・期末試験として1回実施。論述形式の問題（事例問題）を出題する。
・概ね到達目標に即した解答がなされている否かを評価基準とする。
Web小テスト（20点）
・講義ごとに実施するWeb小テストの点数を20点満点に換算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
・レジュメ等のPDFデータを利用する場合は、データを保存・表示可能な端末。

【【専門領域と研究業績】】
＜専門領域＞　社会法（社会保障法・労働法）
＜研究テーマ＞　非正規労働者の社会保障法、労働法上の課題
＜主要研究業績＞
【主な著書】
（編著）「社会法をとりまく環境の変化と課題」（旬報社）
（編著）「労働法における最高裁判例の再検討」（旬報社）
（分担執筆）（共著）「日本女性差別事件資料集成19　第7巻」（すいれん舎）
（分担執筆）「クラウドワークの進展と社会法の近未来」（労働開発研究会）
（分担執筆）「ニューレクチャー労働法［第3版］」（成文堂）
（編著）「ファーストステップ労働法」（エイデル研究所）
（分担執筆）「講座労働法の再生第３巻　労働条件論の課題」（日本評論社）
（分担執筆）「労働者派遣と法」（日本評論社）
【主な論文】
「『同一労働同一賃金』と見直しが迫られる『あたりまえ』の処遇」（JP総研Research63号）
「フリーランス新法はフリーランスの需要を満たすものか」（労働法律旬報2035号）

「デジタルプラットフォームを介して就労している『配達パートナー』の労働組合法上の労働者該当性」（労働法律旬報2026号）
「就労形態の多様化と労働者・被用者概念の変容」（年金と経済41巻4号）
「デジタルプラットフォームとワーカーの社会法上の保護」（季刊労働者の権利349号）
「フランチャイズ店舗加盟店主の労組法上の労働者性」（労働法律旬報2014号）
・「労働契約申込みみなし制度における偽装請負と『免れる目的』」（法律時報94巻9号）
・「プラットフォームワーカーの自由と保障―『新しい働き方』のため、社会が準備すべきこと」（世界960号）

【Outline (in English)】
1. Course Outline
The purpose of this course is to lecture on the basic principles and basic legal issues of Japanese labor law.
The outline is as follows:
－1. A basic principles of labor law;
－2. A Labor Contract Act;
－3. A case law concerning the Labor Contract Act.
2. Learning Objectives
By the end of the course, students should be able to do the followings:
－A. Understand the legal domain shown in the "Class Outline" above and the related case law.
－B. You will be able to answer basic questions about the legal domain and related case law and slightly more difficult questions (work rule test /legal test advanced < advanced > course level) shown in the above "Outline of class".
－C. You can answer the case questions (simplified bar examination questions) related to the legal domain and related judicial doctrine shown in the above "Outline of Class" in sentences.
－D. With the knowledge acquired in A to C, you will be able to actively participate in the developmental problems of labor relations with a legal mind.
3. Learning Activities Outside of Classroom
Lecture/Exercise（two-credits）
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
4.Grading Criteria /Policies
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
－a. Term-end examination: 80%
－b. Online quiz : 20%

LAW200AB（法学 / law 200）

労働基準法

沼田　雅之

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
単位数：**2単位**
備考（履修条件等）：**クラス指定科目　※法律2年H-N・法律3〜4年（他学科他学部はクラス指定なし）**

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、労働法のうち、労働基準法とこれに関連する判例法理を扱う。

法律学科の選択必修科目の一つであり、「企業・経営と法（労働法中心）」コースの中心科目である。また、「法曹コース」を除くすべてのコースで履修が推奨されている。

「企業・経営と法（労働法中心）」コースをモデルとして履修計画をたてている者は、良好な成績で単位を修得することが強く求められる。

◆注意◆この科目は労働法科目（社会法科目）の「選択必修」科目です。この授業か、または春学期の「労働法総論・労働契約法」の単位を取得できていない場合、３年生以降、火曜４限に開講されるゼミが履修できません。ご注意ください。◆注意◆

【到達目標】

１．授業の概要で示した法領域とそれに関連する判例法理について理解できる。
２．授業の概要で示した法領域とそれに関連する判例法理についての基本的
な問題や少し難易度の高い問題（ワークルール検定・法学検定アドバンスト
〈上級〉コースレベル）に解答できるようになる。
３．授業の概要で示した法領域とそれに関連する判例法理に関する事例問題
（司法試験の問題を平易にしたもの）に文章で解答できる。
４．１〜３で獲得した知識をもって、労働関係の発展的な問題に、リーガル
マインドをもって積極的に関与できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

※履修登録前に、学習支援システムにて最新情報を確認すること※
・本講義は、対面授業とします。
・授業の進め方の説明については、第1回目のガイダンス（9月23日（火））で行います。
・講義は、PowerPointを用いながら講義形式で授業を進めます。
・授業に関する質問等については、授業終了後・オフィスアワー・電子メールにて対応し、その場でフィードバックします。
・試験に関しては最終授業時あるいは学習支援システムにてフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	・ガイダンス ・労働基準法の適用範囲と実効性の確保	講義内容や評価方法の説明について 労働基準法が定める基準を守らせるための手段について
第2回	労働基準法の労働者・使用者（1）	労働基準法上の「労働者」について
第3回	労働基準法の労働者・使用者（2）	労働基準法上の「使用者」について
第4回	労働者の人権	均等待遇原則、強制労働の禁止について
第5回	賃金（1）	賃金の定義、賃金支払規制について
第6回	賃金（2）	休業手当、最低賃金規制について
第7回	賃金（3）	賞与（ボーナス）、退職金に関する諸問題について
第8回	労働時間規制（1）	法定労働時間規制、労働時間の概念について
第9回	労働時間規制（2）	休日規制、時間外・休日労働、深夜業規制について
第10回	労働時間規制（3）	割増賃金、労働時間規制の適用除外について
第11回	フレキシブルな労働時間制度（1）	変形労働時間制・フレックスタイム制について
第12回	フレキシブルな労働時間制度（2）	事業場外労働のみなし時間制・裁量労働制について
第13回	休暇	年次有給休暇等について
第14回	労働者の安全衛生	労働安全衛生法について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・事前に配布するレジュメ、資料を熟読のうえ受講すること。
・労働関係、労働法に関心を持ち、日頃から新聞、雑誌などの記事を読んでおくこと。法改正の動向は厚生労働省のホームページなどで随時確認すること。
・関連科目である労働契約法、労働基準法について、履修前に自学しておくこと。
・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・藤本茂・山本圭子・沼田雅之・細川良編著『ファーストステップ労働法』（エ
イデル研究所、2020年）
・プリント教材

【参考書】

・ジュリスト増刊『労働法の争点』（2014年、有斐閣）
・別冊ジュリスト『労働判例百選（第10版）』（2022年、有斐閣）

【成績評価の方法と基準】

試験（80点）
・期末試験として1回実施。論述形式の問題（事例問題）を出題する。
・概ね到達目標に即した解答がなされている否かを評価基準とする。
Web小テスト（20点）
・講義ごとに実施するWeb小テストの点数を20点満点に換算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

・レジュメ等のPDFデータを利用する場合は、データを保存・表示可能な端末。

【その他の重要事項】

シラバスの内容を変更し、実務家の方による講演を実施することがあります。

【【専門領域と研究業績】】

＜専門領域＞　社会法（社会保障法・労働法）
＜研究テーマ＞　非正規労働者の社会保障法、労働法上の課題
＜主要研究業績＞
【主な著書】
（編著）「社会法をとりまく環境の変化と課題」（旬報社）
（編著）「労働法における最高裁判例の再検討」（旬報社）
（分担執筆）（共著）「日本女性差別事件資料集成19　第7巻」（すいれん舎）
（分担執筆）「クラウドワークの進展と社会法の近未来」（労働開発研究会）
（分担執筆）「ニューレクチャー労働法［第3版］」（成文堂）
（編著）「ファーストステップ労働法」（エイデル研究所）
（分担執筆）「講座労働法の再生第３巻　労働条件論の課題」（日本評論社）
（分担執筆）「労働者派遣と法」（日本評論社）
【主な論文】

「『同一労働同一賃金』と見直しが迫られる『あたりまえ』の処遇」（JP総研Research63号）
「フリーランス新法はフリーランスの需要を満たすものか」（労働法律旬報2035号）
「デジタルプラットフォームを介して就労している『配達パートナー』の労働組合法上の労働者該当性」（労働法律旬報2026号）
「就労形態の多様化と労働者・被用者概念の変容」（年金と経済41巻4号）
「デジタルプラットフォームとワーカーの社会法上の保護」（季刊労働者の権利349号）
「フランチャイズ店舗加盟店主の労組法上の労働者性」（労働法律旬報2014号）
・「労働契約申込みみなし制度における偽装請負と『免れる目的』」（法律時報94巻9号）
・「プラットフォームワーカーの自由と保障―『新しい働き方』のため、社会が準備すべきこと」（世界960号）

【Outline (in English)】
1. Course Outline
The purpose of this course is to lecture on the basic principles and basic legal issues of Japanese labor law.
The outline is as follows:
－ 1. About a Labor Standards Act;
－ 2. A case law concerning the Labor Standards Act.
2. Learning Objectives
By the end of the course, students should be able to do the followings:
－A. Understand the legal domain shown in the "Class Outline" above and the related case law.
－ B. You will be able to answer basic questions about the legal domain and related case law and slightly more difficult questions (work rule test /legal test advanced < advanced > course level) shown in the above "Outline of class".
－ C. You can answer the case questions (simplified bar examination questions) related to the legal domain and related judicial doctrine shown in the above "Outline of Class" in sentences.
－ D. With the knowledge acquired in A to C, you will be able to actively participate in the developmental problems of labor relations with a legal mind.
3. Learning Activities Outside of Classroom
Lecture/Exercise（two-credits）
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
4.Grading Criteria /Policies
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
－ a. Term-end examination: 80%
－ b. Online quiz : 20%

LAW300AB（法学 / law 300）

労働組合法

藤木　貴史

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
単位数：**2単位**

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
〈概要〉私たちの社会では、多くの人が雇用されて労働し、賃金を得ることで生活しています。しかし、労働者は使用者よりも力が弱いため、適切な法規制がなされないと、さまざまな困難に直面することになります。労働法は、こうした困難を防ぎ、人間が人間らしく生きられようにさまざまな規制を行う法分野です。
　労働組合法では、労働法のうち、集団的労働法に関する基礎的部分を扱います。労働法総論・労働契約法、労働基準法を履修していることが望ましいです。
　この科目は、企業・経営と法コース（労働法中心）に属しています。
〈目的〉この分野を学ぶねらいは、次の2点です。
①労働法学の体系的・専門的な知識を身につける
②労働トラブルに対し、法的な問題の妥当な解決を図ることができる

【到達目標】
①集団的労働法の基礎的な知識を習得する。
②集団的労働法を知らない人に対して、労働法の仕組みを説明し、職場の問題解決の指針を示すことができ

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
・授業は、教科書の一部をまとめたレジュメを配布して進めます。
・講義中詳細に触れられない点につき、教科書で学習するよう指示することがあります。
・進度は学生の理解に応じて調整されることがあります。授業計画の変更については、学習支援システム等で必要に応じて提示します。確認を怠らないようにお願いします。
・毎回授業ごとに小テスト（&リアクションペーパー）を課すことを予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	労働組合法総論	・労働組合法の意義/目的 ・憲法28条の規範的意義と法的効果 ・労働組合法上の労働者・使用者
第2回	公務労働と団結権保障	・憲法28条の効果 ・公務員法制
第3回	不当労働行為（1）	・行政救済の特徴 ・救済の名宛人
第4回	不当労働行為（2）	・不利益取扱い ・支配介入
第5回	団結権（1）	・労働組合の組織的類型 ・法内組合
第6回	団結権（2）	・ユニオン・ショップ協定 ・統制処分
第7回	団体行動権（1）	・団体行動の類型 ・団体行動の正当性（主体、目的）
第8回	団体行動権（2）	・団体行動の正当性（態様）
第9回	団体行動権（3）	・団体行動と賃金 ・使用者側の対抗手段 ・損害賠償責任
第10回	映像で学ぶ労働法	・期末テストに向けて ・映像で学ぶ労働法
第11回	団体交渉権（1）	・交渉類型 ・団体交渉の相手方、当事者 ・団交応諾義務
第12回	団体交渉権（2）	・誠実交渉義務 ・中立保持義務
第13回	労働協約（1）	・労働協約の規範的効力・債務的効力
第14回	労働協約（2）	・労働協約の不利益変更

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・本授業の準備・復習時間は各4時間を標準とします。
［予習］（1時間程度）
・LMS上からレジュメを印刷しましょう。
・レジュメに指示された部分の教科書を読みましょう。
・内容を忘れた場合、前回の講義音声を聞きなおしましょう（オンライン授業時）。
［復習］（3時間程度）
・LMS上の小テストを解きましょう。
・その回の内容を友人・家族に説明できるか試してみましょう。
・その回で取り扱われた判例について、(i)どういう事件だったか、(ii)裁判所はどういうルールを設定したか、(iii)裁判所はそのルールをどう使ったのか、説明してみましょう。
・教科書の「練習問題」を解いてみましょう。

【テキスト（教科書）】
指定教科書が品切れのため、Hoppiiで決まり次第連絡し、4月第1回授業で改めて説明します。さしあたりは参考書①をご利用ください。
→下記教科書を指定します
三井正信『基本労働法III』（成文堂、２０１４年）

【参考書】
①藤本茂ほか『ファーストステップ労働法』エイデル出版（2020年）
②大木正俊ほか『労働法判例50！（Start Up）』（有斐閣、2025年）
③西谷敏『労働組合法〔第3版〕』有斐閣（2012年）
④日本労働政策研究・研修機構『労働関係法規集（2025年版）』

【成績評価の方法と基準】
到達目標①の計測のために小テストを、到達目標②の計測のために期末テストを、それぞれ実施します。
・［小テスト］3割（穴埋め問題／選択式問題により、基礎的知識の定着度を測る）
・［期末テスト］7割（説明問題／事案問題により、労働法の仕組みを説明できるかを測る）

【学生の意見等からの気づき】
教材については好評でしたので継続します

【その他の重要事項】
［関連科目］
・労働法総論・労働契約法、労働基準法を履修していることが望ましいです。また、労働法特論、社会政策論との並行履修を強くすすめます。
・本講義の理解のためには、①日本国憲法、②民法（民法総則、債権総論、契約法）、③行政法、④民事訴訟法、⑤刑法などの基礎的知識が必要です（ただし、これらの科目未履修の学生も、この講義を履修して構いません）。
［授業を受ける姿勢］
・休まないで出席することは理解の前提となるので、その旨心がけてください。
・六法／法令集は授業に必ず持ってくること。また、自分で必要な条文を探せるようにしておくこと。
・講義中は、適切にノートをとるなど、講義に集中することが求められます。
・ゲームや私事を見つけた場合には止めるよう注意をします。
・授業中の感染症予防のため、マスク着用を推奨します（義務ではありません）。

【Outline (in English)】
Course outline

In our society, many people are employed to work and earn wages to make a living. However, because workers are less powerful than employers, they face various difficulties if appropriate laws and regulations are not in place. Labor law is a field of law that prevents these difficulties and imposes various regulations so that people can live like human beings.

Labor Union Law deals with the basic part of labor law that relates to collective labor law. It is desirable for students to have taken General Labor Law, Labor Contract Law, and Labor Standards Law.

Learning Objectives

(1) Acquire basic knowledge of collective labor laws.

(2) To be able to explain the structure of labor laws to those who are not familiar with collective labor laws and provide guidelines for solving problems in the workplace.

Learning activities outside of classroom

The standard preparation and review time for this class is 4 hours each.

Grading Criteria /Policy

A quiz will be given to measure achievement goal (1), and a final exam will be given to measure achievement goal (2).

[Quiz] 30%(fill-in-the-blank questions/choice-type questions to measure the level of retention of basic knowledge)

[Final exam] 70%(to determine whether students can explain the structure of labor law through explanatory questions and case study questions).

LAW300AB（法学 / law 300）

労働法特論

細川　良

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
単位数：**2単位**

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この講義では、労働法のうち、非正規労働者に関する法（労働契約法のうち有期契約労働者に関する部分、パートタイム労働法など）、労働市場に関する法（職業安定法、労働者派遣法など）、高齢者雇用・障害者雇用に関する法を扱う。
　法律学科の「企業・経営と法（労働法中心）」コースの中心科目である。また「企業・経営と法（商法中心）」「文化・社会と法」を除くすべてのコースで履修が推奨されている。

【到達目標】
１．授業の概要で示した法領域における基本的な制度の概要、およびそこで生じている法的な議論や紛争の論点がどのようなものであるかについて理解できる。
２．授業の概要で示した法領域における制度の詳細や、関連する政策についての歴史的な変遷、およびそこで生じている法的な議論における一般的・通説的な理解を把握し、基本的な問題や少し難易度の高い問題（ワークルール検定・法学検定アドバンスト〈上級〉コースレベル）に解答できるようになる。
３．授業の概要で示した法領域における制度、関連する政策をめぐって生じている法的な議論状況を整理し、関連する裁判例を理解し、事例問題（司法試験の問題を平易にしたもの）に文章で解答できる。
４．１～３で獲得した知識をもって、労働関係の発展的な問題に、リーガルマインドをもって積極的に関与できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
※履修登録前に、学習支援システムにて最新情報を確認してください※
・本講義は、対面授業とします。
※状況によって、オンライン授業またはハイフレックス授業を併用する場合があります。オンライン授業またはハイフレックス授業となった場合は、ZoomまたはWebexを使用します。
・授業の進め方の説明については、第1回ガイダンスで行います。ガイダンスの受講方法については、学習支援システム「HOPPII」で確認してください（シラバス執筆時点（2024年2月）では、第1回のガイダンスは、オンラインで配信する予定です）。
・授業計画に記されている予定は、あくまでも「予定」です。変更が生じることがあり得ることに留意してください。
・講義は、PowerPointを用いながら講義形式で授業を進める予定です。
・授業に関する質問等については、原則として、授業終了後にて対応し、その場でフィードバックします。学習支援システムを通じた質問については、全てに対応できない場合や、複数の同趣旨の質問に対して、まとめて解答する場合があります。個別に確実に対応がほしい場合は、授業終了後の時間を利用してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義内容や評価方法の説明。労働法の全体像の説明。労働法特論の労働法における位置付けの説明。
第2回	女性・年少者の保護	女性・年少者の保護のカタログについて学習する。
第3回	性差別の禁止（１）	男女同一賃金原則について学ぶ。
第4回	性差別の禁止（２）	均等法の制定と発展について学ぶ。
第5回	ハラスメント	職場における様々な形態のハラスメントについて学ぶ。
第6回	育児介護休業法	育児介護休業法上の諸制度について理解する。
第7回	有期雇用労働者・パート労働者（１）	有期契約労働者に関する保護策について学習する。
第8回	有期雇用労働者・パート労働者（２）	均衡・均等処遇を中心にパート有期法について学習する。
第9回	派遣労働者（１）	労働者派遣の歴史について学ぶ。労働者派遣の基本的枠組みを理解する。
第10回	派遣労働者（２）	派遣元事業主と派遣先事業主が講じるべき措置等ついて学習する。
第11回	高年齢者	高年齢者の雇用の安定に関する措置について学ぶ。
第12回	障害者	障害者権利条約の批准と障害者雇用促進法の改正点について学習する。
第13回	外国人労働	外国人労働者の就労と関連する法制度、法政策について学習する。
第14回	まとめ	本講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・事前に配布するレジュメ、資料を熟読のうえ受講すること。
・労働関係、労働法に関心を持ち、日頃から新聞、雑誌などの記事を読んでおくこと。法改正の動向は厚生労働省のホームページなどで随時確認すること。
・関連科目である労働契約法、労働基準法について、履修前に自学しておくこと。
・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。
・授業時間中における進行速度などによっては、講義内容を補完するための動画を配信し、視聴してもらう場合があります。

【テキスト（教科書）】
・藤本茂・山本圭子・沼田雅之・細川良編著『ファーストステップ労働法』（エイデル研究所、2020年）
・プリント教材

【参考書】
・ジュリスト増刊『労働法の争点』（2014年、有斐閣）
・別冊ジュリスト『労働判例百選（第10版）』（2022年、有斐閣）
＊その他、労働法を学習するための基本的な文献については、初回の講義で解説します。また、各回の授業内容に関連する文献や論文等を適宜紹介したいと思います。

【成績評価の方法と基準】
試験（100点）
・期末試験として1回実施。択一式問題、説明問題、論述形式の問題（事例問題）を組み合わせて出題する予定です。変更がある場合には、授業時間中に説明します。
・単位認定の基準は、本講義において求められる最低限の到達目標がクリアできているか否かで判断します。そのうえで、成績評価の基準としては、講義内容の全体にわたっての理解度、およびより深い内容の理解ができているか（より高い到達目標に達しているか）によって振り分けられることになります。

【学生の意見等からの気づき】
本年度担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
・オンラインあるいはハイフレックス授業（オンラインで参加する場合）の場合は、インターネットに接続できる環境とZoomないしWebexを利用可能な端末。
・レジュメ等はPDFデータで提供するため、データを保存・表示可能な端末。

【その他の重要事項】
・「労働法総論・労働契約法」、「労働基準法」を履修していることが望ましい。

・同時に、「社会政策」、「雇用・福祉政策」を履修するとより理解を深めることができる。
【実務経験のある教員による授業】
講義担当者は、厚生労働省所管のシンクタンク（独立行政法人　労働政策研究・研修機構）で研究員として勤務しており、労働政策立案に関する調査・研究および厚労省における委員会・検討会での報告、政策立案担当者に対するレクチャーなどに従事していました。本講義においても、こうした経験を生かして、法制度の立法および運用に関する背景や経緯についても解説したいと思います。

【Outline (in English)】
1. Course Outline
The objective of this course is to lecture on development subjects of Japanese Labor Law.
The outline is as follows:
－1. A law on non-regular workers;
－2. The Law of the Labor Market;
－3. A law on Employment of the Elderly;
－4. A law on Employment of Persons with Disabilities.
2. Learning Objectives
By the end of the course, students should be able to do the followings:
－A. Understand the legal domain shown in the "Class Outline" above and the related case law.
－ B. You will be able to answer basic questions about the legal domain and related case law and slightly more difficult questions (work rule test /legal test advanced < advanced > course level) shown in the above "Outline of class".
－ C. You can answer the case questions (simplified bar examination questions) related to the legal domain and related judicial doctrine shown in the above "Outline of Class" in sentences.
－ D. With the knowledge acquired in A to C, you will be able to actively participate in the developmental problems of labor relations with a legal mind.
3. Learning Activities Outside of Classroom
Lecture/Exercise（two-credits）
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
4.Grading Criteria /Policies
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
－Term-end examination: 100%

LAW300AB（法学 / law 300）

社会保障法Ⅰ

沼田　雅之

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
単位数：**2単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、社会保障法のうち社会保障法総論及び福祉関係法を扱う。法律学科の「企業・経営と法（労働法中心）」コースの中心科目であり、「行政・公共政策と法」コースの履修推奨科目である。社会保障の総論や社会福祉は、企業が提供する法定内外の福利厚生に密接に関連する。さらに社会保障は、誰もがその恩恵を受けうるものであり、「企業・経営と法」コースを主体に科目選択している学生だけではなく、すべての学生にとって必要な知識である。しがたって、社会保障制度の理論的根拠としての総論をふまえて、個別の諸制度の目的、制度内容そしてその課題についての情報を提供する。

社会保障は、行政サービスの大きな部分を占めていることから、法律学科の「行政・公共政策と法」コースが想定する職業に就くことを検討している方も、受講するのがのぞましい。

【到達目標】

1．社会保障法の定義、法体系などの総論的事項、および生活保護法と福祉法の概要を説明できるようになる。
2．生活保護法と福祉法の法的問題点について、自己の見解を説得的に論じることができるようになる。
3．1～2で獲得した知識をもって、実社会で想定される公的扶助・社会福祉領域での基本的問題に、リーガルマインドをもって積極的に関与できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

※履修登録前に、学習支援システムにて最新情報を確認すること※
・本講義は、対面授業とします。
・授業の進め方の説明については、第1回目のガイダンス（4月8日（火））で行います。
・講義は、PowerPointを用いながら講義形式で授業を進めます。
・授業に関する質問等については、授業終了後・オフィスアワー・電子メールにて対応し、その場でフィードバックします。
・試験に関しては最終授業時あるいは学習支援システムにてフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の内容、進め方、学習方法などについて説明を行う。
第2回	社会保障法の概論	社会保障法学の射程、限界などに関して考察する。
第3回	社会保障法の法源等	社会保障法の定義・法体系・発展経緯を解説する。
第4回	生存権	生存権の意義・学説・判例について考察する。
第5回	生活保護法の概要	公的扶助の歴史、生活保護法の原理・原則、自立の意義について考える。
第6回	生活保護法における補足性の原理	補足性の原理の具体的内容、および関連判例を検討する。
第7回	生活保護法のその他の原理・原則等	世帯単位の原則ほか、被保護者の権利・義務について説明し、関連判例について考察する。
第8回	福祉関係法の概要	福祉の意義、福祉法制の発展経緯のほか、社会福祉基礎構造改革について説明する。
第9回	福祉関係法（障害者福祉）	障害者関連法の概要について解説する。
第10回	福祉関係法（高齢者福祉）	介護保険法など、高齢者福祉に関する法律について検討する。
第11回	福祉関係法（児童福祉）	児童福祉に関する法律について説明する。
第12回	福祉関係法（家庭福祉）	ひとり親世帯等の福祉に関する法律について説明する。
第13回	社会手当法	社会手当の概念、および子ども手当法、児童扶養手当法、特別児童扶養手当法の概要を説明する。
第14回	総合研究	社会保障法に関する近年の法的諸問題を取り上げて、考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・事前に配布した「配布プリント」や「参考資料」を事前に一読のこと。
・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・教科書は指定しない。プリント教材を使用する。

【参考書】

・本沢己代子・新田秀樹編『トピック社会保障法（第19版）』（信山社、2025年4月刊行予定）
・菊池馨実『社会保障法【第3版】』（有斐閣、2022年）
このほか、生活保護制度の行政実務の実態を理解するためには、柏木ハルコ作の『健康で文化的な最低限度の生活』のコミック各巻は、大いに参考となる。

【成績評価の方法と基準】

試験（80点）
・期末試験として1回実施。論述形式の問題（事例問題）を出題する。
・概ね到達目標に即した解答がなされている否かを、評価基準とする。
Web小テスト（20点）
・講義ごとに実施するWeb小テストの点数を20点満点に換算して評価します。
※新型コロナウイルス感染症の状況によっては、期末試験をレポート試験に変更する場合があります。

【学生の意見等からの気づき】

シラバス作成時点では学生からの意見はない。

【学生が準備すべき機器他】

・レジュメ等のPDFデータを利用する場合は、データを保存・表示可能な端末。

【Outline (in English)】

1. Course Outline
The objective of this course is to lecture on Japanese Social Welfare Law.
The outline is as follows:
− 1. About Article 25 of the Constitution of Japan;
− 2. Japanese Public Assistance Act;
− 3. Welfare law for people with disabilities;
− 4. Elderly Welfare law;
5. Child Welfare Act.
2. Learning Objectives
By the end of the course, students should be able to do the followings:
− A. Be able to explain the definition of social security law, general matters such as legal system, and outline of public assistance law and welfare law.
− B. You will be able to persuasively discuss your views on the legal issues of the Public Assistance Act and the Welfare Act.
− C. With the knowledge acquired in A to B, you will be able to actively participate in the basic problems in the field of public assistance and social welfare that are expected in the real world with a legal mind.
3. Learning Activities Outside of Classroom
Lecture/Exercise（two-credits）

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
4.Grading Criteria /Policies
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
− a. Term-end examination: 80%
− b. Online quiz : 20%

LAW300AB（法学 / law 300）

社会保障法Ⅱ

沼田　雅之

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
単位数：**2単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、社会保障法のうち社会保険法を扱う。法律学科の「企業・経営と法（労働法中心）」コースの中心科目であり、「行政・公共政策と法」コースの履修推奨科目である。社会保険は、企業が提供する法定内外の福利厚生に密接に関連する。さらに社会保障は、誰もがその恩恵を受けうるものであり、「企業・経営と法」コースを主体に科目選択している学生だけではなく、すべての学生にとって必要な知識である。社会保険法に含まれる個別の諸制度の目的、制度内容そしてその課題についての情報を提供する。

社会保障は、行政サービスの大きな部分を占めていることから、法律学科の「行政・公共政策と法」コースが想定する職業に就くことを検討している方も、受講するのがのぞましい。

【到達目標】

1．社会保障法のうち社会保険法（医療関係法、年金法、労災保険法、雇用保険法）の概略について説明できるようになる。
2．社会保障法のうち社会保険法（医療関係法、年金法、労災保険法、雇用保険法）の法的問題点について、自己の見解を説得的に論じることができるようになる。
3．1～2で獲得した知識をもって、実社会で想定される社会保険法上の基本的問題に、リーガルマインドをもって積極的に関与できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

※履修登録前に、学習支援システムにて最新情報を確認すること※
・本講義は、対面授業とします。
・授業の進め方の説明については、第1回目のガイダンス（9月23日（火））で行います。
・講義は、PowerPointを用いながら講義形式で授業を進めます。
・授業に関する質問等については、授業終了後・オフィスアワー・電子メールにて対応し、その場でフィードバックします。
・試験に関しては最終授業時あるいは学習支援システムにてフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の内容、進め方、学習方法などについて説明を行う。
第2回	医療保障（1）	医療関係法の法体系、医療受給権の特徴などについて説明する。
第3回	医療保障（2）	保険診療の仕組みを説明し、関連判例について考察する。
第4回	医療保障（3）	健康保険法の概要を説明し、関連判例について考察する。
第5回	医療保障（4）	国民健康保険法等の概要を説明し、関連判例について考察する。
第6回	年金保険（1）	年金法の法体系、概要、年金受給権の法構造、スライド制などについて説明する。
第7回	年金保険（2）	老齢年金と障害年金の概要を説明し、関連判例について考察する。
第8回	年金保険（3）	遺族年金の概要を説明し、関連判例について考察する。
第9回	年金保険（4）	年金分割制度等について説明する。
第10回	労災保険（1）	労災保険法の概要、同法で使用される諸概念について説明する。
第11回	労災保険（2）	業務災害給付について説明し、関連判例を考察する。
第12回	労災保険（3）	通勤災害給付について説明し、関連判例を考察する。
第13回	雇用保険（1）	求職者給付について説明し、関連判例を考察する。
第14回	雇用保険（2）	就職促進給付、教育訓練給付、雇用継続給付について説明し、関連判例を考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・事前に配布した「配布プリント」や「参考資料」を事前に一読のこと。
・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。プリント教材を使用する。

【参考書】

・東京都産業労働局「働く人のための労働保険 社会保険」（http://www.hataraku.metro.tokyo.jp/sodan/siryo/index.html）
・本沢己代子・新田秀樹編『トピック社会保障法（第19版）』（信山社、2025年4月刊行予定）
・菊池馨実『社会保障法【第3版】』（有斐閣、2022年）

【成績評価の方法と基準】

試験（80点）
・期末試験として1回実施。論述形式の問題（事例問題）を出題する。
・概ね到達目標に即した解答がなされている否かを、評価基準とする。
Web小テスト（20点）
・講義ごとに実施するWeb小テストの点数を20点満点に換算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

シラバス作成時点では学生からの意見はない。

【学生が準備すべき機器他】

・レジュメ等のPDFデータを利用する場合は、データを保存・表示可能な端末。

【その他の重要事項】

事前に社会保障法Ⅰを履修していることがのぞましい。

【Outline (in English)】
1. Course Outline
The objective of this course is to lecture on Japanese Social Insurance Law.
The outline is as follows:
－ 1. Japanese Health Insurance Act;
－ 2. Japanese Pension Insurance Law;
－ 3. Lapanese Unemployment Insurance Law.
2. Learning Objectives
By the end of the course, students should be able to do the followings:
－ A. You will be able to explain the outline of the social insurance law (medical care law, pension law, labor accident insurance law, employment insurance law) among the social security laws.
－ B. You will be able to persuasively discuss your own views on the legal issues of the social insurance law (medical care law, pension law, labor accident insurance law, employment insurance law) among the social security laws.
－ C. With the knowledge acquired in A to B, you will be able to actively participate in the basic problems of social insurance law that are assumed in the real world with a legal mind.
3. Learning Activities Outside of Classroom
Lecture/Exercise（two-credits）
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
4.Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following:
− a. Term-end examination: 80%
− b. Online quiz : 20%

LAW200AB（法学 / law 200）

教育法Ⅰ

村元　宏行

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教育法は、「裁判と法コース」「行政・公共政策と法コース」「企業・経営と法（労働法中心）コース」「国際社会と法コース」および「文化・社会と法コース」に位置付けられています。教育法は、憲法26条に規定された「教育人権」を保障するための法体系のあり方について考究することを目的とする現代法学の一領域です。よって、行政による積極的施策が求められる一方で、行政による教育内容統制が教育人権侵害をもたらす危険性も指摘されています。
伝統的に教育法では、国家による教育内容統制から、いかに国民の教育の自由を守るのかといった問題が重点的に研究されてきました。近年ではこのような伝統的な教育法学説に加え、いじめ、体罰やその他の学校災害対策の究明なども求められています。
そのような状況を踏まえて、教育法Ⅰでは教育法の基本原理から、国家による教育統制に関わる問題についてまでを取り上げることとします。

【到達目標】
教育法制についての基礎的理解を深める。国家の教育統制とその限界、教育の自由との関係について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業はレジュメに沿って講義形式で行います。ただし一方通行にならないためにも、毎回小レポート（リアクションペーパー）を提出してもらい、授業の初めにいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行うなど、授業に取りいれていきます。
この授業は対面を基本とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	受講にあたっての諸注意など
第2回	教育法の基本原理	教育法の歴史、教育法の法源など
第3回	戦前教育の特色	戦前教育法制について
第4回	戦後教育改革	憲法・教育基本法制の生成過程について
第5回	戦後教育政策の展開	国家の教育統制の歴史的流れについて
第6回	新・教育基本法制（旧法）	旧教育基本法について
第7回	新・教育基本法制（新法）	新教育基本法について
第8回	教育三法改正ほか	教育基本法改正後の主要法律の改正について
第9回	教育権―学習指導要領（沿革、学説）	学習指導要領の法的拘束力について沿革、学説を通して考察する。
第10回	教育権―学習指導要領（判例）	学習指導要領の法的拘束力について判例・裁判例を通して考察する。
第11回	教育権―教科書検定（沿革、学説）	家永教科書訴訟について沿革、学説を通して考察する。
第12回	教育権―教科書検定（判例）	家永教科書訴訟について判例・裁判例を通して考察する。
第13回	教育権―学力テスト事件（沿革、学説）	旭川学力テスト事件について沿革、学説を通して考察する。
第14回	教育権―学力テスト事件（判例）	旭川学力テスト事件最高裁判決について考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストや関連文献による予習と復習のほか、授業で取り上げる事柄について新聞や専門誌で最新動向をつかんでおくことが求められます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『ハンディ教育六法　2025年版』北樹出版、2025年

【参考書】
予習・復習用として推奨するテキスト：姉崎洋一ほか編『ガイドブック教育法　新訂版』（三省堂、2015年）

【成績評価の方法と基準】
期末試験（50％）
授業内小レポート（リアクションペーパー）（50％）

【学生の意見等からの気づき】
わかりやすい板書と資料の映示を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】
レジュメ配布は原則として学習支援システムを用います。

【その他の重要事項】
履修にあたっての注意事項は開講時のガイダンスで説明するので、ガイダンスには出席してください。出席できない場合は、友人などに内容を確認できるようにしておいてください。

【Outline (in English)】
Course outline
The purpose of this lecture is to understand the basic principle that supports the education law and its historical background.
Learning Objectives
The goals of this course are to understand the basic principle that supports the education law and its historical background
Learning activities outside of classroom
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria /Policies
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 50%、Short reports : 50%

LAW200AB（法学 / law 200）

教育法Ⅱ

村元　宏行

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教育法は、「裁判と法コース」「企業・経営と法コース（労働法中心）」「行政・公共政策と法コース」「国際社会と法コース」および「文化・社会と法コース」に位置付けられています。教育法は、憲法26条に規定された「教育人権」を保障するための法体系のあり方について考究することを目的とする現代法学の一領域です。よって、行政による積極的施策が求められる一方で、行政による教育内容統制が教育人権侵害をもたらす危険性も指摘されています。
伝統的に教育法では、国家による教育内容統制から、いかに国民の教育の自由を守るのかといった問題が重点的に研究されてきました。近年ではこのような伝統的な教育法学説に加え、いじめ、体罰やその他の学校災害対策の究明なども求められています。
そのような状況を踏まえて、教育法Ⅱでは、子どもの人権保障の動向と、学校教育における子どもの人権、そして近年の教育政策の動向について取りあげることとします。

【到達目標】
子どもの人権保障の国際的動向や国内の課題について理解を深める。学校内部での子どもの人権保障について、人権侵害事件を具体的に学んで理解を深める。
近年の教育政策の動向と課題について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業はレジュメに沿って講義形式で行います。ただし一方通行にならないためにも、毎回小レポート（リアクションペーパー）を提出してもらい、授業の初めにいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行うなど、授業に取りいれていきます。
この授業は対面を基本とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	子どもの人権保障の国際的動向	子どもの権利条約に至るまでの国際的動向について
第2回	子どもの権利条約の理念	子どもの権利条約の基本原理について
第3回	国内における子どもの権利保障の動向	子どもの権利条約を踏まえた国内での子どもの権利保障について
第4回	学校における子どもの人権：校則（沿革、学説）	校則をめぐる法的論点について、沿革、学説などを通じて考察する
第5回	学校における子どもの人権：校則（判例）	校則をめぐる法的論点について、判例・裁判例などを通じて考察する
第6回	学校における子どもの人権：体罰（沿革、学説）	体罰をめぐる法的論点について、沿革、学説などを通じて考察する
第7回	学校における子どもの人権：体罰（判例）	体罰をめぐる法的論点について、判例・裁判例などを通じて考察する
第8回	学校における子どもの人権：いじめ（沿革、学説）	いじめをめぐる法的論点について、沿革、学説などを通じて考察する
第9回	学校における子どもの人権：いじめ（判例）	いじめをめぐる法的論点について、判例・裁判例などを通じて考察する
第10回	学校における子どもの人権：その他学校災害	その他の学校事故、学校災害の救済法制について
第11回	最近の教育政策の動向（教育政策の形成過程）	教育政策の形成過程と問題点について
第12回	最近の教育政策の動向（最近の教育政策）	最近の教育政策の特色と課題について
第13回	教育改革と学校参加（現状）	子ども・親・住民の学校参加についての現状
第14回	教育改革と学校参加（今後の課題）、まとめと試験	子ども・親・住民の学校参加についての今後の課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストや関連文献による予習と復習のほか、授業で取り上げる事柄について新聞や専門誌で最新動向をつかんでおくことが求められます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『ハンディ教育六法　2025年版』北樹出版、2025年

【参考書】
予習・復習用として推奨するテキスト：姉崎洋一ほか編『ガイドブック教育法　新訂版』（三省堂、2015年）

【成績評価の方法と基準】
期末試験（50％）
授業内小レポート（リアクションペーパー）（50％）

【学生の意見等からの気づき】
わかりやすい板書と資料の映示を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】
レジュメ配布は原則として学習支援システムを用います。

【その他の重要事項】
その他履修にあたっての注意事項は開講時に説明するので、初回の授業には出席してください。出席できない場合は、友人などに内容を確認できるようにしておいてください。

【Outline (in English)】
Course outline
The purpose of this lecture is to understand the basic principle that supports the education law and student rights.
Learning Objectives
The goals of this course are to understand the basic principle that supports the education law and student rights.
Learning activities outside of classroom
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria /Policies
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 50%、Short reports : 50%

LAW200AB（法学 / law 200）

法哲学 I

大野　達司

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
法哲学は、実定法の基礎・背景となる思想や理論を学ぶ学問である。受講者が法哲学における基本的諸概念の習得を通じて、法を多様な観点から見ることができるようになることを本講義の目標とする。
本科目は、法律学科科目の中で主として「文化・社会と法コース」の分野に属するほか、他のすべてのコースとも関係する科目である。

【到達目標】
法哲学は大きく分けて、法が追求するべき目的を取り扱う正義論と、法とはなにかという問題を取り扱う法概念論とからなる。法哲学１では、前者の正義論の基本を理解する。具体的には、社会が追求するべき正義とはなにか、客観的な価値は存在するのか、自由や平等という価値はどのようなものであるのかという諸問題を代表的な法哲学者の議論を通じて学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業は対面を基本としますが、必要に応じてオンライン（あるいはオンデマンド）の可能性があります。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。質問は随時受け付けます。授業内か、必要に応じて学習支援システムで応答します。テキスト各章に上がっている事例について意見交換の時間を設けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	授業・評価の方法と全体の概要
第2回	古典的正義論	現代正義論以前の正義論を見る
第3回	功利主義	正義とは諸個人の快の総和であるとする功利主義について見る
第4回	ロールズと『正義論』	現代正義論において最も主要な論者であるジョン・ロールズのリベラリズムのうち、前期における議論について見る
第5回	ロールズと『政治的リベラリズム』	後期ロールズの議論を見る
第6回	ロールズとグローバル正義論	ロールズのグローバル正義論を見る
第7回	ロールズに対する批判	功利主義・リバタリアニズム・共同体論などからの問題提起を取り上げる。
第8回	リバタリアニズム	最小国家を超える国家は正当化できないとするリバタリアニズムの議論を見る
第9回	コミュニタリアニズム	正義と人間の生き方を区別するリベラリズムを批判するコミュニタリアニズムの議論を見る
第10回	リベラリズム対コミュニタリアニズム	リベラリズムとコミュニタリアニズムの対立を整理する
第11回	自由	J・S・ミルを中心に自由に関する議論を見る
第12回	平等	正義と平等の関係について見る
第13回	権利	権利の概念・特質について
第14回	自然権と人権	自然権・人権の歴史と現代の状況について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布するレジュメや教科書、下記に挙げる参考書、講義時に記載したノートに基づいて予習復習をすること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
瀧川裕英/宇佐美誠/大屋雄裕『法哲学』(有斐閣、2014年)、2,800円＋税

【参考書】
那須耕介・平井亮輔編『レクチャー法哲学』法律文化社、2020年
宇佐美誠／児玉聡／井上彰／松元雅和『正義論』法律文化社、2019年
瀧川裕英編『問いかける法哲学』法律文化社、2018年
平野仁彦/亀本洋/服部高宏『法哲学』有斐閣、2002年
住吉雅美『あぶない法哲学』講談社、2020年

【成績評価の方法と基準】
授業全体に関する期末レポート（予定：5000字程度）と各回終了後の内容確認オンライン「クイズ（10問ほど、穴埋め）」による。平常点／クイズ30％、期末レポートを70％とする。（クイズは復習が主なので二週間ほどの期限内、何度でも回答可）

【学生の意見等からの気づき】
なし

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システム（レジュメとクイズ）とグーグル・クラスルーム（大きい資料がある場合）を利用する。

【Outline (in English)】
(Course outline) "Philosophy of Law" is a discipline, which considers fundamental legal ideas and backgrounds of positive laws.
(Learining Objectives) The aim of this lecture is that students can understand basic concepts or principles, and get various viewpoints for laws. Themas of "Philosophy of Law 1" are around Theory of Justice, namely Liberty, Equlity, (Human) Rights and so on.
(Learning activities outside of classroom) Before each lesson, participants should read the rellevant chapter.
(Grading Criteria/Policiy) After each lesson, a simple "quiz" to check the contents will be given online(30%), and grades will be evaluated based on the term-end report(70%).

LAW200AB（法学 / law 200）

法哲学Ⅱ

大野　達司

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
法哲学は、実定法の基礎・背景となる思想や理論を学ぶ学問である。受講者が法哲学における基本的諸概念の習得を通じて、法を多様な観点から見ることができるようになることを本講義の目的とする。法哲学Ⅰを受けて、Ⅱでは教科書6章からはじめるが、Ⅰの履修を条件にはしない。
本科目は、法律学科科目の中で主として「文化・社会と法コース」の分野に属するほか、他のすべてのコースとも関係する科目である。

【到達目標】
法哲学は大きく分けて、法が追求するべき目的を取り扱う正義論と、法とはなにかという問題を取り扱う法概念論とからなる。本講義では、後者の法概念論を講義する。具体的には、法を用いるという活動はどのような活動なのか、法と道徳や慣習はどのような相違点を持つのか、裁判官に代表される法律家の営みはどのように理解されるべきかといった諸問題、国際的正義、世代間正義、環境問題、動物の権利、遵法義務と市民的不服従などに関する代表的な法哲学者の議論を理解できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
受講者が、教科書における指定箇所を読んできていることを前提として講義を行う。基本的には教科書を踏まえて講義するが、教科書では取り上げられていないが担当者が重要と考える法哲学に関するトピックも取り上げる。対面授業の場合、授業内で各章の設例をもとに討論の機会を適宜設けたい。
対面授業ができない場合、音声等のファイルと、レジュメをもとにすすめる。授業時間内・指定した期間に質問を学習支援システムで受け付け、随時応答する。各授業後に、内容確認のため、簡単なクイズをオンラインで実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	授業・評価の方法と全体の概要
第2回	6章正義論の最前線、その1	1節グローバル正義論を中心に
第3回	6章正義論の最前線、その2	2節世代間正義と3節姓名と環境を中心に
第4回	7章ルールとしての法、その1	1節命令としての法、2節命令からルールへを中心に
第5回	7章ルールとしての法、その2	3節法と道徳を中心に
第6回	8章法の価値	自然法論・法の中の道徳、法の底にある善
第7回	9章法の権威	二つの法実証主義、理由・権威・法
第8回	10章解釈としての法	法の意味論的理論、解釈、規約主義とプラグマティズム、批判と応答
第9回	11章批判理論	「主流派法学」の批判、CLSの理論と主張、その後の批判理論
第10回	12章遵法義務、その1	遵法義務という問題、遵法義務の正当化論、
第11回	12章遵法義務、その2	自然状態と自然義務、悪法と不服従
第12回	エピローグ法哲学の基礎理論、その1	メタ倫理学と価値の多元性
第13回	エピローグ法哲学の基礎理論、その2	法哲学はどのような分野か
第14回	全体のまとめ	後期全体のまとめと相互の関連について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの指定箇所を事前に読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
瀧川裕英/宇佐美誠/大屋雄裕『法哲学』(有斐閣、2014年)、2,800円＋税

【参考書】
宇佐美誠／児玉聡／井上彰／松元雅和『正義論』法律文化社、2019年
平野仁彦/亀本洋/服部高宏『法哲学』有斐閣、2002年
瀧川裕英編『問いかける法哲学』法律文化社、2016年
那須耕介・平井亮輔編『レクチャー法哲学』法律文化社、2020年
住吉雅美『あぶない法哲学』筑摩書房、2020年

【成績評価の方法と基準】
期末試験、もしくはレポート（オンラインの場合）、各回に簡単なクイズを実施する（オンライン）。それぞれ70％、30％。

【学生の意見等からの気づき】
なし

【学生が準備すべき機器他】
レジュメ、資料配付、クイズなどにつき授業支援システム。資料が大きい場合、グーグル・クラスルーム。必要に応じてオンライン授業（zoom）となる場合がありうるので、対応できるように。

【その他の重要事項】
法哲学Ⅰの受講が望ましいが、要件ではないので、ご自由に受講して下さい。

【Outline (in English)】
(Course outline) Philosophy of law is an academic discipline that learns the fundamental and background ideas and theories of the positive law. This lecture aims to acquire basic concepts in Philosophy of law and to be able to see the law from various viewpoints."Philosophy of Law" is a discipline, which considers fundamental legal ideas and backgrounds of positive laws. The aim of this lecture is that students can understand basic concepts or principles, and get various viewpoints for laws. (Learning Objectives) Themas of "Philosophy of Law 2" are not only theoretical problems as the concept of law, or theories of legal reasoning, but also, the analyse of actual problems form the perspectives of it, namely "Global Justice", "Justice among different generations", "enviromental justice", "animal rights", "civil disobdience" and so on.
(Learning activities outside of classroom) Before each lesson, participants should read the rellevant chapter
(Grading Criteria/Policy) After each lesson, a simple "quiz" to check the contents will be given online (30%), and grades will be evaluated based on the term-end report(70%).

POL200AC（政治学 / Politics 200）

比較政治論Ⅰ

新川　敏光

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
単位数：**2単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、欧米における近代国民国家の様々な発展パターンを民主主義と資本主義経済に焦点をあて、比較検討する。

【到達目標】
現代政治の諸問題を、歴史的空間比較の視座（比較歴史制度発展論）から、体系的に理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
講義方式によって行う。
二回目以降の講義では、前回の講義に関する質問や疑問への対応を含む、簡単なまとめを行う。また最終回では、講義全般に関するまとめと質疑応答を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	本講義の射程	比較とは何か、政治とは何かをテーマに本講義の目的と対象範囲を明らかにする。
第二回	権力と支配	権力とは何か、そして支配とは何かについて検討する。
第三回	近代国民国家	近代国民国家をモデル化し、英仏独米における国民国家形成を比較する。
第四回	政治体制：リベラルデモクラシー	近代における政治範型である自由民主主義についてモデル化する。
第五回	実証的デモクラシー論	現代デモクラシーの実証諸理論と各国の事例を比較検討する。
第六回	資本主義経済の発展：レッセ・フェール・夜警国家から帝国主義の時代へ	資本主義経済の発展とそれに呼応した国家機能の拡大を考察する。
第七回	左右イデオロギーの収斂	資本主義経済の批判理論である社会主義理論と擁護理論である自由主義、双方における変化（収斂）を考察する。
第八回	福祉国家パラダイム	国民国家、資本主義経済、階級政治の新たな枠組の誕生として福祉国家を検討する
第九回	福祉国家の多様性	福祉国家の多様性を類型論に基づいて紹介する。
第一〇回	福祉国家の経済体制	フォーディズム、ケイン主義、埋め込まれた自由主義について検討する。
第一一回	福祉国家の政治体制	階級闘争の民主化、民主的階級闘争がリベラル・デモクラシーの安定化をもたらしたことを論ずる。
第一二回	福祉国家と資本主義の多様性	福祉国家の多様性は、各国の資本主義経済システムの多様性と連動するものであることを明らかにする。
第一三回	福祉国家の影	福祉国家の負の側面として、管理社会化、国家部門の肥大を検討する。
第一四回	試験	授業内試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前にアップロードされた教材について予習し、講義後はノートを整理し、理解が不十分な点について調べ、不明な点は次回質問すること。

【テキスト（教科書）】
新川敏光『政治学：概念・理論・歴史』（ミネルヴァ書房）。本書は比較政治論Ⅱにおいても使用する。

【参考書】
新川敏光『福祉国家変革の理路』（ミネルヴァ書房）

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、筆記試験によって行う。

【学生の意見等からの気づき】
事前に学習支援システムに教材をアップロードする。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムおよびオンライン授業に対応できる情報端末。

【その他の重要事項】
本講義は、内容的に秋学期の比較政治論Ⅱに連続している。

【Outline (in English)】
This course aims to compare various patterns of nation-state development, focusing on democracy and capitalism.

POL200AC（政治学 / Politics 200）

比較政治論Ⅱ

新川　敏光

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
単位数：**2単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
20世紀後半以降、とりわけ福祉国家の危機、東西冷戦の終焉、グローバル化といわれる時代におきた政治経済の変化について、欧米を中心に検討する。
　なお本講義は、比較政治論Ⅰと相互補完的内容となっているので、本講義の前にⅠを受講することが望ましい。

【到達目標】
　本講義では、20世型国民国家パラダイムともいうべき福祉国家が国際システム、資本主義経済、社会構造の変化に伴い有効性を失い、国民統合の手段として再分配に代わってイデオロギーが再び大きな役割を担うようになり、その結果暴力の爆発、ポピュリズムの台頭、格差の深刻化が生じていることを概念的理論的に理解できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
講義方式による。二回目以降の講義では、前回の講義に関する質問や疑問への対応を含む、簡単なまとめを行う。また最終回では、全体に関するまとめのほか、それまでの提出物への講評も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	福祉国家の危機①	ケインズ主義に代わって経済学主流となったネオ・リベラリズムの政治的文脈を明らかにする。
第二回	福祉国家の危機②	ネオ・リベラリズム台頭の背景として、戦後の国際経済システム、「埋め込まれた自由主義」の崩壊を明らかにする。
第三回	福祉国家の危機③	豊かな社会のなかでの階級的求心力の低下と脱フォーディズムにおける労働の柔軟化について検討する。
第四回	新自由主義の現実	1980年代いち早く新自由主義政権が生まれた英サッチャー政権、米レーガン政権、日本中曽根政権を比較検討する。
第五回	グローバル化と格差社会	東西冷戦によって本格化したグローバル化の世界的影響力について検討する。
第六回	左の右旋回：「第三の道」、「新しい中道」	ネオ・リベラリズムの台頭に対する左の刷新（穏健化）について、英米独を中心に検討する。
第七回	危険社会論	個人化が進むなかで、階級社会論に代わって出てきた危険社会論のもつ射程と限界について検討する。
第八回	人口減少社会とジェンダー・ポリティクス	近代を超える新たな政治論として注目されるジェンダー論について検討する
第九回	文明の衝突	東西冷戦の終焉は、「文明の衝突」を招くというハンチントン・テーゼについて検討する
第十回	ポピュリスト・ナショナリズム：分断の政治	欧米における福祉ショービニズム、そしてポピュリスト・ナショナリズムの台頭を紹介する。
第一一回	リベラル・ナショナリズムと多文化主義	右翼ポピュリズムへの対抗基軸としての利部ある・ナショナリズムとその具体的展開として多文化主義を紹介する。
第一二回	パトリオティズム	ナショナリズムとは異なるパトリオティズムの可能性として、共和主義パトリオティズムと憲法パトリオティズムを紹介する。
第一三回	民主主義の可能性と市民社会の再生	民主主義の危機とその克服について、市民社会の再生をめざす運動から考える。
第一四回	試験	授業内試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　アップロードされた教材を参考に予習し、講義後はノートを整理し、理解が不十分な点は調べ、なお不明な点は次回質問すること。

【テキスト（教科書）】
新川敏光『政治学：概念・理論・歴史』（ミネルヴァ書房）。本書は比較政治論Ⅰにおいても用いる。

【参考書】
新川敏光『福祉国家変革の理路』（ミネルヴァ書房）
新川敏光他『政治学』（有斐閣）

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、筆記試験によって行う。

【学生の意見等からの気づき】
事前に教材を学習支援システムにアップロードします。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムおよびオンライン授業に対応できる情報端末。

【その他の重要事項】
比較政治論ⅡはⅠを前提としているので、Ⅰを履修してからのほうが理解しやすい。

【Outline (in English)】
This course aims to clarify the transformation of the 20th century paradigm of political economy by examining the crisis of the welfare state, the end of the cold war, and globalization. Taking Comparative Politics I before II is highly recommended due to their　complementarity.

POL200AC（政治学 / Politics 200）

コミュニティ政策（日本）

名和田　是彦

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政治学科の科目の中では行政・地方自治科目群に属します。「コミュニティ」及び「コミュニティ政策」とは何であるか、日本のそれはどういう特徴を持っているかを理解することが、この「コミュニティ政策（日本）」のテーマであり、到達目標です。結論から言うと、日本の「コミュニティ」は、欧米なら地方自治体等として政治制度の中に位置づけられているはずの身近な地域単位です。それが日本では長らく民間サイドに放置されてきました。高度成長期後にこうした「コミュニティ」を再び制度化する政策が試みられ、コミュニティは政治社会の構成要素となっていきました。そして、バブル経済崩壊の1990年代以降の厳しい時代においては独特な役割を期待され、また新たな法制度のもとに展開してきています。自治体内分権とか都市内分権といわれる仕組みがそれです。本講義は、都市内分権制度を中心に、日本特有の身近な地域社会の構造を解明することを目指しています。

【到達目標】
コミュニティ、自治体内分権（都市内分権）、協働といった政策用語が織りなす今日の日本のコミュニティ政策の概要と、その日本的特異性を、理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
コミュニティ政策はある意味で日本に特有なものです。それを理解するためには、日本と異なった構造をもつ国や比較的類似した国との比較の視点をもつことが不可欠です。外国の状況をそれとして扱うのは「コミュニティ政策（理論・国際比較）」の課題とし、本講義では、諸外国との比較を念頭に置きつつ、コミュニティ政策論の基礎理論を端緒的に提示し、それに基づいて日本のコミュニティとコミュニティ政策について概説します。
各回とも事前に講義資料を配付しますので、受講者は予習をして講義に臨んでください。また、講義中に受講者に投げかけをしたり議論をしたりしますので、受講者はそれに呼応して積極的に発言してください。数回程度リアクションペーパーまたは課題を提出していただきますが、それに対しては原則として次の回にコメントをいたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序説　コミュニティ政策というもの、地域的まとまりという発想	「地域的まとまり」の「重層構造」について、受講者の直感的了解を掘り起こし、講義の理論的基礎を獲得する。
第2回	自治会・町内会の構造と特質	自治会・町内会の理解抜きには日本のコミュニティは語れない。日本独自の地域組織とされる自治会・町内会の基本的な性格を、これまでの社会学等の研究に基づいて整理する。
第3回	自治会・町内会の構造と特質　続き	前回に引き続いて、自治会・町内会について整理する。
第4回	地域的まとまりを「運営」するための制度的諸条件	ミルトン・コトラーの考え方に学びながら、地域的まとまりを秩序づけるためには、どのような制度的条件が必要かを考える。そして、日本では、自治会・町内会が民間組織であるにもかかわらず、地域的まとまりを運営できてきたことを解明する。
第5回	コミュニティ政策の開始	昭和の大合併が終わったあと日本は経済の高度成長に入り、都市化の道を歩む。その結果生じた諸矛盾の激発がコミュニティ政策を促した。その最初の時期から１９７０年代の様子を概観する。
第6回	１９８０年代のコミュニティ政策とその転換	１９８０年代のコミュニティ政策はコミュニティ・センター自主管理が主柱であった。これがバブル経済の崩壊とともに変わってくる。この様子を、自治体内分権的な仕組みが登場してくることに即して明らかにすると同時に、地域集会施設の変容についても触れる。
第7回	日本型自治体内分権の成立	１９９０年代からいくつかの自治体で取組まれた新しいコミュニティ政策は、地方自治法に「地域自治区」制度が規定されるあたりからさらに加速してくる。この動きを日本型自治体内分権として捉える。
第8回	日本型自治体内分権と自治会・町内会	自治会・町内会は２０００年前後から特有の弱体化過程に入ったと私は見る。だからこそ自治体内分権という新しいコミュニティ政策が採用されるのであるが、にもかかわらずその制度が主要にあてにしているのは自治会・町内会である。そのため自治体内分権の実践には独特な困難が伴っている。このことをいくつかの実例に則して考察する。
第9回	日本型自治体内分権の類型的特徴	日本型自治体内分権は、参加と協働を基本理念とした、国際比較的に見ても特異な性格のものである。その類型的完成形を高松市の仕組みを分析することによって解明する。
第10回	日本型自治体内分権制度としての地域自治区制度の運用	地方自治法上の地域自治区制度を採用している自治体は多くないが、日本型自治体内分権としての特徴をよく観察できる重要な考察対象である。宮崎市を例にとって、日本型自治体内分権の「限界」について考察する。
第11回	日本型自治体内分権の事例研究	さらに考察材料を増やすために、どちらかといえば「参加」を重視して始まった上越市の地域自治区制度の運用とその変化を扱う。さらに、地域自治区制度ではない、独自の仕組みを設計して自治体内分権制度を行っている自治体の例も取り上げる。
第12回	日本型自治体内分権の限界と可能性	各地の事例を通じて読み取れる、日本型自治体内分権の限界を整理し、現在諸方面で構想されたり試行されたりしている限界突破の構想を吟味する。

第13回	現代日本のコミュニティ政策の総体的動向	以上を総括しつつ、現代日本の政策においてコミュニティがどのように見られ扱われているかを整理する。
第14回	現代コミュニティの展望	財政危機と不況の中で格差が拡大している。この状況のもとでコミュニティはどのような役割を果たせるのか、総務省や日本都市センターなどが行った全国調査をもとに私見を述べ、受講者と意見交換したい。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義資料を事前に配布し、これに基づいて講義を行いますので、受講者はこれを予習・復習することが基本です。さらに、講義中に参考文献を紹介しますので、これも読んで学習してください。また、課題を何度か出すことを予定していますので、その際には、単に講義資料の該当箇所を復習するだけではなく、課題を解答するに必要な資料を自ら探して調べることも求められます。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に使用しません。

【参考書】
講義の各回に扱うテーマについての文献はその都度示しますが、全体に関わる私の著作として次のものを挙げておきます。特に三つ目のものは、一般向けのブックレットですから、入門書として薦められます。
名和田是彦『コミュニティの法理論』（創文社、1998年）
名和田是彦編著『コミュニティの自治』（日本評論社、2009年）
名和田是彦『自治会・町内会と都市内分権を考える』（東信堂、2021年）

【成績評価の方法と基準】
成績は、何度か（２回または３回を予定）出題する課題と期末の試験によって判定します。課題の採点に当たっては、内容の正しさよりも、課題を受け止めてよく調べよく考えたかどうかを重視して採点します。社会科学においては、正解が複数ある、あるいは正解がはっきりしない、という場合もよくあります。どこかにある「正解」なるものを探す、という学習態度では身につきません。
成績判定に占める比重は、課題が全体で30％、期末の試験が70％と想定しています。

【学生の意見等からの気づき】
コロナ禍の間はほとんどオンライン授業であったため、頻繁に課題を出して、かつこれを採点するのみならず、次回授業で論評するという双方向的なやりとりがあり、私も多くを学ぶことができました。説明の仕方、提示の仕方によって思わぬ誤解が生じたりすることにも気づきました。今年度の講義資料は、これを生かしてブラッシュアップしたいと思います。課題を見ていると、学期中にグッと力をつけてくる受講者が何人かいて、励みになります。

【Outline (in English)】
I start in this lecture from the theoretical idea that the "community" in the context of Japanese policy making means the neighborhood unit which lost its institutional framework through the merge. I will analyze the history and the recent tendency of Japanese community policy, paying special attention to international comparison with those in European, American and Asian countries, especially Germany.
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end examination: 70%、Short reports : 30%.

POL200AC（政治学 / Politics 200）

コミュニティ政策（理論・国際比較）

名和田　是彦

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政治学科の科目の中で、行政・地方自治科目群に属する科目です。コミュニティないしコミュニティ政策は、ある意味で日本特有の現象といえます。諸外国は，日本でコミュニティ政策として処理している課題を、別な形で処理しているからです。この「コミュニティ政策（理論・国際比較）」では、諸外国（特にドイツ）との比較を正面から行なうことによって、日本でコミュニティ政策が必然化してくることを明らかにできる、普遍的な理論枠組を提示したいと思います。

【到達目標】
日本のコミュニティ政策の概略を理解した上で、こうした政策的営みが国際的に見てきわめて特異なものであることを理解し、日本社会の特異な構造の一側面を考えることができるようになること。
具体的には、近代地方自治制度のもとでは、市町村こそがコミュニティを運営する基本的な仕組みであることの理解、市町村合併を経たのちコミュニティにどのような制度的枠組を付与するかで国際比較的な偏差が生ずることの理解、その中で日本はきわめて特異な経過をたどったことの理解、こうした理解を可能にする理論枠組である「地域的まとまり論」の理解、が到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
基本的に講義形式ですが、時折受講者からの発言を求め、受講者の問題意識を共有したり、理解度や知識水準を確認したりして、授業内容を受講者の能力とニーズに合ったものにするように努めます。また、配布資料を充実し、事前事後の学習に役立つようにします。数回程度リアクションペーパーや課題を提出していただきますが、それに対しては原則としてその次の回にコメントをいたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	地域的まとまり論の概略と	国民国家の中央政府の機能だけでは、民主的な意思決定とはいえないし、身近な公共サービスもきちんと行なわれない。身近な地域社会（本講義ではこれを「コミュニティ」とよぶ）にも運営組織が必要である。それが市町村であった。その制度的特徴はどこにあるかを考えて導入的序論とする。春学期の「コミュニティ政策(日本)」の復習でもある。
第2回	日本のコミュニティ政策	春学期の「コミュニティ政策(日本)」では扱うことのできなかったコミュニティ政策の分野、特に試飲活動支援、コミュニティセンター自主管理、都市計画分野のコミュニティ分権などについて、概説し、日本のコミュニティ政策の特質を確認する。
第3回	ドイツの政治制度と地域コミュニティ	本講義ではドイツを主要な対象としているので、ドイツの政治制度や地域社会について入門的概説を行う。
第4回	ドイツの都市内分権制度　その1　ブレーメンの戦後史と都市内分権制度の発展	しばらくドイツの都市内分権制度について説明する回が続く。その初回として、ブレーメン市の都市内分権の歴史的経緯を扱う。
第5回	ドイツの都市内分権制度　その2　ブレーメン市の地域評議会制度の実態と仕組み	ブレーメン市の都市内分権制度の実態をまずは入門的に概観し、ついで法令に基づいて制度的仕組みの説明を行う。
第6回	ドイツの都市内分権制度　その3　ブレーメン市の地域評議会制度の仕組み	現行法令に基づき、ブレーメン市の都市内分権制度を、前回に引き続き、説明する。
第7回	ドイツの都市内分権制度　その4　ブレーメン市地域評議会制度の実態分析	制度的な仕組みが理解されたところで、ブレーメン市の都市内分権の実態を細かく分析していく。
第8回	ドイツの都市内分権制度　その5　ノルトライン＝ヴェストファーレン州とハンブルク市	ブレーメン市以外の事例として、ドルトムント市ないしノルトライン＝ヴェストファーレン州及びハンブルク市の仕組みを説明する。
第9回	ドイツの農村部における小規模自治体連携制度　その1　概説	市町村合併を経ても、きめ細かな自治の重層構造をつくり、身近な地域社会を制度化して丁寧に政治に反映させるドイツのやり方は、都市部に限らない。今回は農村部の仕組みを見る。
第10回	ドイツの農村部における小規模自治体連携制度　その2　ニーダーザクセン州の「連合自治体」制度	前回に引き続き、ドイツの農村部の仕組みを見るが、今度はニーダーザクセン州にしぼり、その「連合自治体」制度を詳しく説明する。
第11回	都市内分権制度の法的性格をめぐる憲法裁判から	考察の材料が出そろったところで、理論的考察に入る。まずは、都市内分権制度をめぐって行われたドイツの四つの憲法裁判を手がかりとする。
第12回	ドイツの「協働」政策とボランティア観念	ドイツの都市内分権は基本的に「参加」型で、日本の「協働」型とは好対照であるが、現代ドイツは「協働」的な政策を必要としていないわけではない。ドイツの「市民社会」重視政策を見る。
第13回	ギールケとプロイスの「領域社団」論	本講義が提唱している「地域的まとまり」論は、ドイツのゲルマニスト法学派が提唱した「領域社団」概念を淵源としている。その源流をたどる。
第14回	マックス・ヴェーバーの「領域団体」論と地域的まとまり論の理論構成	ギールケとプロイスによって完成された「領域社団」概念を、社会科学的な分析概念として再構成したマックス・ヴェーバーの理論を説明し、これらの理論史を踏まえ、また自治会・町内会という独自の「領域団体」が展開する日本の現実をも踏まえて、「地域的まとまり論」の基本骨格を提示する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回事前に学習支援システムを通じて講義資料を配付します。これの予習・復習が基本です。また講義の中で参考文献や参考資料を提示しますので、それも勉強してください。課題が出された場合には、講義資料の該当箇所を復習することを基本としながらも、自分で資料を探して調べることも必要です。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に使用しません。

【参考書】
講義の各回に扱うテーマについての文献はその都度示しますが、全体に関わる私の著作として次のものを挙げておきます。
名和田是彦『自治会・町内会と都市内分権を考える』(東信堂、2021年)
名和田是彦『コミュニティの法理論』(創文社)
名和田是彦編著『コミュニティの自治』(日本評論社)
特に最後のものは、共同研究者とともに作った本で、欧米やアジアのコミュニティについても論じています。やや高価ですが図書館で読むことができます。

【成績評価の方法と基準】
課題(2回を予定)を出し、それを採点すること、及び期末に試験を行なうことによって、成績評価を行なう予定です。成績評価における比重は、課題が30%、期末試験が70%と予定しています。
上記のように、課題への解答に当たっては、該当する講義資料の箇所を十分に復習することはもちろん、参考として提示した資料や文献、さらには独自に探して調べた資料などをもとに、取り組んでください。「正解」かどうかよりも、各自が主張する結果にどのようにたどり着いたか、その論証過程が主たる評価の対象となります。社会科学においては、「正解」が複数あったり、そもそも「正解」が不分明だったりすることが、よくあります。大切なのは、そうした問題について、各自が十分に調べて考え抜き、説得力ある論証を提示することです。
な

【学生の意見等からの気づき】
コロナ禍のあいだはほぼオンライン授業で、講義資料も充実させ、また頻繁に課題を出して次の回に論評するということをやったので、受講者の反応も比較的よく分かりました。提示の仕方や話す順序によって思わぬ誤解が生ずるなど、気をつけるべき点にも気づきました。今年度も、双方向のコミュニケーションを大切にしたいと思います。また、学期中にグッと力をつけてくるのがわかる受講者も何人かおり、励みになります。

【Outline (in English)】
I start in this lecture from the theoretical idea that the "community" in the context of Japanese policy making means the neighborhood unit which lost its institutional framework through the merge. In this lecture I focus on an international comparison of Japanese community policy with that in European, American and Asian countries, especially Germany so that students can understand the characteristics of the Japanese community policy as well as the Japanese society itself.
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end examination: 70%、Short reports : 30%.

LAW200AB（法学 / law 200）

憲法Ⅳ

國分　典子

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
単位数：**2単位**
備考（履修条件等）：**クラス指定科目　※法律2年H-N・法律3〜4年（他学科他学部はクラス指定なし）**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「行政・公共政策と法」コースに位置づけられる科目として、日本国憲法のトピックのうち、違憲審査制、安全保障、財政などの論点について講義を行います。授業では、比較憲法的な視点も踏まえながら、近代立憲主義とその現代的変容という視点から、日本国憲法がどのような民主主義および立憲主義のあり方を想定しているのかをを学んでいきます。

【到達目標】
日本国憲法における違憲審査制、安全保障の問題、憲法保障、財政に関する論点を理解するようにします。またそれらを通じて、現代日本における政治的な問題について法的視点から考え、判断できる能力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】
本授業は講義形式で行います。レジュメと資料を適宜配布し、レジュメに沿って進行します。
学期中に２回ほど○×式の理解度確認テストを学習支援システム上で行い、フィードバックも同システム上で行う予定です。質問は授業の際も受け付けますが、個別にメールでも随時受け付け、メールでお答えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスと違憲審査制（１）	違憲審査制の歴史と諸類型
2	違憲審査制（２）	憲法訴訟の基礎
3	違憲審査制（３）	憲法判断の方法
4	違憲審査制（４）	判例の展開
5	違憲審査制（５）	違憲審査の基準論とその問題
6	これまでのまとめ	違憲審査についてのまとめ
7	安全保障（１）	日本国憲法の想定する平和と安全
8	安全保障（２）	安全保障を巡る変化と政府見解
9	安全保障（３）	安全保障を巡る現代的課題と憲法
10	安全保障（４）	判例の分析
11	財政（１）	財政民主主義
12	財政（２）	財政に関する憲法的論点
13	憲法保障	国家緊急権と抵抗権
14	民主主義と立憲主義	民主主義論からみた本授業のトピックの意味

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業に関連する参考書、判例などを事前に読み、授業に臨むようにします。また授業後は、配布されたレジュメや資料を読み直し、理解不十分だった事項については自ら調べるようにします。
新聞その他のメディアにおける政治問題や社会問題に関心をもって、憲法の観点から考えてみます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
六法（特に出版社の指定はない）。

【参考書】
憲法の基本書といわれるものには、
芦部信喜（高橋和之補訂）『憲法』第8版（岩波書店、2023年）
佐藤幸治『日本国憲法論』第2版（成文堂、2020年）
などをはじめとしてさまざまなものがあります。適宜、使いやすいものを選んで頂ければと思いますが、使いやすそうなものをいくつか挙げておきます。
〈入門的なもの〉
中村 睦男・佐々木 雅寿・寺島 壽一 編『はじめての憲法学』第4版（三省堂、2021年）
〈標準的なもの〉
新井誠・曽我部真裕・佐々木くみ・横大道聡『憲法１　総論・統治』『憲法２　人権』（日評ベーシックシリーズ）第2版（日本評論社、2021年）
〈発展的なもの〉
毛利透・小泉良幸・淺野博宣・松本哲治『憲法Ⅰ　総論・統治』『憲法Ⅱ　人権』（LEGAL QUESTシリーズ）第3版（有斐閣、2022年）
また判例集として、
長谷部恭男・石川健治・宍戸常寿編『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ』第７版（有斐閣、2019年）
やコンパクトなものとして、
小泉良幸・松本哲治・横大道聡編『憲法判例コレクション』（有斐閣、2021年）
などがあります。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（80％）及び2回の理解度確認テスト（20％）により評価する予定です。なお、期末試験は定期試験期間外に行う可能性があります。

【学生の意見等からの気づき】
時間配分に留意したい。また違憲審査論についての説明がわかりにくくなりがちなので、できるだけ平易な説明を工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】
毎回のレジュメや資料は学習支援システム上にアップし、理解度確認テストも学習支援システム上で行う予定です。

【Outline (in English)】
(Course Outline)
This course will focus mainly on the issues of the constitutional review system, the fiscal system, and the national security under the Constitution of Japan.
(Learning Objectives)
At the end of the course, students are expected to develop the ability to think and judge political issues in Japan from a legal perspective
(Learning Activities outside of Classroom)
Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
(Grading Criteria)
Final grade will be calculated according to the following process: mid-term examinations (20%) and term-end examination (80%).

LAW200AB（法学 / law 200）

憲法Ⅲ

國分　典子

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
単位数：**2単位**
備考（履修条件等）：**クラス指定科目　※法律2年H-N・法律3〜4年（他学科他学部はクラス指定なし）**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、「行政・公共政策と法」コースに位置づけられるものとして、憲法の統治機構の諸問題を扱います。立法、行政、司法という水平的権力分立と中央と地方という垂直的権力分立の二つの側面から、日本の統治機構のあり方を勉強します。また、立憲主義の発展過程の中で権力分立制がどのように展開されてきたか、さらにそれが民主主義論とどのように結びついているのかを比較法的な視点も踏まえて考察します。

【到達目標】
日本国憲法における権力分立制のあり方を通し、民主主義と立憲主義の関係を理解することが目標です。具体的には、国会、内閣、裁判所、地方自治に関する憲法上のトピックを学び、統治機構の枠組とその現代的変化の状況を把握することを目指します。また振り返って権力分立制がなぜ必要なのか、日本の政治社会の動向の中で統治のしくみがどうあるべきなのかを自ら考えてゆく力を身につけることをも目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】
本授業は講義形式で行います。レジュメや資料を適宜配布し、レジュメに沿って進行します。
学期中に２回ほど○×式の理解度確認テストを学習支援システム上で行い、フィードバックも同システム上で行う予定です。質問は個別にメールでも随時受け付け、メールでお答えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスと本講義の序論	授業の進め方について 権力分立制の歴史的展開と現代的変化
2	権力分立	日本国憲法における権力分立制の枠組と日本国憲法下の天皇制の位置づけ
3	国民主権	国民主権の意味
4	選挙	日本国憲法下の選挙制度とその諸問題
5	国会（１）	国会の権限と活動
6	国会（２）	国会議員の地位
7	内閣（１）	日本国憲法における議院内閣制と内閣の権限を巡る諸問題
8	内閣（２）	総理大臣の地位と権限
9	これまでのまとめ	日本の議院内閣制の比較法的位置づけ
10	裁判所（１）	司法の機能
11	裁判所（２）	司法権の限界
12	裁判所（３）	裁判所の組織と司法権の独立
13	地方自治	地方自治を巡る諸問題
14	これまでのまとめ	後半のまとめと全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で挙げる参考書を事前に読んで授業に臨みます。また授業後は、配布されたレジュメや資料を読み直し、関連判例などを自分で調べるようにします。
新聞その他のメディアにおける政治問題に関心をもって、憲法との関連で考えてみるようにします。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
六法（出版社は指定しないので、使いやすいものを選ぶこと。）

【参考書】
憲法の基本書といわれるものには、
芦部信喜（高橋和之補訂）『憲法』第8版（岩波書店、2023年）
佐藤幸治『日本国憲法論』第2版（成文堂、2020年）
などをはじめとしてさまざまなものがあります。適宜、使いやすいものを選んで頂ければと思いますが、使いやすそうなものをいくつか挙げておきます。
〈入門的なもの〉
中村 睦男・佐々木 雅寿・寺島 壽一 編『はじめての憲法学』第4版（三省堂、2021年）
〈標準的なもの〉
新井誠・曽我部真裕・佐々木くみ・横大道聡『憲法１　総論・統治』『憲法２　人権』（日評ベーシックシリーズ）第2版（日本評論社、2021年）
〈発展的なもの〉
毛利透・小泉良幸・淺野博宣・松本哲治『憲法Ⅰ　総論・統治』『憲法Ⅱ　人権』（LEGAL QUESTシリーズ）第3版（有斐閣、2022年）
また判例集として、
長谷部恭男・石川健治・宍戸常寿編『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ』第７版（有斐閣、2019年）
やコンパクトなものとして、
小泉良幸・松本哲治・横大道聡編『憲法判例コレクション』（有斐閣、2021年）
などがあります。

【成績評価の方法と基準】
定期試験（80％）及び理解度確認テスト（20％）により評価する予定です。

【学生の意見等からの気づき】
もう少し時事的な内容を加味して授業をできるように工夫したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
レジュメ等の資料は学習支援システムにアップしますので、あらかじめダウンロードして授業に臨んでください。

【Outline (in English)】
This lecture will focus on the issues of government institutions in terms of comparative perspectives of constitution.
At the end of the course, students are expected to understand the relationship between democracy and Constitutionalism.
Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Final grade will be calculated according to the following process: mid-term examinations (20%) and term-end examination (80%).

POL100AD（政治学 / Politics 100）

戦後国際関係史

宮下　雄一郎

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
単位数：**2単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目は、第二次世界大戦後から現在に至るまでの国際関係史を学ぶ授業です。冷戦前半（冷戦の勃発から激化）、冷戦後半（緊張緩和から「新冷戦」へ）、冷戦終結後という3つの時期について、異なる地域を専門とする4人の教員が順番に講義を行い、国際関係の歴史を多面的に説明します。この授業を通じて、受講生は、国際問題を様々な角度から理解する力を身につけることを目指します。

【到達目標】
（1）現代の国際問題の起源にどのような歴史的背景があるのかを説明できる
（2）国際関係の重要な事件について、異なる立場から多角的に論じることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】
この授業は講義形式で行います。冷戦前半、冷戦後半、冷戦終結後という3つの時期について、アメリカ（手賀裕輔）、ソ連・ロシア（熊倉潤）、欧州（宮下雄一郎）、アジア（福田円）、という4人の教員が、それぞれの専門の視点から順に講義をします。関連教材は、学習支援システムを通じて事前に配布される予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の進め方、参考文献、評価方法などについての説明
2	冷戦の勃発と激化（1）	アメリカの視点からの講義
3	冷戦の勃発と激化（2）	ソ連の視点からの講義
4	冷戦の勃発と激化（3）	欧州の視点からの講義
5	冷戦の勃発と激化（4）	アジアの視点からの講義
6	緊張緩和から「新冷戦」へ（1）	アメリカの視点からの講義
7	緊張緩和から「新冷戦」へ（2）	ソ連の視点からの講義
8	緊張緩和から「新冷戦」へ（3）	欧州の視点からの講義
9	緊張緩和から「新冷戦」へ（4）	アジアの視点からの講義
10	冷戦終結後の世界の変容（1）	アメリカの視点からの講義
11	冷戦終結後の世界の変容（2）	ソ連の視点からの講義
12	冷戦終結後の世界の変容（3）	欧州の視点からの講義
13	冷戦終結後の世界の変容（4）	アジアの視点からの講義
14	今学期のまとめ	担当教員による総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。

【参考書】
モーリス・ヴァイス（細谷雄一、宮下雄一郎監訳）『戦後国際関係史: 二極化世界から混迷の時代へ』慶應義塾大学出版会、2018年。
小川浩之、板橋拓己、青野利彦『国際政治史：主権国家体系のあゆみ』有斐閣、2018年。
有賀貞『現代国際関係史　1945年から21世紀初頭まで』東京大学出版会、2019年
森聡・福田円編『入門講義　戦後国際政治史』慶應義塾大学出版会、2022年
青野利彦『冷戦史（上・下）』中公新書、2023年

【成績評価の方法と基準】
期末試験によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】
担当する各講義の間に一定の期間があるため、連続性に留意して授業を行う。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません

【Outline (in English)】
(Course outline and objectives)
This course covers the history of international relations after WWII. Four teachers give lectures from different regional perspectives so that students will acquire comprehensive knowledge of international history.
(Learning activities outside of the classroom)
Students should expect to spend an additional four hours before/after the lecture class engaged in reading, review, and writing activities.
(Grading Criteria/Policy)
Grading will be decided based on the term-end examination(100%).

POL100AD（政治学 / Politics 100）

グローバル・ガバナンス

本多　美樹

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
グローバル・ガバナンスの概念は比較的新しく、その概念をめぐっては議論が続いている。しかし、実際の国際社会では、開発援助の分野においてだけでなく、さまざまな地球規模の問題領域に応用されている概念である。この講義の目的は、グローバル・ガバナンスの基本的な知識を理論と実践の両方において身に付けることにある。まず、グローバル・ガバナンスの概念の登場と発展について整理したのち、グローバル・ガバナンスのおもな担い手である国連による実践例として、人権ガバナンス、地球環境ガバナンス、安全保障におけるガバナンス、ガバナンスを支える規範や価値、視座などを取り上げる。その際、ガバナンスが形成されてきた分野、ガバナンスに参加する行為主体（アクター）、ガバナンスのしくみと実践の手段に注目する。そして、各グローバル・ガバナンスの有効性と限界、課題について考える。

【到達目標】
・理論と実践の両方において、「グローバル・ガバナンス」に関する基本的な知識を身に付ける。
・「グローバル・ガバナンス」の有効性、限界、課題について自分なりの考えをもつ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業は講義を中心に進める。毎回の授業後に課題の提出を求める。毎回授業の初めに、前回の授業後に提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
授業に出席する前に支援システムにアップされたスライドに目を通し、授業後には復習をすること。また、関心を持ったトピックについては、各自で調べ学習をして理解を深めること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、グローバリゼーションとグローバル・ガバナンス	授業の目的と進め方、グローバリゼーションとは？
2	ガバナンスの概念の登場と発展	ガバナンス概念の登場と発展
3	ガバナンス形成に有効な分析概念	国際規範、価値、視座とは？
4	ガバナンスの実践①　国際開発援助分野（1）	開発ガバナンスI
5	ガバナンスの実践②　国際開発援助分野（2）	開発ガバナンスII
6	ガバナンスの実践③　人権分野（1）	人権ガバナンスI
7	ガバナンスの実践④　人権分野（2）	人権ガバナンスII
8	ガバナンスの実践⑤　地球環境分野（1）	環境ガバナンスI
9	ガバナンスの実践⑥　地球環境分野（2）	環境ガバナンスII
10	ガバナンスの実践⑦　保健衛生分野	グローバルヘルス/感染症ガバナンス
11	ガバナンスの実践⑧　人の移動をめぐるガバナンス	人の移動をめぐるガバナンス
12	ガバナンスの実践⑨　安全保障分野（1）	集団安全保障体制
13	ガバナンスの実践⑩　安全保障分野（2）	軍縮ガバナンスI（大量破壊兵器）
14	ガバナンスの実践⑪　安全保障分野（3）/まとめ	軍縮ガバナンスII（通常兵器）/ガバナンスの有効性、限界、課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日々のニュースをフォローするなど国際社会での出来事に関心を寄せること。授業前には配布資料を読み、授業後には復習を行うこと。関連するセミナーなどへの参加も望ましい。授業の準備・復習を2時間程度行うことが望ましい。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。PPTおよび関連資料は毎回事前に学習支援システムで配布する。

【参考書】
・石田淳ほか編著『国際平和論：脅威の認識と対応の模索』有斐閣、2024年。
・山田哲也『国際機構論入門』（第2版）東京大学出版会、2023年。
・山田満ほか編著『新しい国際協力論－グローバル・イシューに立ち向かう』（第3版）明石書店、2023年。
・内田孟男編著『地球社会の変容とガバナンス』中央大学出版部、2010年。
・村田晃嗣・君塚直孝ほか『国際政治学をつかむ　新版』有斐閣、2015 年。
・世界地図。
・Stiglitz, Josef E. and Mary Kaldor eds., The Quest for Security: Protection without Protectionism and Challenge of Global Governance, Columbia University Press, 2013.
その他、各回の関連文献・資料については、授業の際に随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業後の課題提出状況と課題の内容40％、期末試験60％のウエイトで成績評価をする。
＊遅刻は20分までとし、それ以降の入室は欠席と見なす。
＊4回以上課題の提出を怠った学生は期末試験を受ける資格を失う。よって単位の授与はない。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
レジュメと配布資料、パワーポイントや資料映像を使用する。

【その他の重要事項】
日々国際社会で起きる出来事に関心を持ち、関連文献を積極的に読むこと。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
国際関係論、国際機構論、安全保障研究、国連研究
＜研究テーマ＞
国際社会による平和のための協働と確執、アジア太平洋地域の伝統的・非伝統的安全保障
＜主要研究業績＞

主な近著として、「経済制裁は平和のために有効か」石田淳ほか編著『国際平和論―脅威の認識と対応の模索』（有斐閣、2024年）121-141頁；"Japan: COVID-19 and the Vulnerable," M. Caballero-Anthony and N. M. Morada (eds,.), Covid-19 and Atrocity Prevention in East Asia (Routledge, 2022) pp.136-156；『「非伝統的安全保障」によるアジアの平和構築：共通の危機・脅威に向けた国際協力は可能か』（明石書店、2021年）；Miki Honda, "'Smart Sanctions' by the UN and financial sanctions," Sachiko Yoshimura ed., United Nations Financial Sanctions(Routledge, 2021)pp. 18-33；「平和構築の新たな潮流と『人間の安全保障』：ジェンダー視座の導入に注目して」『東南アジアの紛争予防と「人間の安全保障」』（明石書店、2016年）などがある。

【Outline (in English)】

The international community faces diversified transnational issues such as poverty, refugees, human rights abuse, organized crimes, financial crisis and so on. Who can control such global issues? These issues cannot be understood within the nation-centered narratives anymore. This course provides students with opportunities to become acquainted with "global issues" and learn that diversified international actors have made efforts to tackle with these issues. Students are expected to know that states, businesses, NGOs and other entities can make contributions to the settlement of these issues in cooperation with each other, and with regional and international institutions. These efforts and social movements by the diversified actors are called "global governance." Students will understand how the international community tries to formulate, maintain, and manage "global governance" today. Students are expected to know realities of global governance and challenges in the international society.

POL200AC（政治学 / Politics 200）

ヨーロッパ政治史Ⅰ

網谷　龍介

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
単位数：**2単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業は，近現代ヨーロッパの歴史を政治発展という視角から鳥瞰するものである（したがってミクロな歴史過程を講じるものではない）．
　政治の世界は，個人の創発的行為と集合的に形成されたパターンの双方から織り成されている．しかもその「パターン」は一様ではなく，時代・社会毎に異なっている．
　そこで，政治現象の理解には，ある社会の事例を他の社会との比較の中におくとともに，その事例を歴史的な文脈に位置付けて理解することが重要となる．この作業をヨーロッパを題材として行うのが，この授業の内容である．
　学生はこの授業を通じて，特定の国（たとえば日本）の現在の政治を理解するために必要な背景となる知識と，政治の多様性についての認識を獲得することができる．

【到達目標】
・ヨーロッパの政治発展における共通の課題・趨勢の概略を理解する
・各社会の対応のヴァリエーションを類型化しながら理解する
・ヨーロッパの政治発展を題材としてうまれてきた比較政治学上の鍵概念を理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
　講義により行う．学生は概ね2回につき1通の予習課題を提出する．予習課題を基礎として，授業時間中には理解が不足している部分の補足や，発展的内容を中心に講じる．毎回リアクションペイパーを実施し，理解度を確認しながら進めていく．
　リアクションペイパーや予習課題を通じて提示された質問や意見に対しては，リプライを配布するほか，重要なものについて授業中に応答を行う．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	内容の導入を行うとともに，授業の前提としてヨーロッパに成立した「国民国家」という枠組について説明する．
2	自由主義的議会政治	19世紀のヨーロッパ政治を概観し，そこにおける中心的な理念としての自由主義と，それを基礎とする議会政治の枠組みについて説明する．
3	民主主義の挑戦	20世紀に入って選挙権がすべての成人（男子）に拡大されたことで，19世紀の政治モデルがどのような困難に直面し，どのような解決が模索されたか，概観する．
4	オランダ・ベルギー(1)	オランダやベルギーの政治発展を，「柱」という観点から検討する．
5	オランダ・ベルギー(2)	オランダやベルギーの政治発展を，「多極共存型デモクラシー」という観点から検討する．
6	北欧諸国(1)	北欧諸国の政治発展を，「社会的亀裂」という観点をから検討する．
7	北欧諸国(2)	北欧諸国の政治発展を，「福祉国家」という観点から検討する．
8	レビュー・セッション(1)	これまでの内容をまとめるとともに，補足的内容を講じる．
9	ドイツ(1)	ドイツの政治発展を「民主主義の崩壊」という観点から検討する．
10	ドイツ(2)	ドイツの政治発展を「連邦制」という観点から検討する．
11	イギリス(1)	イギリスの政治発展を「近世的政治制度の漸進的拡張」という観点から検討する．
12	イギリス(2)	イギリスの政治発展を「戦後コンセンサス」と「サッチャリズム」という観点から検討する．
13	レビュー・セッション(2)	これまでの内容をまとめるとともに，補足的内容を講じる．
14	全体のまとめ	授業全体を総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　予習課題提出回については，テキストの事前に指定された部分を読み，要約やコメントを提出する．授業終了後は内容を復習しコメントペイパーや小テストに備える．事前学習・復習をあわせて授業時間外学習は各回概ね4時間を標準とする．

【テキスト（教科書）】
網谷龍介・伊藤武・成廣孝『ヨーロッパのデモクラシー 改訂第2版』ナカニシヤ出版，2014年．

【参考書】
マーク・マゾワー『暗黒の大陸』未来社，2015年．
篠原一『ヨーロッパの政治』東京大学出版会，1986年．
馬場康雄・平島健司編『ヨーロッパ政治ハンドブック 第2版』東京大学出版会，2010年．
中山洋平・水島治郎『改訂版 ヨーロッパ政治史』放送大学教育振興会，2024年．

【成績評価の方法と基準】
授業前提出課題34%：A4で1ページ程度の予習課題を提出．テキストの指定部分について内容のまとめとコメント・疑問を記載する．内容を自分で理解しようとしているか，疑問やコメントが適切に記載されているかを評価する．
授業内課題26%：主にリアクション・ペイパー．授業内容についての理解度を確認する．
学期末試験40%：全体としての講義の理解度と到達目標の達成度を確認する．

【学生の意見等からの気づき】
　特になし

【Outline (in English)】
This course gives an overview of European political history from the perspective of "Political Development" leading to democratic regimes.
"Politics" of a given society in a given era is moulded by the collective patterns of political behaviour and creative and path-breaking action of a person. We focus on those patterns, which has been forged historically and takes different forms in various societies. For that reason, it is important to take comparative and historical approach to understand "politics" in a given setting. Therefore, the course is concentrated on the European cases but has further implication to understand democratization pathways.

POL200AC（政治学 / Politics 200）

ヨーロッパ政治史Ⅱ

網谷　龍介

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
単位数：**2単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は，近現代ヨーロッパの歴史を政治発展という視角から鳥瞰するものである（したがってミクロな歴史過程を講じるものではない）．

政治の世界は，個人の創発的行為と集合的に形成されたパターンの双方から織り成されている．しかもその「パターン」は一様ではなく，時代・社会毎に異なっている．

そこで，政治現象の理解には，ある社会の事例を他の社会との比較の中におくとともに，その事例を歴史的な文脈に位置付けて理解することが重要となる．この作業をヨーロッパを題材として行うのが，この授業の内容である．

学生はこの授業を通じて，特定の国（たとえば日本）の現在の政治を理解するために必要な背景となる知識と，政治の多様性についての認識を獲得することができる．

【到達目標】

・ヨーロッパの政治発展における共通の課題・趨勢の概略を理解する
・各社会の対応のヴァリエーションを類型化しながら理解する
・ヨーロッパの政治発展を題材としてうまれてきた比較政治学上の鍵概念を理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義により行う．学生は概ね2回につき1通の予習課題を提出する．予習課題を基礎として，授業時間中には理解が不足している部分の補足や，発展的内容を中心に講じる．毎回リアクションペイパーを実施し，理解度を確認しながら進めていく．

リアクションペイパーや予習課題を通じて提示された質問や意見に対しては，リプライを配布するほか，重要なものについて授業中に応答を行う．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	内容の導入を行う．
2	戦後ヨーロッパの政治変動	第二次大戦後のヨーロッパ政治と，そこにおける政治変動の「波」を概観する．
3	デモクラシーの変容から融解へ？	戦後ヨーロッパ型のデモクラシーがどのように変容してきたかを概観する．
4	フランス(1)	フランスの政治発展を，「議会主権体制」という観点から検討する．
5	フランス(2)	フランスの政治発展を，「半大統領制」という観点から検討する．
6	イタリア(1)	イタリアの政治発展を，「自由主義と政治的クライエンテリズム」という観点をから検討する．
7	イタリア(2)	イタリアの政治発展を，「政権選択型デモクラシーの創出」という観点から検討する．
8	レビュー・セッション(1)	これまでの内容をまとめるとともに，補足的内容を講じる．
9	南欧諸国(1)	スペイン・ポルトガルの政治発展を「権威主義体制」という観点から検討する．
10	南欧諸国(2)	スペイン・ポルトガルの政治発展を「民主制への移行」という観点から検討する．
11	中欧諸国(1)	中欧諸国の政治発展を「社会主義体制からの体制変動」という観点から検討する．
12	中欧諸国(2)	中欧諸国の政治発展を「民主制の定着」という観点から検討する．
13	レビュー・セッション(2)	これまでの内容をまとめるとともに，補足的内容を講じる．
14	全体のまとめ	授業全体を総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習課題提出回については，テキストの事前に指定された部分を読み，要約やコメントを提出する．授業終了後は内容を復習しコメントペイパーや小テストに備える．事前学習・復習をあわせて授業時間外学習は各回概ね4時間を標準とする．

【テキスト（教科書）】

網谷龍介・伊藤武・成廣孝『ヨーロッパのデモクラシー 改訂第2版』ナカニシヤ出版，2014年．

【参考書】

マーク・マゾワー『暗黒の大陸』未来社，2015年．
篠原一『ヨーロッパの政治』東京大学出版会，1986年．
馬場康雄・平島健司編『ヨーロッパ政治ハンドブック 第2版』東京大学出版会，2010年．
中山洋平・水島治郎『改訂版 ヨーロッパ政治史』放送大学教育振興会，2024年．

【成績評価の方法と基準】

授業前提出課題34%：A4で1ページ程度の予習課題を提出．テキストの指定部分について内容のまとめとコメント・疑問を記載する．内容を自分で理解しようとしているか，疑問やコメントが適切に記載されているかを評価する．
授業内課題26%：小テスト，リアクション・ペイパーなどを実施する．授業内容についての理解度を確認する．
学期末試験40%：全体としての講義の理解度と到達目標の達成度を確認する．

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

This course gives an overview of European political history from the perspective of "Political Development" leading to democratic regimes.
"Politics" of a given society in a given era is moulded by the collective patterns of political behaviour and creative and path-breaking action of a person. We focus on those patterns, which has been forged historically and takes different forms in various societies. For that reason, it is important to take comparative and historical approach to understand "politics" in a given setting. Therefore, the course is concentrated on the European cases but has further implication to understand democratization pathways.

POL200AC（政治学 / Politics 200）

アメリカ政治史Ⅰ

中野　勝郎

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目は「歴史・思想」の科目群に属する科目です。アメリカ合衆国を理解するための前提について検討します。

【到達目標】
アメリカ合衆国を理解するのに必要な視点を構築することをめざします。
アメリカ合衆国は、理解することがむずかしい国です。この授業によって、「アメリカ合衆国とはなにか」という問いにたいする答えを出すことはできないと思いますが、その問いに答えるための補助線を身につけることはできると思います。
また、このような作業をとおして、日本に住むあなたたちが、自分たちの国や社会について思いを巡らせ、「自分たちは何者であるのか」を考える視点を築くための材料を得ることも、この授業の目的です。
The goal of this course is to enhance your understanding of how the U.S.has become what it is now.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
基本的には、教室での講義形式の授業をおこないます。
授業にかんする情報も、すべて、HOPPIIにアップします。
受講者は、毎回、質問・コメントなどがあれば、HOPPIIにアップしてください。
（すぐれたリアクションペーパーは、成績評価の際に加味します）
In-person lecture.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	「アメリカ」と「合衆国」について考える
第2回	アメリカ史における「時間」1	「空間」という視点からアメリカを考える1
第3回	アメリカ史における「時間」2	「空間」という視点からアメリカを考える2
第4回	アメリカ史における「時間」3	「空間」という視点からアメリカを考える3
第5回	アメリカ史における「空間」1	「空間」という視点からアメリカを考える1
第6回	アメリカ史における「空間」2	「空間」という視点からアメリカを考える2
第7回	アメリカ史における「空間」3	「空間」という視点からアメリカを考える3
第8回	アメリカ史における「空間」4	「空間」という視点からアメリカを考える4
第9回	アメリカ史における「人間」1	「人間」という視点からアメリカを考える1
第10回	アメリカ史における「人間」2	「人間」という視点からアメリカを考える2
第11回	アメリカ史における「人間」3	「人間」という視点からアメリカを考える3
第12回	アメリカ史における「人間」4	「人間」という視点からアメリカを考える4
第13回	アメリカニズム	アメリカのナショナリズムについて考える
第14回	「文脈」的理解	アメリカ現代社会をアメリカ史の「文脈」において捉える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業中に適宜参考文献・資料を指示しますので、それを読むようにしてください。
授業以外の学習時間は各回4時間が標準です。
Before/after each class meeting, students will be expected to spend a few hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
齋藤眞『アメリカとはなにか』（平凡社、1995)（旧版、『アメリカ史の文脈』（岩波書店）でも可）

【成績評価の方法と基準】
学期末試験(100％）
Grading will be decided on the term-end examination only.
なお、HOPPIIへのコメントが優れている場合には、期末試験の点数に加点して成績評価をします。

【学生の意見等からの気づき】
ノートを取りやすいように心がける。

【Outline (in English)】
This course aims to analyze several hallmarks of politics and society of U.S.

POL200AC（政治学 / Politics 200）

アメリカ政治史Ⅱ

中野　勝郎

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目は「歴史・思想」の科目群に属する科目です。アメリカ合衆国の政治を歴史的に考察します。
本学期は、第二次大戦以降現代までのアメリカ政治史がテーマです。

【到達目標】
リベラルな政治体制・政治秩序の確立・発展・崩壊という視点からアメリカ現代史を考察します。
The goal of this course is to elucidate a history of the liberal order since 1945.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
基本的には、教室での講義形式の授業をおこないます。
授業にかんする情報も、すべて、HOPPIIにアップします。
受講者は、毎回、質問・コメントなどがあれば、HOPPIIにアップしてください。
（すぐれたリアクションペーパーは、成績評価の際に加味します）
In-person lecture

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	リベラルな体制の胎動1	冷戦の発生
第2回	リベラルな体制の胎動2	ニューディール・コンセンサスの確立
第3回	リベラルな体制への挑戦1	人種問題・対抗文化・反戦運動1
第4回	リベラルな体制への挑戦2	人種問題・対抗文化・反戦運動2
第5回	リベラルな体制の崩壊	「偉大な社会」計画とヴェトナム戦争の遺産
第6回	レーガン保守主義1	さまざまな保守主義
第7回	レーガン保守主義2	レーガン保守革命
第8回	冷戦の終結	冷戦の終結と新世界秩序の模索
第9回	民主党の変容	「第三の道」の模索
第10回	ネオコンの時代	ブッシュ・ジュニア政権時代の内政と外交
第11回	オバマ政権の誕生	「中道」の模索と分断化の進行
第12回	トランプの時代	トランプ政権誕生の背景と権威主義体制化
第13回	バイデン政権と民主党の分裂	リベラルの巻き返し？
第14回	トランプ化した共和党	わわわれはなにを見ているのか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業中に適宜参考文献・資料を指示しますので、それを読むようにしてください。
授業以外の学習時間は各回4時間が標準です。
Before/after each class meeting, students will be expected to spend a few hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】
斎藤眞・古矢旬『アメリカ亜政治外交史[第二版]』（東京大学出版会、2012年）

【参考書】
久保文明・岡山裕『アメリカ政治史講義』（東京大学出版会、2022年）、その他の参考文献については、授業中に適宜紹介します。
資料は、コピーして配布するかHOPPIIにアップします。

【成績評価の方法と基準】
学期末試験(100％)
Grading will be decided on the term-end examination only.
なお、HOPPIIへのコメントが優れている場合には、期末試験の点数に加点して成績評価をします。

【学生の意見等からの気づき】
ノートを取りやすいように心がける。

【その他の重要事項】
この授業は、アメリカ政治史Ⅰの続編です。できるだけ、両方の科目を履修するようにしてください。

【Outline (in English)】
American Political History from 1945

PHL200BB（哲学 / Philosophy 200）

現代思想２（フランスの思想）１

大池　惣太郎

授業コード：A2245　｜　曜日・時限：金5/Fri.5
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ジョルジュ・バタイユの思想と東洋哲学（特に禅）の接点について考察します。主に、バタイユの後期の神秘主義関連著作と、鈴木大拙や井筒俊彦といった禅思想家、東洋研究者の著作を、思想史的に交差させながら読み解いていきます。その作業を通じて、バタイユ思想および20世紀フランス思想のいくつかの争点や射程、問題点を学ぶことが授業目的。

【到達目標】
⑴ バタイユの神秘主義思想と東洋哲学の接点について、用語や問いの射程を含めた基本的な理解を得ること。
⑵ また、レポートや発表を通じて、学んだ知見を一定程度の水準で哲学的に考察、議論、論述できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
・参加者全員が指定されたテクストを読んだ上で授業に参加する。
・各自、課題範囲についてコメント・質問事項を準備する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	バタイユの神秘主義と東洋思想の接点について
第2回	「第一の前提」読解	バタイユにおける神秘体験の（無）原則
第3回	「非知」読解	「非-知」について
第4回	「真面目さの彼方」読解１	「到来しないもの」について
第5回	「真面目さの彼方」読解２	言葉の道徳主義とその彼岸について
第6回	「純然たる幸福」読解１	「笑い」について
第7回	「純然たる幸福」読解２	生の意味について
第8回	『意識と本質』講読１	「無」について
第9回	『意識と本質』講読２	井筒俊彦についてのイントロダクション
第10回	『意識と本質』講読３	現象学と仏教思想
第11回	『意識と本質』講読４	「本質」論について
第12回	『意識と本質』講読５	直感知について
第13回	『意識と本質』講読６	已発と未発について
第14回	『意識と本質』講読７	「窮理」と非知について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・指定された文献をあらかじめ読んで授業に参加すること。
・本授業は準備学習２時間、復習時間２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
ジョルジュ・バタイユ『純然たる幸福』（酒井健訳、ちくま学芸文庫、2009年）、井筒俊彦『意識と本質　精神的東洋を索めて』（岩波文庫、1991年）、鈴木大拙『東洋的な見方（新編）』（岩波文庫、1997年）

【参考書】
ジャン=リュック・ナンシー『神的な様々の場』（大西雅一郎訳、松籟社、2001年）、モーリス・ブランショ『終わりなき対話 II 限界-経験: 経験』（湯浅博雄他訳、筑摩書房、2017年）、ロラン・バルト『〈中性〉について　ロラン・バルト講義集成:コレージュ・ド・フランス講義２（1977-1978年度）』（塚本昌則訳、筑摩書房、2006年）

【成績評価の方法と基準】
平常点（議論への参加度、発表）70%とレポート30%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to explore the intersection between Georges Bataille's mystical philosophy and Eastern philosophy, particularly Zen thought. By examining prior research on this topic, the course will primarily focus on Bataille's later mystical works, and engage with the writings of Zen thinkers and Eastern scholars such as Daisetsu Suzuki and Toshihiko Izutsu. Through this, we will analyze these texts from a historical-philosophical perspective, shedding light on the key debates, scope, and issues within 20th-century French thought, offering a fresh perspective on these intellectual developments.
Before each class, students are expected to have read the designated text. This course is designed with a standard of two hours of preparatory study and two hours of review.
Evaluation will be based on class presentations and participation (70%), and the final report (30%).

PHL200BB（哲学 / Philosophy 200）

現代思想２（フランスの思想）２

大池　惣太郎

授業コード：A2246　｜　曜日・時限：金5/Fri.5
秋学期授業/Fall・２単位　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ジョルジュ・バタイユの思想と東洋哲学（特に禅）の接点について考察します。主に、バタイユの後期の神秘主義関連著作と、鈴木大拙や井筒俊彦といった禅思想家、東洋研究者の著作を、思想史的に交差させながら読み解いていきます。その作業を通じて、バタイユ思想および20世紀フランス思想のいくつかの争点や射程、問題点を学ぶことが授業目的。

【到達目標】
⑴ バタイユの神秘主義思想と東洋哲学の接点について、用語や問いの射程を含めた基本的な理解を得ること。
⑵ また、レポートや発表を通じて、学んだ知見を一定程度の水準で哲学的に考察、議論、論述できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
・参加者全員が指定されたテクストを読んだ上で授業に参加する。
・各自、課題範囲についてコメント・質問事項を準備する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	西洋的「無」、東洋的「空」
第2回	『意識と本質』講読８	「本質直感」について／バタイユの直接経験について
第3回	『意識と本質』講読９	禅における言語的意味の問題
第4回	『意識と本質』講読１０	「対話」について（ブランショの観点から）
第5回	『東洋的見方』講読１	「妙」について／狂気と半自然
第6回	『東洋的見方』講読２	「自由」について／実存論の行き詰まり
第7回	『東洋的見方』講読３	「無位の真人」について／バタイユの主権性
第8回	『東洋的見方』講読４	「詩」について（供犠と無意味）
第9回	『東洋的見方』講読５	「宗教的経験」について
第10回	東洋と西洋の主体論	ポスト主体論と東洋哲学
第11回	東洋と西洋の自由論	自由と非従属
第12回	東洋と西洋の言語観	言語論的転回の二側面
第13回	東洋と西洋の知	東洋「哲学」は可能か／バタイユは「哲学者」か
第14回	総括	今学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・指定された文献をあらかじめ読んで授業に参加すること。
・本授業は準備学習２時間、復習時間２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
ジョルジュ・バタイユ『純然たる幸福』（酒井健訳、ちくま学芸文庫、2009年）、井筒俊彦『意識と本質　精神的東洋を索めて』（岩波文庫、1991年）、鈴木大拙『東洋的な見方（新編）』（岩波文庫、1997年）

【参考書】
ジャン=リュック・ナンシー『神的な様々の場』（大西雅一郎訳、松籟社、2001年）、モーリス・ブランショ『終わりなき対話 II 限界-経験: 経験』（湯浅博雄他訳、筑摩書房、2017年）、ロラン・バルト『〈中性〉について　ロラン・バルト講義集成:コレージュ・ド・フランス講義２（1977-1978年度）』（塚本昌則訳、筑摩書房、2006年）

【成績評価の方法と基準】
平常点（議論への参加度、発表）70%とレポート30%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to explore the intersection between Georges Bataille's mystical philosophy and Eastern philosophy, particularly Zen thought. By examining prior research on this topic, the course will primarily focus on Bataille's later mystical works, and engage with the writings of Zen thinkers and Eastern scholars such as Daisetsu Suzuki and Toshihiko Izutsu. Through this, we will analyze these texts from a historical-philosophical perspective, shedding light on the key debates, scope, and issues within 20th-century French thought, offering a fresh perspective on these intellectual developments.
Before each class, students are expected to have read the designated text. This course is designed with a standard of two hours of preparatory study and two hours of review.
Evaluation will be based on class presentations and participation (70%), and the final report (30%).

PHL200BB（哲学 / Philosophy 200）

宗教学１（伝統宗教）１

松本　力

授業コード：A2251　｜　曜日・時限：木3/Thu.3
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈他〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
宗教学の準備として、三大宗教（仏教、キリスト教、イスラーム）を学ぶ。

【到達目標】
学生は、この授業を通して、宗教についての基本的な知識を獲得し、説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義を受け、学習支援システム上で「課題」に答えることが、この授業の進め方になります。
皆さんの解答に対して個別にコメントすることはありませんが、質問を書き込んでおいてもらえば、次回の授業開始時までに学習支援システムで返答します。また、質問がなかったとしても、授業内容の補足などを学習支援システム内で行うこともあるので、授業日には学習支援システムをチェックしておいてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	宗教学とはどのような学問か	宗教学を学ぶために、予備作業としての宗教の知識を獲得する。
第2回	仏教①	仏陀について
第3回	仏教②	仏陀の教えについて
第4回	仏教③	仏教が目指したもの
第5回	キリスト教①	旧約聖書について
第6回	キリスト教②	キリスト教の受容と変化
第7回	キリスト教③	キリスト教の神について
第8回	キリスト教④	イエス・キリストについて
第9回	キリスト教⑤	キリスト教的人間像
第10回	キリスト教⑥	キリスト教の終末観
第11回	イスラーム①	ムハンマドについて
第12回	イスラーム②	クルアーンについて
第13回	イスラーム③	イスラーム共同体について
第14回	試験	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の復習時間は、各4時間を標準とします、

【テキスト（教科書）】
資料を配布して授業を行うため、教科書は使用しません。

【参考書】
島薗進『宗教学の名著30』、ちくま新書。
渡辺照宏『仏教　第二版』、岩波新書。
エルンスト・ベンツ『キリスト教　その本質とあらわれ』、平凡社。
小杉泰『イスラームとは何か』、講談社現代新書。

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業内容についての学生の意見を求める課題（30％）と、授業内容全体についての理解度を確かめる試験（70％）によって、評価する。

【学生の意見等からの気づき】
最終的には資料の内容について十分に理解できていることが求められます。課題に取り組みながら、資料の内容を読み込んでください。

【Outline (in English)】
Course outline
The aim of this course is to help students acquire the religious thoughts.
Learning Objectives
At the end of the course, students are expected to explain the religious thoughts.
Learning activities outside of classroom
After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short reports: 30%, Term-end examination: 70%

PHL200BB（哲学 / Philosophy 200）

宗教学１（伝統宗教）２

松本　力

授業コード：A2252　｜　曜日・時限：木3/Thu.3
秋学期授業/Fall・2単位　｜　配当年次：2〜4年

その他属性：〈他〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
宗教学で取り上げられるさまざまな著作について学ぶ。

【到達目標】
学生は、宗教に関するさまざまな著作を読むことで、宗教とは何かを説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義を受け、学習支援システム上で「課題」に答えることが、この授業の進め方になります。
皆さんの解答に対して個別にコメントすることはありませんが、質問を書き込んでおいてもらえば、次回の授業開始時までに学習支援システムで返答します。また、質問がなかったとしても、授業内容の補足などを学習支援システム内で行うこともあるので、授業日には学習支援システムをチェックしておいてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	宗教学とはどのような学問か	この授業で紹介する著作についての概容。
第2回	デイビッド・ヒューム『自然宗教をめぐる対話』	ヒュームの信仰について。
第3回	フリードリヒ・ニーチェ『反キリスト者』	ニーチェにとってのキリスト教について。
第4回	H･リチャード・ニーバー『アメリカ型キリスト教の社会的起源』①	キリスト教における経済的・社会的要因の考察。
第5回	H･リチャード・ニーバー『アメリカ型キリスト教の社会的起源』②	教会と福音との乖離について。
第6回	ルドルフ・オットー『聖なるもの』①	ヌミノーゼについて。
第7回	ルドルフ・オットー『聖なるもの』②	ヌミノーゼの諸要因。
第8回	ウィリアム・ジェームズ『宗教的経験の諸相』①	宗教的経験の特徴。
第9回	ウィリアム・ジェームズ『宗教的経験の諸相』②	トルストイの信仰の考察。
第10回	アンリ・ベルクソン『道徳と宗教の二源泉』①	道徳的責務について。
第11回	アンリ・ベルクソン『道徳と宗教の二源泉』②	動的宗教。
第12回	ヴィクトール・フランクル『人生の意味と神』①	宗教の次元。
第13回	ヴィクトール・フランクル『人生の意味と神』②	神について。
第14回	試験	まとめと解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
この授業では配布資料を使うため、教科書は使用しません。

【参考書】
島薗進『宗教学の名著30』、ちくま新書。
デイビッド・ヒューム『自然宗教をめぐる対話』、岩波文庫。
フリードリヒ・ニーチェ『ニーチェ全集　偶像の黄昏　反キリスト者』、ちくま学芸文庫。
H･リチャード・ニーバー『アメリカ型キリスト教の社会的起源』、ヨルダン社。
ルドルフ・オットー『聖なるもの』、岩波文庫。
ウィリアム・ジェームズ『宗教的経験の諸相　下巻』、岩波文庫。
アンリ・ベルクソン『道徳と宗教の二つの源泉』、ちくま学芸文庫。
ヴィクトール・フランクル、ピンハス・ラピーデ『人生の意味と神　信仰をめぐる対話』、新教出版社。

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業内容について学生に意見を求める課題（30％）と、授業全体の内容の理解度を確認する試験（70％）によって、評価します。

【学生の意見等からの気づき】
資料の内容から、それぞれの著者の考え方について、自分なりに言葉でまとめられるようになることが求められます。課題を通して資料を読み込んでみてください。

【Outline (in English)】
Course outline
The aim of this course is to help students acquire the religious thoughts.
Learning Objectives
At the end of the course, students are expected to explain the religious thoughts.
Learning activities outside of classroom
After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short reports: 30%, Term-end examination: 70%.

LIN200BB（言語学 / Linguistics 200）

ラテン語１

金子　佳司

授業コード：A2268　｜　曜日・時限：火4/Tue.4
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業では、古代ローマで使われていた古典ラテン語を読むための基本的な文法の知識を１年間かけて修得することを目的としますが、ラテン語１では、名詞、形容詞、代名詞、動詞の基本的な変化などを学びます。
　古典ラテン語は紀元前１世紀から紀元後１世紀に使われた言語ですが、それ以降の西洋文化の根幹をなす言語でもありますから、西洋の文化や学問を理解するためにはラテン語の知識は必要不可欠です。

【到達目標】
　ラテン語１では、古典ラテン語の名詞、形容詞、動詞の基本的な変化を覚え、辞書を使えば簡単なラテン語が読めるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
　毎回、教科書の２〜３課分の文法を説明し、それらの課の練習問題のラテン文の和訳を宿題として行なってもらいます。そして、解答に対しては毎回添削をして返却しますが、必要に応じて、授業の中でも解説をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	第１課・第２課の説明	文字と発音 音節とアクセント
第2回	練習問題1,2の解説 第３課〜第５課の説明 引用句1	動詞第一、第二活用 名詞第一活用 動詞第三、第四、第五活用
第3回	練習問題3,5,7の解説 第６課〜第８課の説明 引用句2,3	名詞第二活用(1) 形容詞第一、第二活用(1) 動詞未完了過去形
第4回	練習問題9,11,13の解説 第９課〜第11課の説明 引用句4,5	名詞第二活用(2) 形容詞第一、第二活用(2) 動詞未来形
第5回	練習問題15,17,19の解説 第12課〜第14課の説明 引用句6,7	前置詞、所格(locative)、eoの変化 不定詞、sum,possumの変化 i音幹名詞
第6回	練習問題21,23,25の解説 第15課〜第17課の説明 引用句8,9	i音幹形容詞 動詞完了形、過去完了形、未来完了形
第7回	練習問題27,29,31の解説 第18課・第19課の説明 引用句10	黙音幹名詞、混合幹名詞
第8回	練習問題33,35の解説 第20課・第21課の説明 引用句11,12	動詞受動相（受動態） 流音幹鼻音幹名詞
第9回	練習問題37,39の解説 第22課・第23課の説明 引用句13,14	s音幹名詞 混合幹形容詞、子音幹形容詞
第10回	練習問題41,43の解説 第24課・第25課の説明 引用句15	動詞完了、過去完了、未来完了受動相（受動態） 動詞の主要部分、volo nolo ,maloの変化
第11回	練習問題45,47の解説 第26課・第27課の説明 引用句16	名詞第四、第五活用 能動相（能動態）欠如動詞、fio,feroの変化
第12回	練習問題49,51の解説 第28課・第29課の説明 引用句17,18	指示代名詞、限定代名詞 疑問代名詞、不定代名詞
第13回	練習問題53,55の解説 簡単な読み物	簡単なラテン語で書かれた文章を読んでみる。
第14回	理解度の確認	春学期に扱った練習問題、引用句、読み物が理解できたかどうかを確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　毎回、指示された課の練習問題のラテン文をすべて和訳するとともに、そのラテン文を文法的に説明できるようにすること。また、授業後には、自分が間違っていたところを必ず見直すこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
　また、予習・復習のための教材をHoppii上に毎回アップしますので活用してください。

【テキスト（教科書）】
田中利光著『ラテン語初歩（改訂版）』（岩波書店）

【参考書】
　入手しやすい辞書には、水谷智洋編『羅和辞典〈改訂版〉』（研究社）があります。その他の参考書は、授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
　毎回行なってもらう練習問題（＝ラテン文の和訳）（50%）と期末試験（50%）の結果で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
　昨年度も、ラテン語と近現代語（特に英語）との関係の説明を心がけましたが、今年度もさらに、ラテン語がいかに近現代語に影響を及ぼしているかを理解してもらえるようにしたいと思います。

【Outline (in English)】
Course outline：In this course, students learn the basics of classical Latin grammar. Classical Latin is a language used from the first century B.C. to the first century A.D., and on the model of it many generations after them have written their works in Latin. So Latin is very important to understand Western culture.
Learning Objectives：The goals of this course are to learn Latin nouns, adjectives, and verbs, and to be able to read simple Latin sentences.
Learning activities outside of classroom：Before each class meeting, students will be expected to translate the Latin sentences of the exercises into Japanese, and after each class meeting, to review the translations. The study time for your preparations and reviews will be 4 hours for each class.
Grading Criteria：I will evaluate the results of the exercises (50%) and the exam (50%) .

LIN200BB（言語学 / Linguistics 200）

ラテン語２

金子　佳司

授業コード：A2269　｜　曜日・時限：火4/Tue.4
秋学期授業/Fall・2単位　｜　配当年次：2〜4年

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、古代ローマで使われていた古典ラテン語を読むための基本的な文法の知識を１年間かけて修得することを目的としますが、ラテン語２では、接続法、命令法、条件文、比較文、不定詞、分詞、動名詞などを学びます。ラテン語２はラテン語１とは独立した科目ですが、ラテン語１で学んだ知識を前提としていますので、ラテン語２をとる場合は、できる限りラテン語１も受講してください。
古典ラテン語は西洋文化の根幹をなす言語ですから、西洋の文化や学問を理解するためにはラテン語の知識は必要不可欠です。

【到達目標】
ラテン語２では、ラテン語１で学んだ知識を踏まえた上で、さらに古典ラテン語の基本的な文法事項全体を身につけ、辞書を使えば標準的なラテン語が読めるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回、教科書の２課分（または１課分）の文法を説明し、それらの課の練習問題のラテン文の和訳を宿題として行なってもらいます。そして、解答に対しては毎回添削をして返却しますが、必要に応じて、授業の中でも解説をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	春学期の授業の復習	動詞接続法現在形、未完了過去形、
	第30課・第31課の説明	目的節で使われる接続法
	引用句19,20	人称代名詞
第2回	練習問題57,59の解説	所有形容詞、強意代名詞
	第32課・第33課の説明	動詞接続法完了形、過去完了過去形、
	引用句21	間接疑問文で使われる接続法
第3回	練習問題61,63の解説	事実に反する仮定を表す条件文
	第34課・第35課の説明	仮想を表す条件文と予想を表す条件
	引用句22,23	文
第4回	練習問題65,67の解説	動詞完了不定詞、対格不定詞節
	第36課・第37課の説明	動詞未来不定詞
	引用句24	
第5回	練習問題67,69の解説	関係代名詞
	第38課・第39課の説明	非人称動詞
第6回	練習問題73,75の解説	動詞現在分詞
	第40課・第41課の説明	動詞完了分詞、未来分詞、状況を表
	文例１	す分詞
		パエドルスの寓話「人の欠点」を読む。
第7回	練習問題77,79の解説	奪格の独立的用法
	第42課・第43課の説明	形容詞の比較級、最上級
	引用句25,26	パエドルスの寓話「狐と葡萄」を読
	文例2	む。
第8回	練習問題81,83の解説	形容詞の不規則な比較級、最上級
	第44課・第45課の説明	数詞
第9回	練習問題85,87の解説	動名詞
	第46課・第47課の説明	動形容詞
	引用句27	
第10回	練習問題89,91の解説	動名詞の代わりに用いられる動形
	第48課の説明	容詞
	文例3	カエサル『ガリア戦記』を読む。
	文例4	キケロ『善と悪の究極について』を読む。
第11回	練習問題93,95の解説	命令法
	第49課・第50課の説明	能動相欠如動詞の命令法、主文にお
	引用句28	ける接続法
第12回	練習問題97,99の解説	目的分詞
	第51課の説明	デカルト『省察』を読む。
	引用句29	
	文例５	
第13回	文例６	ユークリッド『幾何学原論』を読む。
第14回	理解度の確認	秋学期に学んだ文法事項が理解できたかどうかを確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、指示された課の練習問題のラテン文をすべて和訳するとともに、そのラテン文を文法的に説明できるようにすること。また、授業後には、自分が間違っていたところを必ず見直すこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
また、予習・復習のための教材をHoppii上に毎回アップしますので活用してください。

【テキスト（教科書）】
田中利光著『ラテン語初歩（改訂版）』（岩波書店）

【参考書】
入手しやすい辞書には、水谷智洋編『羅和辞典〈改訂版〉』（研究社）があります。その他の参考書は、授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
毎回行なってもらう練習問題（＝ラテン文の和訳）（50%）と期末試験（50%）の結果で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度も、ラテン語と近現代語（特に英語）との関係の説明を心がけましたが、今年度もさらに、ラテン語がいかに近現代語に影響を及ぼしているかを理解してもらえるようにしたいと思います。

【Outline (in English)】
Course outline ： In this course, students learn the basics of classical Latin grammar. Classical Latin is a language used from the first century B.C. to the first century A.D., and on the model of it many generations after them have written their works in Latin. So Latin is very important to understand Western culture.
Learning Objectives ： The goals of this course are to learn the basic Latin grammar, and to be able to read standard Latin sentences.
Learning activities outside of classroom ： Before each class meeting, students will be expected to translate the Latin sentences of the exercises into Japanese, and after each class meeting, to review the translations. The study time for your preparations and reviews will be 4 hours for each class.
Grading Criteria ： I will evaluate the results of the exercises (50%) and the exam (50%) .

LIN200BB（言語学 / Linguistics 200）

ギリシア語１

白根　裕里枝

授業コード：A2270　｜　曜日・時限：木5/Thu.5
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：2〜4年

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、古典ギリシア語の基礎文法を学ぶことを目的にしています。古典ギリシア語は、主としてB.C. 5世紀前後の古典期のアテナイを中心に哲学や歴史書などの散文に用いられた言語です。ヨーロッパの諸言語の元になる言語で、古典ギリシア語の知識があると、ラテン語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ドイツ語、英語などを学ぶ上で、その体系的理解に大いに役に立ちます。また、西洋文学の源をなすホメロスの『イリアス』や『オデュッセイア』、哲学の源であるプラトン（ソクラテス）の対話篇や、アリストテレスの諸著作、そして新約聖書などが書かれたこの言語を学ぶ意義は大変に大きなものです。数学や科学で使われるギリシア文字の$\Sigma\ \pi\ \gamma\ \beta\ \theta\ \mu$ や、時計のΩオメガ、シンポジウム、シンフォニー、オーケストラ、銀河鉄道999のメーテル、エヴァンゲリオン、胃腸薬のエビオスも、もとはギリシア語で、現在でもいろいろな場面でギリシア語に出会うことと思います。ギリシア語を学んでみたいという意欲ある学生の参加を望みます。

【到達目標】
授業では、まずはギリシア語を読めるようになること、そして、ギリシア語文法の基本的な構造を理解して、自分で辞書や変化表を調べて、単語の意味を確実に捉え、基礎的な文を読んだり、古典の名文句などの内容を読んで理解できるようになることを目的としています。できるだけ、ギリシアの古典のなかから格言や平易な単文を選んで併読し、実際のギリシア語に親しみ、味わい、古典を読む喜びを共有したいと思います。哲学科の学生は、まずギリシア語を学ぶことから哲学を始めてほしいですし、また、法学や歴史・文学・経済など他専攻の学生も、在学中に一度はこの言語に挑戦していただきたい。というのも、他の科目は自分で本を読んで学ぶこともできますが、ギリシア語だけは、大学を出てしまうと、自分で学ぶこともよそで学ぶことも難しいからです。通年での履修が望ましいです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
今年度は授業形態はまだ未定ですが、おそらく、隔週でオンラインと対面授業を交互に行う予定です。学生の希望に応じて、毎週、対面授業にすることもあり得ます。初回と2回目を対面授業として、相談の上、決めたいと思います。「授業形態」には、その後の対面授業とオンラインを隔週に設定してありますが、参考にしてください。
授業では、下記のテキストを用いて、全くの初歩から文法を学び、語形変化を記憶し、練習問題を解くという形で、この美しい言語を理解する力を養ってゆきます。毎回、補助解説用の「ツボ・プリント」を用いて、問題の解き方のポイントなどを詳しく解説します。学生は「書き込み用プリント」を用いて、単語の意味などの丁寧な下調べをすることができます。毎回、練習問題を解いてもらい、対面授業の場合は、文法的説明をもう一度一緒に学んだ上で、練習問題の解答を丁寧に解説することによって理解を深めてゆきます。オンラインの場合は、主として資料の配布と音声ファイルで授業を進めます。文法の解説や変化表のプリント、音声、動画による解説も予定しています。毎回１〜２課ずつ進んで、できるだけ多く進みたいと思います。通年での履修が望ましいです。必ず前期から履修してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	文字を知る	1.字母、発音、音韻の分類、気息記号
第2回	文字の読み方	2.音節、アクセント、句読点、語末音
第3回	動詞変化1,名詞変化1	3.動詞現在形
		4.名詞A変化1
第4回	名詞変化2	5.名詞A変化2
第5回	動詞変化2,名詞変化3	6.動詞未来形
		7.名詞A変化3
第6回	名詞変化4	8.名詞A変化4
第7回	動詞変化3	9.動詞、未完了過去
第8回	名詞変化5	10.名詞O変化
第9回	形容詞変化	11.形容詞変化（第一・第二変化）
第10回	前置詞	12.前置詞
第11回	動詞変化4	13.動詞アオリスト
第12回	動詞変化5	14.動詞完了形
第13回	代名詞変化	15.指示代名詞、強意代名詞
第14回	人称語尾1,2	16.本時称の人称語尾
		17.副時称の人称語尾

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週、次回の練習問題の解答のための予習を必要とします。本授業の準備・復習時間、並びに毎回の課題の提出準備は、各３〜４時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『ギリシア語入門 新装版』田中美知太郎、松平千秋著、岩波書店、2012, ￥2640

【参考書】
『しっかり学ぶ初級古典ギリシャ語』堀川宏著、ベレ出版、2021, ￥2750

【成績評価の方法と基準】
平常点評価。語学の授業ですから、毎回の予習と出席（課題の提出）による、練習問題の解答を重視します。出席と課題の提出70％、毎回の解答の出来具合30％。対面授業の場合は、前に出て解答を書いてもらったり、手元を写して解答を発表してもらいます。オンラインでも解答を毎週、期日までに提出すること。練習問題を訳せるように毎回準備して出席し、解答することを最後まで続けた者に対して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
学ぶ機会の少ない古典ギリシア語という新しい言語を覚えることは、難しいけれど、楽しいと学生は言う。初めが肝心で、基礎から、丁寧に分かりやすく教えるので、ぜひ最後まで挑戦してもらいたい。

【学生が準備すべき機器他】
オンラインの回は「学習支援」を通じて課題を配布したり、提出してもらったりするので、パソコンで課題を印刷してそれに記入し、写メを撮って提出したり、PDFを添付できたりすることが望ましい。スマートフォンやタブレットだけだと、しっかり取り組めないと感じる。

【その他の重要事項】
ギリシア語習得はたしかに難しいかもしれませんが、語学はのめり込むとおもしろく、大学で本当に勉強したという実感を持てるでしょう。とはいえ、ギリシア語を読むのは意外に簡単ですし、練習問題の内容も、現代の私たちが忘れた、古典的教養に満ちあふれた格言などが古典文化そのものへと誘ってくれます。言葉の船に乗って一緒に古代への旅にでましょう。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to acquire an understanding of the basics of classical Greek grammar.
After two semesters, students will be able to understand the outline of the classical Greek grammar and prepared to read classical Greek texts with the aid of dictionaries and grammar books.
Students will be expected to complete the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Grading will be decided based on the following, In-class exercises: 30%, Assignments: 70%.

LIN200BB（言語学 / Linguistics 200）

ギリシア語２

白根　裕里枝

授業コード：A2271　｜　曜日・時限：木5/Thu.5
秋学期授業/Fall・２単位　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、古典ギリシア語の基礎文法を学ぶことを目的にしています。古典ギリシア語は、主として B.C. 5世紀前後の古典期のアテナイを中心に哲学や歴史書などの散文に用いられた言語です。ヨーロッパの諸言語の元になる言語で、古典ギリシア語の知識があると、ラテン語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ドイツ語、英語などを学ぶ上で、その体系的理解に大いに役に立ちます。また、西洋文学の源をなすホメロスの『イリアス』や『オデュッセイア』、哲学の源であるプラトン(ソクラテス)の対話篇や、アリストテレスの諸著作、そして新約聖書などが書かれたこの言語を学ぶ意義は大変に大きなものです。数学や科学で使われるギリシア文字の$\Sigma\ \pi\ \gamma\ \beta\ \theta\ \mu$ や、時計のΩオメガ、シンポジウム、シンフォニー、オーケストラ、銀河鉄道 999 のメーテル、エヴァンゲリオン、胃腸薬のエビオスも、もとはギリシア語で、現在でもいろいろな場面でギリシア語に出会うことと思います。ギリシア語を学んでみたいという意欲ある学生の参加を望みます。

【到達目標】
授業では、まずはギリシア語を読めるようになること、そして、ギリシア語文法の基本的な構造を理解して、自分で辞書や変化表を調べて、単語の意味を確実に捉え、基礎的な文を読んだり、古典の名文句などの内容を読んで理解できるようになることを目的としています。できるだけ、ギリシアの古典のなかから格言や平易な単文を選んで併読し、実際のギリシア語に親しみ、味わい、古典を読む喜びを共有したいと思います。哲学科の学生は、まずギリシア語を学ぶことから哲学を始めてほしいですし、また、法学や歴史・文学・経済など他専攻の学生も、在学中に一度はこの言語に挑戦していただきたい。というのも、他の科目は自分で本を読んで学ぶこともできますが、ギリシア語だけは、大学を出てしまうと、自分で学ぶこともよそで学ぶことも難しいからです。通年での履修が望ましいです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
今年度は授業形態はまだ未定ですが、おそらく、隔週でオンラインと対面授業を交互に行う予定です。学生の希望に応じて、毎週、対面授業にすることもあり得ます。初回と２回目の対面授業で相談の上、決めたいと思います。
授業では、下記のテキストを用いて、全くの初歩から文法を学び、語形変化を記憶し、練習問題を解くという形で、この美しい言語を理解する力を養ってゆきます。毎回、補助解説用の「ツボ・プリント」を用いて、問題の解き方のポイントなどを詳しく解説します。学生は「書き込み用プリント」を用いて、単語の意味などの丁寧な下調べをすることができます。毎回、練習問題を解いてもらい、対面授業の場合は、文法的説明をもう一度一緒に学んだ上で、練習問題の解答を丁寧に解説することによって理解を深めてゆきます。オンラインの場合は、主として資料の配布と音声ファイルで授業を進めます。文法の解説や変化表のプリント、音声、動画による解説も予定しています。毎回１２課ずつ進んで、できるだけ多く進みたいと思います。通年での履修が望ましいです。必ず前期から履修してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	春学期の復習	動詞、名詞変化の基本復習
第2回	動詞変化6	18.mi 動詞
第3回	代名詞2	19.疑問代名詞、不定代名詞
第4回	動詞変化7	20.動詞,中動相
第5回	代名詞3,動詞変化8	21.人称代名詞
		22.動詞,中動相２
第6回	代名詞4	23.再帰代名詞その他
第7回	動詞変化9	24.動詞,第２アオリスト
第8回	動詞変化10	25.動詞受動形
第9回	名詞変化6,第三変化	26.第三変化の名詞１
第10回	動詞変化11	27.約音動詞１
第11回	名詞変化7	28.第三変化の名詞２
第12回	動詞変化12	29.約音動詞２
第13回	動詞変化13	30.動詞完了形２、中動相
第14回	第三変化の形容詞	31.第三変化の形容詞

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週、次回の練習問題の解答のための予習を必要とします。本授業の準備・復習時間、並びに毎回の課題の提出準備は、各３〜４時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『ギリシア語入門 新装版』田中美知太郎、松平千秋著、岩波書店、2012, ￥2640

【参考書】
『しっかり学ぶ初級古典ギリシャ語』堀川宏著、ベレ出版、2021, ￥2750

【成績評価の方法と基準】
平常点評価。語学の授業ですから、毎回の予習と出席(課題の提出)による、練習問題の解答を重視します。出席と課題の提出 70 %、毎回の解答の出来具合 30 %。対面授業の場合は、前に出て解答を書いてもらったり、手元を写して解答を発表してもらいます。オンラインでも解答を毎週、期日までに提出すること。練習問題を訳せるように毎回準備して出席し、解答することを最後まで続けた者に対して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
学ぶ機会の少ない古典ギリシア語という新しい言語を覚えることは、難しいけれど、楽しいと学生は言う。初めが肝心で、基礎から、丁寧に分かりやすく教えるので、ぜひ最後まで挑戦してもらいたい。

【学生が準備すべき機器他】
オンラインの回は「学習支援」を通じて課題を配布したり、提出してもらったりするので、パソコンで課題を印刷してそれに記入し、写メを撮って提出したり、PDFを添付できたりすることが望ましい。スマートフォンやタブレットだけだと、しっかり取り組めないと感じる。

【その他の重要事項】
ギリシア語習得はたしかに難しいかもしれませんが、語学はのめり込むとおもしろく、大学で本当に勉強したという実感を持てるでしょう。とはいえ、ギリシア語を読むのは意外に簡単ですし、練習問題の内容も、現代の私たちが忘れた、古典的教養に満ちあふれた格言などが古典文化そのものへと誘ってくれます。言葉の船に乗って一緒に古代への旅にでましょう。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to acquire an understanding of the basics of classical Greek grammar.
After two semesters, students will be able to understand the outline of the classical Greek grammar and prepared to read classical Greek texts with the aid of dictionaries and grammar books.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Grading will be decided based on the following. In-class exercises: 30%, Assignments: 70%.

LIT300BC（文学 / Literature 300）

日本文芸批評史A

伊東　祐吏

授業コード：A2553　｜　曜日・時限：金4/Fri.4
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本の近代文学における文芸批評の歴史を、個々の文芸評論家の文章と批評自体の流れから概観します。

【到達目標】
近代文学における批評の役割を理解すること。
日本の近代文学史を相対化する視点を手に入れること。
自らのうちに一つの批評眼を確立すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と発表を組みあわせて進めます。
講義では、評論文を読みながら、文学史における批評の流れについて解説します。
発表では、課題を出して、自分の考えを述べたり文章を書いたりしてもらい、感想やコメントを返します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	日本の近代文学の概説	前史と西洋近代文学の影響
第2回	批評とは何か	その特徴について
第3回	坪内逍遙と二葉亭四迷	日本の近代文学のはじまり
第4回	尾崎紅葉と幸田露伴	その後の文学の展開
第5回	森鷗外の評論	坪内逍遙との論争
第6回	北村透谷の批評	山路愛山との論争
第7回	高山樗牛の評論	作品と若者への影響について
第8回	斎藤緑雨の箴言	風刺と皮肉の効用
第9回	正岡子規の歌論	短歌・俳句と写生文
第10回	自然主義の誕生	国木田独歩、島崎藤村、田山花袋
第11回	言文一致運動	その過程の論争
第12回	反自然主義	自然主義と違う立場の作家
第13回	平塚雷鳥と与謝野晶子	女性解放運動をめぐる批評
第14回	大逆事件	石川啄木や徳富蘆花の評論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日本近代文学史についての専門的知識は特には必要ありませんが、自分のテーマや目標に応じて、授業でとりあげる作家や評論家の作品を読むことが望まれます。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
千葉俊二／坪内祐三編『日本近代文学評論選』［明治・大正篇］および［昭和篇］（岩波文庫）。（ただし、入手困難のため、毎回プリントを配布します。）

【参考書】
必要に応じて授業で指示します。

【成績評価の方法と基準】
成績は平常点5割、発表（課題）5割で、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
アクティブラーニングの時間をなるべく増やします

【Outline (in English)】
Acquire an overview of the history of literary criticism in the Japanese modern literature through the writings of each critic and the stream of criticism.
Course Outline: This course provides an overview of the history of literary criticism in modern Japanese literature, in terms of both the writings of individual literary critics and the criticism itself.
Learning Objectives: Students who successfully complete this course will: 1. understand the role of criticism in modern literature; 2. gain a relative perspective on the history of modern Japanese literature; and 3. develop their own critical eye.
Learning Activities Outside of the Classroom: Although specialized knowledge of the history of modern Japanese literature is not required, students are encouraged to read the works of authors and critics discussed in class according to their own interests and goals.
Grading Criteria/Policy: Grades will be based on a comprehensive evaluation, with 50%for regular work and 50%for presentations (assignments).

LIT300BC（文学 / Literature 300）

日本文芸批評史Ｂ

伊東　祐吏

授業コード：A2555　｜　曜日・時限：金4/Fri.4
秋学期授業/Fall・2単位　｜　配当年次：2〜4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本の近代文学における文芸批評の歴史を、個々の文芸評論家の文章と批評自体の流れから概観します。

【到達目標】
近代文学における批評の役割を理解すること。
日本の近代文学史を相対化する視点を手に入れること。
自らのうちに一つの批評眼を確立すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と発表を組みあわせて進めます。
講義では、評論文を読みながら、文学史における批評の流れについて解説します。
発表では、課題を出して、自分の考えを述べたり文章を書いたりしてもらい、感想やコメントを返します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	大正・昭和期の文学の概説	20世紀の西洋文学との比較
第2回	夏目漱石の批評	文明批評について
第3回	和歌と漢文	日本人の文化的喪失について
第4回	白樺派	武者小路実篤の作品と批評
第5回	佐藤春夫と印象批評	菊池寛との論争
第6回	谷崎潤一郎と芥川龍之介	純文学と通俗小説に関する論争
第7回	プロレタリア文学と新感覚派	関東大震災後の新たな潮流
第8回	小林秀雄の批評	日本における近代文芸批評の確立
第9回	戦時下の文学と言論	日本浪曼派と文学報国会
第10回	敗戦と占領下の批評	終戦直後の状況について
第11回	坂口安吾と太宰治	無頼派の批評や作品について
第12回	「政治と文学」論争	「近代文学」と中野重治の論争
第13回	吉本隆明と江藤淳	戦後を代表する左派と右派の思想
第14回	ポストモダンとその後	柄谷行人と加藤典洋について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日本近代文学史についての専門的知識は特には必要ありませんが、自分のテーマや目標に応じて、授業でとりあげる作家や評論家の作品を読むことが望まれます。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
千葉俊二／坪内祐三編『日本近代文学評論選』［明治・大正篇］および［昭和篇］（岩波文庫）。（ただし、入手困難のため、毎回プリントを配布します。）

【参考書】
必要に応じて授業で指示します。

【成績評価の方法と基準】
成績は平常点5割、発表（課題）5割で、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
アクティブラーニングの時間をなるべく増やします

【Outline (in English)】
Acquire an overview of the history of literary criticism in the Japanese modern literature through the writings of each critic and the stream of criticism.
Course Outline: This course provides an overview of the history of literary criticism in modern Japanese literature, in terms of both the writings of individual literary critics and the criticism itself.
Learning Objectives: Students who successfully complete this course will: 1. understand the role of criticism in modern literature; 2. gain a relative perspective on the history of modern Japanese literature; and 3. develop their own critical eye.
Learning Activities Outside of the Classroom: Although specialized knowledge of the history of modern Japanese literature is not required, students are encouraged to read the works of authors and critics discussed in class according to their own interests and goals.
Grading Criteria/Policy: Grades will be based on a comprehensive evaluation, with 50%for regular work and 50%for presentations (assignments).

LIT200BC（文学 / Literature 200）

中国文芸史A

遠藤　星希

授業コード：A2561　｜　曜日・時限：木2/Thu.2
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：2〜4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【先秦・漢・魏・晋・南北朝文芸史】
　中国文芸史における時代区分のうち、最も古い先秦・漢・魏・晋・南北朝時代（すなわち唐より前の時代）の文芸及びその土壌となった社会背景について講義をする。中国の古典文学といえば、おそらく唐詩（李白や杜甫、白居易などの詩）が日本にとって最も馴染み深いものの一つといえるだろうが、その唐詩を生み出す源泉となった唐より前の時代の文芸がどのようなものであったのかを学ぶ。

【到達目標】
　先秦時代から南北朝時代までの文芸史のアウトラインを理解すること。また、各時代の代表的な文学作品を読解することを通して、中国文芸の様々なジャンルについて広く学び、同時に作品の背景にある中国文化や民間習俗、日本文化との違いについても確認すること。加えて、中国の古い文献を読解したり探したりする際に利用すべき基本資料を把握することなどを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
　講義形式で授業を行う。必要に応じてプロジェクターとスライドを使用し、画像や動画を映す。毎回簡単な課題を出し、学習支援システム上で提出してもらう（同時に質問も受けつける）。課題や質問に対するフィードバックは、次週の授業の冒頭に口頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	中国古典文学についての概説
第2回	中国神話	中国の古代神話とその特徴について
第3回	詩経	中国最古の歌謡集である『詩経』の歌謡を読む
第4回	楚辞	戦国時代の楚の地方で発祥した韻文『楚辞』の諸篇を読む
第5回	諸子百家	戦国時代の諸子百家の思想書を読む
第6回	漢代の楽府	「楽府」と呼ばれる民間歌謡を読む
第7回	漢代の賦と『史記』	漢代に盛行した「賦」と呼ばれる文学ジャンルと司馬遷の『史記』から、漢代の人々の世界観をさぐる
第8回	漢代の古詩	漢代に発祥した五言詩を読む
第9回	西晋の文学（1）	西晋の代表的文人である潘岳の悼亡詩を読む
第10回	西晋の文学（2）	西晋の左思が自分の娘を詠んだ「嬌女の詩」を読む
第11回	六朝志怪小説（1）	六朝時代に数多く記された怪異譚「志怪小説」についての概説
第12回	六朝志怪小説（2）	志怪小説中に見える異類婚姻譚を読む
第13回	陶淵明の詩賦と南朝の艶詩	東晋の陶淵明の作品と、南朝で流行した「艶詩」と呼ばれるジャンルの詩を読む
第14回	南朝の民歌	南朝の民間歌謡に見える恋の歌を読む

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　授業のテーマと内容について、授業前にあらかじめ参考書に目を通して大まかなイメージを掴んでおく。時間がなければ、インターネットの検索サイトを利用して、授業のテーマに関連するサイトをなるべく多く閲覧しておく。授業中にプロジェクターで映したスライド資料は、電子ファイル化されたものが学習支援システムにアップロードされるので、毎回授業後にダウンロードし、配布資料と合わせて復習することで内容を記憶に定着させる。なお、本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
　テキスト（教科書）は使用しない。担当教員が作成した印刷物を授業開始時に配布する。

【参考書】
・前野直彬編『中国文学史』（東京大学出版会、1975年）
・松原朗・佐藤浩一・児島弘一郎著『教養のための中国古典文学史』（研文出版、2009年）
その他、適宜授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
100％学期末試験（筆記）の結果に基づいて評価する。試験の際の持ち込み・参照は不可。

【学生の意見等からの気づき】
　授業中に眠ってしまう学生が毎回確認できたので、講義形式とはいえ、一方的に話すだけではなく、授業中に学生に質問して回答やコメントを求めるなど、なるべく双方向的な授業になるように工夫をする予定である。

【その他の重要事項】
・毎回、出席調査票を用いて出席をとる予定。
・授業日数の３分の２以上の出席がないと、原則として学期末試験の受験資格を失う。なお、出席に関する個別の問い合わせには応じないので、欠席回数は受講者が各自で記録し、把握しておくこと。
・授業の進み具合によっては、事前に受講者に説明をした上で、講義内容を一部変更する可能性がある。

【Outline (in English)】
Course Outline: Amongst other periods in the history of Chinese literature, this lecture course will focus on the literature and the underlying social background of the most ancient periods, from Pre-Qin to Han, Wei, Jin, and Northern and Southern dynasties (i.e., periods before the Tang dynasty). As far as Chinese classical literature goes, Tang poetry (the poetry of Li Bai, Du Fu and Bai Juyi) is arguably one of the most familiar genres for the Japanese, and in this course we will learn about the characteristics of literature of periods prior to the Tang dynasty, which formed the foundation for the creation of Tang poetry.
Learning Objectives: By the end of the course, students will:
A. understand the outline of the history of literature from the Pre-Qin Dynasty to the Northern and Southern Dynasties;
B. have knowledge of the various genres of Chinese literature through reading representative literary works of each period, and at the same time understand the background of Chinese culture, folk customs, and differences with Japanese culture; and
C. have acquired the basic skills necessary to read and comprehend Chinese materials.
Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria/Policy: Term-end examination (100%)

LIT200BC（文学 / Literature 200）

中国文芸史B

遠藤　星希

授業コード：A2563　｜　曜日・時限：木2/Thu.2
秋学期授業/Fall・2単位　｜　配当年次：2〜4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【唐代文芸史】
中国文芸史における時代区分のうち、日本文学への影響力がとりわけ強かった唐代の文芸及びその土壌となった社会背景について講義をする。中国の古典文学といえば、おそらく唐詩（李白・杜甫・白居易などの詩）が日本にとって最も馴染み深いものの一つといえるだろうが、唐代の文芸ジャンルは詩だけではなく、「伝奇」と呼ばれる小説や韓愈・柳宗元らの散文も文芸史上において重要な意義を持っている。本授業では、唐代各期の様々なジャンルの文学作品を読解することを通して、唐代に書かれた詩や小説・散文の多様性、現代にも通じるその芸術性及び現代では理解しがたい特殊性などについて、幅広い知識を習得する。

【到達目標】
唐代文芸史のアウトラインを理解すること。また、唐詩の形式的特徴（絶句・律詩など）や内容的特徴（辺塞詩・閨怨詩・送別詩など）及び唐代に書かれた小説や散文の特徴について、具体例に即して人に説明できるようになること。加えて、中国の古い文献を読解したり探したりする際に利用すべき基本資料を把握することなどを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で授業を行う。必要に応じてプロジェクターとスライドを使用し、画像や動画を映す。毎回簡単な課題を出し、学習支援システム上で提出してもらう（同時に質問も受けつける）。課題や質問に対するフィードバックは、次週の授業の冒頭に口頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス（1）	唐代文学についての概説
第2回	ガイダンス（2）	中国古典詩における諸々の規則についての概説
第3回	初唐の詩	初唐の代表的な詩人の作品を読む
第4回	辺塞詩	辺境地帯の風物や出征兵士の嘆きを詠じた「辺塞詩」というジャンルの詩について
第5回	閨怨詩	愛の喪失を嘆く女性の姿を詠じた「閨怨詩」というジャンルの詩について
第6回	盛唐の詩（1）	中国を代表する詩人であり、「詩仙」とも呼ばれる李白の詩を読む
第7回	盛唐の詩（2）	中国を代表する詩人であり、「詩聖」とも呼ばれる杜甫の詩を読む
第8回	唐代伝奇小説（1）	唐代に書かれた「伝奇」と呼ばれる短篇小説についての概説
第9回	唐代伝奇小説（2）	中国では散逸し、日本に渡って生き残った伝奇「遊仙窟」を読む
第10回	唐代伝奇小説（3）	中島敦「山月記」の粉本として知られる伝奇「李徴」を読む
第11回	唐代伝奇小説（4）	芥川龍之介による翻案で知られる伝奇「杜子春」を読む
第12回	中唐の詩	中唐の代表的な詩人である韓愈・柳宗元・李賀の詩を読む
第13回	唐代古文運動	中唐期に勃興した古文復興運動について概説し、あわせて韓愈と柳宗元の散文を読む
第14回	晩唐の詩	晩唐期の代表的な詩人である杜牧と李商隠の詩を読む

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業のテーマと内容について、授業前にあらかじめ参考書に目を通して大まかなイメージを掴んでおく。時間がなければ、インターネットの検索サイトを利用して、授業のテーマに関連するサイトをなるべく多く閲覧しておく。授業中にプロジェクターで映したスライド資料は、電子ファイル化されたものが学習支援システムにアップロードされるので、毎回授業後にダウンロードし、配布資料と合わせて復習することで内容を記憶に定着させる。なお、本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキスト（教科書）は使用しない。担当教員が作成した印刷物を授業開始時に配布する。

【参考書】
・前野直彬編『中国文学史』（東京大学出版会、1975年）
・小川環樹著『唐詩概説』（岩波文庫、2005年）
・松原朗・佐藤浩一・児島弘一郎著『教養のための中国古典文学史』（研文出版、2009年）
その他、適宜授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
100％学期末試験（筆記）の結果に基づいて評価する。試験の際の持ち込み・参照は不可。

【学生の意見等からの気づき】
授業中に眠ってしまう学生が毎回確認できたので、講義形式とはいえ、一方的に話すだけではなく、授業中に学生に質問して回答やコメントを求めるなど、なるべく双方向的な授業になるように工夫をする予定である。

【その他の重要事項】
・毎回、出席調査票を用いて出席をとる予定。
・授業日数の3分の2以上の出席がないと、原則として学期末試験の受験資格を失う。なお、出席に関する個別の問い合わせには応じないので、欠席回数は受講者が各自で記録し、把握しておくこと。
・授業の進み具合によっては、事前に受講者に説明をした上で、講義内容を一部変更する可能性がある。

【Outline (in English)】
Course Outline: Amongst other periods in the history of Chinese literature, this lecture course will be focus on the literature and the underlying social background during the Tang dynasty, when there was a particularly strong influence on Japanese literature. As far as Chinese classical literature goes, Tang poetry (the poetry of Li Bai, Du Fu and Bai Juyi) is arguably one of the most familiar genres for the Japanese. Poetry, however, was not the only literary genre of the Tang, and novels called *chuan-qi* as well as the prose of Han Yu and Liu Zongyuan are particularly noteworthy in the history of Chinese literature. In this course, through reading literary works of various genres from each period during the Tang, we will attain broad knowledge of the diversity of poetry, novels and prose written during the Tang dynasty, their artistry that can be appreciated today, as well as peculiarities that are difficult to understand today.
Learning Objectives: By the end of the course, students will:
A. understanding the outline of Tang-Dynasty literary history;
B. understand the form and content of Tang poetry and the characteristics of novels and prose written in the Tang Dynasty; and
C. have acquired the basic skills necessary to read and comprehend Chinese materials.
Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria/Policy: Term-end examination (100%)

LIT200BC（文学 / Literature 200）

日本文芸研究特講（3）中世A

阿部　真弓

授業コード：A2665　｜　曜日・時限：火2/Tue.2
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：1〜4年
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代の日本において最も身近でありながら、今なお謎の多い歌集『百人一首』をとりあげ、成立の問題を解説した後、代表的和歌について講義します。
今年度は天皇・上皇の和歌を取り上げ、各歌の解釈のほか、当該歌をめぐる問題や『百人一首』の古注釈ではどのように解釈されているか等について解説します。そして、この歌集が和歌史、文化史にどのように位置づけられるか考察を試みます。

【到達目標】
①和歌の表現に関する知識を身につける。
②古典和歌を解釈する力を養う。
③和歌史に関する基本的な知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
パワーポイントを使い、講義形式で行います。授業のはじめに、学習支援システムにアップロードされた受講生からの質問や意見を取り上げてフィードバックし、前回授業の振り返りを行います。
和歌の解釈にあたっては、現代の注釈書のほか、適宜、歌学書や古注釈を参照しながら、解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業計画の説明など
第2回	『百人一首』の謎	成立の問題について
第3回	『百人一首』の謎	二条派歌人の動向
第4回	『百人一首』古注釈	中世・近世の古注釈について
第5回	『百人一首』講読	天智天皇「秋の田の」歌（1）解説
第6回	『百人一首』講読	天智天皇「秋の田の」歌（1）古注釈
第7回	『百人一首』講読	持統天皇「春すぎて」歌(2)解説
第8回	『百人一首』講読	持統天皇「春すぎて」歌(2)古注釈
第9回	『百人一首』講読	後鳥羽院「人もをし」歌(99)解説
第10回	『百人一首』講読	藤原定家と後鳥羽院の関係
第11回	『百人一首』講読	後鳥羽院「人もをし」歌(99)古注釈
第12回	『百人一首』解説	順徳院「ももしきや」歌(100)解説
第13回	『百人一首』解説	順徳院「ももしきや」歌(100)古注釈
第14回	まとめ	授業の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内容をしっかり復習し、理解した上で、次の授業に臨みましょう。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜、プリントを配布します。

【参考書】
・講談社学術文庫『百人一首』（有吉保、講談社、1983年）
・角川ソフィア文庫『新版 百人一首』（島津忠夫、KADOKAWA、1999年）
・角川ソフィア文庫『ビギナーズ・クラシックス　日本の古典　百人一首（全）』（谷知子、KADOKAWA、2010年）
その他の参考書については、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
学期末レポート（70％）、平常点（30％）によって評価します。レポートは【授業の到達目標】①〜③に照らして採点します。また平常点については、毎回、学習支援システムに提出された課題によって授業の理解度を確認します。

【学生の意見等からの気づき】
パワーポイントのスライドのプリントアウトにノートを取ってもらう形を、今年度も継続します。また、双方向授業を目指していきます。

【Outline (in English)】
Course Outline: This course deals with the waka anthology *Hyakunin Isshu* (one hundred waka poems by one hundred poets).
Learning Objectives: The aim of this course is to help students acquire an understanding of the characteristics of Japanese classical literature and waka poetry.
Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end report (70%); short reports (30%).

LIT200BC（文学 / Literature 200）

日本文芸研究特講（3）中世B

阿部　真弓

授業コード：A2666　｜　曜日・時限：火2/Tue.2
秋学期授業/Fall・2単位　｜　配当年次：1〜4年
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
当科目では中世日記文学『とはずがたり』をとりあげます。作者は後深草院に仕えた二条という女性です。若く美しい作者は後深草院の寵愛を受けることになりますが、それが彼女の苦悩の始まりでした。
この作品には、両統迭立期の院御所の有様がつぶさに記され、後深草院と亀山院の対立関係、公卿たちの動向、そしてそうした場で繰り広げられる男女の愛憎劇が描写されており、きわめて複雑な作品構造をしていますが、混沌とした中で一つの軸として見えてくるのは作者自身と後深草院の関係性という問題です。
当授業では、作者が後深草院をどのように描写しているか、院と自分との関係をどのように認識し表現しているのかに注目しながら、読解を進めます。表現・人物造型の方法、政治的動向を描く際の手法等を分析しながら、日記文学の特質や面白さ、また文学史的位置づけについて考察していきます。

【到達目標】
①日記文学に関する基本的な知識を習得する。
②中世の歴史的文化的背景を理解した上で作品を解釈する。
③和歌や物語の享受の様相を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
パワーポイントを使い、講義形式で行います。学習支援システムにアップロードされた質問やコメントに、できるかぎり回答していきながら、授業を進めます。また状況に応じてクリッカーを用い、理解度を確認したり、アンケートをとったりします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業計画の説明など
第2回	『とはずがたり』概説	作品の概要、研究史など
第3回	『とはずがたり』巻一	後深草院との新枕
第4回	『とはずがたり』巻一	後深草院と「雪の曙」
第5回	『とはずがたり』巻一	東二条院へのとりなし
第6回	『とはずがたり』巻二	粥杖事件
第7回	『とはずがたり』巻二	「有明の月」との関係
第8回	『とはずがたり』巻二	六条院の女楽事件
第9回	『とはずがたり』巻三	「有明の月」への仲介
第10回	『とはずがたり』巻三	院御所からの追放
第11回	『とはずがたり』巻四	伏見での邂逅
第12回	『とはずがたり』巻五	熊野での夢想
第13回	『とはずがたり』巻五	後深草院の葬送
第14回	まとめ	授業の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。授業内容を復習し、理解した上で、次の授業に臨むようにしてください。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布します。

【参考書】
参考文献は授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
レポート（70％）、平常点（30％）によって評価します。レポートは【到達目標】①〜③に照らして採点します。また平常点については、学習支援システムに毎回提出してもらう課題によって、授業の理解度を確認します。

【学生の意見等からの気づき】
現代語訳付きプリントを配布する等、古典文学に苦手意識がある人にも理解しやすい、また復習しやすい教材作りに努めます。

【Outline (in English)】
Course Outline: This course deals with *The Confessions of Lady Nijō* (とはずがたり *Towazugatari*).
Learning Objectives: The goal of this course is to help students acquire an understanding of works of courtly literature of the Kamakura period.
Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end report (70%); short reports (30%).

LIT200BC（文学 / Literature 200）

日本文芸研究特講（4）近世A

小林　ふみ子

授業コード：A2669　｜　曜日・時限：火2/Tue.2
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：1〜4年
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【近世文学と古典文学】
江戸時代には、出版文化を背景に中世までのさまざまな古典をふまえた作品が作られました。それら現代でいう二次創作の作品は、原作にたいして、ちゃかしたり、オマージュを捧げたり、態度はさまざまですが、それぞれ原作を当世（現代）＝江戸時代化することで成りたっています。『源氏物語』『平家物語』をはじめ、さまざまな古典文学に親しみつつ、江戸時代的特徴を考える一挙両得の講義です。

【到達目標】
1. 江戸文芸に表れた近世的特徴を理解する。
2. 雅俗にわたり、擬古文と会話体が併存した江戸文芸の表現の多様性を知る。
3. デジタル公開されている江戸の文芸や浮世絵の資料の調査方法を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
２〜３回で１ジャンルを学ぶ。
提供した授業資料と指定したデジタル公開資料などを読み解いてもらい、各ジャンルの特徴を知る。
100分を個人での課題への取り組み、グループ・ディスカッションでの共有、講義などを織りまぜて構成、作品の作り方を追体験してもらうべく、創作にも挑戦する。
発表に対しては授業内でフィードバックし、最終レポートはコメントを付けて返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	江戸時代の特徴を知る。
	パロディ文芸のはじまり①	江戸時代初期のパロディ文芸のなかから『吉原徒然草』を読む
第2回	パロディ文芸のはじまり②	『吉原徒然草』にならってパロディに挑戦する
第3回	近世的『源氏物語』としての『好色一代男』①	西鶴の『好色一代男』巻一－一の設定から光源氏のやつしとしての世之介を考える
第4回	近世的『源氏物語』としての『好色一代男』②	『好色一代男』巻四－二形見の水櫛において『伊勢物語』『源氏物語』がどう活かされているかを考える
第5回	和歌ではなく狂歌で遊ぶ①	狂歌というジャンルと江戸狂歌について知る
第6回	和歌ではなく狂歌で遊ぶ②	歌麿描く江戸狂歌の名作『画本虫撰』を読んで創作にチャレンジする
第7回	和歌ではなく狂歌で遊ぶ③	狂歌とことば遊びの見立絵本『絵本見立仮譬尽』を読み、創作にチャレンジする
第8回	『平家物語』のストーリーをちゃかす-黄表紙①	「源平の戦いも面倒なので」打たれる真似をして茶番で済ませる!?という設定の恋川春町画作『万歳集著微来歴』前半をよむ
第9回	『平家物語』のストーリーをちゃかす-黄表紙②	『万歳集著微来歴』後半を読む
第10回	『平家物語』を言葉でちゃかす-滑稽本①	ことばの面白さを追求した式亭三馬が『平家物語』敦盛最期をちゃかして遊んだ『大千世界楽屋探』を読む
第11回	『平家物語』を言葉でちゃかす-滑稽本②	『大千世界楽屋探』を分析し、創作にチャレンジする
第12回	『源氏物語』を近世化する-合巻①	黄表紙の後継ジャンルである合巻について学び、『偐紫田舎源氏』の大枠を知る
第13回	『源氏物語』を近世化する-合巻②	『偐紫田舎源氏』の『源氏物語』夕顔巻に該当する部分の前半を読む
第14回	『源氏物語』を近世化する-合巻③ まとめ	『偐紫田舎源氏』の夕顔巻に該当する部分の後半を読む 最後にこの時代の文芸の特質を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
期末の試験やレポートを課す代わりに、単元ごとに小課題を出します。
本授業の準備学習は30分・復習時間は平均して3時間程度を標準に考えます。

【テキスト（教科書）】
各回、資料提供し、参照すべきURLを提示します。

【参考書】
長島弘明編『〈奇〉と〈妙〉の江戸文学事典』（文学通信 2019）・小林ふみ子『へんちくりん江戸挿絵本』（集英社インターナショナル［インターナショナル新書］、2019）ほか

【成績評価の方法と基準】
毎回のリアクション・ペーパー（20％）、単元ごとの課題の得点（80％）を合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
口語体の多い江戸文芸ですが、現代語訳を確認しながら進めるようにします。講義と（予習も含めた）個人での読解作業とグループでの解読と全体の共有のよいバランスを模索したいと思います。
グループは、一人で受講する学生も・友だちのいる学生にも公平になるように、できるだけ参加者の意欲の有無で左右されないように工夫したいと思います。そしてなにより、パロディ、妖怪・・・今日のサブカルチャーにも通じる江戸戯作の世界をご堪能ください！

【学生が準備すべき機器他】
デジタル資料の参照を推奨しますので、教室で参加する場合も（スマホでもいいのですが）、ノートパソコンまたはスマホより画面の大きなタブレットを用意すると便利です。図書館のデータベースのうちジャパンナレッジは随時使えるようにしておきましょう。

【Outline (in English)】
Course Outline: Reading and analyzing literature from the Tokugawa period based on the canons such as the tale of Genji or the tale of Heike etc.
Learning Objectives: The main goal of this course is to learn the features of the works from the Tokugawa period compared with the canons from earlier times.
Learning Activities Outside of the Classroom: Preparation for 30 minutes and　Review for **Course Outline**: Reading and analyzing literature from the Tokugawa period based on the canons such as the tale of Genji or the tale of Heike etc.
Learning Objectives: The main goal of this course is to learn the features of the works from the Tokugawa period compared with the canons from earlier times.
Learning Activities Outside of the Classroom: Preparation for 30 minutes, review for 2hours for each class.　It will be about 4 hours, including the time for writing 4 short reports/semester.
Grading Criteria/Policy: Reaction paper (20%), short reports (80%).

LIT300BC（文学 / Literature 300）

日本文芸研究特講（１５）国際日本学Ａ

スティーヴン ネルソン

授業コード：A2703　｜　曜日・時限：金2/Fri.2
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：2〜4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「日本意識」といえるものが芽生え、発展していった現象を概観した後、幕末・明治期の日本の外国とのかかわり合いを、主に2つの観点から考察します。題材として取り上げるのは、幕末から明治期にかけて滞日した外国人（特にイギリス人）の残した文章と、明治期という激変の時代を生き、西洋文明に接した日本の知識人3人が、海外へ発信するために英文で著した次の文献です。
·内村鑑三（1861-1930）*Representative Men of Japan*（代表的日本人、1908。*Japan and the Japanese*［1894］の改訂版）。
· 新渡戸稲造（1862-1933）*Bushido: The Soul of Japan*（武士道、1900）。
· 岡倉天心（1862-1913）*The Book of Tea*（茶の本、1906）。
文学と芸術（美術・音楽）にも触れます。

【到達目標】
· 幕末・明治期に滞日した外国人がどんな印象を持ったか、日本をどう理解したかを知る
· 西洋文明に接した明治期の日本人が、日本文化について何を西洋人に伝えるべきだと思ったかを知る
· 幕末から明治・大正期にかけて日本の文学や芸術が世界的に知られていったプロセスを知る

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
教員による講義が中心ですが、計3回の討論会（授業第5・9・13回）で、複数の学生グループによるプレゼンテーションと議論を行います。履修者は、プレゼンテーションに必ず１回参加するとともに、議論にも参加します。授業第1〜3回にプレゼンテーション打合せ・相談のための時間を設けます。毎回リアクション・ペーパーを提出してもらいます。授業の冒頭、前回の授業で提出されたリアクション・ペーパーからいくつか取り上げ、フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序説	授業履修の意味を確認 アンケート プレゼンテーション担当の調整
第2回	「（国際）日本学」とは	世界の中の日本 文化圏の存在 プレゼンテーションの準備
第3回	日本意識の芽生えと発展	「中華思想」との接触 中世の日本意識 プレゼンテーションの準備（続）
第4回	ヨーロッパ人との出会い 江戸期という「閉ざされた時代」の中で	キリスト教宣教師の見聞（ザビエルとフロイス） 長崎（出島）歴代オランダ商館長らの研究
第5回	討論会① 内村鑑三著『代表的日本人』をめぐって	プレゼンテーションと討論
第6回	明治維新前後の外国人の活躍①	オールコック、アストン等
第7回	明治維新前後の外国人の活躍②	アーネスト・サトウ等 Asiatic Society of Japanの設立と活動
第8回	明治維新前後の外国人の活躍③	チェンバレン、ハーン
第9回	討論会② 新渡戸稲造『武士道』をめぐって	プレゼンテーションと討論
第10回	日本美術とジャポニスム	浮世絵の移入、パリ万国博覧会 印象派への影響
第11回	ジャポニスムと音楽①	オペレッタ《ミカド》、または幕末流行歌《トコトンヤレ節》の大出世
第12回	ジャポニスムと音楽②	オペラ《蝶々夫人》の東洋的表象
第13回	討論会③ 岡倉天心『茶の本』をめぐって	プレゼンテーションと討論
第14回	日本文学の再評価	フェノロサのノートからパウンド・イェイツの能へ ウェイリーが訳した能と『源氏物語』

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第5・9・13回のプレゼンテーションのために計画的に準備を進めること。
第6回　参考書 pp. 10-17
第7回　参考書 pp. 18-23
第8回　参考書 pp. 64-69、70-77
第14回　参考書 pp. 104-111
その他の回　事前に配付されたプリントに目を通し、内容について考えておくこと。
プレゼンテーションに対する議論・コメントを受けて、期末レポートをまとめること。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書を使用しない。

【参考書】
佐伯彰一、芳賀徹編『外国人による日本論の名著　ゴンチャロフからパンゲまで』（中央公論社、1987）中公文庫832（ISBN4-12-100832-4）
その他、授業内に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
リアクション・ペーパー（35％）、プレゼンテーションと議論への参加度（25％）、期末レポート（プレゼンテーションを文章化したもの、40％）。試験はありません。

【学生の意見等からの気づき】
以前、各自のプレゼンテーションが長くなり、時間内に終わらなかったり、討論が十分できないことがあったりしたので、予め時間配分を決めることにしたいと思います。

【その他の重要事項】
担当教員は英語を母語とするオーストラリア人ですが、本講義では元々英語で書かれた文章も原則として和訳で読むので、英語の読解力はあまり問題になりません。ただし、プレゼンテーションのために敢えて英文も読んでみたい学生のためには原文を用意し、読解の指導もします。日本文学科の学生のみならず、哲学科、英文学科、史学科などの学生の履修も歓迎します。

【Outline (in English)】
Course Outline: This class deals with Japan and its relations with the other nations of the world, focussing on the 19th and early 20th century. Introductory lectures deal with the issues of global cultural spheres, and Japan's relations with China and Europe (Spain, Portugal and the Netherlands) in earlier centuries. We then examine accounts of 19th-century Japan written by such figures as Alcock, Aston, Satow, Chamberlain and Hearn. Each student participates in one of three presentations on books written in English by Japanese men of the time: Uchimura Kanzō's *Representative Men of Japan* (1908), Nitobe Inazō's *Bushido: The Soul of Japan* (1900), and Okakura Tenshin's *The Book of Tea* (1906), in an effort to determine what it was about Japan that these men wanted to present to the world. Other lectures deal with the influence of Japanese art and music on 19th-century and early 20th-century Europe, and Europe's discovery of Japanese classical literature. The class uses many sources written in English; existing Japanese translations are provided, and often commented on, by the instructor.
Learning Objectives: Students will gain a comprehensive understanding of the image of 19th-century Japan recorded by foreign visitors to the country, the facets of Japanese culture that the Japanese of the time felt should be communicated to the West, and the process by which Japanese literature and arts came to be known to the world outside Japan's borders.
Learning Activities Outside of the Classroom: Students must prepare their presentations, deliver them, and write them up as their final report. Sections of reference works are required reading for certain classes; other materials for required reading are distributed electronically prior to the class in which they are dealt with.
Grading Criteria/Policy: Reaction paper (submitted after each class) 35%; participation in presentation and discussion 25%; final written report 40%.

LIT300BC（文学 / Literature 300）

日本文芸研究特講（１５）国際日本学Ｂ

スティーヴン ネルソン

授業コード：A2704　｜　曜日・時限：金2/Fri.2
秋学期授業/Fall・２単位　｜　配当年次：2〜4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
秋学期は第二次世界大戦後間もなく、アメリカ合衆国の文化人類学者のルース・ベネディクトによって書かれた*The Chrysanthemum and the Sword*（菊と刀、1946）と、それが引き起こした議論を取り上げます。後年特に注目された「恩」「義理」「恥」に関する章を、学生グループのプレゼンテーションを交えながら詳しく検討します。その他、1960年代以降の日本人論・日本文化論や、それに対する批判をみていきます。また、日本文学の国際的な広がりについても考えます。

【到達目標】
・「文化の型」という見方で20世紀前半の日本を捉えた*The Chrysanthemum and the Sword*の中で、後年特に影響が大きかった要素を知る
・戦後、特に1960年代以降に激増した「日本論」「日本人論」「日本文化論」の内容を客観的・批判的に考えることができる
・戦後、日本の文学が世界的に評価されるようになったプロセスを知る

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
教員による講義が中心ですが、計3回の討論会（授業第5・9・12回）で、複数の学生グループによるプレゼンテーションと議論を行います。履修者は、プレゼンテーションに必ず１回参加するとともに、議論にも参加します。授業第1〜3回にプレゼンテーション打合せ・相談のための時間を設けます。毎回リアクション・ペーパーを提出してもらいます。授業の冒頭、前回の授業で提出されたリアクション・ペーパーからいくつか取り上げ、フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序説	授業履修の意味を確認 プレゼンテーション担当の調整
第2回	『菊と刀』①	ベネディクトの主張① プレゼンテーションの準備
第3回	『菊と刀』②	ベネディクトの主張② プレゼンテーションの準備
第4回	『菊と刀』③	青木保（「日本文化論」の変容」）の捉え方を読む 『菊と刀』の「受容」
第5回	討論会①『菊と刀』の「恩」をめぐって	プレゼンテーションと討論 第5章 “Debtor to the Ages and the World” と第6章 “Repaying One-Ten-Thousandth”
第6回	日本文学、世界文学へ	第二次世界大戦がきっかけとなって日本文学にかかわるようになった キーン、サイデンステッカー 等の活躍
第7回	60〜70年代の日本人論	中根千枝、土居健郎、山崎正和等、河合隼雄、角田忠信、ライシャワー 等
第8回	日本人論の特徴	日本人、日本語、日本社会にかかわる言説のさまざま（極論も含めて）
第9回	討論会②『菊と刀』の「義理」をめぐって	プレゼンテーションと討論 第7章 “The Repayment Hardest to Bear” と第8章 “Clearing One’s Name”
第10回	翻訳の可能性	古典文学の翻訳、能への関心、ロイヤル・タイラー
第11回	日本人論、日本文化論への批判①	李御寧（イ・オリョン）、ハルミ・ベフ、青木保、ピーター・デール、井上章一、古谷野敦
第12回	討論会③『菊と刀』の「恥」をめぐって	プレゼンテーションと討論 第10章 “The Dilemma of Virtue” と第12章 “The Child Learns”
第13回	日本人論、日本文化論への批判②	デールの「恥の文化の恥」論
第14回	日本文化論の今後	東アジアの中の日本

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第5・9・12回のプレゼンテーションのために計画的に準備を進めること。
第2回　参考書① pp. 182-187
第4回　参考書② pp. 31-55
第6回　参考書① pp. 214-219、266-271
第7回　参考書① pp. 248-253
第11回　参考書① pp. 260-265
その他の回　事前に配付されたプリントに目を通し、内容について考えておくこと。
プレゼンテーションに対する議論・コメントを受けて、期末レポートをまとめること。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書を使用しない。

【参考書】
①佐伯彰一、芳賀徹編『外国人による日本論の名著　ゴンチャロフからパンゲまで』（中央公論社、1987）中公文庫832（ISBN4-12-100832-4）
②青木保『「日本文化論」の変容　戦後日本の文化とアイデンティティー』（中央公論社、1990）中公文庫533、1999（ISBN4-12-203399-3）

【成績評価の方法と基準】
リアクション・ペーパー（35％）、プレゼンテーションと議論への参加度（25％）、期末レポート（プレゼンテーションを文章化したもの、40％）。試験はありません。

【学生の意見等からの気づき】
以前、各自のプレゼンテーションが長くなり、時間内に終わらなかったり、討論が十分できないことがあったりしたので、予め時間配分を決めることにしたいと思います。

【その他の重要事項】
担当教員は英語を母語とするオーストラリア人ですが、本講義では元々英語で書かれた文章も原則として和訳で読むので、英語の読解力はあまり問題になりません。ただし、プレゼンテーションのために敢えて英文も読んでみたい学生のためには原文を用意し、読解の指導もします。日本文学科の学生のみならず、哲学科、英文学科、史学科などの学生の履修も歓迎します。

【Outline (in English)】
Course Outline: This class deals with issues in the field of Japanology (Japanese studies) in the post-war era, especially in connection with Ruth Benedict’s *The Chrysanthemum and the Sword* (1946). After initial lectures on the content of Benedict’s book, students participate in one of three presentations on Benedict’s discussion and understanding of the Japanese concepts of *on* (Chapters 5 &6), *giri* (Chapters 7 &8), and *haji* (Chapter 10). Other topics of lectures given by the instructor include the Nihonjinron (studies of the Japanese) of the 1960s and 1970s, criticisms of these studies in succeeding decades, and trends in the translation of Japanese classical literature in the post-war era. The class uses many sources written in English; existing Japanese translations are provided, and often commented on, by the instructor.
Learning Objectives: Students will gain a comprehensive understanding of the elements of Benedict’s book that had a particularly strong influence on the development of Nihonjinron and Japanese cultural studies within Japan in the second half of the 20th century, will learn how to view these objectively and critically, and will also gain an understanding of international reception of Japanese literature, focusing on its classical genres.
Learning Activities Outside of the Classroom: Students must prepare their presentations, deliver them, and write them up as their final report. Sections of reference works are required reading for certain classes; other materials for required reading are distributed electronically prior to the class in which they are dealt with.
Grading Criteria/Policy: Reaction paper (submitted after each class) 35%; participation in presentation and discussion 25%; final written report 40%.

HIS200BE（史学 / History 200）

日本考古学

高橋　健

授業コード：A3113　｜　曜日・時限：月2/Mon.2
秋学期授業/Fall・2単位　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：**他学部公開制度のない学部の学生が履修する場合は資格科目用（A3856）で履修する。**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本列島の旧石器時代から古墳時代にかけての歴史展開において、物質文化にもとづいて講義する。
社会を支える食料の獲得・生産の方法が時代によってどのように変化したのかを学ぶ。

【到達目標】
日本列島の環境に適応したそれぞれの時代の生業とその特徴について説明することができる。また、考古資料から生業にアプローチする方法とその有効性について説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
人間の生活のもっとも基礎となる食料の獲得・生産・加工の方法がどのように変化したのかを、考古資料にもとづいて探る。各回の授業でトピックを設定して行う予定である。
授業方法は講義形式による。授業はパワーポイントを使用するが、プリントも併用する。質問やリアクションペーパーへのフィードバックについては授業時間内に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	概要説明	授業の方法・評価基準　この授業で扱う時代の概説
第2回	旧石器時代の環境	遊動的な生活
第3回	旧石器時代の生活	洞穴遺跡の生業
第4回	縄文時代の環境	時期と地域による環境の変化
第5回	縄文時代の生業①	貝塚と動物質食料
第6回	縄文時代の生業②	植物質食料を探る
第7回	縄文時代の生業③	理化学的分析など
第8回	縄文時代の調理	土器を使った料理
第9回	弥生時代の生業①	穀物栽培の開始
第10回	弥生時代の生業②	農耕民による狩猟と漁労
第11回	弥生・古墳時代の調理	コメ調理方法の変化
第12回	北方地域の生業①	稲作を行わなかった文化：続縄文文化・擦文文化
第13回	北方地域の生業②	外来の文化：オホーツク文化
第14回	総括	考古学からみた生業の変遷

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参考書等をよく読み、時代ごとの特徴を理解するとともに、環境と生業についての知見を深めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
西本豊弘・新美倫子編2010『事典人と動物の考古学』吉川弘文館
工藤雄一郎他編2013『ここまでわかった! 縄文人の植物利用』新泉社
横浜市歴史博物館編2019『おにぎりの文化史』河出書房新社
その他の参考書は、授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
成績の70％は物質文化を扱うレポート評価とする。平常点は30％とする。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】
※担当者は博物館学芸員として実務経験を有しており、授業では物質資料にもとづく歴史展開を中心に講義する。

【Outline (in English)】
（Course outline）
This class will cover the historical development of Japan from the Paleolithic to the Kofun period, based on material culture.
（Learning Objectives）
Students learn how the methods of acquiring and producing food have changed over time.
（Learning activities outside of classroom）
The standard time for preparation and review for this class is two hours each. Students should read references to understand the characteristics of each eras and deepen their knowledge of the environment and subsistence.
（Grading Criteria /Policy）
Submit a reaction paper for each class. Your overall grade in the class will be decided based on term-end report (70%) and in class contribution (30%).

HIS200BE（史学 / History 200）

日本近世史

大橋　幸泰

授業コード：A3116　｜　曜日・時限：木2/Thu.2
秋学期授業/Fall・2単位　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、日本列島に生活した過去の人々の営為のうち、おもに近世人(江戸時代に生きた人々)の生活を材料に、歴史を学ぶことの意味を考えようとするものである。近世は前近代的な要素と近代的な要素の両方の性格が混在していた時代である。この時代を通じて、前近代の秩序が変化し、近代の秩序が準備されたと言い換えることもできる。しかし、近世が、前近代から近代への単なる過渡期だったとはいえない。近世にはその時代固有の常識や価値観が存在したことも事実であるからだ。この講義では、近世日本の政治・経済・文化の諸相から、近代・現代の秩序とは異なる近世独自の秩序を見いだし、その特徴について考えるための材料を提供しよう。

【到達目標】
歴史学は過去の人々の営為を時系列的に理解し、人々を取り巻く秩序がどのように変化してきたかを考える学問である。私たち現代人が常識だと思い込んでいることは、実は過去の人々にとっても常識であったとは限らない。過去の人々は現代人とは異なる常識や価値観のなかで生きていた。私たちが目にする現代の諸問題には、現代人が自分の常識や価値観を疑わないために生じていることも少なくない。私たちの常識や価値観は歴史的産物であることを知って初めて私たちはそれらを相対化することができ、そこに内在する問題に向き合うことが可能となる。本講義で扱う近世日本の政治・経済・文化の諸相は、そのための材料である。したがって、この講義の到達目標は、近世日本の秩序が近代・現代の秩序とはどのように異なっているかを理解し、現代人の常識や価値観のどこにどのような問題が内在しているかを知ることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
教員による講義を基本とするが、受講生には毎回200〜400字程度で、講義を要約した講義記録を提出することを求める。第7回と第13回では、講義内容をめぐってディスカッションする時間を設ける。また、講義の予習として、教科書として指定した牧原成征編『日本史の現在4 近世』の該当箇所を熟読してくることを求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス／歴史的存在としての私たち―日常生活のサイクル	本講義の目的と概要について説明するとともに、前近代と近現代との差異について、日常生活のサイクルを材料に講義する。
2	幕藩体制の成立と幕府政治	「1天下人による列島統合」「5泰平の世の幕府政治」について扱う。
3	17世紀の朝廷と幕府	「2近世前期の朝廷と文化」「3近世前期の政治と外交」について扱う。
4	身分とジェンダー	「4身分社会の見方」「18近世社会におけるジェンダー」について扱う。
5	藩世界の秩序	「6藩から江戸時代を見直す」「11大名屋敷と江戸の都市社会」について扱う。
6	民衆の生活と政治意識	「7環境と生業」「8民衆思想と民衆運動」について扱う。
7	中間小活	近世秩序の成立と展開について議論する。
8	琉球と蝦夷地	「9近世日本と清・琉球」「16列島北方の社会と交流」について扱う。
9	商業活動と出版文化	「10商人の活動と交通」「13知と書物の広がり」について扱う。
10	災害と病	「12近世の大火・水害・地震」「17医療をめぐる社会と文化」について扱う。
11	地域社会と民衆文化	「14土豪・豪農と地域社会」「15歌舞伎・浄瑠璃にみる民衆文化」について扱う。
12	19世紀の政治と対外関係	「19大御所時代」「20世界の中の幕末日本」について扱う。
13	総括	近世秩序の変容と崩壊について議論する。
14	総復習	試験を含む。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義の予習として、教科書として指定した牧原成征編『日本史の現在4 近世』の該当箇所(各回内容の番号は同書の章番号)を熟読してくることを求める。授業後は、講義中に紹介した参考文献の他、関連する研究文献を自分で探して知見を広げてほしい。事前・事後の学習はそれぞれ2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
牧原成征編『日本史の現在4 近世』(山川出版社、2024年)【要購入】

【参考書】
深谷克己著『日本の歴史6 江戸時代』(岩波ジュニア新書、2000年)
その他、適宜必要に応じて講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
試験60％／日本近世史の基本的な概念が理解できているかが試される。
レポート30％／学期末までに、講義に関する文献を論評するレポートを求める。
平常点評価10％／毎回、200〜400字程度で、講義を要約した講義記録を提出することを求める。
その他／レポートを提出した者が試験の受験資格を有する。平常点が０点である場合、単位の取得は困難であることを付記する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックなし。

【Outline (in English)】
This lecture aims to consider the meaning of studying history by examining the activities of people who lived in the Japanese archipelago in the past, primarily those who lived in the early modern period (those who lived during the Edo period). The early modern period was a time when both pre-modern and modern elements coexisted. It can also be said that throughout this period, the pre-modern order changed and the modern order was prepared. However, the early modern period cannot be said to have been a simple transitional period from pre-modern to modern. This is because it is also true that the early modern period contained common sense and values unique to that time. In this lecture, we will look at various aspects of early modern Japan's politics, economy, and culture to discover the unique order of the early modern period, which differed from modern and contemporary orders, and provide material for thinking about its characteristics. Grades will be assessed based on 60%exams, 30%short reports, and 10%daily class performance.

HIS200BE（史学 / History 200）

考古学概論

高橋　健

授業コード：A3152　｜　曜日・時限：月2/Mon.2
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：他学部公開制度のない学部の学生が履修する場合は資格科目用（A3855）で履修する。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
旧石器時代から古墳時代までの概要を学ぶ。
日本史の基盤となる原始・古代の人間集団の動向を理解し、歴史学・考古学の研究を行う上で不可欠な歴史的事実の解釈方法を身につけることを目標とする。

【到達目標】
考古学的な成果に基づいて、各時代における文化的な特色、人々の自然環境・社会環境への対応、人間集団のありかたについて説明することができるとともに、それらを比較検討することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
日本列島において人類が活動を開始した旧石器時代から、狩猟・採集経済に生活の基礎がおかれた縄文時代、大陸型の水稲耕作が広がった弥生時代、前方後円墳が営まれ政治権力が発達した古墳時代までの展開について、考古資料を中心として学ぶ。また稲作導入後に異なる歴史をたどった北海道島についても扱う。
授業方法は講義形式による。授業はパワーポイントを使用するが、プリントも併用する。質問やリアクションペーパーへのフィードバックについては授業時間内に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業の概要と方法・評価基準
第2回	旧石器時代の姿	人類の進化と旧石器文化
第3回	日本の旧石器文化	日本列島における旧石器文化の展開
第4回	縄文時代の概要	地域的・時期的な多様性と共通性
第5回	縄文時代の生業	狩猟・漁労と採集・栽培
第6回	縄文時代の社会	集落と墓からみる社会構造
第7回	縄文から弥生へ	稲作の伝来と社会の変化
第8回	弥生のムラの姿	環濠集落と集団関係
第9回	青銅器と貝製品	遠くに運ばれる儀礼の道具
第10回	弥生墓制と社会の特質	地域的な墓制の展開と地方間の関係
第11回	続縄文文化	稲作を行わなかった地域
第12回	前方後円墳の成立と波及	古墳の成立と社会
第13回	古墳文化の変容と終焉	技術革新と古代国家への道
第14回	擦文文化とオホーツク文化	アイヌ文化の祖先

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関連文献を読み、旧石器時代から古墳時代にかけての理解を深めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
日本列島を中心とした旧石器時代から古墳時代にかけての概説書を読んでおくこと。このほかの文献については授業内で紹介する。
佐々木憲一ほか（2011）『はじめて学ぶ考古学』有斐閣アルマ
佐藤宏之（2019）『旧石器時代　日本文化のはじまり』敬文舎
今村啓爾（2017）『縄文文化　考古調査ハンドブック17』ニューサイエンス社
石川日出志（2010）『農耕社会の成立　シリーズ日本古代史1』岩波新書
白石太一郎（2001）『古墳とその時代　日本史リブレット4』山川出版

【成績評価の方法と基準】
期末に論述式の筆記試験を行う（ノート持ち込み可）。試験は成績評価の70％とする。平常点は成績評価の30％とする。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】
※担当者は博物館学芸員として実務経験を有しており、授業では物質資料にもとづく歴史展開を中心に講義する。

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will learn an overview of the Japanese archipelago from the Paleolithic period to the Kofun period.
（Learning Objectives）
The purpose of this course is to understand the trends of primitive and ancient human groups, which form the basis of Japanese history, and to learn how to interpret historical facts, which are essential for conducting historical and archeological research.
（Learning activities outside of classroom）
Students should read related literature and deepen their understanding of the period from the Paleolithic period to the Kofun period. The standard time for preparation and review for this class is two hours each.
（Grading Criteria /Policy）
Submit a reaction paper for each class.
Grading will be decided based on %)%), term end examination (70%) and in class contribution (30%).

HIS200BE（史学 / History 200）

日本史特講Ⅳ

中山　学

授業コード：A3157　｜　曜日・時限：水3/Wed.3
秋学期授業/Fall・2単位　｜　配当年次：2〜4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
当科目では、江戸幕府第８代の将軍、徳川吉宗の活動に注目します。この人物は、次期将軍に内定してから間もない正徳６年（1716）６月３日における「御代々の御書物目録」の閲覧を手始めとして、在職中は一貫して徳川将軍家伝世の諸書物の校合、校勘に注力しました。具体的には、自らも武家方や堂上方の儀礼の成り立ちに関して示唆的な書物の「御見合」、「御引合」を行いつつ、御書物奉行や幕府内外の諸学者にも命じて諸書物のテキストを点検、精査させました。当科目では、その事業過程における吉宗本人の活動を復元的に考察するところから、こうした作業がいったい何のために実施されたものか検討します。歴史的なテキストそれ自体に権威を付与、温存させしてゆく中心化のあり方にも注意を払いながら、現代を生きる私たちとの連関についても考えたいと思っています。

【到達目標】
史料に基づき、徳川吉宗が実施した伝世書物の「御見合」の目的とその歴史的意義を論じることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
史料を読み解きながら講義を実施します。また、学習内容の整理と理解確認のために授業実施期間中にリポート作成を２回課し、それへのフィードバックによって理解を助けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに（ガイダンス）	当科目の目的、進め方、成績評価の方法等
第2回	吉宗と書物(1)	正史中の逸話
第3回	吉宗と書物(2)	逸話が示す吉宗の視界
第4回	吉宗と将軍家「御文庫」(1)	「御文庫」の機能、性格
第5回	吉宗と将軍家「御文庫」(2)	先行研究にみる吉宗の実績、目録への関心
第6回	将軍襲職内定後の初動(1)	書物目録の請求
第7回	将軍襲職内定後の初動(2)	初の請求書物、その後の継続閲覧
第8回	旧家家伝書への関心(1)	幕臣小笠原常春、小笠原持廣との接触
第9回	旧家家伝書への関心(2)	幕臣伊勢貞益との接触
第10回	旧家家伝書への関心(3)	「犬追物類聚」、「流鏑馬類聚」の成立
第11回	書物「御見合」とその意義(1)	『寛政重修諸家譜』所載の小笠原持廣の経歴にみる吉宗の活動
第12回	書物「御見合」とその意義(2)	『略譜』所載の小笠原持廣の経歴にみる吉宗の活動
第13回	書物「御見合」とその意義(3)	『寛政重修諸家譜』の作為
第14回	おわりに	歴史的テキスト、権力、伝統の創出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
①本授業の準備学習・復習：各2時間
②授業実施期間中のリポート作成2回：各4時間程度
③フィールドワーク（史料保存機関の見学及び史料の原本実見）：教員引率１時間程度（ただし授業時間外で実施、参加任意）

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。史料を配付します。

【参考書】
辻　達也『徳川吉宗公伝』東照宮（1962年）
福井　保『江戸幕府の参考図書館　紅葉山文庫』郷学舎(1980年)
辻　達也『徳川吉宗』吉川弘文館(1985年)
吉岡　孝「吉宗政権における古式復興と儀礼」『国史學』第200号所収（2010年）
小川剛生『日本史リブレット78　中世の書物と学問』山川出版社(2013年3刷)

【成績評価の方法と基準】
授業実施期間中リポート２回（50％）、期末リポート（50％）

【学生の意見等からの気づき】
講義編制を見直し、学生が史料の読解、内容消化の時間を確保できるように工夫しました。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン（リポート提出等に学習支援システムを使用するのため）
ノート１冊（講義メモ用）
ファイルまたはフォルダ（配布史料の保管と毎回授業への持参のため）

【Outline (in English)】
（Course outline）
In this course, we will focus on the activities of Tokugawa Yoshimune, the eighth shogun of the Edo shogunate.During his time as a shogun, this person focused on proofreading books collected by successive shoguns since Tokugawa Ieyasu.He himself proofread the texts of historical books originating from ancient or medieval times that teach the origins of the rituals of court nobles and samurai families, while also ordering book magistrates and scholars to inspect and scrutinize the texts of books in various fields.
In this course, we will examine Tokugawa Yoshimune's own activities in the course of his business from a reconstructive perspective. Then, consider why such work was carried out.While paying attention to the centralization that gives and preserves authority to historical texts themselves, I would also like to think about how they relate to us.
As a side note, the lecture will proceed while reading early modern Japanese historical materials related to this theme.
(Learning activities outside of classroom)
1.Preparatory study/review: 2 hours each
2.Report creation 2 times during the course: approximately 4 hours each
3.In addition, tours of historical materials preservation facilities and viewing of original historical materials: Approximately 2 to 3 hours led by a teacher (separate guidance will be provided during the class period)
(Grading Criteria /Policy)
Several reports submitted during the course:50%
Course-end report:50%

HIS200BE（史学 / History 200）

東洋史特講Ⅲ

芦沢　知絵

授業コード：A3164　｜　曜日・時限：金2/Fri.2
秋学期授業/Fall・2単位　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は「近現代の中国経済史」をテーマとする。
中国の経済発展は今や目覚ましい。一方、中国がなぜこれほど急速な発展を遂げたのか、また中国経済の実態や構造はどのようなものなのか、疑問を持つ人も多いであろう。そもそも歴史を振り返ってみれば、近代以前の中国は、政治的にも経済的にもアジアの中心であった。しかし、近代以降は列強の進出や戦争の影響により、中国経済は「停滞」したとされる。もっとも、近年の研究では、上海などの沿海都市部における、近代産業の発展的側面も明らかにされつつある。
本授業では、こうした最新の研究成果や諸資料をもとに、中国がどのような過程を経て今日の経済発展に至ったのか概観する。その上で、現在にも通じる中国経済の特質・問題点とは何か、歴史的な視点から共に考えていきたい。

【到達目標】
近現代における中国経済の変遷をたどり、中国近現代史及び中国経済史に関する知識や理解を深めるとともに、歴史的視点からみた中国経済の特質・問題点について、主体的に考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
原則として対面授業を実施する。基本的に講義形式をとり、毎回授業後にリアクションペーパーを提出する。提出されたリアクションペーパーは、次回授業時に一部を公開・回答し、フィードバックを行う。また、本授業ではやや専門的な内容を扱うため、中国近現代史の概略については、各自である程度の予習が必要となる場合もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	中国経済史入門	中国経済史を学ぶ意義・方法
第2回	前近代の中国経済	伝統的商業秩序の形成
第3回	清末の近代化①	開港と外国資本
第4回	清末の近代化②	洋務運動と殖産興業
第5回	民国期の産業勃興①	新興資本家の出現
第6回	民国期の産業勃興②	軍閥と地方財政
第7回	国民政府の経済政策①	中央集権化と幣制改革
第8回	国民政府の経済政策②	戦時下の動員・統制
第9回	戦後の香港・台湾経済	冷戦期の華人資本
第10回	社会主義計画経済①	集団化と国有化
第11回	社会主義計画経済②	政治運動と混乱・停滞
第12回	改革開放と経済成長①	市場経済への移行
第13回	改革開放と経済成長②	WTO加盟とグローバル化
第14回	現在の中国経済	発展と社会矛盾

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回授業後にリアクションペーパーを提出する。また、授業内で紹介した参考文献や配布資料をもとに知識と理解を深めるほか、中国経済に関するニュースや新聞・雑誌記事にも自主的に目を通し、問題意識を高める。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
主な概説書は以下。その他は授業内で紹介する。
岡本隆司編『中国経済史』名古屋大学出版会，2013年.（第4・5章）
久保亨・加島潤・木越義則『統計でみる中国近現代経済史』東京大学出版会，2016年.
丸川知雄『現代中国経済 新版』有斐閣，2021年.

【成績評価の方法と基準】
① 平常点　30％
主に毎回授業後に提出するリアクションペーパーを評価対象とする。
② 期末レポート　70％
授業内容に関するテーマをもとにレポートを執筆し提出する。

【学生の意見等からの気づき】
初学者にも理解しやすい講義を心がけ、写真や映像などの視覚的な資料も多く用いる。また、毎回リアクションペーパーへのフィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】
授業連絡・資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】
中国経済の動向に合わせて、授業計画を一部変更する場合がある（授業内で通知）。

【Outline (in English)】
This course introduces the history of the modern Chinese economy. The goal of this course is to understand the historical process and problems of China's economic growth.
After each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.
Final grade will be decided based on term-end report (70%) and in-class contribution (30%).

HIS200BE（史学 / History 200）

西洋史特講Ⅳ

皆川　卓

授業コード：A3171　｜　曜日・時限：月4/Mon.4
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中世から近代までの歴史を通してヨーロッパの「国家的アイデンティティ」（national identity）を学びます。最初に近代の「ナショナリズム」の構造を紹介し、近代人の中にも無限に多様な「ナショナリズム」があること、しかしそれにも拘わらず何らかの歴史的事情によって一定の地域毎に統合されていることを確認します。そののちそれぞれタイプの異なるフランス、ブリテン（イギリス）およびドイツ（旧神聖ローマ帝国）の状況を概観し、何がそれぞれをまとめるのかを学びます。

【到達目標】
「ナショナリズム」が近代主権国家の諸条件のもとで成立すること、その方向性が各国の近世の歴史的発展に依拠することを学ぶとともに、そこで創られたさまざまなコンセプトが、どのようなメカニズムのもとで国への感情的執着に発展するのかを、それぞれタイプの違う近世史を抱えるヨーロッパ三か国の例から理解し、歴史的観点から合理的・客観的に説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
スライドとプリントによる系統的なスタイルでの講義形式を中心に行います。単元の終了毎（原則として対面ですが、オンライン回にせざるを得ない場合はその都度）に、オンライン掲示による小テストを実施し、到達度を測ります。対面による質問は随時受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「国家的アイデンティティ」(national identity)とは何か	受講者が日々触れる現代生活における文化と情念の関係を分析しながら、社会秩序や社会的価値への愛情が成立・発展する心的条件を論じます。
第2回	ナショナリズムの光と影	ナショナリズムの出発点となる情念が社会価値化するメカニズムを解析し、ナショナリズムの多義性と多様性を各国近世・近代史の特徴的な出来事から明らかにします。
第3回	近代以前に国民主義は存在するか（1）	ナショナリズム現象とされる活動を歴史の諸例から取り上げ、ゲルナー、ホブズボーム、アンダーソン、スミスなど近年の諸説に照らしながら、その類型を提示します。
第4回	近代以前に国民主義は存在するか（2）	前近代史の中に、近代になって初めてナショナリズムの神話形成に用いられるトピックが多数あることを確認します。
第5回	歴史の中のエスニシティとその分析方法（1）	現代ヨーロッパにおける遺伝子ビッグデータの成果などから、「民族」が文化的集団であることを確認し、その基準であるエスニシティとは何かを、機能的な側面から分析します。
第6回	歴史の中のエスニシティとその分析方法（2）	エスニシティを分析するには、その歴史的文脈、特に集団同士の関係に注目することがポイントであることを実証的に紹介します。
第7回	近世の国家と個人の帰属意識を重ねる試み―「王国」のフランス（1）	君主の身体と血統の中にエスニシティを見る伝統を発展させたフランス王国の例を紹介し、他のエスニック要素も展望しながらそのメカニズムを解き明かします。
第8回	近世の国家と個人の帰属意識を重ねる試み―「王国」のフランス（2）	君主の血統の中にエスニシティを見る伝統を発展させたフランス王国の例を紹介し、他のエスニック要素も展望しながら、普遍的な性格を持つ新しいエスニシティを発見する過程を分析します。
第9回	近世の国家と個人の帰属意識を重ねる試み―「帝国」のブリテン（1）	「議会の中の王」「幸いなる島国」「反カトリシズム」「商業国家」など多様なエスニック要素を組み合わせて小国を束ね、大国化したブリテン（イギリスの）例を紹介します。
第10回	近世の国家と個人の帰属意識を重ねる試み―「帝国」のブリテン（2）	ブリテンに束ねられたスコットランド、アイルランドなどの小国の視点とそれらのリアクション形成、そしてそこから生じる垂直的・水平的なアイデンティティの多元性を論じます。
第11回	近世の国家と個人の帰属意識を重ねる試み―「民族」のドイツ（1）	統一的な主権国家とは異なり、新旧の要素が同居する多元的な秩序を生み出した神聖ローマ帝国の特徴と、それをサポートするものとして生み出された「ドイツ」の観念の起こりを紹介します。
第12回	近世の国家と個人の帰属意識を重ねる試み―「民族」のドイツ（2）	神聖ローマ帝国の国家連合化によるアイデンティティの空白を埋める目的で「ドイツ」が文化的共同体に発展する過程を論じます。
第13回	近世の国家と個人の帰属意識を重ねる試み―「民族」のドイツ（3）	「ドイツ」アイデンティティが他国との関係に対する優越的価値「民族」となり、秩序も個人もそれに支配されていく過程を分析します。
第14回	総合評価とまとめ－「愛国」のカルテ	近世ヨーロッパ各国の国家的アイデンティティを構成する要素とその組み合わせのタイプを振り返り、それらとの比較から歴史的な「愛国」とは何かを、「少数民族」の観点も展望しながら相対化し、批判的にまとめます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・事前に配布されるプリントは必ず授業前に読み、大まかな内容は頭に入れておきます（毎回1時間）。
・授業前に参考書やネットを通じて、始めて知る言葉、名前しか知らない言葉について一通り調べ、プリントにメモをします（毎回1時間）。
・授業終了後、授業中に分からなかった点について、自分で調べたり教員に質問します（毎回1時間）。
・授業を聞いて考えた点をメモを取り、期末レポートの作成に備えておきます（毎回1時間）

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。（配布プリントがその機能を担います）

【参考書】
E. ホブズボウム／T. レンジャー『創られた伝統』紀伊国屋書店 1992
E. ゲルナー『民族とナショナリズム』岩波書店 2000
B. アンダーソン『想像の共同体』NTT出版 1997
A.D. スミス『ネイションとエスニシティー歴史社会的考察』名古屋大学出版会 1999
F. ブローデル『フランスのアイデンティティ』（第1篇・第2編）論創社 2015
H. トーマス『中世の「ドイツ」－カール大帝からルターまで』創文社 2005
松本彰・立石博高『国民国家と帝国』山川出版社 2005
谷川稔『国民国家とナショナリズム』山川出版社 1999
指昭博編『王はいかに受け入れられたか―政治文化のイギリス史』刀水書房 2008
岩井淳・指昭博編『イギリス史の新潮流―修正主義の近世史』彩流社 2000
その他教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】
・評価は平常点（20%）、単元毎の小テスト（30%）、期末レポート（50%）を総合して評価します。
・ナショナリズムを含む国家的アイデンティティの歴史的変遷を知識として正確に把握できているか【第1評価プロセス：単元毎の小テスト30%に照応】、各時代の国家的アイデンティティを歴史学の方法に従って経験科学的・論理的に分析し、説明できるか【第2評価プロセス：期末レポート50%に対応】、が基準となります。

【学生の意見等からの気づき】
・欠席者がついて行けなくなる事態を防ぐため、最初に15〜20分程度、前回の内容の復習時間を取ることにします。
・小テストの回答はある程度時間を取っていますが（2週間程度）、事情により遅れても提出できるようにします（ただしやむを得ない事情以外、期日を守っている受講生との公平性を考慮し、一定の減点をします）。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】：We learn about Europe's "national identity" throughout history, from the Middle Ages to modern times. First, I will introduce the structure of modern "nationalism" and confirm that there is an infinite variety of "nationalism" among modern people, but that it is nevertheless integrated in a certain region due to some historical circumstances. You will then get an overview of the different types of France, Britain (Great Britain) and Germany (formerly the Holy Roman Empire) and learn what brings them together.
【到達目標（Learning Objectives）】：We come to understand that "nationalism" is established under the conditions of modern sovereign states and that its direction depends on the historical development of each country in the early modern period, and that the various concepts created there will develop into emotional attachment to their countries by understanding the mechanisms by which they develop into emotional attachment to their countries from the examples of three European countries with different types of early modern histories, and to explain rationally and objectively from a historical perspective.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
・Be sure to read the handouts distributed in advance before class and keep the general contents in mind (1 hour each time).
・Before class, you will look up all the words you know for the first time or words you only know by name through reference books and the Internet, and make notes on printouts (1 hour each time).
・After the class, you will do your own research or ask questions to the instructor about points that you did not understand during the class (1 hour each time).
・Take notes on what you thought after listening to the class and prepare for writing a final report (1 hour each time)
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】：・The evaluation will be based on a combination of normal scores (20%), quizzes for each unit (30%), and final reports (50%).
・The criteria are whether the student has an accurate grasp of the historical transition of national identity, including nationalism as knowledge [1st evaluation process: in light of 30%of the quiz for each unit], and whether the national identity of each era can be analyzed and explained empirically and logically according to the method of historiography [2nd evaluation process: corresponding to 50%of the final report].

HIS200BE（史学 / History 200）

西洋史特講Ⅴ

皆川　卓

授業コード：A3172　｜　曜日・時限：水2/Wed.2
秋学期授業/Fall・2単位　｜　配当年次：2〜4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近世ヨーロッパにおきる社会的流動性（social mobility：地位、身分、職業や職場、信仰、居住地などの変更）が、人や人の集団同士の生活やアイデンティティ、仕組みに与えた影響かについて、近年の研究成果を紹介します。受講者はそこから、社会的流動性が歴史の発展に深くかかわっていることを学ぶとともに、さまざまな成長期の社会に生きる人々が、いかにして社会に前向きに関われるかを省察します。

【到達目標】
近世ヨーロッパの人々は、現代から見れば経済成長率が極端に低い中にあっても、自ら身分や地位、職業や活動地域の変更を求め、異なる環境の衝撃に耐えて自らを活かす可能性を拓くばかりでなく、自分の求めた自分を実現する社会的枠組みをも形成していった。この近世ヨーロッパ「社会」の動的側面の実相と、それが近代の形成に果たした役割を多角的に学び、社会的流動性が持つ可能性を客観的に理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
スライドとプリントによる系統的なスタイルでの講義形式を中心に行います。単元の終了毎（原則として対面ですが、オンライン回にせざるを得ない場合はその都度）に、オンライン掲示による小テストを実施し、到達度を測ります。対面による質問は随時受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	社会的流動性とは何か（1）	社会的流動性（社会移動）は人間生活の活力を左右する基礎的条件ですが、それが分析の対象となることは多くありません。身近な生活を例に、社会的流動性とは何かを簡単に紹介します。
第2回	社会的流動性とは何か（2）	社会的流動性を歴史的に見ると、どのようなことが分かってくるかを、高校までの既習知識の中にある事例から指摘し、それが過去の社会の分析に有効であることを論じます。
第3回	中世ヨーロッパの社会的流動性（1）	中世ヨーロッパの厳格な身分が、権力者に強制された制度ではなく、むしろ職業教育の未発達やコミュニケーションの未熟な中、人々自身から作られたものであることを論じます。
第4回	中世ヨーロッパの社会的流動性（2）	中世後期に徐々に活発化する社会的流動性が、人々の認識の変化を促し、それが社会の集団意識に逆反射して、仕組みや制度をも徐々に変えていく実態を紹介します。
第5回	社会的流動性の舞台【教会と信仰】（1）	近世ヨーロッパの人々に自分の生活環境を変えるチャンスとなった様々な場の中で、キリスト教の教会組織と信仰によるネットワークが大きな影響を及ぼしたことを論じます。
第6回	社会的流動性の舞台【教会と信仰】（2）	教会組織や信仰のネットワークにおける社会的流動性が、次第に既存の組織の持つバイアスを変化させ、教会の改革や信仰の自由に導いていく展開を説明します。
第7回	社会的流動性の舞台【宮廷と軍隊】（1）	近世の厳格な身分の壁を超える場の一つに、権力者が営む宮廷と軍隊がありました。そのうち宮廷に注目し、どのような人材がそれを利用して流動性の波に乗れたのかを詳しく論じます。
第8回	社会的流動性の舞台【宮廷と軍隊】（2）	前回に続いて軍隊に注目し、そこでどのような能力が評価されたのか、またそこにはどのような限界があり、結果として軍隊の流動性はどのようなものになったのかを分析します。
第9回	社会的流動性の舞台【都市とビジネス】（1）	近世ヨーロッパの都市は、ビジネスを通じてそれまで閉じ込められていた境遇から自分を解放し、流動性の波に乗る重要な場でした。そこではどのような可能性があったのかを概観します。
第10回	社会的流動性の舞台【都市とビジネス】（2）	都市とビジネスの流動性は、そこで動く人々の内面をも変化させました。それがどのようなものであり、彼らはより望ましい場の実現を求めてどのような社会を促したのかを論じます。
第11回	社会的流動性の舞台【教育機関・文化とメディア】（1）	近世ヨーロッパでは、様々な教育の場が、本来の目的であった宗教や職業を超えて生活に広く役立てられました。そこから生まれた流動性の特徴を、いくつかの事例に即して検討します。
第12回	社会的流動性の舞台【教育機関・文化とメディア】（2）	近世ヨーロッパの流動性の特徴として、メディアによる流動性があります。直接地位や居住地を変えなくても、認識を共有した集団の中から生み出されたコミュニケーションと価値に注目します。
第13回	社会的流動性の変質と「社会」の誕生	近世ヨーロッパの流動性は、身分や資産の上下に留まらず、好み（ハビトゥス）や人生観、知性など精神面の発展も促しました。それが自由な個人の支える社会という発想を生み出すまでを論じます。
第14回	総合評価とまとめ	近世ヨーロッパの流動性が、単なる地位や富の上下を超え、多様性を承認する「市民」という新たな秩序の枠組みを創造しえたのはなぜなのか、これまでの授業を振り返りながらまとめます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・事前に配布されるプリントは必ず授業前に読み、大まかな内容は頭に入れておきます（毎回1時間）。
・授業前に参考書やネットを通じて、始めて知る言葉、名前しか知らない言葉について一通り調べ、プリントにメモをします（毎回1時間）。
・授業終了後、授業中に分からなかった点について、自分で調べたり教員に質問します（毎回1時間）。
・授業を聞いて考えた点をメモを取り、期末レポートの作成に備えておきます（毎回1時間）

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。（レジュメがテキストの機能を担います）

【参考書】
清水廣一郎『中世イタリアの都市と商人』講談社 2021
成瀬治『近代ヨーロッパへの道』講談社 2011
高澤紀恵／G・カレ『「身分」を交差させる―日本とフランスの近世』東京大学出版会 2023
L・ストーン（佐田玄治訳）『エリートの攻防―イギリス教育革命史』お茶の水書房 1985
角山栄他『生活の世界歴史(10)産業革命と民衆』河出書房新社 1992
Ch・ハルツィヒ他（大井由紀訳）『移民の歴史』筑摩書房 2023

【成績評価の方法と基準】
・評価は平常点（20%）、単元毎の小テスト（30%）、期末レポート（50%）を総合して評価します。
・ヨーロッパ近世史の中に展開される社会的流動性の概要を理解することができ【第1評価プロセス：単元毎の小テスト30%に照応】、そこから歴史のマクロ的な動きを読み取り、受講者の活きる現代社会と比較・相対化することで、歴史を客観的に論じるための俯瞰的な視点をどれだけ達成しているか【第2評価プロセス：期末レポート50%に対応】をみとります。

【学生の意見等からの気づき】
・様々な研究対象を持つ受講生の理解のために、現代社会や他の時代・地域との比較を交えながら論じます。
・受講生が欠席のため授業内容について行けなくなる事態を抑制するため、授業の最初に15〜20分の復習を行います。そのため進度は多少変動します。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】：The lecturer introduces the results of recent research on the impact of social mobility (changes in status, status, occupation, workplace, religion, place of residence, etc.) in early modern Europe on the lives, identities, and structures of people and groups of people. From there, students will learn that social mobility is deeply involved in the development of history, and reflect on how people living in various growing societies can be positively involved in society.

【到達目標（Learning Objectives）】：Even in the midst of extremely low economic growth rates from the perspective of modern times, the people of early modern Europe sought to change their status, status, occupation, and area of activity, and not only opened up the possibility of making the most of themselves by withstanding the impact of different environments, but also formed a social framework to realize the self they wanted. we learn from various perspectives the reality of the dynamic aspects of early modern European "society" and the role it played in the formation of modernity, and objectively understand the potential of social mobility.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
・Be sure to read the handouts distributed in advance before class and keep the general contents in mind (1 hour each time).
・Before class, you will look up all the words you know for the first time or words you only know by name through reference books and the Internet, and make notes on printouts (1 hour each time).
・After the class, you will do your own research or ask questions to the instructor about points that you did not understand during the class (1 hour each time).
・Take notes on what you thought after listening to the class and prepare for writing a final report (1 hour each time)
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】：・The evaluation will be based on a combination of normal scores (20%), quizzes for each unit (30%), and final reports (50%).
- Students will be able to understand the outline of social mobility that unfolds in the history of early modern Europe [1st Evaluation Process: Corresponding to 30%of the quiz for each unit], and from there, by reading the macro movements of history and comparing and relativizing it with the current society in which the participants are active, they will be able to see how well they have achieved a bird's-eye view for objectively discussing history [2nd Evaluation Process: Corresponding to 50%of the final report].

HIS200BE（史学 / History 200）

東洋近現代史

芦沢　知絵

授業コード：A3208　｜　曜日・時限：金2/Fri.2
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は「党と国家からみる中国近現代史」をテーマとする。
清朝の崩壊後、中国の政治体制は帝制から共和制へと大きく転換した。しかし、広大な領域と多様な民族を統治するには、西洋近代的な議会政治は必ずしも適合しなかったといえる。中華民国の政権を担った中国国民党は、一党独裁に基づく「党国体制」によって、急速な「国民国家」建設を目指した。それは、長らく対立した中国共産党にも継承され、現在の中華人民共和国の政治・社会体制を規定する重要な要素となっている。こうした党と国家の関係は、なぜ・どのように形成されたのか？
本授業では、中国国民党と中国共産党という2つの党の成立から国家建設への過程を交差的にたどることで、中国近現代史の全体像を概観し、現代中国の政治・社会のあり方について共に考えていきたい。

【到達目標】
中国国民党と中国共産党の成立から国家建設への過程をたどり、中国近現代史に関する知識や理解を深めるとともに、現代中国の政治・社会体制にみられる特徴や問題点について、主体的に考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
原則として対面授業を実施する。基本的に講義形式をとり、毎回授業後にリアクションペーパーを提出する。提出されたリアクションペーパーは、次回授業時に一部を公開・回答し、フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	中国近現代史入門	中国近現代史を学ぶ意義・方法
第2回	帝制から共和制へ	清朝の崩壊と中華民国の成立
第3回	中国国民党の成立	孫文と革命運動
第4回	中国共産党の成立	『新青年』とコミンテルン
第5回	第1次国共合作	北伐と上海クーデター
第6回	中国国民党の国家建設	南京国民政府の訓政体制
第7回	農村の中国共産党	毛沢東の台頭と革命根拠地
第8回	第2次国共合作	日中戦争下の「一致抗日」
第9回	国共内戦	中華人民共和国の成立
第10回	中国共産党の国家建設	社会主義体制の確立と急進化
第11回	中国共産党の混乱と変革	文化大革命から改革開放へ
第12回	台湾の中国国民党	蔣介石の独裁と白色テロ
第13回	変わりゆく2つの党	大国化する中国の行方
第14回	現代中国の党と国家	政治・社会体制をめぐる諸問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回授業後にリアクションペーパーを提出する。また、授業内で紹介した参考文献や配布資料をもとに知識と理解を深めるほか、現在の中国に関するニュースや新聞・雑誌記事にも自主的に目を通し、問題意識を高める。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
主な概説書は以下。その他は授業内で紹介する。
久保亨・土田哲夫・高田幸男・井上久士・中村元哉『現代中国の歴史——両岸三地100年の歩み（第2版）』東京大学出版会，2019年.
吉澤誠一郎他『中国近現代史①〜⑥』岩波書店（岩波新書），2010〜17年.
岩谷將『民主と独裁の相克——中国国民党の党治による民主化の蹉跌』千倉書房，2024年.
高橋伸夫『中国共産党の歴史』慶應義塾大学出版会，2021年.

【成績評価の方法と基準】
① 平常点　30％
主に毎回授業後に提出するリアクションペーパーを評価対象とする。
② 期末試験　70％
授業内容に関する論述問題を出題する。

【学生の意見等からの気づき】
初学者にも理解しやすい講義を心がけ、写真や映像などの視覚的な資料も多く用いる。また、毎回リアクションペーパーへのフィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】
授業連絡・資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用する。

【Outline (in English)】
This course introduces the history of modern China focusing on relationship between the state and the two parties: Chinese Nationalist Party (KMT) and Communist Party of China (CPC).
The goal of this course is to understand the historical process and current political/social issues about modern China.
After each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.
Final grade will be decided based on term-end examination (70%) and in-class contribution (30%).

HIS100BE（史学 / History 100）

東洋史序説

山元　貴尚

授業コード：A3214　｜　曜日・時限：木4/Thu.4
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：1年
その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
前近代の中国は東アジア世界の中心として周辺地域に多くの影響を及ぼしてきた。その影響は現在の東アジア各地の政治・社会・文化にも根強く残り、現代の複雑な東アジア情勢にも垣間見える。そこで、本講義では前近代の中国における政治・社会・文化の基礎的な部分を概観し、歴史的観点から現代の東アジア情勢に関する理解を深める。

【到達目標】
東アジア世界を歴史的に概観し、客観的な視点からその政治・社会・文化の多様性について理解を深める。また、単に歴史的な出来事の知識のみを知るのではなく、歴史的事実の原因と経過、そして結果や影響についてノートにまとめ、自らの意見を持つことができるようにする。さらに、歴史という過去のデータから、現代の東アジア世界にどう活用すべきかを考えられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業はPowerPointを用いて講義形式で行います
各回、一つの時代を取り上げて政治・社会・文化を学習する。学生からの質問については授業前後や授業中にも随時受け付け、学習内容についてフィードバックも行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業を受けるにあたって	注意事項等のガイダンス
第2回	甲骨文字の世界	殷王朝の歴史と甲骨文字
第3回	理想の国家とその統治	周王朝・春秋戦国時代
第4回	中国の「一統」と始皇帝の支配	秦王朝の天下一統とその統治
第5回	漢字文化圏の成立	漢帝国の成立とその歴史
第6回	儒教国家の成立	新・後漢王朝
第7回	魏・呉・蜀の興亡と中華世界の再統一	三国・晋時代の歴史
第8回	貴族制社会と南北交通	南北朝・隋王朝の統治
第9回	東アジア世界帝国の成立	唐帝国の歴史
第10回	農耕民族と遊牧民族との攻防	宋王朝と北方遊牧民族
第11回	モンゴル＝ウルス体制とユーラシア支配	モンゴル・元王朝の歴史
第12回	海禁と朝貢―東アジア世界の構造―	明王朝における海禁＝朝貢システム・南船北馬・北虜南倭
第13回	前近代最後の皇帝支配	清王朝の歴史
第14回	学習の総括	中国の歴史のまとめと期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業中ノートに取った内容を授業後に確認し、年表・地図・ポイント等をノートにまとめる。興味関心を抱いた内容はインターネットではなく図書館に足を運んで書籍から調べて知識を身に付ける。また、事前に学習する時代について調べておく。本授業の準備で2時間程度、授業後の復習時間2時間程度とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しませんが、随時資料を配布します。

【参考書】
岩波新書　シリーズ　中国の歴史①～⑤　2019年11月～2020年7月
愛宕元・冨谷至著『新版　中国の歴史』上下巻、昭和堂、2009年4月(同じく昭和堂の冨谷至・森田憲司編『概説中国史』上下も可)
講談社学術文庫　中国の歴史　全12巻　2020年10月～2021年6月
その他必要と思われる参考書は講義で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点30％、期末試験70％の配分で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
幅広い知識を得るためにわかりやすい説明になるよう心掛けます。
多くの歴史的事象に興味関心を高め、その原因・結果について検討・考察できるようになってほしい。また、講義内容をノートにまとめられるようになることを期待しています。

【学生が準備すべき機器他】
履修者はノートを用意して授業内容を取るようにしてください。ノートは期末試験に持ち込みができます。

【その他の重要事項】
ビデオ撮影・スマートフォンでの動画・写真の撮影および録音を禁止します。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Pre-modern China had a significant influence on East Asia, shaping politics, society, and culture. This course explores the basics of pre-modern Chinese history to better understand contemporary East Asian affairs.
【Learning Objectives】
This course covers East Asian history to understand its political, social, and cultural diversity. Students will analyze historical events and their impacts to form their own opinions and apply these insights to contemporary East Asian issues.
【Learning activities outside of classroom】
Students will review and organize notes after class, use the library for research, and prepare for upcoming lessons. Preparation and review time is about two hours each.
【Grading Criteria /Policy】
Evaluation will be based on regular participation (30%) and the final exam (70%).

HIS100BE（史学 / History 100）

西洋史序説

阿部　衛

授業コード：A3215　｜　曜日・時限：火5/Tue.5
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：1年
その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世界史のなかでも、とりわけ西洋史に焦点をあて、古代から現代に至るまでの重要な事象について通史的に講義する。授業では、適宜史料が提示され、その史料からいかなる解釈が引き出され、今日の歴史像の形成にいたったのかを考える。歴史的に重要な事象を単に記憶することではなく、その経緯や背景を理解することを重視している。

【到達目標】
この授業では以下の三点を到達目標に設定している。
(1) 古代から現代までの西洋の歴史を体系的に理解できる
(2) 史料の可能性と限界を理解できる。
(3) 現代的価値観にとらわれず、相対的に事象を評価できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は講義形式で行う。
毎回事前に講義の資料を学習支援システムを通して配布するので、各自ダウンロードないしは印刷して授業に臨んでもらう。
毎回の授業の最後に400字程度のリアクションペーパーを提出してもらう。
毎回の授業の冒頭で、前回の授業の復習とリアクションペーパーに対するフィードバックの時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方と目標について確認する。
第2回	古代1：古代ギリシア	古代ギリシア文明の誕生と発展、そして衰退について考える。
第3回	古代2：ローマ（王政～共和政）	ローマが都市国家からいかにして帝国へと発展していったのかを考える。
第4回	古代3：ローマ（帝政前期）	ローマ帝国はいかにして共和政から帝政へと移行したのか、そしてその後も共和政に戻ることはなく、帝政が維持されたのかを考える。
第5回	古代4：ローマ（帝政後期）	帝国を取り巻く環境にいかなる変化が生じたのか、そして帝国の人々はそれにどのように対応したのかを考える。
第6回	中世1：中世ヨーロッパ世界の成立	古代から中世へとヨーロッパがいかにして移行していったのかを考える。
第7回	中世2：中世ヨーロッパ世界の成熟	教皇と皇帝の関係性はいかにして変化していったのかを考える。
第8回	中世3：中世ヨーロッパ世界の変貌	黒死病や戦争そして飢饉をいかにしてヨーロッパ社会が超克し、その結果、何がもたらされたのかを考える。
第9回	近世：主権国家体制の成立	ヨーロッパにおける主権国家体制の成立について戦争との関係に注目しながら考える。
第10回	近代1：近代の幕開け	産業革命やフランス革命はいかなる社会的背景から生じることとなったのかを考える。
第11回	近代2：「国民国家」への歩みと帝国主義	「国民国家」がいかなる社会的状況を背景に形成され、その後の世界に何をもたらしたのかを考える。
第12回	現代1：二つの大戦	二つの世界大戦はいかなる社会的背景から勃発し、その後いかにして解決が図られたのかを考える。
第13回	現代2：東西冷戦とその後の世界	米ソの対立構造はいかにして形成され、世界にいかなる影響を与えたのかを考える。
第14回	まとめ	これまでの授業を振り返り、整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業で配布されるプリントを参考に予習と復習をすること（各2時間）。
適宜参考文献を読み、理解を深めること。

【テキスト（教科書）】
特に指定なし。

【参考書】
1. 服部良久、南川高志、山辺規子編、『大学で学ぶ世界史［古代・中世］』、ミネルヴァ書房、2006年
2. 山川哲、上垣豊、山田史郎編、『大学で学ぶ世界史［近現代］』、ミネルヴァ書房、2011年
3. 中井義明ほか著、『教養のための西洋史入門』、ミネルヴァ書房、2007年

【成績評価の方法と基準】
平常点（リアクションペーパー）…60％
学期末の期末試験ないしレポート…40％

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
資料の配布や課題提出に学習支援システムを用いるため、パソコンやタブレット端末などの持参を推奨する。

【その他の重要事項】
授業計画はあくまで目安であり、受講者の理解度に応じて適宜変更される。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Within world history, we will focus on Western history, giving comprehensive lectures on important events from ancient times to the present day. In class, historical materials are presented as appropriate, and students consider what interpretations can be derived from the materials that led to the formation of today's historical image. Rather than simply remembering historically important events, we place emphasis on understanding their history and background.
【Learning Objectives】
In this class, we have set the following three goals.
(1) Be able to systematically understand Western history from ancient times to the present day
(2) Be able to understand the possibilities and limitations of historical materials.
(3) Be able to evaluate events relatively without being bound by modern values.
【Learning activities outside of classroom】
Prepare and review using the handouts distributed in each class (2 hours each). Read the references as appropriate to deepen your understanding.
【Grading Criteria /Policy】
Reaction paper …60%
Final exam or report at the end of the semester…40%

HIS200BE （史学 / History 200）

日本史特講XI

小倉　慈司

授業コード：A3216　｜　曜日・時限：月4/Mon.4
秋学期授業/Fall・2単位　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義は、日本古代の史書について、特に「六国史」と呼ばれた「正史」のうちの『続日本紀』を中心に、その基礎的な知識や調査・研究の方法を習得することを目的とする。古代の人々はどのようにして歴史を記録し、編纂したのか、そしてそのようにして完成した史書はどのように受け継がれて現在まで伝来してきたのか。史書に記された具体的な記事も読解しつつ、古代史研究の基礎を身につける。

【到達目標】
1古代史史料に関する基礎知識を身につける。2古代史の文献史料を読解する力を身につける。3史料批判の能力を養い、論理的思考力を鍛える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式（対面授業）で進めます。実際に史料を読んでもらったり、アンケート・小テストを実施することもあります。主体的かつ問題意識をもって授業に取り組むことを望みます。アンケートや小テストの結果については、次回以降の授業のなかで紹介したり、授業内容に反映させていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「正史」の始まり	ガイダンス、古代中国における史書編纂
第2回	続日本紀の編纂	奈良時代の修史事業
第3回	続日本紀のテキスト・注釈	新訂増補国史大系、朝日新聞社本、新日本古典文学大系
第4回	平城京と聖武天皇の即位	長屋王の変と光明立后
第5回	風土記の編纂(1)	風土記の記事の特徴
第6回	風土記の編纂(2)	風土記の記事内容
第7回	東大寺大仏と光明皇后、孝謙天皇	8世紀半ばの政治情勢と続日本紀
第8回	続日本紀に見える祥瑞	祥瑞出現記事の検討
第9回	淳仁天皇と藤原仲麻呂の乱	淳仁朝の政治情勢と続日本紀
第10回	称徳天皇から光仁天皇へ	道鏡関係記事と続日本紀
第11回	桓武天皇の修史事業	皇位継承、早良親王事件
第12回	日本後紀の編纂	編纂過程について
第13回	日本後紀の散逸とその復元	日本紀略・類聚国史について
第14回	日本後紀の薨卒伝	官人の伝記と史書

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布資料は事前に読んでおいてください。この講義の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。授業に必要な史料は配布します。必ず持参してください。

【参考書】
遠藤慶太『六国史』（中公新書、2016年）
新日本古典文学大系『続日本紀』1〜5（岩波書店、1989〜1998年）
早川庄八『続日本紀』（岩波書店、1993年）
ほか、授業中に紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は授業参加への積極性・小テスト・アンケートへの回答（20％）、レポート課題（80％）を総合しておこないます。

【学生の意見等からの気づき】
日本古代史を学ぶ上での基礎的知識の確認を度々おこなっていくようにしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】
This course aims to teach students basic knowledge and research methods about the Japanese classical history book, " Rikkokushi"(Six National Histories of Japan chronicling the history of Japan from the earliest times to 887). At the end of the course, students are expected to be able to read Japanese classical records and investigate them.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours understanding the course contents.
The overall class grade will be determined by the following criteria: Quizzes and Reports: 80%, Contribution during class: 20%

HIS200BE（史学 / History 200）

東洋史特講Ⅶ

徳留　大輔

授業コード：A3217　｜　曜日・時限：月5/Mon.5
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：2〜4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【授業の概要】東アジア陶磁史――中国陶磁史を中心に
【目的・意義】東アジアの陶磁史は悠久の歴史を有する。その陶磁器の生産は素材である粘土の採取をはじめ、それぞれの地域・窯が所在する自然地理的環境に大きな影響を受ける。そのためそれぞれに独自の陶磁器文化を生み出してきた。その一方で、国・地域を超えて人々の交流が密になるなかで、陶磁器の造形や意匠、様式にも交流の結果による変化や新しい陶磁器文化を生み出した。本講義では考古学・美術史・歴史学的研究成果をもとに「人」「交流」をキーワードに東アジアの陶磁史を学ぶ。

【到達目標】
陶磁器を「考古学」「美術史」「歴史学」という様々な研究方法から学ぶことで、それぞれの研究のアプローチの方法を修得することができる。また国・地域を超えた相互の交流によって生み出される文化・芸術を学ぶことで、「国際性」を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義を中心としながら、授業内での発表、リアクションペーパーの提出、2〜3回程度課題を出し、それに対するフィードバックを行う。また少なくとも1回は博物館・美術館で陶磁関係の展覧会の見学を予定している（なお交通費は各自負担）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	第1回目は「陶磁器（やきもの）」とはいったいどのような物質なのか。やきものは何のために、なぜ生まれたのか？ まずは皆で考えてみるとともに、陶磁器を通してどのようなことが分かるのか、どのような魅力があるのか体験してみる。
第2回	土器を知る！	東アジアの中でも古くから様々な種類の土器を生み出した、中国新石器時代の土器、なかでも彩陶、黒陶を中心にその機能や社会的意味を考える。
第3回	陶磁器の分類・枠組	イントロダクションで触れた陶磁器の概要をもとに土器・陶器・炻器・磁器、白磁・青磁・青花・黒釉・五彩（色絵）など、陶磁器の分類・枠組を理解する
第4回	東西交流のはじまり	いまから2000年前。アジアの西と東で交流が密になる中で、工芸品の分野では青銅器、ガラス製品だけでなく、陶磁器が交流の表舞台に現れる。シルクロード、海の道を介して本格化する東西交流のはじまりと陶磁器を介して探る。
第5回	チャイナインパクト―世界に影響を与えた中国陶磁器①	8世紀後半から中国の陶磁器は貿易品として本格的に中国国外へ輸出される。晩唐・五代、宋時代における中国陶磁器の特徴を理解する。
第6回	チャイナインパクト―世界に影響を与えた中国陶磁器②	晩唐から宋時代における中国陶磁器の輸出先と貿易港をとりあげ、この時期の東西交流の様子を紐解く。
第7回	「青花」の誕生	14世紀前半、突如として流行する青花磁器。白磁の上にコバルトを用いて筆書きにより表された意匠は、西アジアの人々を魅了した中国陶磁であった。またあわせて中国国内、東南アジアでも広く受容された。その青花が誕生し、流行した背景について西アジアの工芸品も含めながら、考察していく。
第8回	明清陶磁の展開と官窯	明清時代には景徳鎮にて官窯が設置され、皇帝・宮廷用の陶磁器と民間用の陶磁器生産体制ならびに様式・質にも大きな違い生まれる。とくに明時代に着目しながら、官窯製品の特徴、また時期により異なる官民の製品の影響関係について理解を深める。
第9回	大航海時代と陶磁器	大航海時代には中国・日本の陶磁器が欧州をはじめ世界へ広がる。東アジアの陶磁器はなぜ世界を魅了したのか。明清時代の陶磁器、そして日本の古伊万里、柿右衛門を取り上げる。
第10回	唐物茶碗と茶の湯	茶の湯で用いられる茶碗には多くの唐物（中国陶磁器など）がある。それらは時代により流行する陶磁器が異なる。それはなぜなのか。陶磁器の受容という視点からその背景を探る。
第11回	日本における陶磁器鑑賞の歴史	日本では古くより寺社仏閣、茶の湯や華道など様々な分野で陶磁器を用いてきた。一方で、近代に入り欧州から新しい価値感をもとに陶磁器を使用するのではなく、鑑賞することに主眼をおく見方が生まれる。それによりそれまで顧みられることがなかった、あるいは見過ごされてきた陶磁器が注目をうけることになる。その鑑賞の歴史を学ぶ。
第12回	日本における近現代陶芸の世界	明治維新後、日本の陶芸の世界は新しい時代を迎える。それまでの窯や産地を中心する陶磁器だけでなく、個人作家が生まれる。ここでは近現代陶芸のパイオニアである板谷波山を中心に欧州の芸術様式の影響、中国や日本の古陶磁や工芸品が作家の作品づくりにどのような影響を与えたのか見ていく。
第13回	博物館見学	実際に陶磁器作品を見て、立体造形の陶磁器の魅力を体感する
第14回	まとめ	本講義で学んだことの復習。陶磁器の魅力について感想を求めます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
講義の際にレジュメの配布ならびに内容にあわせて参考文献を紹介します。授業の前・後に読んで要点をまとめて授業に臨んでください。また授業では課題を出しますので、次回の講義時に提出してください。

【テキスト（教科書）】
講義では教科書は使用しません。毎回レジュメを配布します。ただし、【参考書】に関してはぜひ一読してください。

【参考書】
葉喆民原著、出川哲朗 監訳、徳留大輔／新井崇之 訳『中国陶磁史』科学出版社東京、国書刊行会、2019年
徳留大輔責任編集『茶の湯の茶碗　唐物茶碗』淡交社、2021年

【成績評価の方法と基準】
期末レポート60％、各講義時に課す課題（宿題）20％、平常点20％

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
本講義の担当者は美術館に勤務する学芸員であり、陶芸を中心とする工芸分野を担当しています。可能な限り、実物作品の実見や資料などの観察の方法のレクチャーや資料にふれる機会を設けるようにします。

【教員の専門領域など】
＜専門領域＞考古学・東洋陶磁史
＜研究テーマ＞中国初期王朝形成過程の考古学的研究、中国陶磁史
＜主要研究業績＞
徳留大輔責任編集『茶の湯の茶碗　第一巻　唐物茶碗』淡交社、2021年
葉喆民原著、出川哲朗 監訳、徳留大輔／新井崇之 訳『中国陶磁史』科学出版社東京、国書刊行会、2019年
徳留大輔編集『宋磁ー神秘のやきもの』（展覧会・図録）、出光美術館、2018年

【Outline (in English)】
【Outline】The history of ceramics in East Asia focuses on the history of Chinese ceramics.
【Purpose and Significance】 The history of ceramics in East Asia has a long history. The production of ceramics is greatly influenced by the natural geographical environment of each region and kiln, including the extraction of clay, which is the raw material for ceramics. This is why each region and kiln has developed its own unique ceramic culture. On the other hand, as people interacted more closely with each other across countries and regions, the shapes, designs, and styles of ceramics also changed and new ceramic cultures emerged as a result of these interactions. In this lecture, we will study the history of ceramics in East Asia with the keywords "people" and "exchange" based on the results of archaeological, art historical, and historical studies.

【Learning activities outside of the classroom）】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination（report）：60%、Short reports：20%、in class contribution: 20%

HIS200BE（史学 / History 200）

東洋史特講Ⅷ

松本　隆志

授業コード：A3218　｜　曜日・時限：金3/Fri.3
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：2〜4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、古代地中海世界から説き起こし、アラビア半島での預言者ムハンマドの出現、中東地域への発展と分裂を経て、現在の私たちが知るところの「イスラーム」が形成されていった最初期のプロセスを学んでいきます。本授業を通じて、受講生がイスラームの生成と展開についてその歴史背景も含めて自分の理解を形成すること、そして自身の理解を文章で他者へ提示することを学びます。

【到達目標】
この授業を通じて学生は、高校までの世界史教科書等では断片的な情報しか得られないイスラームの生成と発展について、古代地中海世界に固有の信仰伝統の文脈の中で理解を形成していくことになります。そうして形成された歴史理解を、学生各自が自分の言葉で語れるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回の授業は講師による講義と受講生による課題の作成・提出で構成されます。課題は毎回の授業内容に関する論述です。提出された課題については次回の授業冒頭でフィードバックをおこなう予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要、テーマの説明と意義、授業の受け方について。
第2回	古代地中海世界の宗教伝統	古代地中海世界の信仰伝統としての一神教信仰について。
第3回	古代末期の地中海世界とアラビア半島	ビザンツ帝国とサーサーン朝の抗争と、その時代のアラビア半島の位置付けについて。
第4回	預言者ムハンマドと神の啓示	預言者ムハンマドの生涯とイスラームの誕生について。
第5回	預言者没後の指導者をめぐる試行錯誤の始まり	正統カリフ時代〜第一次内乱に至る出来事について。
第6回	統一の崩壊と再生	第一次内乱の経緯とウマイヤ朝の成立について。
第7回	指導者の資格とは何か	第二次内乱前後の状況とウマイヤ朝の再興について。
第8回	ウマイヤ朝の限界	ウマイヤ朝最盛期の歴史的位置付けと問題点について。
第9回	ウマイヤ朝の衰退、アッバース朝の誕生	ウマイヤ朝末期の状況とハーシミーヤ運動について。
第10回	アッバース朝カリフ権力の確立	アッバース朝最初期の状況について。
第11回	革命をもう一度	アミーンとマアムーンによるアッバース朝の内乱とその背景について。
第12回	イスラームの完成、帝国の限界	イスラームとアッバース朝カリフの関係について。
第13回	イスラーム世界の確立	諸王朝の乱立とイスラーム世界確立の関係について。
第14回	総括	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回配布する資料でその日の授業内容に関わる追加の参考文献を適宜紹介するとともに、次回内容に関わるキーワードを示していきます。
追加文献に目を通したり、提出した課題を再検討することが復習になります。また、配布資料で示される次回のキーワードについて調べることが予習になります。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は使用しません。
毎回授業資料を配布します。

【参考書】
・概説書
小杉泰, 『イスラーム帝国のジハード』（講談社学術文庫）, 講談社, 2016年.
菊地達也編著, 『図説イスラム教の歴史』, 河出書房新社, 2017年.
・工具書
大塚和夫ほか編, 『岩波イスラーム辞典』, 岩波書店, 2002年.
その他の参考文献は適宜配布資料に記載します。

【成績評価の方法と基準】
毎回提出の課題（50％）、期末レポート（50％）
課題については毎回素点をつけ、その累積を成績評価の５０％に換算します。期末レポートについては、レポート作成要領を5月中に配布するので、それに基づいて計画的にレポート作成に取り組んでください。授業内容を踏まえて自分なりの見解・解釈を生み出すこと、それを論理的に文章で示すことを評価します。レポートの点数を成績評価の５０％に換算します。

【学生の意見等からの気づき】
授業内容についての改善の指摘は特になかった。

【学生が準備すべき機器他】
毎回の授業資料は学習支援システムから配布し、授業は配布資料をモニターに映しておこなう予定です。手元で授業資料を見ながら受講したい場合は、各自で配布資料を印刷して持ち込むか、あるいはPDFファイルを閲覧できるPCやスマホ等を用意してください。なお、配布資料はノート代わりに書き込めるよう、余白を多めにして作成します。

【その他の重要事項】
上記の内容は状況の変化等によって変更される可能性があります。その場合は速やかに学習支援システムを通じて全員あてに告知します。受講予定者は正式な履修登録と合わせ、学習支援システムへの「仮登録」を必ず済ませておくこと。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this course,we will study the initial process of the formation of "Islam" as we know it today. We will start from the ancient Mediterranean world, through the emergence of the Prophet Muhammad in the Arabian Peninsula, the development of the Middle East, and the division of the region, to the completion of "Islam".
【Learning Objectives】
At the end of this course, students are expected to form their own understanding of the creation and development of Islam, including its historical background, and to be able to present their understanding in writing to others.
【Learning activities outside of classroom】
Additional references will be introduced in the handouts distributed each class, and key words related to the contents of the next session will be indicated. Reading through the references and reviewing the submitted papers will serve as review. And researching the key words in the next lecture will serve as preparatory study.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policies】
Papers to be submitted each class (50%), final exam (50%)
The papers will be graded based on the cumulative score.
The final exam will be an essay exam. Both the papers and the exam will be about each student's views. Students will be graded on the basis of their own views and interpretations, and on their ability to present them logically in writing.

HIS200BE（史学 / History 200）

西洋史特講Ⅸ

吉岡　潤

授業コード：A3219　｜　曜日・時限：月4/Mon.4
秋学期授業/Fall・2単位　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国境線を通して見た20世紀の国際関係史を、中・東欧諸国、特にポーランドの事例を中心に検討する。
現代は国民国家というあり方が世界中を覆い、ほぼすべての陸地が国境線で区切られ、ほぼすべての人間がどこか一つの国家に所属することになった時代である。戦争が繰り返され、国境線が引き直され、それに伴い難民や移民、強制移住やジェノサイドといった問題が深刻化した時代でもある。そしてこれらの問題が凝縮して現れた地域が中・東欧、とりわけ国家の消滅と復活を繰り返し、その度に国境線と住民構成を大きく変化させてきたポーランドである。本講義では、そのポーランドが歴史の節目節目でどのような国境線を持とうとし、そして実際に持つことになったのか（あるいは、持たされることになったのか）を概観する。今日のポーランドの国家的存在を基礎づけた第一次世界大戦後の独立に際しての国境線画定と、今日のポーランド国家の国境線を実質的に定めた第二次世界大戦後の国境線変更について検討し、中・東欧における地域秩序の形成およびその変動の国際関係史的意味を考察する。

【到達目標】
今ある国際関係の歴史的背景を知ること。
国際秩序や地域秩序の変動を歴史的に考察する手がかりを得ること。
現代の国際関係において国境線が持つ機能と意味を、現場の地域性と歴史性を踏まえて分析できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で授業を進める。授業回ごとにコメントシートを提出してもらい、そこで出された質問やコメントに対するフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	国境線を通して見る国際関係史、20世紀の国際秩序と国境線
第2回	前提	国境線を通して見るポーランド近現代史
第3回	第一次世界大戦と国境線（1）	第一次世界大戦とポーランド
第4回	第一次世界大戦と国境線（2）	第一次世界大戦の戦後処理
第5回	第一次世界大戦と国境線（3）	第一次世界大戦後のポーランドの国境画定
第6回	両大戦間期の国際関係と国境線（1）	中・東欧諸国の国境線と民族問題
第7回	両大戦間期の国際関係と国境線（2）	ナチ・ドイツと中・東欧諸国
第8回	第二次世界大戦と国境線（1）	独ソによる秩序変更
第9回	第二次世界大戦と国境線（2）	戦時国際関係とポーランド問題
第10回	第二次世界大戦と国境線（3）	第二次世界大戦の戦後処理
第11回	戦後国際秩序と国境線（1）	第二次世界大戦後のポーランドの国境画定
第12回	戦後国際秩序と国境線（2）	冷戦とポーランドの国境線
第13回	戦後国際秩序と国境線（3）	冷戦終結後の国際秩序と国境線
第14回	まとめ	国境線を通して見た20世紀国際関係史

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、授業中に紹介した参考文献を読むなど、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
コメントシートの提出など平常点と、期末課題とによる評価。評価における両者間の配分は、＜平常点のパーセンテージ：期末課題のパーセンテージ＞でおよそ40：60とする。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【Outline (in English)】
This course deals with border issues in Central and Eastern Europe, especially in Poland, after World War I. Students are expected to learn about such topics as the problems of international relations in Central and Eastern Europe, the process of demarcation of Poland's borders after the First and Second World Wars, and shifting policies of the Great Powers towards Poland during the 20th century. Before and/or after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end examination (60%) and in-class contribution (40%).

HIS100BE（史学 / History 100）

日本史序説

齋藤　智志

授業コード：A3226　｜　曜日・時限：月3/Mon.3
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：1年
備考（履修条件等）：**史学科の2022年度以前入学生は「日本史序説Ⅱ（A3213）」を履修する**

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、原始から現代までの日本の歴史を概括的に学びます。その際、文書や絵画などの史料、さまざまな文化遺産を取り上げて時代像をつかむとともに、各時代に対する社会的イメージがどのように形成・利用されてきたかという問題も考察します。これを通じて、日本の歴史に関する基本的な知識と多角的な見方を身につけることを目的とします。

【到達目標】
日本の歴史の各時代の特徴と変遷を概括的に理解する。
史料をもとに歴史を考察する上での基本的な考え方や、歴史を多角的に捉える視点を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
各回の授業（第2回～第12回）は前半・後半に分かれています。前半は、講義形式でそれぞれの時代の概観を行います。後半は、①各時代がどのようにイメージされてきたか・いるかをその社会的背景とともに考える回と、②史料を読んで自ら時代像を捉える回とがあり、これらを通じて、歴史の多角的な見方を学んでいきます。
レジュメとスライドを用いた講義を中心とし、適宜授業内で提示する小課題（史料読解など）にも取り組んでもらいます。
毎回、リアクションペーパーに感想や意見、質問などを記入してもらい、次の授業や学習支援システムなどで共有する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと概論	・授業方針について ・歴史と史料／歴史を学ぶ意味
第2回	文化の黎明と国家形成	・時代の概観1 日本列島における文化の黎明 ・日本の黎明の描かれ方：神話的古代史像からサブカルチャーとしての縄文・古墳まで
第3回	古代の国家と社会	・時代の概観2 律令国家の成立と変容 ・古代遺跡の復元を考える：武蔵国府・国分寺付近を事例として
第4回	中世社会の成立	・時代の概観3 院政から武家政権へ ・絵巻物から見る中世社会：『一遍聖絵』を読む
第5回	中世社会の諸相	・時代の概観4 室町・戦国時代の動乱 ・戦乱の時代の英雄像と庶民像
第6回	幕藩体制の成立	・時代の概観5 江戸幕府の成立と国内外の秩序形成 ・「江戸ブーム」の歴史と現在
第7回	幕藩体制の動揺	・時代の概観6 社会の変動と幕政改革 ・村の生活と社会変動：『見聞集録』を読む
第8回	近代国家の形成	・時代の概観7 明治維新と立憲国家の成立 ・変遷する「明治」イメージ
第9回	近代国家の展開	・時代の概観8 デモクラシーと帝国主義 ・帝国を見せる：第五回内国勧業博覧会
第10回	近代の社会と文化	・時代の概観9 明治・大正期の文化変容と工業化 ・伝統文化の発見：文化財保護前史
第11回	第二次世界大戦と日本	・時代の概観10 軍部の台頭と総力戦 ・戦時下の雑誌を読む：『少年倶楽部』と『写真週報』
第12回	戦後日本の歩み	・時代の概観11 戦後改革と高度経済成長 ・昭和ノスタルジーを考える
第13回	歴史意識の歴史と現在	・授業全体のまとめ ・近現代の歴史学と歴史意識
第14回	授業内試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
次回の授業で用いるレジュメ等の資料は、原則として一週間前に学習支援システムで配布するので、事前に内容を確認してわからない単語等を調べ、参考書の関連箇所を読んで予習する。
授業終了後はレジュメ等の資料を読み返して復習し、内容の理解を深める。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しません。配布資料を用いて授業を行います。

【参考書】
佐々木潤之介・佐藤信・中島三千男・藤田覚・外園豊基・渡辺隆喜編『概論 日本歴史』吉川弘文館、2000年
『大学の日本史：教養から考える日本史へ』（全4巻）山川出版社、2016年
佐藤信・五味文彦・高埜利彦・鳥海靖編『詳説日本史研究』山川出版社、2017年

【成績評価の方法と基準】
平常点40％（リアクションペーパーや授業内小課題への取り組みなどを含みます）
期末レポート30％
期末試験30％
※期末レポートの提出、期末試験の受験は、いずれも必須とします。

【学生の意見等からの気づき】
授業内課題を通じて、他の学生の意見を知れるのが興味深かったという趣旨の意見が多く見られました。そうした課題を積極的に授業に取り入れていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
授業中、学習支援システム（WebClass）の機能を用いることがあります。学習支援システムにログインできる機器（ノートＰＣ、タブレット、スマートフォンなど。いずれか）を持参してください。なお、特にノートPCかタブレットの持参を推奨する回があるので、その都度お知らせします。

【その他の重要事項】
毎回の授業前後の時間に質問を受け付けます。
また、授業期間中、学習支援システムおよびメールで常時質問を受け付けます。

【Outline (in English)】
This course deals with a summary of Japanese history from the primitive period to the contemporary period. In doing so, we will take up historical materials (documents, paintings, etc.) and cultural heritage to understand the image of each period. In addition, we also consider how each period has been drawn. The aim of this course is to help students acquire basic knowledge and ideas on Japanese history.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 30%, Short reports: 30%、in class contribution: 40%

HIS200BE（史学 / History 200）

歴史特講

柏木　一朗、塩沢　裕仁、内田　康太、皆川　卓、高井　康行

授業コード：A3227　｜　曜日・時限：木2/Thu.2
秋学期授業/Fall・2単位　｜　配当年次：2〜4年

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本の歴史学界では、対象とする地域により日本史、東洋史、西洋史の３分野に分かれ、それぞれの内部で独自の問題意識に基づき研究が行われてきた。その一方で、各分野に共通するテーマや複数の地域にまたがる問題もあり、それらをさまざまな角度から考察してみることで、新たな歴史の見方や描き方を学べるのではないか。そのような機会を提供するのが、本授業の目的である。
今年度の主題は、「帝国」である。時代と地域を越えた帝国の在り方について、帝国の果たした役割と影響（たとえば交流による共通化、民族のナショナリズム形成）やその歴史的意義などを考える。授業では時代も地域もさまざまな帝国についてみていく。

【到達目標】
・諸地域に現れた帝国の特徴とその歴史的意義を理解する。
・複数の地域の事例を比較検討したり、それらの相互関係を把握したりすることを通じて、歴史を複眼的・総体的に考える力を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は、複数の教員が交代で授業を担当するオムニバス形式（講義）で行う。各回の授業は原則として講義だが、資料に基づくディスカッションの機会も設けたい。質問や課題については、授業内で回答・コメントをするか、授業の内容や目的に照らして有益なものを抽出したうえで次の授業にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要を説明する。 担当：塩沢
第2回	帝国について：概要と論点	帝国と世界の一体化について考える。 担当：塩沢
第3回	ローマ帝国１	ローマ帝国の概要について学ぶ 担当：内田
第4回	ローマ帝国２	ローマ帝国内の多様性と共通化について学ぶ 担当：内田
第5回	秦漢帝国	東アジア最初の帝国について学ぶ 担当：塩沢
第6回	隋唐帝国	隋唐帝国の国際性について学ぶ 担当：塩沢
第7回	神聖ローマ帝国１	神聖ローマ帝国の概要について学ぶ 担当：皆川
第8回	神聖ローマ帝国２	神聖ローマ帝国の世界性について学ぶ 担当：皆川
第9回	征服王朝１	征服王朝の概要について学ぶ 担当：高井
第10回	征服王朝２	征服王朝と東アジア世界について学ぶ 担当：高井
第11回	大日本帝国１	大日本帝国の概要について学ぶ 担当：柏木
第12回	大日本帝国２	大日本帝国内の多様性と共通化について学ぶ 担当：柏木
第13回	まとめ	授業の内容を総括する。 担当：塩沢
第14回	授業内試験	期末試験とまとめ 担当：塩沢

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。毎回の授業内容を復習するとともに、授業で示す参考文献を読み、自主的に理解を深めること。また、各講師の指示にしたがうこと。

【テキスト（教科書）】
使用しない。授業でのプリント配付、あるいは学習支援システムからダウンロードする（各講師の指示にしたがうこと）。

【参考書】
山本有造編著『帝国の研究―原理・類型・関係』名古屋大学出版会、2003年
岡本隆司編著『宗主権の世界史―東西アジアの近代と翻訳概念』名古屋大学出版会、2014年
南塚信吾編著『国際関係史から世界史へ』ミネルヴァ書房、2020年
鈴木董編著『帝国の崩壊』（上下巻）山川出版社、2022年
その他、各講師が随時指示をする。

【成績評価の方法と基準】
・平常点（授業参加度、課題への取り組み）：50％
・期末試験：50％
【重要】10分以上の遅刻は欠席とし、入室を認めない（遅延証明書持参のものは入室可）。授業中のPC使用を禁止する。写真撮影、録音、録画も禁止する。違反するものは退室させる。

【学生の意見等からの気づき】
わかりやすい授業を心掛ける。

【Outline (in English)】
< Course outline >
This course aims to explore history of empires in comparative perspectives. < Learning objectives >
1) Students are able to acquire basic knowledge about empires in history.
2) Students are able to analyze history in comparative perspectives.
< Learning activities outside of classroom >
Students have to spend at least two hours on preparation for and review of each class respectively. They are expected to read relevant books, such as those listed in the reference section, and learn by themselves. They also have to work on assignments given by the instructor.
< Grading policy >
Class participation and assignments: 50%Final examination: 50%

CUA200BA（文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 200）

民俗学Ⅰ

室井　康成

授業コード：A3809　｜　曜日・時限：木5/Thu.5
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：他学部公開制度のない学部の学生が履修する場合は資格科目用（A3859）で履修する。

その他属性：〈他〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本民俗学の創始者・柳田国男（1875－1962）の研究歴に沿いながら、民俗学の基礎を学ぶ。柳田の生涯は、西南戦争前の明治の初年から、アジア太平洋戦争後の高度経済成長期にまで及ぶ。言わば日本近代を凝縮した人生とも言えるわけで、その経歴に沿いながら、柳田が「民俗」に着目した動機とその社会背景を明らかにし、そこから彼が「民俗」の研究を通じて構想した社会像を考える。

【到達目標】
「民俗」とは、いったい何だろう。民俗芸能・民俗文化財・民俗宗教など、この語を冠した言葉は多用されているが、ここで言う「民俗」とは、私たちの日常生活のあり方を規定する文化的な事象を指している。しかし所与のものではなく、「近代」という時代状況の中で発見されたものである。その「民俗」が、何ゆえその時代に、いかなる契機によって発見されたのか。本講義では、「民俗」および「民俗学」を理解する前段階として、日本における民俗学の創始者・柳田国男の思想と学問を手掛かりとして、この問題を理解し、併せて現代を生きる私たちにとって、「民俗」の何が問題なのかということを考える視座を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で進めます。講義内で受講生に対し発問することはありますが、リアクションペーパーなどは求めません。質問等に対するフィードバックは適宜講義内で行ないます。また、講義時に配布するレジュメに、教員へのアクセス方法を記しておりますので、講義時間外でも質問等を受け付けることは可能です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本講義全体の趣旨を説明します。
第2回	DVD『柳田国男―民俗の心を探る旅』の視聴と解説	柳田国男の生涯を描いた映像作品を視聴し、その特徴と問題点を指摘します。
第3回	生い立ちと貧困問題	柳田の民俗学構想には彼が幼少時に見聞した原体験があるとされ、その事例を確認します。
第4回	関西から関東への転居	柳田が幼少時に経験した関西から関東への転居が、その後の民俗学に与えた影響を考えます。
第5回	恋愛抒情詩人から農政官僚へ	柳田は学生時代、後に高名な文学者となる友人を多く持ちました。彼らとの交流が後の民俗学に与えた影響を考えます。
第6回	近代化論と農業政策論	柳田は大学卒業後、農商務省の高級官僚となります。その職務を通じて彼が披歴した近代観・農業観の特徴を確認します。
第7回	『遠野物語』を読む（1）	柳田が官僚時代に刊行した『遠野物語』の学史的位置づけを押さえます。
第8回	『遠野物語』を読む（2）	具体的に『遠野物語』を通読し、そこから読み取れる柳田の思想を考えます。
第9回	政策課題としての「民俗」の発見	柳田の中で発見された「民俗」は、どのような性格のものであったのかを確認します。
第10回	ジャーナリストへの転向と大正デモクラシー	柳田は官僚を辞した後、ジャーナリストになりました。その時代の世相と彼の思想との関連性を考えます。
第11回	民俗学の組織化と柳田国男の孤立	柳田はジャーナリストとして活動しつつ民俗学の体系化を目指します。その過程で起きた問題点の学史的意味を考えます。
第12回	日本の敗戦と新たな民俗学構想	柳田は日本の戦争を止められなかったのは、自身を含めた知識人の力不足だったと考えました。柳田は民俗学を通じてどのような社会貢献をしようとしていたのかを考えます。
第13回	「公民」養成論としての民俗学へ	戦後の柳田は、民俗学の目的を「公民の養成」と明言しました。その意味を検討し、民俗学とは何かを考えます。
第14回	試験と総括	本講義を総括し、受講生諸氏の理解度を机上試験で測ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本講義では毎回教員がレジュメを配布するので、そこに記された参考文献については通読しておいてください。また授業外の学習は、上記参考文献を用いた予習・復習（2時間程度）のほか、個々の学生の日常生活の中に散見される「民俗」的な事象・問題に気配りし、それらを学問的に考える姿勢を求めます（随時）。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし。講義時に教員においてレジュメを作成し、配布します。

【参考書】
福田アジオ『種明かししない柳田国男－日本民俗学のために』（2023年，吉川弘文館）
室井康成『柳田国男の民俗学構想』（2010年，森話社）
室井康成『事大主義－日本・朝鮮・沖縄の「自虐と侮蔑」』（2019年，中央公論新社）
室井康成『政治風土のフォークロア－文明・選挙・韓国』（2023年，七月社）
岩本通弥他偏『民俗学の思考法－〈いま・ここ〉の日常と文化を捉える』（2021年，慶応義塾大学出版会）
その他は、授業時に配布するレジュメで紹介します。

【成績評価の方法と基準】
・最終授業時に実施する試験の回答内容のみで成績を判定します（試験100％）。ただし、どのような内容を出題するかは、終講の３～４回前の授業時にお知らせします。
・試験は実質的には机上リポートになります。そのため講義内容の理解度が成績判定の基準になります。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特にありませんが、近現代の日本および東アジアの歴史に興味がないと、退屈な時間を過ごさざるを得なくなります。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this class, you will learn about the history and characteristics of Japanese folklore-studies. Since the concept of folklore varies from country to country, this lesson will accurately learn the concept of "folklore" used in Japan.
【Learning Objectives】
Understanding Japanese folk-culture and the concept of folklore.
【Learning activities outside of classroom】
Reading the bibliography.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Term-end examination;100%

CUA200BA（文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 200）

民俗学Ⅱ

室井　康成

授業コード：A3810　｜　曜日・時限：木5/Thu.5
秋学期授業/Fall・2単位　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：他学部公開制度のない学部の学生が履修する場合は資格科目用（A3860）で履修する。

その他属性：〈他〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「レジャー」が一般化した高度経済成長期において、人々の観光への意欲を掻き立てる重要なツールとなったのがテレビの紀行番組である。だが、映像を含むあらゆる視覚資料には製作者の恣意が反映されているものであり、紀行番組もまた然りである。本講義では、そこに描かれた風景や製作意図、その時代的意味合いについての理解に努める。

【到達目標】
戦後の高度経済成長に歩調を合わせる形で放送され、その後の紀行番組に大きな影響を与えたNHKの『新日本紀行』を事例として、その時代に求められた風景や、そこから除外された問題を同時代史の文脈から読み解き、あわせて民俗学的観点から映像作品と同時代性を理解する力を涵養する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で進めます。講義内で受講生に対し発問することはありますが、リアクションペーパーなどは求めません。質問等に対するフィードバックは適宜講義内で行ないます。また、講義時に配布するレジュメに、教員へのアクセス方法を記しておりますので、講義時間外でも質問等を受け付けることは可能です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
講義	ガイダンス	講義全体の概要を説明します。履修希望者は必ず出席して下さい。
講義	「新日本紀行」の時代背景と政治性―高度経済成長期の求められた風景と現実（1）	放送当時の時代背景を講義します。
講義	「新日本紀行」の時代背景と政治性―高度経済成長期の求められた風景と現実（2）	「新日本紀行」の撮影・編集など制作手法の特徴や傾向について講義します。
講義	テレビ時代到来の意味	NHKドキュメント映像『山の分校の記録』を視聴し、解説します。
講義	隠蔽された公害	「新日本紀行」の『歌が生まれて、そして』（長崎県奈留島）の回を視聴し、解説します。
講義	「観光化」の光と影	「新日本紀行」の『湘南・電車通り』（神奈川県鎌倉）の回を視聴し、解説します。
講義	北海道開拓一世たちの心象風景	「新日本紀行」の『十津川物語』（北海道・奈良県）の回を視聴し、解説します。
講義	日本復帰前の「南島」への視線	「新日本紀行」の『沖縄本島』（沖縄県沖縄本島）の回を視聴し、解説します。
講義	変わりゆく瀬戸内海の島暮らし	「新日本紀行」の『塩飽衆昨今』（香川県・岡山県）の回を視聴し、解説します。
講義	夢を追う人々と都市の活気	「新日本紀行」の『太秦映画村』（京都府太秦）の回を視聴し、解説します。
講義	首都にきらめく江戸言葉と在来知	「新日本紀行」の『江戸の残る町』（東京都神田）の回を視聴し、解説します。
講義	「日本のふるさと」という幻想	「新日本紀行」の『新・遠野物語』（岩手県遠野）の回を視聴し、解説します。
講義	「新日本紀行」が描いた「日本」	高度経済成長期に求められた「日本」像について、これまで視聴した『新日本紀行』を振り返りながら講義します。
講義	試験と総括	本講義を総括し、受講生諸氏の理解度を机上試験で測ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本講義では毎回教員がレジュメを配布するので、そこに記された参考文献については通読しておいてください。また授業外の学習は、上記参考文献を用いた予習・復習（2時間程度）のほか、個々の学生の日常生活の中に散見される「民俗」的な事象・問題に気配りし、それらを学問的に考える姿勢を求めます（随時）。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし。講義時に教員においてレジュメを作成し、配布します。

【参考書】
講義時に配布するレジュメに記載します。

【成績評価の方法と基準】
・最終授業時に実施する試験の回答内容のみで成績を判定します（試験100％）。ただし、どのような内容を出題するかは、終講の３～４回前の授業時にお知らせします。
・試験は実質的には机上リポートになります。そのため講義内容の理解度が成績判定の基準になります。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特にありませんが、戦後日本の生活史・文化史・経済史などに興味がないと、受講中とても退屈な時間を過ごさなくてはなりません。

【Outline (in English)】
Because the period of high economic growth when "leisure" became popular, television travel programs have become an important tool in stimulating demand for tourism. However, all visual media, including video, reflect the producers' arbitrary interests, and this applies no less to travel programs. This course aims for students to understand the landscape depicted, the producer's intention and the historical implications.

HIS200BA（史学 / History 200）

イスラム世界論Ⅰ

松本　隆志

授業コード：A3811　｜　曜日・時限：金2/Fri.2
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈他〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現在、世界のムスリムの人口は、アジアやアフリカだけではなく、ヨーロッパにおいても増え続け、国際社会におけるそのプレゼンスは、日に日に高まりを見せている。その一方で、イスラーム原理主義者やアメリカを中心とする西欧諸国から発信された、ムスリムに対する偏った理解や偏見が広まっているのも事実である。この授業では、既存の偏見に惑わされず、受講生一人一人が、イスラーム世界の多様な在り方を理解できるよう、イスラームという宗教に関する基礎的知識の習得を目指す。

【到達目標】
この授業は、イスラームという宗教に関する基礎的な知識を提供し、それらの知識に基づきイスラームという宗教、そしてムスリム（イスラーム教徒）の多様性を理解することを目的とする。学生には、広い偏りのない視野で、現代の複雑なイスラーム世界に関する諸問題を歴史的見地から主体的に考えるための基礎的な知見を獲得してもらう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業では、現代のイスラーム世界を理解する上で欠かせない、イスラーム世界の歴史を扱う。授業の前半部では、教義を中心としたイスラームの基礎的知識について、後半部では、そのイスラームが各地域でどのように信徒を獲得し、受容されていったのかについて解説していく。
この授業は、講師による講義と、講義内容を踏まえた学生の課題の作成・提出から成る。毎回の課題については講義内で設問が出されるので、学生はその設問に対して論述を作成してもらう。課題の作成には講義後半の20〜30分程度を予定している。講義内容をきちんと理解しているか、講義内容を踏まえて自身の見解を論理的に提示できているか、といった点を評価する。そして次の回の講義において、前回提出の課題についてフィードバックすることを予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	「イスラーム世界」とは何か？
第2回	聖典『クルアーン』の世界	イスラームにおける『クルアーン』の内容とその重要性について
第3回	イスラームの教義	六信五行などイスラームの基本的な教義について
第4回	イスラームの世界観	一神教に共通する世界観とイスラーム固有の世界観について
第5回	イスラームの誕生と共同体の成立	ムハンマド、正統カリフ時代におけるイスラーム共同体の拡大過程について
第6回	イスラーム共同体の分裂	第一次内乱から世襲王朝ウマイヤ朝成立に至る過程と歴史的意義について
第7回	第二次内乱と神のカリフ	ウマイヤ朝半ばに生じたカリフのあり方をめぐる争いについて
第8回	アッバース朝とカリフ権力	アッバース朝初期におけるカリフ権力確立の模索について
第9回	イスラーム法とスーフィズム	アッバース朝半ばにおけるイスラーム法とスーフィズムの確立・展開について
第10回	西方のイスラーム王朝	北アフリカ・イベリア半島におけるイスラーム諸王朝について
第11回	イスラームとキリスト教世界	地中海を介した交易や十字軍における中東・ヨーロッパ世界の接触について
第12回	モンゴルとイスラーム	アッバース朝滅亡後の歴史的展開について
第13回	イスラーム世界と第一次世界大戦	オスマン帝国と第1次世界大戦後の国際社会について
第14回	総括	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
この授業では西アジアだけではなく、ヨーロッパや、時に中央アジア・南アジアにかけての広い地域の歴史を対象とするため、聞きなれないカタカナの固有名詞が色々と出てくる。次回授業に関するキーワードを示すので、それについて調べて理解を深めることが予習となる。また、毎回のペーパーについて振り返り再検討を試みることが復習となる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に指定しない。

【参考書】
菊地達也編著『図説イスラム教の歴史』河出書房新社、2017
佐藤次高『イスラーム世界の興隆』中公文庫、2008
佐藤次高・鈴木董編『都市の文明イスラーム』講談社現代新書、1993
鈴木董編『パクス・イスラミカの世紀』講談社現代新書、1993
その他、授業中に随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
レポート（60%）と毎回の授業終了後に提出する課題（40％）で評価する。
授業で学習した知識を材料に、論理的に私見を述べられているか、という点を基準に評価する。
レポート作成要領を5月中に配布するので、そちらに基づいて計画的にレポート作成に取り組むこと。
毎回提出される課題に素点を付し、学期終了時に課題合計点を成績評価の４０％に換算する。
また、学期末のレポートの点数を成績評価の６０％に換算する。

【学生の意見等からの気づき】
授業内容についての改善の指摘は特になかった。

【学生が準備すべき機器他】
毎回の授業資料は学習支援システムから配布し、授業は配布資料をモニターに映しておこなう予定です。手元で授業資料を見ながら受講したい場合は、各自で配布資料を印刷して持ち込むか、あるいはPDFファイルを閲覧できるPCやスマホ等を用意してください。なお、配布資料はノート代わりに書き込めるよう、余白を多めにして作成します。

【その他の重要事項】
上記の内容は状況の変化等によって変更される可能性があります。その場合は速やかに学習支援システムを通じて全員あてに告知します。受講予定者は正式な履修登録と合わせ、学習支援システムへの「仮登録」を必ず済ませておくこと。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this course, we aim to acquire basic knowledge about the religion of Islam so that each student can understand the various ways of the Islamic world without being confused by existing prejudices.
【Learning Objectives】
Students are expected to acquire a basic knowledge of the religion of Islam and, based on that knowledge, to understand the religion of Islam and the diversity of Muslims. By the end of course, students are expected to acquire the basic knowledge necessary to think independently about the complex issues related to the Islamic world today from a broad and unbiased perspective.
【Learning activities outside of classroom】
The key words related to the next class will be presented in class, so researching and deepening your understanding of them will serve as preparation. Reviewing and re-examining each paper will also serve as a review. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
Written exam at the end of the semester (60%), paper to be submitted in each class (40%)
Students are allowed to look at the materials in the exam.
The evaluation will be based on whether the students are able to express their personal opinions logically using the knowledge learned in the class.

HIS200BA（史学 / History 200）

イスラム世界論Ⅱ

松本　隆志

授業コード：A3812　｜　曜日・時限：金2/Fri.2
秋学期授業/Fall・2単位　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈他〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期の「イスラム世界論Ⅰ」では、イスラーム世界の信仰と歴史を中心に解説するが、この授業では、現代のイスラーム世界の諸側面に焦点を当てる。18世紀以降、イスラーム世界では近代化（＝西洋化）の波にさらされる中で、近代社会とイスラームをいかに接続させるか試行錯誤してきた。その営みは21世紀の現在もなお進行中である。この授業では、メディア等で取り上げられるイスラームの諸トピックについて、その歴史背景も含めた理解を促し、一般的なイスラーム認識を相対化する視座を提供することを目指す。

【到達目標】
この授業は、イスラーム世界の歴史や文化、そして宗教に関する基礎的知識を提供し、それらの知識に基づきイスラーム、そしてムスリム（イスラーム教徒）の多様性を理解することを目的とする。学生には、広い偏りのない視野で、現代の複雑なイスラーム世界に関する諸問題を自分の頭で主体的に考える能力を獲得してもらうことを目指してもらう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業では、現代のイスラーム世界を理解する上で欠かせないイスラーム世界の諸側面について、毎回テーマを定めて解説をおこなっていく。各テーマについて、特に歴史的背景を重視した解説をおこなう予定である。
授業は、講師による講義と、講義内容を踏まえた課題の作成・提出から成る。毎回の課題については講義内で設問が出されるので、学生はその設問に対して論述を作成してもらう。課題の作成には講義後半の20〜30分程度を予定している。そして次の回の講義において、前回提出の課題についてフィードバックすることを予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本授業のテーマ、および授業への取り組み方について
第2回	イスラームの基本概念	唯一神、預言者、クルアーンについて
第3回	イスラームの儀礼・行事	巡礼や祭、およびライフサイクルにおけるイスラーム的な慣習について
第4回	食をめぐる規定	ハラールとハラーム、そしてハラール認証ビジネスについて
第5回	イスラームにおける女性	イスラームにおける女性の位置付けと西洋的ジェンダー観との関係について
第6回	日本におけるイスラーム	在日・滞日ムスリムコミュニティの歴史と現状について
第7回	イスラーム法学	イスラーム法学の歴史的背景と現代での役割について
第8回	スーフィズム	スーフィズム（イスラーム神秘主義）の歴史的背景と現代での役割について
第9回	スンナ派とシーア派	イスラームの二大派閥の概要と歴史的背景について
第10回	イスラームにおける奴隷	前近代イスラーム社会における「奴隷」のあり方について
第11回	イスラームの経済倫理	「リバー」の概念を中心としたイスラーム特有の経済倫理について
第12回	イスラーム原理主義	「原理主義」の歴史的背景と現状について
第13回	現代の中東情勢	近現代中東史の文脈における「イスラム国」の経緯について
第14回	総括	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
この授業では、西アジアだけではなく、ヨーロッパから東アジア・東南アジアにかけての広い地域を対象とするため、聞きなれないカタカナの固有名詞が色々と出てくる。これらの固有名詞についての理解を深めるために、参考書・工具書（各テーマごとに紹介する）を参照しながら、各回の授業の予習・復習に努めてほしい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし。毎回授業資料をHoppiiにて配布します。

【参考書】
小杉泰, 江川ひかり編,『イスラーム：社会生活・思想・歴史』, 新曜社, 2006年.
小杉泰ほか編,『大学生・社会人のためのイスラーム講座』, ナカニシヤ出版, 2018年.
菊地達也編著,『図説イスラム教の歴史』, 河出書房新社, 2017年.
その他、授業中に各テーマに適した参考文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
レポート（60%）と毎回の授業終了後に提出する課題（40％）で評価します。毎回提出の課題に素点を付け、学期終了時に合計点を成績評価の４０%に換算します。
レポートについては、詳細を記した作成要領を10月中にHoppiiで配布予定です。授業で学習した内容を出発点とし、参考文献等の情報を加え、論理的に私見を述べられていることを評価します。レポートの点数を成績評価の６０%に換算します。

【学生の意見等からの気づき】
授業内容についての改善の指摘は特になかった。

【学生が準備すべき機器他】
毎回の授業資料は学習支援システムから配布し、授業は配布資料をモニターに映しておこなう予定です。手元で授業資料を見ながら受講したい場合は、各自で配布資料を印刷して持ち込むか、あるいはPDFファイルを閲覧できるPCやスマホ等を用意してください。なお、配布資料はノート代わりに書き込めるよう、余白を多めにして作成します。

【その他の重要事項】
上記の内容は状況の変化等によって変更される可能性があります。その場合は速やかに学習支援システムを通じて全員あてに告知します。受講予定者は正式な履修登録と合わせ、学習支援システムへの「仮登録」を必ず済ませておくこと。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course will focus on aspects of the modern Islamic world. Since the 18th century, the Islamic world has been exposed to the wave of modernization (= westernization), and trials and errors have been carried out on how to connect modern society with Islam. This activity is still in progress in the 21st century. In this course, we aim to promote understanding of various Islamic topics taken up in the media, including their historical background, and to provide a perspective that relativizes general Islamic perceptions.
【Learning Objectives】
This course provides students with basic knowledge of the history, culture, and religion of the Islamic world. Based on this knowledge, students are expected to understand Islamic society and the diversity of Muslims. By the end of the course, students should acquire the ability to think independently about issues related to the complex Islamic world of today from a broad and unbiased perspective.
【Learning activities outside of classroom】
The key words related to the next class will be presented in class, so researching and deepening your understanding of them will serve as preparation. Reviewing and re-examining each paper will also serve as a review. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Termend examination: 60%、 Short reports : 40%

HUG200BA（人文地理学 / Human geography 200）

歴史地理学（１）

米家　志乃布

授業コード：A3819　｜　曜日・時限：水1/Wed.1
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：**・「歴史地理学Ⅰ」を修得済みの場合は履修不可。**
・地理学科生は専門科目の選択必修として履修。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業のテーマ：「遺産」の歴史・観光地理
本講義で扱う「遺産」とは、世界中に残る人類が残した過去の文化遺産や伝統全般を指します。この講義では、これらの「遺産」の歴史そのものやそれらを後世において語り、利用することによって発展した歴史・観光地理を扱います。たとえば、日本の京都には、多くの「遺産」（神社仏閣・芸術品・祇園祭など）が残されています。これらの「遺産」は、古代の平安京から中世〜近代に至る京都の歴史的発展過程のなかで造られてきたものであり、現代では制度としての「文化財」や「世界遺産」に指定されています。京都における「遺産」を深く考えるためには、これらの「遺産」の歴史そのものと保存・活用制度を学ぶことのみならず、「遺産」の歴史を語り利用することによって成り立っている現代の観光都市としての京都の在り方も学ぶ必要があるでしょう。本講義ではこのような視点から、日本や世界各地の「遺産」の歴史と保存・利用、それらをめぐる観光業と地域の在り方に注目し、「遺産」の歴史・観光地理を考察していきます。

【到達目標】
この講義の目標は、日本や世界各地に残る「遺産」について、単に歴史的で普遍的な価値があるという視点だけでなく、観光産業に大きな利用価値があることをどのようにとらえていったらいいのか、肯定的であれ否定的であれ、受講者自らが考える姿勢を養うことにあります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
１．日本・世界における「遺産」の歴史地理学について説明します。２．日本における「遺産」の保存や利用に関わる法制度について学びます。３．日本の代表的な歴史的観光都市を取り上げ、「遺産」の歴史と地域の関係について、個別具体的に解説します。１〜３について、パワーポイントやプリントを用いて講義します。理解を深めるために、授業内でビデオ観賞もしますので、それについての感想文を書いていただきます。ビデオ鑑賞の感想については、授業内で紹介し、コメントをつけて返却します。
大学の方針で、対面授業を基本としますが、学習支援システムでパワーポイントやプリント資料もアップします。授業の効率化のため紙での配布しません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容・授業方法の説明，成績評価の基準など
第2回	「遺産」と歴史地理学	日本・欧米における歴史地理学の方法論
第3回	日本における歴史的遺産と文化財保護制度	歴史的町並み保存・文化的景観を中心に，日本の歴史と景観の関係について学ぶ
第4回	「世界遺産」と各国・各地域の関係	ユネスコの世界遺産制度について学ぶ
第5回	身近な地域から歴史地理学を考える	法政大学周辺の歴史地理、江戸から東京へ、都市構造の継承について学ぶ
第6回	奈良の歴史地理	奈良市内の歴史遺産，特に，平城京と現在の都市構造の関係について学ぶ
第7回	京都の歴史地理①	都城の歴史，平安京と現在の都市構造の関係について学ぶ
第8回	京都の歴史地理②	豊臣秀吉による京都改造，江戸時代の京都の名所、近代・現代の歴史的遺産の保存と観光の課題について学ぶ
第9回	伏見の歴史地理	豊臣秀吉による近世城下町プラン，城下町の復元研究について学ぶ
第10回	江戸東京の歴史地理①	江戸の都市構造、江戸の名所について学ぶ
第11回	江戸東京の歴史地理②	東京の都市構造、東京の名所、人々の観光行動の変化について学ぶ
第12回	大阪の歴史地理①	石山本願寺，豊臣秀吉の大坂城建設と城下町整備，徳川時代へ
第13回	大阪の歴史地理②	近代以降の大阪城の意義，大阪のまちづくり
第14回	歴史観光都市・観光地の取り組み	京都の祇園祭と現在

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本講義にかかわる準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。テレビの旅行番組を見たり、様々な旅行記などを読んで、様々な国や地域の観光の在り方について考えてみましょう。

【テキスト（教科書）】
特に指定はしません。適宜、学習支援システムでプリントを配布します。

【参考書】
適宜、必要に応じて、学習支援システムで紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業内試験50％、平常点50％で評価いたします。

【学生の意見等からの気づき】
文学部地理学科以外の学生にもわかりやすいように工夫しますので，他学科や他学部の学生も遠慮なく履修してください。ビデオなど映像教材も活用します。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムで資料配信します(紙での配布はしません)。随時確認することができるように、PCやスマートフォンなど機器類を準備してください。

【その他の重要事項】
歴史地理学の基本・応用を学ぶために、春学期・秋学期合わせての履修を推奨いたします。

【Outline (English)】
【Course outline】　This lecture examines a historical geography of heritage in Japan.
【Learning Objectives】 The goals of this course are to learn, understand and
practice about historical geography of heritage and tourism.
【Learning　activities outside of classroom】 Your study time will be more than four hours for a class.
【Grading Criteria】 Term-end examination:50%
　and　in class contribution:50％

HUG200BA（人文地理学 / Human geography 200）

歴史地理学（2）

米家　志乃布

授業コード：A3820　｜　曜日・時限：水1/Wed.1
秋学期授業/Fall・2単位　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：・「歴史地理学Ⅱ」を修得済みの場合は履修不可。
・地理学科生は専門科目の選択必修として履修。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業のテーマ：「フロンティア」の歴史・政治地理
　本講義で扱う「フロンティア」とは、近代国家が拡大する際の最前線である「辺境地域」を指します。この講義では、担当者の専門の関係から、日本やロシアにおける「フロンティア」の歴史とそれらの地域をめぐる現代まで続く歴史・政治地理を扱います。たとえば、19世紀日本における北方フロンティアとして蝦夷地・北海道、17世紀以降のロシアにおける東方フロンティアとしてシベリアが挙げられます。近代において、帝国主義国家によるその領土拡大と先住民族支配および植民地経営は、歴史学・地理学・民族学などの分野において重要な研究テーマです。現在における北方領土問題も、このフロンティアの歴史、つまり両国家による領土拡大と植民地経営に大きく関わってきます。本講義ではこのような視点から、北東アジアにおける17世紀〜20世紀にかけての日本とロシアの「フロンティア」、具体的には、蝦夷地・北海道や樺太・千島、シベリア・極東などの歴史・政治地理を考察していきます。

【到達目標】
この講義の目標は、国民国家と「領土」を歴史・政治地理的に改めて見直し、近代国家とは何か、先住民族・少数民族と近代国家の関係とはどういうものか、歴史地理学的方法を通して，受講者自らが考える姿勢を養うことにあります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
1．蝦夷地・北海道について，歴史地理学的方法を通して学びます。2．北方領土問題について学びます。3．近代国家と「フロンティア」の関係を、先住民族との関係から考えます。北方領土問題やアイヌ民族の文化に関する映像を見て、感想を提出してもらいます。受講生のみなさんの感想は、授業内で紹介し、こちらでコメントして返却します。
大学の方針により、対面授業とします。パワーポイントや資料はすべて学習支援システムで配布します。授業の効率化のため、紙での配布はありません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容および授業方法の説明，成績評価基準について
第2回	画像資料を通して地理的認識をめぐる歴史地理学	画像資料の利用方法を中心に、新しい歴史地理学の方法について学ぶ
第3回	蝦夷地の歴史地理	蝦夷地・北海道をめぐる和人・アイヌ関係を学ぶ
第4回	古地図からみた蝦夷地①	蝦夷地を描いた日本・欧米の地図の歴史
第5回	古地図から見た蝦夷地②	ロシア・日本・ヨーロッパの日本像と蝦夷地
第6回	旅行記から見た蝦夷地・北海道①	松浦武四郎とライマンの旅行記からみた蝦夷地・北海道
第7回	旅行記から見た蝦夷地・北海道②	松浦武四郎とライマンのアイヌ民族へのまなざしについて考える
第8回	風景画から見た北海道・札幌①	風景画・写真・古地図などの画像史料と開拓の歴史の関係
第9回	風景画から見た北海道・札幌②	開拓都市の表象について，歴史地理学的方法で考える
第10回	北方領土問題①	NHKスペシャルを鑑賞する
第11回	北方領土問題②	日本とロシアの国際的な関係，北方領土問題を考える
第12回	千島列島（クリル諸島）・樺太（サハリン）の歴史地理	千島列島・樺太の歴史地理を日本側・ロシア側の両方から学ぶ
第13回	現代に生きるアイヌ民族の若者たち	NHKスペシャルを鑑賞する
第14回	日本におけるアイヌ民族の法的地位と文化振興	日本における先住民族政策史をおさえ，日本のアイヌ民族に関する歴史的状況についておさえる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本講義にかかわる準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。アイヌ民族にかかわる日本の法令や雑誌の特集などは積極的に読んでみてください。アイヌ民族だけでなく、世界の領土問題や先住民族に関する文献も自分で探して読んでみてください。

【テキスト（教科書）】
米家志乃布『近世蝦夷地の地域情報-日本北方地図史の再考』2021年、法政大学出版局を使います。授業に持参してください。その他、必要に応じて、適宜資料をPDFファイルで学習支援システムにアップします。

【参考書】
適宜、必要に応じて、学習支援システムで紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末レポート50％、平常点50％で評価いたします。

【学生の意見等からの気づき】
文学部地理学科以外の学生にもわかりやすいように工夫しますので，他学科・他学部の学生も遠慮なく履修してください。

【学生が準備すべき機器他】
基本的に教科書の記述をもとにパワーポイントで捕捉しながら説明するか、学習支援システムで資料配信します（紙での配布はしません）。随時確認できるように、教科書は対面授業に持参し、PCやスマートフォンなど機器類を準備してください。

【その他の重要事項】
歴史地理学の基本・応用を学ぶために、通年での履修を推奨します。

【Outline (in English)】
【Course outline】　This lecture examines a historical geography of northern frontier in Japan and Russia.
【Learning Objectives】The goals of this course are to learn, understand, write a report of the history of Hokkaido.
【Learning activities outside of classroom】 Your study time will be more than 4 hours for a class.
【Grading Criteria】 Term-end examination: 50%
and in class contribution:50%

HUG200BF（人文地理学 / Human geography 200）

社会経済地理学Ａ（1）

小原　丈明

授業コード：A3905　｜　曜日・時限：火3/Tue.3
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：地理学科の2022年度以前入学生は受講不可

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目は地理学（主として都市地理学，経済地理学，社会地理学）の立場を中心に関係する他分野も踏まえつつ，都市開発について学ぶものです。都市開発がどのような事象に関わって展開されているのか，都市開発にはどのような利点や問題点があるのかなど，都市開発の諸側面について考えていきます。

【到達目標】
本科目を通じて，都市開発に関わる諸事象を題材にして，地理学，とりわけ都市地理学の見方・考え方を修得することを目標とします。また，都市開発を考えるには都市地理学の見方・考え方のみでは不十分であることから，隣接学問分野の考え方や見方も含めて身に付けることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
本科目は講義形式で行います。まず，都市開発との概念や種類など基本事項の理解に努めます。それを踏まえ，土地利用や土地所有，地価・地代，立地，デベロッパーなど都市開発に関わるさまざまな側面について学び，その上で都市開発の功罪（利点や問題点）などについて考えていきます。
本科目では，授業で扱う内容について受講生自身が考えることを求めます。それゆえ，適宜，授業内課題（小レポート課題）や授業外課題を課すことになるので，積極的に取り組むことを期待します。それら課題のフィードバックは授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス／都市開発の概要	講義の進め方／都市開発の基本概念・種類
第2回	土地利用①	都市の水平的拡大／都市的土地利用
第3回	土地利用②	都市の垂直的拡大／高度化・高密度化
第4回	土地所有①	土地所有の変遷
第5回	土地所有②	土地所有者の意思決定
第6回	地価・地代	地価の変遷／都市開発と地価の関係性
第7回	立地と開発①	住宅地の立地・開発
第8回	立地と開発②	マンションの立地・開発
第9回	立地と開発③	業務施設（オフィス）の立地・開発
第10回	立地と開発④	商業施設の立地・開発
第11回	都市再開発①	都市再開発の法制度
第12回	都市再開発②	都市再開発の歴史的展開
第13回	都市再開発③	アクターからみた都市再開発
第14回	総括	まとめ／補足／質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の中で指示する課題（授業外課題・授業内小レポート課題）に取り組んでもらうことがあります。また，授業で紹介する参考文献を自主的に読むことを望みます。なお，本授業の授業外学習（レポート課題・準備・復習時間）は各回4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。レジュメならびに講義資料は授業中に配布します。

【参考書】
・橘川武郎・粕谷　誠編（2007）:『日本不動産業史』名古屋大学出版会.
・實　清隆（2008）:『都市における地価と土地利用変動』古今書院.
・全国市街地再開発協会編（1991）：『日本の都市再開発史』同協会.
・堤　純（2009）:『土地利用変化のメカニズム』古今書院.
・松原　宏（1988）:『不動産資本と都市開発』ミネルヴァ書房.
・渡辺尚志・五味文彦編（2002）：『土地所有史』山川出版.
・その他の参考文献は講義中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業外課題・小レポート課題等）：30％，期末試験（持ち込み不可）：70％。授業で扱う内容を正しく理解した上で，それぞれの事象の関係性を総合的かつ論理的に考える力を重視します。

【学生の意見等からの気づき】
講義形式の授業であるため担当者からの話題提供が中心となりますが，多くの資料・データを提示することで，受講生自身が考察を行った上で，講義内容を理解できる授業となるよう心掛けます。

【Outline (in English)】
This course introduces urban developments, especially the advantages and problems of the phenomena from the point of view of geography to students taking this course. The goals of this course are to obtain the knowledge of urban developments and to acquire the way of geographical thinking.
Before /after each class meeting, students will be expected to spend each 2 hours to understand the course content.
Final grade will be calculated according to the following process: term-end examination (70％) and short reports (30％).

HUG200BF（人文地理学 / Human geography 200）

社会経済地理学Ａ（2）

小原　丈明

授業コード：A3906　｜　曜日・時限：火3/Tue.3
秋学期授業/Fall・2単位　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：地理学科の2022年度以前入学生は「社会経済地理学（1）（A3426）」として履修する
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では，農業や工業，商業，サービス産業，オフィスといった各種産業における立地について学び，考えていきます。各種産業の立地の実態を把握するだけでなく，それぞれの理論についての理解も深めていきます。具体的には，理論についてはチューネンやウェーバー，クリスタラー，マーシャル，スコット，ポーター，クルーグマンなどの理論それぞれについて学ぶだけでなく，各理論間の関係性についても考えていきます。また，具体的な事例を通じて，各種産業の立地や集積の実態についても考えていきます。

【到達目標】
本科目を通じて，各種理論のメカニズムや問題点などについて理解できるようになるだけでなく，各産業における立地や集積の実態について理解が深まるようになることを目標とします。また，各種理論や各産業における立地・集積の実態の問題点について批判的に捉え，自身の意見を提示することができるようになることも目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
本科目は講義形式で授業を行うので，基本的には授業担当者からの話題提供が中心となります。授業のコンテンツはパワーポイントによるスライドの内容，配布資料（レジュメ，図表等資料），口頭説明からなります。なお，特定の教科書は使用しません。授業においては，適宜，授業内小レポート課題や授業外レポート課題を出します。それらレポート課題等のフィードバックは次回以降の授業にて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション／概念整理	授業の狙い・進め方／概念・用語・事象の整理／産業立地論を学ぶ意味
第2回	立地・集積の理論について考える①：チューネンの農業立地論	農業に関する立地・集積の理論
第3回	立地・集積の理論について考える②：ウェーバーの工業立地論1	工業に関する立地・集積の理論／輸送費指向論と労働費指向論
第4回	立地・集積の理論について考える③：ウェーバーの工業立地論2	工業に関する立地・集積の理論／ウェーバーの工業立地論と現代の事象
第5回	立地・集積の理論について考える④：クリスタラーの中心地理論	都市の立地に関する理論／クリスタラーの中心地理論
第6回	立地・集積の理論について考える⑤：レッシュの中心地理論	都市の立地に関する理論／レッシュの中心地理論
第7回	立地・集積の理論について考える⑥：古典的な集積論	マーシャルの集積論／ウェーバーの集積論
第8回	立地・集積の理論について考える⑦：新しい集積論1	スコットの新産業空間論
第9回	立地・集積の理論について考える⑧：新しい集積論2	ポーターの産業クラスター論
第10回	工業立地の実態を考える①：伝統産業	伝統産業の立地の実態
第11回	工業立地の実態を考える②：コンテンツ産業	コンテンツ産業の立地動向・政策の展開・実態（ソフトウェア産業・ゲーム産業・アニメーション産業）
第12回	商業立地の実態を考える	商業（特にチェーンストア）の立地のメカニズム
第13回	オフィス（業務施設）立地の実態を考える	オフィス（業務施設）の立地のメカニズム
第14回	総括	まとめ／補足／質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の中で指示する課題（授業外課題・授業内小レポート課題）に取り組んでもらうことがあります。また，授業で紹介する参考文献を自主的に読むことを望みます。なお，本科目の授業外学習（レポート課題・準備・復習時間）は各回4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。授業資料（レジュメ，配布資料等）は授業内で配布します。

【参考書】
授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業外課題・小レポート課題等）：30％，期末試験（持ち込み不可）：70％。授業で扱う内容を正しく理解した上で，それぞれの理論や事象の関係性を総合的かつ論理的に考える力を重視します。

【学生の意見等からの気づき】
受講生の理解度の状況に合わせて授業を進めていきます。

【Outline (in English)】
This course introduces various location theories about agriculture, industry and service industry, and relationship between theories and realities to students taking this course. The goals of this course are to obtain the knowledge of mechanism about various location theories.
Before /after each class meeting, students will be expected to spend each 2 hours to understand the course content.
Final grade will be calculated according to the following process: term-end examination (70％) and short reports (30％).

HUG200BF（人文地理学 / Human geography 200）

社会経済地理学Ｂ（1）

伊藤　達也

授業コード：A3907　｜　曜日・時限：月3/Mon.3
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：地理学科の2022年度以前入学生は「社会経済地理学（2）（A3427)」として履修する
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか)】
授業ではわが国の水問題を全般的に学び、問題の本質の理解に努めます。

【到達目標】
授業の到達目標は「環境問題と向き合い行動する市民意識の育成」です。教員の講義からはわが国で発生している水問題についての理解を深めることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は教員の講義方式で進めていきます。授業に関する意見や質問は授業の最後に行うリアクションペーパーで提出します。対応すべき内容があった場合、次の授業の開始時に返答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロ	講義概要と目的の説明をします。
第2回	環境問題を考える	環境とは何か、環境問題とは何かについて説明します。
第3回	環境の中の水資源	水資源の特徴について説明します。
第4回	水資源利用の変遷	水資源利用の変遷について説明します。
第5回	水資源開発の論理	ダム・河口堰による水資源開発の方法について説明します。
第6回	ダム・河口堰による環境問題の発生	ダム・河口堰による水資源開発に伴う環境コストについて説明します。
第7回	ダム・河口堰をめぐる全国の動き	ダム・河口堰をめぐる全国の動きについて説明します。
第8回	公共事業をめぐる状況と住民運動	ダム・河口堰を中心とする公共事業のあり方について説明します。
第9回	「日本は水資源が豊かか？」	建設省（現国交省）の日本の水資源理解について考えます。
第10回	「日本は水資源が豊かか？」の答え	建設省（現国交省）の日本の水資源理解について解説します。
第11回	利根川の水問題と八ッ場ダム（1）	利根川の水資源問題について説明します。
第12回	利根川の水問題と八ッ場ダム（2）	利根川の水資源問題、特に八ッ場ダム問題について検討します。
第13回	水資源政策を展望する（1）	わが国の水資源問題の解決策について説明します。
第14回	水資源政策を展望する（2）	授業をまとめます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等)】
授業の内容を授業にとどめず、実際の暮らしの中の出来事と結び付けてください。よく観察してください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書)】
なし。

【参考書】
蔵治光一郎編『長良川のアユと河口堰』農文協　2024年
伊藤達也『水資源問題の地理学』原書房　2023年
伊藤達也・梶原健嗣『長良川河口堰と八ッ場ダムを歩く』成文堂　2023年

【成績評価の方法と基準】
期末試験70％、平常点30％で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
授業内容が自らに関係するものであることを気づいてもらえるよう努力します。

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイントの使用を基本とします。

【Outline (in English)】
Course outline
The goal of this class is to have public awareness to face environmental issues and act. In this class, we learn about water problems in Japan in general.
Learning Objectives
The goal of the class is "cultivation of public awareness to face environmental problems and act". The goal is to deepen the understanding of water problems occurring in Japan from this lecture.
Learning activities outside of classroom
Do not limit the content of the lesson to the lesson, but connect it with the events in the actual life. Please observe carefully. The standard preparation and review time for this class is 2 hour each.
Grading Criteria /Policy
The final exam is 70%and the normal score is 30%.

HUG200BF（人文地理学 / Human geography 200）

社会経済地理学Ｂ（2）

伊藤　達也

授業コード：A3908　｜　曜日・時限：月3/Mon.3
秋学期授業/Fall・2単位　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：地理学科の2022年度以前入学生は受講不可

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業ではわが国の水問題を中心に個別事例について学び、問題の本質の理解に努めます。

【到達目標】
授業の到達目標は「環境問題と向き合い行動する市民意識の育成」です。教員の講義からはわが国で発生している水問題についての理解を深めることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は教員の講義方式で進めていきます。授業に関する意見や質問は授業の最後に行うリアクションペーパーで提出します。対応すべき内容があった場合、次の授業の開始時に返答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロー水資源問題の様々（地域性）ー	講義概要と目的の説明をします。水資源問題の地域性について考えます。
第2回	ダムと山村	ダムが山村に与えた影響について説明します。
第3回	山村地域への還元策	水源地域への還元策（水源税等）について説明します。
第4回	脱ダム下における五木村の地域再生	熊本県五木村の地域再生について説明します。
第5回	脱ダムにかけた五木村村民の意識	熊本県五木村村民が脱ダムの状況の中でどのような意識にあったかを解説します。
第6回	ダムと環境保全について考える。	2020年の球磨川水害に伴って再燃した川辺川ダム計画について説明します。
第7回	長良川河口堰問題の現在石木ダム問題	長良川河口堰問題の推移と現状を説明します。
第8回	韓国の水辺環境改変事業	韓国のダム・堰問題について説明します。
第9回	石木ダム問題	石木ダム問題について説明します。
第10回	農業用水と地域社会	わが国における農業用水の特徴と地域社会について説明します。
第11回	カッパによる水辺環境保全・地域振興（1）	地域社会とカッパの歴史的関係について説明します。
第12回	カッパによる水辺環境保全・地域振興（2）	現代の地域社会に占めるカッパの果たす役割について説明します。
第13回	カッパによる水辺環境保全・地域振興（3）	カッパによる水辺環境保全、地域振興について説明します。
第14回	水資源問題を解決する	授業をまとめます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内容を授業にとどめず、実際の暮らしの中の出来事と結び付けてください。よく観察してください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
蔵治光一郎編『長良川のアユと河口堰』農文協、2024年
伊藤達也・梶原健嗣『長良川河口堰と八ッ場ダムを歩く』成文堂、2023年
伊藤達也『水資源問題の地理学』原書房、2023年

【成績評価の方法と基準】
期末試験70％、平常点30％で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
授業内容が自らに関係するものであることに気づいてもらえるよう努力します。

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイントの使用を基本とします。

【Outline (in English)】
Course outline
The goal of this class is to have public awareness to face environmental issues and act. In this class, we learn about water problems in Japan in
regionally.
Learning Objectives
The goal of the class is "cultivation of public awareness to face environmental problems and act". The goal is to deepen the understanding of water problems occurring in Japan from this lecture.
Learning activities outside of classroom
Do not limit the content of the lesson to the lesson, but connect it with the events in the actual life. Please observe carefully. The standard preparation and review time for this class is 2 hour each.
Grading Criteria /Policy
The final exam is 70%and the normal score is 30%.

HUG200BF（人文地理学 / Human geography 200）

社会経済地理学Ｃ（1）

佐々木　達

授業コード：A3909　｜　曜日・時限：火3/Tue.3
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：地理学科の2022年度以前入学生は受講不可

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経済現象は地域性をどのように作り出すかという経済地理学のオーソドックスな枠組みに基づいて，地域社会や地域経済の変容メカニズムについて企保的な方法論を学習することを狙いとする。

【到達目標】
到達目標①：経済地理学の学問的性格を理解する。
到達目標②：地域（社会・経済）の変容メカニズムについて説明できること
到達目標③：産業立地の基本的枠組みを説明できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
人文地理学は、地球上で展開される人間の諸活動が自然環境や社会環境を反映してどのような地域的特徴を作り出すのかを明らかにする、いわば「輪切りにされた歴史」を把握する学問分野である。本講義は、経済地理学の枠組みから地理的見方や地域の変化を捉える基礎的視点を学習する前半部分と、地域の変化をもたらす産業の在り方や現代的課題を地理学的に考察する後半部分からなる。
授業開始時には，前回のリアクションペーパーに基づいて，講義内容に関する質問や感想について答える。また，講義内容に関する理解度を推し量るために，小問題を課し，回答をフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	経済現象の地域性の解明とは？	経済地理学の基本的な枠組みについて解説する。
第2回	社会科学としての地理学	社会を科学するとは？
第3回	社会的分業と地域の形成①	地域は最初からあるものではなく，作られるものである。
第4回	社会的分業と地域の形成②	資本主義社会の元での地域
第5回	産業立地と地域経済の発展	立地論と地域経済の理論について解説する。
第6回	農業立地論と日本の農業地域	チューネンの農業立地論
第7回	食料供給の地理学	これからも腹いっぱい食べることができるか？
第8回	食のグローバル化はどう進んだか？	グローバル商品としての「醤油」を事例に
第9回	工業立地論と日本の工業地域	ウェーバーの工業立地論
第10回	工業の地方分散と農村工業化	立地論の適用事例
第11回	中心地理論とコンビニの立地戦略	同じ店名のコンビニストアはなぜ向かい側に立地するのか？
第12回	立地競争と日本の商業環境	均衡立地と最適立地
第13回	土地利用を読み解く地図学習の方法	仙台市の交通渋滞の原因は伊達政宗にある！？
第14回	試験とまとめ	試験を実施し，まとめをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日頃から日本経済新聞等に目を通して，社会や経済に関心をもってください。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。授業中に資料を配布します。

【参考書】
中澤高志『経済地理学とは何か』，旬報社，2021年
伊藤達也・小田宏信・加藤幸治編著『経済地理学への招待』，ミネルヴァ書房，2020年
竹中克行編著『人文地理学への招待』，ミネルヴァ書房，2015年
竹内敦彦・小田宏信編著『日本経済地理読本　第9版』，東洋経済新報社，2014年
松原宏編著『地域経済論』，古今書院，2014年
川端基夫『改訂版立地ウォーズ』，新評論，2013年

【成績評価の方法と基準】
課題レポート（50％），期末試験（50％）に基づいて総合的に成績評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特にありませんでした。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを利用する予定です。

【Outline (in English)】
This course introduces the basic framework of economic geography.
【Learning Objectives】There are three viewpoints of learning objectives.
1. Understanding the basic characteristics of economic geography.
2. Understanding the mechanisms of regional socio-economic transformation.
3. Understanding the explanation of industrial location theory.
【Learning activities outside of classroom】Your study time will be more than four hours for a class.
【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following Short report (50%), Term-end examination (50%)

HUG200BF（人文地理学 / Human geography 200）

社会経済地理学Ｃ（2）

佐々木　達

授業コード：A3910　｜　曜日・時限：火3/Tue.3
秋学期授業/Fall・2単位　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：地理学科の2022年度以前入学生は「社会経済地理学（3）（A3428)」として履修する

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか)】
本授業は，日本経済の地域構造の再編と農業地域の変貌について学習する。経済現象の地域性を明らかにする経済地理学の枠組みから，日本の経済社会と農業・農村問題の基本問題を明らかにすることが目的である。

【到達目標】
授業のテーマ：日本経済の構造変化と農業地域の変貌
到達目標①：日本経済の変化とそのもとでの国土空間の利用の特徴を理解すること
到達目標②：戦前と戦後の日本経済の発展構造の違いを理解すること
到達目標③：日本経済の構造変化に対する農業地域の対応を理解すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義は２部構成をとる。第１部は日本経済の地域構造の変化である。戦前から戦後の日本社会がどのような変化を辿ってきたのか，その地理的特徴について説明する．第２部は，日本の農業地域の変容メカニズムである。第1部を踏まえて経済構造の変化に農業地域はどのような対応を示してきたのかを検討する。これらを通じて，現在，日本が直面している多くの問題は歴史的なつながりで生み出されていること、および地域間関係の中で形成されてきたことを理解することがねらいとなる。
また，上記の方法を確認するために，双方向型の授業づくりとして複数回のリアクションペーパーや受講生による質疑応答の時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	社会経済地理学の枠組み	経済現象の地域性とは？
第2回	産業資本確立期の日本経済の地域構造	明治期の日本経済の課題
第3回	戦前期の日本経済の再生産構造と国土利用	近代的産業，植民地，地主制
第4回	戦後復興期の日本経済の地域構造の再編	敗戦と戦後復興期の国土利用の特徴
第5回	高度経済成長のメカニズム	太平洋ベルトの工業化
第6回	高度経済成長下の農業農村	労働力の大移動と出稼ぎ
第7回	オイルショックと産業構造の転換	電気機械工業の成長と地方の時代
第8回	安定成長期の農業・農村	発展なき成長メカニズムと農家兼業
第9回	低成長期とバブル経済	産業構造の再編と国土利用
第10回	経済のグローバル化と地域	産業空洞化と投資主導型経済構造
第11回	人口減少社会への突入	地方消滅論と農村社会の行方
第12回	これからの日本経済と国土利用	少子高齢化と日本経済の展望
第13回	日本の農業地域はどこに向かうのか？	減反50年，食料消費の多様化，食料自給率について
第14回	試験・まとめ	試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等)】
日本経済や農業・農村の基本的な知識については、新書を読むなどしてください。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書)】
教科書は使用しません。授業中に資料を配布します。

【参考書】
長岡顕・中藤康俊・山口不二雄編『日本農業の地域構造』，大明堂，1978年
石井素介・浮田典良・伊藤喜栄編『図説日本の地域構造』，古今書院，1986年
生源寺真一『日本農業の真実』，ちくま新書，2011年
吉川洋『高度成長』，中公文庫，2012年
増田寛也編著『地方消滅』，中公新書，2014年
中澤高志『住まいと仕事の地理学』，旬報社，2019年

【成績評価の方法と基準】
課題レポート（50％），試験（50％）により総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特にありませんでした。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを利用する予定です。

【Outline (in English)】
【Course outline】 This course deals with the structural reorganization of Japanese economy and development of agricultural region.
【Learning Objectives】There are three viewpoints of learning objectives.
1. Understanding the changes in the Japanese economy and the characteristics of national land use
2. Understanding the differences in the development structure of the Japanese economy before and after the war.
3. Understanding the reflection of agricultural region to structural changes in the Japanese economy
【Learning activities outside of classroom】 Your study time will be more than four hours for a class.
【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following Short report (50%), Term-end examination (50%)

ECN100FA（経済学 / Economics 100）

ファイナンス入門

山嵜　輝

専門入門科目100番台　1～4年次／2単位　［春学期授業/Spring］
営1年A～E

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、ファイナンスの入門的な内容を講義します。多くの学生にとって、ファイナンスを学ぶのはこの授業が初めてになると思います。しかし、金融取引や証券投資の基礎知識は、現代社会においてすべての人にとって必要不可欠です。経営学部の卒業生の多くが金融機関や企業の財務部門で活躍しており、ファイナンスの理論がそれらのビジネスの基盤となっています。また、個人としても、資産形成や老後資金を確保するためには、ファイナンスの知識や思考が欠かせません。
本授業では、主に次の3つのテーマについて学びます。（1）金融取引や証券市場の仕組み、（2）将来価値と現在価値の概念、（3）債券と株式の初歩的な分析手法です。これらの内容は、2年次以降に学ぶファイナンス関連科目の基礎になるだけでなく、実社会における金融リテラシーとして、様々な場面で役に立つはずです。

【到達目標】
次の4つを到達目標に掲げます。
（1）金融・証券の基礎知識に基づき、金融に関連するニュースを正しく理解できる。
（2）利子率や将来価値、現在価値の概念を理解し、それらに関する基本的な計算ができる。
（3）債券のしくみを理解し、利回り計算や債券投資に関する初歩的な分析ができる。
（4）株式のしくみを理解し、配当割引モデルや株式評価の指標による初歩的な分析ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP1-3」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
この授業は講義形式の対面授業です。授業中に計算することがありますので、電卓（関数電卓やタブレット、ノートPCの表計算ソフトを利用してもよい）を用意してください。小テスト及びそのフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方や成績評価基準などの説明
第2回	金融・証券市場の概観（1）	債券市場、株式市場、短期金融市場などの概説
第3回	金融・証券市場の概観（2）	市場参加者および政府、中央銀行の役割
第4回	利子率、将来価値、現在価値（1）	将来価値および複利と単利の概念
第5回	利子率、将来価値、現在価値（2）	現在価値の概念と複数のキャッシュフローがある場合の価値評価
第6回	利子率、将来価値、現在価値（3）	様々な複利期間と利子率の計算
第7回	債券入門（1）	債券の基本的なしくみと用語
第8回	債券入門（2）	最終利回りと債券投資のリスク
第9回	債券分析の基礎	信用リスクと社債分析
第10回	株式入門（1）	株式の基本的なしくみと用語
第11回	株式入門（2）	配当割引モデルと株式評価のための指標
第12回	株式分析の基礎	同業他社間比較による株式分析の実際
第13回	デリバティブ入門	先物取引とオプション取引のしくみ
第14回	現代ポートフォリオ理論の紹介	効率的市場仮説、ポートフォリオのリスクとリターン

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指定テキスト（教科書・講義資料）の予習・復習をしっかり行ってください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
（1）岸本直樹・池田昌幸、『入門・証券投資論』、2019年、有斐閣
（2）講義資料（配付方法は初回授業で説明します）

【参考書】
授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
試験期間中に行う定期試験（80％）と授業期間中の小テスト（20％）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
ファナンス特有の概念や理論の解説は、特にゆっくりと丁寧に説明します。

【学生が準備すべき機器他】
電卓（関数電卓やタブレット、ノートPCの表計算ソフトを利用してもよい）を用意してください。

【関連科目】
投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門Ⅰ/Ⅱ、デリバティブ入門Ⅰ/Ⅱ、Excelで学ぶファイナンス理論Ⅰ/Ⅱ

【実務経験のある教員による授業】
民間金融機関や中央銀行において、証券投資や金融市場調査などの金融実務に通算14年間携わりました。授業では、実際の金融ビジネスとファイナンスの基礎理論の関わりをわかり易く解説します。

【Outline (in English)】
[Course outline] This course offers an introduction to finance to students who start learning finance. [Learning objectives] It has three objectives: (1) To provide students with fundamental knowledge of financial transactions, securities, and financial markets. (2) To teach the concepts of the future value and the present value of a cash flow. (3) To give students basic tools for analyzing bonds and stocks. [Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. [Grading criteria] Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 80%, short examination: 20%.

PRI100FA（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

統計学入門

高橋　慎

専門入門科目100番台　1～4年次／2単位　［春学期授業/Spring］
営1年R～U

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年、学術分野だけでなく、ビジネスの現場においても統計学が注目を集めています。経営分野において、マーケティング戦略の決定や投資行動などの意思決定を適切に行うには、データに基づいて客観的に決定する必要があります。そこで利用するのが、統計学です。この授業では、統計学の基本的な理論について学びます。

【到達目標】
・統計学の基本的な考え方を理解し、他の人に説明できる。
・データの整理・要約ができる。
・データの要約やグラフからデータの傾向について考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
・スライドを利用した講義形式で授業を進めます。
・授業で学習した内容について、練習問題を解いて理解を深めます。
・練習問題を出題した次の授業で、解答と解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス/統計学とは	授業の概要と進め方について説明します。また、データと母集団などの統計学の基本的概念を学びます。
第2回	1変量の記述：図表の作成	データをわかりやすく図表にまとめる方法として、度数分布表とヒストグラムの作り方を学びます。
第3回	1変量の記述：位置を表す代表値	データの「中心」を表す3つの代表値（平均、中央値、最頻値）の定義と特徴および利用方法を学びます。
第4回	1変量の記述：ばらつきを表す代表値	データのばらつきの程度を表す分散と標準偏差を学びます。また、箱ひげ図と頑健な統計量を学びます。
第5回	1変量の記述：範囲と割合の関係	データの範囲と分布の割合について、経験的な関係とその応用例を学びます。
第6回	2変量の記述：散布図/共分散/相関係数	散布図を利用して2つの変数の大まかな相互関係を把握する方法を学びます。また、2つの変数間の相関関係を表す共分散と相関係数を学びます。
第7回	2変量の記述：単回帰分析	2つの変数間の定量的な関係を測定するための方法として、単回帰分析を学びます。
第8回	確率の基礎：確率変数と確率分布	確率変数と確率分布の定義、期待値や分散などの基本概念を学びます。
第9回	確率の基礎：複数の確率変数	複数の確率変数について、同時確率や条件付き確率の定義、期待値や分散などの基本概念を学びます。
第10回	確率分布：二項分布	代表的な離散確率分布として、ベルヌーイ分布と二項分布を学びます。
第11回	確率分布：正規分布	代表的な連続確率分布として、正規分布を学びます。また、推定において重要な中心極限定理を紹介します。
第12回	推定：基本概念	データから母集団の特性値（母数）を推測すること（推定）の考え方、推定量と推定値などの基本概念を学びます。
第13回	推定：点推定	母集団の平均（母平均）の推定量の統計的性質を学びます。
第14回	推定：区間推定/まとめ	母平均が存在すると思われる区間の推定（区間推定）を学びます。また、授業で扱った内容を復習し、発展的なトピックを紹介します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業後にテキストや資料を見直し、基本概念の理解度を確認します。
・練習問題を宿題として解きます。
・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
高橋慎『データ分析のための統計学の基礎』新世社

【参考書】
・藪友良 『入門　実践する統計学』東洋経済新報社
・竹村彰通・姫野哲人・高田聖治編『データサイエンス入門 第2版』学術図書出版社・Diez・Cetinkaya-Rundel・Barr著、国友・小暮・吉田訳『データ分析のための統計学入門』("OpenIntro Statistics, 4th Edition")』日本統計協会（PDF版は以下のリンクからダウンロードできます。http://www.kunitomo-lab.sakura.ne.jp/2021-3-3Open(S).pdf）
・東京大学教養学部統計学教室編 『統計学入門』東京大学出版会
・その他の参考書は授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
課題：50%
期末試験：50%

【学生の意見等からの気づき】
より発展的な内容も参考文献とともに紹介します。

【学生が準備すべき機器他】
授業内で行う演習や練習問題を解くには、統計計算ができる電卓またはエクセル（あるいはGoogleスプレッドシート）を使える端末(スマートフォン、タブレット、パソコン等)が必要となります。

【その他の重要事項】
・「授業の進め方と方法」および「授業形態」は、状況によって変更することがあります。
・「授業計画」は、履修者の関心や授業の進捗状況に応じて変更することがあります。

【関連科目】
基礎統計学I /II
経営のための統計学I /II

【Outline (in English)】
Recently, statistics has attracted attention from both business and academia. Making good business decisions, such as marketing and investment strategies, requires objective evidence based on data, i.e. statistics. In this course, we will learn the basic theories of statistics.
The primary goals of this course are: to understand the basic concepts of statistics and to be able to explain them to others; to be able to organize and summarize data; and to be able to discuss trends in data from summary statistics and graphs.
You will be expected to review the textbook and materials after class to check your understanding of the basic concepts. You will be required to complete practice questions as assignments. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grades will be based on 50%assignments and 50%final exam.

PRI100FA（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

統計学入門

高橋　慎

専門入門科目100番台　1～4年次／2単位　［秋学期授業/Fall］
営1年L～Q

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年、学術分野だけでなく、ビジネスの現場においても統計学が注目を集めています。経営分野において、マーケティング戦略の決定や投資行動などの意思決定を適切に行うには、データに基づいて客観的に決定する必要があります。そこで利用するのが、統計学です。この授業では、統計学の基本的な理論について学びます。

【到達目標】
・統計学の基本的な考え方を理解し、他の人に説明できる。
・データの整理・要約ができる。
・データの要約やグラフからデータの傾向について考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
・スライドを利用した講義形式で授業を進めます。
・授業で学習した内容について、練習問題を解いて理解を深めます。
・練習問題を出題した次の授業で、解答と解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス/統計学とは	授業の概要と進め方について説明します。また、データと母集団などの統計学の基本的概念を学びます。
第2回	1変量の記述：図表の作成	データをわかりやすく図表にまとめる方法として、度数分布表とヒストグラムの作り方を学びます。
第3回	1変量の記述：位置を表す代表値	データの「中心」を表す3つの代表値（平均、中央値、最頻値）の定義と特徴および利用方法を学びます。
第4回	1変量の記述：ばらつきを表す代表値	データのばらつきの程度を表す分散と標準偏差を学びます。また、箱ひげ図と頑健な統計量を学びます。
第5回	1変量の記述：範囲と割合の関係	データの範囲と分布の割合について、経験的な関係とその応用例を学びます。
第6回	2変量の記述：散布図/共分散/相関係数	散布図を利用して2つの変数の大まかな相互関係を把握する方法を学びます。また、2つの変数間の相関関係を表す共分散と相関係数を学びます。
第7回	2変量の記述：単回帰分析	2つの変数間の定量的な関係を測定するための方法として、単回帰分析を学びます。
第8回	確率の基礎：確率変数と確率分布	確率変数と確率分布の定義、期待値や分散などの基本概念を学びます。
第9回	確率の基礎：複数の確率変数	複数の確率変数について、同時確率や条件付き確率の定義、期待値や分散などの基本概念を学びます。
第10回	確率分布：二項分布	代表的な離散確率分布として、ベルヌーイ分布と二項分布を学びます。
第11回	確率分布：正規分布	代表的な連続確率分布として、正規分布を学びます。また、推定において重要な中心極限定理を紹介します。
第12回	推定：基本概念	データから母集団の特性値（母数）を推測すること（推定）の考え方、推定量と推定値などの基本概念を学びます。
第13回	推定：点推定	母集団の平均（母平均）の推定量の統計的性質を学びます。
第14回	推定：区間推定/まとめ	母平均が存在すると思われる区間の推定（区間推定）を学びます。また、授業で扱った内容を復習し、発展的なトピックを紹介します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業後にテキストや資料を見直し、基本概念の理解度を確認します。
・練習問題を宿題として解きます。
・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
高橋慎『データ分析のための統計学の基礎』新世社

【参考書】
・藪友良 『入門　実践する統計学』東洋経済新報社
・竹村彰通・姫野哲人・高田聖治編『データサイエンス入門 第2版』学術図書出版社・Diez・Cetinkaya-Rundel・Barr著、国友・小暮・吉田訳『データ分析のための統計学入門』("OpenIntro Statistics, 4th Edition")』日本統計協会（PDF版は以下のリンクからダウンロードできます。http://www.kunitomo-lab.sakura.ne.jp/2021-3-3Open(S).pdf）
・東京大学教養学部統計学教室編 『統計学入門』東京大学出版会
・その他の参考書は授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
課題：50%
期末試験：50%

【学生の意見等からの気づき】
より発展的な内容も参考文献とともに紹介します。

【学生が準備すべき機器他】
授業内で行う演習や練習問題を解くには、統計計算ができる電卓またはエクセル（あるいはGoogleスプレッドシート）を使える端末(スマートフォン、タブレット、パソコン等)が必要となります。

【その他の重要事項】
・「授業の進め方と方法」および「授業形態」は、状況によって変更することがあります。
・「授業計画」は、履修者の関心や授業の進捗状況に応じて変更することがあります。

【関連科目】
基礎統計学I /II
経営のための統計学I /II

【Outline (in English)】
Recently, statistics has attracted attention from both business and academia. Making good business decisions, such as marketing and investment strategies, requires objective evidence based on data, i.e. statistics. In this course, we will learn the basic theories of statistics.
The primary goals of this course are: to understand the basic concepts of statistics and to be able to explain them to others; to be able to organize and summarize data; and to be able to discuss trends in data from summary statistics and graphs.
You will be expected to review the textbook and materials after class to check your understanding of the basic concepts. You will be required to complete practice questions as assignments. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grades will be based on 50%assignments and 50%final exam.

MAN200FA（経営学 / Management 200）

会計学入門Ⅰ

近藤　大輔

専門入門科目200番台専門基礎科目B群　2～4年次／2単位　［春学期授業/Spring］
営2年Q～U

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
会計学入門Ⅰでは,主に財務会計について考えていく。具体的には損益計算書や貸借対照表，さらに売上原価，有形固定資産といった問題である。さらに利益構造の分析，原価管理といった管理会計の手法についても学んでいく。この講義は，会計学総論的な入門講義であるといえる。

【到達目標】
会計情報の役割について理解するとともに、損益計算書と貸借対照表の構造を理解してもらいたい。また企業が獲得する利益の源泉についての分析や利益構造の分析についても一定の理解を得て欲しい。最終的には財務会計と管理会計の基本的会計思考を身に着けて欲しい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-3」、「DP1-4」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
対面とオンデマンドの併用で行うことを予定しています。まずオンデマンド授業で説明を行い、例題等の問題も解いてもらいます。さらに会計に関する論点を共有し，課題を対面講義までに検討してきてもらいます。対面講義ではグループごとに課題を検討し，課題を提出してもらいます。そして，最も優秀な課題答案を表彰し，成績評価で加点します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、簿記の意義、会計学を学ぶ意義、会計に関する国家試験その資格案内、会計情報が読めるメリット
第2回	【講義】 会計情報の役割 会計制度と社会	財務会計と管理会計の性格と機能 株式会社の仕組み、会社法、金融商品取引法、法人税法に基づいて行われる会計
第3回	【議論・発表・表彰】 会計情報の役割 会計制度と社会	財務会計と管理会計の性格と機能 株式会社の仕組み、会社法、金融商品取引法、法人税法に基づいて行われる会計
第4回	【講義】 会計の仕組み 貸借対照表	貸借対照表、損益計算書の構造 貸借対照表の構造と資産・負債・資本の細目
第5回	【議論・発表・表彰】 会計の仕組み 貸借対照表	貸借対照表、損益計算書の構造 貸借対照表の構造と資産・負債・資本の細目
第6回	【講義】 在庫品の会計 生産設備の会計	商品の取得原価、製品の製造原価の計算と売上原価の計算、期末在庫品の評価方法 有形固定資産の取得、減価償却、減損処理
第7回	【議論・発表・表彰】 在庫品の会計 生産設備の会計	商品の取得原価、製品の製造原価の計算と売上原価の計算、期末在庫品の評価方法 有形固定資産の取得、減価償却、減損処理
第8回	【講義】 金融資産の会計 負債と資本の会計	金融資産の種類、現金・預金の範囲、有価証券の評価 自己資本と他人資本による資金調達法と純資産の内訳と配当
第9回	【議論・発表・表彰】 金融資産の会計 負債と資本の会計	金融資産の種類、現金・預金の範囲、有価証券の評価 自己資本と他人資本による資金調達法と純資産の内訳と配当
第10回	【講義】 損益計算書 営業活動の会計	損益計算書の仕組み、利益算出の流れ、業種ごとの損益計算書の特徴 企業の営業活動と営業循環、売上代金の回収と収益の認識、代金回収の不確実性
第11回	【議論・発表・表彰】 損益計算書 営業活動の会計	損益計算書の仕組み、利益算出の流れ、業種ごとの損益計算書の特徴 企業の営業活動と営業循環、売上代金の回収と収益の認識、代金回収の不確実性
第12回	【講義】 儲かる仕組みの分析 利益構造の分析	収益性の分析、ROEの3分解、安全性の分析 損益分岐点分析にみる利益構造、内部経営分析としてのCVP分析
第13回	【議論・発表・表彰】 儲かる仕組みの分析 利益構造の分析	収益性の分析、ROEの3分解、安全性の分析 損益分岐点分析にみる利益構造、内部経営分析としてのCVP分析
第14回	ゲストスピーカー講演	ビジネスパーソンの講演，質疑応答，議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業後はテキスト各章末の問題について解答を作ることが求められる。章末問題は自分で考える問題が多いが，そのヒントは授業中に十分話したい。なお本授業の準備・復習時間は，合計で2時間程度は必要である。

【テキスト（教科書）】
谷武幸・桜井久勝他編『1からの会計（第2版）』中央経済社、2021年

【参考書】
近藤大輔『ビギナー原価計算』中央経済社，2020年
小山晃弘『ぶっちゃけ会計のことがまったくわかりません… YouTuber会計士がゆる～く教える会計「超」入門』飛鳥新社，2021年
谷武幸『エッセンシャル管理会計〈第4版〉』中央経済社、2022年

【成績評価の方法と基準】
①対面授業時の課題提出・発表・表彰（30％）
②対面授業の平常点（10％）
③対面授業時の質問・発言（10％）
④ゲストスピーカーへの事前質問・当日質問・感想（10％）
⑤確認テスト（10％）
⑥定期試験（30％）

【学生の意見等からの気づき】
グループごとに学生間で教え合い，議論するエッセンスを対面講義で実施することで，簿記・会計に関する理解を深めるだけでなく，ビジネスで不可欠であるコミュニケーション能力を身に着けて欲しい。

【学生が準備すべき機器他】
対面授業の際は電卓を持参すること。

【その他の重要事項】
日商簿記３級程度の知識があれば良いが，まだ簿記の基礎を学習していない学生は「簿記入門Ⅰ」を並行履修して欲しい。
この科目履修後の会計関連専門科目として，『財務会計論』，『国際会計論』，『原価計算論』，『管理会計論』，『監査論』，『税務会計』，『経営分析論』『企業評価論』といった会計科目があげられる。

【Outline (in English)】
The purpose of this lecture is to understand financial accounting mainly.　we learn basic analysis of financial statements. Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2hours to understand the course content. Grading will be decided based on ① Assignment submission/presentation/awards during face-to-face classes (30%),②Attitude score for face-to-face classes (10%),③Questions and comments during face-to-face classes (10%), ④ Questions to guest speakers, questions on the day, and impressions (10%), ⑤Confirmation test (10%), ⑥Regular exam (30%).

MAN200FA（経営学 / Management 200）

会計学入門Ⅱ

近藤　大輔

専門入門科目200番台専門基礎科目B群　2～4年次／2単位　［秋学期授業/Fall］
営2年Q～U

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
会計学入門Ⅱでは,会計学入門Ⅰの知識をもとに主に管理会計の入門的な内容について学ぶ。利益構造の分析や管理会計における原価管理といった手法についても学んでいく。この講義は，会計学総論的な入門講義であるといえる。

【到達目標】
管理会計の役割について理解して欲しい。意思決定，利益計画など管理会計手法についても一定の理解を得て欲しい。最終的には管理会計の基本的会計思考を身に着けて欲しい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち,「DP1-2」に関連が特に強く,「DP1-1」,「DP1-3」,「DP1-4」,「DP2-1」,「DP2-2」,「DP4」,「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
対面とオンデマンドの併用で行うことを予定しています。まずオンデマンド授業で説明を行い、例題等の問題も解いてもらいます。さらに会計に関する論点を共有し，課題を対面講義までに検討してきてもらいます。対面講義ではグループごとに課題を検討し，課題を提出してもらいます。そして，最も優秀な課題答案を表彰し，成績評価で加点します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、簿記の意義、会計学を学ぶ意義、会計に関する国家試験その資格案内、会計情報が読めるメリット
第2回	【講義】 意思決定	マネジメントコントロールと意思決定，差額原価
第3回	【議論・発表・表彰】 意思決定	マネジメントコントロールと意思決定，差額原価
第4回	【講義】 原価管理	PDCAサイクル，直接費，間接費
第5回	【議論・発表・表彰】 原価管理	PDCAサイクル，直接費，間接費
第6回	【講義】 設備投資計画	経済性計算の方法と資本コスト
第7回	【議論・発表・表彰】 設備投資計画	経済性計算の方法と資本コスト
第8回	【講義】 予算管理	予算差異分析
第9回	【議論・発表・表彰】 予算管理	予算差異分析
第10回	【講義】 原価企画	日本的管理会計，源流管理，PDCA，組織，VE
第11回	【議論・発表・表彰】 原価企画	日本的管理会計，源流管理，PDCA，組織，VE
第12回	【講義】 アメーバ経営	ミニ・プロフィットセンター，インタラクション
第13回	【議論・発表・表彰】 アメーバ経営	ミニ・プロフィットセンター，インタラクション
第14回	ゲストスピーカー講演	ビジネスパーソンの講演，質疑応答，議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業後はテキスト各章末の問題について解答を作ることが求められる。章末問題は自分で考える問題が多いが，そのヒントは授業中に十分話したい。なお本授業の準備・復習時間は，合計で2時間程度は必要である。

【テキスト（教科書）】
谷武幸『エッセンシャル管理会計〈第４版〉』中央経済社、2022年

【参考書】
近藤大輔『ビギナー原価計算』中央経済社，2020年
谷武幸・桜井久勝他編『1からの会計（第2版）』中央経済社、2021年
小山晃弘『ぶっちゃけ会計のことがまったくわかりません… YouTuber会計士がゆる～く教える会計「超」入門』飛鳥新社，2021年

【成績評価の方法と基準】
①対面授業時の課題提出・発表・表彰（30％）
②対面授業の平常点（10％）
③対面授業時の質問・発言（10％）
④ゲストスピーカーへの事前質問・当日質問・感想（10％）
⑤確認テスト（10％）
⑥定期試験（30％）

【学生の意見等からの気づき】
グループごとに学生間で教え合い，議論するエッセンスを対面講義で実施することで，簿記・会計に関する理解を深めるだけでなく，ビジネスで不可欠であるコミュニケーション能力を身に着けて欲しい。

【学生が準備すべき機器他】
対面授業の際は電卓を持参すること。

【その他の重要事項】
日商簿記３級程度の知識があれば良いが，まだ簿記の基礎を学習していない学生は「簿記入門Ⅰ」を並行履修して欲しい。
この科目履修後の会計関連専門科目として，『財務会計論』，『国際会計論』，『原価計算論』，『管理会計論』，『監査論』，『税務会計』，『経営分析論』『企業評価論』といった会計科目があげられる。

【Outline (in English)】
The purpose of this lecture is to understand management accounting mainly. we learn basic analysis of management accounting. Before /after each class meeting, students will be expected to spend 2hours to understand the course content. Grading will be decided based on ① Assignment submission/presentation/awards during face-to-face classes (30%),②Attitude score for face-to-face classes (10%),③Questions and comments during face-to-face classes (10%), ④ Questions to guest speakers, questions on the day, and impressions (10%), ⑤Confirmation test (10%), ⑥Regular exam (30%).

MAN200FB（経営学 / Management 200）

経営管理論Ⅰ（2019年度以降入学者）

中西　善信

経営学科専門科目200番台　2～4（経営学科）3～4（経営戦略学科・市場経営学科）年次／2単位　［春学期授業/Spring］

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
組織のマネジメントの仕組みには，何らかの理由や意図がある。一方で，その仕組みが，意図しない副作用（逆機能）をもたらすことがある。
このようなマネジメントの理由や意図，並びに逆機能の多くは，経営管理論の各理論によって説明することが可能である。それらを理解することは，社会を生きる上で有用であろう。
そこでこの講義では，マネジメントの仕組みや行動の背景は何かについて学ぶ。
その際，可能な限り学生の日常生活（ゼミ活動，サークル，アルバイトなど）の実態を参照する。
なお，経営管理論I/IIのうち，経営管理論Iは，より基本的な内容を扱う。内容はそれぞれ独立だが，経営管理論IIと併せて履修することを推奨する。

【到達目標】
1. 経営管理の基本的な概念について，説明することができる。
2. 経営管理の仕組みと行動，並びにそれらの意図・機能・逆機能を，理論に関連付けて説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】
対面講義による（ただし，内容により，一部の回をオンラインに変更することがある）。
また，毎授業終了時に小レポートの提出を課す（解答の概要を，次回講義冒頭においてフィードバックする）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義概要・履修要件など
第2回	経営管理論とは	経営管理論とはどのような学問領域か
第3回	会社の役割と機能	社会における会社の役割
第4回	コーポレートガバナンス	会社は誰が動かしているのか
第5回	組織とは何か	組織を成立させる要素は何か
第6回	科学的管理法と管理過程論	経営管理のルーツ
第7回	人間関係論	ホーソン実験と非公式集団
第8回	モチベーション	人は何に，どのように動かされるのか
第9回	リーダーシップ	様々なリーダー像
第10回	グループダイナミクス	「三人寄れば文殊の知恵」か
第11回	組織安全	組織事故と安全文化
第12回	キャリア	仕事からみた人の生涯
第13回	人的資源管理	人に働いてもらうためのしくみ
第14回	まとめ	講義全体の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は，各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。
適宜資料を配布する。

【参考書】
高橋伸夫（編著）『よくわかる経営管理』ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】
各回提出の小レポート（100%）。
ただし，各回のウエイトを変えることがある。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していない。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを使用した資料配布や課題提出のため，これに対応可能な情報機器（パソコン等）が必要。

【関連科目】
経営管理論II，経営組織論，組織行動論等

【Outline (in English)】
[Course outline] In this course, we will learn the background of management systems and actions.　Of the two, Business Management I deals with more basic topics.
[Learning objectives] Students can explain basic concepts of business management.
[Learning activities outside of classroom]
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
[Grading Criteria/Policy] Evaluated by papers submitted at each session (100%).

MAN200FB（経営学 / Management 200）

経営管理論Ⅱ（2019年度以降入学者）

中西　善信

経営学科専門科目200番台　2～4（経営学科）3～4（経営戦略学科・市場経営学科）年次／2単位　［秋学期授業/Fall］

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
組織のマネジメントの仕組みには，何らかの理由や意図がある。一方で，その仕組みが，意図しない副作用（逆機能）をもたらすことがある。
このようなマネジメントの理由や意図，並びに逆機能の多くは，経営管理論の各理論によって説明することが可能である。それらを理解することは，社会を生きる上で有用であろう。
そこでこの講義では，マネジメントの仕組みや行動の背景は何かについて学ぶ。
その際，可能な限り学生の日常生活（ゼミ活動，サークル，アルバイトなど）の実態を参照する。
なお，経営管理論I/IIのうち，経営管理論IIは，より高度な内容，実際の具体例等を扱う。内容はそれぞれ独立だが，経営管理論Iと併せて履修することを推奨する。

【到達目標】
1. 経営管理の基本的な概念について，説明することができる。
2. 経営管理の仕組みと行動，並びにそれらの意図・機能・逆機能を，理論に関連付けて説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】
対面講義による（ただし，内容により，一部の回をオンラインに変更することがある）。
また，毎授業終了時に小レポートの提出を課す（解答の概要を，次回講義冒頭においてフィードバックする）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義概要・履修要件など
第2回	官僚制組織	規則の体系としての組織
第3回	組織デザイン	分業と調整
第4回	コンティンジェンシー理論	環境や技術と組織構造のマッチング
第5回	経営戦略	組織の目標と活動の指針
第6回	組織文化	メンバーの行動に影響する見えない力
第7回	新制度派組織論	組織はなぜ似るのか
第8回	組織学習①	組織が学ぶとはどのようなことか
第9回	組織学習②	組織学習の課題・人のマネではだめなのか
第10回	イノベーション	なぜイノベーションは難しいのか
第11回	知識創造	アイディア創造と「場」
第12回	事例①	スリーエム社における知識創造
第13回	事例②	トヨタのサプライヤーチェーンにおける知識創造
第14回	まとめ	講義全体の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は，各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。
適宜資料を配布する。

【参考書】
高橋伸夫（編著）『よくわかる経営管理』ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】
各回提出の小レポート（100%）。
ただし，各回のウエイトを変えることがある。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していない。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを使用した資料配布や課題提出のため，これに対応可能な情報機器（パソコン等）が必要。

【関連科目】
経営管理論I，経営組織論，組織行動論等

【Outline (in English)】
[Course outline] In this course, we will learn the background of management systems and actions. Of the two, Business Management II deals with more advanced topics.
[Learning objectives] Students can explain basic concepts of business management.
[Learning activities outside of classroom]
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
[Grading Criteria/Policy] Evaluated by papers submitted at each session (100%).

MAN200FA（経営学 / Management 200）

キャリア・マネジメントⅠ（2019年度以降入学者）

小川　憲彦

経営学科専門科目200番台　2～4（経営学科）3～4（経営戦略学科・市場経営学科）年次／2単位　［春学期授業/Spring］

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリア論の基本について学習します。その中で、キャリアを歩んでいく上での考え方、就職活動のことに加えて、会社のこと、会社組織を取り巻く社会環境についてもお話したいと考えています。自分の考えと照らし合わせながら参加できるよう、適宜ディスカッション等を行います。
The purpose of this class is to learn fundamental career theories including basic minds for career development, processes of job-hunting and recruiting, the ways that companies work, and social environments surrounding your career and organizations at which you may work.

【到達目標】
①キャリアの基本理論の概要やこれに関わる術語を知っていること
②就職活動、および就職以降も続く各自のキャリア形成について、暫定的でも自分なりの考え方を持って臨めるようになること
Students who complete the course will be expected to:
(1) understand the basic terms and concepts of the career development theories,
(2) begin preparations for job-hunting　according to your own ideas, even if tentative. It will be the first step for lifelong career development /management.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連が特に強く、「DP1-1」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
・初回はZoomを用いたオンライン、以降は原則的に対面での講義を実施します。
・参加ルールは以下です。詳細は授業で伝えます。
　①他人の迷惑になる行為を行わないこと
　②授業に関係のないことをしないこと
　③その他については教員の指示に従うこと
・Zoomでの実施の場合、詳細は授業で伝えます。
・適宜リアクションペーパーを課します。
・グループ・ディスカッションを行うことがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	参加の諸注意、評価方法、レポート情報などの説明
第2回	キャリアとは	経営学におけるキャリア論の位置づけやキャリアという概念の理解
第3回	キャリアを取り巻く環境の変化	これからの世の中で、どのような変化が生じうるのか、その上でどのようなキャリアが求められるのか
第4回	企業の新卒採用活動（1）	採用側の理論について
第5回	企業の新卒採用活動（2）	採用研究について紹介します
第6回	企業の新卒採用活動（3）	面接研究について紹介します
第7回	企業の採用活動事例の紹介（1）	過去は、金融、メーカー、マスコミ、小売、サービスなどの各種業界の採用活動の実際を紹介しました（業界や会社は皆さんの要望を踏まえ変わることがあります）
第8回	企業の採用活動事例の紹介（2）	過去は、金融、メーカー、マスコミ、小売、サービスなどの各種業界の採用活動の実際を紹介しました（業界や会社は皆さんの要望を踏まえ変わることがあります）
第9回	職場適応の理論（1）	入社した後の会社への適応について（概要）
第10回	職場適応の理論（2）	入社した後の会社への適応について（人間関係）
第11回	キャリア発達の理論（1）	長期にわたるキャリアの見通しについて
第12回	キャリア発達の理論（2）	長期にわたるキャリアの見通しについて
第13回	キャリア・トランジション論	転職など、キャリアの移行期について
第14回	近年のキャリア論	偶発性アプローチの紹介など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
任意の宿題（レポート等）を出すことがあります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業は配布資料を基に進めますので、必ずしも購入する必要はありません。参考書も同様です。
鈴木竜太・西尾久美子・谷口智彦編著（2023）『1からのキャリア・マネジメント』碩学舎。

【参考書】
金井壽宏（2002）『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所。
大久保幸夫（2006）『キャリアデザイン入門〈1〉基礎力編』・『キャリアデザイン入門〈2〉専門力編』日経文庫。
エドガー・H・シャイン (著)・金井壽宏（訳）（2003）『キャリア・アンカー　―自分のほんとうの価値を発見しよう』・『キャリア・サバイバル―職務と役割の戦略的プラニング』白桃書房。

【成績評価の方法と基準】
・期末試験ないしレポート（80％）、平常点（20％：参加態度、リアクションペーパー、課題等含む）

【学生の意見等からの気づき】
平日の時間帯なので難しいかもしれませんが、可能であればキャリア・マネジメントⅡのようにゲストを招く回を設けたいと思っています。

【その他の重要事項】
Ⅰは理論編、Ⅱは事例偏です。前者は講義が中心ですが、後者では社会人ゲストを呼んで業界のことや仕事、キャリアについて具体的に話してもらいます。Ⅱは現役社会人ゲストを呼ぶので土曜日開講ですが、1回1回の授業がOBOG訪問のような場になりますので、2，3年生の早いうちから受講することを勧めます。どのようなゲストかはⅡのシラバスを見てください（過年度のゲストなので同じ方々ではありませんが、多様な業界業種の方をお呼びしています。）

【Outline (in English)】
Outline
The purpose of this class is to learn fundamental career theories including the basic mind for career development, the process of job-hunting and recruiting, the ways that companies work, and the social environment surrounding an individual career and organizations at which you will work.
Learning objectives
Students who complete the course will be expected to:
(1) understand the basic terms and concepts of career development theories,
(2) begin preparations for job-hunting　according to your own ideas, even if tentative. It will be the first step for lifelong career development /management.
Learning activities outside of the class
Assignments (that include reaction papers, readings, small reports, and others) will be given at the instructor's discretion.
Two hours for preparation and same hours for review may be required for each class.
Grading criteria/policy
Grading will be decided based on the mid-term or term-end examination (80%) and in-class attitudes and regular assignments (20%).

MAN200FA（経営学 / Management 200）

キャリア・マネジメントⅡ（2019年度以降入学者）

小川　憲彦

経営学科専門科目200番台　2～4（経営学科）3～4（経営戦略学科・市場経営学科）年次／2単位　［秋学期授業/Fall］

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリアマネジメントⅠの知識を前提に、やや応用的な内容について扱います。また、この授業では各界の老若男女様々な社会人ゲストをお呼びして、業界や仕事の紹介、ご自身のキャリアについて話をしてもらいながら、質疑応答を行います。様々な働き方・考え方に触れることで視野を広げながら、自分自身のキャリアについて考える契機として下さい。
The purpose of this class is to learn advanced career theories and to think about your career development through interactions with guest-speakers who have diverse backgrounds: career, jobs, positions, occupations, and industries. They will talk about not only their careers but the lives overall. You will be able to learn a lot from them.

【到達目標】
①就職活動、および就職以降も続く各自のキャリア形成について暫定的でも自分なりの考え方を持って臨めること
②社会人との交流が適切に行えること
Students who complete the course will be expected to:
(1) begin preparation for job-hunting (including visiting OBs &OGs and participation in internships) initiatively as the first step for lifelong career development/management,
(2) be able to communicate and exchange views with working people (guests) in an adequate manner.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連が特に強く、「DP1-1」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
ゲストを招くことで社会人とのコミュニケーションの場を設けます。仕事世界やキャリアに関する知見・視野を広げてほしいと思います。また、キャリア形成に関する理論、研究、事例等の紹介等も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	参加の諸注意、評価方法、レポート情報などの説明、キャリア・マネジメント論Ⅰの振り返り
第2回	就職活動について	学生の就職活動報告を共有し気付きを共有します
第3回	企業の採用活動	就職活動を企業の側から、すなわち採用活動について具体的な選抜方法やその視点について紹介します
第4回	ゲスト（キャリアセンター職員）	キャリア・センターの活用と３０代の女性職員の方のキャリア
第5回	ゲスト（菓子メーカー）	40代人事部長（1社内でのタテ型のキャリア）
第6回	ゲスト（リクルート）	リクリート社5年目の若手OB
第7回	ゲスト（鉄道会社）	大手私鉄入社20年近いOB
第8回	ゲスト（サービス・販売）	入社30年近い段階での管理職者の転職
第9回	ゲスト（三菱電機）	入社4年目の若手OB
第10回	ゲスト（アクセンチュア）	コンサル会社入社1年目の新人OB
第11回	ゲスト（中国でのキャリア）	外国籍の女性による中国でのキャリア（日本でのコンサル会社勤務などを経て現在は帰国し教員）
第12回	近年のキャリア論①	プロティアン・キャリア
第13回	近年のキャリア論②	バウンダリレス・キャリア（転職等の効果について）
第14回	まとめ or 出世について	伝統的キャリアと近年のキャリア観、あるいは大企業での出世や昇進のメカニズムについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
任意の宿題（レポートや課題図書）を出すことがあります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
Assignments (that include reaction papers, readings, small reports, and others) might be given at the instructor's discretion.
Two hours for preparation and same hours for review may be required for each class.

【テキスト（教科書）】
授業は配布資料を基に進めますので、必ずしも購入する必要はありません。参考書も同様です。
鈴木竜太・西尾久美子・谷口智彦編著（2023）『1からのキャリア・マネジメント』碩学舎。

【参考書】
金井壽宏（2002）『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所。
大久保幸夫（2006）『キャリアデザイン入門〈1〉基礎力編』・『キャリアデザイン入門〈2〉専門力編』日経文庫。
エドガー・H・シャイン (著)・金井壽宏（訳）（2003）『キャリア・アンカー　―自分のほんとうの価値を発見しよう』・『キャリア・サバイバル―職務と役割の戦略的プラニング』白桃書房。

【成績評価の方法と基準】
平常点100％(リアクションペーパーや小レポート等含む)
・出席は取りませんが適宜課題を出すことがあります。
・高い評価を目指す方や単位が心配な方向けに任意のレポートを設けます。
　ただし内容が不十分であれば加点にはなりません。
　（質の低さ、コピペ、読めないものなど）
・参加しないで出されたリアクションペーパーは不正とみなします。
・詳細は授業で指示します。
Grading will be decided based on your in-class attitudes and regular assignments (100%).

【学生の意見等からの気づき】
出来るだけ男女バランスよくゲストをお呼びしたいと思います。

【その他の重要事項】
各回の内容は過年度のものです。ゲストは毎年変更しています。
参加上の注意点は以下です。常識的に参加すれば問題ありません。
①初回講義で具体的な注意など示します。以後は1度は注意をしますが、2回目以降は②のような対応をします。なお、スマホ（携帯電話）で写真や動画をとったりUPしたりしない、関係のないおしゃべりをしない、帽子やサングラスをしない等は基本です。
②仮に1度目であっても、度を越えた不適切な参加態度であると私がみなした場合は退出を命じることがあります。程度によっては、減点や単位不認定もあります。
関連科目：キャリア・マネジメントⅠ

【Outline (in English)】
The purpose of this class is to learn advanced career theories and to think about your career development through interactions with guest-speakers who have diverse backgrounds: career, jobs, positions, occupations, and industries. They will talk about not only their careers but the lives overall. You will be able to learn a lot from them.
Learning objectives
Students who complete the course will be expected to:
(1) begin preparation for job-hunting (including visiting OBs &OGs and participation in internships) initiatively as the first step for lifelong career development/management,
(2) be able to communicate and exchange views with working people (guests) in an adequate manner.
Learning activities outside of the class
Assignments (that include reaction papers, readings, small reports, and others) will be given at the instructor's discretion.
Two hours for preparation and same hours for review may be required for each class.
Grading criteria/policy
Grading will be decided based on your in-class attitudes and regular assignments.

MAN200FD（経営学 / Management 200）

日本経営論 I

金　容度

市場経営学科専門科目200番台市場経営学科専門科目　2～4（市場経営学科）3～4（経営学科・経営戦略学科）年次／2単位　［春学期授業/Spring］

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本の企業経営の現状と歴史を国際比較の視点から講義すると共に、関連する論点についてのディスカッションを行う。それによって、日本の企業システムについての理解を深めると共に、日本企業の諸現象を論理的に考える能力を高める。

【到達目標】
この授業の到達目標は、第1に、国際比較を通じて日本の企業システムの特殊性と普遍性を理解すること、第2に、日本の企業システムにおける組織性と市場性の両面を理解すること、第3に、日本の企業経営の現状と歴史の関連についての思考能力を高めることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
毎週の授業は、講義とディスカッションを織り交ぜて行われる。ディスカッション時の発言者には加算点が与えられる。また、学期ごとに1回、授業と関連する文章を読んで感想文を書く時間を設け、その内容によって加算点も与える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方について案内し、日本の企業経営に関する論点についてディスカッションする。
第2回	日本の企業システムの特徴	企業内部の組織と活動、企業間関係などの特徴を概観する。
第3回	日本企業のトップマネジメント	戦後日本の経営者の属性とキャリアパス、経営上の特性、経営者報酬などについて講義する。
第4回	トップマネジメントの日米比較	20世紀の日米企業の経営者にどのような共通点と相違点があるかを講義する。
第5回	日本のコーポレートガバナンス	日本企業のコーポレートガバナンス(企業統治)の特徴を検討する。
第6回	日本のコーポレートガバナンスの変化	1990年代以降、日本のコーポレートガバナンスはどのように変化しているかを講義する。
第7回	コーポレートガバナンスの日独比較	日本とドイツのコーポレートガバナンスの共通点と相違点を講義する。
第8回	コーポレートガバナンスの日米比較	日本とアメリカのコーポレートガバナンスの共通点と相違点を講義する。
第9回	日本企業の研究開発	戦後日本企業の研究開発活動の特徴を講義する。
第10回	労使関係・人的資源管理の日米比較①	日本的経営の「3種の神器」といわれるのがすべて労使関係及び人的資源管理と絡んでいる点に着目して、工業化初期における日米の労使関係・人的資源管理の共通点について講義する。
第11回	労使関係・人的資源管理の日米比較②	内部労働市場が形成された戦後日米企業で、70年代まで、労使関係・人的資源管理上にどのような共通点と相違点があったかを講義する。
第12回	労使関係・人的資源管理の日米比較③	1980年代以降最近まで、日米企業の労使関係・人的資源管理においてどのような共通点と相違点があったかを講義する。
第13回	日本企業の資金調達	戦後日本企業の資金調達行動を時期別に分析、講義する。
第14回	日本の企業経営の展望	今後の日本の企業経営の展望について講義、議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストで毎週の授業分の内容を読んでから授業に参加すること。なお、授業補助資料がある週の授業には、「授業支援システム」にアップロードする授業補助資料を読んでから参加すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
金容度(2023)『日本経営論』博英社。なお、授業の補助資料は毎週授業支援システムに掲載する。

【参考書】
①橋本寿朗・長谷川信・宮島英昭・斉藤直(2018)『現代日本経済第4版』有斐閣
②金容度(2021)『日本の企業間取引』有斐閣

【成績評価の方法と基準】
成績評価基準は、期末試験（70％）、授業中の小試験（30％）である。授業中の小試験は3回行われる。ディスカッション時の発言者には加算点を与える。また、ディスカッション・シート、授業中に作成する感想文（1回）についても内容によって加算点を与える。

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッション・シートなどで提出される受講者からの質問に答える時間を増やす。

【その他の重要事項】
授業中の私語は絶対禁ずる。

【Outline (in English)】
【Course outline】Every week class consists of lecture, discussion and Q&A　on business management in Japan. Discussion sheets to be submitted will be made in discussion time of every class. You will learn logical thinking and knowledge on Japanese management by lecture, discussion and Q&A.
【Learning Objectives】The learning objective of this course is to understand business management in Japan more deeply on the perspective of international comparisons.
【Learning activities outside of classroom】Attend every week class after reading the references.　Read the every week references to be uploaded to the "Hoppii" before the calss.It will take more than two hours to prepare for and to review every week class.
【Grading Criteria /Policy】Final test(70 percent) and small tests(30 percent).

MAN200FD（経営学 / Management 200）

日本経営論Ⅱ

金　容度

市場経営学科専門科目200番台市場経営学科専門科目　2～4（市場経営学科）3～4（経営学科・経営戦略学科）年次／2単位　［秋学期授業/Fall］

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
市場性と組織性の絡み合い、国際比較という視角から日本の企業間関係の現状と歴史を講義すると共に、関連する論点についてのディスカッションを行う。具体的に、メインバンクシステム、企業間の取引のケースが取り上げられる。国際比較の対象は、日本、アメリカ、ドイツである。それによって、日本の企業間関係についての理解を深めると共に、企業間関係の諸現象を論理的に考える能力を高めることが本授業の目的である。

【到達目標】
この授業の到達目標は、第1に、国際比較を通じて日本の企業間関係の特殊性と普遍性を理解すること、第2に、日本の企業間関係における組織性と市場性の両面を理解すること、第3に、日本の企業間関係の現状と歴史の関連についての思考能力を高めることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
毎週の授業は、講義とディスカッションを織り交ぜて行われる。ディスカッ
ション時の発言者には加算点が与えられる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	企業間関係をみる理由と視点	なぜ、どのように企業間関係をみるかについて講義する。
第2回	日本の企業間関係の特徴と日米共通点	日本の企業間関係の特徴を概観すると共に、国際比較の視点から、企業間関係の日米共通点を考察する。
第3回	メインバンクシステム1	組織性と市場性に焦点を合わせて、日本のメインバンクシステムの特徴を検討する。
第4回	メインバンクシステム2	日本のメインバンクシステムの機能を考察する。
第5回	メインバンクシステム3(日独比較)	ドイツと日本のメインバンクシステム間の共通点と相違点を考察する。
第6回	メインバンクシステム4(新たな展開)	メインバンクシステムにおける新たな動きについて検討する。
第7回	自動車部品の企業間取引1(日本の特徴)	日本のサプライヤーシステムの代表的な産業である自動車産業を取り上げ、企業間取引の特徴を考察する。
第8回	自動車部品の企業間取引2(日米比較)	日米の共通点に着目して、1900年代～1910年代のアメリカと戦後日本の自動車部品取引を比較検討する。
第9回	自動車部品の企業間取引3(日米比較②)	日米の共通点に着目して、1920年代～40年代のアメリカと戦後日本の自動車部品取引を比較検討する。
第10回	自動車部品の企業間取引4(日独比較)	ドイツと日本の自動車部品取引の共通点と相違点を分析する。
第11回	鉄鋼の企業間関係1	「産業の米」といわれる素材、鉄鋼の企業間取引について検討する。
第12回	鉄鋼の企業間関係2(日米比較)	自動車向け鉄鋼の企業間取引を事例に、日米間にどのような共通点と相違点が現れるかを考察する。
第13回	液晶部材の企業間関係	日本企業の競争力が極めて高い液晶部材産業を取上げ、その企業間取引を検討する。
第14回	日本の企業間関係の展望	今後の日本の企業間関係の展望について講義、議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストで毎週の授業分の内容を読んでから授業に参加すること。なお、授業補助資料がある週の授業には、「授業支援システム」にアップロードする授業補助資料を読んでから参加すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
金容度(2023)『日本経営論』博英社。なお、授業の補助資料は授業支援
システムに掲載する。

【参考書】
①金容度(2021)『日本の企業間取引-市場性と組織性の歴史構造』有斐閣
② Kim,Yongdo(2015).The Dynamics of Inter-firm Relationships: Markets and Organization in Japan.Cheltenham: Edward Elgar Publishing Ltd.
③金容度(2006)『日本IC産業の発展史-共同開発のダイナミズム』東京大学出版会

【成績評価の方法と基準】
日本経営論Ⅱの成績評価基準は、期末試験70％、授業中の小テスト30％(1回10％×3回)。ディスカッション時の発言者には加算点を与える。また、ディスカッション・シート、授業中に作成する感想文（1回）についても内容によって加算点を与える。

【学生の意見等からの気づき】
授業中、質問を受け付け、答える時間を増やす。

【その他の重要事項】
授業中の私語を禁じる

【Outline (in English)】
【Course outline】Every week class consists of lecture, discussion and Q&A on the inter-firm relationships. Discussion sheets to be submitted will be made in discussion time of every class. You will learn logical thinking and knowledge on the inter-firm relationships by lecture, discussion and Q&A.
【Learning Objectives】The learning objective of this course is to understand the inter-firm relationships in Japan more deeply on the perspective of international comparisons.
【Learning activities outside of classroom】Attend every week class after reading the references. Read the every week references to be uploaded to the "Hoppii" before the class. It will take more than two hours to prepare for and to review every week class.
【Grading Criteria /Policy】Final test(70 percent) and small tests(30 percent).

EDU100ZA（教育学 / Education 100）

Comparative Education

Machiko Kobori

Credit(s)：2 ｜ Semester：秋学期授業/Fall ｜ Year：1〜4
Day/Period：木5/Thu.5
Notes：TOEFL iBT 80以上、IELTS (Academic Module)band 6.0以上、TOEIC860以上、英検：準1級以上合格かつCSEスコアが2500点以上 ※配当年次によって前述以上のスコアが必要な場合があります。

その他属性：〈グ〉

【Outline and objectives】
This course is designed for students interested in exploring second language (L2) educational issues within comparative education. It specifically focuses on motivational issues in L2 education on a global scale. Its purpose is to give an insight into the significant variables of L2 motivation as core elements in L2 education from a global perspective. It explains how L2 motivation is affected by globalisation and local settings related to L2 learners, such as their ethnic background, age, language preferences, L2 learning conditions, etc. It provides a comprehensive exploration of L2 motivation, particularly considering both Japanese and global contexts, and encourages critical thinking about the practical implementation of motivational strategies to support the learning of L2 learners in Japan and overseas. Students can expect to engage with a rich body of research and contribute to discussions on effective L2 education.

【Goal】
Upon completion of this course, students should be able to do the following:
(1) Develop a foundational understanding of conceptual frameworks related to L2 motivation.
(2) Explain various factors that influence building conceptual frameworks of L2 motivation.
(3) Consider global perspectives and their effects on L2 education.
(4) Discuss appropriate strategies for addressing motivational aspects in L2 education within the Japanese and overseas contexts.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】
For the completion of this course, students are required to have Q&A/discussion sessions on a topic related to lecture contents and consolidate it as a daily task every week. A presentation, final exam, and writing assignment are also required at the end of the course; students are required to choose one of the course topics, make a presentation, and submit a writing assignment on it. The final requirements and feedback will be submitted on the learning management systems (WebClass, etc.).

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	The Conceptualisation of Motivation	Issues in defining motivation and its fundamental challenges
3	The Development of the L2 Motivational Studies (1)	Issues in the classical studies
4	The Development of the L2 Motivational Studies (2)	Issues in the social-psychological period
5	The Development of the L2 Motivational Studies (3)	Issues in the cognitive-situated period
6	The Development of the L2 Motivational Studies (4)	Issues in the process-oriented and socio-dynamic periods
7	L2 Motivation in Practice	Issues in teaching strategies and approaches
8	L2 Motivation in Context	Issues in demotivating influences
9	L2 Motivation Research from a Global Perspective (1)	Issues from a perspective of cross-sectional studies
10	L2 Motivation Research from a Global Perspective (2)	Issues from a perspective of longitudinal studies
11	Presentation (1)	Preparation for presentation: checking contents, materials, procedure and performance
12	Presentation (2)	Discuss and review (1)
13	Presentation (3)	Discuss and review (2)
14	Consolidation of Comparative Education	Final exam and review

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
1. Every week before class, students are required to comprehend the assigned readings and be ready for group discussion on related topics in class.
2. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】
Dörnyei, Z., &Ushioda, E. (2021) (3rd ed.). *Teaching and researching motivation.* Cambridge University Press.

【References】
1. Apple, T. M., Silva, Da D., &Fellner, T. (eds.). (2013).*Language learning motivation in Japan*. Multilingual Matters.
2. Apple, T. M., Silva, Da D., &Fellner, T. (eds.). (2017). *L2 selves and motivations in Asian contexts*. Multilingual Matters.
3. Csizér, K., Smid, D., Zólyomi, A. &Albert, A. (eds.). (2024). *Motivation, autonomy and emotions in foreign language learning: A multi-perspective investigation in Hungary*. Multilingual Matters.
4. Dörnyei, Z. (2005). *The psychology of the language learner*. LEA.
5. Dörnyei, Z. (2020). *Innovations and challenges in language learning motivation*. Routledge.
6. Dörnyei, Z., &Ushioda, E. (eds.). (2009). *Motivation, language identity and the L2 self*. Multilingual Matters.
7. Hagenauer, G., Lazarides, R. &Järvenoja, Hanna (eds.). (2023). *Motivation and emotion in learning and teaching across educational contexts: Theoretical and methodological perspectives and empirical insights.* Routledge.
8. Sampson, R. J. (2017).*Complexity in classroom foreign language learning motivation: A practitioner perspective from Japan.* Multilingual Matters.
9. Schunk, D. (2013).*Motivation in education: Theory, research, and applications.* (4th ed.). Pearson.
10. Ushioda, E. (2013). *International perspectives on motivation: Language learning and professional challenges*. Palgrave Macmillan.

【Grading criteria】
Evaluation will be based on:
1. Class participation (10%)
2. Daily tasks (20%)
3. Presentation (20%)
4. Writing assignment (30%)
5. Final Exam (20%)

【Changes following student comments】
More frequent and detailed notifications regarding class activities and tasks will be given through utilising LMS and in-person information to:
1) avoid causing any difficulties in getting access to important information about the course
2) allow students to prepare for class discussions, final requirements, etc.

【Equipment student needs to prepare】
Use a laptop in class, get lecture materials, etc., in WebClass.

【Others】
None.

【Prerequisite】
None.

EDU100ZA（教育学 / Education 100）

TESOL I: Introduction

Machiko Kobori

Credit(s)：2 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：1〜4
Day/Period：木3/Thu.3
Notes：TOEFL iBT 80以上、IELTS (Academic Module)band 6.0以上、TOEIC860以上、英検：準1級以上合格かつCSEスコアが2500点以上 ※配当年次によって前述以上のスコアが必要な場合があります。

その他属性：〈グ〉

【Outline and objectives】
The course is for students intending to teach English; it is an introduction to second language (L2) acquisition and pedagogy. It encourages students to raise their awareness as language teachers.

【Goal】
Upon completion of this course, students should be able to do the following:
1. Explain the core issues in L2 acquisition research.
2. Examine the connection between L2 research and pedagogy.
3. Conduct research on instructed L2 learning, and relate the findings to L2 learning and teaching in Japan.
4. Conduct research on L2 pedagogical approaches integrated with ICT
5. Understand what is needed to qualify as an English teacher.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】
The course focuses on the teaching and learning of English. Students will learn theories of first and second language acquisition and a range of opportunities to explore research studies and pedagogy on EFL/ESL education. The course will be highlighted by the students’ individual performance: they are to choose one of the course topics and then make a presentation on it. They are required to practice their ICT pedagogical skills through the presentation as well as learning its content. Students are also required to take a final exam and submit a written assignment on a related issue.
Submission of the final requirements and feedback will be on the learning management systems.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Course guidance
2	Language, Learning and Teaching (1)	Current issues in second language acquisition (1)
3	Language, Learning and Teaching (2)	Current issues in second language acquisition (2)
4	Language, Learning and Teaching (3)	Schools of thought in second language acquisition (1)
5	Language, Learning and Teaching (4)	Schools of thought in second language acquisition (2)
6	Language, Learning and Teaching (5)	Schools of thought in second language acquisition (3)
7	First Language Acquisition	Issues in first language acquisition
8	Second Language Acquisition (1)	Building a theory of second language acquisition
9	Second Language Acquisition (2)	Study of models of second language acquisition (1)
10	Second Language Acquisition (3)	Study of models of second language acquisition (2)
11	Presentation (1)	Demonstration/observation, review and discussion (1)
12	Presentation (2)	Demonstration/observation, review and discussion (2)
13	Presentation (3)	Demonstration/observation, review and discussion (3)
14	Final Exam & Wrap-up	Consolidation

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
1. Every week before attending class, students are required to comprehend the assigned readings.
2. Students are required to prepare for their presentation sessions by creating presentation materials.
Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】
Brown, H. D. (2014). *Principles of language learning and teaching.* (6th ed.). Pearson Education.

【References】
1. Council of Europe. (2001). *Common European framework of reference for languages: learning, teaching, assessment.* Cambridge University Press.
2. Long, M. H., &Doughty, C. J. (2011). *The handbook of language teaching.*Wiley-Blackwell.
3. 白畑智彦・冨田祐一・村野井仁・若林茂則 (著). 2009.『英語教育用語辞典』（改訂版）大修館書店.
4. 文部科学省. 2017.『小学校学習指導要領（外国語）』東洋館出版社.
5. 文部科学省. 2017.『中学校学習指導要領（外国語）』開隆堂出版.
6. 文部科学省. 2018.『高等学校学習指導要領（外国語・英語）』開隆堂出版.

【Grading criteria】
Evaluation will be based on:
1. Class participation (10%)
2. Presentation (20%)
3. Presentation materials (10%)
4. Writing assignment (30%)
5. Final Exam (30%)
More than 2 unexcused absences will result in failure of this course.

【Changes following student comments】
1. More advanced notice of assigned readings will be given in order to allow students to prepare for class discussions.
2. More detailed information about the topics to choose for the presentation and writing assignment will be provided in advance.
3. More intensive instruction on how to reflect the presentation will be provided in advance.

【Equipment student needs to prepare】
PC

【Prerequisite】
None.

EDU200ZA（教育学 / Education 200）

English Teaching in Primary School

Machiko Kobori

Credit(s)：2 ｜ Semester：秋学期授業/Fall ｜ Year：2〜4
Day/Period：木3/Thu.3
Notes：TOEFL iBT 80以上、IELTS (Academic Module)band 6.0以上、TOEIC860以上、英検：準1級以上合格かつCSEスコアが2500点以上 ※配当年次によって前述以上のスコアが必要な場合があります。

その他属性：〈グ〉〈優〉

【Outline and objectives】
This course is designed for students interested in exploring the multifaceted landscape of teaching English to young learners (TEYL) within the context of primary English education. Specifically, it focuses on primary pupils to provide a historical and theoretical overview of their second language learning (SLL) within the Japanese context and on a global scale, particularly concerning primary English as a foreign language (EFL). It gives an insight into a range of SLL theories to feature primary pupils from psychological, educational, and linguistic perspectives. Integrating these perspectives ensures a holistic understanding of TEYL, fostering consistency in language education across primary and secondary levels. By examining theoretical frameworks, practical considerations, and global trends, students are expected to be familiar with valuable insights into effective TEYL practices. They will also be encouraged to develop their own perspectives on the teaching of English in primary schools in Japan and overseas.

【Goal】
Upon completion of this course, students should be able to do the following:
1. Understand the core issues of SLL theories of young learners.
2. Explain different perspectives on the core issues of L2 education in primary school.
3. Examine the connection between the core issues of young learners' SLL and L2 pedagogy in primary school within the Japanese and overseas contexts.
4. Utilise the theoretical knowledge of L2 education for young learners to give an insight into cultivating L2 pedagogy in primary school from a micro-perspective.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Method(s)】
For the completion of this course, students are required to complete daily tasks by choosing topics related to lectures every week. A presentation, final exam, and writing assignment are also required at the end of the course; students are required to choose one of the course topics, make a presentation, and submit a writing assignment on it. The final requirements and feedback will be submitted on the learning management systems (WebClass, etc.).

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Rationales of English Teaching in Primary School(1)	Issues in the historical overview of primary EFL in Japan and overseas
3	Rationales of English Teaching in Primary School(2)	Issues in primary EFL from different perspectives (1)
4	Rationales of English Teaching in Primary School(3)	Issues in primary EFL from different perspectives (2)
5	SLL of Young Learners (1)	Issues in L2 pedagogical approaches (1)
6	SLL of Young Learners (2)	Issues in L2 pedagogical approaches (2)
7	Primary L2 Education (1)	Issues in teaching four skills (1)
8	Primary L2 Education (2)	Issues in teaching four skills (2)
9	Primary L2 Education (3)	Issues in teaching four skills (3)
10	Primary L2 Education (4)	Issues in assessing primary pupils
11	Presentation (1)	Preparation for presentation: checking contents, materials, procedure and performance
12	Presentation (2)	Discuss and review (1)
13	Presentation (3)	Discuss and review (2)
14	Consolidation of English Teaching in Primary School	Final exam and review

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
1. Every week before class, students are required to comprehend the assigned readings and be ready for group discussion on related topics in class.
2. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】
Annamaria Pinter. (2017). *Teaching young language learners*. Oxford University Press.

【References】
1. Cameron, L. (2001). *Teaching languages to young learners*. Cambridge University Press.
2. Bland, J &Lütge, C. (eds.). (2013). *Children's literature in second language education*. Bloomsbury USA Academic.
3. Coyle, D., Hood, P., &Marsh, D. (2010). *CLIL: Content and language integrated learning* (1st ed.). Cambridge University Press.
4. Curtain, H. &Dahlberg, A. C. (2009). *Languages and children: Making the match, new languages for young learners, grades K-8* (4th ed.). Allyn &Bacon.
5. Ellis, G., Brewster, J., &Girard, D. (2002). *The primary English teacher's guide*. (New). Penguin English Guides.
6. Garton, S. &Copland, F. (eds.). (2018). *The Routledge handbook of teaching English to young learners.* Routledge.
7. VanPatten, B., Smith, M., &Benati, A. (2020). *Key questions in second language acquisition*. Cambridge UP.
8.『創造的な学びを育む初等英語教育ー時代を超えて生き続ける理論と実践ー』（2022）津田塾大学言語文化研究所早期英語教育研究会（編）朝日出版社.
9. 文部科学省（2017）『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説外国語活動・外国語編』 開隆堂.

【Grading criteria】
Evaluation will be based on:
1. Class participation (10%)
2. Daily tasks (20%)
3. Presentation (20%)
4. Writing assignment (30%)
5. Final Exam (20%)

【Changes following student comments】
More frequent and detailed notifications regarding class activities and tasks will be given through utilising LMS and in-person information to:
1) avoid causing any difficulties in getting access to important information about the course
2) allow students to prepare for class discussions, final requirements, etc.

【Equipment student needs to prepare】
Use a laptop in class, get lecture materials, etc. in WebClass.

【Others】
Recommended to complete at least one of the courses presented below:
1. TESOL Ⅱ
2. Comparative Education

【Prerequisites】
Required to complete at least one of the courses presented below:
1. TESOL Ⅰ
2. Second Language Acquisition

EDU200ZA（教育学 / Education 200）

TESOL II: Teaching Methodology

Machiko Kobori

Credit(s)：2 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：2〜4

Day/Period：木4/Thu.4

Notes：TOEFL iBT 80以上、IELTS (Academic Module)band 6.0以上、TOEIC860以上、英検：準1級以上合格かつCSEスコアが2500点以上 ※配当年次によって前述以上のスコアが必要な場合があります。

その他属性：〈グ〉

【Outline and objectives】
The course is mainly provided for students intending to teach English. Its purpose is to give an insight into the basic issues in teaching methodology for L2 education. It will also encourage students to develop their own teaching performance with a consideration to make consistency in language education from the primary to secondary levels.

【Goal】
Upon completion of this course, students should be able to do the following:
1. Understand different types of L2 teaching methods and approaches.
2. Learn how to apply some findings of linguistic studies to L2 English teaching.
3. Consider L2 education in relation to crucial issues of semantics and pragmatics.
4. Grasp the knowledge and skills for teaching languages as well as L2 pedagogy through ICT to qualify as an English teacher.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain “DP 2” and “DP 4”.

【Method(s)】
The course will focus on theoretical and practical aspects of the methodology of teaching EFL/ESL. It will also provide opportunities to explore a wide rage of EFL/ESL teaching scenes in different countries with reflections on those in Japan; for example EFL/ESL classrooms for learners who vary in age, gender, nationality and occupation can be examined. The students will relive EFL/ESL teaching scenes by following principles and techniques discussed and suggested in a range of teaching methods and approaches: they follow the model English lessons and demonstrate them in the form of micro-teaching. They are also required to create the related teaching materials including ICT along with the lessons. The final exam and a written assignment are required for the completion of this course and, in a written assignment, they demonstrate their study of the model lessons.
Submission of the final requirements and feedback will be on the learning management systems.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Course overview
2	Introduction to Language Teaching Methods	Historical overview of language teaching methods and approaches
3	Language Teaching Methods and Approaches (1)	The Grammar-Translation Method /The Direct Method (DM)
4	Language Teaching Methods and Approaches (2)	The Audio-Lingual Method /The Silent Way
5	Language Teaching Methods and Approaches (3)	Dissugestopedia /Community Language Learning (CLL)
6	Language Teaching Methods and Approaches (4)	Total Physical Response (TPR) / Communicative Language Teaching (CLT)
7	Language Teaching Methods and Approaches (5)	Content-based Instruction / Content and Language Integrated Learning (CLIL)
8	Language Teaching Methods and Approaches (6)	The Participatory Approach / Cooperative Learning
9	Micro-teaching (1)	Creating a lesson plan: checking contents, materials, procedure and performance
10	Micro-teaching (2)	1. The Grammar-Translation Method 2. The Direct Method 3. The Audio Lingual Method 4. The Silent Way
11	Micro-teaching (3)	1. Desuggestopedia 2. Community Language Learning (CLL) 3. Total Physical Response (TPR) 4. Communicative Language Teaching (CLT)
12	Micro-teaching (4)	1. Content-based Instruction 2. Content and Language Integrated Learning (CLIL)
13	Micro-teaching (5)	1. The Participatory Approach 2. Cooperative Learning
14	Final Exam & Wrap-up	Consolidation and review

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
1. Every week before attending the class, students are required to comprehend the assigned chapters of the text book and references, and to complete the pre-tasks/homework that should be submitted on the weekly basis.
2. Before conducting micro-teaching, students are required to prepare for their lesson by creating a lesson plan and teaching materials.
Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】
Larsen-Freeman, D., &Anderson, M. (2011). *Techniques and principles in language teaching.* (3rd ed.). Oxford University Press, USA.

【References】
1. Council of Europe. (2001). *Common European framework of reference for languages: learning, teaching, assessment.* Cambridge University Press.
2. Erben, T. et al. (2009). Teaching English language learners through technology. Routledge.
3. Long, M. H., &Doughty, C. J. (2011). *The handbook of language teaching*. Wiley-Blackwell.
4. 白畑智彦、冨田祐一、村野井仁、若林茂則 (著）. 2009.『英語教育用語辞典』（改訂版）大修館書店.
5. 神保 尚武（監修）. JACET教育問題研究会（編集）. 2012.『新しい時代の英語科教育の基礎と実践 成長する英語教師を目指して』三修社.
6. 望月昭彦、磐崎 弘貞、卯城 祐司、久保田 章（著）. 2010.『新学習指導要領にもとづく英語科教育法』大修館.
7. 文部科学省. 2017.『小学校学習指導要領（外国語）』東洋館出版社.
8. 文部科学省. 2017.『中学校学習指導要領（外国語）』開隆堂出版.
9. 文部科学省. 2018.『高等学校学習指導要領（外国語・英語）』開隆堂出版.

【Grading criteria】
Evaluation will be based on:
1. Class participation: 10%
2. Micro-teaching: 30%
3. Teaching materials: 20%
4. Writing assignment: 20%
5. Final exam: 20%
More than 2 unexcused absences will result in failure of this course.

【Changes following student comments】
1. More advanced notice of assigned readings will be given in order to allow students to prepare for class discussions.
2. More intensive instruction on how to reflect micro-teaching will be provided in advance.

【Equipment student needs to prepare】
PC

【Prerequisite】
ESL Education Ⅰ or TESOL Ⅰ

LIT200ZA（文学 / Literature 200）

Comparative Literature

Gregory Khezrnejat

Credit(s)：2 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：2〜4

Day/Period：木1/Thu.1

Notes：TOEFL iBT 80以上、IELTS (Academic Module)band 6.0以上、TOEIC860以上、英検：準1級以上合格かつCSEスコアが2500点以上 ※配当年次によって前述以上のスコアが必要な場合があります。

その他属性：〈グ〉

【Outline and objectives】
What is world literature? Why do some books become global bestsellers while others are deemed untranslatable? How does literature relate to other forms of art such as movies or music? This course will introduce the fundamental issues of modern comparative literary studies, including national canons, world literature, translation, and adaptation. We will discuss how comparing works with other texts across genres, languages, time periods, or forms of media can give us a fuller understanding of not only the text itself, but also how systems of literature combine to influence our impression of the text.

【Goal】
Students will practice critical reading and writing while learning the basic approaches used in comparative literary studies. Students will examine the historical development of comparative literature as a field while utilizing comparative methodology to read and respond to selected texts.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】
Each class will consist of a lecture on the specified topic followed by group discussions. Short quizzes will be given to assess comprehension of weekly readings. Students will also be evaluated through a midterm examination and final paper. In-class feedback will be given for reaction papers and written assignments.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Class introduction and selection questionnaire
2	What is Comparative Literature?	Basic terms and concepts of the field
3	Interliterary Theory	Relationships between national and world literature canons
4	World Literature	Development of the concept of world literature
5	Global Writing	Writing strategies within world literature
6	Literature and Colonialism	Colonialism and the world literature system
7	Decoloniality	Postcolonial voices in world literature
8	Review and Midterm Examination	A review of topics covered in the first half of the course
9	Themes and Images I	Relationships between language and interpretation
10	Themes and Images II	Specific examples of themes and images used in literature
11	Literature and Translation I	The invisibility of translation
12	Literature and Translation II	"Untranslatable" literature
13	Interartistic Comparison	Modernity, hypertextuality, and the relationship between literature and other forms of media
14	Final Synthesis	Review major themes of the course

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students are expected to perform close readings of weekly reading assignments and prepare to actively engage in class discussions. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】
Readings will be provided as handouts in class.

【References】
Domínguez, César, et al. *Introducing Comparative Literature: New Trends and Applications*. Routledge, 2015.
Hutchinson, Ben. *Comparative Literature: A Very Short Introduction* Oxford University Press, 2018.

【Grading criteria】
Class contribution (15%), reaction papers and written assignments (20%), quizzes (15%), midterm examination (25%), final paper (25%)

【Changes following student comments】
None.

【Prerequisite】
None.

LANf200LA（フランス語 / French language education 200）

French D I

ニコラ ガイヤール

Credit(s)：1 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：法文営国環キ1～4年
Day/Period：木3/Thu.3
その他属性：

【Outline and objectives】
初心者向けの会話の授業です。フランス人の日常生活に触れながら、フランス語のコミュニケーションの基礎を学ぶことができます。

【Goal】
この授業の目的はフランス語でのベーシックコミュニケーション能力とフランスに対する好奇心や興味を高めることです。日常生活に必要な表現を取得することができます。その上、フランス語圏の文化や社会の面白いテーマを取り上げます。聞く、読む、話す、書くの４つの能力も鍛えます。

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【Method(s)】
音声で聞き取りをし、文法の練習問題を行います。その後、ペアーになり会話のロールプレーをします。また、フランス文化に関するテーマについてディスカッションをし、フランス語で文章をまとめます。基本的に授業時間内にフィードバックを行うが、LMSなどを活用する場合もある。

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Se présenter	自己紹介
2	Présenter quelqu'un	第三者の紹介
3	Parler des choses que l'on possède ; parler des animaux domestiques	持っている物について話す。ペットについて話す。
4	「J'adore ça ! 」; les petits plaisirs de la vie	aimer動詞を使い、好き嫌いについて話す。
5	「Je pense que les Français sont ... 」 Les stéréotypes sur les Français	フランス人のステレオタイプ
6	「Vous avez des frères et sœurs ? 」	兄弟がいますか。家族について話す
7	Que faites-vous le week-end ? Verbes aller et faire.	週末の過ごし方(ビデオ）
8	À la boulangerie	パン屋で（ビデオ）
9	「Je me lève à 7 heures.」	日常生活を話す
10	Décrire quelqu'un : apparence physique et vêtements	人を描写する。外見、服装
11	Un café français	フランスのカフェ（ビデオ）
12	Présentation de la France	フランスの簡単な紹介（ビデオ）
13	「Où voudriez-vous partir en vacances ?」	「バカンスでどこに行きたいですか。」夏休みしたいことを言う。
14	révisions	復習

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
前の授業の勉強したことを生かし会話を書いて提出します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【Textbooks】
教科書は不要です。

【References】
仏和・和仏の辞書があると便利です。

【Grading criteria】
平常点100％(授業中の発言50%及び宿題の提出50％)。この授業は5回以上欠席する者は評価の対象外になりますので注意すること。

【Changes following student comments】
フランス人の生活の話をもっとします。

【Outline (in English)】
This course introduces French conversation and culture to students taking this course at a beginner level. Students will improve their speaking, listening and writing skills. The goal of this course is to practice French conversation at beginner level and help students have a better knowledge of everyday life in France. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following:
- In-class contribution and participation: 50%
- Homework: 50%

LANf200LA（フランス語 / French language education 200）

French D II

ニコラ ガイヤール

Credit(s)：1 ｜ Semester：秋学期授業/Fall ｜ Year：法文営国環キ1～4年
Day/Period：木3/Thu.3
その他属性：

【Outline and objectives】
初心者向けの会話の授業です。フランス人の日常生活に触れながら、フランス語のコミュニケーションの基礎を学ぶことができます。

【Goal】
この授業の目的はフランス語でのベーシックコミュニケーション能力とフランスに対する好奇心や興味を高めることです。日常生活に必要な表現を取得することができます。その上、フランス語圏の文化や社会の面白いテーマを取り上げます。聞く、読む、話す、書くの４つの能力も鍛えます。

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【Method(s)】
音声で聞き取りをし、文法の練習問題を行います。その後、ペアーになり会話のロールプレーをします。また、フランス文化に関するテーマについてディスカッションをし、フランス語で文章をまとめます。基本的に授業時間内にフィードバックを行うが、LMSなどを活用する場合もある。

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり /Yes

【Fieldwork in class】
なし /No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Qu'est-ce que vous avez fait pendant les vacances ?	ヴァカンスの時したことを言う。（ビデオ）
2	Chez le boucher	肉屋で（ビデオ）
3	Parler de son petit boulot	バイトについて話す（ビデオ）
4	Protester	クレームを言う（音声）
5	Parler de sa chambre	自分の部屋について話す。（ビデオ）
6	Acheter des vêtements	服を買う会話（ビデオ）
7	C'est comment chez vous ?	自分の住んでいる家について話す（ビデオ）
8	Parler de son quartier	自分の住んでいる町を話す。（ビデオ）
9	「J'ai déjà fait de la plongée.」	スキューバーダイビングをやったことある」経験・したことを話す
10	Présentation de Paris	パリの紹介のビデオ
11	Parler de sa ville	自分の住んでいる市町村について話す。（ビデオ）
12	Noël en France	フランス人のクリスマスの過ごし方
13	Parler de ses bonnes résolutions	新年の抱負を言う
14	Révision	復習

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
前の授業の勉強したことを生かし会話を書いて、提出します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【Textbooks】
教科書は不要です。

【References】
仏和・和仏の辞書があると便利です。

【Grading criteria】
平常点(授業中の発言50%や宿題の提出50％)。この授業は5回以上欠席する者は評価の対象外になりますので注意すること。

【Changes following student comments】
フランス人の生活をもっと話します。

【Outline (in English)】
This course introduces French conversation and culture to students taking this course at a beginner level. Students will improve their speaking, listening and writing skills. The goal of this course is to practice French conversation at beginner level and help students have a better knowledge of everyday life in France. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following:
- In class contribution and participation: 50%
- Homework: 50%

MAN100NA（経営学 / Management 100）

マーケティング

林　奈生子

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈他〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
優れた技術や新規のアイディアを備えていれば製品は必ずヒットし市場で売れていくのでしょうか。斬新な技術やユニークなアイディアで開発された製品が人々の関心を引くことなく市場から消えていくことは珍しくありません。多くの人に支持される製品を開発するにはマーケティングの思考が欠かせません。また、今日、マーケティングの概念や知識は既に日常に浸透し使われています。例えば、大学の研究室での議論、友人との会話、就職活動の面接やグループ討議、就職後の製品企画会議などでは頻繁に用いられます。さらに、マーケティングの用語は世界共通でありこれらの用語を知ることでどこでも誰とでも議論が可能になります。
授業では、主に企業のマーケティング活動からその基本知識を学びます。加えて、マーケティングでの優れたデザインとは何かを考えます。

【到達目標】
本授業では次の２つの到達目標を設定します。
１．企業のマーケティング活動を自身の生活に関連させて考える力の習得。そのために、①マーケティングの概念と基本用語　②企業活動　③企業から発信される情報－を理解することに重点を置きます。２．マーケティングの実践力の習得。そのために、研究課題やケーススタディを実施し、自身の考えを　①まとめる力　②表現する力　③伝える力－の養成を目指します。

【修得できる能力】
（A）歴史・文化・自然の理解・尊重
（B）技術者倫理
（C）工学基礎学力
（D）専門基礎学力
（E）専門知識の活用・応用能力
（F）総合デザイン能力　25%
（G）コミュニケーション能力　25%
（H）継続的学習能力　25%
（I）業務遂行能力　25%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業目標を達成するために、講義、ケーススタディ、事例紹介、研究課題や意見発表により進めます。
＊次のような授業運営にかかわる情報は学習支援システムにて告知します。
・zoomのURL・ID・パスコード
・授業で使用する教材
・授業計画の回、日程、内容の変更
・休講や自習の連絡　など
＊授業での資料閲覧、プレゼンテーションにはzoomの共有画面を使用します。
＊授業に関する質問は講義中・講義終了後の教室、または学習支援システムで行ってください。
＊なお、質問の際には　①シラバス　②学習支援システム　③学校が発信する通知－などを確認し、それらと重複しないよう注意してください。
＊本授業では出欠はとりません。遅刻・欠席の連絡は不要です。
＊課題研究やプレゼンテーションで作成・使用した資料などの提出は求めません。
＊本授業では講師のメールアドレスに直接メールすることを禁じます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業内容・進め方・ルール、到達目標と成績評価基準などを説明する。
2	マーケティングの歴史	マーケティングの歴史を概観する。あわせて、顧客志向の萌芽を説明する。
3	マーケティングと企業	企業活動におけるマーケティングの重要性を事例から学ぶ。
4	マーケティング・ツール	マーケティングの４Ｐ（製品、価格、流通、販売促進）を学ぶ。
5	研究課題①　新製品・サービスの発案	研究課題の取り組み方、発表について説明する。新製品・サービスのアイディアを出し概略を考える。
6	研究課題②　新製品・サービスのアイディアを深める	前回考えたアイディアを深め、わかりやすい形にする。
7	研究課題③　新製品・サービスの具体化	新製品・サービスのアイディアを具体化する。また、プレゼンテーションの準備を行う。
8	新製品・サービスの発表①	新製品・サービスのプレゼンテーションを行い意見交換をする。
9	新製品・サービスの発表②	引き続き新製品・サービスのプレゼンテーションを行う。前回と今回の意見交換を参考に改めて自身のアイディアを深める機会とする。
10	マーケティング・ミックスと情報	マーケティング・ツールとマーケティング・ミックスの関係について学ぶ。また、情報の重要性と収集・分析の留意事項について知る。（プレゼンテーションが終わらない場合は本回にもその場を設けます）
11	市場の細分化	ＳＴＰ（セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング）の基本知識と事例を学ぶ。
12	消費者購買プロセス	消費者の購買行動と企業のマーケティング戦略の関係性を考える。
13	顧客との関係の強化	顧客との関係維持の必要性を学ぶ。あわせて、企業のマーケティング活動が顧客に何をもたらすべきなのかについて考える。
14	企業の社会的責任とマーケティング	企業の社会的責任とマーケティング、およびマーケティング領域の拡大について学ぶ。あわせて、レポート提出について説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自身の得た情報をマーケティングの観点で考え、分析する努力をすること。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。必要な場合は授業で紹介します。

【参考書】
石井淳蔵　廣田章光編著『1からのマーケティング』中央経済社
フィリップ・コトラー　ケビン・レーン・ケラー著『コトラー&ケラーのマーケティング・マネジメント 基本編』ピアソン・エデュケーション
P.F．ドラッガー著『エッセンシャル版マネジメント 基本と原則』ダイヤモンド社
そのほか、随時、授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価はレポート課題提出：90%、平常点：10％とします。
＜レポート提出＞
1．レポートのテーマ：学習支援システムWebClassにて告知します。
2．言語：日本語
3．提出する際のファイルの種類：PDF
4．字数、フォント、ポイント：400字以上600字以内、フォント指定なし、ポイント10.5
5．提出期間：第14回授業日の午前10時30分から翌週水曜日の午前10時30分まで。なお、変更がある場合は学習支援システムにて告知します。
6．提出方法：学習支援システムWebClassに掲示される添付ファイルのフォーマットを用いて、学習支援システムWebClassを通して提出。
7．留意事項
（1）レポート提出は、学習支援システムWebClassを用い指示された方法で行ってください。例えば、「特別なアプリを使用するもの」「指示以外の方法で提出されたもの」「学内のシステムとの互換性がない機器を使用したもの」などを用い、通常の学習支援システムの操作でレポートを開けないものについては評価対象外になります。
（2）学習支援システムの【感染症に係る授業欠席等配慮願　提出箱】を用いてのレポート提出はレポート提出とはみなしません。
（3）レポートを講師や講師室へ持参もしくは手渡しは受理しません。
（4）講師のメールアドレスや学習支援システムのメッセージを使用し提出されたレポートは受理しません。
（5）レポート提出は、提出期間内に提出が完了するように日程管理・機器管理をしてください。
（6）なお、大学の設定している時間と自身の機器の設定時間が同一とは限らないので充分に注意してください。
（7）テキストボックスでの提出（投稿）は、レポート提出とはみなしません。必ず、添付ファイルの所定のフォーマットを用いて提出してください。
（8）レポート提出期限後の誤記などによる修正・訂正の申し出は受け付けません。レポート提出は十分に見直したうえで行ってください。
（9）大学では、①成績に関する嘆願の連絡　②提出期日を過ぎた課題の受理依頼－を禁止しています。成績評価について疑義がある場合は「成績調査制度」を利用してください。
＜平常点＞
意見発表やプレゼンテーションなどを積極的に行った学生に配点します。

【学生の意見等からの気づき】
研究課題において受講生から「価値観が違う人の意見を聞くことで新たなアイディアが生まれた」「1つの提案が様々な方向へ進化することが勉強になった」「最初は不安だったが勇気を出して発表していろんな意見を聞けたことがよかった」などの感想が寄せられた。研究課題が受講生の積極性、気づき、潜在能力の顕在化を促していることがわかる。今後もより効果的に研究課題を授業に組み入れたい。

【学生が準備すべき機器他】
zoomを使用できる機器を用意してください。

【その他の重要事項】
＜講師について＞
修士（経営学）、博士（公共政策学）
金融機関系コンサルティング会社にて経営コンサルティング、人材育成コンサルティングの経験をもつ教員が、企業のマーケティング活動において求められる創造力の育成に資する講義を行います。
＜授業に関する質問について＞
授業中・終了後の教室および学習支援システムを通して質問を受けつけます。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This is an introductory lecture on marketing.　Learn the theory of traditional marketing and consider what good design is in marketing through some examples of modern business units.　This lecture focuses on understanding marketing concepts and meanings of basic terms, business activities, and information transmitted from companies.　This course promotes student learning through lectures, group discussions and presentations, and writing reports.
【Learning Objectives】
The goal of this course is to understand the basic concepts of marketing.
【Learning activities outside of classroom】
After each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
【Grading Criteria/policy】
90%for report submission, 10%for normal scores (participation, opinion presentation, etc.).

MAN100NA（経営学 / Management 100）

マーケティング

林　奈生子

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈他〉〈実〉〈Ｓ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
優れた技術や新規のアイディアを備えていれば製品は必ずヒットし市場で売れていくのでしょうか。斬新な技術やユニークなアイディアで開発された製品が人々の関心を引くことなく市場から消えていくことは珍しくありません。多くの人に支持される製品を開発するにはマーケティングの思考が欠かせません。また、今日、マーケティングの概念や知識は既に日常に浸透し使われています。例えば、大学の研究室での議論、友人との会話、就職活動の面接やグループ討議、就職後の製品企画会議などでは頻繁に用いられます。さらに、マーケティングの用語は世界共通でありこれらの用語を知ることでどこでも誰とでも議論が可能になります。
授業では、主に企業のマーケティング活動からその基本知識を学びます。加えて、マーケティングでの優れたデザインとは何かを考えます。

【到達目標】
本授業では次の２つの到達目標を設定します。
１．企業のマーケティング活動を自身の生活に関連させて考える力の習得。そのために、①マーケティングの概念と基本用語　②企業活動　③企業から発信される情報－を理解することに重点を置きます。２．マーケティングの実践力の習得。そのために、研究課題やケーススタディを実施し、自身の考えを　①まとめる力　②表現する力　③伝える力－の養成を目指します。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
					◎	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業目標を達成するために、講義、ケーススタディ、事例紹介、研究課題や意見発表により進めます。
＊次のような授業運営にかかわる情報は学習支援システムにて告知します。
・zoomのURL・ID・パスコード
・授業で使用する教材
・授業計画の回、日程、内容の変更
・休講や自習の連絡　など
＊授業での資料閲覧、プレゼンテーションにはzoomの共有画面を使用します。
＊授業に関する質問は講義中・講義終了後の教室、または学習支援システムで行ってください。
＊なお、質問の際には　①シラバス　②学習支援システム　③学校が発信する通知－などを確認し、それらと重複しないよう注意してください。
＊本授業では出欠はとりません。遅刻・欠席の連絡は不要です。
＊課題研究やプレゼンテーションで作成・使用した資料などの提出は求めません。
＊本授業では講師のメールアドレスに直接メールすることを禁じます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業内容・進め方・ルール、到達目標と成績評価基準などを説明する。
2	マーケティングの歴史	マーケティングの歴史を概観する。あわせて、顧客志向の萌芽を説明する。
3	マーケティングと企業	企業活動におけるマーケティングの重要性を事例から学ぶ。
4	マーケティング・ツール	マーケティングの４Ｐ（製品、価格、流通、販売促進）を学ぶ。
5	研究課題①　新製品・サービスの発案	研究課題の取り組み方、発表について説明する。新製品・サービスのアイディアを出し概略を考える。
6	研究課題②　新製品・サービスのアイディアを深める	前回考えたアイディアを深め、わかりやすい形にする。
7	研究課題③　新製品・サービスの具体化	新製品・サービスのアイディアを具体化する。また、プレゼンテーションの準備を行う。
8	新製品・サービスの発表①	新製品・サービスのプレゼンテーションを行い意見交換をする。
9	新製品・サービスの発表②	引き続き新製品・サービスのプレゼンテーションを行う。前回と今回の意見交換を参考に改めて自身のアイディアを深める機会とする。
10	マーケティング・ミックスと情報	マーケティング・ツールとマーケティング・ミックスの関係について学ぶ。また、情報の重要性と収集・分析の留意事項について知る。（プレゼンテーションが終わらない場合は本回にもその場を設けます）
11	市場の細分化	ＳＴＰ（セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング）の基本知識と事例を学ぶ。
12	消費者購買プロセス	消費者の購買行動と企業のマーケティング戦略の関係性を考える。
13	顧客との関係の強化	顧客との関係維持の必要性を学ぶ。あわせて、企業のマーケティング活動が顧客に何をもたらすべきなのかについて考える。
14	企業の社会的責任とマーケティング	企業の社会的責任とマーケティング、およびマーケティング領域の拡大について学ぶ。あわせて、レポート提出について説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自身の得た情報をマーケティングの観点で考え、分析する努力をすること。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。必要な場合は授業で紹介します。

【参考書】
石井淳蔵　廣田章光編著『１からのマーケティング』中央経済社
フィリップ・コトラー　ケビン・レーン・ケラー著『コトラー＆ケラーのマーケティング・マネジメント 基本編』ピアソン・エデュケーション
Ｐ.Ｆ．ドラッガー著『エッセンシャル版マネジメント 基本と原則』ダイヤモンド社
そのほか、随時、授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価はレポート課題提出：90%、平常点：10％とします。
＜レポート提出＞
１．レポートのテーマ：学習支援システムWebClassにて告知します。
２．言語：日本語
３．提出する際のファイルの種類：PDF
４．字数、フォント、ポイント：400字以上600字以内、フォント指定なし、ポイント10.5
５．提出期間：第14回授業日の午前10時30分から翌週水曜日の午前10時30分まで。なお、変更がある場合は学習支援システムにて告知します。
６．提出方法：学習支援システムWebClassに掲示される添付ファイルのフォーマットを用いて、学習支援システムWebClassを通して提出。
７．留意事項
（１）レポート提出は、学習支援システムWebClassを用い指示された方法で行ってください。例えば、「特別なアプリを使用するもの」「指示以外の方法で提出されたもの」「学内のシステムとの互換性がない機器を使用したもの」などを用い、通常の学習支援システムの操作でレポートを開けないものについては評価対象外になります。
（２）学習支援システムの【感染症に係る授業欠席等配慮願　提出箱】を用いてのレポート提出はレポート提出とはみなしません。
（３）レポートを講師や講師室へ持参もしくは手渡しは受理しません。
（４）講師のメールアドレスや学習支援システムのメッセージを使用し提出されたレポートは受理しません。
（５）レポート提出は、提出期間内に提出が完了するように日程管理・機器管理をしてください。
（６）なお、大学の設定している時間と自身の機器の設定時間が同一とは限らないので充分に注意してください。
（７）テキストボックスでの提出（投稿）は、レポート提出とはみなしません。必ず、添付ファイルの所定のフォーマットを用いて提出してください。
（８）レポート提出期限後の誤記などによる修正・訂正の申し出は受け付けません。レポート提出は十分に見直したうえで行ってください。
（９）大学では、①成績に関する嘆願の連絡　②提出期日を過ぎた課題の受理依頼－を禁止しています。成績評価について疑義がある場合は「成績調査制度」を利用してください。
＜平常点＞
意見発表やプレゼンテーションなどを積極的に行った学生に配点します。

【学生の意見等からの気づき】
研究課題において受講生から「価値観が違う人の意見を聞くことで新たなアイディアが生まれた」「1つの提案が様々な方向へ進化することが勉強になった」「最初は不安だったが勇気を出して発表していろんな意見を聞けたことがよかった」などの感想が寄せられた。研究課題が受講生の積極性、気づき、潜在能力の顕在化を促していることがわかる。今後もより効果的に研究課題を授業に組み入れたい。

【学生が準備すべき機器他】
zoom を使用できる機器を用意してください。

【その他の重要事項】
＜講師について＞
修士（経営学）、博士（公共政策学）
金融機関系コンサルティング会社にて経営コンサルティング、人材育成コンサルティングの経験をもつ教員が、企業のマーケティング活動において求められる創造力の育成に資する講義を行います。
＜授業に関する質問について＞
授業中・終了後の教室および学習支援システムを通して質問を受けつけます。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This is an introductory lecture on marketing. Learn the theory of traditional marketing and consider what good design is in marketing through some examples of modern business units. This lecture focuses on understanding marketing concepts and meanings of basic terms, business activities, and information transmitted from companies. This course promotes student learning through lectures, group discussions and presentations, and writing reports.
【Learning Objectives】
The goal of this course is to understand the basic concepts of marketing.
【Learning activities outside of classroom】
After each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
【Grading Criteria/policy】
90%for report submission, 10%for normal scores (participation, opinion presentation, etc.).

MAN100NA（経営学 / Management 100）

マーケティング

林　奈生子

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈他〉〈実〉〈Ｓ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
優れた技術や新規のアイディアを備えていれば製品は必ずヒットし市場で売れていくのでしょうか。斬新な技術やユニークなアイディアで開発された製品が人々の関心を引くことなく市場から消えていくことは珍しくありません。多くの人に支持される製品を開発するにはマーケティングの思考が欠かせません。また、今日、マーケティングの概念や知識は既に日常に浸透し使われています。例えば、大学の研究室での議論、友人との会話、就職活動の面接やグループ討議、就職後の製品企画会議などでは頻繁に用いられます。さらに、マーケティングの用語は世界共通でありこれらの用語を知ることでどこでも誰とでも議論が可能になります。
授業では、主に企業のマーケティング活動からその基本知識を学びます。加えて、マーケティングでの優れたデザインとは何かを考えます。

【到達目標】
本授業では次の２つの到達目標を設定します。
１．企業のマーケティング活動を自身の生活に関連させて考える力の習得。そのために、①マーケティングの概念と基本用語　②企業活動　③企業から発信される情報－を理解することに重点を置きます。２．マーケティングの実践力の習得。そのために、研究課題やケーススタディを実施し、自身の考えを　①まとめる力　②表現する力　③伝える力－の養成を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業目標を達成するために、講義、ケーススタディ、事例紹介、研究課題や意見発表により進めます。
＊次のような授業運営にかかわる情報は学習支援システムにて告知します。
・zoomのURL・ID・パスコード
・授業で使用する教材
・授業計画の回、日程、内容の変更
・休講や自習の連絡　など
＊授業での資料閲覧、プレゼンテーションにはzoomの共有画面を使用します。
＊授業に関する質問は講義中・講義終了後の教室、または学習支援システムで行ってください。
＊なお、質問の際には　①シラバス　②学習支援システム　③学校が発信する通知－などを確認し、それらと重複しないよう注意してください。
＊本授業では出欠はとりません。遅刻・欠席の連絡は不要です。
＊課題研究やプレゼンテーションで作成・使用した資料などの提出は求めません。
＊本授業では講師のメールアドレスに直接メールすることを禁じます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業内容・進め方・ルール、到達目標と成績評価基準などを説明する。
2	マーケティングの歴史	マーケティングの歴史を概観する。あわせて、顧客志向の萌芽を説明する。
3	マーケティングと企業	企業活動におけるマーケティングの重要性を事例から学ぶ。
4	マーケティング・ツール	マーケティングの４Ｐ（製品、価格、流通、販売促進）を学ぶ。
5	研究課題①　新製品・サービスの発案	研究課題の取り組み方、発表について説明する。新製品・サービスのアイディアを出し概略を考える。
6	研究課題②　新製品・サービスのアイディアを深める	前回考えたアイディアを深め、わかりやすい形にする。
7	研究課題③　新製品・サービスの具体化	新製品・サービスのアイディアを具体化する。また、プレゼンテーションの準備を行う。
8	新製品・サービスの発表①	新製品・サービスのプレゼンテーションを行い意見交換をする。
9	新製品・サービスの発表②	引き続き新製品・サービスのプレゼンテーションを行う。前回と今回の意見交換を参考に改めて自身のアイディアを深める機会とする。
10	マーケティング・ミックスと情報	マーケティング・ツールとマーケティング・ミックスの関係について学ぶ。また、情報の重要性と収集・分析の留意事項について知る。（プレゼンテーションが終わらない場合は本回にもその場を設けます）
11	市場の細分化	ＳＴＰ（セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング）の基本知識と事例を学ぶ。
12	消費者購買プロセス	消費者の購買行動と企業のマーケティング戦略の関係性を考える。
13	顧客との関係の強化	顧客との関係維持の必要性を学ぶ。あわせて、企業のマーケティング活動が顧客に何をもたらすべきなのかについて考える。
14	企業の社会的責任とマーケティング	企業の社会的責任とマーケティング、およびマーケティング領域の拡大について学ぶ。あわせて、レポート提出について説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自身の得た情報をマーケティングの観点で考え、分析する努力をすること。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。必要な場合は授業で紹介します。

【参考書】
石井淳蔵　廣田章光編著『１からのマーケティング』中央経済社
フィリップ・コトラー　ケビン・レーン・ケラー著『コトラー＆ケラーのマーケティング・マネジメント 基本編』ピアソン・エデュケーション
Ｐ.Ｆ．ドラッガー著『エッセンシャル版マネジメント 基本と原則』ダイヤモンド社
そのほか、随時、授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価はレポート課題提出：90%、平常点：10％とします。
＜レポート提出＞
１．レポートのテーマ：学習支援システムWebClassにて告知します。
２．言語：日本語
３．提出する際のファイルの種類：PDF
４．字数、フォント、ポイント：400字以上600字以内、フォント指定なし、ポイント10.5
５．提出期間：第14回授業日の午前10時30分から翌週水曜日の午前10時30分まで。なお、変更がある場合は学習支援システムにて告知します。
６．提出方法：学習支援システムWebClassに掲示される添付ファイルのフォーマットを用いて、学習支援システムWebClassを通して提出。
７．留意事項
（１）レポート提出は、学習支援システムWebClassを用い指示された方法で行ってください。例えば、「特別なアプリを使用するもの」「指示以外の方法で提出されたもの」「学内のシステムとの互換性がない機器を使用したもの」などを用い、通常の学習支援システムの操作でレポートを開けないものについては評価対象外になります。
（２）学習支援システムの【感染症に係る授業欠席等配慮願　提出箱】を用いてのレポート提出はレポート提出とはみなしません。
（３）レポートを講師や講師室へ持参もしくは手渡しは受理しません。
（４）講師のメールアドレスや学習支援システムのメッセージを使用し提出されたレポートは受理しません。
（５）レポート提出は、提出期間内に提出が完了するように日程管理・機器管理をしてください。
（６）なお、大学の設定している時間と自身の機器の設定時間が同一とは限らないので充分に注意してください。
（７）テキストボックスでの提出（投稿）は、レポート提出とはみなしません。必ず、添付ファイルの所定のフォーマットを用いて提出してください。
（８）レポート提出期限後の誤記などによる修正・訂正の申し出は受け付けません。レポート提出は十分に見直したうえで行ってください。
（９）大学では、①成績に関する嘆願の連絡　②提出期日を過ぎた課題の受理依頼－を禁止しています。成績評価について疑義がある場合は「成績調査制度」を利用してください。
＜平常点＞
意見発表やプレゼンテーションなどを積極的に行った学生に配点します。

【学生の意見等からの気づき】
研究課題において受講生から「価値観が違う人の意見を聞くことで新たなアイディアが生まれた」「1つの提案が様々な方向へ進化することが勉強になった」「最初は不安だったが勇気を出して発表していろんな意見を聞けたことがよかった」などの感想が寄せられた。研究課題が受講生の積極性、気づき、潜在能力の顕在化を促していることがわかる。今後もより効果的に研究課題を授業に組み入れたい。

【学生が準備すべき機器他】
zoom を使用できる機器を用意してください。

【その他の重要事項】
＜講師について＞
修士（経営学）、博士（公共政策学）
金融機関系コンサルティング会社にて経営コンサルティング、人材育成コンサルティングの経験をもつ教員が、企業のマーケティング活動において求められる創造力の育成に資する講義を行います。
＜授業に関する質問について＞
授業中・終了後の教室および学習支援システムを通して質問を受けつけます。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This is an introductory lecture on marketing. Learn the theory of traditional marketing and consider what good design is in marketing through some examples of modern business units. This lecture focuses on understanding marketing concepts and meanings of basic terms, business activities, and information transmitted from companies. This course promotes student learning through lectures, group discussions and presentations, and writing reports.
【Learning Objectives】
The goal of this course is to understand the basic concepts of marketing.
【Learning activities outside of classroom】
After each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
【Grading Criteria/policy】
90%for report submission, 10%for normal scores (participation, opinion presentation, etc.).

ECN100NA（経済学 / Economics 100）

エコノミクス

李　江南

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈他〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この『エコノミクス』では、主にミクロ経済学とマクロ経済学に基づいて、現代経済学の基本原理と考え方を理解し、効率的な資源配分の方法を学び、経済学のレンズを通して人間の経済行動の考え方を理解することができます。具体的に消費者行動、企業の生産行動、市場のしくみ、ゲーム理論、マクロ経済政策などを取り上げます。具体的にゲーム理論に焦点を当て、ゲーム理論の研究手法を学ぶことを通じて、今後の人生や仕事に役立てたいと思います。 授業内容は授業で使用した資料をもとに、講義を進めます。 試験の評価は、出席評価、2つの課題、期末試験に分け、基準としています。

【到達目標】
本講義履修者が真摯な学習を通じて獲得しうるスキルは以下の２点になります。
①経済学的に物事を考えるための経済理論の基礎を身につける。
　そのためには、皆さんが行うこと、日頃から経済の諸問題などに対して、「なぜ、どうして」などの問題意識を持ち、仮説化し検証する習慣を身につけるための動機づけをおこなう。
②①を行うための基礎的な数学（あるいは数学的処理）方法や経済モデルを学ぶこと。

学習・教育到達目標との関連（アーキテクト・マインド）
教養力：◎

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	◎	◎			◎	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義全体を通じて、経済理論を実際の経済あるいは社会問題に応用することに主眼を置きます。授業の資料はプリント形式で行われ、特に参考資料はありません。 2回の課題を課し、期末試験は選択式の問題で行われます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ゲームを行いましょう。授業を通じて学んだ内容が問題解決に役立つかどうかを確認するために、ゲーム理論に関連するいくつかのゲームを一緒に行います。
2	経済学とは何か	経済学とはどんな学問か。現代経済学の枠組みを紹介します。また、ゲーム理論の基礎と実例を紹介します。
3	ゲーム理論基礎と静学ゲームの研究手法と事例	「囚人のジレンマ」とは何か。テレビ局間の放送内容決定ゲームなどゲームの事例を紹介します。
4	動学ゲームの研究手法と事例	数取りゲームの必勝法と立地ゲームの考え方を紹介します。
5	じゃんけんゲームの必勝法と混合戦略ナッシュ均衡	混合戦略ナッシュ均衡とは何か。ゼロサムゲームの解け方と事例を紹介します。
6	銀行破綻とコミットメント	銀行破綻ゲームとコミットメントの意味と映画の応用例を紹介します
7	繰り返しゲーム	複数回ゲームする場合の戦略の決め方を紹介します。
8	ゲーム理論の応用１ーオークション	ヤフオクの仕組みと一般的なオークション理論について紹介します。
9	ゲーム理論の応用２ー給料の決定方法	経営者はどのようにして従業員の給与を決定するのかを学びます。また、情報の非対称性の概念とその経済への影響についても取り上げます。
10	マクロ経済学の基礎１	マクロ経済学の枠組み、GDP、インフレ、失業率などを学びます。
11	マクロ経済学の基礎２	価格指数、バブル、信用乗数について学びます。
12	マクロ経済学モデル、IS-LMモデル１	IS-LMモデルの導入、マクロ経済学での金融政策と財政政策について学びます。
13	マクロ経済学モデル、IS-LMモデル２	IS-LMモデルの導入、マクロ経済学での金融政策と財政政策について学びます。
14	宿題の解説と期末試験の説明	宿題1と2の解説と期末試験の説明です。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配信される資料の復習が必要です。配布資料を中心に進めるため、講義に出席し、講義内で習ったことの復習を中心に学習することです。課題の問題を解決するためには、配布資料を復習する必要があります。

【テキスト（教科書）】
なし。講義ノートと適時に配布するプリント教材を中心に講義を進めます。

【参考書】
特にありません。授業内で関連する資料や教科書を推薦します

【成績評価の方法と基準】
出席評価：40％
課題２回：20％
期末試験：40％
合計：100％

【学生の意見等からの気づき】
時間の制約上、授業内で十分に説明できない部分もあります。そのため、各回のリアクションペーパーに理解が不十分な点を記載することが望ましいです。理解が不十分なままでは、後の内容の理解にも影響を及ぼす可能性があります。消化不良を起こさないように、みなさんも講義の聞き流しではなく、学習したことを復習してください。

【学生が準備すべき機器他】
なし。対面授業の場合、パワーポイントと黒板を利用します。コロナなどの感染症の状況により、オンライン授業（zoom）となる場合は、各自でPCまたはスマホなどIT環境を整えてください。

【その他の重要事項】
2025年度の授業も秋学期になりました。

シラバスの内容や講義の順番を変更する場合もあります。ご了承ください。
対面授業で行う予定です。
授業終了後に教室で質問を受け付け，または随時，電子メールで質問を受け付けます。

【Outline (in English)】
In this course, Economics, we will primarily focus on microeconomics and macroeconomics to understand the fundamental principles and concepts of modern economics. Students will learn methods for efficient resource allocation and gain insights into human economic behavior through the lens of economics. Topics covered include consumer behavior, firms' production decisions, market mechanisms, game theory, and macroeconomic policies.
[Learning Objectives]
Specifically, the course will emphasize game theory, allowing students to learn its research methods and apply them to their future careers and daily lives. The lectures will be conducted based on the materials used in class.
[Learning Activities outside of classroom]
Students are required to review the distributed materials. Since the lectures will be primarily based on these materials, they should attend the lectures attentively and focus on reviewing what they have learned. Additionally, students need to review the materials to solve the assigned problems. The standard review time for this class is one to two hours per session.
[Grading Criteria /Policy]
The evaluation will be based on attendance, two assignments, and a final exam.
Attendance evaluation: 40%
Two homework assignments: 20%.
Final exam: 40%.
Total: 100%.

ECN100NA（経済学 / Economics 100）

エコノミクス

李　江南

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈他〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この『エコノミクス』では、主にミクロ経済学とマクロ経済学に基づいて、現代経済学の基本原理と考え方を理解し、効率的な資源配分の方法を学び、経済学のレンズを通して人間の経済行動の考え方を理解することができます。具体的に消費者行動、企業の生産行動、市場のしくみ、ゲーム理論、マクロ経済政策などを取り上げます。具体的にゲーム理論に焦点を当て、ゲーム理論の研究手法を学ぶことを通じて、今後の人生や仕事に役立てたいと思います。 授業内容は授業で使用した資料をもとに、講義を進めます。 試験の評価は、出席評価、2つの課題、期末試験に分け、基準としています。

【到達目標】
本講義履修者が真摯な学習を通じて獲得しうるスキルは以下の２点になります。
①経済学的に物事を考えるための経済理論の基礎を身につける。
　そのためには、皆さんが行うこと、日頃から経済の諸問題などに対して、「なぜ、どうして」などの問題意識を持ち、仮説化し検証する習慣を身につけるための動機づけをおこなう。
②①を行うための基礎的な数学（あるいは数学的処理）方法や経済モデルを学ぶこと。

学習・教育到達目標との関連（アーキテクト・マインド）
教養力：◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義全体を通じて、経済理論を実際の経済あるいは社会問題に応用することに主眼を置きます。授業の資料はプリント形式で行われ、特に参考資料はありません。 2回の課題を課し、期末試験は選択式の問題で行われます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ゲームを行いましょう。授業を通じて学んだ内容が問題解決に役立つかどうかを確認するために、ゲーム理論に関連するいくつかのゲームを一緒に行います。
2	経済学とは何か	経済学とはどんな学問か。現代経済学の枠組みを紹介します。また、ゲーム理論の基礎と実例を紹介します。
3	ゲーム理論基礎と静学ゲームの研究手法と事例	「囚人のジレンマ」とは何か。テレビ局間の放送内容決定ゲームなどゲームの事例を紹介します。
4	動学ゲームの研究手法と事例	数取りゲームの必勝法と立地ゲームの考え方を紹介します。
5	じゃんけんゲームの必勝法と混合戦略ナッシュ均衡	混合戦略ナッシュ均衡とは何か。ゼロサムゲームの解け方と事例を紹介します。
6	銀行破綻とコミットメント	銀行破綻ゲームとコミットメントの意味と映画の応用例を紹介します
7	繰り返しゲーム	複数回ゲームする場合の戦略の決め方を紹介します。
8	ゲーム理論の応用１ーオークション	ヤフオクの仕組みと一般的なオークション理論について紹介します。
9	ゲーム理論の応用２ー給料の決定方法	経営者はどのようにして従業員の給与を決定するのかを学びます。また、情報の非対称性の概念とその経済への影響についても取り上げます。
10	マクロ経済学の基礎１	マクロ経済学の枠組み、GDP、インフレ、失業率などを学びます。
11	マクロ経済学の基礎２	価格指数、バブル、信用乗数について学びます。
12	マクロ経済学モデル、IS-LMモデル１	IS-LMモデルの導入、マクロ経済学での金融政策と財政政策について学びます。
13	マクロ経済学モデル、IS-LMモデル２	IS-LMモデルの導入、マクロ経済学での金融政策と財政政策について学びます。
14	宿題の解説と期末試験の説明	宿題1と2の解説と期末試験の説明です。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配信される資料の復習が必要です。配布資料を中心に進めるため、講義に出席し、講義内で習ったことの復習を中心に学習することです。課題の問題を解決するためには、配布資料を復習する必要があります。

【テキスト（教科書）】
なし。講義ノートと適時に配布するプリント教材を中心に講義を進めます。

【参考書】
特にありません。授業内で関連する資料や教科書を推薦します

【成績評価の方法と基準】
出席評価：40％
課題２回：20％
期末試験：40％
合計：100％

【学生の意見等からの気づき】
時間の制約上、授業内で十分に説明できない部分もあります。そのため、各回のリアクションペーパーに理解が不十分な点を記載することが望ましいです。理解が不十分なままでは、後の内容の理解にも影響を及ぼす可能性があります。消化不良を起こさないように、みなさんも講義の聞き流しではなく、学習したことを復習してください。

【学生が準備すべき機器他】
なし。対面授業の場合、パワーポイントと黒板を利用します。コロナなどの感染症の状況により、オンライン授業（zoom）となる場合は、各自でPCまたはスマホなどIT環境を整えてください。

【その他の重要事項】
2025年度の授業も秋学期になりました。
シラバスの内容や講義の順番を変更する場合もあります。ご了承ください。
対面授業で行う予定です。
授業終了後に教室で質問を受け付け，または随時，電子メールで質問を受け付けます。

【Outline (in English)】
In this course, Economics, we will primarily focus on microeconomics and macroeconomics to understand the fundamental principles and concepts of modern economics. Students will learn methods for efficient resource allocation and gain insights into human economic behavior through the lens of economics. Topics covered include consumer behavior, firms' production decisions, market mechanisms, game theory, and macroeconomic policies.
[Learning Objectives]
Specifically, the course will emphasize game theory, allowing students to learn its research methods and apply them to their future careers and daily lives. The lectures will be conducted based on the materials used in class.
[Learning Activities outside of classroom]
Students are required to review the distributed materials. Since the lectures will be primarily based on these materials, they should attend the lectures attentively and focus on reviewing what they have learned. Additionally, students need to review the materials to solve the assigned problems. The standard review time for this class is one to two hours per session.
[Grading Criteria /Policy]
The evaluation will be based on attendance, two assignments, and a final exam.
Attendance evaluation: 40%
Two homework assignments: 20%.
Final exam: 40%.
Total: 100%.

ECN100NA（経済学 / Economics 100）

エコノミクス

李　江南

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈他〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この『エコノミクス』では、主にミクロ経済学とマクロ経済学に基づいて、現代経済学の基本原理と考え方を理解し、効率的な資源配分の方法を学び、経済学のレンズを通して人間の経済行動の考え方を理解することができます。具体的に消費者行動、企業の生産行動、市場のしくみ、ゲーム理論、マクロ経済政策などを取り上げます。具体的にゲーム理論に焦点を当て、ゲーム理論の研究手法を学ぶことを通じて、今後の人生や仕事に役立てたいと思います。 授業内容は授業で使用した資料をもとに、講義を進めます。 試験の評価は、出席評価、2つの課題、期末試験に分け、基準としています。

【到達目標】
本講義履修者が真摯な学習を通じて獲得しうるスキルは以下の２点になります。
①経済学的に物事を考えるための経済理論の基礎を身につける。
　そのためには、皆さんが行うこと、日頃から経済の諸問題などに対して、「なぜ、どうして」などの問題意識を持ち、仮説化し検証する習慣を身につけるための動機づけをおこなう。
②①を行うための基礎的な数学（あるいは数学的処理）方法や経済モデルを学ぶこと。

学習・教育到達目標との関連（アーキテクト・マインド）
教養力：◎

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	45%
（B）技術者倫理	30%
（C）工学基礎学力	
（D）専門基礎学力	
（E）専門知識の活用・応用能力	
（F）総合デザイン能力	25%
（G）コミュニケーション能力	
（H）継続的学習能力	
（I）業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義全体を通じて、経済理論を実際の経済あるいは社会問題に応用することに主眼を置きます。授業の資料はプリント形式で行われ、特に参考資料はありません。 2回の課題を課し、期末試験は選択式の問題で行われます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ゲームを行いましょう。授業を通じて学んだ内容が問題解決に役立つかどうかを確認するために、ゲーム理論に関連するいくつかのゲームを一緒に行います。
2	経済学とは何か	経済学とはどんな学問か。現代経済学の枠組みを紹介します。また、ゲーム理論の基礎と実例を紹介します。
3	ゲーム理論基礎と静学ゲームの研究手法と事例	「囚人のジレンマ」とは何か。テレビ局間の放送内容決定ゲームなどゲームの事例を紹介します。
4	動学ゲームの研究手法と事例	数取りゲームの必勝法と立地ゲームの考え方を紹介します。
5	じゃんけんゲームの必勝法と混合戦略ナッシュ均衡	混合戦略ナッシュ均衡とは何か。ゼロサムゲームの解け方と事例を紹介します。
6	銀行破綻とコミットメント	銀行破綻ゲームとコミットメントの意味と映画の応用例を紹介します
7	繰り返しゲーム	複数回ゲームする場合の戦略の決め方を紹介します。
8	ゲーム理論の応用１ーオークション	ヤフオクの仕組みと一般的なオークション理論について紹介します。
9	ゲーム理論の応用２ー給料の決定方法	経営者はどのようにして従業員の給与を決定するのかを学びます。また、情報の非対称性の概念とその経済への影響についても取り上げます。
10	マクロ経済学の基礎１	マクロ経済学の枠組み、GDP、インフレ、失業率などを学びます。
11	マクロ経済学の基礎２	価格指数、バブル、信用乗数について学びます。
12	マクロ経済学モデル、IS-LMモデル１	IS-LMモデルの導入、マクロ経済学での金融政策と財政政策について学びます。
13	マクロ経済学モデル、IS-LMモデル２	IS-LMモデルの導入、マクロ経済学での金融政策と財政政策について学びます。
14	宿題の解説と期末試験の説明	宿題1と2の解説と期末試験の説明です。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配信される資料の復習が必要です。配布資料を中心に進めるため、講義に出席し、講義内で習ったことの復習を中心に学習することです。課題の問題を解決するためには、配布資料を復習する必要があります。

【テキスト（教科書）】
なし。講義ノートと適時に配布するプリント教材を中心に講義を進めます。

【参考書】
特にありません。授業内で関連する資料や教科書を推薦します

【成績評価の方法と基準】
出席評価：40％
課題２回：20％
期末試験：40％
合計：100％

【学生の意見等からの気づき】
時間の制約上、授業内で十分に説明できない部分もあります。そのため、各回のリアクションペーパーに理解が不十分な点を記載することが望ましいです。理解が不十分なままでは、後の内容の理解にも影響を及ぼす可能性があります。消化不良を起こさないように、みなさんも講義の聞き流しではなく、学習したことを復習してください。

【学生が準備すべき機器他】
なし。対面授業の場合、パワーポイントと黒板を利用します。コロナなどの感染症の状況により、オンライン授業（zoom）となる場合は、各自でPCまたはスマホなどIT環境を整えてください。

【その他の重要事項】
2025年度の授業も秋学期になりました。
シラバスの内容や講義の順番を変更する場合もあります。ご了承ください。
対面授業で行う予定です。
授業終了後に教室で質問を受け付け，または随時，電子メールで質問を受け付けます。

【Outline (in English)】
In this course, Economics, we will primarily focus on microeconomics and macroeconomics to understand the fundamental principles and concepts of modern economics. Students will learn methods for efficient resource allocation and gain insights into human economic behavior through the lens of economics. Topics covered include consumer behavior, firms' production decisions, market mechanisms, game theory, and macroeconomic policies.
[Learning Objectives]
Specifically, the course will emphasize game theory, allowing students to learn its research methods and apply them to their future careers and daily lives. The lectures will be conducted based on the materials used in class.
[Learning Activities outside of classroom]
Students are required to review the distributed materials. Since the lectures will be primarily based on these materials, they should attend the lectures attentively and focus on reviewing what they have learned. Additionally, students need to review the materials to solve the assigned problems. The standard review time for this class is one to two hours per session.
[Grading Criteria /Policy]
The evaluation will be based on attendance, two assignments, and a final exam.
Attendance evaluation: 40%
Two homework assignments: 20%.
Final exam: 40%.
Total: 100%.

MAN100NA（経営学 / Management 100）

現代企業論

境　新一

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈他〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世界は2020年以来，未曾有のパンデミック／コロナ禍ならびに想定を遥かに超える気候変動のなかで，大転換，新たな社会観と事業，価値創造の手法が模索されています。本講義は，企業（法人）を典型とする現代組織を対象とした経営の理論（基本概念）と事業の価値創造の技法について事例を通して検証します。まず，経営学の基礎理論について，周辺領域（経済学，社会学，法学など）との関係に言及し，企業・事業・経営の一体的な理解と今日の展開についてマクロの視点で整理します。次に，経営の個別テーマを経営資源（人，物，金，情報，技術など）別にミクロの視点から事例で紹介します。また，アートとビジネスが相互浸透する今日の状況を踏まえ，創造（プロデュース）と経営（マネジメント）を対比して，起業を前提とした事業計画書の作成，新たな事業創造，その基盤となる新たな価値創造の技法，発想法を利用し演習に活かします。

【到達目標】
本講義では，学生諸君が現代企業を総合的に理解し，経営者，起業家，クリエーター，職人などによる価値創造の技法を修得し，受講生自身の知の技法を育むことにより，思考力と実践力を獲得できます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
パンデミック／コロナ禍ならびに想定を遥かに超える気候変動のなかで，新たな価値創造が模索されるなかで，本講義では企業・事業・経営を一体的に理解するために，経営学を中心に経済学，社会学，法学との関係に言及します。次に，経営の個別テーマについて事例を加えながら講義します。その際，アートとビジネスが相互浸透する今日の状況を踏まえて，アート，ビジネスの世界における経営者，クリエーター，プロデューサー，デザイナー，アーティストなどの専門分野と技法，ネットワークと独創性・独自性をもって時代を創り，かつ，変えていく行為と作品，能力開発と後継者育成などを多角的に検証します。とりあげる主な事例として，先端の情報技術産業，人文・社会科学の複合領域，美術・音楽・演劇など芸術・アートの分野，生活産業やエンタテインメント産業，展覧会・ファッションショーなどイベント事業の仕組み，商品・サービスに関わるビジネスモデルの構築です。アイデア発想法の練習やゲスト講話（インタビュー取材，録画）なども交えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに，パンデミック／コロナ禍、気候変動の影響，現代企業の要件	現代企業の役割，経営学と周辺領域，社会的責任／CSR・公益の実現，企業・事業・経営の一体的理解，プロデュース＆マネジメントの役割，アートとデザインの関係，新事業創造と価値創造の技法
第2回	農商工連携，総合産業	農商工連携，６次産業化，総合産業，生活産業とエンタテインメント産業，世界貿易とTPP／EPA
第3回	企業・事業・経営	起業（会社設立）の手順，企業・事業・経営の一体理解，経営と理念，CSR，ビジョナリ―カンパニー
第4回	PDCAとBSC	経営管理の方法：マネジメント・サイクル／PDCA，評価方法：バランス・スコアカード／BSC
第5回	経営と戦略，人材育成，マーケティング	経営戦略，人材育成，マーケティング／価値と価格／生産と流通／顧客創造／感動創造
第6回	経営と財務１	財務諸表の相互関係，貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書の特徴
第7回	経営と財務２	財務諸表の事例比較／製造業・非製造業・ベンチャー
第8回	経営と情報技術	情報技術によるイノベーション，IoT，ICT，AIの役割，ビッグ・データの活用
第9回	経営と法律，知財	ビジネス法務，知的財産，地域ブランドの創造
第10回	アートとデザイン発想と実行／実装	アートとデザイン／課題提起と課題解決，アート・デザイン・サイエンス・テクノロジーの関係，アート・プロデュース，デザイン思考，作品と商品
第11回	新事業創造と事業計画，物語構築と価値創造のための発想法の意義	事業創造のための物語構築，新事業創造と事業計画，6W2Hの内容，社会ネットワークの活用，ビジネスモデル，素人発想・玄人実行，発想法／ブレインマップの特徴
第12回	価値創造　演習１，ブレインマップを活用した素人発想	経営者，起業家による事業創造と経営創造
第13回	価値創造　演習２，ブレインマップを活用した玄人実行	クリエーター，プロデューサー，職人（匠）による商品・サービスの開発，アーティストによる創作
第14回	まとめ	物語構築と新事業創造の要諦，企業および事業の価値，価値算定，EVA／MVA，リスクマネジメント，発想法を活かした価値創造

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習・復習とも教科書，資料を各自で十分に読み込んで下さい。実際に企業・事業・経営の一体理解，事業計画書について演習する場合があります。理論と事例を相互参照して理解していただきたい。各回については，以下のとおりです。
（1）パンデミック／コロナ禍の影響，現代企業の要件について教科書・資料での予習（90分）。
（2）農商工連携，総合産業について教科書・資料での予習（90分）。
（3）企業・事業・経営について教科書・資料での予習（90分）。
（4）PDCAとBSCについて教科書・資料での予習（90分）。
（5）経営と戦略，人材育成，マーケティングについて教科書・資料での予習（90分）。
（6）経営と財務１について教科書・資料での予習（90分）。
（7）経営と財務２について教科書・資料での予習（90分）。
（8）経営と情報技術について教科書・資料での予習（90分）。
（9）経営と法律，知財について教科書・資料での予習（90分）。
（10）アートとデザインについて教科書・資料での予習（90分）。
（11）新事業創造と事業計画について教科書・資料での予習（90分）。

（12）価値創造　事例１について教科書・資料での予習（90分）。
（13）価値創造　事例２について教科書・資料での予習（90分）。
（14）まとめ　教科書・資料での総括・復習（90分）。

【テキスト（教科書）】
境 新一『アート・プロデュース概論－経営と芸術の融合　第２刷』中央経済社，2021年。

【参考書】
境 新一『現代企業論－経営と法律の視点（第５版）』文眞堂，2018年。
境 新一・谷 真哉・榎本 正『新事業創造のための発想法』文眞堂，2022年。
境新一（編著）、齋藤 保男 、加藤 寛昭、丸 幸弘、塚田 周平，臼井 真美 (著)
『アグリ・アート　感動を与える農業ビジネス』中央経済社，2020年。
『日経　業界地図２０２５年版』日本経済新聞社，2024年。

【成績評価の方法と基準】
講義に対する参加度（演習を含む）２０％　期中レポート４０％　期末試験または期末レポート４０％　の総合評価とします。なお，期末試験／期末レポートの決定は講義折り返しの７、８回時点で公表します。

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートの回答を確認し、授業に活かすことに努めている。

【その他の重要事項】
講義内容はテキスト『アート・プロデュース概論』を基本として，各テーマに関連する資料を適宜別途掲載します。
講義を中心として進めますが，期中レポート（小課題２回），期末レポート，演習も交えて行います。毎回，学習支援システムに講義資料を掲載しますので，受講生諸君は各自で資料ファイル（PDF）をダウンローまたは印刷して講義に臨んでください。
授業終了後に教室で質問を受け付けます。

【Outline (in English)】
This course examines management theory targeting corporate industry as a model for modern organizations and methods of business value creation through real-world examples. Beginning with fundamental theory of management, with reference to related fields (economics, sociology, law etc.) a unified understanding of industry, enterprise and management and current developments is reviewed through a macro point of view. Next, individual topics in resource management (human, physical, financial, data, technological etc.) will be introduced with real-world examples through a micro point of view. In addition, based on today's state of interpenetration between art and business, through comparisons of production and management, new methods of value creation related to start-up business planning, base products and services for business will be studied.

MAN100NA（経営学 / Management 100）

現代企業論

境　新一

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈他〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世界は2020年以来，未曾有のパンデミック／コロナ禍ならびに想定を遥かに超えるなかで，大転換，新たな社会観と事業，価値創造の手法が模索されています。本講義は，企業（法人）を典型とする現代組織を対象とした経営の理論（基本概念）と事業の価値創造の技法について事例を通して検証します。まず，経営学の基礎理論について，周辺領域（経済学，社会学，法学など）との関係に言及し，企業・事業・経営の一体的な理解と今日の展開についてマクロの視点で整理します。次に，経営の個別テーマを経営資源（人，物，金，情報，技術など）別にミクロの視点から事例で紹介します。また，アートとビジネスが相互浸透する今日の状況を踏まえ，創造（プロデュース）と経営（マネジメント）を対比して，起業を前提とした事業計画書の作成，新たな事業創造，その基盤となる新たな価値創造の技法，発想法を利用し演習に活かします。

【到達目標】
本講義では，学生諸君が現代企業を総合的に理解し，経営者，起業家，クリエーター，職人などによる価値創造の技法を修得し，受講生自身の知の技法を育むことにより，思考力と実践力を獲得できます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
パンデミック／コロナ禍ならびに気候変動のなかで，新たな価値創造が模索されるなかで，本講義では企業・事業・経営を一体的に理解するために，経営学を中心に経済学，社会学，法学との関係に言及します。次に，経営の個別テーマについて事例を加えながら講義します。その際，アートとビジネスが相互浸透する今日の状況を踏まえて，アート，ビジネスの世界における経営者，クリエーター，プロデューサー，デザイナー，アーティストなどの専門分野と技法，ネットワークと独創性・独自性をもって時代を創り，かつ，変えていく行為と作品，能力開発と後継者育成などを多角的に検証します。とりあげる主な事例として，先端の情報技術産業，人文・社会科学の複合領域，美術・音楽・演劇など芸術・アートの分野，生活産業やエンタテインメント産業，展覧会・ファッションショーなどイベント事業の仕組み，商品・サービスに関わるビジネスモデルの構築です。アイデア発想法の練習やゲスト講話（インタビュー取材，録画）なども交えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに，パンデミック／コロナ禍，気候変動の影響，現代企業の要件	現代企業の役割，経営学と周辺領域，社会的責任／CSR・公益の実現，企業・事業・経営の一体的理解，プロデュース＆マネジメントの役割，アートとデザインの関係，新事業創造と価値創造の技法
第2回	農商工連携，総合産業	農商工連携，６次産業化，総合産業，生活産業とエンタテインメント産業，世界貿易とTPP／EPA
第3回	企業・事業・経営	起業（会社設立）の手順，企業・事業・経営の一体理解，経営と理念，CSR，ビジョナリ―カンパニー
第4回	PDCAとBSC	経営管理の方法：マネジメント・サイクル／PDCA，評価方法：バランス・スコアカード／BSC
第5回	経営と戦略，人材育成，マーケティング	経営戦略，人材育成，マーケティング／価値と価格／生産と流通／顧客創造／感動創造
第6回	経営と財務１	財務諸表の相互関係，貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書の特徴
第7回	経営と財務２	財務諸表の事例比較／製造業・非製造業・ベンチャー
第8回	経営と情報技術	情報技術によるイノベーション，IoT，ICT，AIの役割，ビッグ・データの活用
第9回	経営と法律，知財	ビジネス法務，知的財産，地域ブランドの創造
第10回	アートとデザイン発想と実行／実装	アートとデザイン／課題提起と課題解決，アート・デザイン・サイエンス・テクノロジーの関係，アート・プロデュース，デザイン思考，作品と商品
第11回	新事業創造と事業計画，物語構築と価値創造のための発想法の意義	事業創造のための物語構築，新事業創造と事業計画，6W2Hの内容，社会ネットワークの活用，ビジネスモデル，素人発想・玄人実行，発想法／ブレインマップの特徴
第12回	価値創造　演習１，ブレインマップを活用した素人発想	経営者，起業家による事業創造と経営創造
第13回	価値創造　演習２，ブレインマップを活用した玄人実行	クリエーター，プロデューサー，職人（匠）による商品・サービスの開発，アーティストによる創作
第14回	まとめ	物語構築と新事業創造の要諦，企業および事業の価値，価値算定，EVA／MVA，リスクマネジメント，発想法を活かした価値創造

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習・復習とも教科書，資料を各自で十分に読み込んで下さい。実際に企業・事業・経営の一体理解，事業計画書について演習する場合があります。理論と事例を相互参照して理解していただきたい。各回については，以下のとおりです。
（1）パンデミック／コロナ禍の影響，現代企業の要件について教科書・資料での予習（90分）。
（2）農商工連携，総合産業について教科書・資料での予習（90分）。
（3）企業・事業・経営について教科書・資料での予習（90分）。
（4）PDCAとBSCについて教科書・資料での予習（90分）。
（5）経営と戦略，人材育成，マーケティングについて教科書・資料での予習（90分）。
（6）経営と財務１について教科書・資料での予習（90分）。
（7）経営と財務２について教科書・資料での予習（90分）。
（8）経営と情報技術について教科書・資料での予習（90分）。
（9）経営と法律，知財について教科書・資料での予習（90分）。
（10）アートとデザインについて教科書・資料での予習（90分）。
（11）新事業創造と事業計画について教科書・資料での予習（90分）。

（12）価値創造　事例１について教科書・資料での予習（90分）。
（13）価値創造　事例２について教科書・資料での予習（90分）。
（14）まとめ　教科書・資料での総括・復習（90分）。

【テキスト（教科書）】
境 新一『アート・プロデュース概論－経営と芸術の融合　第２刷』中央経済社，2021年。

【参考書】
境 新一『現代企業論－経営と法律の視点（第５版）』文眞堂，2018年。
境 新一・谷 真哉・榎本 正『新事業創造のための発想法』文眞堂，2022年。
境新一（編著）、齋藤 保男 、加藤 寛昭、丸 幸弘、塚田 周平，臼井 真美 (著)
『アグリ・アート　感動を与える農業ビジネス』中央経済社，2020年。
『日経　業界地図２０２５年版』日本経済新聞社，2024年。

【成績評価の方法と基準】
講義に対する参加度（演習を含む）２０％　期中レポート４０％　期末試験または期末レポート４０％　の総合評価とします。なお，期末試験／期末レポートの決定は講義折り返しの７、８回時点で公表します。

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートの回答を確認し、授業に活かすことに努めている。

【その他の重要事項】
講義内容はテキスト『アート・プロデュース概論』を基本として，各テーマに関連する資料を適宜別途掲載します。
講義を中心として進めますが，期中レポート（小課題２回），期末レポート，演習も交えて行います。毎回，学習支援システムに講義資料を掲載しますので，受講生諸君は各自で資料ファイル（PDF）をダウンローまたは印刷して講義に臨んでください。
授業終了後に教室で質問を受け付けます。

【Outline (in English)】
This course examines management theory targeting corporate industry as a model for modern organizations and methods of business value creation through real-world examples. Beginning with fundamental theory of management, with reference to related fields (economics, sociology, law etc.) a unified understanding of industry, enterprise and management and current developments is reviewed through a macro point of view. Next, individual topics in resource management (human, physical, financial, data, technological etc.) will be introduced with real-world examples through a micro point of view. In addition, based on today's state of interpenetration between art and business, through comparisons of production and management, new methods of value creation related to start-up business planning, base products and services for business will be studied.

MAN100NA（経営学 / Management 100）

現代企業論

境　新一

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈他〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世界は2020年以来，未曾有のパンデミック／コロナ禍ならびに想定を遥かに超える気候変動のなかで，のなかで，大転換，新たな社会観と事業，価値創造の手法が模索されています。本講義は，企業（法人）を典型とする現代組織を対象とした経営の理論（基本概念）と事業の価値創造の技法について事例を通して検証します。まず，経営学の基礎理論について，周辺領域（経済学，社会学，法学など）との関係に言及し，企業・事業・経営の一体的な理解と今日の展開についてマクロの視点で整理します。次に，経営の個別テーマを経営資源（人，物，金，情報，技術など）別にミクロの視点から事例で紹介します。また，アートとビジネスが相互浸透する今日の状況を踏まえ，創造（プロデュース）と経営（マネジメント）を対比して，起業を前提とした事業計画書の作成，新たな事業創造，その基盤となる新たな価値創造の技法，発想法を利用し演習に活かします。

【到達目標】
本講義では，学生諸君が現代企業を総合的に理解し，経営者，起業家，クリエーター，職人などによる価値創造の技法を修得し，受講生自身の知の技法を育むことにより，思考力と実践力を獲得できます。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
					◎	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
パンデミック／コロナ禍ならびに想定を遥かに超える気候変動のなかで新たな価値創造が模索されるなかで，本講義では企業・事業・経営を一体的に理解するために，経営学を中心に経済学，社会学，法学との関係に言及します。次に，経営の個別テーマについて事例を加えながら講義します。その際，アートとビジネスが相互浸透する今日の状況を踏まえて，アート，ビジネスの世界における経営者，クリエーター，プロデューサー，デザイナー，アーティストなどの専門分野と技法，ネットワークと独創性・独自性をもって時代を創り，かつ，変えていく行為と作品，能力開発と後継者育成などを多角的に検証します。とりあげる主な事例として，先端の情報技術産業，人文・社会科学の複合領域，美術・音楽・演劇など芸術・アートの分野，生活産業やエンタテインメント産業，展覧会・ファッションショーなどイベント事業の仕組み，商品・サービスに関わるビジネスモデルの構築です。アイデア発想法の練習やゲスト講話（インタビュー取材，録画）なども交えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに，パンデミック／コロナ禍，気候変動の影響，現代企業の要件	現代企業の役割，経営学と周辺領域，社会的責任／CSR・公益の実現，企業・事業・経営の一体的理解，プロデュース＆マネジメントの役割，アートとデザインの関係，新事業創造と価値創造の技法
第2回	農商工連携，総合産業	農商工連携，６次産業化，総合産業，生活産業とエンタテインメント産業，世界貿易とTPP／EPA
第3回	企業・事業・経営	起業（会社設立）の手順，企業・事業・経営の一体理解，経営と理念，CSR，ビジョナリ―カンパニー
第4回	PDCAとBSC	経営管理の方法：マネジメント・サイクル／PDCA，評価方法：バランス・スコアカード／BSC
第5回	経営と戦略，人材育成，マーケティング	経営戦略，人材育成，マーケティング／価値と価格／生産と流通／顧客創造／感動創造
第6回	経営と財務１	財務諸表の相互関係，貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書の特徴
第7回	経営と財務２	財務諸表の事例比較／製造業・非製造業・ベンチャー
第8回	経営と情報技術	情報技術によるイノベーション，IoT，ICT，AIの役割，ビッグ・データの活用
第9回	経営と法律，知財	ビジネス法務，知的財産，地域ブランドの創造
第10回	アートとデザイン発想と実行／実装	アートとデザイン／課題提起と課題解決，アート・デザイン・サイエンス・テクノロジーの関係，アート・プロデュース，デザイン思考，作品と商品
第11回	新事業創造と事業計画，物語構築と価値創造のための発想法の意義	事業創造のための物語構築，新事業創造と事業計画，6W2Hの内容，社会ネットワークの活用，ビジネスモデル，素人発想・玄人実行，発想法／ブレインマップの特徴
第12回	価値創造　演習１，ブレインマップを活用した素人発想	経営者，起業家による事業創造と経営創造
第13回	価値創造　演習２，ブレインマップを活用した玄人実行	クリエーター，プロデューサー，職人（匠）による商品・サービスの開発，アーティストによる創作
第14回	まとめ	物語構築と新事業創造の要諦，企業および事業の価値，価値算定，EVA／MVA，リスクマネジメント，発想法を活かした価値創造

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習・復習とも教科書，資料を各自で十分に読み込んで下さい。実際に企業・事業・経営の一体理解，事業計画書について演習する場合があります。理論と事例を相互参照して理解していただきたい。各回については，以下のとおりです。
（1）パンデミック／コロナ禍の影響，現代企業の要件について教科書・資料での予習（90分）。
（2）農商工連携，総合産業について教科書・資料での予習（90分）。
（3）企業・事業・経営について教科書・資料での予習（90分）。
（4）PDCAとBSCについて教科書・資料での予習（90分）。
（5）経営と戦略，人材育成，マーケティングについて教科書・資料での予習（90分）。
（6）経営と財務１について教科書・資料での予習（90分）。
（7）経営と財務２について教科書・資料での予習（90分）。

（８）経営と情報技術について教科書・資料での予習（90分）。
（９）経営と法律，知財について教科書・資料での予習（90分）。
（10）アートとデザインについて教科書・資料での予習（90分）。
（11）新事業創造と事業計画について教科書・資料での予習（90分）。
（12）価値創造　事例１について教科書・資料での予習（90分）。
（13）価値創造　事例２について教科書・資料での予習（90分）。
（14）まとめ　教科書・資料での総括・復習（90分）。

【テキスト（教科書）】
境 新一『アート・プロデュース概論－経営と芸術の融合　第２刷』中央経済社，2021年。

【参考書】
境 新一『現代企業論－経営と法律の視点（第５版）』文眞堂，2018年。
境 新一・谷 真哉・榎本 正『新事業創造のための発想法』文眞堂，2022年。
境新一（編著）、齋藤 保男 、加藤 寛昭、丸 幸弘、塚田 周平，臼井 真美 (著)
『アグリ・アート　感動を与える農業ビジネス』中央経済社，2020年。
『日経　業界地図２０２５年版』日本経済新聞社，2024年。

【成績評価の方法と基準】
講義に対する参加度（演習を含む）２０％　期中レポート４０％　期末試験または期末レポート４０％　の総合評価とします。なお，期末試験／期末レポートの決定は講義折り返しの７、８回時点で公表します。

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートの回答を確認し、授業に活かすことに努めている。

【その他の重要事項】
講義内容はテキスト『アート・プロデュース概論』を基本として，各テーマに関連する資料を適宜別途掲載します。
講義を中心として進めますが，期中レポート（小課題２回），期末レポート，演習も交えて行います。毎回，学習支援システムに講義資料を掲載しますので，受講生諸君は各自で資料ファイル（PDF）をダウンローまたは印刷して講義に臨んでください。
授業終了後に教室で質問を受け付けます。

【Outline (in English)】
This course examines management theory targeting corporate industry as a model for modern organizations and methods of business value creation through real-world examples. Beginning with fundamental theory of management, with reference to related fields (economics, sociology, law etc.) a unified understanding of industry, enterprise and management and current developments is reviewed through a macro point of view. Next, individual topics in resource management (human, physical, financial, data, technological etc.) will be introduced with real-world examples through a micro point of view. In addition, based on today's state of interpenetration between art and business, through comparisons of production and management, new methods of value creation related to start-up business planning, base products and services for business will be studied.

ADE200NA（建築学 / Architecture and building engineering 200）

都市デザイン

高見　公雄

開講時期：**春学期前半/Spring(1st half)**　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**都市：建築士**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ア〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市化の時代から市街地集約の時代に向かう中、都市の質の充実が求められている。都心居住への回帰、中心市街地の衰退、生活の質の変化など、都市に求められる機能や役割は多様化している。今後、既成市街地の質向上を図っていく場合、都市や空間のデザインは重要なキーワードとなる。人々の生き甲斐の充実、多様な魅力享受への欲求等に応え、魅力的な都市を造っていくための都市機能、都市基盤の適正なあり方、また気候風土や地勢を活かした快適空間の拡大や良好な都市景観形成など、都市のあるべき姿を探り、それをデザインし、実現していくための方法の総体を都市デザイン（アーバンデザイン）と捉え、その基礎的な考え方を総合的に学習する。

【到達目標】
都市デザインとは何か、その対象と判断の切り口を理解する。
都市デザインの歴史の概略を知る。
テーマに応じた都市デザインの視点を自ら整理し、形として表現する。

【修得できる能力】
（A）歴史・文化・自然の理解・尊重
（B）技術者倫理
（C）工学基礎学力　40%
（D）専門基礎学力　40%
（E）専門知識の活用・応用能力　20%
（F）総合デザイン能力
（G）コミュニケーション能力
（H）継続的学習能力
（I）業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
第1回から第6回は都市デザインの切り口ごとに状況や考え方を講義し、各回ミニテストにより理解度を確認する。第7回以降は前半の講義を受け、都市デザインのテーマに沿った演習形式とし作図作業を行う。最終的にはスケッチのデジタル化としてドローソフトの使い方を学ぶ。第10回以降に1回程度の現地見学を折り込む。
作図作業に際しては、色鉛筆・マーカー・直定規・三角定規・コンパス・各種テンプレートなどを持参すること。第11回、第12回には貸与PCを持参すること。他学部の学生についてはPCを貸し出す予定としている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス/都市デザインの仕事場	街づくり課題が変化していく中で、都市デザインの対象領域、分野、内容をどのように捉えるべきか講義する。
2	都市デザインの課題	多様化する街づくり課題に応える都市デザインを進める上での課題について、対象を類型化しつつ、事例を交えて紹介する。
3	代表的事例と着目点・その1/創造型都市デザイン	これまでの都市デザインの取り組みを見ていく。一つ目は国内で進められた創造型ともいうべき類型について、方法と成果を紹介する。
4	代表的事例と着目点・その2/誘導型都市デザイン	同様に既存の環境の保全、活用などを基軸にした取り組みについて、方向と成果を紹介する。
5	代表的事例と着目点・その3/歴史、常識集	都市デザインの系譜と常識的に知っておくべき事柄、事例等を整理分類して紹介する。
6	代表的事例と着目点・その4/実行のための事業手法	都市デザインの実行に決定的な意味を持つ事業手法の観点から、手法説明と都市デザインとの相関について講義する。
7	都市デザインの演習・その1/都市または都市圏の概念図	都市や都市圏の構造や将来像の考え方について考え、課題に応じてそれを図化する技術を習得する。
8	都市デザインの演習・その2/空間、景観の解析	主として景観計画などで用いられる計画技法を学ぶとともに、景観誘導の内容とその図示の技術を習得する。
9	都市デザインの演習・その3/中心市街地のデザイン	全国的な課題である中心市街地における都市デザインの可能性や役割を考え、課題に応じてその展開方向を図化する技術を習得する。
10	フィールドワーク/都市再生の都市デザイン	都市デザインに関する留意点を現実の空間で確認するため、街に出る。
11	都市デザインの演習・その4/都市拠点の小空間	都市の枢要な地区において進められる拠点整備における都市デザインについて、課題に応じて図をもって提案する技術を習得する
12	スケッチのデジタル化	演習その1～4で描いたスケッチのいずれかをPCを用いてデジタル化する。イラストレーターの使い方を学ぶ。
13	スケッチのデジタル化、完成	ドロー系ソフトを用いてスケッチをデジタル化するとともに、PC上で一層の書き込みを行いフィニッシュさせる。
14	都市デザインの作法	都市デザインの作法として、都市デザインの歴史、課題、状況そして今後の展望について講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義の投影資料は、学習支援システム（当シラバス作成時は名称未定）にアップされる。前回分を学習支援システム（同）よりダウンロードし、確認して次回に望むことで理解が深まる。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
学芸出版社「日本の都市を美しくする」土田旭＋都市景観研究会編著
鹿島出版会「北のセントラルステーション-アーバンデザインの四半世紀」加藤源＋高見公雄＋篠原修編著

【成績評価の方法と基準】
各回のミニテスト(50％)並びに作図課題(50％)による。欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
第7回以降の作図課題について、定規や色鉛筆といった製図用器材が必要となる。

【その他の重要事項】
都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。
学生からの質問等については授業前後教室で受けるとともに、専任教員であることから、履修の手引きに示されるオフィスアワーで対応する。

【Outline (in English)】
This course consists of two components. Lectures will be given on examples of urban design of Japan, accompanied by a test on students' understanding. In addition, training will be held on regarding illustrations of urban problems.
[learning goal]
Understand what urban design is, its targets, and how it is judged.
Get an overview of the history of urban design.
Organize the perspective of urban design according to the theme and express it in a form.
[Learning activities outside the classroom]
Lecture projection materials will be uploaded to Hoppii. You can deepen your understanding by downloading the previous version from Hoppii, checking it, and asking for it next time.
The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.
[Evaluation Criteria/Policy]
Based on the mini-test (50%) and drawing task (50%) each time. Students who are absent 4 or more times will not receive credits (grade D).

ADE200NA（建築学 / Architecture and building engineering 200）

都市デザイン

高見　公雄

開講時期：**春学期前半/Spring(1st half)**　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**都市：建築士**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ア〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市化の時代から市街地集約の時代に向かう中、都市の質の充実が求められている。都心居住への回帰、中心市街地の衰退、生活の質の変化など、都市に求められる機能や役割は多様化している。今後、既成市街地の質向上を図っていく場合、都市や空間のデザインは重要なキーワードとなる。人々の生き甲斐の充実、多様な魅力享受への欲求等に応え、魅力的な都市を造っていくための都市機能、都市基盤の適正なあり方、また気候風土や地勢を活かした快適空間の拡大や良好な都市景観形成など、都市のあるべき姿を探り、それをデザインし、実現していくための方法の総体を都市デザイン（アーバンデザイン）と捉え、その基礎的な考え方を総合的に学習する。

【到達目標】
都市デザインとは何か、その対象と判断の切り口を理解する。
都市デザインの歴史の概略を知る。
テーマに応じた都市デザインの視点を自ら整理し、形として表現する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
第1回から第6回は都市デザインの切り口ごとに状況や考え方を講義し、各回ミニテストにより理解度を確認する。第7回以降は前半の講義を受け、都市デザインのテーマに沿った演習形式とし作図作業を行う。最終的にはスケッチのデジタル化としてドローソフトの使い方を学ぶ。第10回以降に1回程度の現地見学を折り込む。
作図作業に際しては、色鉛筆・マーカー・直定規・三角定規・コンパス・各種テンプレートなどを持参すること。第11回、第12回には貸与PCを持参すること。他学部の学生についてはPCを貸し出す予定としている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス/都市デザインの仕事場	街づくり課題が変化していく中で、都市デザインの対象領域、分野、内容をどのように捉えるべきか講義する。
2	都市デザインの課題	多様化する街づくり課題に応える都市デザインを進める上での課題について、対象を類型化しつつ、事例を交えて紹介する。
3	代表的事例と着目点・その1/創造型都市デザイン	これまでの都市デザインの取り組みを見ていく。一つ目は国内で進められた創造型ともいうべき類型について、方法と成果を紹介する。
4	代表的事例と着目点・その2/誘導型都市デザイン	同様に既存の環境の保全、活用などを基軸にした取り組みについて、方向と成果を紹介する。
5	代表的事例と着目点・その3/歴史、常識集	都市デザインの系譜と常識的に知っておくべき事柄、事例等を整理分類して紹介する。
6	代表的事例と着目点・その4/実行のための事業手法	都市デザインの実行に決定的な意味を持つ事業手法の観点から、手法説明と都市デザインとの相関について講義する。
7	都市デザインの演習・その1/都市または都市圏の概念図	都市や都市圏の構造や将来像の考え方について考え、課題に応じてそれを図化する技術を習得する。
8	都市デザインの演習・その2/空間、景観の解析	主として景観計画などで用いられる計画技法を学ぶとともに、景観誘導の内容とその図示の技術を習得する。
9	都市デザインの演習・その3/中心市街地のデザイン	全国的な課題である中心市街地における都市デザインの可能性や役割を考え、課題に応じてその展開方向を図化する技術を習得する。
10	フィールドワーク/都市再生の都市デザイン	都市デザインに関する留意点を現実の空間で確認するため、街に出る。
11	都市デザインの演習・その4/都市拠点の小空間	都市の枢要な地区において進められる拠点整備における都市デザインについて、課題に応じて図をもって提案する技術を習得する
12	スケッチのデジタル化	演習その1～4で描いたスケッチのいずれかをPCを用いてデジタル化する。イラストレーターの使い方を学ぶ。
13	スケッチのデジタル化、完成	ドロー系ソフトを用いてスケッチをデジタル化するとともに、PC上で一層の書き込みを行いフィニッシュさせる。
14	都市デザインの作法	都市デザインの作法として、都市デザインの歴史、課題、状況そして今後の展望について講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義の投影資料は、学習支援システム（当シラバス作成時は名称未定）にアップされる。前回分を学習支援システム（同）よりダウンロードし、確認して次回に望むことで理解が深まる。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
学芸出版社「日本の都市を美しくする」土田旭＋都市景観研究会編著
鹿島出版会「北のセントラルステーション-アーバンデザインの四半世紀」加藤源＋高見公雄＋篠原修編著

【成績評価の方法と基準】
各回のミニテスト(50％)並びに作図課題(50％)による。欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
第7回以降の作図課題について、定規や色鉛筆といった製図用器材が必要となる。

【その他の重要事項】
都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。
学生からの質問等については授業前後教室で受けるとともに、専任教員であることから、履修の手引きに示されるオフィスアワーで対応する。

【Outline (in English)】
This course consists of two components. Lectures will be given on examples of urban design of Japan, accompanied by a test on students' understanding. In addition, training will be held on regarding illustrations of urban problems.
[learning goal]
Understand what urban design is, its targets, and how it is judged.
Get an overview of the history of urban design.
Organize the perspective of urban design according to the theme and express it in a form.
[Learning activities outside the classroom]
Lecture projection materials will be uploaded to Hoppii. You can deepen your understanding by downloading the previous version from Hoppii, checking it, and asking for it next time.
The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.
[Evaluation Criteria/Policy]
Based on the mini-test (50%) and drawing task (50%) each time. Students who are absent 4 or more times will not receive credits (grade D).

ADE200NA（建築学 / Architecture and building engineering 200）

都市デザイン

高見　公雄

開講時期：**春学期前半/Spring(1st half)**　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**都市：建築士**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ア〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市化の時代から市街地集約の時代に向かう中、都市の質の充実が求められている。都心居住への回帰、中心市街地の衰退、生活の質の変化など、都市に求められる機能や役割は多様化している。今後、既成市街地の質向上を図っていく場合、都市や空間のデザインは重要なキーワードとなる。人々の生き甲斐の充実、多様な魅力享受への欲求等に応え、魅力的な都市を造っていくための都市機能、都市基盤の適正なあり方、また気候風土や地勢を活かした快適空間の拡大や良好な都市景観形成など、都市のあるべき姿を探り、それをデザインし、実現していくための方法の総体を都市デザイン（アーバンデザイン）と捉え、その基礎的な考え方を総合的に学習する。

【到達目標】
都市デザインとは何か、その対象と判断の切り口を理解する。
都市デザインの歴史の概略を知る。
テーマに応じた都市デザインの視点を自ら整理し、形として表現する。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
○	◎					

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
第1回から第6回は都市デザインの切り口ごとに状況や考え方を講義し、各回ミニテストにより理解度を確認する。第7回以降は前半の講義を受け、都市デザインのテーマに沿った演習形式とし作図作業を行う。最終的にはスケッチのデジタル化としてドローソフトの使い方を学ぶ。第10回以降に1回程度の現地見学を折り込む。
作図作業に際しては、色鉛筆・マーカー・直定規・三角定規・コンパス・各種テンプレートなどを持参すること。第11回、第12回には貸与PCを持参すること。他学部の学生についてはPCを貸し出す予定としている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス/都市デザインの仕事場	街づくり課題が変化していく中で、都市デザインの対象領域、分野、内容をどのように捉えるべきか講義する。
2	都市デザインの課題	多様化する街づくり課題に応える都市デザインを進める上での課題について、対象を類型化しつつ、事例を交えて紹介する。
3	代表的事例と着目点・その1/創造型都市デザイン	これまでの都市デザインの取り組みを見ていく。一つ目は国内で進められた創造型ともいうべき類型について、方法と成果を紹介する。
4	代表的事例と着目点・その2/誘導型都市デザイン	同様に既存の環境の保全、活用などを基軸にした取り組みについて、方向と成果を紹介する。
5	代表的事例と着目点・その3/歴史、常識集	都市デザインの系譜と常識的に知っておくべき事柄、事例等を整理分類して紹介する。
6	代表的事例と着目点・その4/実行のための事業手法	都市デザインの実行に決定的な意味を持つ事業手法の観点から、手法説明と都市デザインとの相関について講義する。
7	都市デザインの演習・その1/都市または都市圏の概念図	都市や都市圏の構造や将来像の考え方について考え、課題に応じてそれを図化する技術を習得する。
8	都市デザインの演習・その2/空間、景観の解析	主として景観計画などで用いられる計画技法を学ぶとともに、景観誘導の内容とその図示の技術を習得する。
9	都市デザインの演習・その3/中心市街地のデザイン	全国的な課題である中心市街地における都市デザインの可能性や役割を考え、課題に応じてその展開方向を図化する技術を習得する。
10	フィールドワーク/都市再生の都市デザイン	都市デザインに関する留意点を現実の空間で確認するため、街に出る。
11	都市デザインの演習・その4/都市拠点の小空間	都市の枢要な地区において進められる拠点整備における都市デザインについて、課題に応じて図をもって提案する技術を習得する
12	スケッチのデジタル化	演習その1～4で描いたスケッチのいずれかをPCを用いてデジタル化する。イラストレーターの使い方を学ぶ。
13	スケッチのデジタル化、完成	ドロー系ソフトを用いてスケッチをデジタル化するとともに、PC上で一層の書き込みを行いフィニッシュさせる。
14	都市デザインの作法	都市デザインの作法として、都市デザインの歴史、課題、状況そして今後の展望について講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義の投影資料は、学習支援システム（当シラバス作成時は名称未定）にアップされる。前回分を学習支援システム（同）よりダウンロードし、確認して次回に望むことで理解が深まる。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
学芸出版社「日本の都市を美しくする」土田旭＋都市景観研究会編著
鹿島出版会「北のセントラルステーション-アーバンデザインの四半世紀」加藤源＋高見公雄＋篠原修編著

【成績評価の方法と基準】
各回のミニテスト(50％)並びに作図課題(50％)による。欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
第7回以降の作図課題について、定規や色鉛筆といった製図用器材が必要となる。

【その他の重要事項】
都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。
学生からの質問等については授業前後教室で受けるとともに、専任教員であることから、履修の手引きに示されるオフィスアワーで対応する。

【Outline (in English)】
This course consists of two components. Lectures will be given on examples of urban design of Japan, accompanied by a test on students' understanding. In addition, training will be held on regarding illustrations of urban problems.
[learning goal]
Understand what urban design is, its targets, and how it is judged.
Get an overview of the history of urban design.
Organize the perspective of urban design according to the theme and express it in a form.
[Learning activities outside the classroom]
Lecture projection materials will be uploaded to Hoppii. You can deepen your understanding by downloading the previous version from Hoppii, checking it, and asking for it next time.
The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.
[Evaluation Criteria/Policy]
Based on the mini-test (50%) and drawing task (50%) each time. Students who are absent 4 or more times will not receive credits (grade D).

ADE300NB（建築学 / Architecture and building engineering 300）

建築フォーラム

下吹越　武人、赤松　佳珠子、小堀　哲夫、安積　伸、渡邉　竜一、山道　拓人

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目は毎年テーマを掲げた連続レクチャーを行う。デザイン工学部3学科の特徴を活かして、領域横断的なテーマも組み込んだレクチャー構成とする。毎回異なる講師を招いてデザインの最前線をレポートしてもらうことで、通常の大学の授業ではえられにくい、リアルなデザインの現場を実感してもらうことが目標である。
デザインという行為は何か？ デザインと社会の関係は？
ひとつのデザインを完成するためにはどのような努力の蓄積があるのか？
建築とプロダクトデザインの領域に境はあるのか？
建築でも土木でもない新しい分野とは？
アーバンデザインとは具体的にどういうものなのか？
今日コミュニティはどのような意味をもっているか？
こういったさまざまなテーマの講演に参加することは自らの視野を広げ、さらに重要なのは自分が共感できる分野にもめぐり合えるかもしれないということだ。

【到達目標】
以下の能力を習得する。
1)さまざまな講師による講演内容を理解し簡潔に文章化する。
2)講演についての感想文、批評をレポートに書く。
3)講演についてその場で質問やコメントを行なう

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
デザインフォーラムは講演会形式の授業であること、年度毎に共通テーマがあること、学内および学外に公開される公開講座であるという特徴がある。第一線で活躍している講演者のパワーを感じたという授業参加者の意見はよく耳にするところだが、14回の連続性が持ち味の通常の授業と1回性の講演の繰り返しが特徴のデザインフォーラムとの違いを感じてほしい。従って、単に講演会に出席するだけではこの授業に参加したことにはならない。講演記録の作成、講演者への質問、講演会のレポート作成などを通じて講演会の参加を多次元的に学ぶこと、すなわち講演内容を批評的に理解する方法を7回の講演に参加することで徐々に身に着ける。初回のガイダンスでその年度の共通テーマについての説明があるので必ず出席すること。なお、フォーラムの講演会数が原則、隔週で7回となっているのは、各講演の時間が2時限分に当たることと、講演の翌週は講演記録およびレポート作成の自習時間とみなしているためである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	建築フォーラム履修の基本事項および本年度のテーマと講演者の説明を行なう。
2	フォーラム１	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
3	レポート作成(1)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(1)
4	フォーラム２	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
5	レポート作成(2)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(2)
6	フォーラム３	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
7	レポート作成(3)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(3)
8	フォーラム４	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
9	レポート作成(4)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(4)
10	フォーラム５	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
11	レポート作成(5)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(5)
12	フォーラム６	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
13	レポート作成(6)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(6)
14	まとめ	本年度の建築フォーラムに参加した学生と授業担当教員で本年度の基本テーマや講演者について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講演内容の理解を深めるために、事前に各回の講演者の作品や著作に目を通しておくことを勧める。講演では様々な話題に展開するので、講演後のフォローアップも必須である。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内で適宜指示。

【参考書】
講師から指示がある。

【成績評価の方法と基準】
講演メモとレポート内容による。
フォーラムの最後に行われる質問タイムへの参加は評価に加点される。
授業への取り組み（20%)と7回のレポート（講演メモ+講演レポート、80%）によって評価を行なうが、質問タイムへの参加はTAが記録し、授業参加評価に加点される。合計100点満点中60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
デザインフォーラム（旧：建築フォーラム）はオムニバス形式の講演会授業だが、毎年明確な共通テーマを与えることで建築、都市、プロダクトに関わる局面をつまびらかにするように改善した。毎回、講演後に担当教員が交代で講演者と対談することで学生の講演内容理解を補う方法も数年前から導入したが、講演が分かりやすくなったと好評である。

【学生が準備すべき機器他】
聴講しながらその要旨をノートＰＣにメモするという方法も今日の会議では一般的になってきた。そのような面での情報機器の習熟もこの授業が副次的にめざすところである。

【その他の重要事項】
実務経験との関連：現役の建築家やデザイナーでもある複数の教員がデザインをとりまく諸問題の中から毎年共通テーマを選定し、そのテーマに従って7名の講師を選定し招聘している。2021年度よりデザイン工学部3学科の教員が共同して担当している。

【Outline (in English)】
In the field of design many kinds of practices exist. This design forum each time invites different lecturers to report on the front-line of design, aiming to share real experiences with students which are difficult to obtain in normal university classes:
What is the act of design? What is the relationship between design and society?
What kind of accumulation of effort is there to complete one design?
Is there a boundary between the realms of architecture and product design?
Are there any new fields that fall outside of architecture or civil engineering?
What exactly is urban design?
What are the implications for today's community?
Participation in lectures featuring such a diversity of themes will, in addition to contributing to their perspective of the field, importantly provide opportunities for students to encounter areas that they strongly relate to.
[Learning Objectives]
Acquire the ability to
1) Understand the contents of lectures given by various lecturers and concisely write them down.
2) Write a report on your impressions and criticisms of the lecture.
3) Questions and comments about the lecture on the spot
[Learning activities outside of classroom]

In order to deepen your understanding of the content of the lectures, it is recommended that you read the works and writings of each lecturer in advance. Since various topics will be covered in the lecture, follow-up after the lecture is also essential.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
[Grading Criteria /Policy]
Your overall grade in the class will be decided based on the following six reports: 90%、in class contribution: 10%

ADE300NA（建築学 / Architecture and building engineering 300）

デザインフォーラム

下吹越　武人、赤松　佳珠子、小堀　哲夫、安積　伸、渡邉　竜一、山道　拓人

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目は毎年テーマを掲げた連続レクチャーを行う。デザイン工学部3学科の特徴を活かして、領域横断的なテーマも組み込んだレクチャー構成とする。毎回異なる講師を招いてデザインの最前線をレポートしてもらうことで、通常の大学の授業ではえられにくい、リアルなデザインの現場を実感してもらうことが目標である。
デザインという行為は何か？ デザインと社会の関係は？
ひとつのデザインを完成するためにはどのような努力の蓄積があるのか？
建築とプロダクトデザインの領域に境はあるのか？
建築でも土木でもない新しい分野とは？
アーバンデザインとは具体的にどういうものなのか？
今日コミュニティはどのような意味をもっているか？
こういったさまざまなテーマの講演に参加することは自らの視野を広げ、さらに重要なのは自分が共感できる分野にもめぐり合えるかもしれないということだ。

【到達目標】
以下の能力を習得する。
1)さまざまな講師による講演内容を理解し簡潔に文章化する。
2)講演についての感想文、批評をレポートに書く。
3)講演についてその場で質問やコメントを行なう

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
	◎				○	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
デザインフォーラムは講演会形式の授業であること、年度毎に共通テーマがあること、学内および学外に公開される公開講座であるという特徴がある。第一線で活躍している講演者のパワーを感じたという授業参加者の意見はよく耳にするところだが、14回の連続性が持ち味の通常の授業と1回性の講演の繰り返しが特徴のデザインフォーラムとの違いを感じてほしい。従って、単に講演会に出席するだけではこの授業に参加したことにはならない。講演記録の作成、講演者への質問、講演会のレポート作成などを通じて講演会の参加を多次元的に学ぶこと、すなわち講演内容を批評的に理解する方法を7回の講演に参加することで徐々に身に着ける。初回のガイダンスでその年度の共通テーマについての説明があるので必ず出席すること。なお、フォーラムの講演会数が原則、隔週で7回となっているのは、各講演の時間が2時限分に当たることと、講演の翌週は講演記録およびレポート作成の自習時間とみなしているためである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	建築フォーラム履修の基本事項および本年度のテーマと講演者の説明を行なう。
2	フォーラム１	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
3	レポート作成(1)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(1)
4	フォーラム２	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
5	レポート作成(2)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(2)
6	フォーラム３	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
7	レポート作成(3)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(3)
8	フォーラム４	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
9	レポート作成(4)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(4)
10	フォーラム５	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
11	レポート作成(5)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(5)
12	フォーラム６	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
13	レポート作成(6)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(6)
14	まとめ	本年度の建築フォーラムに参加した学生と授業担当教員で本年度の基本テーマや講演者について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講演内容の理解を深めるために、事前に各回の講演者の作品や著作に目を通しておくことを勧める。講演では様々な話題に展開するので、講演後のフォローアップも必須である。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内で適宜指示。

【参考書】
講師から指示がある。

【成績評価の方法と基準】
講演メモとレポート内容による。
フォーラムの最後に行われる質問タイムへの参加は評価に加点される。
授業への取り組み（20%)と7回のレポート（講演メモ+講演レポート、80%）によって評価を行なうが、質問タイムへの参加はTAが記録し、授業参加評価に加点される。合計100点満点中60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
デザインフォーラム（旧：建築フォーラム）はオムニバス形式の講演会授業だが、毎年明確な共通テーマを与えることで建築、都市、プロダクトに関わる局面をつまびらかにするように改善した。毎回、講演後に担当教員が交代で講演者と対談することで学生の講演内容理解を補う方法も数年前から導入したが、講演が分かりやすくなったと好評である。

【学生が準備すべき機器他】
聴講しながらその要旨をノートＰＣにメモするという方法も今日の会議では一般的になってきた。そのような面での情報機器の習熟もこの授業が副次的にめざすところである。

【その他の重要事項】
実務経験との関連：現役の建築家やデザイナーでもある複数の教員がデザインをとりまく諸問題の中から毎年共通テーマを選定し、そのテーマに従って7名の講師を選定し招聘している。2021年度よりデザイン工学部3学科の教員が共同して担当している。

【Outline (in English)】
In the field of design many kinds of practices exist. This design forum each time invites different lecturers to report on the front-line of design, aiming to share real experiences with students which are difficult to obtain in normal university classes:
What is the act of design? What is the relationship between design and society?
What kind of accumulation of effort is there to complete one design?
Is there a boundary between the realms of architecture and product design?
Are there any new fields that fall outside of architecture or civil engineering?
What exactly is urban design?
What are the implications for today's community?
Participation in lectures featuring such a diversity of themes will, in addition to contributing to their perspective of the field, importantly provide opportunities for students to encounter areas that they strongly relate to.
[Learning Objectives]
Acquire the ability to
1) Understand the contents of lectures given by various lecturers and concisely write them down.

2) Write a report on your impressions and criticisms of the lecture.
3) Questions and comments about the lecture on the spot
[Learning activities outside of classroom]
In order to deepen your understanding of the content of the lectures, it is recommended that you read the works and writings of each lecturer in advance. Since various topics will be covered in the lecture, follow-up after the lecture is also essential.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
[Grading Criteria /Policy]
Your overall grade in the class will be decided based on the following six reports: 90%、in class contribution: 10%

ADE300NA（建築学 / Architecture and building engineering 300）

デザインフォーラム

下吹越　武人、赤松　佳珠子、小堀　哲夫、安積　伸、渡邉　竜一、山道　拓人

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目は毎年テーマを掲げた連続レクチャーを行う。デザイン工学部3学科の特徴を活かして、領域横断的なテーマも組み込んだレクチャー構成とする。毎回異なる講師を招いてデザインの最前線をレポートしてもらうことで、通常の大学の授業ではえられにくい、リアルなデザインの現場を実感してもらうことが目標である。
デザインという行為は何か？ デザインと社会の関係は？
ひとつのデザインを完成するためにはどのような努力の蓄積があるのか？
建築とプロダクトデザインの領域に境はあるのか？
建築でも土木でもない新しい分野とは？
アーバンデザインとは具体的にどういうものなのか？
今日コミュニティはどのような意味をもっているか？
こういったさまざまなテーマの講演に参加することは自らの視野を広げ、さらに重要なのは自分が共感できる分野にもめぐり合えるかもしれないということだ。

【到達目標】
以下の能力を習得する。
1)さまざまな講師による講演内容を理解し簡潔に文章化する。
2)講演についての感想文、批評をレポートに書く。
3)講演についてその場で質問やコメントを行なう

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
デザインフォーラムは講演会形式の授業であること、年度毎に共通テーマがあること、学内および学外に公開される公開講座であるという特徴がある。第一線で活躍している講演者のパワーを感じたという授業参加者の意見はよく耳にするところだが、14回の連続性が持ち味の通常の授業と1回性の講演の繰り返しが特徴のデザインフォーラムとの違いを感じてほしい。従って、単に講演会に出席するだけではこの授業に参加したことにはならない。講演記録の作成、講演者への質問、講演会のレポート作成などを通じて講演会の参加を多次元的に学ぶこと、すなわち講演内容を批評的に理解する方法を7回の講演に参加することで徐々に身に着ける。初回のガイダンスでその年度の共通テーマについての説明があるので必ず出席すること。なお、フォーラムの講演会数が原則、隔週で7回となっているのは、各講演の時間が2時限分に当たることと、講演の翌週は講演記録およびレポート作成の自習時間とみなしているためである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	建築フォーラム履修の基本事項および本年度のテーマと講演者の説明を行なう。
2	フォーラム１	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
3	レポート作成(1)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(1)
4	フォーラム２	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
5	レポート作成(2)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(2)
6	フォーラム３	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
7	レポート作成(3)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(3)
8	フォーラム４	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
9	レポート作成(4)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(4)
10	フォーラム５	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
11	レポート作成(5)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(5)
12	フォーラム６	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
13	レポート作成(6)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(6)
14	まとめ	本年度の建築フォーラムに参加した学生と授業担当教員で本年度の基本テーマや講演者について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講演内容の理解を深めるために、事前に各回の講演者の作品や著作に目を通しておくことを勧める。講演では様々な話題に展開するので、講演後のフォローアップも必須である。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内で適宜指示。

【参考書】
講師から指示がある。

【成績評価の方法と基準】
講演メモとレポート内容による。
フォーラムの最後に行われる質問タイムへの参加は評価に加点される。
授業への取り組み（20%)と7回のレポート（講演メモ+講演レポート、80%）によって評価を行なうが、質問タイムへの参加はTAが記録し、授業参加評価に加点される。合計100点満点中60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
デザインフォーラム（旧：建築フォーラム）はオムニバス形式の講演会授業だが、毎年明確な共通テーマを与えることで建築、都市、プロダクトに関わる局面をつまびらかにするように改善した。毎回、講演後に担当教員が交代で講演者と対談することで学生の講演内容理解を補う方法も数年前から導入したが、講演が分かりやすくなったと好評である。

【学生が準備すべき機器他】
聴講しながらその要旨をノートＰＣにメモするという方法も今日の会議では一般的になってきた。そのような面での情報機器の習熟もこの授業が副次的にめざすところである。

【その他の重要事項】
実務経験との関連：現役の建築家やデザイナーでもある複数の教員がデザインをとりまく諸問題の中から毎年共通テーマを選定し、そのテーマに従って7名の講師を選定し招聘している。2021年度よりデザイン工学部3学科の教員が共同して担当している。

【Outline (in English)】
In the field of design many kinds of practices exist. This design forum each time invites different lecturers to report on the front-line of design, aiming to share real experiences with students which are difficult to obtain in normal university classes:
What is the act of design? What is the relationship between design and society?
What kind of accumulation of effort is there to complete one design?
Is there a boundary between the realms of architecture and product design?
Are there any new fields that fall outside of architecture or civil engineering?
What exactly is urban design?
What are the implications for today's community?
Participation in lectures featuring such a diversity of themes will, in addition to contributing to their perspective of the field, importantly provide opportunities for students to encounter areas that they strongly relate to.
[Learning Objectives]
Acquire the ability to
1) Understand the contents of lectures given by various lecturers and concisely write them down.
2) Write a report on your impressions and criticisms of the lecture.
3) Questions and comments about the lecture on the spot
[Learning activities outside of classroom]

In order to deepen your understanding of the content of the lectures, it is recommended that you read the works and writings of each lecturer in advance. Since various topics will be covered in the lecture, follow-up after the lecture is also essential.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
[Grading Criteria /Policy]
Your overall grade in the class will be decided based on the following six reports: 90%、in class contribution: 10%

ADE300NA（建築学 / Architecture and building engineering 300）

デザインフォーラム

下吹越　武人、赤松　佳珠子、小堀　哲夫、安積　伸、渡邉　竜一、山道　拓人

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目は毎年テーマを掲げた連続レクチャーを行う。デザイン工学部3学科の特徴を活かして、領域横断的なテーマも組み込んだレクチャー構成とする。毎回異なる講師を招いてデザインの最前線をレポートしてもらうことで、通常の大学の授業ではえられにくい、リアルなデザインの現場を実感してもらうことが目標である。
デザインという行為は何か？ デザインと社会の関係は？
ひとつのデザインを完成するためにはどのような努力の蓄積があるのか？
建築とプロダクトデザインの領域に境はあるのか？
建築でも土木でもない新しい分野とは？
アーバンデザインとは具体的にどういうものなのか？
今日コミュニティはどのような意味をもっているか？
こういったさまざまなテーマの講演に参加することは自らの視野を広げ、さらに重要なのは自分が共感できる分野にもめぐり合えるかもしれないということだ。

【到達目標】
以下の能力を習得する。
1)さまざまな講師による講演内容を理解し簡潔に文章化する。
2)講演についての感想文、批評をレポートに書く。
3)講演についてその場で質問やコメントを行なう

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
デザインフォーラムは講演会形式の授業であること、年度毎に共通テーマがあること、
学内および学外に公開される公開講座であるという特徴がある。第一線で活躍している講演者のパワーを感じたという授業参加者の意見はよく耳にするところだが、14回の連続性が持ち味の通常の授業と1回性の講演の繰り返しが特徴のデザインフォーラムとの違いを感じてほしい。従って、単に講演会に出席するだけではこの授業に参加したことにはならない。講演記録の作成、講演者への質問、講演会のレポート作成などを通じて講演会の参加を多次元的に学ぶこと、すなわち講演内容を批評的に理解する方法を6-7回の講演に参加することで徐々に身に着ける。初回のガイダンスでその年度の共通テーマについての説明があるので必ず出席すること。なお、フォーラムの講演会数が原則、隔週で6-7回となっているのは、フォーラムの翌週は講演記録およびレポート作成の自習時間とみなしているためである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	建築フォーラム履修の基本事項および本年度のテーマと講演者の説明を行なう。
2	フォーラム１	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
3	レポート作成(1)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(1)
4	フォーラム２	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
5	レポート作成(2)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(2)
6	フォーラム３	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
7	レポート作成(3)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(3)
8	フォーラム４	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
9	レポート作成(4)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(4)
10	フォーラム５	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
11	レポート作成(5)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(5)
12	フォーラム６	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
13	レポート作成(6)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(6)
14	まとめ	本年度の建築フォーラムに参加した学生と授業担当教員で本年度の基本テーマや講演者について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講演内容の理解を深めるために、事前に各回の講演者の作品や著作に目を通しておくことを勧める。講演では様々な話題に展開するので、講演後のフォローアップも必須である。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内で適宜指示。

【参考書】
講師から指示がある。

【成績評価の方法と基準】
講演メモとレポート内容による。
フォーラムの最後に行われる質問タイムへの参加は評価に加点される。
６－７回のレポート（講演メモ＋講演レポート）を担当教員が読み評価を行なうが、これが基本的な評価（90％）となる。質問タイムへの参加はTAが記録し、授業参加評価（10％）として加点される。合計100点満点中60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
デザインフォーラム（旧：建築フォーラム）はオムニバス形式の講演会授業だが、毎年明確な共通テーマを与えることで建築、都市、プロダクトに関わる局面をつまびらかにするように改善した。毎回、講演後に担当教員が交代で講演者と対談することで学生の講演内容理解を補う方法も数年前から導入したが、講演が分かりやすくなったと好評である。

【学生が準備すべき機器他】
聴講しながらその要旨をノートＰＣにメモするという方法も今日の会議では一般的になってきた。そのような面での情報機器の習熟もこの授業が副次的にめざすところである。

【その他の重要事項】
実務経験との関連：現役の建築家やデザイナーでもある複数の教員がデザインをとりまく諸問題の中から毎年共通テーマを選定し、そのテーマに従って6-7名の講師を選定し招聘している。2021年度よりデザイン工学部3学科の教員が共同して担当している。

【Outline (in English)】
In the field of design many kinds of practices exist. This design forum each time invites different lecturers to report on the front-line of design, aiming to share real experiences with students which are difficult to obtain in normal university classes:
What is the act of design? What is the relationship between design and society?
What kind of accumulation of effort is there to complete one design?
Is there a boundary between the realms of architecture and product design?
Are there any new fields that fall outside of architecture or civil engineering?
What exactly is urban design?
What are the implications for today's community?
Participation in lectures featuring such a diversity of themes will, in addition to contributing to their perspective of the field, importantly provide opportunities for students to encounter areas that they strongly relate to.
[Learning Objectives]
Acquire the ability to
1) Understand the contents of lectures given by various lecturers and concisely write them down.
2) Write a report on your impressions and criticisms of the lecture.
3) Questions and comments about the lecture on the spot
[Learning activities outside of classroom]

In order to deepen your understanding of the content of the lectures, it is recommended that you read the works and writings of each lecturer in advance. Since various topics will be covered in the lecture, follow-up after the lecture is also essential.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
[Grading Criteria /Policy]
Your overall grade in the class will be decided based on the following six reports: 90%、in class contribution: 10%

MAN200ND（経営学 / Management 200）

アントレプレナーシップ

姜　理恵

開講時期：**秋学期前半/Fall(1st half)**　｜　選択・必修の別：**選択必修**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アントレプレナーシップ（起業家精神）の基礎理論を学んだのち、大学生に向けたアントレプレナーシップ教育プログラム案をグループで作り、教育会社に向けてプレゼンし、フィードバックをもらうことを通じて、知識の定着と理解を深める。
ここでいうアントレプレナーシップ（起業家精神）とは、企業を自分で起こすことに限定しない。イノベーションを産むすべての活動に必要な精神を指す。これを学び、実践し、身につけることは、コロナ禍を経て不確実化を増す現代社会に対応できるようになることでもある。
いつか自分で会社を設立したい方、変化の速いスタートアップの世界で働きたい方、企業の中から行動を起こしたい方など、その立場を問わず歓迎する。この科目では機会を特定し、行動を起こすための方法を扱う。この科目は座学やディスカッション、プレゼンテーションだけにとどまらず、実際に自分が行動することを通して学んだり、チームと協力して深刻な問題を特定し、革新的なソリューションを開発することに挑戦する。
これを通して、科学としてのアントレプレナーシップに対する知識を高めると同時に、マインドセットの成長を目指す。この科目を通じて行動と内省を繰り返すことで、アントレプレナーシップが自分のキャリア形成にどのように影響するか、強い確信を得ることを期待する。

【到達目標】
社会に新しい価値をもたらすというアントレプレナーシップの本質を、現在の自分自身に照らし合わせて理解することを目的とする。
「大学生向けの起業家精神教育プラン」を作ることで、自分ごととして、起業家精神を考えることができる。
それにより、今後のキャリアプランと併せて考えられるようになり、さまざまな企業の新規事業や起業家の活動を、起業家精神の視点から観察し、議論できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義、演習、実習、発表などを組み合わせて授業を進める。科目の特性上、通常の科目よりも更に積極的な参加を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション　ビジネスゲーム1	授業の進め方　商才とは何か　いかに意思決定を行うか
2	ビジネスゲーム2　姜とゲームで対決する	ビジネスでのリスクをいかに取るかをゲーム上で再現する
3	起業家の特性、天才研究、創造性	起業家は天才か？ 後から起業家になれるのか？ 創造性は先天的か後天的か？
4	発想のプロセス　発想の元となるアイデアの源泉、その育て方	良い発想はどうやって生まれるのか？　アイデアを取捨選択する方法
5	発想ワークショップ	良いアイデアを生み出すワークを実践してみる
6	起業家マインドセット　何があっても折れない心　はがねのメンタル	起業家の強いメンタルはいかにして成立するか
7	起業家的になれない人々　リスクが取れない　安定を選ぶ心理	創造性も、強いメンタルも持てない人々は、どうしたらいいのか
8	起業家の弱点	起業家の弱みを探る　それをいかに克服するか理論と事例
9	起業家精神を教える、学ぶ、教えながら自分も育つ	姜研究室が実践している子どもや女性に起業家精神やベンチャーを教えている事例を紹介　カリキュラムの構成を学ぶ
10	教育プログラムの開発1	大学生に向けた起業家精神伸長プログラムを開発する
11	教育プログラムの開発2	大学生に向けた起業家精神伸長プログラムを開発する
12	教育プログラムの発表	開発したプログラムを研修会社や大学教員などに発表　フィードバック
13	起業家精神を学んだ人々の成長　授業のまとめ	起業家精神を学んだこども、女性、学生の学びのプロセス、実体験を整理
14	期末試験	持ち込み可

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前・事後の配布資料リーディング、課題などを授業内で指示。
本授業の準備学習・課題への対応時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
Neck, H. M., Neck, C. P., &Murray, E. L. (2024). Entrepreneurship: The practice and mindset. Sage publications.
洋書なので英語が得意な人はチャレンジしてみてください

【成績評価の方法と基準】
1.平常点（出席、コミットメント）　50%
2.期末テスト（持ち込み可、理解と思考を問う）　50%

【学生の意見等からの気づき】
フィードバックの機会を複数設け、授業の進め方や内容の参考にする。

【学生が準備すべき機器他】
ノートPC持参のこと

【Outline (in English)】
In this course, you will develop an entrepreneurial mindset through the creation of an entrepreneurial program for undergraduate students. You will learn, practice, and acquire entrepreneurial skills to create and discover solutions to an increasingly complex and uncertain post-Corona society. You will learn how to identify opportunities and take action, whether you want to start your own business one day, work in the fast-paced startup world, or work within a company. This course is not limited to classroom lectures, discussions, and presentations. It also includes learning by doing and the challenge of working with a team to identify a serious problem and develop an innovative solution. The goal is to increase the knowledge of entrepreneurship as a science and at the same time to grow in the mindset of entrepreneurship. Through repeated action and reflection, you are expected to develop a strong belief in how entrepreneurship can impact your career development. Students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grade in the class will be decided based on the following; Term-end examination: 50%, in class contribution: 50%.

HUM200GA（その他の人文学 / humanities 200）

国際文化協力

松本　悟

配当年次／単位：1～4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：100名前後が望ましい

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ダ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では国際文化論の観点から国際協力の基礎を学ぶものである。具体的には国際協力の歴史や仕組み、国際協力が文化に及ぼす影響、文化面の国際協力のあり方について知識を習得するとともに、それらを用いて論理的に考える力を養うことを目的とする。基幹科目なので、１、２年生には、専攻科目や演習で更に深めたい学問領域やテーマを見つける機会にして欲しい。

【到達目標】
（1）国際文化論および国際協力についての基礎的な知識を身につける。
（2）国際協力と文化を結びつけて論理的に事象を分析できる。
（3）「技術と文化」「開発コミュニケーション」「文化遺産保護」「難民」「パブリックディプロマシー」などに授業で扱うテーマついて説明できる。
（4）基幹科目としてアカデミックスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
■基本方針：対面で実施するが、学内業務の関係でオンデマンドを使用することもある。
■フィードバック：講義への質問は、学習支援システムの掲示板に質疑応答コーナーを設けて、そこでやり取りする。
■授業後課題：2回に1回程度課す。基幹科目なのでアカデミックスキルを高めることを目的とし、200字～800字程度で書いてもらう。提出期限は授業日から3日以内。授業冒頭で課題への全体コメントを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション―国際文化協力とは―	この授業の狙い、進め方、国際文化協力の概論。リアルタイムオンライン授業で行い、履修希望者数を確認する。
2	技術と文化	川の水を煮沸せずに飲む行為を通して技術と文化について考える
3	普及とコミュニケーション	受け入れ「させる」ことをどう考えるか
4	協力される側だった日本	明治時代のお雇い外国人と「抵抗」を考える
5	日本への技術移転	贈与・交換・支配・互酬と国際協力
6	文化の受容と抵抗	文化接触（アカルチュレーション）から文化の受容を考える
7	文化財を守るとは	明治時代の日本で文化財をなぜ守るようになったのかを考える
8	国際的な文化財保護までの道のり	戦利品としての略奪と返還運動から文化財の国際的な捉え方の変化を考える
9	人類の遺産	世界遺産という発想はどこからきたのかを考える
10	政府開発援助（ODA）と文化協力	パブリックディプロマシーやソフトパワーについて考える
11	国際協力と想像力―期末レポートに向けて	期末レポートの課題文献とこの授業の繋がりを講義する
12	国際人権	文化要素としての人権について難民を例に「民権」との違いから考える
13	市民としての国際文化協力	日本の地域での難民受け入れを通して同化と社会的統合について考える
14	私と国際文化協力	担当教員の実務経験を踏まえて国際文化協力の授業での学びを再構成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業後課題は、法政大学の図書館HPのデーターベース等から文献を検索して論じるなど、大学生に必要な調査と思考を促すものである。
・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
以下の本は、複数回の授業の参考文献であるとともに、期末レポートの課題文献となる。到達目標４に関係している。各自入手すること。
松本悟・佐藤仁編著（2021）『国際協力と想像力―イメージと「現場」のせめぎ合い』日本評論社。

【参考書】
毎回の講義に関連する参考文献はその都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】
・授業後課題への回答などの平常点50%、期末レポート50%
・授業後課題は設問に200字～800字程度で答えるもので、カッコ内の場合は減点となる（例：設問や指示に的確に答えていない、極端に短い、文章として辻褄が合わない）
・期末レポートは、授業で学んだ内容を踏まえて、課題文献を分析するもので、知識を問うものではない
・この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする

【学生の意見等からの気づき】
・短い文章や期末レポートの書き方の説明が役に立ったという声が多いので継続する。
・学生から提出された授業後課題の答案に対して、個々人へのフィードバックを求める声があるが、履修者が多いためそれは不可能。また、労力の割に、それを活かそうと考えている学生が多いわけではない。したがって、提出された答案をもとに次の授業の冒頭でフィードバックし、それを各自が自分の答案に当てはめて自己分析してもらっている。自己採点能力も重要な力である。
・学習支援システムの「掲示板」を使って常時質問を受け付けている。
・授業後課題はコロナ禍では毎回出していたが、負担の大きさに鑑みて、現在では学期中に5～6回にしている。受講者からは、大学でのレポートの書き方やデータベースの使い方が身についたと好評である。
・毎回グループ討議と発表を取り入れ、教員がフィードバックをする。学生から学びが大きいと好評。

【学生が準備すべき機器他】
・教科書は春学期の前半（5月末頃）までには入手しておくこと

【その他の重要事項】
NHK記者や、開発協力分野のNGOとして実務に関わってきた教員が、その経験を事例として取り上げながら講義やコメントをする。

【Outline (in English)】
【Course outline】
What is international cooperation from the perspectives of intercultural studies? It should covers impacts of inter-national cooperation on cultures, inter-cultural cooperation or inter-national cooperation in cultural fields. By the end of this course, students will understand those aspects of cooperation beyond the national borders and will be able to analyze them logically.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students are expected to;
1) acquire the basic knowledge on intercultural studies and international cooperation.
2) be able to analyze the issues in associating international cooperation and culture.
3) understand the key concepts of "technology and culture", "development communication", "protection of cultural heritage", "refugees" or "public diplomacy".
4) acquire and be able to apply the academic skills to write a short or term paper.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content or to write a short essay on a given topic.
【Grading Criteria /Policy】
Grading will be decided based on a short essay at each class meeting (50%) and a term-end report (50%).

POL200GA（政治学 / Politics 200）

平和学

松本　悟

配当年次／単位：1〜4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈実〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では主に国際機構に着目して平和学を学ぶ。歴史、思想、組織、制度、文化などを通して平和や暴力について考え、国際社会コースの基幹科目として、各自がより深めたい専門領域を見つけるきっかけとなることを目指す。

【到達目標】
（1）消極的平和、積極的平和、文化的平和の概念を使って実例を説明できる。
（2）国際機構の特徴と平和との関係を具体的に説明できる。
（3）基本的なアカデミックスキルと平和学で取り上げられる方法を理解し、実例に適用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
■基本方針：対面で実施する。学内業務などでやむを得ない場合はオンデマンド授業を行う場合もある。
■フィードバック：講義への質問は、学習支援システムの掲示板に質疑応答コーナーを設けて、そこでやり取りする。
■授業後課題：：2回に1回程度課す。基幹科目なのでアカデミックスキルを高
めることを目的とし、200字〜800字程度で書いてもらう。提出期限は授業日から3日以内。授業冒頭で課題への全体コメントを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「平和」「平和学」とは何か	「平和」の概念や「平和学」の発展について考える。
2	国際機構誕生前の平和と暴力	17c以降の平和思想をふまえ、「力」による平和の賛否について考える
3	国際連盟の意義と限界	戦争を違法化し制裁によって守らせようとすることについて考える
4	国連憲章と自衛の武力	非暴力で戦争のない消極的平和を築くことができないのかを考える
5	２つの平和主義	「正しい戦争」という考え方の変遷と妥当性について考える
6	人道的介入の是非	暴力を止めるために暴力を使うことの是非について考える
7	紛争研究	解決した紛争に着目する
8	紛争解決学	紛争解決に関する学問的蓄積から平和学を学ぶ方法論を習得する。
9	積極的平和と国際開発機構（ユニセフ）	井戸掘りという「平和」的手段が暴力になる構造を考える。
10	積極的平和と国際開発機構（世界銀行）	開発協力が暴力になる構造を考える。
11	異議申し立てとオンブズマン	平和的手段が暴力にならないための仕組みについて考える。
12	文化と平和	「文化的平和」という概念を手がかりに、文化と平和（暴力）のつながりについて考える。
13	紛争と文化外交・平和教育	「何を」から「どのように」への転換と「平和」のつながりについて考える。
14	まとめ（権力と暴力）	「権力」という切り口から13回の授業を振り返り、授業全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業後課題は、法政大学の図書館HPのデーターベース等から文献を検索して論じるなど、大学生に必要な調査と思考を促すものである。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
関連する文献を毎回の授業で示す。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業内討論への参加度、授業後課題）50%、期末レポート50%。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
・学生から提出された授業後課題の答案に対して、個々人へのフィードバックを求める声があるが、履修者が多いためそれは不可能。また、労力の割に、それを活かそうと考えている学生が多いわけではない。したがって、提出された答案をもとに次の授業の冒頭でフィードバックし、それを各自が自分の答案に当てはめて自己分析してもらっている。自己採点能力も重要な力である。
・学習支援システムの「掲示板」を使って常時質問を受け付けているが、ほとんど質問はない。
・授業後課題はコロナ禍では毎回出していたが、負担の大きさに鑑みて、現在では学期中に5〜6回にしている。受講者からは、大学でのレポートの書き方やデータベースの使い方が身についたと好評である。
・学生から学びが大きいというフィードバックが多いので、毎回グループ討議と発表、それに対する教員のコメントを引き続き行う。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
・国際開発協力ＮＧＯやＮＨＫ記者としての実務経験を有する教員が、直接関わった開発事例や取材経験を挙げながら講義する。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course focuses on international organizations to explore "positive", "negative" and "cultural" peace in the Galtung's terms. It enables students to apply the Galtung's terms for explaining the conflicts and to analyze the functions of international organizations in "peace".
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1) explaining the issues or events by using the concept of "positive", "negative", "cultural" peace.
2) explaining the functions of international organizations in avoiding certain type of the violence.
3) applying the basic academic skills and the analytical methods the peace studies use for actual cases of violence.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content or to write a short essay on a given topic.
【Grading Criteria /Policy】
Grading will be decided based on a short essay at each class meeting (50%) and a term-end report (50%).

SOC200GA（社会学 / Sociology 200）

Religion and Society

佐々木　一惠

配当年次／単位：1〜4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：25人程度。希望者多数の場合には，入学時以降のTOEFLやTOEICなど標準的なテストの結果と初回授業へのコメントを総合的に評価して選考します。
備考（履修条件等）：国際文化学部主催科目に必要とされる英語能力基準は、TOEFL iBT 61-75、TOEFL ITP Level1 500-539、TOEFL ITP Level 2500、TOEIC675-819、ＩＥＬＴＳ6.0、英検準1級程度。基準スコアに満たない、あるいはスコアを持っていない学生は、担当教員に相談すること。
Courses in Intercultural Communication need the higher English proficiency mentioned below: TOEFL® iBT 61-75, TOEFL® ITP Level 1 500-539, TOEFL® ITP Level 2500, TOEIC® 675-819, IELTS 6.0, and EIKEN Grade Pre-1st. If you don't have any score mentioned above, contact the instructors directly.

その他属性：〈グ〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course is designed to provide students with a comprehensive exploration of the complex intersections between society and religion in the context of a globalizing world. As globalization continues to shape and redefine human interactions, this course seeks to critically analyze the multifaceted roles that religion plays in influencing and responding to global dynamics. Students will explore issues such as immigration, nationalism, conflict, gender, sexuality, tourism, consumerism, and citizenship, all within the broader context of contemporary global society.

【到達目標】
By the end of this course,
① Students will have gained a nuanced understanding of the intricate connections between society and religion in the age of globalization, enabling them to critically engage with the complex issues that arise in our increasingly interconnected world.
② Through a multidisciplinary approach, students will be equipped with the knowledge and analytical tools to address the challenges and opportunities presented by the dynamic interplay of society, religion, and globalization.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
The first part of class focuses on providing students with a broad understanding of the background of the topic covered in the assigned readings. The class then engages in a discussion that allows students to share their insights and interpretations of the reading assignment. In the second half of the class, the focus shifts to a broader examination of the issues raised in the reading assignment. The class expands its scope to explore the implications, connections, and applications of the issues in a broader context.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	The outline of the course
2	Religion and Tourism	Modern Pilgrimage in Japan
3	Religion and Sport	Affinities in Religion and Sport
4	Religion and Gender	Anti-Hijab Protests in Iran
5	Religion and Diplomacy	Russian Orthodox Church and Soft Power
6	Religion and Sexuality	LGBTQ and Post-Colonialism in Africa
7	Religion and Nationalism	Yoga and Indian National Identity
8	Religion and Globalization	Mid-term examination
9	Religion and Global Capitalism	Consumer Jihad in Turkey
10	Religion and Immigration	Anti-Muslim Sentiments in Europe
11	Presentation ①	Oral presentation of final papers (Group 1 students)
12	Presentation ②	Oral presentation of final papers (Group 2 students)
13	Presentation ③	Oral presentation of final papers (Group 3 students)
14	Presentation ④	Oral presentation of final papers (Group 4 students)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are required to read the assignments and be ready for class discussions. Students are expected to spend about 4 hours a week on coursework outside the class.

【テキスト（教科書）】
There is no textbook for this course. All course materials are available online through the course web site.

【参考書】
Jayeel Cornelio, François Gauthier, Tuomas Martikainen and Linda Woodhead, eds., Routledge International Handbook of Religion in Global Society (Routledge, 2022).

【成績評価の方法と基準】
① Class participation 20%
② Mid-term examination (approximately one page in length) 20%
③ Final paper presentation 20%
④ Final paper (2-3 pages in length) 40%
Based on the grading criteria set by the instructor, students who successfully achieve 60%or more of the course goals will earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】
Not applicable

LANd300GA（ドイツ語 / German language education 300）

ドイツ語アプリケーション

林　志津江

配当年次／単位：3〜4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業/Spring**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
SAプログラムや派遣留学などを通じて獲得したドイツ語運用能力を維持し、さらに向上させるためのトレーニングを行います。ドイツ語の読む、書く、聴く、話す楽しみを存分に味わってください。

【到達目標】
1）A2 B1 レベルのドイツ語テクストを独和辞典を用いて読解し、その表現を用いて自らもドイツ語で説明することができる。
2）ドイツ語で読んだテクストを関連付け、ドイツ語圏の生活、文化、社会など各種トピックについての理解を深めることができる。
3）特定のテーマについてドイツ語で意見を述べたり聞き取ったり、平易なレベルの議論を行うことができる。
4）まとまった分量の作文をドイツ語で書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
・各回のテーマはドイツ語圏それぞれに共通する話題、異なる話題のバリエーションです。各参加者のドイツ語学習経験、ドイツ語圏滞在体験に配慮しつつ、テクストの理解を深めていきます。
・各回、指定されたドイツ語テクストを前もって読んでおきます（予習）
・授業は各回、前半はテクストの文の構造分析が中心です。テクストの内容と重要概念（語彙）を確認した後、後半部分で読解で確認した構文を使った作文練習をします。
・ペアワーク、グループワークと並行して、学期中に各参加者は1回のプレゼンテーションを行います。
・プレゼンテーション課題の詳細と担当割り振りは授業第1回目に説明・確認します。
・LMSとして、Google Classroomを使用します。連絡手段として、学期を通じ法政Gメールをチェックしてください。
・授業内で行われたアウトプットに対しては授業の場でコメントします。提出物等のフィードバックは適宜、全体と個別に向けて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方などを確認します。
2	Moderne Geschichte: Vom Reich zur Republik	ドイツ近代の歴史：ドイツ帝国の成立 ー 激動の19世紀、そして第1次世界大戦
3	Der Anfang vom Ende - Die Weimarer Republik	ヴァイマール共和国 ー 黄金の20年代・終わりの始まり
4	Terror und Vernichtung - Der Dritte Reich	第3帝国下のドイツ ー 恐怖政治と絶滅政策
5	Politik und Parteien ／プレゼンテーション（1）	選挙には行きますか？
6	Krisen und Konflikte (I)	ドイツにはどんな社会問題が？？！
7	Krisen und Konflikte (II) プレゼンテーション（2）	ドイツにはどんな社会問題が？？！
8	Beginn der Moderne: Vom Mittelalter zur Romantik	近代の始まり ー 中世からロマン派の時代
9	Bildung als Lebenssinn／プレゼンテーション（3）	人生の意義としての教養・ウィーンと音楽
10	Das Paradigma der Moderne - Bis heute	学問と表現の自由 ー 科学の発展と表現主義、バウハウス
11	Kunst und Wissenschaft (I) プレゼンテーション（4）	「芸術」の様式とは？！
12	Kunst und Wissenschaft (II)	「芸術」の様式とは？！
13	Im Nordwesten von Deutschland(I) プレゼンテーション（5）	ドイツ北西部とはどんなところ？
14	Im Nordwesten von Deutschland(II)	リューネブルクってどんなところ？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・本授業の準備学習・復習時間は各1時間以上を標準とします。
・授業ごと所定の予習・復習課題を行い提出します。授業時間外の課題（プレゼンテーションの分担）については別途指示します。
・インターネットやSNS等も使ってドイツ語圏のメディアに積極的にアクセスしてみましょう。新聞（日刊紙）などのニュース記事にチャレンジできればなお良しです。

【テキスト（教科書）】
„ Dreimal Deutsch“（Klett）（2024年度「ドイツ語7」使用教科書）
ISBN: 978-3-12-675237-4

【参考書】
中島悠爾ほか著『必携ドイツ文法総まとめ』（白水社、2003年）
その他は適宜、授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加と貢献：50%、プレゼンテーションおよび提出課題：50％を合わせ、総合的に判断します。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
学生からは逐次ヒアリングを行い、相互の意志の疎通に努めます。

【学生が準備すべき機器他】
・独和辞典および1〜2年次で使用したドイツ語文法の教科書は必携です。

【その他の重要事項】
・この授業はドイツ語圏滞在経験者や、ドイツ語圏の留学・SA参加予定学生、滞在予定者、派遣留学を目指す学生を対象とします。目安としては4セメスター以上のドイツ語学習経験があることです。
・授業内容（テーマ）と順序等はクラスの状況によって変更されることがあります。
・受講者には「ドイツ語技能検定試験（公益財団法人ドイツ語学文学振興会主催）」や「ドイツ政府公認ドイツ語能力検定試験（Goethe Zertifikat）」「オーストリア政府公認ドイツ語能力検定試験（ÖSD）」の受検を推奨します。以上の受験結果については、2025年7月25日（予定）までに担当者に通知されたもののみ、上記「成績評価の方法と基準」の「平常点」に加算します。
・質問・相談などは担当者宛にメールで、あるいは授業の前後にも受け付けます。

【Outline (in English)】
This course is suitable for students with basic knowledge of the German language who wish to improve their ability to communicate in German: Target groups are previous participants of the SA-Program of Faculty of Intercultural Communication as well as the Hosei University Study Abroad Program or students with experiences in any German speaking societies. In the course, we combine German as a foreign language with cultural, historical and sociological issues, thus opening up interesting new perspectives.
【Learning Objectives】
· To develop an understanding of a wide range of topics relating to life, culture and society in German-speaking countries and to express and explain these in German.
· To be able to express their own opinions and take part in discussions on abstract topics in German.
· To be able to write texts of a certain length in German.
【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
· The standard preparation and revision time for this course is at least one hour each.
· There are prescribed preparation and review tasks.
· Assignments outside of class time will be given on a case-by-case basis.
· In addition to the above, please read the newspaper (daily) or listen to the news as much as possible. It is advisable to make effective use of the internet and social networking sites for German-speaking media.
【Grading criteria】
The course will be judged on the basis of a combination of 50% of some ordinary marks (active participation and contribution to the class) and 50%of the others (presentations, submitted assignments).
On the basis of this grading system, students who have achieved at least 60%of the objectives of this course will be considered to have passed the course.

LANd300GA（ドイツ語 / German language education 300）

ドイツ語アプリケーション

小川　敦

配当年次／単位：3〜4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業/Spring**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Gymnasium等、ドイツ語圏の中等教育（中学校・高校）で用いられる地理や歴史、公民の教科書を、辞書や文法書を用いながらじっくり読むことでこれまでに身につけたドイツ語力をさらに高めます。

【到達目標】
語彙や文法の複雑なドイツ語テキストにじっくり向き合うことでレベルの高いドイツ語を読めるようになる。ドイツ語圏に生きる人々の意識を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
グループまたは個人で一文ずつ文を解析し、内容を吟味しながらテクストを読
んでいきます。また、学生と教員、学生同士で解釈に違いが出た場合はじっ
くり議論し解決していきます。
試験の返却の際に間違えやすいポイントを解説します。
受講生の関心や授業の進度に応じて、内容をある程度柔軟に修正・変更する
こともあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	教材や授業の進め方の確認
2	ドイツ語圏の教科書を読む・その１	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。関係代名詞に注意して読みます。
3	ドイツ語圏の教科書を読む・その２	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。前回に引き続き関係代名詞に注意して読みます。
4	ドイツ語圏の教科書を読む・その３	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。書き言葉としての受動態に注意して読みます。
5	ドイツ語圏の教科書を読む・その４	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。前回に引き続き書き言葉としての受動態に注意して読みます。
6	ドイツ語圏の教科書を読む・その５	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。zu不定詞句の使い方に注意して読みます。
7	ドイツ語圏の教科書を読む・その６	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。前回に引き続いてzu不定詞句の使い方に注意して読みます。
8	中間のまとめ、および読解の続き	前半で扱ってきたことのまとめを行います。
9	ドイツ語圏の教科書を読む・その７	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。属格に注意して読みます。
10	ドイツ語圏の教科書を読む・その８	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。前回に続いて属格に注意して読みます。
11	ドイツ語圏の教科書を読む・その９	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。英語にはない修飾語句に注意して読みます。
12	ドイツ語圏の教科書を読む・その１０	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。前回に引き続いて英語にはない修飾語句に注意して読みます。
13	ドイツ語圏の教科書を読む・その１１	グループまたは個人でテキストを読み、文を解析し理解します。ざっと読んで内容を把握する練習をします。
14	授業の最終的なまとめ	学期後半で学んだことを中心に、授業で扱ったまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業の教材や資料は、学習支援システムで配布します。適宜予習してください。
本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は用いません。地理、歴史、政治をテーマとした教材をこちらで用意します。
辞書（独和辞典）は必須です。紙媒体でもアプリ（有料のものに限る）でも構いません。

【参考書】
・1回生で用いたドイツ語文法を扱った教科書
・中島悠爾・朝倉巧・平尾浩三『ドイツ文法総まとめ』白水社、2003年

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加40％、中間試験30％、期末試験30％とします。

【学生の意見等からの気づき】
受講者が自ら発言しやすい授業運営とするように努めています。

【学生が準備すべき機器他】
教材は基本的に電子データでの配布となります。授業にはスマートフォンではなくタブレットまたはPCを持参してください。

【その他の重要事項】
内容は決して難しいものではありませんし、扱うテキストの性格上、機械翻訳を用いればほとんどの日本語訳はできてしまうでしょうが、授業ではドイツ語の文そのものを文法的に解析する力や多様な語彙力を身につけるようにしてください。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
Students further develop their German language skills through close reading of geography and history textbooks used in secondary education in German-speaking countries, using dictionaries and grammar books.
【到達目標（Learning Objectives）】
Students learn to read German texts with complex vocabulary and grammar at a high level. Students will also gain an insight into the attitudes of people living in German-speaking countries.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Active participation 40%
Midterm examination 30%
Final examination 30%

LANd300GA（ドイツ語 / German language education 300）

ドイツ語アプリケーション

Schmidt Ute

配当年次／単位：**3〜4年／2単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Alltagskultur im deutschen Sprachraum
ドイツ語圏の日常文化:日本と比較してみましょう。
この授業では身近なテーマから時事問題までドイツ語圏のいろいろなトピックにスポットを当てたいと思います。受講者はそれを理解し、自分または日本の実情と比較し、各テーマについて意見交換をします。簡単なディスカッションも試みたいです。批判的に問題を扱う姿勢、自己の生活文化を見つめ直す姿勢を育てます。Goethe-Institut等のドイツ語検定試験の準備として役に立つと思います。

【到達目標】
1）中級以上のテキストを理解できる。
2）様々な領域の語彙を習得する。
3）基本的な文法事項を復習し、中級以上の文法事項を習得する。
4）幅広いテーマについて、明確に意見を述べ、時事的な問題への見解を表明し、
　長所、短所を挙げることができる。
5）簡単なコメントやショートエッセイが書ける。
6）簡単なプレゼンテーションを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
中級レベルの教科書のテキスト、新聞や雑誌の記事、音楽、テレビなどを通じて、なるべく自然なドイツ語に触れる事によって読む・聞く・書く・話す技能を磨きます。口語表現力を重視しますので、ドイツ語圏の日常生活と時事問題について情報交換し、日本と比較しながら、自分の意見を述べる練習と簡単なディスカッションの試みもします。課題等の提出・フィードバックは授業中または「学習支援システム」を通じて行う予定です。間違いを恐れずに楽しく発言をしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 自己紹介	Einstufung Selbstvorstellung
第2回	Stadt oder Land	Vorteile und Nachteile vergleichen und vorstellen
第3回	Männer und Frauen	Über Klischees sprechen Statistiken und Grafiken beschreiben
第4回	Hast du Netz？	Mediensprache
第5回	Tiere	Die Tierliebe der Deutschen Adjektive Wiederholung
第6回	Reparieren und Selbermachen	Etwas reklamieren Passiv Wiederholung
第7回	Musik	Festivalsommer Deutschsprachige Hits Liedtexte verstehen
第8回	Filme	Mein Lieblingsfilm Filme vorstellen
第9回	Regional - global	Eine Region vorstellen
第10回	Lebensträume	Glück als Schulfach
第11回	Klima und Umwelt	Nachrichten verstehen Widersprüche, Bedingungen und Konsequenzen ausdrücken
第12回	Ein Blick in die Zukunft	Prognosen
第13回	Wie peinlich!	Knigge interkulturell
第14回	Präsentation	Vortrag und Evaluation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
予習はテキストを事前に読むと、授業で学習した内容の復習は必須です。特に単語は必ず覚えてください。

【テキスト（教科書）】
教材は学習支援システムで配布します。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (授業での発言（30％)、宿題提出（30％）、プレゼンテーション　(40%)）
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
「授業計画」は、授業の進度により変更する可能性があります。

【Outline (in English)】
In this class we will focus on different cultural or social topics in German speaking countries. The students will have to learn the related vocabulary to describe the situation in their own country and compare with the situation in Japan. They will learn how to express their own point of view in German and to take part in small discussions.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be about one hour for a class.
Grading will be decided based on class participation（30 %）、homework (30 %）and presentation (40%)

LANf300GA（フランス語 / French language education 300）

フランス語アプリケーション

ル ルー 清野　ブレンダン

配当年次／単位：3〜4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業/Spring**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること**

その他属性：〈他〉〈優〉〈ア〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Ce cours s'adresse à des étudiants d'un niveau de français déjà confirmé (A2/B1). Les étudiants travailleront les compétences de compréhension et de production à l'oral et à l'écrit afin d'améliorer leur niveau de communication et d'expression. Les thèmes étudiés permettront aussi d'élargir leurs connaissances sur les cultures francophones.

【到達目標】
Ce cours permet à des étudiants déjà assez confirmés (au moins 2 ans de pratique du français) de poursuivre leur apprentissage : enrichissement du vocabulaire, développement des capacités de lecture et d'expression orales et écrites. Il permet la préparation des examens du DELF (préparation directe au niveau B1, voire B2) et du 仏検 (2級 voire 準1級), ainsi que le concours pour partir en tant qu'étudiant en échange (派遣留学).

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
A l'aide d'une grande variété de documents (textes, images, vidéos, chansons...), les étudiants travailleront la compréhension et la communication orales, sans oublier l'écrit avec une révision systématique des points de grammaire qu'ils ont déjà étudiés.
Les contenus proposés seront très variés et permettront de découvrir de nombreux aspects culturels de la francophonie tout en voyageant autour du monde.
この授業では，作文やリーディングマラソン(フランス語多読)のような課題も課せられますので，そのつもりで参加して下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Faisons connaissance !	Présentation des participants Organisation et calendrier des activités
2	La beauté pour tous	Une nouvelle référence de beauté?
3	DELF B1	Entraînement: - compréhension écrite - expression écrite (= rédaction n°1)
4	Vidéo ①	Compréhension orale Traduction et sous-titrage ①
5	Lecture extensive ①	Présentation du premier livre lu
6	Vidéo ②	Compréhension orale Traduction et sous-titrage ②
7	Description physique et caractère	Un discours Choisir un collaborateur
8	DELF B1	Entraînement: - compréhension écrite - expression écrite (= rédaction n°2)
9	Lecture extensive ②	Présentation du 2e livre lu
10	Vidéo ③	Compréhension orale Traduction et sous-titrage ③
11	Caricatures ①	"Le Canard enchaîné" ①
12	DELF B1	Entraînement: compréhension orale
13	Lecture extensive ③	Présentation du 3e livre lu
14	Caricatures ②	"Le Canard enchaîné" ②: présentations des étudiants

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Une participation active en classe est indispensable. Des exercices ou tâches à réaliser seront donnés, à chaque cours ou presque, pour le cours suivant (réviser le vocabulaire, revoir un point de grammaire, écrire un petit texte, préparer un exposé, etc.).
予習・復習は当然ながら必須。この授業は2単位科目なので，法政大学学則（「1回の授業につき4時間以上」）に従い，本授業の準備学習・復習時間は4時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Les documents utilisés seront distribués en classe ou téléversés sur LMS ou Google Classroom.

【参考書】
Dictionnaire français-français ou français-japonais recommandé.
Attention: pas de "faux" dictionnaire en ligne!!!

【成績評価の方法と基準】
・宿題，ミニ発表，クラス内業務、その他の小テスト:約 35 %
・リーディングマラソン(フランス語多読):約 25 %
・作文:約 25 %
・出席点:約 15%。尚，出席点に関しては減点方式をとり，4回目の欠席で不合格となります。遅刻は2回で欠席扱いとなり，遅延証明は2回まで認めます。

【学生の意見等からの気づき】
学生の意見等を読み，特に工夫する必要のある点がないように思いました。改善を全くしない，という意味ではないのですが！

【その他の重要事項】
Ce cours est particulièrement adapté aux étudiants ayant déjà effectué un séjour en France ou qui visent le concours des étudiants d'échanges (派遣留学).
En fonction du nombre et du niveau des étudiants, le programme ci-dessus est susceptible d'être modifié au cours du semestre.

【Prerequisite】
Un niveau de français A2, au minimum, est nécessaire pour participer à ce cours.

【Outline (in English)】
This course is for intermediate students with A2/B1 level in French. The participants will improve their level of communication and expression, through activities using oral and written communication. Through the selected themes, students will also be able to develop their knowledge about francophone cultures.
Active participation in class is essential. Exercises or tasks will be given for the next class almost every week (thorough revision of vocabulary and/or grammar points, theme-related papers or presentations, readings, etc.).
Depending on the tasks involved, homework preparation will range from one to three hours.
Grading criteria are as follows:
· Homework, short tests and presentations: app.35 %
· "Reading marathon" (Extensive reading): app.25 %
· Essays: app.25 %
· Attendance: app.15%。

LANf300GA（フランス語 / French language education 300）

フランス語アプリケーション

ル ルー 清野　ブレンダン

配当年次／単位：3〜4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること**

その他属性：〈他〉〈優〉〈ア〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Ce cours s'adresse à des étudiants d'un niveau de français déjà confirmé (A2/B1). Les étudiants travailleront les compétences de compréhension et de production à l'oral et à l'écrit afin d'améliorer leur niveau de communication et d'expression. Les thèmes étudiés permettront aussi d'élargir leurs connaissances sur les cultures francophones.

【到達目標】
Ce cours permet à des étudiants déjà assez confirmés (au moins 2 ans de pratique du français) de poursuivre leur apprentissage : enrichissement du vocabulaire, développement des capacités de lecture et d'expression orales et écrites. Il permet la préparation des examens du DELF (préparation directe au niveau B1, voire B2) et du 仏検 (2級 voire 準1級), ainsi que du concours pour partir en tant qu'étudiant en échange (派遣留学).

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
A l'aide d'une grande variété de documents (textes, images, vidéos, chansons...), les étudiants travailleront la compréhension et la communication orales, sans oublier l'écrit avec une révision systématique des points de grammaire qu'ils ont déjà étudiés.
Les contenus proposés seront très variés et permettront de découvrir de nombreux aspects culturels de la francophonie tout en voyageant autour du monde.
この授業では、作文やリーディングマラソン (フランス語多読) のような 課題も課せられますので、そのつもりで参加して下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Présentation du cours Auto-évaluation des étudiants	Organisation et calendrier de la classe TCF en ligne
2	Tourisme et voyages	Tourisme créatif Organiser un voyage
3	DELF B1 (ou B2)	Entraînement: - compréhension écrite - expression écrite (= rédaction n°1)
4	Projet	Réaliser une carte postale sonore
5	Lecture extensive ①	Présentation du premier livre lu
6	Environnement ①	Les distributeurs de boissons au Japon
7	Vidéo ①	Compréhension orale Traduction et sous-titrage ①
8	DELF B1 (ou B2)	Entraînement: - compréhension écrite - expression écrite (= rédaction n ◦ 2)
9	Lecture extensive ②	Présentation du 2e livre lu
10	Vie de famille	Les liens de famille Le plus-que-parfait
11	Vidéo ②	Compréhension orale Traduction et sous-titrage ②
12	DELF B2	Entraînement: compréhension orale (urbanisation)
13	Lecture extensive ③	Présentation du 3e livre lu
14	CBC/Radio Canada	Compréhension orale

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Une participation active en classe est indispensable. Des exercices ou tâches à réaliser seront donnés, à chaque cours ou presque, pour le cours suivant (réviser le vocabulaire, revoir un point de grammaire, écrire un petit texte, préparer un exposé, etc.).
予習・復習は当然ながら必須。この授業は２単位科目なので，法政大学学則（「1 回の授業につき 4 時間以上」）に従い，本授業の準備学習・復習時間は 4 時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Les documents utilisés seront distribués en classe ou téléversés sur LMS ou Google Classroom.

【参考書】
Dictionnaire français-français ou français-japonais recommandé.
Attention: pas de "faux" dictionnaire en ligne!!!

【成績評価の方法と基準】
・宿題，ミニ発表，クラス内業務、その他の小テスト:約 35 %
・リーディングマラソン(フランス語多読):約 25 %
・作文:約 25 %
・平常点（授業への参加状況）:約 15%。 尚、平常点に関しては減点方式をとり、4 回目の欠席で不合格となります。遅刻は2回で欠席扱いとなり、遅延証明は2回まで認めます。

【学生の意見等からの気づき】
学生の意見等を読み、工夫する必要のある点は特にないように思いました。改善は全くしない、という意味ではないのですが！

【その他の重要事項】
Ce cours est particulièrement adapté aux étudiants ayant déjà effectué un séjour en France ou qui visent le concours des étudiants d'échanges (派遣留学).
En fonction du nombre et du niveau des étudiants, le programme ci-dessus est susceptible d'être modifié au cours du semestre.

【Prerequisite】
Un niveau de français A2, au minimum, est nécessaire pour participer à ce cours.

【Outline (in English)】
This course is for intermediate students with A2/B1 level in French. The participants will improve their level of communication and expression, through activities using oral and written communication.
Through the selected themes, students will also be able to develop their knowledge about francophone cultures.
Active participation in class is essential. Exercises or tasks will be given for the next class almost every week (thorough revision of vocabulary and/or grammar points, theme-related papers or presentations, readings, etc.).
Depending on the tasks involved, homework preparation will range from one to three hours.
Grading criteria are as follows:
· Homework, short tests and presentations: app.35 %
· "Reading marathon" (Extensive reading): app.25 %
· Essays: app.25 %
· Class participation: app.15%

LANf300GA（フランス語 / French language education 300）

フランス語アプリケーション

カレンス　フィリップ

配当年次／単位：3〜4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業/Spring**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること**

その他属性：〈他〉〈優〉〈ア〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
2年間学んだフランス語の知識（語彙や文法など）を生かして、フランス語のコミュニケーション能力を高める授業です。日常の場面に応じて、フランス語で様々な練習問題を行い、フランス語を話す力を強めます。文法を復習しながら、新しい語彙や表現を覚えながら、フランスとフランスの文化についてももっと詳しく学びます。

【到達目標】
授業の目標はコミュニケーションの力を上げることです。
次の三つのポイントに重点を置きます。
1．フランス語の日常会話をもっと聞き取れるようにする。
2．フランス語の文法の知識を高め、色々な練習に通じて強化する。
3．フランス語の語彙や言い方を増やして、使えるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
本授業は基本的には対面で進めることを想定していますが、状況に応じてオンライン授業へと移行することがあったら、お知らせします。学生からの質問には授業時間内、または授業支援システムを通じてフィードバックしていきます。
授業の内容に関しては、まず、テキストを見ずに対話を聞き、理解し、少しずつ繰り返し音読します。その後、テキストを見ながら再び音読します。さらに、内容と関連がある練習問題を行います。最後に学んだものをもう一度使い、ロールプレーをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	Prise de contact Explications du programme L1 p10 Chez le traiteur la quantité　encore/ ne … plus) pronom “en”	自己紹介 プログラムの説明 1課　素材屋で 部分冠詞 量の表現 “en”代名詞
②	L2 p14,15 Commander un repas souhait conditionnel	2課 食事の注文 願う
③	L3 p18 A la boutique de bijoux pronoms démonstratifs	3課 宝石のブチックで 指示代名詞
④	L5 p22 Modifier une réservation (table ou chambre) verbe conjugués +verbe infinitif	5課 予約の変更 レストラン／ホテル 動詞＋不定詞
⑤	L6 p24 A la banque Complément de nom: ”de”	6課 銀行で 名詞補語　”de”
⑥	L7 p26 Echanger, se faire rembourser Expressions de temps + passé composé	7課 交換する 返済してもらう 時間の表現＋複合過去
⑦	Révisions Test de mi-trimestre	復習 中間テスト
⑧	L9 p32 Faire des comparaisons verbes construits sur des adjectifs, comparatif superlatif	9課 比較する 比較法 最上級
⑨	L10 p38 Se renseigner Interrogation indirecte	10課 問い合わせする 間接法
⑩	L11 p40 Localiser prépositions/ adverbes de lieu	11課 位置、 場所を突き止める 場所の前置詞と副詞
⑪	L12 p44 A l’agence immobilière Subjonctif/indicatif	12課 不動産屋で 接続法か直接法
⑫	L13 p50 Résilier un contrat Comparaison Expression du futur	13課 賃貸契約を取り消す　未来形
⑬	L15 p58 Déclarer un vol, un accident Forme passive	15課 窃盗の被害届　される 受動態
⑭	Révisions Test final	復習 期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回課題（宿題）を出すので、よく復習してください。
本授業の宿題・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Communication Progressive du Francais - A2 B1 Intermédiaire 2eme Edition: Livre de l’élève + Cd-audio,
Editions Clé International, Claire MIQUEL
(ISBN 978-209-038447-5)

【参考書】
辞書に関しては、電子辞書、紙の辞書どちらでも良いですが、手元に用意しておくと便利です。授業の予習・復習にぜひ活用してください。

【成績評価の方法と基準】
1. 中間テスト・期末試験:60 %
2. 課題:30%
3. 積極性:5 %
4. 平常点:5 %

【学生の意見等からの気づき】
より実践的に使えるフランス語を身につけさせる。
さらに、フランスの暮らしや文化についても取り入れていきたい。

【その他の重要事項】
On aura un exemple du manuel et de son organisation en cliquant sur le lien suivant http://extranet.editis.com/it-yonixweb/images/330/art/doc/f/fbb51c54d7c6363531333636353638383434393 5.pdf

【Outline (in English)】
The purpose of this course is the development of a communication skill in French at intermediate level (A2/B1). At first, we will strengthen comprehension and oral capacity. Additional drills and a lot of panels of exercises will be proposed to reinforce the grammar level and the vocabulary. The different topics taken from every-day life situations will give opportunities to learn more about French culture.
Students will be expected to prepare the next class and to have complete the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class.
Your overall grade in the class will be decided on the following:
Mid-term and Term end examination: 60 %, Assignments: 30 %, and in class contribution 10 %.

LANf300GA（フランス語 / French language education 300）

フランス語アプリケーション

ル ルー 清野　ブレンダン

配当年次／単位：3〜4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること**

その他属性：〈他〉〈優〉〈ア〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Ce cours s'adresse à des étudiants d'un niveau de français intermédiaire (B1/B2). A travers différents types d'activités, les étudiants pourront développer et renforcer leurs compétences de compréhension et de production à l'oral ainsi qu'à l'écrit. Ils pourront aussi, à travers les thèmes étudiés, compléter et élargir leurs connaissances sur les cultures francophones, et réfléchir à certains problèmes environnementaux.

【到達目標】
Ce cours permet à des étudiants déjà assez confirmés (au moins 2 ans de pratique du français) de poursuivre leur apprentissage: enrichissement du vocabulaire, développement des capacités d'écoute et d'expression orale et écrite. En lien avec les autres cours de フランス語アプリケーション, il permet la préparation des examens du DELF (niveau B1, voire B2) et du 仏検 (2級 voire 準1級).

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
Les étudiants réaliseront diverses activités à partir d'extraits de trois bandes dessinées francophones récentes traitant de divers problèmes environnementaux. Ces activités leur permettront de travailler à la fois la compréhension orale, l'expression orale, mais aussi l'expression écrite.
Il s'agit d'un cours de type "Contents based learning".
En fonction du nombre d'étudiants, nous réfléchirons à la possibilité de participer à la "Journée de découverte de la Francophonie" organisée en décembre par la SJDF et l'Institut français, afin d'y présenter un travail oral sur la francophonie au Japon.
Le programme proposé ci-dessous est donc susceptible d'être modifié en fonction de la situation.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	Introduction	Présentation du cours (programme, activités...) et des participants
②	Comment les riches ravagent la planète (2024)	Présentation de la BD
③	Comment les riches ravagent la planète	Partie 1: Jour de fête, jours de chauffe
④	Comment les riches ravagent la planète	Partie 2: Qui cause la catastrophe? Comment l'ostentation ravage la planète
⑤	Comment les riches ravagent la planète	Présentations des étudiants
⑥	Ressources : Un défi pour l'humanité (2024)	Présentation de la BD
⑦	Ressources : Un défi pour l'humanité	Partie 1: Les Cornucopiens, L'exponentielle,Les ressources
⑧	Ressources : Un défi pour l'humanité	Partie 2: De Gaïa à Thanatia, Le recyclage, Une civilisation techniquement soutenable
⑨	Ressources : Un défi pour l'humanité	Présentations des étudiants
⑩	Le Monde Sans Fin (2021)	Présentation de la BD
⑪	Le Monde Sans Fin	Partie 1: L'énergie
⑫	Le Monde Sans Fin	Partie 2: Le climat
⑬	Le Monde Sans Fin	Présentations des étudiants
⑭	Discussion finale	Que retenir de ces trois BD?

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Une participation active en classe est indispensable. Des exercices ou tâches à réaliser seront donnés, à chaque cours ou presque, en cours ou pour le cours suivant (lire les pages suivantes, réviser le vocabulaire, revoir un point de grammaire, écrire un petit texte, préparer un exposé, etc.).
予習・復習は当然ながら必須。この授業は2単位科目なので，法政大学学則（「1回の授業につき4時間以上」）に従い，本授業の準備学習・復習時間は4時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Documents préparés et distribués en cours ou sur le LMS par l'enseignant.

【参考書】
Dictionnaire français-français recommandé, et au minimum un dictionnaire français-japonais /japonais-français. (Pas de FAUX dictionnaire en ligne!!!)

【成績評価の方法と基準】
・宿題，ミニ発表，その他の小テストや課題:約 40 %
・リーディングマラソン (フランス語多読):約 20 %
・作文:約 20 %
・平常点（授業への参加状況）:約 20%。 尚，平常点に関しては減点方式をとり，4 回目の欠席で不合格となります。10分までの遅刻は2 回につき欠席扱いとなり，遅延証明は2 回まで認めます。10 分以上の無断遅刻は欠席とみなします。

【学生の意見等からの気づき】
学生の意見等を読み，工夫する必要のある点は特にないように思いました。改善は全くしない，という意味ではないのですが！

【Prerequisite】
Avoir fait deux ans de français, ou justifier d'un bon niveau A2 au minimum.

【Outline (in English)】
The purpose of this course is the development of communication skills (oral and written) in French for intermediate level (B1/B2).
Through different kinds of activities mainly based on comic books (ask and answer questions, reading, writing, etc.),students will strengthen their comprehension and production capacities in order to develop both oral and writing expression.
Through the selected themes (mainly environmental problems), students will also be able to develop their knowledge about francophone cultures.
Active participation in class is essential. Exercises or tasks will be given for the next class almost every week (thorough revision of vocabulary and/or grammar points, theme-related papers or presentations, readings, etc.).
Depending on the tasks involved, homework preparation will range from one to three hours.
Grading criteria are as follows:
· Homework, short tests and presentations: app.40 %
· "Reading marathon" (Extensive reading): app.20 %
· Essays: app.20 %
· Class participation: app.20%。

BIO200GA（その他の総合生物・生物学 / Biology 200）

文化と生物

島野　智之、川上　裕司、黒沼　真由美、松崎　素道、鈴木　忠、富川　光

サブタイトル：**生活にいかす生物との関わり**
配当年次／単位：**2〜4年／2単位**
旧科目名：**バイオインフォマティクス**
旧科目との重複履修：×
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：
備考（履修条件等）：**旧：バイオインフォマティクスの修得者は履修不可**

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文化という視点からみた生命の実像を学ぶ.
内容は大きく2つに分けて，(I-II)「ヒトを取り巻く文化と生物」と，(III-V)「生物それ自体とその進化」について講義を行う．分野は衛生学，美術，生物学，農業にわたり，生物情報をどのようにヒトが利用しているのかを学ぶ.

【到達目標】
ヒトの生活と生物にまつわる歴史，文化そして，現代的な問題を解決する方法について，考え理解する．生物の多様性や進化について，考え理解する．現代の生物学は情報科学的側面を強く持っている.ここでは，生命活動における情報（主に遺伝情報）の特徴とその役割について，現代生物学の手法を体験し，現状を理解する.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
大学の行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。
講義はやわらかく，文系学生にも分かりやすい内容や説明を行う.
講義はオムニバス形式で，それぞれの分野の専門家に最新の知識を示してもらいます．11回までは，講義が中心ですが，特に，5-8回は，討議などもいれたアクティブラーニングの手法ももちいます．随時，ビデオやスライドを用いてわかりやすく紹介します.最後の実習（12回以降）は，実際にパソコンのソフトを用いて，外部の生物学専門機関が公開している種々のサービスを利用して行います.
メールの添付などの方法で課題等に対するフィードバックをおこないます.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス (I) ヒトの生活環境と生物 (1) 食文化と微生物 担当教員：川上	講義内容のあらすじ ①善玉菌と悪玉菌とは何か（細菌・真菌・ウイルスの違い）,②食中毒とは何か,③発酵食品に利用される微生物と食文化の発展について
2	(I) ヒトの生活環境と生物 (2) 健康的な食生活と微生物 担当教員：川上	①プロバイオティクスとは何か,②医食同源は健康的な食生活の基本,③人類の食糧難を引き起こす昆虫と救う昆虫（農業・食品害虫と昆虫食）について
3	(I) ヒトの生活環境と生物 (3) 住まいと害虫 担当教員：川上	①主な衛生害虫・衣類害虫・家屋害虫とその生態,②ダニ・昆虫アレルギーについて,③殺虫剤と害虫対策法
4	(I) ヒトの生活環境と生物 (4) 住まいと微生物 担当教員：川上	①病原体としての細菌・真菌（カビ）、②真菌アレルギーについて、③殺菌剤とIPM（総合的有害生物管理）による対策法
5	(I) ヒトの生活環境と生物 (5) 文化財を害虫やカビから守るためには 担当教員：川上	①文化財の保存科学現状と問題点、②カビ被害の実際と対策、③害虫被害の実際と対策
6	(I) ヒトの生活環境と生物 (6) 地球環境と微生物〜歴史を作る影の立役者〜 担当教員：川上	①感染症と人類の歴史、②ハンセン病と日本の歴史、③地球環境と農業分野への活用
7	(II) 生物の進化と塩基配列情報 (1) 塩基配列情報によって進化を推定する. 担当教員：島野	生物の進化を推定する．生物の遺伝子DNAの塩基配列情報から作成された系統樹から何がわかるのか.
8	(III) 動物とは？ (1) 死と復活 担当教員：鈴木	自然発生論争と蘇生論争
9	(III) 動物とは？ (2) 未発見の生物を発見するために，冒険に出よう. 担当教員：鈴木	生物と名前。なぜ生物に名前があるのか。どのように名前を付けるか。
10	(II) 生物と生態系 (1) 生物と環境の共進化 担当教員：松崎	生命の起源、共生による生物進化、地球環境の改変と適応
11	(II) 生物と生態系 (2) 生態系と寄生生物 担当教員：松崎	寄生生物が生態系で占める位置と役割（生態系改変や宿主操作）
12	(II) 生物と生態系 (3) 食文化と寄生生物 担当教員：松崎	寄生生物と食文化との関わり
13	(IV) 生物の分類と命名 (1) 人間生活と生物の分類 担当教員：富川	生物を分類し，名前を付けることの意味について，人間生活と関連付けて考える.
14	(V) 無脊椎動物解剖学 (1)無脊椎動物の体の仕組み 担当教員：黒沼	地球上で繁栄している無脊椎動物である節足動物の定義をおさらいし，様々な形態や筋肉のつき方,動きを比較する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本講義は，生物学だけでなく，情報科学，人文・社会科学などとの関連も含めて学ぶので，学生自身も普段から情報という視点で，様々な知識を相互に連関させて理解し,柔軟な思考ができるように努めてもらいたい.本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義テーマに合致する市販のテキストはない.個人的に作成した講義資料を使用する.

【参考書】
講義資料の最後に参考書のリストが掲げてある.教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

【成績評価の方法と基準】
基本は講義・実習の最後に提出してもらうレポート(60%)だが,この他に講義内で提出してもらう様々な文書(ビデオ等の感想,小テストなど)(40%)も加え,総合的に評価する.
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする.

【学生の意見等からの気づき】
今年度，カリキュラムを大幅に改訂し，国際文化学部の学生にも興味と応用的知識を提供するようにつとめている．引き続き，改善につとめている途中である.
受講生の数にもよるが，少数の場合は，個別に希望・要望等を聞いて講義内容・方法の改善に努めたい.

【学生が準備すべき機器他】
情報機器を使用します.パソコンにインストールされているソフトを元に，実習します.遺伝子データベース　http://www.ddbj.nig.ac.jp/searches-j.html を使います.

【その他の重要事項】
情報実習室で行うことに注意してください.

【Outline (in English)】
In this course, students will be introduced to how humans use biological information for culture through hygiene, art, biology, agriculture, etc., and the real image of life from the perspective of culture.
The content is divided into two major sections: (I-II) "Culture and organisms surrounding humans" and (III-V) "Organisms themselves and their evolution. The fields of study include hygiene, art, biology, and agriculture, and we will learn how humans use biological information.
Students are expected to complete the required assignments (class tests, assignment reports) at the end of each class.Your study time will be more than four hours for a class.
The basic grade is the report to be submitted at the end of the lecture/practice (60%). In addition to this, various documents to be submitted in the lecture (impressions of videos, etc., quizzes, etc.) (40%) will also be added, and students will be evaluated comprehensively.
Students who have achieved at least 60%of the objectives of the class will be graded on the basis of this grading system.

BIO200GA（その他の総合生物・生物学 / Biology 200）

文化と環境情報

島野　智之、佐々木　美貴、中西　由季子、忽那　賢志、塚田　訓久、島田　瑞穂、吉川　翠、長谷川　真紀子

サブタイトル：**人間社会や文化が，生態系とどのように関わっているのか**

配当年次／単位：**2〜4年／2単位**

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生物は、それぞれの生活環境に適した結果、多様性に富んだ進化の道を進んできている。多様な環境条件下で生活しているヒトは、環境に適応するためにさまざまな技術や思考を創造してきた。人間の活動と環境の相互作用によって構築される文化に着目し、自然科学及び人文社会科学の多面的な視点から、ヒトを取り巻く環境から得られる情報と文化の成り立ちや持続可能な社会について学ぶ。

【到達目標】
人間社会や文化が，生態系とどのように関わっているのかについて考え理解する．現代の生物学は情報科学的側面を強く持っている．ここでは，生態系，地球環境と，人間生活，食文化，病気などについて，現代生物学，栄養学，医学，保全生態学の観点から現状を理解する．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
大学の行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。
講義はやわらかく，文系学生にも分かりやすい内容や説明を行う．講義はオムニバス形式で，それぞれの分野の専門家に最新の知識を示してもらう．講義が中心だが，討議などもいれたアクティブラーニングの手法ももちいる．随時，ビデオやスライドを用いてわかりやすく紹介する．メールの添付などの方法をもちいて課題等に対するフィードバックをおこなう．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス (I) 生物多様性と持続可能性 (1) 生物多様性はなぜ必要なのか. 担当教員：島野	講義内容のあらすじ ①生物多様性条約　②食文化（乳製品）と生物多様性　③分類学と生物多様性
2	(II) 持続可能な社会づくりと未来 (1) SDG s de 地方創生ワークショップ 担当教員：中西	「SDGs de 地方創生」を通じて、SDGsを「まちづくり」や「地方創生」の身近な“プロジェクト”に引き寄せながら“自分事として体感”する．地域で暮らす市民，事業者，ＮＰＯ，自治体など地域の様々なステークスホルダーが、持続可能なまちづくり【地方創生×SDGs】の目標実現に向けたプロセスを疑似体験する． ①「SDGs de 地方創生」②まちづくり ③地方創生 ④人口減少
3	(II) 持続可能な社会づくりと未来 (2)Change for the blue（海洋プラスチック課題）ワークショップ 担当教員：中西	「Change for the blue」を通して、海洋プラスチック削減のために、企業・組織の一員としてできること、一市民としてできることについて考え、市民意識、技術、経済状況等も踏まえて、ごみ削減を体感する。 ①Change for the blue ②海洋プラスチック ③ごみ削減
4	(II) 持続可能な社会づくりと未来 (3) レゴ(R)・シリアスプレイ(R)のMethodと教材を活用したワークショップ（ありたい未来の世界を考える） 担当教員：中西	レゴ(R)・シリアスプレイ(R)のメソッドと教材を活用し、ありたい未来の世界の姿についてコンストラクショニズムに基づき、作品を作成し、内省し、対話を行う。①レゴブロック ②コンストラクショニズム ③対話
5	(III) 感染症と日本社会 (1) 野生動物とヒトの間の感染症 担当教員：島田	日本の原風景である里山では、人々の生活様式の変化に伴う荒廃が進み、野生動物が増加している。イノシシやシカを用いたジビエ料理の文化も交え、野生動物とヒトの間を行き来する人獣共通感染症について考える。
6	(III) 感染症と日本社会 (2) 新興感染症 担当教員：忽那	①新型コロナウイルス感染症とは？ ②新型コロナウイルス感染症とリスクコミュニケーション ③新型コロナウイルス感染症が社会に与えた影響
7	(IV) 生態系と持続可能な人間活動 (1) 土壌汚染 担当教員：長谷川	人間活動の影響によりおこる、化学物質や薬品、畜産などによる土壌汚染問題について学ぶ。また、汚染土壌中に棲む土壌動物の特徴について理解する。 ①人間活動の問題点 ②土壌汚染の具体例 ③汚染物質の土壌動物への影響
8	(IV) 生態系と持続可能な人間活動 (2) 近代以前の日本と現代の日本 担当教員：長谷川	江戸時代の暮らしや環境について学び、現代日本の社会生活の特徴について理解する。 ①江戸時代の暮らし ②循環型社会 ③江戸時代の農業
9	(II) 持続可能な社会づくりと未来 (4) 1日の生活様式と食生活を振り返る（生活活動調査＆食事バランスガイド） 担当教員：中西	生活活動調査と食事バランスガイドの調査用紙に回答し、一日の身体活動量を算定、エネルギー必要量や必要な食事バランスを知るとともに、各自の一日の食事を振り返り、どのような栄養バランスの食事をしているのか知り、改善点を考える。①身体活動量 ②推奨エネルギー摂取量 ③食事バランスガイド
10	(III) 感染症と日本社会 (3) エイズと社会 担当教員：塚田 ※この回は，オンラインに変更する可能性があります．事前にお知らせしますので注意してください	①「エイズ」ってなんだろう ②「エイズ」と向き合うことでみえてくるもの
11	(I) 生物多様性と持続可能性 (2) 霊長類の生物多様性 担当教員：吉川	霊長類の社会：ヒトは霊長類の1種であるという視点から、ヒトを含めた霊長類の社会や行動の違い、共通点を学ぶ。また、環境への適応について、ヒトの進化の隣人といわれるアフリカのチンパンジー等の行動生態の研究事例を学び、理解を深める。 ①ヒトと、ヒト以外の霊長類について ②霊長類の行動と生態
12	(V) 自然環境と文化 (1) 保全・再生 担当教員：佐々木	水辺の環境である湿地とその保全や利活用を推進するラムサール条約について学ぶ． さらに，新潟市佐潟の「潟普請」，習志野市谷津干潟の「アオサ対策」などの事例に即して，湿地の保全や再生にかかわる文化について考える．
13	(V) 自然環境と文化 (2) wise use（ワイズユース） 担当教員：佐々木	ラムサール条約が推進するワイズユース（賢明な利用）について学ぶ． さらに，大崎市の「ふゆみずたんぼ米」，檜枝岐村の尾瀬や温泉による観光，豊岡市の「環境経済戦略」などの事例に即して，ワイズユースにかかわる文化を考える．
14	(V) 自然環境と文化 (3) CEPA 担当教員：佐々木	ラムサール条約が進めるCEPA（コミュニケーション、力量形成，学習・教育，普及活動）について学ぶ． さらに，高島市の「ふるさと絵屏風」，ラムサール条約登録湿地関係市町村会議の「学習・交流会」，日本湿地学会の活動などの事例に即して，CEPAにかかわる文化を考える．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本講義は，生物学だけでなく，情報科学，人文・社会科学などとの関連も含めて学ぶので，学生自身も普段から情報という視点で，様々な知識を相互に連関させて理解し，柔軟な思考ができるように努めてもらいたい．本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
講義テーマに合致する市販のテキストはない．作成した講義資料を使用する．

【参考書】
講義資料の最後に参考書のリストが掲げてある．

【成績評価の方法と基準】
基本は講義・実習の最後に提出してもらうレポート(60%)だが，この他に講義内で提出してもらう様々な文書(ビデオ等の感想，小テストなど)(40%)も加え，総合的に評価する．この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
国際文化学部の学生にも興味と応用的知識を提供するようにつとめている．引き続き，改善に努めている．
受講生の数にもよるが，少数の場合は，個別に希望・要望等を聞いて講義内容・方法の改善に努めたい．

【学生が準備すべき機器他】
Hoppii学習支援システムを利用するので，情報機器（パソコンやタブレット）などを準備して下さい．

【その他の重要事項】
※講義10回目，塚田先生ご担当回　オンラインに変更する可能性があります．事前にお知らせしますので注意してください．

【Outline (in English)】
In this course, students will be introduced that living organisms have evolved in biological diversity as a result of their suitability to their respective living environments. Humans, living under diverse environmental conditions, have created a variety of technologies and thoughts to adapt to their environment.
The goal of this course is to understand the origins of culture and sustainable society with information obtained from the environment surrounding humans from multiple perspectives in the natural sciences and humanities and social sciences, with a particular focus on culture constructed through the interaction between human activities and the environment.
Students are expected to complete the required assignments (class tests, assignment reports) at the end of each class.Your study time will be more than four hours for a class.
The basic grade is the report to be submitted at the end of the lecture/practice (60%). In addition to this, various documents to be submitted in the lecture (impressions of videos, etc., quizzes, etc.) (40%) will also be added, and students will be evaluated comprehensively.
Students who have achieved at least 60%of the objectives of the class will be graded on the basis of this grading system.

PHL200GA（哲学 / Philosophy 200）

フランス語圏の文化Ⅰ（思想）

大中　一彌

配当年次／単位：**1〜4年／2単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ア〉〈ダ〉〈未〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
［授業の目的］この授業では、17世紀を中心とするフランスの思想や文化をめぐり、いくつかの作品を概観します。この時代は、その後、グローバルに広がっていく近代社会の基本的な枠組が ― よくも悪くも ― 西ヨーロッパにおいて形づくられた時代です。この時代についての知識を得て、考えを深めることは、受講者自身がさまざまな文化に関して抱いている価値観を、より奥行きのある、洗練されたものにしていくのに役立ちます。
［授業の概要］
※世界史を大学受験のさいに選ばなかった人を念頭に置きつつ、基礎知識を補う意味で、やや長めに「授業の概要」を以下に記述します。
●デュビィ&マンドルー『フランス文化史』Ⅱによれば、17世紀前半のフランスは、ひとりの人間にたとえるなら「青春時代」のような状態にあった。ジャック・カルティエが「カナダ」と呼び、16世紀に探検した北アメリカの土地へは、17世紀に入ると交易やフランスからの入植が進められた。
●同じ頃、活版印刷と結びついて西ヨーロッパに広がった宗教改革は、伝統的なカトリック教国のフランスにも、プロテスタントの信仰を浸透させた。この浸透の結果もたらされた悲惨な宗教戦争を、ナントの勅令（1598年）により収拾したのはブルボン朝の創始者アンリ４世である。これに続く17世紀前半は、若々しさを連想させる経済社会の成長を基調としながらも、成長ゆえにカトリック教会を含む従来の秩序がゆらいだ時代でもあった。
●同時代の哲学者ルネ・デカルトは、迷信や思い込みに囚われた人間の意識のあり方を疑い、知識の確実な基礎を、数学や自然科学を支える合理精神のなかに、むしろ見いだした。
●同じく17世紀の哲学者パスカルの「人間は一本の葦に過ぎない、だがそれは考える葦である」という言葉は、環境に左右されやすく傷つきやすい肉体の弱さと、無限の宇宙をも分析しうる知性がもつ尊厳のあいだで、揺れ動く人間の姿をよく特徴づけている。
●17世紀から18世紀前半にまたがるルイ14世の治世は、フランス史において「偉大な世紀」と呼ばれる。政治面においてはいわゆる絶対王政、文化面においてはいわゆる古典主義をつうじて、それぞれの領域における秩序の完成が目指された。
●ナントの勅令の廃止（1685年）によりカトリック教国としての純化を図り、宗教的寛容で知られた当時随一の商業大国ネーデルラント（オランダ）を屈服させようとしたルイ14世の力の基盤となっていたのは、フランスの人口の多さ（約2000万人）にくわえ、国内における強力な徴兵・徴税制度といった、リシュリューやマザラン、コルベールら、王権に仕えた実務家たちがつみあげた成果のうえにできた、集権的な世俗の国家であった。
●また、文化面における古典主義は、こうした国家から庇護を受け、ルイ14世という君主の栄光を讃美する（現代でいう）プロパガンダの面を確かにもっていたが、ヨーロッパの多くの宮廷が模倣するような対外的影響力も実際に有していた。
●イギリスやオランダとともに、いわゆる啓蒙思想の震源地であったこの時代のフランスの哲学者たちは、国境を越えた「文芸の共和国」のなかで活動しており、ルイ14世により確立された集権的な専制政治や、宗教における純化志向がもたらしがちな狂信に対して、しばしば批判的であった。

【到達目標】
１．人が学び、成長し、より洗練された文化がかたちづくられていく際に、「古典」が果たしうる役割について、大学生にふさわしい建設的な意見を述べることができる。
２．「オリエンタリズム」や「ヨーロッパ中心主義」のような、基本的にはヨーロッパの外側からする定型的な批判にとどまることなく、異文化としての17世紀フランスを、ある程度内側から見る、個別の作品に即した理解をもったうえで、みずからの考えをまとめることができる。
３．ヨーロッパの近世芸術におけるギリシア・ローマの神々のモチーフの重要性や、モンテーニュやデカルトに見られる、旅行を通じ、みずからが生まれ育った文化（「自文化」）を相対化する視点に着目しながら、17世紀フランスにおける、さまざまな宗教や宗教批判のあり方について、「一神教は不寛容」「多神教は寛容」といったステレオタイプに陥らずに、論じることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
・この授業は基本的に「対面」です。
・学生からの書き込み等に対するフィードバックは、基本的に授業時間内に行いますが、学習支援システムやGoogle Classroomを利用する場合があります。
・授業内容の録画や録音の一部、ならびに授業時間内に扱い切れなかった内容を補足する動画を、受講者のみが視聴できる形で共有する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	シラバスと毎回進行表の説明	この授業での学び：古典と「古典主義」。チャールズ英国王のフランス語スピーチ
第2回	フランスにおけるルネサンス	16世紀：お手本としてのイタリアの芸術
第3回	国民性としての「古典主義」というストーリー	「フランス精神」の理想は、明晰（めいせき）・判明なデカルト的合理主義、と伝統的に主張されてきた。古典主義と合理主義の結びつきに関するフーコーとデリダの対比
第4回	デカルトと「悪しき霊」	私や世界は実在すると、ほんとうに言えるのか？　あなたは悪しき霊（an evil genius）にだまされて、夢やまぼろしを現実と取り違えているだけではないのか？
第5回	遠近法と劇のなかの劇	デカルトは『屈折光学』で動物実験から網膜には我々が見る対象と似た「絵」（画像）が観察されると確認していた。フランス式の庭園とは、「光学とだまし絵の新しい法則」が活かされる、スペクタクルの空間である。
第6回	コルネイユ『舞台は夢』	原題はイリュージョン・コミック。全ては幻影なのか、それともむしろ、フィクションこそが人生の学校なのか？
第7回	絵画における古典主義	ワインと血、ダンスにあふれる若きプッサンの絵画。晩年のプッサンの作品《春》で神はどちらを向いていたか？
第8回	《王は踊る》	沼地に囲まれた小さな城館に過ぎなかったヴェルサイユが、ダンス好きの君主ルイ14世により、権力と芸術のための一大装置と化しました。

第9回	宮廷社会の成立	日本にも「すまじきものは宮仕え」という表現がありますが、王様の恩顧を得ようと競うフランスの宮廷社会でも、洗練された貴族の作法を身につけていないと生き残れなかったようです。
第10回	ヴァニタスと神の恩寵	シャンペーニュの絵画《ヴァニテ、あるいは人生の寓意》では、生命を象徴する赤い花のとなりに頭蓋骨と砂時計が置かれます。その意味とは？
第11回	モラリストと仮面	モラリストの「寓話」や「箴言（しんげん）」はしばしば挫折の経験を昇華したもの。子ども向けの寓話だからと、あなどるなかれ。
第12回	幾何学的な無限と「考える葦」	デカルトと並び、17世紀フランスを代表する思想家のパスカル。今でもヘクトパスカル（hPa）などの物理分野の単位に名を残しています。
第13回	パスカルの賭け	「私たちには、神が何であるかも、果たして存在するかどうかも、知ることができない…だが賭けなければならない」。あなたなら、神の存在、神の不在、どちらに賭けますか？
第14回	サン・テグジュペリ『人間の大地』（1939年）	「１人の痩せたパスカルを生み出すことは、金回りの良い月並みな人間を数名誕生させることよりよほど大事なことだ。」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
（ア）毎回、授業にたいするコメントの執筆をお願いいたします。
（イ）（ア）以外で、希望する受講者が授業内容にかんする話題提供を行った場合、積極的な参加態度として加点いたします。指定するLMS（学習支援システム-Hoppiiの掲示板かGoogle Classroomのストリーム＞コメント）に、文章やリンクを貼り付けてください。
（ウ）この授業の準備や復習に必要な学習時間は、提示された資料や映像を検討したり、上記（ア）（イ）を行ったりするのに必要な時間とします。日本語やその他の言語の習熟度が異なる多様な学生が履修する授業であるため、一律の時間の長さは掲載しませんが、大学設置基準に鑑みた場合、２単位の講義及び演習の準備・復習時間は１回につき４時間以上とされています。

【テキスト（教科書）】
・教科書を買う必要はありません。
・シラバスの【授業計画】に示されている内容にかんする資料を毎回配布します。
・なお【授業計画】のより詳しい説明を、次のリンク先に置いてあります（Excelファイル）https://x.gd/nmWv1

【参考書】
参考となる映像作品：
パトリス・シェロー監督『王妃マルゴ』1994年。
ジェラール・コルビオ監督『王は踊る』2000年。
エリック・ロメール監督『モード家の一夜』1969年。
ロジェ・ヴァディム監督『ドンファン』1973年。
参考となる音楽作品：
夜の王のコンサート（夜の王のバレエに基づく）※原題"Le Ballet Royal de la Nuit"で検索してみてください。

【成績評価の方法と基準】
（ア）期末試験：実施しない（0%）
（イ）期末レポート：実施しない（0%）
（ウ）コメントシートの提出の有無および質（80%）
※各回10点満点、学習支援システム> テスト/アンケート機能から同じ週の土曜日午前09時00分00秒までに提出
（エ）平常点（20%）
※授業参加者数によるが、座席表に記入してもらうといった形を想定している。
（オ）その他（学生による話題提供、授業運営への協力、講師のミスの指摘を想定）
※（ウ）と（エ）の合計100%の枠外で5～20%の加点を行う。
※なんらかの障がいや疾患、メンタルな面を含むハンディキャップなど、諸事情により対面授業に参加することが困難な方は、法政大学障がい学生支援室に「就学上の配慮」をできるだけ早い時期に求めてください。「就学上の配慮」が認められた場合は、障がい学生支援室から担当教員に連絡が来ますので、代わりとなる課題に取り組んでいただきます。
※この科目が開講されている期間中に「学校保健安全法に定める感染症」に感染した方は、所属する学部に連絡し「感染症等に係る授業欠席等配慮願」を受け取ってください。そして、所属する学部が発行する「配慮願」を担当教員にご提出ください。学生側の都合による欠席とは異なる、感染拡大防止のための出席停止として扱います。

【学生の意見等からの気づき】
・過剰な学習負担とならないよう配慮しています。
・わからないことは、気兼ねなく、お問合せください。
・問い合わせ先や、この授業で扱う範囲（17世紀のヨーロッパ）に関係する画像たちを、次のリンク先に置いておきましたので、ぜひご覧ください（Wordファイル） https://x.gd/cnNQC

【学生が準備すべき機器他】
資料の配布や学生側からの情報の提示など、さまざまな連絡は、基本的にすべてウェブ上（学習支援システム-Hoppii等）で行ないます。そのため、スマートフォンやタブレット、できればノートパソコンのような、情報端末が必要です。

【その他の重要事項】
※国際文化学部をはじめとする法政大学市ヶ谷キャンパスの各学部の学生だけでなく、社会学部・経済学部・現代福祉学部・スポーツ健康学部など多摩キャンパスの学生、情報科学部や生命科学部など小金井キャンパスの学生、外国人留学生や社会人学生の履修を歓迎します。
※千代田区キャンパスコンソの加盟校（大妻女子大学、大妻女子大学短期大学部、共立女子大学、共立女子短期大学、東京家政学院大学、二松学舎大学、専修大学）の学生の皆さんの履修を歓迎しています。
※この「フランス語圏の文化Ⅰ（思想）」における使用言語は日本語ですが、文化や社会にかんする内容を扱い、かつ、フランス語の学習を主な目的とする科目に「時事フランス語Ⅰ」（ https://x.gd/pdJmh ）「時事フランス語Ⅱ」（ https://x.gd/Eqqfz ）があります。語学の面も含めて学習したい方は、「時事フランス語」の履修をご検討ください。
※現代のヨーロッパ、特にその移民社会としての側面に、興味・関心のある方は、サマーセッションで開講される「教養ゼミⅠ『移民社会』入門～見える国境と見えない国境～（８月上旬）」（ https://x.gd/bp4JW ）やオータムセッションで開講される「教養ゼミⅡ『ポピュリズム』入門～トランプ氏が再登場した世界
で～（９月中旬）」（ https://x.gd/benIb ）をぜひ履修しましょう。人物や映像作品を軸に、各学部・学科の専門課程で学ぶのとは異なる視点から、いわゆる社会人の教養として求められる、現代の政治・社会・文化にかんする学びを、初学者が体験できるコースになっています。
※国際文化学部の学生で、ヨーロッパの文化的な側面に関心がある方は、大学院国際文化研究科で水２限に開講されている「多言語社会論A」（ https://x.gd/RI11D ）「多言語社会論B」（ https://x.gd/IYbfj ）を履修できます。2025年度は「青の政治学」がテーマです。「青」という色を導きの糸として、言語だけでなく、美術やファッションをふくめた、ヨーロッパ地域における文化と社会のかかわりについて見ていきます。

【Outline (in English)】
[Course outline]

This course offers students an introduction to 17th century French thought, highlighting links with literature, theater, architecture, and science. Students will read excerpts of texts and view films and paintings to get an idea of this historical period that the French often call "The Great Century" (Grand siècle). The 17th century was "great" not only because the Kingdom of France was at the peak of its power under the reign of Louis XIV, but also because philosophers like Blaise Pascal made insightful observations about the tragic nature of the human condition ("Man is only a reed, the weakest in nature; but he is a reed that thinks."). Proficiency in French is not required for this course but written assignments and oral participations in Japanese will be required.
[Learning Objectives]
1. Gain an overview of representative works of French thought and culture of the 16th and 17th centuries through the reading of the texts in each session.
2. Foster the ability to identify, without stereotyping, the themes contained in the characters and works of each text.
3. Develop each student's own ideas about the relationship between power and justice, and between religious fanaticism and violence.
[Learning activities outside of classroom]
(a) No preparation is required.
(b) Students may be asked to write comments on the class.
(c) Students who wish to contribute topics related to the class content other than (b) will receive points for their active participation. Please paste the text or link to the designated LMS (Learning Support System-Hoppii's Discussion Board or Google Classroom's Stream > Comments).
(d) The study time required for preparation and review of this class will be the time needed to study the materials and videos presented and to do (b) and (c) above. Since this is a class for diverse students with different proficiency levels in Japanese and other languages, a uniform length of time will not be specified, but in accordance with the Standards for the Establishment of Universities, the preparation and review time for each 2 credit lecture and seminar should be at least 4 hours per session.
［Grading Criteria］
(a) Final Examination: Not conducted (0%)
(b) Final Report: Not conducted (0%)
(c) Submission and Quality of Comment Sheets (80%)
Each submission is graded on a 10-point scale per session. Comment sheets must be submitted via the Learning Support System > Test/Survey function by 9:00 a.m. on the Saturday of the same week.
(d) Class Participation (20%)
The evaluation method may vary depending on the number of participants. For example, students may be asked to fill in a seating chart.
(e) Others (e.g., student-led topic presentations, cooperation in class management, pointing out instructor's errors)
An additional 5－20%may be awarded beyond the combined total of (c) and (d), which accounts for 100%of the base grade.

ART200GA（芸術学 / Art studies 200）

フランス語圏の文化Ⅱ（芸術）

岡村　民夫

配当年次／単位：**1〜4年／2単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈S〉〈ア〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近代フランスの絵画・写真・映画の歴史を概観し、芸術的・社会的な意義を学びます。

【到達目標】
エポック・メイキンギな芸術家や流派、作品の名前などを覚え、その歴史的意義や社会背景を説明できるようになります。鑑賞力もアップします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】
講義と関連作品の鑑賞・分析を交互に行います。
コメントシートに関するフィードバックは授業内やhoppiiで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	講義のオリエンテーション
第2回	フランス古典主義	ヴェルサイユ宮殿 ロラン プッサン
第3回	新古典主義とロマン主義	ダヴィッド、アングル ドラクロワ
第4回	近代絵画のはじまり	写真の普及 写実主義 マネとボードレール
第5回	印象主義	モネ、ルノワール、ロダン
第6回	ポスト印象主義	スーラ、ゴーギャン、ゴッホ、セザンヌ
第7回	映画の誕生	リュミエール兄弟、メリエス
第8回	アヴァンギャルド１（キュビスム、フォーヴィスム、機能主義）	-ピカソとマチス -ドローネーの抽象絵画 -ル・コルビュジエの建築
第9回	アヴァンギャルド２（ダダイスム、シュルレアリスム）	-デュシャン -エルンスト、ダリ
第10回	エコール・ド・パリと詩的レアリスム	-ユトリロ、藤田 -カルネ、ジャン・ルノワール
第11回	パリ写真	-アジェ、ブラッサイ、カルチエ=ブレッソン
第12回	ヌーヴェル・ヴァーグ	-トリュフォー、ゴダール
第13回	補遺	これまで取り上げられなかった重要芸術家 期末試験の説明
第14回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布される資料を授業後によく読み復習すること。講義対象になった映画を自分で鑑賞することが望ましい。途中で、国立西洋美術館（上野）の常設展（無料）の観賞ミニ・レポートを課します。
本授業の復習時間は１時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
プリントで代用します。

【参考書】
中条省平『フランス映画史の誘惑』集英社新書
そのほかは随時挙げます。

【成績評価の方法と基準】
コメントシートやミニ・レポートによる平常点（50％）＋期末試験（50％）
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60％以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】
国立西洋美術館（上野）の常設展（無料）の観賞ミニ・レポートを課す。

【Outline (in English)】
【Course outline】We take a general view of history of French fine art, photography and movie.
【Leaning Objectives】The aim of this course are to know the outline of history of Morden French Arts, and to have an appreciation of great works.
【Learning activities outside of classroom】Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be one hours for a class.
【Grading Criteria/Policies】Your overall grade in this class will be decided based on the following:
Term-end examination(50%), In-class contribution (50%)

HUMc200GA

北米文化論（ケベック講座）

廣松　勲

配当年次／単位：**1〜4年／2単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈S〉〈ア〉〈ダ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、ケベック州政府の寄付講座である。
本授業は、北米のフランス語圏の一つである「カナダのケベック州」をフィールドとして、オムニバス形式で、各分野の専門家や招聘作家・研究者が担当する授業である。言語・文化・歴史・社会・政治といった包括的な側面から、現代のケベック社会を学ぶことによって、一つの地域において複数の価値観（言語、文化、歴史、政治、経済、社会など）が共生する方法を解説・検討することを主たる目的とする。
なお、具体的な授業内容や講演者については、初回授業において改めて通知するため、以下の「授業計画」は予定であることをご理解いただきたい。

【到達目標】
本授業の到達目標は、以下の通りである。
①フランス語圏の一例として、ケベック州の社会文化的状況を概説できる。
②多文化・多言語共生の一例として、ケベック州の社会文化的状況を概説できる。
③一つのフィールドを複数の観点から理解するという方法を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
オムニバス形式の授業によって、できるだけ包括的に「現代のケベック社会」に関する紹介・説明・分析を行う。
具体的な授業の進め方は、以下の通りである。最初と最後の数回の授業（3回程度）では、一人の教科担当者が「導入」や「総括」などを行う。それ以外の授業（11回程度）については、各分野の専門家の先生方などが授業を行うことになる。その内、少なくとも一度は、ケベック州からの招聘研究者による授業内の講演会を実施する（通訳付き）。
なお、毎回授業ではコメントシートを作成・提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	・イントロダクション：フランコフォニーとは何か？	・授業の進め方や最終課題について説明 ・フランス語圏（フランコフォニー）の歴史・社会・言語状況などについて概説
第2回	ケベック州の歴史① ・北米大陸のフランス語圏（フランコフォニー）の広がり ・ケベック州とはどのような地域なのか？	・ケベック州の歴史に注目しつつ、社会状況を概説する
第3回	ケベック州の歴史②	・ケベック州の歴史をより詳しく学ぶ
第4回	ケベック州の地理	・ケベック州の地理を学ぶ
第5回	授業内の講演会	・ケベック州の政治・歴状況を当事者から学ぶ
第6回	ケベック州の言語	・ケベック州の言語状況を包括的に学ぶ
第7回	ケベック州の政治①	・ケベック州の政治状況を具体例に基づいて学ぶ。
第8回	ケベック州の政治②	・ケベック州の政治状況を理論的に学ぶ。
第9回	ケベック州の社会問題①	・ケベック州の社会問題を具体例に基づいて学ぶ（主権獲得を巡る問題など）。
第10回	ケベック州の社会問題②	・ケベック州の社会問題を具体例に基づいて学ぶ（移民や宗教に関わる問題など）。
第11回	ケベック州の文化①	・ケベック州の文化を具体例に基づいて学ぶ（舞台芸術など）。
第12回	ケベック州の文化②	・ケベック州の文化を具体例に基づいて学ぶ（文学・映画など）。
第13回	ケベック州の文化③	・ケベック州の文化を具体例に基づいて学ぶ（音楽・ダンスなど）。
第14回	総括	・本授業の全体のまとめ ・映像資料などを用いて、現代ケベック州の社会を知る。 ・期末レポートの提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・毎回の授業をより深く理解するために、日頃からできるだけ広く・複合的な視点からケベック州（やカナダ）に関する情報を集めてほしい。
・期末レポート執筆のために、配布資料についても熟読してほしい。本授業の準備学習・復習時間は合計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・テキストは指定しない。各授業において資料などを配布する。

【参考書】
・各分野の参考書は、各授業において提示する。
・全体的な導入となる書籍としては、以下がある。
小畑精和・竹中豊編著『ケベックを知るための56章【第2版】』エリアスタディーズ・72巻，明石書店，2023年.

【成績評価の方法と基準】
・平常点と期末レポートに基づき、総合的に評価する。
①平常点（コメントシートなど）：40％
②期末レポート：60％
・期末レポートでは、本授業で扱われたいずれかの専門分野・側面を参照しつつ、自ら選択したテーマについて論じてもらう。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
・14回という少ない回数だが、授業内容について、可能な限り多様になるよう心がける。
・質疑応答の時間を、可能な限り長く設けるようにする。

【その他の重要事項】
・第一回授業において、各授業の担当者・内容などを記載した資料を配布するため、必ず出席してほしいです。
・毎年度秋学期に開講予定の授業ですが、ケベック州政府寄付講座であるため、事情によって「閉講」となる年度もありえます。

【Outline (in English)】
This course introduces the key themes for a deeper understanding of the socio-cultural situation of the province of Québec (Canada). In 14 courses, we will deal with a variety of themes or problematics of the contemporary Québec (politics, social problems, economics, music, cinema, literature, etc). Each course will be given by the specialists of each research domain.
The goals of this course are to understanding and explaining the socio-cultural situation of Quebec.
Before and after each class meeting,students will be expected to spend four hours to read the relevant documents.
Your overall grade in the class will be decided based on the followings: in class contributions (discussion, reaction paper, etc): 40%, term-end report: 60%.

ARSa400GA（地域研究（ヨーロッパ）/ Area studies(Europe) 400）

地域協力・統合

大中　一彌

配当年次／単位：2〜4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ア〉〈ダ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「ヨーロッパとは何か」という問いに、自分なりの答えを言えるようになるのがこの授業の目的です。授業を紹介するショート動画をご覧ください https://youtube.com/shorts/iaK97j-Q6ss 学内には他にもヨーロッパ関連の科目がありますが、これらの授業と比較した時の、本授業「地域協力・統合」の特色は、高校までの世界史の知識を確かめながら、思想史や文化史に軸足をおきつつ、これからの国際社会で活躍する人材が身に付けておくべき基礎教養として、「ヨーロッパとは何か」について学ぶ点にあります。過去と現在を往復しながら、とくにヨーロッパと、その外部とされるものの境界（ボーダー）に焦点をあてつつ、認識をほりさげていきます。

【到達目標】
①「ヨーロッパ」の地理的広がりについて、みずからの考えを述べることができる。
②古代ギリシア、ヘレニズム、古代ローマの文化的・政治的・哲学的遺産と「ヨーロッパ」を関連付けて（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
③西ローマ帝国崩壊前後以降、10世紀にいたるゲルマン人、ノルマン人、スラブ人の民族大移動と「ヨーロッパ」の形成を、各国史との関係で（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
④カトリシズムを軸として形成される中世の西ヨーロッパと、正教を軸として形成される東ヨーロッパや、イスラームの拡大を関係づけつつ（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
⑤ルネサンス期を特徴づけるユマニスムの人間論上の意義、大航海時代における非ヨーロッパ地域への影響、宗教改革がもたらした信仰と政治の関係性について、（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
⑥中央集権化やヨーロッパ外における植民地をめぐる争い、「文芸の共和国」の出現など、一連の政治的文化的な変化を背景としつつ、商業の発展をつうじて発生した「ヨーロッパ中心主義」的な意識に関し、肯定・否定の両面から論じることができる。
⑦イギリス、アメリカ、フランスや他のヨーロッパ諸国にみられる市民的権利にもとづく思想・制度の発達について、（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
・この科目「地域協力・統合」は、前年度までの一部学生の要望を受け、2025年度は全面オンラインで実施します。
・授業時間（100分）の前半80分程度は、受講者全体へのフィードバック（15-20分）と講義（50-60分）にあてています。
・授業時間（100分）の後半20分程度を、グループディスカッションにあてています。
・毎回の授業資料はGoogle Classroomや学習支援システム-Hoppiiをつうじて事前に配布しています。
・学習支援システム-Hoppiiを利用し、小テストを受験してもらう場合があります。
・基本的にリアルタイム・オンラインですが、授業内容の録画を、受講者の個人情報の保護に留意しつつ、受講者のみが視聴できる形で共有する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	受講上の約束事	授業内容の紹介、注意事項の説明
2	ヨーロッパの地理的定義	ユーラシア大陸から突き出た「半島」としてのヨーロッパ：東の境界は？
3	人の移動と石器・青銅器・鉄器時代	ヨーロッパ各地に広がるケルトの文化
4	考古学的定義	ギリシア世界
5	神話と政治	「ヨーロッパ」の語源とされる諸神話や、「アジア」と対比した際のギリシア世界の特質とされるものについて学ぶ
6	ヘレニズムと地中海世界	「ギリシア文明」の地理的拡大
7	古代ローマ	ローマの盛衰と遺産としての法制度や建築
8	西ローマの崩壊と民族大移動	統一的な地中海世界の終わり＝「文明」の崩壊のイメージ及びアジア諸民族の侵入
9	「周縁」としてのヨーロッパ	いわゆるノルマン人の全ヨーロッパへの進出、スラブ人の中東欧への進出
10	フランク王国と「12世紀のルネサンス」	西ヨーロッパにおけるカトリシズムを軸とした中世的秩序の形成
11	大航海時代とルネサンス、宗教改革	ポルトガルによるアフリカ大陸西岸の航海、ユマニスム的な「人間の尊厳」の観念、プロテスタンティズムの発生によるカトリック圏としての西ヨーロッパの分裂
12	16世紀-17世紀のヨーロッパ政治史	ハプスブルク家、オスマン・トルコ、テューダー朝のイギリス、ユグノー戦争、三十年戦争。西ヨーロッパ諸国間の紛争の新大陸やアジアにおける展開
13	「主権」の発動たる戦争、その悲惨を目の当たりにした人々による平和の希求	ジャック・カロ「戦争の悲惨」。クリュセ、コメニウス、ペンらに芽生えた統合の思想
14	啓蒙思想と革命	君主を含めた主権者同士の連合から、民主主義、ナショナリズムの時代への移行

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1. 小テストが宿題として出されます（ネット上で受験）
2. 本学学則基準によると、講義や演習で２単位を得るのに必要な予習・復習の時間は１回につき４時間以上とされているそうです。

【テキスト（教科書）】
教科書を買う必要はありません。学習支援システム-Hoppii や Google Classroom上でPDFファイル等のかたちで資料を配布します。

【参考書】
授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】
●１．期末テストは行いません　0%
●２．出席はとりません　0%
●３．小テストの受験【インターネット上において授業時間外に受験するため、体育会や就職活動中の学生、所属キャンパスを問わずすべての学生がオンラインで受験できます（※１）】61%
●４．グループ・ディスカッション＆学生間の共働【グループ・ディスカッションへの参加や、提出する文章の内容のとりまとめ、とりまとめた結果の教員への送信、等（※２）】25%
●５．この科目を履修している学生や履修を検討している学生に対する、この科目の授業内容に関連した動画の提供やプレゼンテーション【あくまで希望者のみ提出です】14%
●６．運営への協力【協力してくれた方に加点しています：たとえば配布資料の誤字や、内容の誤りの指摘。授業参加者間の連絡や情報共有に積極的に取り組んでくれたといった形の運営協力が加点の対象】（※３）
（※１）小テストは授業の復習であり、授業で配るスライドやプリントをみれば、簡単に答えられるやさしい内容です。
（※２）グループ・ディスカッションは、参加者数によりますが、このシラバスを執筆している時点では、Zoomを用いておこなうことを想定しています。Zoomに接続し、他の学生と共に議論に参加していたことがグループが提出した成果物に記載されていれば、確実に加点されます。小テストの得点に上乗せしたい、単位がどうしても必要という学生さんは、ぜひグループ・ディスカッションに継続的に参加しましょう。
（※３）６．は、１．～５．の合計100%には含めず、その外枠で5%程度まで加算する。
※なんらかの障がいや疾患、メンタルな面を含むハンディキャップなど、諸事情によりグループディスカッションに参加することが困難な方は、法政大学障がい学生支援室に「就学上の配慮」をできるだけ早い時期に求めてください。「就学上の配慮」が認められた場合は、障がい学生支援室から担当教員に連絡が来ますので、代わりとなる課題に取り組んでいただきます。
※この科目が開講されている期間中に「学校保健安全法に定める感染症」に感染した方は、所属する学部に連絡し「感染症等に係る授業欠席等配慮願」を受け取ってください。そして、所属する学部が発行する「配慮願」を担当教員にご提出ください。学生側の都合による欠席とは異なる、感染拡大防止のための出席停止として扱います。

【学生の意見等からの気づき】
・ヨーロッパの文化史や政治史、経済史についての学びは、大人の教養として経験しておいたほうが良さそうではあるけれど、わかりづらそうで敬遠したくなるという方もいるようです。
・この科目「地域協力・統合」は、高校までの学習内容を確認しながら、大学の学部レベル以上の内容に深めていくという組み立てとすることにより、参加のハードルを下げ、そうした方が、必要な学びにアクセスできる場となることを目指しています。

【学生が準備すべき機器他】
資料の共有などに、Google ClassroomやHoppiiを使いますので、必要な機器や情報環境はお持ちであったほうが良いでしょう。

【その他の重要事項】
・わからないことは、気兼ねなく、お問合せください。

・留学や大学院進学、就職などの相談もOKです。
・問い合わせ先や、授業内容のイメージについては、次のリンク先をご覧ください（Wordファイル）https://x.gd/vqmNu

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
What is Europe? This question, which many present-day Europeans ask themselves, is the main theme of this course. In this class, students will examine the question with an emphasis on the history of ideas and culture. Starting with the geographical notion of Europe as a “continent", students will familiarize themselves with its basic archaeological, ethnic, religious, philosophical, and historical aspects. Students will be encouraged to explore these areas to reflect on the modern idea of Europe as a haven of peace and the possibility or impossibility of a single European identity. She or he will move back and forth between the past and the present, focusing in particular on the ambivalence of the boundaries between Europe and its "others", in order to deepen her or his understanding of the question.
【到達目標（Learning Objectives）】
By the end of the course, students should be able to do the following:
1) Expressing her or his own views about the geographical spread of "Europe".
2) Relating the notion of "Europe" to the cultural, political, and philosophical legacies of ancient Greece, Hellenism, and Rome, and making an argument at a level appropriate for an undergraduate student.
3) Discussing, at a level appropriate for undergraduate students, the Great Migration of Germanic, Norman, and Slavic peoples and the formation of "Europe", in relation to the history of each country from the time of the collapse of the Western Roman Empire to the 10th century.
4) Explaining the relationship between Western Europe in the Middle Ages, which was formed around Catholicism, and Eastern Europe, which was formed around Orthodoxy, and the expansion of Islam, at a level appropriate for undergraduate students.
5) Describing, at a level appropriate for undergraduate students, the significance of humanism, which characterized the Renaissance, the impact of the so-called "Age of Discovery" on non-European countries, and the redefinition of the relationship between faith and politics resulting from the Reformation.
6) Argueing, both positively and negatively, about the "Eurocentric" consciousness that emerged through the development of commerce under a series of political and cultural changes, including the centralization of power, wars in colonies outside Europe, and the emergence of the "Republic of Letters".
7) Illustrating the significance for modern societies of the development of civil rights-based ideas and institutions with historical events in the United Kingdom, the United States, France, and other European countries at a level appropriate for undergraduate students.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
1) A simple quiz will be given almost every week as homework. Participation in this quiz is mandatory for all students taking the course. In order to answer this quiz, students need to use the learning support system - Hoppii (on the Internet).
2) According to the Standards for the Establishment of Universities, the minimum time of preparation and review required to earn two credits for a lecture or seminar is four hours per session.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Based on the following grading methods, students who have achieved at least 60%of the achievement objectives for this class will be considered to have passed the class (C minus or better on a letter grade basis).
1. No final exam will be given. 0%.
2. Attendance will not be taken 0%.
3. Quiz Examination [All students, regardless of their campus affiliation, including athletics and job-seeking students, can take the quiz online because of the use of Hoppii] 61%.
4. Group discussion and collaboration among students [Participation in group discussions, group discussion on Google Classroom, and sending the results to instructors, etc.] 25%.
5. End-of-term report (to be submitted only by those who wish to do so): 14%.

SOS200GA（その他の社会科学 / Social science 200）

実践国際協力

松本　悟

配当年次／単位：1〜4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学教育で「実践」から学ぶことには2つの意義があると考える。1つは体系立った学習の応用として、もう1つは新たに学習すべき領域を見つけるためである。この授業では後者を主たる目的とする。テーマは「国際開発協力」を中心的に取り上げる。国際開発協力の実践例を通して、国際社会の理解につながる思いもよらぬ学問分野の大切さを発見し、更なる学習と探究の端緒となるようにする。

【到達目標】
（1）国際開発協力の理解に必要な概念や用語を理解し説明できるようになる。
（2）国際開発協力の実践課題を抽象化し他に応用できるようになる。
（3）実践的な学習におけるグループ討議の意義を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
■基本方針：対面で実施する。学内業務の関係でオンデマンドを使用することもある。
■フィードバック：毎回の発表に対しては授業内にコメントする。また授業への質問は、学習支援システムの掲示板に質疑応答コーナーを設けて、そこでやり取りする。
■授業の方法：具体的な国際開発協力のケース（事例）をもとにグループ討議を行う「ケースメソッド」を準用する。ケース文書は毎回事前課題の宿題として課す。①受講者をグループに分けての討議、②グループ発表を含む全クラス討議、③担当教員によるコメント・補足講義、の3つの要素を組み入れる。なお、本授業のケースメソッドはビジネススクールなどで使われる問題解決の手法としてではなく、視点の抽出方法として活用する。
■授業後課題：毎回の課題文献と授業をもとに短く書く。授業後3日以内に学習支援システムに投稿。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業のねらい、ケースメソッド、各ケースの特徴、グループ分け。履修者人数の確認。
2	国際開発協力概論	国際開発協力がどのような組織によって、いかなる分野で行われているかを概観する。
3	ケース1　保健衛生プロジェクト	あらかじめ示した質問にしたがってグループ討議。ケースの理解を深める。
4	ケース1を受けたグループ発表・討議	ケース1に関するグループ発表、その後全体討議。
5	ケース2　少数民族プロジェクト	あらかじめ示した質問にしたがってグループ討議。ケースの理解を深める。
6	ケース2を受けたグループ発表・討議	ケース2に関するグループ発表、その後全体討議。
7	ケース3　参加型開発プロジェクト	あらかじめ示した質問にしたがってグループ討議。ケースの理解を深める。
8	ケース3を受けたグループ発表・討議	ケース3に関するグループ討議、その後全体討議。
9	ケース4　緊急援助プロジェクト	あらかじめ示した質問にしたがってグループ討議。ケースの理解を深める。
10	ケース4を受けたグループ発表・討議	ケース4に関するグループ発表、その後全体討議。
11	事前事業評価表を読み解く	開発援助事業の事前事業評価をその場で読んで疑問点をあげ、その妥当性をグループで討議する。
12	事前調査報告書を読み解く	開発援助事業の事前調査報告書を事前に読み、そこから導かれる実務的に重要な点をグループで討議する。
13	実際のケースから	担当教員もしくは外部のゲストの実体験をもとに、実践上の課題を議論する。
14	授業内試験	13回の授業をもとにした授業内試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
全員、授業前にケース（事例）文章を必ず「精読」して来なければならない。「精読」とは、わからない用語を自分で調べ、事実関係を理解できるように読むことを指す。通学電車の中でざっと目を通すような読み方では授業に参加できないと考えて欲しい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
山口しのぶ・毛利勝彦編（2011）『ケースで学ぶ国際開発』東信堂。

【参考書】
W.エレット（2010）『入門ケース・メソッド学習法』ダイヤモンド社。
その他、授業の中で示す。必要に応じてコピーを配布する。

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業後課題20%、事前課題文献に基づいたグループ討議への参加度40%、授業内試験40%。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。なお、授業内試験は紙媒体のものは全て持ち込み可。

【学生の意見等からの気づき】
■100分では討議と発表が終わらないという声が多いので、初めのうちは、1つのケースに授業2回分を充てる。

【学生が準備すべき機器他】
授業コードを使って必ず授業支援システムに自己登録すること。課題文献の提示や課題の提出に学習支援システム（Hoppii）を使う。

【その他の重要事項】
■国際開発協力NGOでの実務経験を有する教員が、自らが関わった具体的な開発事例を議論のためのケースとして取り上げる。
■グループ討議を軸とする授業であり、遅刻や欠席はグループ討議を困難にするため、必ず出席すること。
■グループは第3回授業から事前に固定して作る。グループ替えは3回行う。第1回授業に出席できないものの履修を希望する学生は、必ず第2回授業日前日までに履修の意思を担当教員までメールで連絡すること（smatsumoto[アットマーク]hosei.ac.jp）。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course aims to motivate students to find out specific topics or fields which they want to study more to understand international development cooperation. The Case Method is applied for this course.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1) Understanding the key concepts and the technical terms relevant to international development cooperation.
2) Turning abstract the lessons learned from the case method discussion and applying it for other cases.
3) Understanding benefits and usefulness of the group discussion in practical learning.
【Learning activities outside of classroom】
-Students will be expected to have read and analyze the assigned case documents based on the instruction before each class meeting.
-Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting.
-Totally, your study time will be at least four hours for a class.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end examination: 40%, assignments after a class meeting: 20%, in-class contribution: 40%.

HIS300GA（史学 / History 300）

Approaches to Transnational History

佐々木　一惠

配当年次／単位：**1〜4年／2単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
人数制限・選抜・抽選：
備考（履修条件等）：**国際文化学部主催科目に必要とされる英語能力基準は、TOEFL iBT 61-75、TOEFL ITP Level1 500-539、TOEFL ITP Level 2500、TOEIC675-819、ＩＥＬＴＳ6.0、英検準1級程度。基準スコアに満たない、あるいはスコアを持っていない学生は、担当教員に相談すること。**
Courses in Intercultural Communication need the higher English proficiency mentioned below: TOEFL® iBT 61-75, TOEFL® ITP Level 1 500-539, TOEFL® ITP Level 2500, TOEIC® 675-819, IELTS 6.0, and EIKEN Grade Pre-1st. If you don't have any score mentioned above, contact the instructors directly.

その他属性：〈グ〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The course takes up current social, economic, and political issues related to "the Global South," such as climate change, immigration, tourism, pandemics, repatriation of art and cultural artifacts, and Black Lives Matter, from a transnational and cross-cultural perspective, incorporating the historical past.
By discussing various topics associated with the Global South, students will gain knowledge of important contemporary phenomena, acquire concepts and theories for analyzing these phenomena, and be able to research issues related to the Global South.

【到達目標】
At the end of this course, students will be able to:
· Understand the issues surrounding the Global South and their historical background.
· Analyze issues related to the Global South using concepts and theories from the framework of global and transnational history.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
The first part of the class focuses on providing students with a broad understanding of the background of the topic covered in the assigned readings and important concepts and theories related to the topic. The class then engages in a discussion that allows students to share their insights and interpretations of the reading assignment. In the second half of the class, the focus shifts to a broader examination of the issues raised in the reading assignment. The class expands its scope to explore the implications, connections, and applications of the issues in a broader context.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week1	Introduction	An overview of the course.
Week2	Climate Change	Explores the impact of climate change on the Global South and discusses the conflict between the Global South and developed countries over environmental issues.
Week3	Tourism	Traces the images of Africa as a tourist destination created by the West in the past and discusses how such images are currently being renovated and/or reframed.
Week4	Pandemics	Explores the pandemics that have historically plagued Latin America and discusses the problems caused by Covid-19.
Week5	Representation	Analyzes exotic advertising using Edward Said's notion of Orientalism and discusses how such images are now being appropriated by the Global South.
Week6	The midterm	The Practice of Analyzing Primary Sources and a Quiz
Week7	Immigration and Citizenship	Takes up the case of past migrants from India to East Africa and discusses their current situation as citizens in African countries.
Week8	Repatriation of Cultural Heritage	Using the case of museums in Germany that own artifacts confiscated from colonies, discusses the repatriation of cultural heritage.
Week9	Black Lives Matter Movement	Explores the current controversy over public history and monuments in the wake of the Black Lives Matter movement.
Week10	Final Paper Presentation 1	10-minute presentation on an issue related to the Global South, including a historical perspective.
Week11	Final Paper Presentation 2	10-minute presentation on an issue related to the Global South, including a historical perspective.
Week12	Final Paper Presentation 3	10-minute presentation on an issue related to the Global South, including a historical perspective.
Week13	Final Paper Presentation 4	10-minute presentation on an issue related to the Global South, including a historical perspective.
Class14	Wrap up	Summary of the course

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are required to read all the assignments and be ready for class discussions, and also write a paper analyzing assigned primary sources.
Students are expected to spend about 4 hours a week on coursework outside the class.

【テキスト（教科書）】
There is no textbook for this course. All course materials are available online through the course site.

【参考書】
- Akira Iyrie, Global and Transnational History: The Past, Present, and Future(Basingstoke, UK: Palgrave Macmillan, 2013).
- Pierre-Yves Saunier, Transnational History (Basingstoke, U.K.: Palgrave Macmillan, 2013).
- Carina Schmitt, eds. From Colonialism to International Aid External Actors and Social Protection in the Global South (Palgrave Macmillan, 2020).

【成績評価の方法と基準】
① Class participation 30%
② Primary document analysis quiz 20%
③ Presentation 20%
④ Final Paper 30%
Based on the grading criteria, students who successfully achieve 60%or more of course goals will earn a passing grade.

【学生の意見等からの気づき】
N/A

【学生が準備すべき機器他】
ICT devices such as laptops and tablets.

ENV300HA（環境保全学 / Environmental conservation 300）

環境科学Ⅱ

藤倉　良

配当年次／単位：**2〜4年／2単位**
開講セメスター：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**土1/Sat.1**
備考（履修条件等）：**環ｺｱ：サ**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ア〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境問題とは人間活動が自然生態系に及ぼす物理的、化学的、生物的な作用とその反作用です。「何がおきているのか」を理解し、「どうすればよいのか」を考えるためには，科学知識が欠かせません。環境科学Ⅰでは比較的狭い地域に発生する問題について、環境科学Ⅱでは地球規模や国境を超える問題について、環境科学Ⅲでは資源の問題について論じ、受講生諸君が環境問題の発生メカニズムと対処法に関する科学の基礎を習得することを目指します。Ⅰ、Ⅱ、Ⅲのいずれかだけを履修してもかまいません。

【到達目標】
以下の環境問題の発生メカニズムと対策技術の基礎を理解することを目標とします。
・人口増加のパターンと要因
・オゾンホールが南極上空にできるメカニズム
・気候変動のメカニズムと緩和策、適応策
・気候変動をめぐる社会と政策
・プラスチックごみ対策
・環境国際協力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
テキスト（下記参照）とパワーポイントを用いて講義を行います。
講義資料は前日までにアップロードしますので、事前にダウンロードしてください。
毎回の授業後に簡単な小テストを行い、翌週の授業のはじめにそのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	国際環境政策の難しさ、条約と議定書
第2回	人口	人口増加のメカニズム、都市人口
第3回	オゾン層・1（第7章）	紫外線、フロンガス
第4回	オゾン層・2（第7章）	オゾン層破壊のメカニズム、オゾン層保護対策
第5回	気候変動・1（第8章）	ＩＰＣＣ、気候変動の科学
第6回	気候変動・2（第8章）	二酸化炭素の循環、気候予測、温暖化の影響
第7回	気候変動・3（第8章）	国際交渉の歴史、パリ協定
第8回	気候変動・4（第8章）	エネルギー資源
第9回	気候変動・5（第8章）	緩和策
第10回	気候変動・6（第8章）	適応策
第11回	気候変動・7（第8章）	気候安全保障
第12回	プラスチックごみ問題	プラスチックの性質、日本の政策
第13回	環境国際協力	開発途上国の現状、環境プロジェクトとセーフガード・ポリシー
第14回	まとめ	全体のまとめと復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義で紹介される資料等を使用して復習してください。
授業計画、テーマにカッコ内でテキストの該当する章を示しました。これをあらかじめ読んでから受講してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
藤倉良・藤倉まなみ　『文系のための環境科学入門』　有斐閣コンパクト

【参考書】
講義中に指定します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は授業後の小テストによる出席(30%)と授業内に実施する期末試験（70%)で行います。

【学生の意見等からの気づき】
中学卒業程度の理科の知識を前提に講義しますが、高校卒業以上の物理の知識が必要となる講義もあります。その場合にも、極力、平易な解説を試みます。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【実務経験のある教員による授業】
担当教員は環境庁（現環境省）で土壌汚染対策や悪臭対策、国際環境協力等を担当した他、環境基本法の立法にも関与してきました。その当時の経験等を踏まえて講義を進めます。

【Outline (in English)】
Environmental problems are physical, chemical, and biological effects and reactions on natural ecosystems caused by human activities. To understand "what is happening" and "what should be done", scientific knowledge is essential. In this course, students will learn the basic science behind the mechanisms and countermeasures of environmental problems such as climate change, ozone depletion, and acid rain. Your study time will be more than four hours for one class. A simple quiz will be given each time and attendance will be taken after the quiz is submitted. Grading will be based on a quiz (30%) and a final exam (70%).

ENV300HA（環境保全学 / Environmental conservation 300）

環境科学Ⅲ

藤倉　良

配当年次／単位：2〜4年／2単位
開講セメスター：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：土1/Sat.1
備考（履修条件等）：環ｺｱ：サ

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ア〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境問題とは人間活動が自然生態系に及ぼす物理的、化学的、生物的な作用とその反作用です。「何がおきているのか」を理解し、「どうすればよいのか」を考えるためには，科学知識が欠かせません。環境科学Ⅰでは比較的狭い地域に発生する問題について、環境科学Ⅱでは地球規模や国境を超える問題について、環境科学Ⅲでは資源の問題について論じ、受講生諸君が環境問題の発生メカニズムと対処法に関する科学の基礎を習得することを目指します。Ⅰ、Ⅱ、Ⅲのいずれかだけを履修してもかまいません。

【到達目標】
資源の歴史的意味に始まり、以下に示すさまざまな資源の性質や利用などについて学習することで、資源の科学的性質や利用の見通しについての基礎知識を習得します。
・資源の意味
・淡水
・エネルギー
・土壌とリン、窒素
・遺伝資源
・金属資源

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
テキスト（下記参照）とパワーポイントを用いて講義を行います。
講義資料は前日までにアップロードしますので、事前にダウンロードしてください。
毎回の授業後に簡単な小テストを行い、翌週の授業のはじめにそのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	資源論の社会科学	資源とは何か、「資源」の概念の歴史、資源の呪い
第2回	淡水（1）	水の循環、淡水資源
第3回	淡水（2）	ダム開発、国際河川
第4回	エネルギー（1）	エネルギーとは何か、様々なエネルギー
第5回	エネルギー（2）	埋蔵量、石油と天然ガス
第6回	エネルギー（3）	石炭、水力
第7回	エネルギー（4）	原子力、新エネルギー
第8回	土壌（1）	土壌の構造、土壌の機能
第9回	土壌（2）	世界銀行の対日援助：日本の農業開発事例
第10回	リンと窒素	循環、機能、存在
第11回	生物多様性	生物多様性保全の意義、名古屋議定書
第12回	遺伝資源	食料、医薬品
第13回	金属資源	銅、鉄、アルミニウム、鉛、レアメタル
第14回	まとめ	全体のまとめと復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回Hoppiiで配布するレジュメを使って復習してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。

【参考書】
藤倉良 (2015) 増大するアジア地域の電力、水の需要と大型ダムプロジェクト、人間環境論集、第15巻第2号、pp.157-170

【成績評価の方法と基準】
毎回の小テストの提出をもって出席とします。評価は小テスト30％、授業内に実施する期末試験70％です。

【学生の意見等からの気づき】
図を多く使用して、わかりやすい講義を行うこととします。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【実務経験のある教員による授業】
担当教員は環境庁（現環境省）在職時に生物多様性条約の策定過程に関わりました。その経験等を踏まえて講義を進めます。

【Outline (in English)】
This course includes an explanation of the importance of resources, freshwater, energy, soil, phosphorus, nitrogen, genetic resources, base metals and rare earths. Students will acquire basic knowledge about the importance of resources, the scientific nature of resources, and the prospects for their use. Major topics include freshwater, energy, soil, phosphorus, nitrogen, genetic resources, and minerals. Your study time will be more than four hours for a class. A simple quiz will be given each time, and attendance will be taken when the quiz is submitted. Grading will be based on a quiz (30%) and a final exam (70%).

ENV200HA（環境保全学 / Environmental conservation 200）

環境モデル論Ⅰ

渡邊　誠

配当年次／単位：1～4年／2単位
開講セメスター：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：金3/Fri.3
備考（履修条件等）：環ｺｱ：サ

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テーマ：環境基礎論として「地球」と「人為」を考える
モデルとは自然界や人間社会などで起きている現象、そこに働いている法則、様々な対象間の相互関係等を分析しそのエッセンスを人間にとって分かりやすく表現したものである。また人間活動などにおいて考えられる典型例や標準例、理想化された例などのことを指す場合もある。環境問題を考察するには、地球システムと人間活動の特徴を理解しそれらの関連性を分析することが必要である。地球上に生起する環境問題はどのような自然法則に支配されて（制約を受けて）いる結果なのか？ 本科目では物質とエネルギーという観点から「地球システム」と「人為」の特徴を把握し、それらを「定常開放システム」としてモデル化する。ライフサイクルアセスメントやエコロジカルフットプリントなどの具体的な環境指標についても触れることにより人間活動の特徴を調べていく。本科目の内容を通して眺めてみると、物質とエネルギーは量的に保存されるが質的に劣化する（空間的に拡散する）という特徴を意識することが環境問題を考察するための「鍵」となっていることが理解されるであろう。本科目は「物質循環」という現象や「持続可能」に関する社会的課題を科学的に考察するための基礎という位置づけになっている。

【到達目標】
地球システムとその上で行われている人間活動の特徴を科学的に考察するための背景を知ることをめざしている。具体的な目標は次に示す通りである。
・地球システムの概要について説明できる。
・自然界における物質循環（例えば炭素循環）のメカニズムについて説明できる。
・エネルギーの変換と効率について説明できる。
・物質・エネルギーに関する量の保存則と質の劣化則について説明できる。
・環境負荷の大きさを表す指標について説明できる。
・物質・エネルギーの観点から、社会の持続可能性の条件について考察できる。
本科目は環境問題を考察する上での基礎学であり必須の内容であるといえる。次の「授業計画」で述べている内容 は少し難しい表現もあるが、それも履修しているうちに大方理解で きるようになるであろう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
対面形式で授業を進めていく予定である。連絡事項等は学習支援システム上に表示する。授業資料を毎回事前に学習支援システムに掲載するので、資料を参照しながら受講してほしい。また課題を出題した場合には、提出後の授業などにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本科目の内容について。関連する他の科目（サイエンスカフェIV、統計とデータ分析、環境モデル論IIなど）の概要と本科目との関連性についての解説。
第2回	玩具「水飲み鳥」はどのようなモデルなのか？	資源として「水」を飲み、排出物として「水蒸気」を大気中に拡散させる水飲み鳥の運動のメカニズムについて。水という物質の「量の保存」と「質の劣化（消費）」についてのイメージをつかむ。そこには地球システムならびに人間活動の特徴が凝縮している。孤立系と開放系そして定常とは？
第3回	地球というシステムを眺める（宇宙から微生物までを考える）	太陽と地球そしてエネルギーを概観する。太陽定数と地球のエネルギー収支。光合成のメカニズムと食物連鎖。生態系と炭素・窒素などの物質循環。水の大循環と地球の放熱。生物（生産者、消費者、分解者）は物質循環に対してどのような役割を担っているのか？
第4回	物質と人為を考える（人間活動による物質とその移動について）	工業製品等の生産とその消費活動のプロセスを例にして、資源の採取から廃棄処分に至る過程を考察する。物質はどのように変化し最後はどこに行くのか？ 廃棄物を焼却処理すると減容化するが、はたして物質は消えて無くなったのか？
第5回	エネルギーと人為を考える（人間活動によるエネルギーの変化とその移動について）	エネルギー資源の採取から変換、利用に至るプロセスを考察する。エネルギーはどのように変換され、最後はどこにいくのか？ エネルギーは消費されるのか？ 消えて無くなるものなのか？
第6回	自然の法則と環境(基礎)	熱力学の第一法則、第二法則の文系版・超入門（その１）。これらの法則は「地球システム」、「人為」とどのように関係しているのか？ エントロピーとは何か？ 環境系のモデルとしての定常開放系について。
第7回	自然の法則と環境（発展）	熱力学の第一法則、第二法則の文系版・超入門（その２）。エントロピーが増大するとはどのようなことか？ ゴミ捨て場はエントロピーのたまり場。エントロピー増大の結果としての環境問題について。
第8回	ライフサイクルアセスメント（ＬＣＡ）に見る人為の熱力学（基礎）	人間活動の特徴をＬＣＡの立場から考察する。ライフサイクルとは何か？ インベントリ分析、システム境界などの解説。物質・エネルギーの保存則と拡散則はＬＣＡではどのように表現されているのか？
第9回	ライフサイクルアセスメント（ＬＣＡ）に見る人為の熱力学（発展）	製品やサービスに対する環境影響評価の具体例を用いて考察する。資源採掘、加工・変換、運搬、消費（使用）、廃棄、回収、処分などのプロセスと物質・エネルギーの流れについて。

第10回	エコロジカルフットプリントで環境負荷の大きさを測る（基礎）	人間活動による環境負荷の大きさをエコロジカルフットプリント指標で測る。資源消費・廃棄物等の量と土地面積への変換について。野菜の室内栽培（野菜工場）の環境負荷はどれくらいなのか？ 露地栽培と比べてどちらが負荷は小さいのか？
第11回	エコロジカルフットプリントで環境負荷の大きさを測る（発展）	人類のエコロジカルフットプリントの増大と地球の扶養力について。地球上で行われている人間活動の負荷はどれくらいなのか？ 地球は現在の人間活動を支え扶養する力を持っているのか？
第12回	持続可能性への考察（科学技術考）	資源量と廃棄物を受け取る空間の有限性（地球の有限性）から見た成長の限界について。自然界における物質循環と人工的な物質循環の考察。クローズド・ループ・インダストリは存在するのか？ ゼロエミッションは可能なのか？ そもそも永久機関は存在するのか？ エントロピー増大則に伴う人為の「壁」について。
第13回	持続可能性への考察（熱力学考）	玩具「水飲み鳥」再登場。広い空間では動き続ける水飲み鳥だが、狭い空間に置くと動きが止まる。狭い空間で動きを持続させる方法はあるのか？ エントロピーの増大と廃棄、そして循環と持続の考察へ。環境系のエッセンスを分析しモデル化する。
第14回	総括	講義内容を概観し、環境問題および社会の持続可能性について考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義資料等を使用して必ず予習・復習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。必要に応じて学習支援システムに授業資料を掲載します。

【参考書】
開講時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
本科目では期末試験を行う予定です。また授業内においてレポートを提出してもらうことがあります。成績は期末試験の結果80％、提出されたレポートの充実度20％によって判定します。

【学生の意見等からの気づき】
授業をゆっくりと進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
くれぐれも「自分は理系でないからこの科目を履修しない」という考え方をもたないでください。この科目には環境問題を含めた社会の持続可能性を考察する上で大切な内容がたくさんあります。文系の皆さんにこそ履修してほしいと考えています。
本科目は「環境モデル論II」とは独立した科目ですが、内容的に関連していますので併せてその科目を履修することをお薦めします。また本科目に関する基礎的位置づけとして「サイエンスカフェIV」があります。もちろんこれも独立した科目ですが理解度をより高めるためにはそれを履修することもお薦めします。

【Outline (in English)】
（Course outline）Theme: Introduction to modelling of the earth system and human action. Aim of this course is to acquire the basic knowledge concerning environmental problems and sustainability of the earth. The scientific approach is schemed with thermodynamics. In order to consider the problems, we need to understand the mechanism of the earth system including energy balance and material circulation on it. Feature of human action is required to be examined with relation to natural law on it. This course mainly deals with the matter “energy and materials” which is analyzed through the law of thermodynamics appeared in the field of physics. We formulate the nature of the energy conversion and flow of materials on the earth. The earth system is modeled as one of the stationary-open systems. The techniques of the life-cycle assessment and the ecological-foot print are introduced here. In this course, we recognize that the concept is important for the first law of thermodynamics as energy conservation and the second one as quality consumption (i.e. entropy increment). This is valid not only for energy phenomena but also for material ones. （Learning Objectives） At the end of this class, we are expected to have the concept of the mechanism of the earth system and human actions based on the thermodynamics. We are expected to understand the life-cycle assessment and the ecological footprint. As actual examples of the objectives, students will explain the mechanism of the energy conversion and material circulation. We need to understand the concept of entropy increment and its discharge. The conditions for sustainable society will be discussed.（Learning activities outside of classroom） We will be expected to spend two hours to prepare research report before each class. After it we need two hours to understand the content. The sum is four hours for each class. （Grading Criteria /Policy） The grade of the class is decided with the term-end examination 80%and reports presented in class 20%.

EDU200MA（教育学 / Education 200）

学習の社会史B

展開科目

寺崎　里水

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水2/Wed.2　｜　配当年次：2〜4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本の社会を特徴づける要因のひとつとして学習、学歴、試験といった事柄に注目し、個人的なものと考えられている学習意欲が、学歴や試験、学校、学習集団といった社会的なものといかに関わっていったのかを考察する。

【到達目標】
授業中に学んだ概念、理論をいかし、歴史的事象を説明できる。
日本史の基礎的な知識をベースとし、現代の教育問題と関連付けて考えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
スライドで資料を提示し、それ以外は板書する形で授業を行う。必要な資料は事前に学習支援システムで配布するが、板書内容やスライドファイルの配布は行わない。履修者は筆記用具を用意し、適宜ノートをとること。
授業内で課題提出を課すことがある。また、知識の定着を促すため、中間まとめの小テストを二度、課す。
課題提出は授業支援システムを通じて行う。課題や小テストに対するフィードバックは授業内に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方、評価の方法について説明する。社会史とはなにかについて学ぶ。（オンデマンド）
第2回	教育制度と学歴	近・現代社会における教育の役割について、教育制度と学歴という観点から考える。 古代、中世、近世における諸制度と教育機関について振り返る。
第3回	学歴主義の誕生	立身出世主義、受験生をキーワードに、近代以降の個人と学習の関係の理解を深める。
第4回	教育制度の成立過程と学校間格差	学校間の威信の格差について、学校教育制度の成立過程から考える。
第5回	中間まとめ①教育制度と学歴主義	小テストを実施し、その後、教育生徒と学歴主義に関する内容を復習する。
第6回	学校という場の権力性	学校が持つ規律訓練の力について考える。
第7回	試験と競争	学力や学歴をめぐる競争の仕組みの誕生について、試験制度を切り口に学ぶ。
第8回	学校の教育と村の教育	学校の教育と村の教育は何が異なっていたのか、考える。
第9回	中間まとめ②学校と試験	小テストを実施し、その後、学校と試験に関する内容を復習する。
第10回	家庭、主婦の誕生	女性と社会の関係について、家庭、主婦といったことばを手掛かりに考える。
第11回	教育家族の誕生	教育熱心な親の誕生、学校と親の関係の変化について考える。
第12回	女性にとっての成功	女性が学歴をめぐる競争にいかに巻き込まれていったのかについて学ぶ。
第13回	女子の身体観をめぐる教育の葛藤	女子の制服と運動用制服の成立過程を通して、女子の身体観をめぐる学校教育の役割について考える。
第14回	まとめと試験	制度の成立は我々の学ぶという行為にどのような影響を及ぼし的たのか、全体の振り返りを行う。 授業内試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指定文献や配布資料の精読を必須とする。日本史の知識が必須なので、各自高校までの内容を復習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
とくに指定しない。必要に応じて指示する。

【参考書】
必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業内の課題、小テスト40％、課題10％、試験50％

【学生の意見等からの気づき】
学生の反応を大切にしながら授業を進める。

【Outline (in English)】
Course Outline: This class aims for students to acquire advanced knowledge about Japanese history through keywords such as school, learning, examination, and family.
Learning Objectives: To be able to explain historical events using the concepts and theories learned in the class.
Learning Activities Outside of Classroom: Preparation and review should be 2 hours each.
Grading Criteria: In-class review mini-test and assignment submission 50%, final report 50%.

SOC200MA（社会学 / Sociology 200）

アート・マネジメント論　　展開科目

荒川　裕子

単位数：2単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：火5/Tue.5　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会のシステムや価値観が大きく変化していきつつある現在、わたしたちの生き方や考え方、働き方などにおいて、「創造性（クリエイティビティ）」が強く求められるようになってきています。そのようななかで、自由な発想や表現にのっとって生み出されるアート、もしくはアート的な要素が、かつてないほど注目を集めています。この授業では、アートのもつ美的価値に加えて、近年重視されているその社会的・経済的価値についても多角的にアプローチし、現代社会におけるアートの位置づけや意義を明らかにし、キャリアデザインに活かす方法を探ります。

【到達目標】
わたしたちの生活をより豊かなものにしてくれるアートは、どのように生産（創造）され、流通（普及）し、消費（鑑賞）されているのでしょうか。この授業では、現代社会におけるアートのしくみを学びます。特に、アートを「生み出す人」（アーティスト）と、アートを「享受する人」（観客、愛好家、市民など）のあいだに立ち、アートと一般の人々とを「つなぐ人」（サポーター、マネージャー、プランナーなど）に焦点を当て、彼ら「つなぎ手」たちが、地域社会や企業のなかでどのような活動を展開しているのかを探り、アートがわたしたちのキャリアデザインにいかに資するのかを理解します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
各回ごとにトピックを設定し、ビジュアル資料や文献資料を用いて具体的な事例を紹介しながら、アートとはなにか、わたしたちの生活や仕事にどのように活かしていくことができるのか、といったことを探ります。受け身の講義に終始せず、学生自身のアイディアや体験に基づくプレゼンテーションの機会を設け、ディスカッションを通じて理解と考察を深めていきます。ほぼ毎回リアクションペーパーを書いてもらい、次の授業の際にフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の目的と進め方について説明する。
第2回	学問領域としてのアート	アートに関する専門的な研究領域について概説する。
第3回	「美」とは何か①	古来、人々が「美」をめぐってどのような探究を行ってきたのかを概観する。
第4回	「美」とは何か②	近代以降の「美」の概念の変化について論じる。
第5回	「アート」の誕生	西洋近代にアート（芸術）という領域が成立した背景を探る。
第6回	「アート」の制度化	アートが社会のなかに定着していく過程をたどる。
第7回	「アート」の伝播	明治以降の日本にアートという概念が導入された経緯をたどる。
第8回	「アート」の変容①	1960年代頃を境にアートの表現が大きく変化していった経緯をたどる。
第9回	「アート」の変容②	20世紀の末以来、アートという領域が著しく拡大した背景を探る。
第10回	生活のなかのアート	わたしたちの暮らしにアートがどのように関わっているのかを考える。
第11回	地域とアート	アートを活用したまちづくりや地域活性化について学ぶ。
第12回	企業とアート	企業活動のなかにアートがどのように取り入れられているのかを具体的に探る。
第13回	アートを支える多様な人材	社会とアートを結びつけるつなぎ手について考える。
第14回	まとめと試験	現代社会におけるアートの役割について、半期の授業を通して得られた知見を振り返り、考察を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
美術館や劇場、ライブハウス、音楽フェスティバル、地域のアート・プロジェクトなど、アートの現場に実際に足を運び、現代の日本におけるアートの諸様相やその課題についてフィールド調査を行い、その成果をレポートにまとめたりプレゼンテーションを行うことが求められます（フィールド活動の際に、入場料などの費用が若干かかる可能性があります）。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に指定しませんが、授業中に資料を配布したり読むべきリンク先を指示したりします。

【参考書】
徳丸吉彦・利光功『芸術文化政策Ⅰ　社会における人間と芸術』日本放送出版協会
川崎賢一・佐々木雅幸・河島伸子『アーツ・マネジメント』日本放送出版協会
※このほか、授業中に適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度（課題の成果、ディスカッションへの参加など）：45％
期末レポート：55％

【学生の意見等からの気づき】
学生によるプレゼンテーション／ディスカッションの時間を十分確保するよう心がけたいと思います。

【Outline (in English)】
As social systems and values are undergoing major changes, there is a growing demand for creativity in the way we live, think, and work. Under these circumstances, art, or artistic elements produced based on free ideas and expression, are attracting more attention than ever before. In this class, in addition to the aesthetic value of art, we will take a multifaceted approach to its social and economic value, which has been emphasized in recent years, to clarify the position and significance of art in contemporary society and explore ways to apply it to "Career Design".
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end report: 55％, in class contribution: 45％

MAN200MA（経営学 / Management 200）

就業機会とキャリア特講E-働くことと労働組合-

武石　恵美子、佐藤　厚

単位数：**2単位**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
曜日・時限：**火4/Tue.4**　｜　配当年次：**2〜4年**

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、連合（日本労働組合総連合会）と教育文化協会が主催する寄付講座です。毎回、職場の最前線で活躍するユニオン(労働組合）リーダーをゲスト講師としてお招きし、働くことに伴う様々な課題や課題解決のための労働組合の活動などについて、働く側の目線で事例を交えながら講義していただき、受講者からの質疑により理解を深めます。

講義は、働く意味を見つけること、働く環境や労働条件をより良くすること、職場の仲間を作っていくことなど、具体的な企業情報や業界情報を交えながら行います。変動する職場環境の中で、働く人たちのキャリアデザインも揺らいでいます。その中で働く人々はどのような困難を抱え、労働組合はどのような役割を果たしているのでしょうか。様々な立場にある労働組合関係者のお話を聞きながら、一緒に考えていきます。

学生の間に、働く現場のリアルで最新の情報を聞けるのはとても貴重な機会です。

【到達目標】

働く現場の変化や、安心して働く上での問題について、深く理解している。
企業や業界の実務知識や労働法制、社会的支援などの知識を身につけている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は、ゲスト講師に自らの経験に基づいて講義していただき、その後質疑応答を行います。質疑にあたっては、適宜、グループワークを取り入れる予定です。

授業の進め方やレポートに関する説明は第1回目の授業で行いますので、受講を考えている学生は、第1回目授業を必ず受講をしてください。

ゲスト講師からは、労働組合の活動について説明していただくだけでなく、様々な業界や企業の最新の情報についても講義してもらいます。学生からの主体的な参加により理解が深まりますので、積極的に質問などをしてください。なお、ゲスト講師との調整により、計画に変更が生じる可能性がありますので、定期的に学習支援システムで予定を確認してください。

授業で使用する資料等は、学習支援システムにおいて、受講登録者に当該授業の前に提供します。資料内容を確認し、資料を準備して授業を受講してください。各回の授業では質問の時間を多めに確保しますので、積極的に質問をおこなってください。そのことが、皆さんの疑問や問題意識に対するフィードバックとなり、また、毎回のゲスト講師の方の論点の深掘りにも寄与することとなります。なお、若手組合員とのグループディスカッションも可能な範囲で組み込む予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	【オリエンテーション】 労働組合とは何か	担当教員から授業の導入を行い、「労働組合とは何か」を理解する
2	【開講の辞】 連合寄付講座で法政大学の皆さんに学んでほしいこと 【課題提起①】 「働くこと」について考える〜労働組合の役割と意義〜	【開講の辞】 連合寄付講座の開講の趣旨を伝えることで、本講座を通じて学んでほしいことは何かを理解してもらう。 【課題提起①】 「働くこと」について考えてもらうとともに、労働者を取り巻く現状と課題を明確化する。また、労働組合の役割や意義について学び、労働組合がめざす社会のイメージを掴んでもらう。 （2024年度ゲストは教育文化協会）
3	【ケーススタディ①】 労働時間の短縮に向けた取り組み	働く者が健康で安心して暮らすために、労働組合はどのように取り組んでいるのか。長時間労働の是正や休暇取得の促進など、労働時間の短縮に向けた取り組み事例を聴き、理解してもらう。近年導入の進んでいるテレワークに関する事例にも触れてもらう。（2024年度ゲストは生保労連）
4	【ケーススタディ②】 公務労働の現状と公共サービスの役割	「安定した職場」と言われる公務員の働き方の現状はどうなっているのか。公務職場の現状・課題と良質な公共サービス（新しい公共）の実現に向けた公務労組の取り組み事例を聴き、理解してもらう。（2024度ゲストは自治労）
5	【ケーススタディ③】 雇用と生活を守る取り組み	技術革新やグローバル化が進む中、労働組合はどのように働く者の雇用と生活を守るのか。企業組織再編や倒産時などにおける中小企業労組の取り組み事例、ものづくり産業における熟練技能継承支援の取り組み事例、外国人労働者を取り巻く実情等を聴き、理解してもらう。 （2024年度ゲストはJAM。若手職員含めたグループディスカッションを実施）
6	【ケーススタディ④】 非正規雇用労働者の組織化と処遇改善に向けた取り組み	なぜ、非正規雇用労働者の組織化や処遇改善が必要なのか。企業別労組における非正規雇用労働者の労働組合加入および正規雇用労働者との処遇格差是正に向けた取り組み事例を聴き、考えてもらう。（2024年度ゲストは伊藤ハム労働組合）
7	【ケーススタディ⑤】 男女がともに働きやすい職場づくりに向けた取り組み	男女がともに活き活きと働き続けるための課題や具体策とは何か。職場の環境改善や当該課題の解決に取り組む労働組合役員から話を聴き、考えてもらう。 （2024年度ゲストはJP労組）
8	【ケーススタディ⑥】 デジタル化の進展に伴う課題と労働組合の役割	AI技術やDXの進展に伴う働き者への影響と、それに対して労働組合ではどのような対応が行われているのかを聞き、デジタル化が進展する中で働くということについて考えてもらう。 （2024年度ゲストはKDDI労働組合）。

9	【課題への対応①】 カスタマー・ハラスメントへの労働組合の対応	顧客からの悪質なクレーム（カスタマー・ハラスメント）が社会課題化する中で、現場の実態と、労働組合の対応について、法制化に向けた流れも含めた取り組みを聴き、理解してもらう。（2024年度ゲストはUAゼンセン）
10	【課題への対応②】 いま働く現場で何が起きているのか ～労働相談からみた若者雇用の現状～	若者に関わる労働相談事例等からいま職場で起きている問題を身近なものとして捉えてもらうとともに、それらの解決に向けた労働組合の役割とワークルールの重要性について理解してもらう。（2024年度ゲストは中央労働相談センター）
11	【課題への対応③】 労働諸条件の維持・向上に向けた取り組み	労働組合は、働く者の労働条件の維持・向上に向けて、どのように取り組んでいるのか。なかでも代表的な取り組みとして挙げられる「春闘」は、なぜ同時期に全国一斉に行うのか。連合の取り組みを聴き、学生に理解してもらう。（2024年度ゲストは連合（労働条件・中小地域対策局））
12	【課題への対応④】 労働者保護ルールの堅持・強化に向けた取り組み	働く者を守るために、労働組合は法改正や制度改正にどのように関わっているのか。働く者の健康確保や安全確保の強化や、雇用形態に関わらずすべての働く者の雇用安定・処遇改善に向けた取り組みを聴き、理解してもらう。（2024年度ゲストは連合（労働法制局））
13	【修了講義】 連合運動の現在と未来 ～これから社会へ出る皆さんへ～	すべての働く者が安心してくらすことができる社会の実現に向けて、連合・労働組合は何をすべきか。連合の課題認識を聴いて、これからの社会や働き方、連合運動の役割について具体的に考えてもらう。（2024年度ゲストは連合事務局）
14	【論点整理】 「働くということ」と労働組合	担当教員が、ケーススタディーを振り返り、それぞれの課題と労働組合の役割の確認を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
初回授業時に全14回分の講義概要を配布します。それをもとに、会社、業界、労働組合について下調べをしておいてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。

【参考書】
授業内で随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（コメント内容含む）が50％、レポートが50％。
毎回の授業への積極的な参加を重視する。

【学生の意見等からの気づき】
労働用語、組合関連用語も随時説明していきます。

【その他の重要事項】
授業の予定はゲスト講師との調整により、テーマ内容の変更や順番の入れ替え等が発生する可能性があります。大きな変更は予定していませんが、最初の授業で詳細な予定を提示しますのでご了承ください。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This class is a donation course sponsored by the Union (Japan Trade Union Confederation) and the Education and Culture Association. Each time, we invite labor union officials who are active on the front lines of the workplace as guest lecturers to give lectures on the activities of the labor union with examples. Lectures will be given with company information and industry information, such as finding the meaning of work, improving the working environment and working conditions, and making colleagues in the workplace. In the changing work environment, the career design of workers is also shaking. What difficulties do the people working in it have, and what role does the union play? We will think together while listening to the stories of labor union officials from various positions.
【Learning Objectives】
Students are expected to understand deeply the changes in the workplace and the issues involved in working in a safe and secure environment.
They are also expected to acquire practical knowledge of companies and industries, labor laws, and social support.
【Learning activities outside of classroom】
A total of 14 lecture outlines will be distributed at the time of the first class. Use it to do some preliminary research on companies, industries, and trade unions. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
In-class contributions (including comments): 50%
Term-end report: 50%.

HIS200LA（史学 / History 200）

日本史ＬⅠ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

貫井　裕恵

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月**5/Mon.5
単位数：**2単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ユネスコ「世界の記憶」に採択されている国宝「東寺百合文書」をおもな題材として、歴史を学ぶための基本的な考え方を習得し、史料読解の方法を学びます。「東寺百合文書」は寺院社会のみならず、朝廷・公家・武家・民衆といったあらゆる階層の人々のすがたをいまに伝える貴重な文書群です。「東寺百合文書」を通じて日本中世社会への理解を深めましょう。＊日本史ＬⅡもあわせて受講することを強く推奨します。

【到達目標】
・「東寺百合文書」を通じて、日本中世社会への理解を深める。
・歴史史料から歴史像を浮かび上がらせる醍醐味を味わう。
・歴史研究における論理展開の発想と、文献に基づく議論構築の手法を学ぶ。
・文化財のもつ多様な価値とさまざまな見方を学ぶ。
・くずし字に親しみ、解読できるようになる。
・国際社会において日本の歴史文化や文化財の魅力を説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
基本的に対面授業で実施しますが、大学の方針に従い、適宜柔軟に対応します。学習支援システムを通じてお知らせします。
毎回の講義ごとに、レビューシート（リアクションペーパー）の提出を求めます。次の授業で、レビューシートに寄せられた疑問や質問、気づきに応答するかたちで復習を行います。
授業期間内に、文化財関連の研究所・美術館・博物館へ見学に行っていただき、感想の提出を求めます。上記のレビューシート同様に、授業内で共有します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の目的と課題、評価方法などの説明
2	歴史学の流れと日本中世史	歴史学の発展と、そのなかでの日本中世史研究の大きな流れを学ぶ
3	中世社会と東寺	日本中世社会の構造と、そのなかでの東寺の位置づけなど、本授業のおおまかな流れや前提となる知識を学ぶ
4	東寺百合文書について	東寺百合文書の特質と採択されているユネスコ「世界の記憶」について学ぶ
5	寺院組織	東寺をはじめとする中世寺院の組織と構造を学ぶ
6	史料管理（アーカイブズ）	中世寺院における史料管理のありかたを学ぶ
7	芸能	能・狂言の淵源となった、中世寺院周辺で行われた様々な芸能を学ぶ
8	喫茶文化	中世寺院における僧侶や民間における喫茶文化を学ぶ
9	寺誌・縁起	寺院における歴史叙述のありかたを学ぶ
10	絵巻	『弘法大師行状絵巻』など寺院における絵巻作成の背景や利用方法などを学ぶ
11	荘園の構造・荘園絵図の世界	中世荘園制社会について学び、荘園絵図も紹介しつつ、中世社会の諸問題を学ぶ
12	文化財を守り伝える	文化財が現代まで守り伝えられてきた意義を学ぶ
13	現代社会と歴史学研究	現代社会において歴史学を学ぶ意義を学び、受講者と討論する
14	まとめ	受講者の質疑応答とレポート内容の報告会および講評、本講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜配布します。

【参考書】
・佐藤進一『新版　古文書学入門』法政大学出版局、2003年
・京都府立総合資料館編『東寺百合文書にみる日本の中世』京都新聞出版センター、1998年

【成績評価の方法と基準】
レポート60％、平常点40％で評価する。ただし、平常点には、毎回提出を求めるレビューシートでの意見・感想の内容を含む。

【学生の意見等からの気づき】
毎回提出を求めているレビューシートに基づき、次回の授業の冒頭でレビューシートの内容を紹介しながら復習を行い、授業内容のフォローアップを実施する。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
・日本史ＬⅡもあわせて受講することを強く推奨します。
・日本の古代・中世に関心のある方はもちろん、日本の文化、美術館や博物館、文化財に興味を抱く学生の履修をとくにお待ちしております。
・高校で日本史を学んでいなくても、受講に支障はありません。
・日本の歴史と文化、文化財の魅力を自分の言葉で海外に発信できるようになりましょう。

【Outline (in English)】
【Course outline】The Outline of this class is learning of the medieval history of Japan.【Learning Objectives】The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to understand the medieval history of Japan.【Learning activities outside of classroom】You spend 2hours preparating and reviewing each class.【Grading Criteria /Policy】You need to hand over review sheets each class and reports last class.

HIS200LA（史学 / History 200）

日本史ＬⅡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

貫井　裕恵

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月**5/Mon.5
単位数：**2単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ユネスコ世界記憶遺産に採択された国宝「東寺百合文書」をおもな題材として、歴史を学ぶための基本的な考え方を習得し、史料読解の方法を身につけます。「東寺百合文書」は寺院社会のみならず、朝廷・公家・武家・民衆といったあらゆる階層の人々のすがたをいまに伝える貴重な文書群です。「東寺百合文書」を通じて日本中世社会への理解を深めましょう。＊日本史ＬＩもあわせて受講することを強く推奨します。同授業の発展的内容になります。

【到達目標】
・「東寺百合文書」を通じて日本中世社会への理解を深める。
・歴史研究における論理展開の発想と、文献に基づく議論構築の手法を学ぶ。
・歴史史料から歴史像を浮かび上がらせる醍醐味を味わう。
・文化財のもつ多様な価値と読み解き方を学ぶ。
・くずし字に親しみ、解読できるようになる。
・国際社会において日本の歴史文化や文化財の魅力を説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
基本的に対面授業で実施しますが、大学の方針に従い、適宜柔軟に対応します。学習支援システムを通じてお知らせします。
毎回の講義ごとに、レビューシート（リアクションペーパー）の提出を求めます。次の授業で、レビューシートに寄せられた疑問や質問、気づきに応答するかたちで復習を行います。
授業期間内に、美術館・博物館へ見学に行っていただき、感想の提出を求めます。上記のレビューシート同様に、授業内で共有します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の概要や評価方法を知る
2	歴史学と日本中世史	日本における歴史学の流れと、中世史の歩みを学ぶ
3	寺院史料論	中世寺院における史料（聖教・古文書等）とその社会について学ぶ
4	寺院史料と東寺百合文書	中世寺院における史料群の形成と伝来を概観し、東寺百合文書の特質を探る
5	中世寺院・東寺の誕生	古代から鎌倉初期に至る東寺の歴史を学ぶ
6	鎌倉幕府と東寺	建久年間の文覚上人による東寺復興事業や蒙古襲来をとりあげながら、寺院と武家の関わりを学ぶ
7	本末相論	鎌倉中～末期における東大寺・醍醐寺の本末相論との関わりに焦点をあてながら、同時期の東寺の宗教環境を学ぶ
8	アーカイブズの形成と伝来	中世寺院における文書・聖教群の形成と管理のありかたを学ぶ
9	東寺領荘園の展開	鎌倉末期から南北朝期にかけて拡充した東寺領荘園とその展開を学ぶ
10	東寺の伽藍修造事業	東寺大勧進職が推進した室町期における修造事業について学ぶ
11	弘法大師信仰の展開	東寺御影堂を中心に展開した弘法大師信仰とその社会的意義を学ぶ
12	寺院の芸能	古典芸能に通じる、室町期に発達した寺院における芸能について学ぶ
13	応仁・文明の乱	応仁・文明の乱という大乱に際して、人びとがどのように対応したのかを学ぶ
14	まとめ	現代社会において歴史学研究の果たす役割を学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・使用テキストは事前に予習しておく。（各回2時間程度。予習の仕方については教場で説明します。）
・プリントやノートを用いた復習を行う。（各回2時間程度。復習の仕方については教場で説明します。）
・本授業の最終にレポートをまとめて提出する。（テーマや執筆方法については、教場でお伝えします。）

【テキスト（教科書）】
適宜配布します。

【参考書】
・佐藤進一『新版　古文書学入門』法政大学出版局、2003年
・京都府立総合資料館編『東寺百合文書にみる日本の中世』京都新聞出版センター、1998年
このほか、授業の進行状況に応じてお伝えします。

【成績評価の方法と基準】
レポート60％、平常点40％で評価する。ただし、平常点には、毎回提出を求めるレビューシートでの意見・感想の内容を含む。

【学生の意見等からの気づき】
毎回提出を求めているレビューシートに基づき、次回の授業の冒頭でレビューシートの内容を紹介しながら復習を行い、授業内容のフォローアップを実施する。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
・日本史ＬⅡもあわせて受講することを強く推奨します。
・日本の古代・中世に関心のある方はもちろん、日本の文化、美術館や博物館、文化財に興味を抱く学生の履修をとくにお待ちしております。
・高校で日本史を学んでいなくても、受講に支障はありません。
・日本の歴史と文化、文化財の魅力を自分の言葉で海外に発信できるようになりましょう。

【Outline (in English)】
【Course outline】The Outline of this class is learning of the medieval history of Japan.【Learning Objectives】The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to understand the medieval history of Japan.【Learning activities outside of classroom】You spend 2hours preparating and reviewing each class.【Grading Criteria /Policy】You need to hand over review sheets each class and reports last class.

ART300LA（芸術学 / Art studies 300）

美術論 A

2017年度以降入学者

稲垣　立男

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水3**/Wed.3
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
2024年度の美術論Aでは、古代から現代までの西洋美術の基本的な内容を俯瞰的且つ実践的に学びます。現代の美術を理解するために重要な西洋近代美術史がテーマとなります。
特に
・美術を理解するための基礎となる美術史とその理論
・各時代のアーティストの実践（アイディアや制作論）
について段階的に幅広い視点で学んでいきます。
以下の単元で講義を進めます。（詳しくは授業計画を参照して下さい。）
・古代美術、中世美術、近世美術
・近代美術
・現代美術
また、単元毎に実施するワークショップを通じて実践的に美術を学びます。

【到達目標】
西洋美術の思想や基本的な考え方についていくつかのキーワードを取り上げ、具体的な作品や作品にまつわる言説を踏まえながら、その背景となる見方や考え方について考察します。ワークショップでは、各単元で学んだ内容を基として作品制作や展覧会企画、美術批評などの実践的なチャレンジに取り組みます。美術の理論と実践の密接な結びつきを理解し、創造的なアプローチを身につけることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
基本的に対面授業を予定していますが、新型コロナウィルスの感染状況によりオンラインで行う場合もあります。対面授業とオンライン授業について、学ぶ内容については同一です。まずはシラバスで授業の内容を確認してください。
資料
授業前にGoogle sitesで資料を配布します。授業中の閲覧の他、予習復習に活用して下さい。
課題
受講後Google Formsで課題とレポートを提出してもらいます。提出期間は授業終了後数日程度です。
質問・相談
一般的な質問や相談についてはGoogle Classroomのチャット機能を使ってください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
4/9	オリエンテーション	授業の概要 美術史の学び方
4/16	古代美術 原始美術/先史美術、メソポタミア美術、エジプト美術、エーゲ美術、ギリシャ美術、ローマ美術	文字の生まれる以前=先史時代の美術や、西洋美術史の出発点となるメソポタミアやエジプトなどの最古の文明から生まれた美術など古代美術について学びます。原始・先史美術からメソポタミア、エジプト、ギリシア、ローマまでの古代美術について扱います。かなり広範囲になります。歴史を学ぶことはその広がりを考えると果てがありませんが、まずは大きな流れを捕まえておくことが大切だと思います。
4/23	中世美術 初期キリスト美術、ビザンティン美術、初期中世美術、ロマネスク美術、ゴシック美術	ルネサンス以前の、多くの民族や地域とキリスト教美術が結びついた中世美術について学びます。ローマ時代からルネサンス以前までのキリスト教と関連した美術の流れについて学びます。この後出てくるルネサンスの美術と比較して、シンプルでわかりやすい装飾的な図像という印象です。悪くいうと形骸化しているとも言えますが、キリスト教の拡大のために必要であったと想像できます。 それぞれの美術が展開した場所と時期は以下のようになっています。 初期キリスト教美術（西ヨーロッパ）（2〜7世紀） ビザンティン美術（東ヨーロッパ）（4〜15世紀） 初期中世美術（ドイツ、フランス、アイスランド）（5〜10世紀頃） ロマネスク美術（西ヨーロッパ）（11 12世紀） ゴシック美術（西ヨーロッパ）（12 15世紀）
5/7	近世美術 ルネサンス美術、バロック美術、ロココ美術	ギリシア美術やローマ美術を見直し人間の尊厳が再認識されたルネサンス美術、ポルトガル語で「歪んだ真珠」を意味するバロック美術、フランスで発展した装飾性の強いロココ美術について学びます。
5/14	ワークショップ1単元の復習 ・古代美術、中世美術、近世美術 ワークショップ・伝える方法・絵から文字へ	これまで学んだ時代の文化を違うベクトルから見てみましょう。この時代は文字の発達した時代でもあり、情報を残し、伝えるために絵を描くことの発見、それらが発展（もしくは変化）して現在の文字の発明につながっていきました。ギリシア時代には現在使われているアルファベットとほとんど同じものが使われていました。 絵画や文字が発明されたことで、人間は様々な過去の事柄を記録することができるようになり、これらはコミュニケーションの手段の一つとなって、メディアが登場します。芸術の分野でも近代になってコンセプチュアル・アートのような概念的な表現が多くなり、文字は中心的な存在となります。

5/21	近代美術1 新古典主義　ロマン主義　写実主義　バルビゾン派　ラファエル前派	近代の始まりと芸術運動に関する講義を行います。近代は、市民革命と産業革命によってその幕が開けられました。この時期の重要な出来事や社会の変遷が、芸術にも深い影響を与えました。市民革命によって生まれた新しい社会秩序や価値観、そして産業革命による技術の進化が、芸術家たちに新たな表現の手段を提供しました。古典（ルネサンス）への回帰としての新古典主義、自由な感性や多様な美の表現を尊重したロマン主義、ありのままの日常を客観的に描こうとする写実主義、ありのままの自然を描こうとするバルビゾン派、芸術を通じて道徳や真実を探求するラファエル前派について学びます。
5/28	近代美術2 印象派 、新印象派、ポスト印象派 ナビ派　世紀末芸術　象徴主義（ロシア象徴主義）　素朴派　アーツアンドクラフツ運動　アール・ヌーヴォー　分離派	写実主義の考えを引き継ぎ、現実をそのままに鮮やかで明るい色彩の印象派 、印象派の色彩理論をさらに化学的に追求した新印象派、印象派を批判的に受け継ぎ、乗り越えようとするポスト印象派について学びます。19世紀のフランスを中心としたヨーロッパでは、印象派を軸として次々と新しい芸術運動が現れてきます。アーツ・アンド・クラフツ運動やアール・ヌーボーなど、生活と結びついた芸術運動も生まれてきました。今回の授業ではそうした様々な動向について扱いますが、見るものをどのように解釈するのか、心の中で感じ取ったものをどのように表現するのかといった写真が発明された以降の課題（そっくりそのまま写しと売るのではなく、絵画独自の特徴を追求する）について、様々な取り組みや実験がスタートします。
6/4	ワークショップ2 単元の復習・近代美術1、近代美術2 ワークショップ・デッサンの手法	中世、近世、近代美術の復習とワークショップをします。ワークショップでは、絵画を違う観点から考えてみましょう。絵画の目的は現実の世界を平たい神やキャンバスに定着させることにありますが、歴史の中で様々なテクニックが生まれました。色をだんだん薄くしてみる、前後のものを重ねてみる、近いものを下、遠いものを上の方に描いてみるなどで、奥行きは表現できます。私たちの学んだ中世、近世から近代美術にかけて最も進化したのは線遠近法と呼ばれる方法です。今日は遠近法について理解を深めましょう。
6/11	近代美術3 野獣派、キュビズム、表現主義、ナビ派 、世紀末芸術 、象徴主義、素朴派、アール・ヌーヴォー	ポスト印象派以降の絵画の新しい試みに関しての講義です。ポスト印象派と呼ばれた画家のゴーギャン、ゴッホ、セザンヌは、印象派以降の20世紀の前衛芸術運動に大きな影響を与えました。後期印象派という言葉は1906年に美術批評家ロジャー・フライが最初に使い、また1910年にロンドンのグラフトン・ギャラリーで彼は「マネと後期印象派の作家たち」という展覧会を企画し、そのタイトルで正式にこの言葉をいました。ゴーギャンやゴッホの大胆な色彩や画家の内面性を追求する姿勢は印象派にはなかったもので、またセザンヌは形態の解釈にエネルギーを注ぎました。これらの発想は、フランスを中心としたフォービスムやキュビスム、ドイツを中心とした表現主義の芸術運動に大きな影響を与えました。
6/18	近代美術4 未来派、ダダイズム、シュルレアリスム、デ・スティル、バウハウス 、ロシア構成主義	1914年から起きた第一次世界大戦は、ドイツ・オーストリア・イタリアが中心の同盟国とロシア・フランス・イギリスの連合国との戦いでした。また、1917年のロシア革命を発端としてソビエト連邦ができました。この講義では、ロシア革命前後のロシア構成主義とシュプレマティズムについて、また第一次世界大戦前後のアバンギャルド芸術運動（前衛芸術）である未来派、ダダイズム、シュルレアリズムについて学びます。また、現代アートの基となるコンセプチュアルな発想や、パフォーマンスやインスタレーションの原型となるような作品が登場します。
6/25	ワークショップ3 ワークショップ・単元の復習　近代美術3 、近代美術4	今日は「表現の生まれる場所」というテーマで表現の原理原則のような出来事を体験するワークショップをしましょう。特に以下のキーワドについて考えていきます。 ・テキスト ・音 ・身体
7/2	現代美術1 アンフォルメル　抽象表現主義ヌーボー・レアリズム、アルテ・ポーヴェラ	第二次世界大戦前後の芸術運動についてお話をします。大戦を挟んでアートの現場がヨーロッパからアメリカに移行します。第二次世界大戦で大きなダメージを受けたヨーロッパに代わり、経済力を背景にアメリカが現代芸術の中心地となりました。抽象表現主義などアメリカを中心として登場した芸術運動、アンフォルメル、ヌーボー・レアリズム、アルテ・ポーヴェラなどヨーロッパの動向についても学びます。

7/9	現代美術2 ネオダダ、ポップアート、ミニマルアート、コンセプチュアルアート　新表現主義	1960年代になるとアフリカ系アメリカ人公民権運動、ベトナム反戦運動、女性解放運動、LSDを使った平和を訴えるフラワーパワージェネレーションなどの市民運動が盛んになります。この時代には絵画や彫刻ではない表現が多く登場します。概念的なアートや、ハプニング、パフォーマンスアート、社会関与などの動向が多く登場します。1970年代の嵐のようなカウンターカルチャーの時代が過ぎ去り1980年代に入り登場したアメリカのコマーシャル・ギャラリーから生まれたムーブメントである新表現主義についても学びます。
7/16	現代美術3 YBA、リレーショナル・アート、ソーシャリー・エンゲージド・アート ワークショップ4単元の復習・現代美術1、現代美術2 ワークショップ「テキストとアート」	1989年にベルリンの壁が崩壊し東西ドイツの境界線がなくなり、さらに東ヨーロッパ全体が消滅、冷戦構造が終焉を迎えます。そして、東西対立の時代からアフリカやアジア、南米などを含んだ多文化の時代に移行します。アートの世界でも、アメリカやヨーロッパ中心からグローバルな考え方が一般的になります。アメリカのコマーシャリズムを一つのきっかけとして生まれた新表現主義の時代を経て、ミレニアム前夜に起こったイギリスおよびフランスを中心としたヨーロッパで発生した二つのムーブメント（Young British Artist、リレーショナルアート）についての理解を深めます。21世紀に入り、ソーシャリー・エンゲージド・アートやソーシャル・プラクティスという社会に関与する芸術運動が盛んになっています。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Google siteで配信する授業コンテンツには、学習を深めるためのウェブサイトのリンクが多く紹介されていますので、興味のあるものについては閲覧することをおすすめします。また、大学の近くには美術館やギャラリーが多くあります。新型コロナウィルスの感染状況にもよりますが、可能であれば企画展、常設展などの展覧会などを多く鑑賞してください。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Google siteを通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介しますので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】
参考書
山本浩貴『現代美術史-欧米、日本、トランスナショナル』中央公論新社、2019年
『改訂版 西洋・日本美術史の基本 美術検定1・2・3級公式テキスト』美術出版社、2014年
『続 西洋・日本美術史の基本』美術出版社、201
『新・アートの裏側を知るキーワード』美術出版社、2014年

【成績評価の方法と基準】
成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。
1. 平常点（50%）
2. 課題とレポート（50%）

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
ワークショップではスケッチによるプランや写真作品など簡単な実践に取り組みますが、受講される皆さんは例年課題について積極的に取り組まれているようです。楽しく解りやすい授業を心がけたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のためにGoogle classroomを使いますが、履修に関する情報については学習支援システムを併用しますので、よく確認しておいてください。

【その他の重要事項】
初回授業はオンラインで実施します。
実務経験のある教員による授業
稲垣立男はコンテンポラリーアーティスト。フィールドワークによる作品制作と美術教育に関する実践と研究を国内外で実施しており、これらの現場での経験を毎回の講義に反映させています。

【Outline (in English)】
Course outline
In this course, we will learn the basic contents of modern contemporary art from a bird's eye viewpoint and practical perspective.
* Art history and art theory which is the basis for understanding art
* Work production including more practical content · Planning of art exhibitions · Art criticism.
We will learn about these in a step-by-step manner.
Learning Objectives
Some keywords are taken up about the thoughts and basic ideas about art, and the background viewpoints and ideas are considered while considering concrete examples such as works and discourses related to the works. At the workshop, you will challenge applied practices such as work production, exhibition planning, and art criticism based on what you learned in each unit.
Learning activities outside of the classroom
The content delivered on the Google site contains many website links to deepen your learning, so we recommend browsing the ones that interest you. There are also many museums and galleries near the university. If possible, depending on the infection status of the new coronavirus, please watch exhibitions.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy
Grades will be evaluated based on the total of class activities, assignments and reports. We emphasize the experimentality and positiveness of our efforts. The scoring ratio is as follows.
1. Initiatives for classes (50%)
2. Issues and reports (50%)
See rubrics for specific assessment guidelines.
Based on this grade evaluation method, those who have achieved 60%or more of the achievement target of this class will be accepted.

ART300LA（芸術学 / Art studies 300）

美術論 B

2017年度以降入学者

稲垣　立男

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水**3/Wed.3
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
2025年度の美術論Bでは日本の美術史および近現代美術の基本的な内容について俯瞰的、実践的に学びます。
・美術を理解するための基礎となる美術史や美術理論
・より実践的な内容を含む作品制作・美術展の企画・美術批評
これらについて段階的に幅広く学んでいきます。
以下の単元で講義を進めます。（詳しくは授業計画を参照して下さい。）
・原始・古代美術
・中世美術、近世美術
・近代美術
・現代美術
さらに、各単元ごとにワークショップを実施し、実践的な美術活動を通じて学びを深めていきます。

【到達目標】
日本美術の思想や基本的な考え方についていくつかのキーワードを取り上げ、作品などの具体的な事例や作品にまつわる言説を踏まえながら、その背景となる見方や考え方について考察します。
ワークショップでは、各単元で学んだ内容を基として作品制作や展覧会企画、美術批評などの応用的な実践にチャレンジします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
基本的に対面授業を予定していますが、状況によりオンラインで行う場合もあります。
対面授業とオンライン授業について、学ぶ内容については同一です。
まずはシラバスで授業の内容を確認してください。
資料
授業前にGoogle sitesで資料を配布します。授業中の閲覧の他、予習復習に活用して下さい。
課題
受講後、Google Formsで課題と簡単なレポートを提出してもらいます。提出期間は授業終了後数日程度です。
質問・相談
一般的な質問や相談についてはGoogle Classroomのチャット機能を使ってください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
9/24	オリエンテーション	授業の概要 美術史の学び方
10/1	原始美術 縄文・弥生・古墳時代	先史時代の縄文・弥生・古墳時代の文化・美術 について学びます。縄文時代は約1万年前から約3千年前までの時代であり、人々は主に狩猟採集生活を営み、豊かな自然環境と共存しながら、土器や土偶などの芸術作品を生み出しました。紀元前3世紀から紀元3世紀ごろまでの弥生時代には、農耕や稲作が発展し、集落が形成されました。弥生時代の終わりから紀元7世紀頃までの古墳時代には、各地に巨大な古墳が築かれ、そこからは豪華な副葬品や装飾品が発見されています。
10/8	古代美術 飛鳥・白鳳時代、奈良・平安時代	仏教が伝来し飛躍的な発展を遂げた飛鳥・白鳳時代、律令制度が確立した奈良時代、日本独自の文化を形成した平安時代 について学びます。6世紀後半から7世紀前半にかけての飛鳥・白鳳時代には、仏教が伝来して社会や文化に大きな影響を与えました。8世紀から9世紀にかけての奈良時代には、律令制度が確立し国家の行政や法制度が整備されました。9世紀後半から12世紀半ばまでの平安時代には、貴族文化が隆盛し、平安時代の文学や芸術が栄えました。
10/15	ワークショップ（1） 単元の復習・原始美術、古代美術 プレゼンテーションとディスカッション	原始美術、古代美術に関する単元の復習と、縄文時代以前の道具に関するワークショップを行います。
10/22	中世美術 鎌倉・室町時代	貴族にとって代わって武士の時代が始まりました。禅宗や新興宗教が文化や芸術に影響を及ぼした鎌倉時代、禅宗美術にはじまり水墨画が発達した室町時代の美術について学びます。12世紀末から14世紀半ばまでの鎌倉時代は、武士の政権が台頭しました。禅宗や浄土宗などの新興宗教が台頭しました。室町時代は、14世紀後半から16世紀前半までの時代であり、禅宗美術が更なる発展を遂げ、水墨画が盛んになりました。
10/29	近世美術 桃山・江戸時代	支配階級から次第に民衆、町人のエネルギーが結実していった桃山・江戸時代の美術について学びます。16世紀後半から17世紀初頭にかけての桃山時代は、戦国時代の混乱から徳川家康による統一を経た時代です。この時代には茶道、茶室建築が隆盛し、また絵画や彫刻、陶芸など、豊かな文化が花開きました。17世紀初頭から19世紀末までの江戸時代には、風俗や歌舞伎、日常生活の情景を描いた浮世絵が大衆の間で広く愛されました。また、琳派や俳句、狂言など様々な文化が栄えました。
11/5	ワークショップ（2） 単元の復習・中世美術、近世美術 プレゼンテーションとディスカッション	中世美術、近世美術に関する単元の復習と「異文化交流」と「身の回りにある江戸時代」に関するワークショップを行います。

11/12	近代美術のはじまり 明治時代・西洋画と日本画、大正デモクラシー、戦争画	明治維新後の西欧化、近代化制作により西洋画が盛んとなった明治時代、その一方で新日本画運動も起こり大きく揺れ動きました。大正時代に入ると印象派以降のアバンギャルドなどの新傾向が紹介されました。第二次世界大戦の最中にはプロパガンダのための戦争画 が描かれます。
11/19	戦後美術 アンデパンダン、ネオダダ、ハイレッドセンター、実験工房	第二次世界大戦後の1950年代には実験工房、具体美術協会が結成され、従来の美術の枠を超えた実験的なアプローチや表現が試みられました。続いて1960年代にはアンデパンダン、ネオダダ、ハイレッドセンターなど新しい芸術運動が始まります。これらの芸術運動は、戦後の日本の芸術に新たな風を吹き込み、アーティストの多様な表現を促進しました。
11/26	ワークショップ（3） 単元の復習・近代美術のはじまり、戦後美術 プレゼンテーションとディスカッション	近代美術のはじまり、戦後美術に関する単元の復習と、教室内の人と人との関係性に関するワークショップを行います。
12/3	1960-1970年代 もの派ともの派以降、新しい表現	1960年代から1970年代の美術に大きな影響力を持ったもの派ともの派以降の美術やアーティストについて学びます。
12/10	新しい表現 パフォーマンス、ビデオアート、インスタレーション	1980年代には若いアーティストたちは、前衛的な動きを引き継ぎながら、新たな表現手法に挑戦しました。特にビデオアート、インスタレーション・パフォーマンスなどが注目されました。
12/17	1990-2020年代 1990年代、ミレニアム以降、ゼロ年代、2010年以降	1990年代からミレニアム、ゼロ年代から現在に至るまでの日本の美術について学びます。
1/14	ワークショップ（4） 単元の復習・1960-1980 年代、1990-2020年代 プレゼンテーションとディスカッション	1960-1980 年代、1990-2020年代に関する単元の復習と、授業全体のまとめのワークショプを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Google sitesで配信する授業コンテンツには、学習を深めるためのウェブサイトのリンクが多く紹介されていますので、興味のあるものについては閲覧することをおすすめします。また、大学の近くには美術館やギャラリーが多くあります。新型コロナウィルスの感染状況にもよりますが、可能であれば企画展、常設展などの展覧会などを多く鑑賞してください。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Google sitesを通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介しますので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】
山本浩貴『現代美術史-欧米、日本、トランスナショナル』中央公論新社、2019年
『改訂版 西洋・日本美術史の基本 美術検定1・2・3級公式テキスト』美術出版社、2014年
『続 西洋・日本美術史の基本』美術出版社、2016年
『新・アートの裏側を知るキーワード』美術出版社、2022年

【成績評価の方法と基準】
成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。
1.　平常点（50%）
2.　課題とレポート（50%）
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
ワークショップではスケッチによるプランや写真作品など簡単な実践に取り組みますが、受講される皆さんは例年課題について積極的に取り組まれているようです。楽しく解りやすい授業を心がけたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のためにGoogle classroomを使いますが、履修に関する情報については学習支援システムを併用しますので、よく確認しておいてください。

【その他の重要事項】
初回授業はオンラインで実施します。
実務経験のある教員による授業
稲垣立男はコンテンポラリーアーティスト。フィールドワークによる作品制作と美術教育に関する実践と研究を国内外で実施しており、これらの現場での経験を毎回の講義に反映させています。

【Outline (in English)】
Course outline
We will learn the essential contents of Japanese art history and modern art in a bird's-eye view and practical way.
1.　Art history and art theory which is the basis for understanding art
2.　Work production including more practical content · Planning of art exhibitions · Art criticism
I will learn a wide range of them step by step.
Learning Objectives
We will take up some keywords about Japanese art's ideas and basic ideas and consider the viewpoints and ideas behind them, based on specific examples such as works and discourses related to the works.　At the workshop, we will challenge applied practices such as work production, exhibition planning, and art criticism based on what we learned in each unit.
Learning activities outside of the classroom
The content delivered on the Google site contains many website links to deepen your learning, so we recommend browsing the ones that interest you.　There are also many museums and galleries near the university.　If possible, depending on the infection status of the new coronavirus, please watch exhibitions.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy
Grades will be evaluated based on the total of class activities, assignments and reports.　We emphasize the experimentality and positiveness of our efforts. The scoring ratio is as follows.
1. Initiatives for classes (50%)
2. Issues and reports (50%)
See rubrics for specific assessment guidelines.
Based on this grade evaluation method, those who have achieved 60%or more of the achievement target of this class will be accepted.

LANd300LA（ドイツ語 / German language education 300）

第三外国語としてのドイツ語Ａ　2017年度以降入学者

林　志津江

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火**3/Tue.3
単位数：**2単位**
定員制（40）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初習者を対象にしたドイツ語の入門編です。発音の規則を習得するとともに、平易なドイツ語で書かれた文章の読解や会話練習を通じて、ドイツ語文法の基礎を学びます。ドイツ語学習を通じて「大人の外国語の学び方」もしっかり身につけます。

【到達目標】
1）ドイツ語の発音の規則、初級文法、簡単な文章表現などの練習を通じて、ドイツ語の考え方の基本を理解すること。具体的には、ドイツ語技能検定試験（独検）の4級～5級合格レベル到達を目指します。
2）ドイツ語（外国語）の学習が、自分の思考や感情を言語化する能力や、他者への対応能力といった総合的なコミュニケーション能力につながっていることを実感できること。
3）ドイツ語・ドイツ語圏という異文化と接することで、自分の属する文化と言語圏について反省的に考えられるようになることが最大の目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
担当教員が教科書に沿って文法解説を行ったあと、新出単語や例文を繰り返し発音練習します。その後はテクストの読解（グループワーク）や会話練習（ペアワーク）などの作業を通じて、テクストの内容や文法を確認していきます。
・LMSとして、Google Classroomを使用します。
・連絡手段として、学期を通じ法政Gメールをチェックしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス／Lektion1：発音の規則（1）、あいさつの表現	授業の進め方と辞書についての説明、アルファベートと発音の規則1、あいさつの表現1
2	Lektion1：発音の規則（2）、ドイツ語圏ってどこにあるの？	つづり字と発音の規則、ドイツ語ってどこで話されている言葉？ ふたつの二人称
3	Lektion1＆Lektion2：発音の規則（3）、動詞の不定詞と現在人称変化（1）、並列の接続詞	自己紹介１：人称代名詞（1格）と動詞の現在人称変化（1）、平叙文と定動詞第2位の原則
4	Lektion2：動詞の現在人称変化（2）	人称代名詞（1格）と動詞の現在人称変化（2）、自己紹介2、さまざまな疑問文のパターン
5	Lektion3：名詞の性と格（1）	名詞の格（1）、定冠詞と不定冠詞（1）
6	Lektion3：名詞の性と格（2）	名詞の格、定冠詞と不定冠詞、否定冠詞keinと否定文
7	Lektion4：名詞の複数形・人称	「品詞」について今一度理解度を確認する（1）、人称代名詞と所有冠詞をしっかり区別する
8	Lektion5：不定冠詞類・定冠詞類	「品詞」について今一度理解度を確認する（2）、人称代名詞と所有冠詞をしっかり区別する
9	Lektion6：語幹の母音が変音する動詞（不規則動詞）（1）	動詞の現在人称変化（3）
10	Lektion6：語幹の母音が変音する動詞（不規則動詞）（2）	動詞の現在人称変化（4）
11	Lektion7：、命令法と態（Modus）	２人称と依頼の表現、ドイツ語の日常的なモノと人の感覚について
12	Lektion7：話法の助動詞（1）	「話法の助動詞」の構文、枠構造の意味
13	Lektion7：話法の助動詞（2）	話法の助動詞を使うそのココロを理解する
14	まとめ	学期末最終試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習：次週扱うテクストの箇所を読んでくること。
復習：文法問題を中心とした提出課題（宿題）を随時用意します。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて４時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・新倉真矢子ほか著『ゲナウ！ Grammatik neu』（郁文堂、2018/2023年）（￥2,200）
・学習用独和辞典（別途授業内で案内します）

【参考書】
中島悠爾、朝倉巧、平尾浩三著『(改訂版）必携ドイツ文法総まとめ』（白水社）2003年（￥1,728）

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加（ペアワーク・グループワーク含む）と提出物の成果を合わせて評価する平常点（５０％）および学期末試験（５０％）の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】
学生からは逐次ヒアリングを行い、相互の意志の疎通に努めます。

【学生が準備すべき機器他】
・独和辞典（学習用）は必携です。必ず用意して毎回の授業に持参して下さい（辞書類については第一回授業時に説明をします）
・WiFiが利用可能なデジタルガジェット（PCまたはタブレット、スマートフォン）

【その他の重要事項】
・上記に記した内容や順序は、皆さんの理解度に応じて変更されることがあります。
・「ドイツ語技能検定試験（公益財団法人ドイツ語学文学振興会主催）」や「ドイツ政府公認ドイツ語能力検定試験（Goethe Zertifikat）」等の受検とその結果は、上記「成績評価の方法と基準」のうち、「授業への積極的な参加」に加算されます（2025年7月下旬までに担当者に通知されたものに限ります）。

【Outline (in English)】
【Course outline】
German course for absolute Beginners - This course introduces elementary Grammar, phonetic/pronunciation training and vocabulary with communication routines. The ultimate aim of this course is to get a way of learning foreign languages itself as a learner's perspective.
【Learning Objectives】
At the end of the course, students are expected to master elementary grammar, phonetic/pronunciation training and vocabulary with communication routines of german language.
【Learning activities outside of classroom】
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text.
The standard preparation and revision time for this course is at least two hours each. There are prescribed preparation and review tasks.
【Grading Criteria /Policy】

The course will be judged on the basis of a combination of 50% of ordinary marks (active participation and contribution to the class, presentations, submitted assignments) and 50%of end-of-term assignments (tests).

LANd300LA（ドイツ語 / German language education 300）

第三外国語としてのドイツ語Ｂ　2017年度以降入学者

林　志津江

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火**3/Tue.3
単位数：**2単位**
定員制（40）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初習者を対象にしたドイツ語の入門編です。（春学期開講の「第三外国語としてのドイツ語A」に引き続き）初級文法の基礎を学びます。簡単なドイツ語を読み、書き、話すためのトレーニングとともに、ドイツ語学習の体験を単なる知識のインプットに留まらない「大人の外国語の学び方」の習得につなげていきます。

【到達目標】
1）ドイツ語の発音の規則、初級文法、簡単な文章表現などの練習を通じて、ドイツ語の考え方の基本を理解すること。具体的には、ドイツ語技能検定試験（独検）の4級～5級合格レベル到達を目指します。
2）ドイツ語（外国語）の学習が、自分の思考や感情を言語化する能力や、他者への対応能力といった総合的なコミュニケーション能力につながっていることを実感できること。
3）ドイツ語・ドイツ語圏という異文化と接することで、自分の属する文化と言語圏について反省的に考えられるようになることが最大の目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
担当教員が教科書に沿って文法解説を行ったあと、新出単語や例文を繰り返し発音練習します。その後はテクストの読解（グループワーク）や会話練習（ペアワーク）などの作業を通じて、テクストの内容や自分の文法理解を確認します。
・LMSとして、Google Classroomを使用します。
・連絡手段として、学期を通じ法政Gメールをチェックしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	動詞の現在人称変化、名詞の格変化（冠詞）と人称の格変化、話法の助動詞
2	Lektion8：再帰代名詞・再帰動詞	他動詞の再帰表現、再帰代名詞を用いた表現
3	Lektion9：分離動詞・非分離動詞	動詞の前綴りの話、複合動詞のいろいろ、前つづりと定動詞・枠構造の関連を理解する
4	Lektion9：zu不定詞	不定詞とzu不定詞およびその用法、zu不定詞句を使った表現
5	Lektion9：従属の接続詞	従属接続詞と副文の作り方、主文と副文の違いを理解する
6	Lektion10：動詞の３基本形（I）（１）・現在完了形	現在完了形を使うそのココロとは？
7	Lektion10：動詞の３基本形（I）（２）・過去時制	過去時制と過去人称変化、現在完了形と過去時制の違いとは？
8	Lektion11：動詞の３基本形（II）・受動態	なんで受動態にしなきゃいけないワケ？　受動の助動詞２種類（行為受動、状態受動）
9	Lektion12：形容詞（１）・形容詞の格変化	形容詞の用法と形容詞の格変化
10	Lektion12：形容詞（２）・比較表現	並列の接続詞、従属の接続詞、形容詞の用法、付加語的用法と格変化
11	Lektion12：関係代名詞（１）	定関係代名詞・指示代名詞の格変化、関係代名詞（副文）
12	Lektion12：関係代名詞（２）	関係副詞・不定関係代名詞
13	補足：接続法	接続法第I式および第II式について
14	まとめ	学期末最終試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習：次週扱うテクストの箇所を読んでくること。
復習：文法問題を中心とした提出課題（宿題）を随時用意します。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて４時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・新倉真矢子ほか著『ゲナウ！ Grammatik neu』（郁文堂、2018/2023年）（￥2,200）
・学習用独和辞典（別途授業内で案内します）

【参考書】
中島悠爾、朝倉巧、平尾浩三著『(改訂版）必携ドイツ文法総まとめ』（白水社）2003年（￥1,728）

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加（ペアワーク・グループワーク含む）と提出物の成果を合わせて評価する平常点（５０％）および学期末試験（５０％）の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】
学生からは逐次ヒアリングを行い、相互の意志の疎通に努めます。

【学生が準備すべき機器他】
・独和辞典（学習用）は必携です。必ず用意して毎回の授業に持参して下さい。
・WiFiが利用可能なデジタルガジェット（PCまたはタブレット、スマートフォン）

【その他の重要事項】
・上記に記した内容や順序は、皆さんの理解度に応じて変更されることがあります。
・「ドイツ語技能検定試験（公益財団法人ドイツ語学文学振興会主催）」や「ドイツ政府公認ドイツ語能力検定試験（Goethe Zertifikat）」等の受検とその結果は、上記「成績評価の方法と基準」のうち、「授業への積極的な参加」に加算されます（2025年7月下旬までに担当者に通知されたものに限ります）。

【Outline (in English)】
【Course outline】
German course for absolute Beginners - This course introduces elementary Grammar, phonetic/pronunciation training and vocabulary with communication routines. The ultimate aim of this course is to get a way of learning foreign languages itself as a learner's perspective.
【Learning Objectives】
At the end of the course, students are expected to master elementary grammar, phonetic/pronunciation training and vocabulary with communication routines of german language.
【Learning activities outside of classroom】
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text.
The standard preparation and revision time for this course is at least two hours each. There are prescribed preparation and review tasks.
【Grading Criteria /Policy】
The course will be judged on the basis of a combination of 50% of ordinary marks (active participation and contribution to the class, presentations, submitted assignments) and 50%of end-of-term assignments (tests).

LANd300LA（ドイツ語 / German language education 300）

教養ゼミⅠ

2017年度以降入学者

上田　知夫

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金4**/Fri.4
単位数：**2単位**
定員制

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
皆さんが大学で出会う教員は皆，仕事として学問をしています．学問を単なる勉強でなく，仕事とすることとはどういうことなのか不思議に思ったことはありませんか．そしてそもそも仕事とは何だろうと思ったことはありませんか．この授業ではこの問題について，ヴェーバーの「仕事としての学問」を翻訳でゆっくりと読みながら議論することを目的とします．
さらに社会学や哲学の基本文献であるヴェーバーの議論に触れることになります．とっつきにくいように思われる本でも読み方さえマスターできれば読めるということを理解します．
この授業ではドイツ語の知識は一切前提しません。ドイツ語の文献も扱いません。

【到達目標】
講義で言及されたりして，聞いたことはあるけれど，どこから取り掛かっていいかわからない気がする文献へのとっかかりを手に入れることができます．
レジュメの書き方，他の人の意見への適切な質問の仕方などを学ぶことができます．
大学の「ゼミ」ってどういう雰囲気なのだろうかということを味わうことができます．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
ごく短いテクスト範囲（長くて2ページ程度）について，毎回レポーターを決めて，その人の作成した資料（レジュメでもパワーポイントスライドでも形式は自由）をもとにみんなで意見を話し合います．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	扱う文献やヴェーバーについてのイントロダクションと担当決め
第2回	「仕事としての学問」精読	レポーターのまとめを聞いて議論する
第3回	「仕事としての学問」精読（第2回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第4回	「仕事としての学問」精読（第3回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第5回	「仕事としての学問」精読（第4回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第6回	「仕事としての学問」精読（第5回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第7回	「仕事としての学問」精読（第6回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第8回	「仕事としての学問」精読（第7回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第9回	「仕事としての学問」精読（第8回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第10回	「仕事としての学問」精読（第9回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第11回	「仕事としての学問」精読（第10回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第12回	「仕事としての学問」精読（第11回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第13回	「仕事としての学問」精読（第12回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第14回	まとめ	学期の議論のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の後に質問を2つ考えてリアクションペーパーとして提出してください．
次回の範囲を読んできてください．担当者は，レジュメを切ります．
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
マックス・ウェーバー．野口雅弘（訳）．『仕事としての学問　仕事としての政治』（講談社学術文庫，2018年）

【参考書】
野口雅弘．『マックス・ウェーバー：近代と格闘した思想家』（中公新書，2020年）．

【成績評価の方法と基準】
平常点（レポーターとしての貢献度および授業への参加度）：100%

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【Outline (in English)】
【Course outline and Learning Objectives】
In this course, we read a seminal work of Weber "Wissenschaft als Beruf" (on request, English translation or German original will be provided).
This course aims that students learn how to (intensively) work on a classic work for social sciences and/or philosophy.
【Learning activities outside of classroom】
You are expected to prepare the text in advance and to submit two questions from the discussions from the last session.
【Grading Criteria /Policy】
Participation: 100%

LANd300LA（ドイツ語 / German language education 300）

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

上田　知夫

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**金**4/Fri.4
単位数：**2単位**
定員制

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代では政治家の多くが，職業政治家です．しかし政治を仕事とすることとはどういうことなのか不思議に思ったことはありませんか．そしてそもそも仕事とは何だろうと思ったことはありませんか．この授業ではこの問題について，ヴェーバーの「仕事としての政治」を翻訳でゆっくりと読みながら議論することを目的とします．
さらに社会学や哲学の基本文献であるヴェーバーの議論に触れることになります．とっつきにくいように思われる本でも読み方さえマスターできれば読めるということを理解します．
この授業ではドイツ語の知識は一切前提しません。ドイツ語の文献も扱いません。

【到達目標】
講義で言及されたりして，聞いたことはあるけれど，どこから取り掛かっていいかわからない気がする文献へのとっかかりを手に入れることができます．
レジュメの書き方，他の人の意見への適切な質問の仕方などを学ぶことができます．
大学の「ゼミ」ってどういう雰囲気なのだろうかということを味わうことができます．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
ごく短いテクスト範囲（長くて2ページ程度）について，毎回レポーターを決めて，その人の作成した資料（レジュメでもパワーポイントスライドでも形式は自由）をもとにみんなで意見を話し合います．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	文献の紹介と担当決め
第2回	「仕事としての政治」精読	レポーターのまとめを聞いて議論する
第3回	「仕事としての政治」精読（第2回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第4回	「仕事としての政治」精読（第3回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第5回	「仕事としての政治」精読（第4回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第6回	「仕事としての政治」精読（第5回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第7回	「仕事としての政治」精読（第6回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第8回	「仕事としての政治」精読（第7回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第9回	「仕事としての政治」精読（第8回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第10回	「仕事としての政治」精読（第9回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第11回	「仕事としての政治」精読（第10回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第12回	「仕事としての政治」精読（第11回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第13回	「仕事としての政治」精読（第12回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第14回	まとめ	今学期の議論のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の後に質問を2つ考えてリアクションペーパーとして提出してください．
次回の範囲を読んできてください．担当者は，レジュメを切ります．
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
マックス・ウェーバー．野口雅弘（訳）．『仕事としての学問　仕事としての政治』（講談社学術文庫，2018年）
* 春学期と同じ書籍です。

【参考書】
野口雅弘．『マックス・ウェーバー：近代と格闘した思想家』（中公新書，2020年）．

【成績評価の方法と基準】
毎回質問を2つリアクションペーパーにまとめてもらいます．それを匿名化して，次の授業の最初に議論したいと思います．
平常点（レポーターとしての貢献度，授業への参加度およびリアクションペーパーでの質問の提出）：100%

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません．

【Outline (in English)】
【Course outline and Learning Objectives】
In this course, we read a seminal work of Weber "Politik als Beruf" (on request, English translation or German original will be provided).
This course aims that students learn how to (intensively) work on a classic work for social sciences and/or philosophy.
【Learning activities outside of classroom】
You are expected to prepare the text in advance and to submit two questions from the discussions from the last session.
【Grading Criteria /Policy】
Participation: 100%

PHL300LA（哲学 / Philosophy 300）

ドイツの思想A

2017年度以降入学者

吉田　敬介

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火2**/Tue.2
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、20世紀前半という「危機」の時代のドイツ語圏の哲学を、とりわけ実存哲学と批判理論に着目しながら、概観します。

20世紀前半のドイツ語圏では、観念論（理想主義）への幻滅とともに、文明や学問が「危機」に陥っているという意識が強まりました。その危機意識に対応するように、一方ではヤスパースやハイデッガーらの「実存哲学」、また他方ではホルクハイマーやアドルノらの「批判理論」（あるいは「フランクフルト学派」）といった思想潮流が展開されました。授業においては、こうした歴史的・社会的な文脈を踏まえつつ、様々な哲学者たちの言説を検討し、その思想内容を理解することが目指されます。

【到達目標】

（A）20世紀前半のドイツ語圏の哲学・思想の要点を理解できる。
（B）扱われた哲学・思想を、歴史的・社会的視座から考察できる。
（C）扱われた哲学・思想について理解・考察したことを、自らの言葉で叙述できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で、毎回のテーマごとに進めていきます。授業用の資料は、その都度提示（必要に応じて配布）します。

毎回の授業時にリアクションペーパーの提出を求める他、学期末には授業の内容を踏まえた課題もしくは試験を課す予定です。リアクションペーパーについては、できる限り授業時にフィードバックを行います。学期末課題もしくは試験の内容は授業で提示します。

なお、重要なお知らせをすることもありうるので、適宜、授業支援システムを確認するようお願いします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方の確認
第2回	そもそも「ドイツ哲学」とは？	「ドイツ哲学」の定義づけの困難と可能性
第3回	19世紀のドイツ哲学（1）	ドイツ観念論とその挫折
第4回	19世紀のドイツ哲学（2）	キルケゴール、マルクス、ニーチェの思想とその影響
第5回	20世紀前半の思想的状況（1）	ヨーロッパのニヒリズムと『西洋の没落』
第6回	20世紀前半の思想的状況（2）	時代の「危機」意識と現象学
第7回	実存哲学の生成と展開（1）	ヤスパース『時代の精神的状況』と実存哲学
第8回	実存哲学の生成と展開（2）	ハイデッガー『存在と時間』の存在論
第9回	実存哲学の生成と展開（3）	ナチス政権下の哲学者たち 政治的決断主義
第10回	批判理論の生成と展開（1）	社会研究所の設立と亡命 ホルクハイマー「伝統的理論と批判的理論」
第11回	批判理論の生成と展開（2）	ベンヤミン『歴史哲学テーゼ』と「進歩」への問い
第12回	批判理論の生成と展開（3）	ホルクハイマー／アドルノ『啓蒙の弁証法』と近代的理性の自己省察
第13回	「危機」の時代のドイツの思想	学習事項のまとめと展望
第14回	課題もしくは試験	学期末課題の提示もしくは試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
授業で扱われる各トピックについて、参考文献の対応する箇所を読んで予習することが望まれます。また授業後には、配布物やノートに目を通し、参考文献を参照しつつ内容をまとめ直しておくことが望まれます。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。授業は用意した資料に沿って進めます。

【参考書】

・『ドイツ哲学入門』ミネルヴァ書房
・『哲学の歴史 第9巻 反哲学と世紀末【19-20世紀】』中央公論新社
・『哲学の歴史 第10巻 危機の時代の哲学【20世紀I】』中央公論新社
・フッサール／ハイデッガー／ホルクハイマー『30年代の危機と哲学』清水多吉／手川誠士郎（訳）、平凡社〔平凡社ライブラリー〕
その他の参考文献は、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績配分は、平常点（リアクションペーパーの提出、その他の授業への取り組みなどの総合評価）40％、学期末課題もしくは試験の評価60％です。成績評価に際しては、【到達目標】（A）～（C）を基準とし、その達成度合いを考慮します。

【学生の意見等からの気づき】

・リアクションペーパーを参照し、わかりにくい概念や思想内容、歴史的背景について丁寧に説明するよう努めます。
・必要に応じて、授業内容に関連した参考文献等を紹介します。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の場合に必要となるため、Zoom に接続可能な機器を準備してください。

【その他の重要事項】

春学期と秋学期、合わせての履修を推奨します。

【Outline (in English)】

Course outline: This course deals with German philosophy in the first half of the 20th century (especially existential philosophy and Critical Theory).
Learning Objectives: The goals of this course are to (A) understand German philosophy in the first half of the 20th century, (B) examine it from historical and social perspectives, and (C) explain it properly.
Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria/Policies: Grading will be decided based on in-class contribution (40%), and term-end report or examination (60%).

PHL300LA（哲学 / Philosophy 300）

ドイツの思想Ｂ

2017年度以降入学者

吉田　敬介

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火**2/Tue.2
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、20世紀後半のドイツ語圏の哲学を、歴史的・社会的諸問題との関連から概観します。
20世紀中盤から後半にかけてのドイツ語圏の哲学は、幾つかの重要な実際的問題と対峙しなければなりませんでした。ホロコーストを含む第三帝国の過去の「克服」、東西ドイツの分裂とその再統一、ヨーロッパへの統合と国際社会との関わり、そしてそれらに通底する「ドイツ」のアイデンティティをめぐる問い、といった諸問題です。授業においては、これらの歴史的・社会的諸問題に関するコンテクストを踏まえながら、哲学者たちの言説を検討し、その思想内容を理解することが目指されます。

【到達目標】
（A）20 世紀後半のドイツ語圏の哲学・思想の要点を理解できる。
（B）扱われた哲学・思想を、歴史的・社会的視座から考察できる。
（C）扱われた哲学・思想について理解・考察したことを、自らの言葉で叙述できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
講義形式で、毎回のテーマごとに進めていきます。授業用の資料は、その都度提示（必要に応じて配布）します。
毎回の授業時にリアクションペーパーの提出を求める他、学期末には授業の内容を踏まえた課題もしくは試験を課す予定です。リアクションペーパーについては、できる限り授業時にフィードバックを行います。学期末課題もしくは試験の内容は授業で提示します。
なお、重要なお知らせをすることもありうるので、適宜、授業支援システムを確認するようお願いします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方の確認
第2回	「危機」の時代から戦後へ	20世紀前半のドイツの哲学と戦後の課題
第3回	哲学者たちと「過去の克服」（1）	ニュルンベルク裁判と「過去の忘却」
第4回	哲学者たちと「過去の克服」（2）	ヤスパースの戦争責任論
第5回	哲学者たちと「過去の克服」（3）	亡命知識人たちの帰還とファシズムへの問い
第6回	「アウシュヴィッツ以後」の哲学（1）	アウシュヴィッツ裁判と1968年運動
第7回	「アウシュヴィッツ以後」の哲学（2）	アドルノと「アウシュヴィッツ以後」の文化への問い
第8回	「ドイツ」のアイデンティティへの問い（1）	ハーバーマスと「公共性」の思想
第9回	「ドイツ」のアイデンティティへの問い（2）	1980年代の歴史修正主義と「歴史家論争」
第10回	「ドイツ」のアイデンティティへの問い（3）	ナショナリズムと憲法パトリオティズム
第11回	ヨーロッパの中のドイツ（1）	東西ドイツの再統一とヨーロッパ統合
第12回	ヨーロッパの中のドイツ（2）	デリダとハーバーマスのヨーロッパ論
第13回	過去の克服と「ドイツ」のアイデンティティ再考	学習事項のまとめと展望
第14回	課題もしくは試験	学期末課題の提示もしくは試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
授業で扱われる各トピックについて、参考文献の対応する箇所を読んで予習することが望まれます。また授業後には、配布物やノートに目を通し、参考文献を参照しつつ内容をまとめ直しておくことが望まれます。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。授業は用意した資料に沿って進めます。

【参考書】
・『ドイツ哲学入門』ミネルヴァ書房
・三島憲一『戦後ドイツ その知的歴史』『現代ドイツ 統一後の知的軌跡』、岩波書店〔岩波新書〕
・ヤスパース『われわれの戦争責任について』橋本文夫（訳）、筑摩書房〔ちくま学芸文庫〕2015年
・ハーバーマス『近代 未完のプロジェクト』三島憲一（訳）、岩波書店〔岩波現代文庫〕
その他の参考文献は、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】
成績配分は、平常点（リアクションペーパーの提出、その他の授業への取り組みなどの総合評価）40％、学期末課題もしくは試験の評価60％です。

【学生の意見等からの気づき】
・リアクションペーパーを参照し、わかりにくい概念や思想内容、歴史的背景について丁寧に説明するよう努めます。
・必要に応じて、授業内容に関連した参考文献等を紹介します。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業の場合に必要となるため、Zoom に接続可能な機器を準備してください。

【その他の重要事項】
春学期と秋学期、合わせての履修を推奨します。

【Outline (in English)】
Course outline: This course deals with German philosophy in the second half of the 20th century.
Learning Objectives: The goals of this course are to (A) understand German philosophy in the second half of the 20th century, (B) examine it from historical and social perspectives, and (C) explain it properly.
Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria/Policies: Grading will be decided based on in-class contribution (40%), and term-end report or examination (60%).

LIT300LA（文学 / Literature 300）

カルチュラル・スタディーズで見るドイツ語圏Ａ

2017年度以降入学者

林　志津江

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金4**/Fri.4
単位数：**2単位**
2021年度までに「ドイツ語圏の文学Ａ」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【大人と子ども・学校とわたし】
20世紀初頭のドイツやフランスの人文学に理論的源流を持ち、20世紀後半の英国で広がりを見せた「カルチュラル・スタディーズ」（文化学）は、日常生活に偏在する支配関係に注目することで、新たな表象分析の道を切り拓きました。この授業で注目するのは「ふつうの人々」の日常にひそむ権力関係、特に「子どもの目から見た大人の世界」です。20世紀前半～現代のドイツに生きた／生きる子どもたちの眼差しを通して、現代を生きる私たちの「文化」と「日常」の諸問題に迫ります。

【到達目標】
１）読解能力と反省的思考能力の獲得
言語テクストを読み、語と文の意味を理解しながら、「自分が何かを考えている」という意識を持てているでしょうか。
２）自分の思考を、他人に伝わるレベルで言語化する能力の獲得
意図を損なわず、言語で情報伝達できる能力は、グローバル化した社会のニーズであるばかりでなく、あなたが社会の不正や自己疎外と向かい合う手立てにもなってくれます。
３）社会に対する批判的な眼差し、遠く離れた場所の出来事を理解しようとする知性の獲得
近現代のドイツ語圏の物語が、現代の日本に生きる自分の日常とどうつながっているのかを考えようとする態度は、あなたに異文化との衝突（＝「苦手」と感じる状況）を生き抜く豊かな知恵を授けてくれるはずです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
近現代ドイツ語圏文学のうち、児童文学・ジュヴナイル小説として知られる作品３点を、時系列に沿って扱います。
・毎回、担当者が講義形式で作品や作家の概要の説明を行ったあと、テクストの抜粋を読みます。その後は参加者同士でお互いの理解を確認する作業です。文学作品のアダプテーション（映画）を扱う際は、映像の抜粋も確認します。
・授業後、次回授業までに、所定の研究課題（study question）として日本語の小レポートを執筆し提出します。
・授業内で行われたアウトプットに対しては授業の場でコメントします。提出物のフィードバックは適宜全体に向けて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入・オリエンテーション（１）	ドイツ語圏？ カルチュラル・スタディーズ（文化学）？？
2	導入・オリエンテーション（２）	「記号論」「受容理論」「メディア論」の基礎
3	「自然」と「文明／教育」の交差	ヨハンナ・シュピリ『ハイジ』（1880-1881）その１
4	「自然の中でのびのび生き生きと育つ子ども」？	ヨハンナ・シュピリ『ハイジ』（1880-1881）その２
5	子どもの成長・共同体との和解	ヨハンナ・シュピリ『ハイジ』（1880-1881）その３
6	信仰の力、あるいは善良に生きる価値？	ヨハンナ・シュピリ『ハイジ』（1880-1881、スイス）その４／TVアニメーションシリーズ『アルプスの少女ハイジ』（1974、ズイヨーエンタープライズ／日本）より
7	地下鉄の走る街・映画の時代	エーリヒ・ケストナー『エーミールと探偵たち』（1929年）その１／映画『エーミールと探偵たち』（1931年/2000年、ドイツ）
8	お母さんに心配をかけたくない	エーリヒ・ケストナー『エーミールと探偵たち』（1929年）その２／映画『エーミールと探偵たち』（1931年/2000年、ドイツ）
9	子どもこそ聡明な存在	エーリヒ・ケストナー『エーミールと探偵たち』（1929年）その３
10	「大人顔負けの子どもたち」という国家批判の言説	エーリヒ・ケストナー『エーミールと探偵たち』（1929年）その４
11	自分も親も初恋も全部イケてない	ヴォルフガング・ヘルンドルフ『14歳、ぼくらの疾走』（2010年）その１
12	ちっぽけな自分と世界の大きさを知る	ヴォルフガング・ヘルンドルフ『14歳、ぼくらの疾走』（2010年）その２
13	自分と世界を直視する勇気	ヴォルフガング・ヘルンドルフ『14歳、ぼくらの疾走』（2010年）その３
14	忘れられない日々の物語	ヴォルフガング・ヘルンドルフ『14歳、ぼくらの疾走』（2010年）その４／映画『50年後のボクたちは』（2016年、ドイツ）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。
・授業資料に再度目を通すこと。
・あらゆる活字に触れる作業は全て、この授業にとって意味のある予習・復習です。
・新聞（日刊紙）を読む習慣があればなお良いです。

【テキスト（教科書）】
・授業ごと担当者から資料を配布します。
・『ハイジ』と『エーミールと探偵たち』（日本語訳）の２点を各自ご用意ください。図書館で借りるのでも構いません。
『ハイジ（全2冊）』（岩波書店、2003年）／『ハイジ（全2冊）』（福音館書店、1974年）／『アルプスの少女ハイジ』（角川書店、2021年）など
『エーミールと探偵たち』（岩波書店、2000年）

【参考書】
・手塚富雄・神品芳夫（著）『（増補）ドイツ文学案内』（岩波書店、1993年）
・柴田翔『はじめて学ぶドイツ文学史』（ミネルヴァ書房、2003年）
・石田勇次編著『図説 ドイツの歴史（ふくろうの本）』（河出書房新社）2007年
・宮田眞治ほか編著『ドイツ文化55のキーワード』（ミネルヴァ書房、2015年）
・D. ランゲヴィーシェ（飯田芳弘訳）『統一国家なき国民 ー もう一つのドイツ史』（みすず書房）2023年
・小倉孝誠（編）『批評理論を学ぶ人のために』（世界思想社）2023年
その他は講義内資料を通じて提示します。

【成績評価の方法と基準】
・平常点（授業への積極的な参加と議論への貢献）（50%）
・授業後の提出課題（50%）
以上の成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
・学生からは逐次ヒアリングを行い、相互の意志の疎通に努めます。

【学生が準備すべき機器他】
・筆記用具（紙媒体で使用可のもの）を必ず用意してください。

【その他の重要事項】
・ドイツ語の知識は必須ではありません。
・扱う作品・内容や順序は変更される場合があります。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Cultural Studies, which had its theoretical origins in the German and French humanities of the early 20th century and spread in the UK in the latter half of the 20th century, has paved the way for alternatives of representation analysis by focusing on the ruler and ruled relationships that are ubiquitous in everyday life. In this class, we will focus on the power relations hidden in the daily lives of “ordinary people,” especially “the adult world as seen through the eyes of children,” and through the eyes of children who lived in Germany from the early 20th century to the present, we will explore various issues of “culture” and “everyday life” in our modern age.
【Learning Objectives】
To develop an understanding of a wide range of topics relating to life, culture and society.
To be able to express their own opinions and to write texts of a certain length about themes above.
【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
The standard preparation and revision time for this course is at least two hours each. There are prescribed review tasks.
【Grading criteria】
The course will be judged on the basis of a combination of 50% of ordinary marks (active participation and contribution to the class) and 50%of submitted assignments as prescribed review tasks.

LIT300LA（文学 / Literature 300）

カルチュラル・スタディーズで見るドイツ語圏Ｂ

2017年度以降入学者

林　志津江

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**金4/Fri.4**
単位数：**2単位**
2021年度までに「ドイツ語圏の文学Ｂ」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【「モダンガール」の系譜・多様化するフェミニズム】
この授業で着目するのは、大都市に生きる女性とジェンダー規範に関わる文学・文化現象です。20世紀以降のフェミニズム／ジェンダー批評は、あらゆる美的言説の中に、社会が約束事として作り上げた「男らしさ」「女らしさ」がひそむ現実を暴露することで、アイデンティティや主体性の問題を前傾化させてきました。この授業では、ドイツの首都ベルリンを舞台にした19～20世紀ドイツ語圏文学を例に、都市の匿名性や経済格差がいかに固定的性差と結びつけられ理解されてきたか、言語化されたジェンダー規範がどのように現実生活と通底しているか、考察を深めていきます。

【到達目標】
１）読解能力と反省的思考能力の獲得
言語テクストを読み、語と文の意味を理解しながら、「自分が何かを考えている」という意識を持てているでしょうか。
２）自分の思考を、他人に伝わるレベルで言語化する能力の獲得
意図を損なわず、言語で情報伝達できる能力は、グローバル化した社会のニーズであるばかりでなく、社会の不正や自己疎外と向かい合う手立てにもなってくれます。
３）社会に対する批判的な眼差し、遠く離れた場所の出来事を理解しようとする知性の獲得
19～21世紀のドイツ語圏の話が、現代の日本に生きる自分の日常とどうつながっているのかを考えようとする態度は、あなたに異文化との衝突（＝「苦手」と感じる状況）を生き抜く豊かな知恵を授けてくれるはずです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
19世紀～20世紀のドイツ語圏で書かれたドイツ語による文学作品（日本語訳）を、時系列に沿って扱います。
・毎回、担当者が講義形式で作品や作家の概要の説明を行ったあと、テクストの抜粋を読みます。その後は参加者同士でお互いの理解を確認する作業です。映画を扱う際はその抜粋も確認します。
・授業後、次回授業までに、所定の研究課題（study question）として日本語の小レポートを執筆し提出します。
・授業内で行われたアウトプットに対しては授業の場でコメントします。提出物のフィードバックは適宜全体に向けて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入・オリエンテーション	ドイツ語圏？ カルチュラル・スタディーズ？？ ジェンダー批評？？？
2	身分違いの恋ってわかってるけど…	テオドーア・フォンターネ『迷誤あれば』（1888年）その１
3	オワコン下級貴族の本音？	テオドーア・フォンターネ『迷誤あれば』（1888年）その２
4	「秩序」と人間、私的な人間関係	テオドーア・フォンターネ『迷誤あれば』（1888年）その３
5	「オリエンタリズム」への逆襲？	森鴎外『舞姫』（1890年）その１
6	都市の相貌・心の迷い	森鴎外『舞姫』（1890年）その２
7	都会の「キラメキ」に憧れて	イルムガルト・コイン『人工シルクの女の子』（1932年、ドイツ）その１
8	大都会の真実、男と女の真実	イルムガルト・コイン『人工シルクの女の子』（1932年、ドイツ）その２／映画『狂乱のモンテカルロ』（1931年、ドイツ）
9	「とてつもなく、幸せになりたいの」	イルムガルト・コイン『人工シルクの女の子』（1932年、ドイツ）その３／映画『会議は踊る』（1931年、ドイツ）
10	現実の、未完成の私を好きになってほしい	イルムガルト・コイン『人工シルクの女の子』（1932年、ドイツ）その４
11	「それぞれの人生模様」？	ヴィッキィ・バウム『ホテルの人々』（1929年）／映画『グランド・ホテル』（1932年、米国）
12	忌まわしいはずの記憶が美化される条件	トーマス・ブルスィヒ『太陽通り（ゾンネンアレーの短い方の端で）』（1999 年）その１
13	「世界で一番可愛い女の子」と「肝っ玉母さん」	トーマス・ブルスィヒ『太陽通り（ゾンネンアレーの短い方の端で）』（1999 年）その２
14	「ちょっと抜けてる男たち」？	トーマス・ブルスィヒ『太陽通り（ゾンネンアレーの短い方の端で）』（1999 年）その３／映画『ゾンネンアレー』（1999年、ドイツ）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。
・授業資料に再度目を通すこと。
・あらゆる活字に触れる作業は全て、この授業にとって意味のある予習・復習です。
・新聞（日刊紙）を読む習慣があればなお良いです。

【テキスト（教科書）】
・授業ごと担当者から資料を配布します。
・授業第５、６回目は、各自で『舞姫』（森鴎外著）をご用意ください。どの版でも、図書館で借りるので問題ありません。

【参考書】
・手塚富雄・神品芳夫（著）『（増補）ドイツ文学案内』（岩波書店、1993年）
・柴田翔『はじめて学ぶドイツ文学史』（ミネルヴァ書房、2003年）
・E. ショウォールター編（青山誠子訳）『新フェミニズム批評 女性・文学・理論』（岩波書店）1999年
・石田勇次編著『図説 ドイツの歴史（ふくろうの本）』（河出書房新社）2007年
・宮田眞治ほか編著『ドイツ文化55のキーワード』（ミネルヴァ書房、2015年）
・弓削尚子『はじめての西洋ジェンダー史 家庭史からグローバルヒストリーまで』（山川出版社）2021年
・田中東子『ガールズ・メディア・スタディーズ』（北樹出版）2021年
・林香里・田中東子『ジェンダーで学ぶメディア論』（世界思想社）2023年
・D. ランゲヴィーシェ（飯田芳弘訳）『統一国家なき国民 ー もう一つのドイツ史』（みすず書房）2023年
・小倉孝誠（編）『批評理論を学ぶ人のために』（世界思想社）2023年
その他は講義内資料を通じて提示します。

【成績評価の方法と基準】
・平常点（授業への積極的な参加と議論への貢献）（50%）
・授業後の提出課題（50%）
以上の成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
・学生からは逐次ヒアリングを行い、相互の意志の疎通に努めます。

【学生が準備すべき機器他】
・筆記用具（紙媒体で使用可のもの）を必ず用意してください。

【その他の重要事項】
・ドイツ語の知識は必須ではありません。
・扱う作品・内容や順序は変更される場合があります。

【Outline (in English)】
This class focus on women in the metropolis and the literary and cultural phenomena related to gender norms. Feminism and gender critique since the 20th century have brought forward issues of identity and subjectivity by exposing the reality of “masculinity” and “femininity” that society has created as promises in all aesthetic discourses. In this class, we will deal with literary works from 19th and 20th century Germany as examples to examine how urban anonymity and economic disparity have been linked to and understood as fixed gender inequality, and how verbalized gender norms are connected to real life. The lecture will use examples from 19th- and 20th-century German literary works to deepen the discussion.
【Learning Objectives】
To develop an understanding of a wide range of topics relating to life, culture and society.
To be able to express their own opinions and to write texts of a certain length about themes above.
【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
The standard preparation and revision time for this course is at least two hours each. There are prescribed review tasks.
【Grading criteria】
The course will be judged on the basis of a combination of 50% of ordinary marks (active participation and contribution to the class) and 50%of submitted assignments as prescribed review tasks.

PHL300LA（哲学 / Philosophy 300）

ドイツ語圏の公共哲学 A

2017年度以降入学者

上田　知夫

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木2**/Thu.2
単位数：**2単位**
定員制（60）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
民主主義ってどういう仕組みで成り立っているのだろうか。そもそも私たちの考えることは本当に反映しているのだろうか。皆さんは投票に出かけたり、選挙特番をご覧になるときに、そう思ったことはありませんか。このことを考えるヒントを、ドイツ語圏の哲学者たち（例えば、カントやアーレントやハーバマス）により展開された公共哲学の議論の展開を検討しながら、探すことがこの授業の目的です。
その際に、現代のドイツ語圏の政治・社会事情を例に取ります。ドイツ語圏の諸国では、議会制民主主義が根付いていると考えられています。一方で、新聞の国際面などを見れば、ドイツ語圏の各国の政治状況は大きく動いていることも感じられます。ドイツ語圏は、一体どうなっているんだろうか。この授業はそんな問いに答えるヒントも探したいと思います。
つまり、哲学的な思考法を身につけるだけではなく、それらの考え方を用いて実際の政治的な事例について考えることができるようになることが目的なのです。

【到達目標】
公共哲学についての基本的な概念とそれぞれの概念が持つ問題意識を理解する。
ドイツ語圏の政治に関わる話題にについて基礎的な理解を得る。
哲学的な思考に基づいて、レポートを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
講義形式で授業を行います。毎回リアクションペーパーとして質問を2つ提起してもらいます。この質問を匿名化の上、次の回の導入で一緒に検討します。
学期末にレポートを書いていただきます。
この授業ではドイツ語の知識は一切前提しません。ドイツ語の文献も扱いません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	なぜ公共哲学は重要なのかについてのイントロダクション
第2回	なぜ公共的意見は重要なのか	・公共性とは何ではないのか ・公共性と公開性の関係 ・歴史的出来事を題材に哲学することについて ・民主主義国家の正統性について
第3回	なぜ公共的意見は重要なのか（続き）	前回の続き
第4回	なぜ公共的意見は重要なのか（続き）	前回の続き
第5回	公共性と「公的なもの」	・行為調整の面から見た公共性と共同体の違い ・相互行為の合理的な調整方法としての討議 ・国家の役割の変容と公共性の変化
第6回	公共性と「公的なもの」（続き）	前回の続き
第7回	公共性と「公的なもの」（続き）	前回の続き
第8回	公共性と私（秘）性	・公私の区別を自由の観点から検討する ・親密さについて小家族を例に考える ・家父長制における親密さの持つ問題を捉える ・その問題の背景にある構造的な問題について考える
第9回	公共性と私（秘）性（続き）	前回の続き
第10回	公共性と私（秘）性（続き）	前回の続き
第11回	公共の意見形成	・後期資本主義に変容するメディアの役割についてのハーバマスの悲観 的見方 ・第2次世界大戦後のドイツのメディアをめぐる状況 ・熟議民主主義論の2回路 ・対抗し合う公共圏の中でメディアの果たす役割
第12回	公共の意見形成（続き）	前回の続き
第13回	公共の意見形成（続き）	前回の続き
第14回	春学期のまとめ	春学期に扱ったテーマの確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。配布される授業をよく復習して次回の授業に臨んでください。
学期末にレポートを書いていただきます。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。毎回、資料をHoppiiで配布しますので、そちらをダウンロードしてお持ちください。

【参考書】
毎回の授業ごとに資料内に掲示しますので、そちらをご参照ください。

【成績評価の方法と基準】
毎回リアクションペーパーとして質問を2つ提起してもらいます (50%)。こちらを平常点として評価します。また授業中の積極的な発言はこちらで加味します。
学期末にレポートを執筆していただきます (50%)。こちらは、資料内で提示した参考文献の一部を読んで、要約することを含みます。

【学生の意見等からの気づき】
入り口の興味が、ドイツ語圏の事情・政治学・哲学のどれであっても理解しやすくできるように努力します。

【学生が準備すべき機器他】
毎回、資料をHoppiiを通じて配布しますので、教室でそれらが閲覧できるようにタブレットないしパソコンを準備してきてください。

【その他の重要事項】
春学期と秋学期を分割して履修することもできますが、連続履修をお勧めします。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course aims to provide philosophical discussions on the public sphere and to apply philosophical concepts to social/political issues in the German-speaking region.
【Learning Objectives】
In this course, students will learn how to deal with philosophical concepts and apply them to actual political issues.
【Learning activities outside of classroom】
Students have to learn at least 2 hour outside of class each week.
【Grading Criteria /Policy】
Participation and homework (50%) + term paper (50%)

PHL300LA（哲学 / Philosophy 300）

ドイツ語圏の公共哲学Ｂ

2017年度以降入学者

上田　知夫

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木**2/Thu.2
単位数：**2単位**
定員制（60）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
民主主義ってどういう仕組みで成り立っているのだろうか。そもそも私たちの考えることは本当に反映しているのだろうか。皆さんは投票に出かけたり、選挙特番をご覧になるときに、そう思ったことはありませんか。このことを考えるヒントを、ドイツ語圏の哲学者たち（例えば、カントやアーレントやハーバマス）により展開された公共哲学の議論の展開を検討しながら、探すことがこの授業の目的です。
その際に、現代のドイツ語圏の政治・社会事情を例に取ります。ドイツ語圏の諸国では、議会制民主主義が根付いていると考えられています。一方で、新聞の国際面などを見れば、ドイツ語圏の各国の政治状況は大きく動いていることも感じられます。ドイツ語圏は、一体どうなっているんだろうか。この授業はそんな問いに答えるヒントも探したいと思います。
つまり、哲学的な思考法を身につけるだけではなく、それらの考え方を用いて実際の政治的な事例について考えることができるようになることが目的なのです。

【到達目標】
公共哲学についての基本的な概念とそれぞれの概念が持つ問題意識を理解する。
ドイツ語圏の政治に関わる話題にについて基礎的な理解を得る。
哲学的な思考に基づいて、レポートを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
講義形式で授業を行います。毎回リアクションペーパーとして質問を2つ提起してもらいます。この質問を匿名化の上、次の回の導入で一緒に検討します。
学期末にレポートを書いていただきます。
この授業ではドイツ語の知識は一切前提しません。ドイツ語の文献も扱いません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	春学期の簡単な振り返りと、秋学期のテーマのイントロダクション。
第2回	熟議民主主義と公共性	・熟議民主主義論における政治システムの理論的な役割 ・東ドイツの崩壊と公共性 ・アソシエーションの公共性
第3回	熟議民主主義と公共性（続き）	前回の続き
第4回	熟議民主主義と公共性（続き）	前回の続き
第5回	熟議民主主義と公共性（続き）	前回の続き
第6回	ドイツ語圏の政治システム（続き）	・政治システムとしてのドイツ語圏の政党制度 ・熟議民主主義の対抗説としての闘技民主主義
第7回	ドイツ語圏の政治システム（続き）	前回の続き
第8回	ドイツ語圏の政治システム（続き）	前回の続き
第9回	ドイツ語圏の政治システム（続き）	前回の続き
第10回	多元主義と公共性	・社会が多元的であることをどのように理解するか ・形而上学的思考とその世俗化 ・ドイツ語圏における宗教に関わる状況 ・ポスト世俗化論とは何か
第11回	多元主義と公共性（続き）	前回の続き
第12回	多元主義と公共性（続き）	前回の続き
第13回	多元主義と公共性（続き）	前回の続き
第14回	まとめ	1年間の講義を振り返ってまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。配布される授業をよく復習して次回の授業に臨んでください。
学期末にレポートを書いていただきます。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。毎回、資料をHoppiiで配布しますので、そちらをダウンロードしてお持ちください。

【参考書】
毎回の授業ごとに資料内に掲示しますので、そちらをご参照ください。

【成績評価の方法と基準】
毎回リアクションペーパーとして質問を2つ提起してもらいます (50%)。こちらを平常点として評価します。また授業中の積極的な発言はこちらで加味します。
学期末にレポートを執筆していただきます (50%)。こちらは、資料内で提示した参考文献の一部を読んで、要約することを含みます。

【学生の意見等からの気づき】
入り口の興味が、ドイツ語圏の事情・政治学・哲学のどれであっても理解しやすくできるように努力します。

【学生が準備すべき機器他】
毎回、資料をHoppiiを通じて配布しますので、教室でそれらが閲覧できるようにタブレットないしパソコンを準備してきてください。

【その他の重要事項】
春学期と秋学期を分割して履修することもできます。春学期を履修していなくてもついて来れるようには工夫いたします。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course aims to provide philosophical discussions on the public sphere and to apply philosophical concepts to social/political issues in the German-speaking region.
【Learning Objectives】
In this course, students will learn how to deal with philosophical concepts and apply them to actual political issues.
【Learning activities outside of classroom】
Students have to learn at least 2 hour outside of class each week.
【Grading Criteria /Policy】
Participation and homework (50%) + term paper (50%)

HIS300LA（史学 / History 300）

ドイツ語圏の歴史A

2017年度以降入学者

辻　英史

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月4**/Mon.4
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ドイツ語圏の社会文化史
　中・近世から20世紀にいたる時期のドイツ語圏を中心にしたヨーロッパの歴史を、とくに社会の変化と芸術・文化の発展に焦点を当てて学ぶ。

【到達目標】
　中・近世のドイツ語圏は、政治的には多数の地方権力に分裂していた。19世紀に入り、それらの勢力は次第に整理・統合され、最終的にはドイツ帝国やオーストリア帝国、スイス連邦といった近代国家として統一されていく。このような歴史的経緯から、現代に至るまでドイツ語圏は全体としてある程度の共通性を保ちつつ、地域ごとに非常に変化に富む社会である。そこから文化・芸術の領域において貴重な遺産の数々が作り出されてきた。
　この授業では、こうした地域差と多様性を有するドイツ語圏の社会が、ヨーロッパの他の地域と交流しながら、いかに独自の文化を生み出し、それと同時に優れた芸術作品を作り出していったかを学ぶ。
　なお、20世紀以降の時代については秋学期開講の「ドイツ語圏の歴史B」で扱う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
　ドイツ語圏の歴史のなかでもとくに重要ないくつかの時期や事件をとりあげて、当時の社会がどのようなものであったかを解説し、またそうした時代背景のもとでどのような文化現象や芸術作品が生み出されたのかを説明する。さまざまな映像・画像・テキストなどの資料により作品の解説を行う。
　授業は時代順に以下の5つのパートに分かれる：
①中世編　フランク王国から宗教改革（16世紀前半）まで
②近世編　16世紀後半から18世紀後半まで
③初期近代編　18世紀末から19世紀前半まで
④近代編　19世紀半ばから19世紀末まで
⑤世紀転換期編　19世紀末から20世紀初頭まで
　参加者はドイツ語の知識がある方が望ましいが、ドイツ語のテキストを用いる場合でも日本語または英語の翻訳を用意する。
　参加者は毎回リアクションペーパーを提出する。毎回の授業冒頭に前回のリアクションペーパーのフィードバックをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	ドイツ語圏の社会と文化の特徴とは？
第2回	中世編①　中世社会とキリスト教	教会建築を手がかりに、中世のキリスト教が社会に与えた影響を考える。
第3回	中世編②　中世の都市文化	中世都市の発展と社会構造の関係を、ルネサンス期の絵画芸術を例として考える。
第4回	中世編③　宗教改革と文化	中世社会の経済的発展がローマ・カトリック宗教改革期の社会と芸術の関係について。
第5回	近世編①　宮廷社会とバロック芸術	近世の宮廷では、強力な君主権力のもと各種のバロック芸術が花開いた。その例として建築、絵画、音楽などの作品を取り上げる。
第6回	近世編②　民衆のバロック	近世では、主としてプロテスタント圏において都市の経済力を原動力として新たな芸術活動が展開された。バッハの音楽芸術はその典型である。
第7回	近世編③　啓蒙主義の出現	近世における経済発展は、哲学や思想上の革新をもたらした。その頂点に位置するのが啓蒙主義思想である。その思想内容は同時代の芸術作品にも影響を与えている。
第8回	初期近代編①　近代国家と古典主義	ドイツ語圏では啓蒙主義派君主権力と結びつき、国家や社会の近代化の動きをもたらした。古典主義の芸術は新しい国家と社会の象徴でもあった。
第9回	初期近代編②　市民社会の出現とロマン主義	18世紀の末になると、国家の保護をうけて商工業は活発化し、市民層と呼ばれる商工業に従事する中間層が台頭する。彼らはロマン主義の芸術に深く傾倒していく。
第10回	近代編①　ナポレオン戦争とナショナリズム	フランス革命とそれに続くナポレオンによる侵略は、それまで分裂していたドイツを統一しようとするナショナリズムを高揚させることになった。
第11回	近代編②　工業化と市民層の文化	19世紀の半ばから後半にかけての工業化の進展は、市民層の地位をさらに高め、芸術の担い手としての活動を可能にした。
第12回	近代編③　社会主義労働運動の展開	19世紀後半、低賃金と過酷な労働・生活環境に苦しめられた工業労働者たちは社会主義思想のもと団結し、ひとつの階級を形成し始めた。
第13回	世紀転換期編①　19世紀末の社会と芸術	ウィーンを例に、いわゆる世紀末文化の特徴と、ユーゲントシュティルの芸術の隆盛を説明する。
第14回	世紀転換期②　20世紀初頭の生活改革運動と表現主義	19世紀末から20世紀初めに出現した改革運動の数々と、同時代の新しい芸術潮流との関係について扱う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　授業中は積極的な参加が要求される。また、毎回リアクションペーパーを提出すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布する。

【参考書】
必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加(10%)、リアクションペーパー(30%)、期末レポート(60%)

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【Outline (in English)】
In this class, students will study the history of Europe, especially the German-speaking countries, from the Middle Ages and early modern period to the 20th century, focusing especially on social changes and the development of art and culture.
Students are required to submit a reaction paper each time. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Class participation (10%), reaction papers (30%), reports (60%)

HIS300LA（史学 / History 300）

ドイツ語圏の歴史Ｂ

2017年度以降入学者

辻　英史

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月**4/Mon.4
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、ナチズムを中心に20世紀のドイツ語圏の歴史を扱う。ナチスとその支配をドイツ＝ヨーロッパ史の文脈のなかに位置づけ、その特質を理解することを目的とする。

【到達目標】
20世紀の前半のドイツを中心とするヨーロッパの状況について学ぶ。とくに、歴史上例のない破壊と犯罪行為をおこなったナチ政権の成立に至る過程とその支配のイデオロギーや構造、およびナチ政権の下での「普通の人びと」の日常生活について理解する。ナチスの引き起こした第二次世界大戦とユダヤ人迫害（ホロコースト）を、そのヨーロッパワイドな広がりという文脈において理解する。さらに、大戦後から現代に至るまでのナチスをめぐる歴史認識についても考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
毎回の授業は以下の3つのパートからなる。
①概説：政治・経済を中心に、時代の流れを説明する。
②論点：経済・社会・文化を中心に、その時代の重要な特徴をいくつか抜き出し、解説する。
③演習：それまでに得た知見を踏まえ、同時代史料（文書、画像、映像、芸術作品など）を読解し、解釈する。史料は日本語のものを用意する。
参加者は毎回課題（リアクションペーパー）を提出する。提出課題はフィードバックのうえ返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	ドイツの近現代史における特殊性と他地域との共通性について知る。
第2回	近現代ドイツ史の歩みとナショナリズム	ナポレオン戦争からドイツ帝国創建にいたるドイツのナショナリズムの発展を概観する。
第3回	第一次世界大戦とその帰結	ヴェルサイユ体制と敗戦国ドイツの処遇について学ぶ。
第4回	ヴァイマール共和国の誕生	ドイツ革命、ヴァイマール共和国の成立から1920年代半ばの相対的安定期までを扱う。
第5回	ヴァイマール共和国の崩壊	世界大恐慌から、ナチ党の台頭過程を経てその権力掌握に至るまでを明らかにする。
第6回	ナチ独裁支配の確立	全権委任法や「グライヒシャルトゥンク」と呼ばれる国内支配体制の足固め、「経済の奇跡」を達成するまでを概観する。
第7回	ナチ体制への国民統合	ドイツ国民の「民族共同体」への統合と、「共同体異分子」と呼ばれた人びとの排除について扱う。
第8回	ナチ・ドイツと国際社会	ヨーロッパ・グローバルな視点から1930年代の国際情勢を明らかにする。
第9回	「電撃戦」から「総力戦」へ	第二次世界大戦の開戦の経緯とドイツの戦争遂行体制の内実について知る。
第10回	ヨーロッパ・ユダヤ人の「絶滅計画」	大量虐殺に至るユダヤ人迫害の累進的急進化のプロセスについて学ぶ。
第11回	支配と協力のあいだで	ナチ支配体制に対するヨーロッパ各国の協働と抵抗について知る。
第12回	第二次世界大戦後のドイツ（1）	「崩壊社会」と呼ばれた敗戦後の混乱から、東西ドイツの建国にいたる時期を扱う。
第13回	第二次世界大戦後のドイツ（2）	戦後の東西ドイツにおける「過去の克服」の状況、とくに戦争犯罪人の訴追の問題を扱う。
第14回	再統一後のドイツと「記憶の文化」	統一ドイツにおけるナチズムの過去に関する「記憶の文化」の形成について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回課題（リアクションペーパー）を提出する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布する。

【参考書】
石田勇治編著『図説ドイツの歴史』河出書房新社、2007年。
芝健介『ホロコースト―ナチスによるユダヤ人大量殺戮の全貌』中公新書、2008年。
石田勇治『ヒトラーとナチ・ドイツ』講談社現代新書、2015年。
芝健介『ヒトラー―虚像の独裁者』岩波新書、2021年。
ウルリヒ・ヘルベルト(小野寺拓也訳)『第三帝国―ある独裁の歴史』角川新書、2021年。
小野寺拓也／田野大輔『検証ナチスは「良いこと」もしたのか？』岩波ブックレット、2023年。
原田昌博『ナチズム前夜』集英社新書、2024年。
ほか、授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加(10%)、リアクションペーパー(30%)、レポート(60%)

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【Outline (in English)】
This course covers the history of the German-speaking world in the 20th century, with a focus on National Socialism. The aim is to place the Nazis and their rule in the context of German-European history and to understand its particularities.
Students will pay close attention to the process led to the establishment of the Nazi regime, which committed destruction and criminality unprecedented in history, the ideology and structure of its rule, and the daily lives of "ordinary people" under the Nazi regime. The course will also provide students with an understanding of the role of the Nazi regime in the Second World War and the persecution of the Jews (the Holocaust) in the context of its Europe-wide spread. The course will also examine historical perceptions of the Nazis from the end of the war to the present day.
Students are required to submit a reaction paper each time. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Class participation (10%), reaction papers (30%), reports (60%)

LANf300LA（フランス語 / French language education 300）

第三外国語としてのフランス語Ａ　2017年度以降入学者

廣松　勲

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水**3/Wed.3
単位数：**2単位**
定員制（40）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランス語初級者向けの授業である。フランス語の基礎的な文法事項を着実に習得することで、中級以降に向かうための基礎固めを行う。

【到達目標】
実用フランス語技能検定試験（仏検）4級～5級レベル到達を目指す。基礎的なフランス語文法を用いて発話・筆記できるようになると同時に、簡単にでも（フランス共和国を含めた）現代のフランス語圏社会の状況を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
日本語で授業を行う。フランス語の初級文法および日常会話を中心にして、説明・練習・解説という手順で進める。また、時間の許す限り、フランス共和国を含めたフランス語圏の文化や社会に関して紹介する。
コメントシートやミニ課題などについては、できるだけ次回以降の授業で反映・返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション Leçon 0	・授業の進め方や評価方法などの確認 ・アルファベの読み方 ・挨拶表現 ・数字1～10
2	Leçon 0 Leçon 1	職業や国籍を言う ・綴り字の読み方 ・名詞の性と数 ・主語人称代名詞 ・動詞être
3	Leçon 1	職業や国籍を言う ・否定形 ・綴り字の読み方
4	Leçon 2	言語や好みを言う ・ER動詞の活用 ・定冠詞と不定冠詞
5	Leçon 2	言語や好みを言う ・形容詞 ・綴り字の読み方
6	Leçon 3	所持品や年齢を言う ・動詞avoir ・否定のde ・疑問文 ・数字11～20
7	Leçon 3	所持品や年齢を言う ・代名詞の強勢形 ・疑問形容詞 ・綴り方の読み方
8	中間まとめ	・これまでの学習事項の総復習 ・進度の調整
9	Leçon 4	家族の話をする、したいことを言う ・所有形容詞 ・不規則動詞（aller, venir, vouloir）
10	Leçon 4	家族の話をする、したいことを言う ・国名に付く前置詞 ・綴り字の読み方
11	Leçon 5	できることを言う、近い過去・未来の話をする ・部分冠詞 ・近接過去と近接未来 ・動詞pouvoir
12	Leçon 5	できることを言う、近い過去・未来の話をする ・指示形容詞 ・疑問代名詞 ・動詞prendre, attendre
13	Leçon 6	たずねる（いつ、どこ、どのように、なぜ、いくつ）、命令する ・疑問副詞 ・前置詞と定冠詞の縮約 ・動詞devoir
14	期末試験	筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題提出以外にも、教科書に出てくる例文などの意味を調べるなど「予習・復習」を確りとして欲しい。その際には、辞書で単語の意味も確りと調べ、ノートに記述しておくこと。
音声教材をよく聞き、繰り返し発音をすること。
フランス語圏の文化や社会に関する資料を配布した際には、確りと読むこと。
本授業の準備学習・復習時間は、合計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
田辺保子，西部由里子著，『ヴァズィ！（改訂二版）』，駿河台出版社，2023年.
（＊自分で入手する場合、2023年刊行の「改訂二版」であることに注意してほしい。）

【参考書】
教科書には簡単な語彙録しか付いていないため、小さいサイズでも「仏和辞書」を購入して欲しい。お薦めの辞書は、以下の通り。
宮原信他著，『ディコ仏和辞典』，白水社，2003年.
西村牧夫他編訳，『ロベール・クレ　仏和辞典』，駿河台出版社，2011年.
また、文法練習問題、仏検対策問題集等については、希望者に提示する。

【成績評価の方法と基準】
・平常点と期末テストに基づき、総合的に評価する。
①平常点（ミニ課題など）：30％
②期末テスト：70％

【学生の意見等からの気づき】
学生がフランス語で表現する機会（特に発音と筆記）を増やすとともに、進度にも気を付けながら授業を進める。

【Outline (in English)】
This course introduces the foundations of french langage to students learning it as the third langage. They can learn also the situation of contemporary french society to some extent.
The goals of this course are to understanding and writing/speaking the elementary French language.
Before and after each class meeting,students will be expected to spend four hours to read the relevant chapter(s) and documents.
Your overall grade in the class will be decided based on the followings:
in class contributions (mini-exercice, etc): 30%, term-end test: 70%.

LANf300LA（フランス語 / French language education 300）

第三外国語としてのフランス語Ｂ　2017年度以降入学者

廣松　勲

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水**3/Wed.3
単位数：**2単位**
定員制（40）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランス語初級者向けの授業である。フランス語の基礎的な文法事項を着実に習得することで、中級以降の基礎固めを行う。春学期から継続して授業を進める。

【到達目標】
実用フランス語技能検定試験（仏検）4級～5級レベル到達を目指す。基礎的なフランス語文法を用いて発話・筆記ができるようになると同時に、簡単にでも（フランス共和国を含めた）現代のフランス語圏社会の状況を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
日本語で授業を行う。フランス語の初級文法および日常会話を中心にして、説明・練習・解説という手順で進める。時間の許す限り、フランス共和国を含めたフランス語圏の文化や社会に関して紹介する。
コメントシートやミニ課題などについては、できるだけ次回以降の授業で反映・返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	復習 Leçon 6つづき Leçon 7	たずねる（いつ、どこ、どのように、なぜ、いくつ）、命令する ・命令形 ・時の表現 人・ものを描写する ・IR動詞（つづき） ・形容詞 ・動詞savoir, voir
2	Leçon 7	人・ものを描写する ・数量表現 ・名詞＋à＋不定詞 ・動詞mettre
3	Leçon 8	時刻・天気を言う ・目的補語人称代名詞 ・非人称構文 ・動詞connaître
4	Leçon 8	時刻・天気を言う ・数字21～69 ・動詞faire, écrire
5	Leçon 9	日常の活動を言う ・代名動詞 ・日常の活動を表す表現
6	Leçon 9	日常の活動を言う ・代名動詞の否定文、疑問文、命令文 ・日常の活動を表す表現（つづき）
7	Leçon 10	未来のことを言う、比較する ・直説法単純未来 ・形容詞・副詞の比較級
8	Leçon 10	未来のことを言う、比較する ・形容詞・副詞の最上級 ・特殊な優等比較級・優等最上級 ・指示代名詞
9	中間まとめ	・これまでの学習事項を総復習 ・進度の調整
10	Leçon 11	過去のことを言う（1） ・数字70～100 ・直説法複合過去 ・目的補語人称代名詞を含む複合過去
11	Leçon 11	過去のことを言う（1） ・代名動詞を含む複合過去 ・中性代名詞en
12	Leçon 12	過去のことを言う（2）、否定する ・直説法半過去 ・直説法複合過去と直説法半過去の違い
13	Leçon 12	過去のことを言う（2）、否定する ・直接法大過去 ・中性代名詞yとle ・様々な否定表現
14	期末試験	筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題を含めて、教科書の例文の意味を調べるなど「予習・復習」を確りとしてほしい。その際には、辞書で単語の意味も確りと調べ、ノートに記述しておくこと。
音声教材をよく聞き、繰り返し発音をすること。
フランス語圏の文化や社会に関する資料を配布した際には、確りと読むこと。
本授業の準備学習・復習時間は、合計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
田辺保子，西部由里子著，『ヴァズィ！（改訂二版）』，駿河台出版社，2023年.
（＊自分で入手する場合、2023年刊行の「改訂二版」であることに注意してほしい。）

【参考書】
教科書には簡単な語彙録しか付いていないため、小さいサイズでも仏和辞書を持っていて欲しい。お薦めの辞書は以下の通り。
宮原信他著，『ディコ仏和辞典』，白水社，2003年
西村牧夫他編訳，『ロベール・クレ　仏和辞典』，駿河台出版社，2011年
また、文法練習問題、仏検対策問題集等については、希望者に提示する。

【成績評価の方法と基準】
・平常点と期末テストに基づき、総合的に評価する。
①平常点（ミニ課題など）：30％
②期末テスト：70％

【学生の意見等からの気づき】
学生がフランス語で表現する機会（特に発音・筆記）を増やすとともに、進度にも気を付けながら授業を進める。

【Outline (in English)】
This course introduces the foundations of french langage to students learning it as the third langage. They can learn also the situation of contemporary french society to some extent.
The goals of this course are to understanding and writing/speaking the elementary French language.
Before and after each class meeting,students will be expected to spend four hours to read the relevant chapter(s) and documents.
Your overall grade in the class will be decided based on the followings:
in class contributions (mini-exercice, etc): 30%, term-end test: 70%.

ARSa300LA（地域研究（ヨーロッパ） / Area studies(Europe) 300）

教養ゼミⅠ

2017年度以降入学者

大中　一彌

開講時期：サマーセッション/Summer Session　｜　曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【履修登録にかかわる特記事項】
●あなたが所属している学部の履修登録期間の最終日までに、この科目「教養ゼミⅠ」（Q6605）の履修登録を済ませるとともに、学習支援システムにて仮登録をおこなってください。
●この科目「教養ゼミⅠ」（Q6605）は、他の教養ゼミと異なり、定員がないため、選抜や抽せん、およびそれらの結果通知はありません。履修登録の流れは、一般的な春学期科目と同じとお考え下さい。
●興味・関心のある方は、教養ゼミⅡ：「ポピュリズム」入門～トランプ氏が再登場した世界で～（９月中旬）【授業コード：Q6606】もぜひ履修しましょう。社会人として知っておいたほうが良い、現代の政治・経済・文化のあり方について、初学者が学ぶコースになっています。
==========
【科目のかんたんな説明】
●この教養ゼミⅠは、2025年8月4日（月）・8月5日（火）・8月6日（水）・8月7日（木）の４日間で開催される集中講座です（２単位）。
●短い日数で効率よく学べる利点があります。
●いわゆるグローバル・サウスから、より政治的に安定し、社会福祉の制度が整った、いわゆる先進国に旅する移民や難民の動きがテーマです。
●移民や難民といったテーマにあまり詳しくない人でも、「人物」や「映像」が軸となる内容ですので理解がしやすく、視野が広がります。
●映像作品に興味がある人にとっては、見たことがない作品について知るきっかけになるでしょう。

【到達目標】
コースの終わりまでに、学生の皆さんは次のことができるようになります：
1）人口1700万人強のオランダが、なぜ、非ヨーロッパ系の移民に対し、英語というよりは、オランダ語や市民的な自由について、基本的な知識をもつよう求めているのかという問いについて、過度な単純化を避けながら、ひとつの答えを思い描くことができる。
2）欧州各国における「移民社会」化が、人びとのアイデンティティにもたらした光と影について考えるさいに、宗教をめぐる公的な位置づけのあり方（政教分離）や、就労を促進するための雇用の流動化（福祉国家の変容）といった要素を、考慮に入れることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
（ア）この教養ゼミⅠの授業形態は、基本的に「対面」です。
（イ）2025年8月4日（月）・8月5日（火）・8月6日（水）・8月7日（木）の４日間に開催されます。
（ウ）希望者は一部の授業回についてZoomでも参加できます。下記の【授業計画 /Schedule】で「併用あり」と記されているのがZoomで参加できる授業回です。
（エ）４日間で行いますので、体調不良や他の理由による不参加が生じた場合、成績評価への影響が相対的に大きくなります。
（オ）そのため「まとめコメント」の早期提出を認める予定です。
（カ）とはいえ、４日間参加していれば、それだけできちんと点数はつきます。成績評価について、詳しくはExcelファイル「進行予定表」URL https://x.gd/QA5Gp にあるシート見出しのタブ「成績評価基準」をご覧ください。
（キ）問い合わせは、Wordファイル「2025年度：教養ゼミⅠ『移民社会』入門～見える国境と見えない国境～（８月上旬）」URL https://x.gd/3wVq9 にある問い合わせ先からお願いします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめまして！【8月4日（月）2限、Zoom併用あり】	シラバス（授業の概要と成績評価）や進行予定表の説明、自己紹介
2	クエスチョンを探そう【8月4日（月）3限、Zoom併用なし】	「群衆」が感じる「問題」としての移民流入
3	避難民 migrants の暮らしを疑似体験する【8月4日（月）4限、Zoom併用なし】	映像作品①について考える
4	考える・まとめる【8月4日（月）5限、Zoom併用あり】※提出した人から帰宅する	8月4日分の「まとめコメント」を作成・提出する。※遠隔・事前の提出可。ただし対面で出席していた学生全員が教室から退出した後は提出できない。
5	他の人の意見を知る【8月5日（火）2限、Zoom併用なし】	初日のまとめコメントへの学生投票
6	グローバル・サウス出身の避難民が「先進国」で住民の１人として溶け込むのに何が必要か【8月5日（火）3限、Zoom併用なし】	映像作品②について考える
7	あなたがもし、移民出自の生徒を公立中学校で担任する教師だったら？【8月5日（火）4限、Zoom併用なし】	映像作品③について考える
8	考える・まとめる【8月5日（火）5限、Zoom併用あり】※提出した人から帰宅する	8月5日分の「まとめコメント」を作成・提出する。※遠隔・事前の提出可。ただし対面で出席していた学生全員が教室から退出した後は提出できない。
9	他の人の意見を知る【8月6日（水）2限、Zoom併用なし】	２日めのまとめコメントへの学生投票／映像作品④について考える
10	クエスチョンを探そう【8月6日（水）3限、Zoom併用なし】	集団間の対立と他者の生の否定
11	考える・まとめる【8月6日（水）4限、Zoom併用あり】※提出した人から帰宅する	8月6日分の「まとめコメント」を作成・提出する。※遠隔・事前の提出可。ただし対面で出席していた学生全員が教室から退出した後は提出できない。
12	他の人の意見を知る【8月7日（木）2限、Zoom併用なし】	３日めのまとめコメントへの学生投票／《ともに働き、生活すること》は、どのような場合なら、外国出身者への差別感情をなくすのに役立つか
13	受け入れ側社会の多数派が抱く恐怖感【8月7日（木）3限、Zoom併用なし】	映像作品⑤について考える
14	考える・まとめる【8月7日（木）4限、Zoom併用あり】※提出した人から帰宅する	8月7日分の「まとめコメント」を作成・提出する。※遠隔・事前の提出可。ただし対面で出席していた学生全員が教室から退出した後は提出できない。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日本語の習熟度や、専門や関心の異なる多様な学生が、この教養ゼミⅡに参加します。そのため、一律の時間の長さは定めません。大学設置基準によれば、２単位の講義及び演習の準備・復習時間は１回につき４時間以上とされています。

【テキスト（教科書）】
８月のサマー・セッションの時期を待つことなく、学習支援システム-Hoppii等をつうじ、４月から資料を事前に配布します。

【参考書】
購入は必須ではありませんが、ゼミでお話をするさいにしばしば出てきますので、読むことができれば、授業内容の理解がいっそう進むでしょう。
水島治郎『反転する福祉国家　オランダモデルの光と影』岩波現代文庫、2019年。Cf. https://www.iwanami.co.jp/book/b431806.html

【成績評価の方法と基準】
１．平常点　= 15%
２．まとめコメント = 52%
３．まとめコメントの早期提出
４．４．教室内活動への参加 = 33%
５．その他
※成績評価について、詳しくはExcelファイル「進行予定表」URL https://x.gd/w913l にあるシート見出しのタブ「成績評価基準」をご覧ください。
※なんらかの障がいや疾患、メンタルな面を含むハンディキャップなど、諸事情によりグループ・ディスカッションに参加することが困難な方は、法政大学障がい学生支援室に「就学上の配慮」をできるだけ早い時期に求めてください。「就学上の配慮」が認められた場合は、障がい学生支援室から担当教員に連絡が来ますので、グループ・ディスカッションに替わる課題に取り組んでいただきます。
※サマー・セッションと重なる時期に「学校保健安全法に定める感染症」に感染した方は、所属する学部に連絡し「感染症等に係る授業欠席等配慮願」を受け取ってください。そして、所属する学部が発行する「配慮願」を担当教員にご提出ください。ただし、サマー・セッションは春セメスター（前期）科目であるため、８月上旬には法政大学に学生の成績を提出する必要があります。そのため出席停止になった学生側は、仮に感染症から健康状態が快復したとして、代替の課題を８月９日ぐらいまでに提出する手はずになります。感染症で出席停止となった学生のための配慮については、オータム・セッション科目である教養ゼミⅡ（Q6606）のほうが、配慮に使える時間的な余地が大きいことを、あらかじめご承知おきください。

【学生の意見等からの気づき】
・海外の文化や政治・経済についての学びは、必要そうではあるけれど、わかりづらそうで敬遠したくなるという方もいるようです。
・この教養ゼミⅠは、人物や映像を軸とした組み立てとすることにより、参加のハードルを下げ、そうした方が、必要な学びにアクセスできる場となることを目指しています。

【学生が準備すべき機器他】
資料の共有などに、Google ClassroomやHoppiiを使いますので、ノートパソコンやタブレットなどの情報端末が必要です。なお、市販されている映像作品の公衆送信は行いません。

【その他の重要事項】
・わからないことは、気兼ねなく、お問合せください。
・留学や大学院進学、就職などの相談もOKです。
・問い合わせ先や、取り上げる予定の映像作品については、次のリンク先をご覧ください URL https://x.gd/WTP7m

【Outline (in English)】
What does it mean to accept "cultural and religious differences" in today's society where there is a lot of migration of people across borders?　Does it mean that the majority must accept all cultures and religions of the minorities without exception ? On the other hand, does it mean that a minority group must completely assimilate into the culture and religion of the host country ? In this Liberal Arts Seminar II, which is scheduled for the fall semester, we will discuss the ideals and realities concerning such "cultural and religious differences", using as a case study the policy shift in the Netherlands, which has traditionally been known as a liberal and tolerant society. This course is a seminar designed around the topics, questions, and exchanges of opinions suggested by the students.
［Learning Objectives］
The goal of this seminar is not to become proficient in English, Japanese, or any other language.
By the end of the course, students should be able to do the following:
1) Conceptualizing, without oversimplification, an answer to the question of why the Netherlands, with a population of just over 17 million, requires non-European immigrants to have a basic knowledge of the Dutch language (rather than English) and civil liberties.
2) Having a basic insight into the different implications of "culture" and "religion" in different countries and historical periods.
3) Understanding how to relate contemporary social issues to current cultural topics in which students are highly interested.
4) Expressing thoughts and feelings appropriately through presentations using Google Slides, Google Docs, and Zoom screen sharing.
［Learning activities outside of classroom］
(a) Read the pages of the textbook listed in the "Schedule" in advance.
(b) Post the material for the topic (including links, etc.) in the designated LMS (Google Classroom) location in time before the course begins.
(c) The time required for preparation and revision for this seminor will be the time required to do (a) and (b) above. A diverse group of students with varying levels of proficiency in Japanese and other languages will participate in this seminar. Therefore, a uniform length of time is not specified. However, according to the Standards for the Establishment of Universities, the preparation and review time for each two-credit lecture and seminar should be at least four hours.
［Grading Criteria］
Your final grade in this seminar will be decided on the following:
1. Quantity and quality of "summary comments" = 70%
2. In-class activity participation and various contributions to the class = 30%

ARSa300LA（地域研究（ヨーロッパ）/ Area studies(Europe) 300）

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

大中　一彌

開講時期：**オータムセッション**/Autumn Session　｜　曜日・時限：**集中・その他**/intensive・other courses
単位数：**2単位**
※履修登録は学部事務にて行います。

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【履修登録にかかわる特記事項】
●この科目「教養ゼミⅡ　『ポピュリズム』入門～トランプ氏が再登場した世界で～」（Q6606）は、ひとりひとりの学生ではなく、市ヶ谷リベラルアーツセンター（ＩＬＡＣ）が一括して履修登録を行います。
●学生で履修を希望する人は、2025 年 4 月 11 日（金）午前 11:59:59 までに、2025 年度オータム・セッション「教養ゼミⅡ」（Q6606）科目履修仮登録用Google フォーム URL https://forms.gle/gCxjCzgY6HzxYkvc9 に、必要事項を入力したうえで「送信」ボタンをクリックして（押して）ください。
●必要事項が全て入力され、Google フォームの送信ボタンをあなたがクリックした時点で、仮登録が済んだことになります。
●送信ボタンの押し忘れがなく、Google フォームが正常に作動していれば、入力した内容のコピーが、あなたがログイン時に用いたメール・アカウントに自動送信されます。
●仮登録された学生は全員、この「教養ゼミⅡ」に履修登録されますが、念のため、あなたが所属している学部の履修登録期間になったら、この科目「教養ゼミⅡ」の履修登録がきちんとなされているか、確認を行ってください。
==========
【科目のかんたんな説明】
●教養ゼミⅡ「『ポピュリズム』入門～トランプ氏が再登場した世界で～」は 2025年9月12日（金）・9月13日（土）・9月15日（月）・9月16日（火）の４日間で開催される集中講座です（２単位）。
●トランプ氏を２度、アメリカ大統領の座に押し上げ、世界各国の政治・経済・文化を揺り動かしている、ポピュリズムがテーマです。
●こうしたテーマにあまり詳しくない人でも、「人物」や「映像」を軸に活動が組み立てられていますので理解がしやすく、視野が広がります。
●短い日数で効率よく学べる利点があります。
●映像作品に興味のある方にとっては、作品を知る機会になるでしょう。

【到達目標】
（1）さまざまな国と地域、歴史時代に存在した、ポピュリズムの構成要素とされる事象に幅広く触れることで、現代の政治・社会現象としてのポピュリズムにかんし、批判的な距離を保ちながら、意見を述べることができる。
（2）ポピュリストと反ポピュリスト、無関心層のような、ポピュリズムをめぐり異なる態度を産みだす感情的なバネについて、ひとつひとつの映像作品や人物の性格、ならびに制度的な背景（例　メリトクラシー）を掘り下げながら、研究上の問い（リサーチ・クエスチョン）を練ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
（ア）この教養ゼミⅡの授業形態は、基本的に「対面」です。
（イ）2025年9月12日（金）・9月13日（土）・9月15日（月）・9月16日（火）の４日間に開催されます。
（ウ）希望者は一部の授業回についてZoomでも参加できます。下記の【授業計画 /Schedule】で「併用あり」と記されているのがZoomで参加できる授業回です。
（エ）４日間で行いますので、体調不良や他の理由による不参加が生じた場合、成績評価への影響が相対的に大きくなります。
（オ）そのため、セッション授業終了後の話題提供を認める予定です。
（カ）とはいえ、４日間参加していれば、それだけできちんと点数はつきます。成績評価について、詳しくは「進行予定表」URL https://x.gd/ReYc0 にあるシート見出しのタブ「成績評価基準」をご覧ください。
（キ）問い合わせは、Word ファイル「2025 年度：教養ゼミⅡ『ポピュリズム』入門～トランプ氏が再登場した世界で～（９月中旬）」URL https://x.gd/5yw1I　にある問い合わせ先からお願いします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめまして！【9月12日（月）2限、Zoom併用あり】	シラバス（授業の概要と成績評価）や進行予定表の説明、自己紹介
2	クエスチョンを探そう【9月12日（月）3限、Zoom併用なし】	皆で資料からクエスチョンを掘り出す
3	メディアとポピュリズム【9月12日（月）4限、Zoom併用なし】	映像作品①について考える
4	考える・まとめる【9月12日（月）5限、Zoom併用あり】※提出した人から帰宅する	8月2日分の「まとめコメント」を作成・提出する。※遠隔・事前の提出可。ただし対面で出席していた学生全員が教室から退出した後は提出できない。
5	他の人の意見を知る【9月13日（火）2限、Zoom併用なし】	初日のまとめコメントへの学生投票／人びとはどのようにして立ち上がるのか（政治的動員）
6	対立の構図を理解する【9月13日（火）3限、Zoom併用なし】	映像作品②と③について考える
7	考える・まとめる【9月13日（火）4限、Zoom併用あり】※提出した人から帰宅する	9月13日（火）分の「まとめコメント」を作成・提出する。※遠隔・事前の提出可。ただし対面で出席していた学生全員が教室から退出した後は提出できない。
8	他の人の意見を知る【9月15日（月）2限、Zoom併用なし】	２日めのまとめコメントへの学生投票／女性とポピュリズムの関係について、立ててみる価値がある問いを探す。
9	ポピュリズムと女性【9月15日（月）3限、Zoom併用なし】	映像作品④について考える
10	ファンタジーとポピュリズム【9月15日（月）4限、Zoom併用なし】	映像作品⑤について考える
11	考える・まとめる【9月15日（月）5限、Zoom併用あり】※提出した人から帰宅する	9月15日（月）分の「まとめコメント」を作成・提出する。遠隔・事前の提出可。ただし対面で出席していた学生全員が教室から退出した後は提出できない。
12	他の人の意見を知る【9月16日（火）2限、Zoom併用なし】	３日めのまとめコメントへの学生投票／ポピュリズムに私（たち）はどう対応すべきなのか
13	ポピュリズムの《需要側》と《供給側》【9月16日（火）3限、Zoom併用なし】	映像作品⑥について考える

14	考える・まとめる【9月16日（火）4限、Zoom併用あり】※提出した人から帰宅する	9月16日（火）分の「まとめコメント」を作成・提出する。※遠隔・事前の提出可。※ただし対面で出席していた学生全員が教室から退出した後は提出できない。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日本語の習熟度や、専門や関心の異なる多様な学生が、この教養ゼミⅡに参加します。そのため、一律の時間の長さは定めません。大学設置基準によれば、２単位の講義及び演習の準備・復習時間は１回につき４時間以上とされています。

【テキスト（教科書）】
９月のオータム・セッションの時期を待つことなく、学習支援システム-Hoppii等をつうじ、資料を事前に配布します。

【参考書】
購入は必須ではありませんが、ゼミでお話をするさいにしばしば出てきますので、読むことができれば、授業内容の理解がいっそう進むでしょう。
カス・ミュデ&クリストバル・ロビラ・カルトワッセル『ポピュリズム　デモクラシーの友と敵』永井大輔&高山裕二訳、白水社、2018年。Cf. https://www.hakusuisha.co.jp/book/b352020.html

【成績評価の方法と基準】
１．平常点　= 15%
２．まとめコメント = 52%
３．教室内活動（授業時間内の個別の発言やグループディスカッション、各種の投票）への参加 = 33%
４．セッション授業終了後の話題提供
５．その他
※成績評価について、詳しくはExcelファイル「進行予定表」URL https://x.gd/z2Z0I にあるシート見出しのタブ「成績評価基準」をご覧ください。
※なんらかの障がいや疾患、メンタルな面を含むハンディキャップなど、諸事情によりグループ・ディスカッションに参加することが困難な方は、法政大学障がい学生支援室に「就学上の配慮」を求めてください。「就学上の配慮」が認められた場合は、障がい学生支援室から担当教員に連絡が来ますので、グループ・ディスカッションに替わる課題に取り組んでいただきます。
※オータム・セッションと重なる時期に「学校保健安全法に定める感染症」に感染した方は、所属する学部に連絡し「感染症等に係る授業欠席等配慮願」を受け取ってください。そして、所属する学部が発行する「配慮願」を担当教員にご提出ください。

【学生の意見等からの気づき】
・海外の文化や政治・経済についての学びは、必要そうではあるけれど、わかりづらそうで敬遠したくなるという方もいるようです。
・この教養ゼミⅡは、人物や映像を軸とした組み立てとすることにより、参加のハードルを下げ、そうした方が、必要な学びにアクセスできる場となることを目指しています。

【学生が準備すべき機器他】
資料の共有などに、Google ClassroomやHoppiiを使いますので、ノートパソコンやタブレットなどの情報端末が必要です。なお、市販されている映像作品の公衆送信は行いません。

【その他の重要事項】
・わからないことは、気兼ねなく、お問合せください。
・留学や大学院進学、就職などの相談もOKです。
・問い合わせ先や、取り上げる予定の映像作品については、Wordファイル「2025年度：教養ゼミⅡ『ポピュリズム』入門～トランプ氏が再登場した世界で～（９月中旬）」URL https://x.gd/07gVQ　をご覧ください。

【Outline (in English)】
Populism, which includes opposition to globalization as one of its main components, is shaking the political foundations of countries around the world. In this spring semester course, Liberal Arts Seminar I, "Populism and the World: For Those Who Are Tired of Go Global," we will focus on xenophobia, the backlash against so-called identity politics, and the support for populism by the cultural "majority" voters. The class will be built around the students' opinions and questions concerning a central issue : "What kind of culture do we want in our society of the 21st century ?"
［Learning Objectives］
It is not a goal of this seminar to acquire proficiency in English, Japanese, or any other language.
By the end of the course, students should be able to do the followings :
1) taking the first step to acquire a notion of what kind of democratic culture is suitable for our society of the 21st century.
2) possessing a basic insight on the various ways in which the concept of populism has been used in different countries and at different periods.
3) understanding how to relate contemporary social issues to current cultural topics in which students are highly interested.
4) expressing thoughts and feelings appropriately through presentations using Google Slides, Google Docs, and Zoom screen sharing.
［Learning activities outside of classroom］
(a) Read the pages of the textbook listed in the "Schedule" in advance.
(b) Post the material for the topic (including links, etc.) in the designated LMS (Google Classroom) location in time before the course begins.
(c) The time required for preparation and revision for this seminor will be the time required to do (a) and (b) above. A diverse group of students with varying levels of proficiency in Japanese and other languages will participate in this seminar. Therefore, a uniform length of time is not specified. However, according to the Standards for the Establishment of Universities, the preparation and review time for each two-credit lecture and seminar should be at least four hours.
［Grading Criteria］
Your final grade in this seminar will be decided on the following:
1. Quantity and quality of "summary comments" = 70%
2. In-class activity participation and various contributions to the class = 30%

ARSa300LA（地域研究（ヨーロッパ）/ Area studies(Europe) 300）

教養ゼミⅠ

2017年度以降入学者

ル ルー 清野　ブレンダン

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金4**/Fri.4
単位数：**2単位**
定員制

その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業の主な目的は，「日・欧米交流の歴史」に関するいくつかの側面に沿って，グローバル化の歴史の中で「日本（文化）はどう伝わったのか？」というテーマについて学生とともに知識を共有し，考察することです。
もう一つの目的は，日本語（と英語や他の言語）で歴史文書を読み，分析する方法について学び，活用することです。

【到達目標】
この授業では，学生達はグローバリゼーションの歴史という背景における日本の歴史，とりわけ「日・欧米交流の歴史」の多様な側面を探求したり，論じたりします。授業終了時には，それらのトピックに関する様々な概念や問題点を深く理解し，以下のことができるようになるでしょう。
1. 主要な概念や考え方を理解し，説明することができる。
2. グローバル化の歴史という文脈の中で，「日・欧米交流の歴史」についてニュアンスと情報に基づいた理解を示すことができる。
3.「日・欧米交流の歴史」に関する自分の考えを他者と議論することができる。
4. 様々な歴史的資料を批判的に検討するために，適切な分析手段を用いることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
この授業では，学生達は様々な歴史的文章を読解し，語彙を調べたり，それについて議論したり，質問に答えたりします。教員は重要な事実や概念を説明するためにスライドを使用し，できるだけ双方向的かつ参加型にする予定です。学生達はグループワーク等を通じて生徒同士で協力して史料を理解し，質問に答えることで，グローバル化の歴史の中で「日・欧米交流の歴史」そして「日本（文化）はどう伝わったのか？」というテーマに関する共通の知識を築いていくことを目指します。
履修者は史料を見つけ出し，それについて発表を行うことも授業の重要な側面です。履修者の個人的背景によって，日本語や英語の他に，様々な言語の史料の紹介も期待できます。
この授業では，　学生同士そして学生と教員とのやりとりは基本的に日本語で行われます。従って，履修者は大学レベルの日本語の基礎知識を持っていることが期待されます。しかしこの授業を受講するのに完璧な日本語力が必要ではありません。必要に応じて，難しい用語などを英語で補足説明をします。日本語を練習したいという意欲と，歴史や史料，特に「日・欧米交流の歴史」に興味があることはこの授業を履修する大きな動機付けと言えましょう。
この授業で成功する鍵は，毎週の予習と復習，そしてクラスでのディスカッションに積極的に参加することです。
宿題や質問事項等に関するフィードバックは基本的に授業時間内に行いますが，LMSを通じて行う場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業紹介	シラバスの確認 授業運営の紹介 アイスブレーカー
2	西洋への日本文化最初の紹介	西洋における，日本に関する最初の史料
3	第1次グローバル化における日本（1）	世界の分割と日本
4	第1次グローバル化における日本（2）	日本の「発見」
5	十字架、マスケット銃と「カステラ」(1)	マスケット伝来
6	十字架、マスケット銃と「カステラ」(2)	日本におけるキリスト教
7	十字架、マスケット銃と「カステラ」(3)	ラテン語，ポルトガル語，日本語
8	学生による発表①	史料の紹介と分析
9	学生による発表②	史料の紹介と分析
10	学生による発表③	史料の紹介と分析
11	学生による発表④	史料の紹介と分析
12	学生による発表⑤	史料の紹介と分析
13	学生による発表⑥	史料の紹介と分析
14	まとめ	前期に対する振り返りと話し合い・議論・総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習，復習，課題や発表の準備が毎回求められます。
大学設置基準によれば，2単位の講義及び演習の準備・復習時間は1回につき4時間以上とされています。

【テキスト（教科書）】
ほぼ毎回授業中に配布しますので，教科書を購入する必要はありません。

【参考書】
必要に応じて授業中に指摘します。

【成績評価の方法と基準】
・グループワーク，小テスト等(授業内):25%
・宿題，「予習シート」(自宅):20%
・発表（史料の紹介と説明）：40%
・出席点:15%
※ 欠席1回につき，「出席点」が10%下がる。3回以上欠席した場合は不合格となり，単位はもらえない。何らかの理由で欠席した場合は，直ちに教員にメール等で連絡して説明すること。 正当な理由なく10分以上遅刻した場合は，欠席とみなす。遅刻2回につき，欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】
学生の意見等を読み，工夫する必要のある点は特にないように思いました。改善は全くしない，という意味ではないのですが！

【学生が準備すべき機器他】
資料の共有などに，Google ClassroomやLMS を使いますので，必要な機器や情報環境は備えておいた方が良いでしょう。

【その他の重要事項】
履修者の人数，個人背景（言語レベル等），希望等に応じて上記の【授業計画】が変更されることも考えられます。

【Outline (in English)】
The main purpose of this course is for students to acquire knowledge and think about "How Japan/Japanese culture was introduced to the West", mainly focusing on some aspects of the "history of Japan - European /American relations", setting them back in the context of the history of globalisation.
One other purpose is for the students to learn about and use methods to read and analyse historical documents, both in English and in Japanese (or in other languages).
It is not a goal of this seminar to acquire proficiency in English, Japanese, or any other language, therefore students are welcome whatever their language proficiency is.
Students will deal with reading various historical texts, study the vocabulary, and will discuss these and try to answer questions about them.

The format of the course will be as interactive and participatory as possible, with the help of screened slides in order to explain important facts and/or concepts. Classes will focus on group work, cooperation between students to understand the texts and answer questions, in order to build a common knowledge about the "history of Japan - European /American relations" in the context of the history of globalisation.
The key to success in this course is weekly preparation and review of the class content, and active participation during class discussion.

ARSa300LA（地域研究（ヨーロッパ）/ Area studies(Europe) 300）

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

ル ルー 清野　ブレンダン

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**金4**/Fri.4
単位数：**2単位**
定員制

その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業ではヨーロッパの近現代史をただ単に通史的に勉強するのではなく，「○○人とは何（誰）か？」，「国民はどう創られたのか？」というような問いについて考えながら，近現代ヨーロッパにおけるアイデンティティの問題を探っていきます。特に，近現代ヨーロッパにおける国民国家と言語（「国語」）との関係性に重点を置きたいと考えます。

【到達目標】
この授業では，学生達は近現代ヨーロッパにおける国民の創造に関する多様な側面を探求したり，論じたりします。 授業終了時には，それらのトピックに関する様々な概念や問題点を深く理解し，以下のことができるようになるでしょう。
①ヨーロッパについて基本的知識を獲得し，それらを説明できる。
②国民国家の概念を概ね理解できる。
③世の中の動きを歴史的に考えるための視点を獲得する。
（④ヨーロッパへの留学に備える。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
この授業では，学生達は様々な資料（歴史的文章，論文，新聞記事，図…）を読解・分析し，それについて議論したり，質問に答えたりします。教員は重要な事実や概念を説明するためにスライドを使用し，できるだけ双方向的かつ参加型にする予定です。学生達はグループワーク等を通じて学生同士で協力して資料を理解し，質問に答えることで，近現代ヨーロッパにおける国民（アイデンティティ）の創造というテーマに関する共通の知識を築いていくことを目指します。この授業では，学生同士そして学生と教員とのやりとりは基本的に日本語で行われます。従って，履修者は大学レベルの日本語の基礎知識を持っていることが期待されます。しかしこの授業を受講するのに完璧な日本語力が必要ではありません。必要に応じて，難しい用語などを英語で補足説明をします。日本語を練習したいという意欲や，歴史や資料，特に近現代ヨーロッパにおける国民（アイデンティティ）の創造に興味があることはこの授業を履修する大きな動機付けと言えましょう。
この授業で成功する鍵は，毎週の予習と復習，そしてクラスでのディスカッションに積極的に参加することです。
宿題や質問事項等に関するフィードバックは基本的に授業時間内に行いますが，LMSを通じて行う場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業紹介	シラバスの確認 ヨーロッパとは何か？ どこか？ （受講生に対するアンケート）
2	ヨーロッパとは何か？	ヨーロッパに対するイメージとステレオタイプ
3	ケーススタディ①	カタルーニャ「問題」について
4	ケーススタディ①	カタルーニャの形成過程
5	ケーススタディ①	カタルーニャとスペインにおける言語
6	ケーススタディ①	カタルーニャと「国民国家」／「国民国家」と「想像の共同体」
7	ケーススタディ②	18世紀「ドイツ」の状況／ヘルダーと「国民語」
8	「国民語」を求めて	ヨーロッパにおける言語状況
9	「国民一つに、言語一つ？」①	フランス語の成立過程①
10	「国民一つに、言語一つ？」②	フランス語の成立過程②
11	国語の普及①	フランス
12	国語の普及②	イギリス
13	国語の普及③	ドイツ
14	共通の祖先を求めて	「我々の祖先はガリア人なり」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習，復習，課題や発表の準備が毎回求められます。
大学設置基準によれば，2単位の講義及び演習の準備・復習時間は1回につき4時間以上とされています。

【テキスト（教科書）】
ほぼ毎回授業中に配布しますので，教科書を購入する必要はありません。

【参考書】
ティエス，アンヌ＝マリ著『国民アイデンティティの創造：十八〜十九世紀のヨーロッパ』（勁草書房，2013）／配架場所＝市:1F，請求記号＝230/TH，資料番号＝21032000079280
それ以外の参考書については必要に応じて授業中に指摘します。

【成績評価の方法と基準】
・発表やリフレクションシート，小テスト等の授業内作業：約80％
・出席点：約20％
※ 欠席1回につき，「出席点」が10%下がる。3回以上欠席した場合は不合格となり，単位はもらえない。何らかの理由で欠席した場合は，直ちに教員にメール等で連絡して説明すること。 正当な理由なく10分以上遅刻した場合は，欠席とみなす。遅刻2回につき，欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】
学生の意見等を読み，工夫する必要のある点は特にないように思いました。改善は全くしない，という意味ではないのですが！

【学生が準備すべき機器他】
資料の共有などに，Google ClassroomやLMSを使いますので，必要な機器や情報環境は備えておいた方が良いでしょう。

【その他の重要事項】
履修者の人数，個人背景（言語レベル等），希望等に応じて上記の【授業計画】が変更されることも考えられます。

【Outline (in English)】
The main purpose of this course is for students to acquire knowledge and think about "How national identities were forged in Europe".
One other purpose is for the students to learn about and use methods to read and analyse diverse categories of documents, written in different languages.
It is not a goal of this seminar to acquire proficiency in Japanese, or any other language, therefore students are welcome whatever their language proficiency is.
Students will deal with reading various documents, study the vocabulary, and will discuss these and try to answer questions about them.
The format of the course will be as interactive and participatory as possible, with the help of screened slides in order to explain important facts and/or concepts. Classes will focus on group work, cooperation between students to understand the texts and answer questions, in order to build a common knowledge about the "creation of the national identities in Europe".
The key to success in this course is weekly preparation and review of the class content, and active participation during class discussion.
The grading criteria shall be as follows:

· Presentations, reflection papers, short tests, etc (in class assignments): app.80 %
· Attendance:app. 20%

LANf300LA（フランス語 / French language education 300）
フランス語コミュニケーション(中・上級) A
2017年度以降入学者

ル ルー 清野　ブレンダン

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水**1/Wed.1
単位数：**2単位**
定員制（20）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業はA1レベルに達している学生（つまり2，3セメスターの学習経験者）を対象としています。学生達は，日常会話でネイティブがよく使うフレーズを中心に，自然な発音及び独特な表現を勉強し，フランス語でのコミュニケーションの基本能力を習得します。フランス語圏の文化に触れる機会も，勿論多く設けてあります。
尚，この授業はできるだけフランス語で進めていきます。初心者の段階から，特にフランス語の環境に置かれていない学生の場合は，最初からフランス語に慣れるのにいわゆる「没入法(“immersion”)」が最も効果的な方法の一つなのです。

【到達目標】
この授業では，日常会話の基礎的な語彙と言い回しを身につけることを目標とします。つまり，正確なフランス語の発音を身に付けたり，日常会話で使える言葉を覚えたりして，積極的に会話ができるようになることを目指します。
この授業を通じて，A1レベルの学生達が完全なA2レベルに向けて系統的に進歩することができます。DELF A2（仏検準2級・2級）やStudy Abroad留学プログラムなどのフランス滞在のための直接の準備にもなります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
様々な資料（新聞記事、画像、ビデオ、歌など）を教材とし，履修者は聴解やオーラル・コミュニケーション能力の補強・発展に取り組みます。それと同時にA1の文法項目の復習とA2の新しい文法項目の学習も行います。授業内容は多岐にわたり，世界を旅しながらフランス語圏の様々な文化的側面を発見することもできます。
この授業では，作文やリーディングマラソン (フランス語多読) のような課題も課せられますので，そのつもりでいて下さい。
宿題や質問事項等に関するフィードバックは基本的に授業時間内に行いますが、LMSを通じて行う場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation	Organisation de la classe Une rencontre inattendue
2	Faire connaissance: le speed-dating	招待を受け入れる・拒否する
3	La fête nationale belge et le parc Astérix	現在進行形
4	Le festival Gnaoua et le raï	コンサートへの招待
5	Le 14 juillet Un festival d’été	フェスティバルに関する情報 フェスティバルへの招待
6	Se déplacer en ville	交通手段①と道案内
7	Les transports en Afrique de l’Ouest	交通手段②
8	D’autres quotidiens	頻度と時間割
9	Modes de vie au Niger et à Djibouti	お茶 カート (植物)
10	La Défense, Marrakech, Montréal	交通手段③
11	Présenter son quartier préféré	好きな地域の紹介
12	L’habitat（ミニ口頭発表）	フランス語圏の様々な伝統住居
13	Brèves francophones Amélie Poulain	半過去と複合過去の用法①
14	Hercule Poirot: "Que faisiez-vous à l’heure du crime?"	半過去と複合過去の用法②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
言語というものは，他の科目と違い，教科書や他人のメモを見るだけで覚えられるものではないので，欠席すると大変なことになってしまいます。フランス語は自分で聞いて理解し，自分で口にし，はじめて身に付くものなので，毎回授業に積極的に参加することは最も重要なことで成功への鍵です。
また，予習・復習は当然ながら必須。本授業の準備学習・復習時間は4時間以上を標準とします（この授業は総合科目＝2単位科目なので，法政大学学則では「1回の授業につき4時間以上」と定められています)。「Furago, フランス語の練習帳」というサイトも利用しますので，定期的に目標を達成しないと成績が上がらない仕組みになります。

【テキスト（教科書）】
教材はその都度授業で配布するか，LMSにアップロードします。

【参考書】
仏和・和仏辞書（本でも，電子辞書でも，アプリでも）を持参することが望ましい。翻訳ソフト（Google translate 等）はNG ：クラスではその使用を認めません。

【成績評価の方法と基準】
・宿題，（小）テスト，ミニ発表等: 約20 %
・「Furago, フランス語の練習帳」：約20 %
・"リーディングマラソン" (フランス語多読): 約20 %
・作文: 約20 %
・平常点（授業への参加状況）:約 20%。 尚，平常点に関しては減点方式をとり，4 回目の欠席で不合格となります。10分までの遅刻は 2 回につき欠席扱いとなり，遅延証明 は 2 回まで認めます。10分以上の無断遅刻は欠席とみなします。

【学生の意見等からの気づき】
学生の意見等を読み，工夫する必要のある点は特にないように思いました。改善は全くしない，という意味ではないのですが！

【学生が準備すべき機器他】
※「Furago, フランス語の練習帳」というサイトへの登録が必須です。スマートフォン，タブレット，パソコンからアクセスできます。有料ですが，学生にとって異常な負担になる金額ではありませんし，定額制ですので，安心して利用できます。
登録費が6 ヶ月につき990 円になります。

【その他の重要事項】
授業中，頻繁に質問に答えたり発言したりすることがありますので，そのつもりで積極的に授業に参加しましょう!

【Prerequisite】
履修の条件として，フランス語A1レベルが必須。

【Outline (in English)】
This course is for intermediate students with A1 level in French. Students will methodically improve their overall communication skills up to the A2 level. Students’ general knowledge about "Francophonie" will also be strengthened.
Active participation in class is essential. Exercises or tasks will be given for the next class almost every week (thorough revision of vocabulary and/or grammar points, theme-related papers or presentations, readings, etc.).
Depending on the tasks involved, homework preparation will range from one to three hours.
Grading criteria are as follows:

Homework, short tests, etc.: 20 %／Furago (exercises on line):20%／Reading marathon (Extensive reading):20%／Short essays:20 %／Class participation:20%

LANf300LA（フランス語 / French language education 300）
フランス語コミュニケーション(中・上級) B
2017年度以降入学者

ル ルー 清野　ブレンダン

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水**1/Wed.1
単位数：**2単位**
定員制（20）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業はA1レベルに達している学生（つまり2，3セメスターの学習経験者）を対象としています。学生達は，日常会話でネイティブがよく使うフレーズを中心に，自然な発音及び独特な表現を勉強し，フランス語でのコミュニケーションの基本能力を習得します。フランス語圏の文化に触れる機会も，勿論多く設けてあります。
尚，この授業はできるだけフランス語で進めていきます。初心者の段階から，特にフランス語の環境に置かれていない学生の場合は，最初からフランス語に慣れるのにいわゆる「没入法(“immersion”)」が最も効果的な方法の一つなのです。

【到達目標】
この授業では，日常会話の基礎的な語彙と言い回しを身につけることを目標とします。つまり，正確なフランス語の発音を身に付けたり，日常会話で使える言葉を覚えたりして，積極的に会話ができるようになることを目指します。
この授業を通じて，A1レベルの学生達が完全なA2レベルに向けて系統的に進歩することができます。DELF A2（仏検準2級・2級）やStudy Abroad留学プログラムなどのフランス滞在のための直接の準備にもなります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
様々な資料（新聞記事、画像、ビデオ、歌など）を教材とし，履修者は聴解やオーラル・コミュニケーション能力の補強・発展に取り組みます。それと同時にA1の文法項目の復習とA2の新しい文法項目の学習も行います。授業内容は多岐にわたり，世界を旅しながらフランス語圏の様々な文化的側面を発見することもできます。
この授業では，作文やリーディングマラソン (フランス語多読) のような課題も課せられますので，そのつもりでいて下さい。
宿題や質問事項等に関するフィードバックは基本的に授業時間内に行いますが、LMSを通じて行う場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation	Organisation de la classe Voitures du passé et du présent
2	Visite en Normandie	過去の出来事を描写するメールを書く
3	Les Acadiens/ Cajuns	歴史について考えよう
4	Histoires de personnalités	直接目的補語の代名詞
5	Quelques écrivains francophones	フランス語圏の文学に触れる
6	Catastrophe naturelle Chez le médecin	健康と身体の部位
7	Fêtes traditionnelles	お祭りについて知ろう
8	Faisons un quiz historique	クイズを作ろう
9	Le caractère	人の性格を描写する
10	Les noms en Afrique	アフリカの名前について知ろう
11	Qui est-ce? (jeu)	La description physique
12	Entretien d’embauche	成功と失敗①
13	Le commerce en Afrique	成功と失敗②
14	Qu’est-ce qu’on a fait au bon Dieu?	人の描写（作文）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
言語というものは，他の科目と違い，教科書や他人のメモを見るだけで覚えられるものではないので，欠席すると大変なことになってしまいます。フランス語は自分で聞いて理解し，自分で口にし，はじめて身に付くものなので，毎回授業に積極的に参加することは最も重要なことで成功への鍵です。
また，予習・復習は当然ながら必須。本授業の準備学習・復習時間は4 時間以上を標準とします（この授業は総合科目＝２単位科目なので，法政大学学則では「1回の授業につき4時間以上」と定められています）。
「Furago, フランス語の練習帳」というサイトも利用しますので，定期的に目標を達成しないと成績が上がらない仕組みになります。

【テキスト（教科書）】
教材はその都度授業で配布するか，LMSにアップロードします。

【参考書】
仏和・和仏辞書（本でも，電子辞書でも，アプリでも）を持参することが望ましい。

【成績評価の方法と基準】
・宿題，（小）テスト，ミニ発表等: 約20 %
・「Furago, フランス語の練習帳」：約20 %
・"リーディングマラソン" (フランス語多読): 約20 %
・作文: 約20 %
・平常点（授業への参加状況）:約20%。尚，平常点に関しては減点方式をとり，4 回目の欠席で不合格となります。10分までの遅刻は2 回につき欠席扱いとなり，遅延証明は2 回まで認めます。10 分以上の無断遅刻は欠席とみなします。

【学生の意見等からの気づき】
学生の意見等を読み，工夫する必要のある点は特にないように思いました。改善は全くしない，という意味ではないのですが！

【学生が準備すべき機器他】
※「Furago, フランス語の練習帳」というサイトへの登録が必須です。スマートフォン，タブレット，パソコンからアクセスできます。有料ですが，学生にとって異常な負担になる金額ではありませんし，定額制ですので，安心して利用できます。
登録費が6ヶ月につき990円になります。

【その他の重要事項】
授業中，頻繁に質問に答えたり発言したりすることがありますので，そのつもりで積極的に授業に参加しましょう!

【Prerequisite】
履修の条件として，フランス語A1レベルが必須。

【Outline (in English)】
This course is for intermediate students with A1 level in French. Students will methodically improve their overall communication skills up to the A2 level. Students’ general knowledge about "Francophonie" will also be strengthened.
Active participation in class is essential. Exercises or tasks will be given for the next class almost every week (thorough revision of vocabulary and/or grammar points, theme-related papers or presentations, readings, etc.).
Depending on the tasks involved, homework preparation will range from one to three hours.
Grading criteria are as follows:

Homework, short tests, etc.: 20 %／Furago (exercises on line):20%／Reading marathon (Extensive reading):20%／Short essays:20 %／Class participation:20%

LANc300LA（中国語 / Chinese language education 300）

第三外国語としての中国語Ａ　2017年度以降入学者

岩田　和子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金**2/Fri.2
単位数：**2単位**
定員制（40）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、１年間（春学期・秋学期）で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。秋学期「第三外国語としての中国語B」とあわせて履修することを推奨します。

【到達目標】
読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
テキストに沿って会話文・文法・練習問題の解説、会話文を日本語から中国語訳、中国語から日本語訳にする練習を行います。そのほか、予習・復習教材として教科書準拠のイーラーニング教材（e宿題）を使用します。本授業を通して、基本的な語彙力を身につけ、文法の基礎を身につけ、初歩的な会話ができるようになることを目指します。質問等へのフィードバックは授業内に適宜行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」「発音１」	「中国及び中国語に関する概説」「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音２」「発音３」	「発音の基本」ピンインの「発音３」
3	「発音３」「第４課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方と発音の復習	「発音１から４」の復習をします。
5	「第５課」「第６課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」「動詞述語文」
6	「第７課」「第８課」	「形容詞述語文」「名詞述語文」
7	「第９課」「第１０課」	「主述述語文」「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第１１課」「第１２課」	「補語」「動詞述語文１」
9	「第１３課」「第１４課」	「動詞述語文２」「動詞述語文３」
10	「第１５課」「第１６課」	「動詞述語文４」「動詞述語文５」
11	「第１７課」「第１８課」	「動詞述語文６」「動詞述語文７」
12	「第１９課」「第２０課」	「完了態」「変化態」
13	「第１課から第２０課」	「第１課から第２０課」までの復習
14	まとめ	「第１課から第２０課」までのまとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて4時間を標準とします。ｅ宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
千葉謙悟・熊進監修、三省堂編修所編『ベーシッククラウン中日・日中辞典』三省堂
そのほか教場で適宜示します。

【成績評価の方法と基準】
①平常点（授業への参加度）：50％
②期末試験：50％

【学生の意見等からの気づき】
引きつづき丁寧な分かりやすい授業を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】
最終回の授業内試験はオンライン試験で実施するので、各自PCができる環境を整えておいてください。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your final grade will be calculated according to the following process:
Usual performance score 60%，Term-end examination: 40%.

LANc300LA（中国語 / Chinese language education 300）

第三外国語としての中国語Ｂ　2017年度以降入学者

岩田　和子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**金**2/Fri.2
単位数：**2単位**
定員制（40）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、１年間（春学期・秋学期）で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。春学期「第三外国語としての中国語A」とあわせて履修することを推奨します。

【到達目標】
読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
テキストに沿って会話文・文法・練習問題の解説、会話文を日本語から中国語訳、中国語から日本語訳にする練習を行います。そのほか、予習・復習教材として教科書準拠のｅラーニング教材（e宿題）を使用します。本授業を通して、基本的な語彙力を身につけ、文法の基礎を理解し、初歩的な会話ができるようになることを目指します。質問等へのフィードバックは授業内に適宜行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第１課から第２０課」までの復習
2	「第２１課」「第２２課」	「経験態」「進行態」「持続態」
3	「第２３課」「第２４課」	「形容詞述語文」
4	「第２５課」「第２６課」	「形容詞述語文」「名詞述語文」１
5	「第２７課」「第２８課」	「名詞述語文」２
6	「第２９課」「第３０課」	「連体修飾語」「連用修飾語」
7	「第３１課」「第３２課」	「程度補語」「数量補語」
8	「第３３課」「第３４課」	「結果補語」「方向補語」
9	「第３５課」「第３６課」	「可能補語」「助動詞」
10	「第３７課」「第３８課」	「兼語文」「受け身表現」
11	「第３９課」「第４０課」	「把構文」「存現文」
12	「第２１課から第３０課」	「第２１課から第３０課」までの復習
13	「第３１課から第４０課」	「第３１課から第４０課」までの復習
14	まとめ	「第２１課から第４０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて4時間を標準とします。ｅ宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
千葉謙悟・熊進監修、三省堂編修所編『ベーシッククラウン中日・日中辞典』三省堂
そのほか教場で適宜示します。

【成績評価の方法と基準】
①平常点（授業への参加度）：50％
②期末試験：50％

【学生の意見等からの気づき】
引きつづき丁寧な分かりやすい授業を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】
最終回の授業内試験はオンラインで実施するので、PCができる環境を整えておいてください。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your final grade will be calculated according to the following process:
Usual performance score 60%，Term-end examination: 40%.

LANc300LA（中国語 / Chinese language education 300）

第三外国語としての中国語中級Ａ　2017年度以降入学者

木村　佳代子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金**4/Fri.4
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、初級クラスで学修した基礎文法の要点を復習しながら、より実践的な語学力を身に付けつけます。「読む、話す、書く、訳す」技術の向上と、ことばの背景にある中国文化、中国事情の知識を深めることで、発信力と受信力を蓄えてゆきます。

【到達目標】
１．中国語の中級レベルの語彙、文法を学修し、運用することができる。
２．ことばの背景にある中国文化、中国事情について学び、自国との比較を通じて、正しく日中対訳ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
中国社会を反映した全12課のテキストを使用し、一つの課を複数回に分け、本文の発音練習、訳文練習、会話練習、作文練習、テキスト内の練習問題の解答を行います。課題等へのフィードバックは授業中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	第１課（助動詞、主述述語文の用法）	新出単語、本文音読練習、訳文。
第2回	第１課　（トレーニング１）	文法、構文の解説、作文、会話練習、練習問題の解答。
第3回	第２課（”的”の用法、「原因・理由」の表現、文末助詞）	新出単語、本文音読練習、訳文。
第4回	第２課（トレーニング２）	文法、構文の解説、作文、会話練習、練習問題の解答。
第5回	第３課（連動文、”是～的”の文、疑問詞）	新出単語、本文音読練習、訳文。
第6回	第３課（トレーニング３）	文法、構文の解説、作文、会話練習、練習問題の解答。
第7回	第１課～第３課の復習	日文中訳・中文日訳の練習。
第8回	第４課（”了”の３つの用法、副詞”就”）	新出単語、本文音読練習、訳文。
第9回	第４課（トレーニング４）	文法、構文の解説、作文、会話練習、練習問題の解答。
第10回	第５課（様態補語、推量の表現、「仮定」の表現）	新出単語、本文音読練習、訳文。
第11回	第５課（トレーニング５）	文法、構文の解説、作文、会話練習、練習問題の解答。
第12回	総合練習（第１課～第３課）	期末試験に向けた復習と練習。
第13回	総合練習（第４課、第５課）	期末試験に向けた復習と練習。
第14回	試験・まとめと解説	朗読試験、ヒヤリング・筆記試験およびまとめ・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。
事前学修、事後学修は、付属のCDを活用し、発音練習や書き取り練習を繰り返しおこなってください。

【テキスト（教科書）】
『中国語つぎへの一歩』尹景春・竹島毅　白水社
2200円＋税

【参考書】
『中国語さらなる一歩』尹景春・竹島毅　白水社
2200円＋税

【成績評価の方法と基準】
期末試験40％、授業への参加度60％を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
授業では、学生の個別指導を強化し到達度チェックを図ってゆきます。

【学生が準備すべき機器他】
情報機器

【その他の重要事項】
４群中国語履修者も履修可能ですが、中国語３Ⅰ・Ⅱ（法文営環）/中国語４Ⅰ・Ⅱ（法文営）と同じ教科書となる可能性があるので、履修の際は留意してください。
関連科目
300番台総合科目、配当年次2年 4年
中国語コミュニケーション中級A・B
中国語視聴覚中級A・B
中国語作文中級A・B
中国語講読中級A・B
中国語翻訳・通訳A・B
資格中国語上級A・B
200番台 LA科目　配当年次1年 4年
中国語の世界LA・LB
200番台 LA科目　配当年次2年 4年
中国の文化と社会LA・LB
中国の文化と社会LC・LD
300番台　総合科目　配当年次2年 4年
教養ゼミⅠ・Ⅱ

【None.】
None.

【None.】
None.

【None.】
None.

【None.】
None.

【None.】
None.

【Outline (in English)】
・To review important point of Chinese grammar.
・Improve reading,speaking,writing,and translating skills.
・Learning Chinese clutures and social changes to enable to express thoughts and opinions in Chinese.
・Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text. Your required study time is at least two hours for each class meeting.
・Term-end examination: 40%、in class contribution: 60%

LANc300LA（中国語 / Chinese language education 300）

第三外国語としての中国語中級Ｂ　2017年度以降入学者

木村　佳代子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**金**4/Fri.4
単位数：**2単位**
定員制（30）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、引き続き、初級クラスで学修した基礎文法の要点を復習しながら、より実践的な語学力を身に付けつけます。「読む、話す、書く、訳す」技術の向上と、ことばの背景にある中国文化、中国事情の知識を深めることで、発信力と受信力を蓄えてゆきます。

【到達目標】
１．中国語の中級レベルの語彙、その用法を学修し、運用することができる。
２．ことばの背景にある中国文化、中国事情について学び、自国との比較を通じて、正しく日中対訳ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
中国社会を反映した全12課のテキストを使用し、一つの課を複数回に分け、本文の発音練習、訳文練習、会話練習、作文練習、テキスト内の練習問題の解答を行います。
課題等へのフィードバックは授業中またはメールを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	第６課（結果補語（１）、副詞”有点”の用法）	新出単語、本文音読練習、訳文。
第2回	第６課（トレーニング６）	文法、構文の解説、作文、会話練習、練習問題の解答。
第3回	第７課（存現文、主述句の主語、二つの”了”）	新出単語、本文音読練習、訳文。
第4回	第７課（トレーニング７）	文法、構文の解説、作文、会話練習、練習問題の解答。
第5回	第８課（状態の持続を表す“着”、副詞”再”、疑問詞の不定用法）	新出単語、本文音読練習、訳文。
第6回	第８課（トレーニング８）	文法、構文の解説、作文、会話練習、練習問題の解答。
第7回	第６課～第８課の復習	日文中訳、中文日訳を中心とした練習
第8回	第９課（方向補語、使役表現）	新出単語、本文音読練習、訳文。
第9回	第９課（トレーニング９）	文法、構文の解説、作文、会話練習、練習問題の解答。
第10回	第10課（可能補語、強調表現）	新出単語、本文音読練習、訳文。
第11回	第10課（トレーニング１０）	文法、構文の解説、作文、会話練習、練習問題の解答。
第12回	総合練習（第６課～第８課）	期末試験に向けた復習と練習。
第13回	総合練習（第９課、第１０課）	期末試験に向けた復習と練習。
第14回	試験・まとめと解説	朗読試験、ヒヤリング・筆記試験およびまとめ・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。
事前学修、事後学修は、付属のCDを活用し、発音練習や書き取り練習を繰り返しおこなってください。

【テキスト（教科書）】
『中国語つぎへの一歩』尹景春・竹島毅　白水社
2200円＋税

【参考書】
『中国語さらなる一歩』尹景春・竹島毅　白水社
2200円＋税

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度60％、期末試験40％を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
授業では、学生の個別指導を強化して到達度チェックを図ってゆきます。

【学生が準備すべき機器他】
情報機器

【その他の重要事項】
４群中国語履修者も履修可能ですが、中国語３Ⅰ・Ⅱ（法文営環）/中国語４Ⅰ・Ⅱ（法文営）と同じ教科書となる可能性があるので、履修の際は留意してください。
関連科目
300番台総合科目、配当年次2年 4年
中国語コミュニケーション中級A・B
中国語視聴覚中級A・B
中国語作文中級A・B
中国語講読中級A・B
中国語翻訳・通訳A・B
資格中国語上級A・B
200番台 LA科目　配当年次1年 4年
中国語の世界LA・LB
200番台 LA科目　配当年次2年 4年
中国の文化と社会LA・LB
中国の文化と社会LC・LD
300番台　総合科目　配当年次2年 4年
教養ゼミⅠ・Ⅱ

【None.】
None.

【None.】
None.

【None.】
None.

【None.】
None.

【None.】
None.

【Outline (in English)】
This corse is continued from Spring semester.
・To review important point of Chinese grammar.
・Improve reading,speaking,writing,and translating skills.
・Learning Chinese clutures and social changes to enable to express thoughts and opinions in Chinese.
・Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text. Your required study time is at least two hours for each class meeting.
・Term-end examination: 40%、in class contribution: 60%

LANc300LA（中国語 / Chinese language education 300）

中国語視聴覚中級Ａ

2017年度以降入学者

劉　渇氷

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水**3/Wed.3
単位数：**2単位**
定員制（25）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国の様子を紹介する映像を見ながら、会話文や読解文を学習します。聞き取り・書き取り練習を通して、リスニング力を鍛えることを目的とします。同時に、中国文化への理解も深めます。この授業は木曜日2限の中国語視聴覚初級1・Ⅱと同じ教科書を使います。中国語視聴覚初級は1課～6課を勉強します、中国語視聴覚中級は6課～12課を勉強します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間（計4時間）を標準とする。

【到達目標】
初級で学んだ基礎的な中国語運用能力を伸ばし、とくに中国語の「音」に慣れ、リスニング力を向上させることが目標です。中検３級を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
単語を習得し、文法を理解する。
DVD教材を観ながら、聞き取り・書き取り練習を行う。
簡単な中国語作文・会話練習を行う。
課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行う。
本授業はハイブリッド（オンラインと対面を併用）で行います。授業についての詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容に関するガイダンス
2	第７課	文法理解と応用
3	第７課	会話と応用
4	第７課	読解文の理解と応用
5	第７課	課外練習と作文
6	第８課	文法理解と応用
7	第８課	会話と応用
8	第８課	読解文の理解と応用
9	第８課	課外練習と作文
10	第９課	文法理解と応用
11	第９課	会話と応用
12	第９課	読解文の理解と応用
13	第９課	課外練習と作文
14	授業の総まとめと試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業前に単語の意味を調べる。教材の予習復習をする。本授業の準備学習・復習時間は各2時間（計4時間）を標準とする。

【テキスト（教科書）】
洪潔清著『チャイニーズアドベンチャー～DVDで学ぶ中国文化～』金星堂

【参考書】
授業中に指示。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度、課題30%、試験70%。

【学生の意見等からの気づき】
特に無し。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業を受講するための通信環境、PC等を準備して下さい。

【その他の重要事項】
授業形態は大学の方針に従い変更する場合があります。

【Outline (in English)】
In this course, we will use the basic audio-visual materials and improve the listening skill of Chinese.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
This class uses the same textbook as Chinese Audiovisual Beginner Ⅰ and Ⅱ on Thursday 2nd period. Beginner Chinese audiovisual students will study lessons 1 to 6, and intermediate Chinese audiovisual students will study lessons 6 to 12.
Final grade will be calculated according to the following
Term-end examination(70%), in-class contribution(30%).
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each (4 hours in total).

LANc300LA（中国語 / Chinese language education 300）

中国語視聴覚中級Ｂ

2017年度以降入学者

劉　渇氷

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水**3/Wed.3
単位数：**2単位**
定員制（25）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国の様子を紹介する映像を見ながら、会話文や読解文を学習します。聞き取り・書き取り練習を通して、リスニング力を鍛えることを目的とします。同時に、中国文化への理解も深めます。中国語視聴覚初級は1課～6課を勉強します、中国語視聴覚中級は6課～12課を勉強します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間（計4時間）を標準とする。

【到達目標】
初級で学んだ基礎的な中国語運用能力を伸ばし、とくに中国語の「音」に慣れ、リスニング力を向上させることが目標です。中検３級を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
単語を習得し、文法を理解する。
DVD教材を観ながら、聞き取り・書き取り練習を行う。
簡単な中国語作文・会話練習を行う。
課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス復習	授業内容に関するガイダンスと復習
2	第10課	文法理解と応用
3	第10課	会話と応用
4	第10課	読解文の理解と応用
5	第10課	課外練習と作文
6	第11課	文法理解と応用
7	第11課	会話と応用
8	第11課	読解文の理解と応用
9	第11課	課外練習と作文
10	第12課	文法理解と応用
11	第12課	会話と応用
12	第12課	読解文の理解と応用
13	第12課	課外練習と作文
14	授業の総まとめと試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業前に単語の意味を調べる。教材の予習復習をする。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間（計4時間）を標準とする。

【テキスト（教科書）】
洪潔清著『チャイニーズアドベンチャー～DVDで学ぶ中国文化～』金星堂

【参考書】
授業中に指示。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度、課題30%、試験70%。

【学生の意見等からの気づき】
特に無し。

【その他の重要事項】
授業形態は大学の方針に従い変更する場合があります。

【Outline (in English)】
In this course, we will use the basic audio-visual materials and improve the listening skill of Chinese.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
Beginner Chinese audiovisual students will study lessons 1 to 6, and intermediate Chinese audiovisual students will study lessons 6 to 12.
Final grade will be calculated according to the following
Term-end examination(70%), in-class contribution(30%).
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each (4 hours in total).

LANc300LA（中国語 / Chinese language education 300）

中国語作文中級Ａ

2017年度以降入学者

楊　心苗

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木**3/Thu.3
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、中国語作文に必要な知識とスキルを習得するための授業である。初級の文法知識を復習しつつ、短文を作る練習から始まり、作文を行うために必要なステップを学ぶ。また、モデルとなる中国語のテキストを分析し、模倣や書き換え練習を通して、わかりやすい短文の書き方、SNS文字メッセージやメールなどの書き方、フィードバックの与え方などを習得する。尚、受講に当たっては、本シラバス末尾に記載の【その他の重要事項】も必ず確認しておくこと。
This course is designed to help students acquire the knowledge and skills necessary for writing Chinese compositions. While reviewing basic grammar, students will start by practicing sentence construction and learning the steps required for effective composition. Additionally, students will analyze sample Chinese texts and engage in imitation and rewriting exercises to master clear and concise sentence writing. The course will also cover how to compose short messages for SNS, emails, and other forms of written communication, as well as how to provide constructive feedback. Please make sure to review the "Other Important Information" section at the end of this syllabus before enrolling in the course.

【到達目標】
1. 興味関心のある話題について、正確かつ自然な中国語の表現で自分の考えをまとめて文章にすることができる。
2. 受講生同士のフィードバックができる。
3. 教員が添削した作文をリライティングし、より良い文章を作成する能力を身につける。
4. 春学期の学習を完了した段階で、HSK 4級のライティングに合格できるレベルの能力を身につける。
1.Be able to express thoughts on topics of interest accurately and naturally in Chinese and compose written essays.
2.Be capable of providing feedback to fellow students.
3.Develop the ability to rewrite essays corrected by the instructor and create improved versions.
4.Achieve a level of writing ability that can pass the HSK Level 4 exam upon completing the spring semester.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
・本授業は講義形式と演習形式を組み合わせて行う。
・指定テキストを用いて、練習問題や作文に取り組んでもらい、受講生同士でフィードバックし、発表する機会も設ける。
・教員は作文の添削や質問への解答を準備し、授業時に返却・回答することで随時フィードバックを行う。
なお以下の授業計画は暫定的なものである。受講人数や受講者のニーズに応じて進捗のペースや実施の順番を調整する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	シラバスを確認し、本授業の意義と目的を確認するとともに、授業の進め方や成績評価方法などの説明を行う。また、受講生の中国語学習歴などを確認する。
2	第一課	形容詞述語文／“是”を用いる文
	第二課	文章記号、記述の基礎を学ぶ。
3	第三課	疑問文／“是”を用いる文
	第四課	SNS文字メッセージを書く練習・フィートバック
4	第五課	助動詞
	第六課	メールを書く練習・フィートバック
5	第七課	完了態／変化態
	第八課	会話文を記述文に書き換える練習・フィートバック
6	第九課	進行態／持続態／経験態／数量の表現
	第十課	会話文を記述文に書き換える練習・フィートバック
7	第十一課	介詞
	第十二課	会話文を記述文に書き換える練習・フィートバック
8	第十三課	離合詞／動詞の重ね型／結果補語
	第十四課	会話文を記述文に書き換える練習・フィートバック
9	第十五課	方向補語／可能補語
	第十六課	モデル文章を模倣し、40文字以上の日記を書く・フィートバック
10	第十七課	程度補語／否定の表現
	第十八課	モデル文章を模倣し、50文字以上の日記を書く・フィートバック
11	第十九課	“□”と“再”と“又”／“就”“才”／比較文
	第二十課	モデル文章を模倣し、60文字以上の日記を書く・フィートバック
12	第二十一課	使役文／“把”構文／受け身文
	第二十二課	モデル文章を模倣し、70文字以上の日記を書く・フィートバック
13	第二十三課	語気助詞／複文
	第二十四課	モデル文章を模倣し、80文字以上の日記を書く・フィートバック
14	総括	この授業で学んだ内容を振り返り、疑問点などを適宜確認・検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・宿題の練習問題や作文を用いて授業を進めることがあるため、宿題は必ずあらかじめ取り組んでください（宿題をこなしていない場合は授業参加が難しくなる）。
・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。
· Since classes may involve homework exercises and essay writing, please make sure to complete your homework in advance (it will be difficult to participate in class without doing the homework).
· The standard preparation and review time for this course is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】
井田みずほ・小薗瑞恵『初中級中国語作文トレーニング』（白帝社）2023年

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
・期末課題を50%、平常点（授業への積極的参加度、作文、フィートバックなど）を50%として合計100点満点とする。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。
・本授業は期末試験は実施しない。
· The final assignment will account for 50%and class participation (active participation in discussions, essays, feedback, etc.) will account for 50%, making a total of 100 points. Students who achieve 60%or more of the course objectives based on this grading system will pass.
· There will be no final exam for this course.

【学生の意見等からの気づき】
本年度より新規開校のため、フィードバックできません。

【その他の重要事項】
・中国語の文法知識があること（最低1年以上の中国語学習歴があること）を前提に授業を行う。
・事前学習は必須である。事前学習していることを前提に授業を進める。
・本授業は、全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。教育実習等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。

【Outline (in English)】
This course is designed to help students acquire the knowledge and skills necessary for writing Chinese compositions. While reviewing basic grammar, students will start by practicing sentence construction and learning the steps required for effective composition. Additionally, students will analyze sample Chinese texts and engage in imitation and rewriting exercises to master clear and concise sentence writing. The course will also cover how to compose short messages for SNS, emails, and other forms of written communication, as well as how to provide constructive feedback. Please make sure to review the "Other Important Information" section at the end of this syllabus before enrolling in the course.

LANc300LA（中国語 / Chinese language education 300）

中国語作文中級Ｂ

2017年度以降入学者

楊　心苗

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木**3/Thu.3
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、中国語作文のスキルを向上させるための授業である。リーディングとライティングは相互作用するスキルであるため、秋学期には、中国語のリーディングとライティングを関連させ、中国語で書かれた短いストーリやエッセイなどを読み、既習のライティングスキルを活用し、要約や感想文、自由作文のトレーニングを行う。また、日中対照研究的視点から中国語を見ることにより、普段何気なく使っている日本語の文法的特徴を考える視点も養う。尚、受講に当たっては、本シラバス末尾に記載の【その他の重要事項】も必ず確認しておくこと。
This course is designed to improve Chinese composition skills. Since reading and writing are interrelated skills, the autumn semester will focus on connecting Chinese reading and writing. Students will read short stories and essays written in Chinese and engage in training such as summaries, reflection essays, and free writing by applying previously learned writing skills. Additionally, by examining Chinese from a contrastive perspective between Japanese and Chinese, students will develop an awareness of the grammatical features of Japanese, which they often use unconsciously. Please ensure that you review the "Other Important Information" section at the end of this syllabus before enrolling in the course.

【到達目標】
1. 句読点や段落構成に留意し、正しい中国語の文法や読みやすい言葉で論理的に文章を書くスキルを身につける。
2. 秋学期の学習を完了した段階で、HSK５級のライティングに合格できるレベルの能力を身につける。
3. 中国語圏の言語や文化に関心を持ち、グローバルな視点で自分の考えを中国語で効果的に文章にまとめられる。
1.Acquire the skill to write logically with attention to punctuation and paragraph structure, using correct Chinese grammar and clear, readable language.
2.Achieve a level of writing ability that can pass the HSK Level 5 exam upon completing the fall semester.
3.Cultivate interest in the language and culture of Chinese-speaking regions and be able to effectively express personal thoughts in written Chinese from a global perspective.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
・本授業は講義形式と演習形式を組み合わせて行う。
・秋学期は配布資料を用いて授業を進める。具体的進め方は以下の通りである。
＊授業前の事前学習
授業前に配布されたリーディング資料を読み、感想や意見を考える。
＊授業の進め方と方法
1. 事前学習したリーディン資料について要約や感想文を書く。
2. 受講生同士でフィードバックを行う。
3. HSK5級作文トレーニング。
4. 教員が宿題の作文を添削し、中から数点を選んでプリントにまとめて、受講生全体で共有してフィードバックを行う。
なお以下の授業計画は暫定的なものである。受講人数や受講者のニーズに応じて進捗のペースや実施の順番を調整する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	復習	春学期に学んだ内容を振り返り、疑問点などを適宜確認・検討する。
2	HSK5級自由作文	HSK5級作文問題説明、自由作文の練習、フィードバック
3	リーディング＆ライティング	リーディング資料（故事）について要約、感想文を書く、フィードバック
4	HSK5級自由作文	HSK5級自由作文の練習、よく使う語句をまとめる、フィードバック
5	リーディング＆ライティング	リーディング資料（エッセイ）について要約、感想文を書く、フィードバック
6	HSK5級自由作文	HSK5級自由作文の練習、テンプレートを作る、フィードバック
7	リーディング＆ライティング	リーディング資料（論説文）について要約、感想文を書く、フィードバック
8	HSK5級自由作文	HSK5級自由作文の練習、フィードバック
9	リーディング＆ライティング	リーディング資料（ショートショート）について要約、感想文を書く、フィードバック
10	HSK5級単語指定作文	HSK5級単語指定作文の練習、フィードバック
11	HSK5級単語指定作文	HSK5級単語指定作文説明、作文の練習、よく使う語句をまとめる、フィードバック
12	HSK5級単語指定作文	HSK5級単語指定作文の練習、テンプレートを作る、フィードバック
13	HSK5級単語指定作文	HSK5級単語指定作文の練習、フィードバック
14	総括	この授業で学んだ内容を振り返り、疑問点などを適宜確認・検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業前に配付資料や宿題の作文を用いて授業を進めることがあるため、配付資料を必ず熟読すること、宿題はあらかじめ取り組んでください（こなしていない場合は授業参加が難しくなる）。
・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。
・Since classes may involve homework exercises and essay writing, please make sure to complete your homework in advance (it will be difficult to participate in class without doing the homework).
・The standard preparation and review time for this course is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。必要な資料は担当教員が適宜準備する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
・期末課題を50%、平常点（授業への積極的参加度、作文、フィートバックなど）を50%として合計100点満点とする。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。
・本授業は期末試験は実施しない。
・The final assignment will account for 50%and class participation (active participation in discussions, essays, feedback, etc.) will account for 50%, making a total of 100 points. Students who achieve 60%or more of the course objectives based on this grading system will pass.
・There will be no final exam for this course.

【学生の意見等からの気づき】
本年度より新規開講のため、フィードバックできません。

【その他の重要事項】
・中国語の文法知識があること（最低1年以上の中国語学習歴があること）を前提に授業を行う。
・事前学習は必須である。事前学習していることを前提に授業を進める。
・本授業は、全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。教育実習等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。

【Outline (in English)】
This course is designed to improve Chinese composition skills. Since reading and writing are interrelated skills, the autumn semester will focus on connecting Chinese reading and writing. Students will read short stories and essays written in Chinese and engage in training such as summaries, reflection essays, and free writing by applying previously learned writing skills. Additionally, by examining Chinese from a contrastive perspective between Japanese and Chinese, students will develop an awareness of the grammatical features of Japanese, which they often use unconsciously. Please ensure that you review the "Other Important Information" section at the end of this syllabus before enrolling in the course.

LANc300LA（中国語 / Chinese language education 300）

中国語コミュニケーション中級Ａ　2017年度以降入学者

周　重雷

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火**3/Tue.3
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文法の復習をしつつ、中国語でのさまざまな会話パターンを作り、練習していく。
中国語のコミュニケーション能力のさらなる向上を図る。

【到達目標】
１、文法をきちんと把握する。
２、発音を綺麗にする。
３、日常会話ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
毎回配布されている教材に沿って文法を確認する。またさまざまな会話パターンを作り、授業内発表を行う。
また毎回発表した内容の訂正版の音声をLINEなどで受け取ることができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	シラバスの配布 受講生のレベルのチェック
第2回	発音練習	ピンインの復習 発音をチェックする
第3回	人称代名詞と指示代名詞 日常会話	文法を確認したのち、あいさつなどの日常会話を復習する
第4回	述語 会話（１）	文法の確認と自己紹介
第5回	受け答え 授業内発表（１）	文法を確認したのち、自己紹介を各自に発表する
第6回	在と有	方位や場所を意味する表現を学ぶ
第7回	数量詞と連体修飾語	数量詞と連体修飾語の練習をする
第8回	疑問文 会話（２）	ものの尋ね方を学ぶ レストランでの会話を作る
第9回	連用修飾語（１） 授業内発表（２）	副詞と時間詞につい勉強する レストランでの会話を発表する
第10回	完了と変化	「了」の様々を学ぶ
第11回	連用修飾語（２）	前置詞構造と副詞を学ぶ
第12回	三量補語 会話（３）	文法を確認したのち、買い物する時の会話パターンを作る
第13回	復習と質疑応答 授業内発表（３）	買い物のシミュレーションをする
第14回	まとめ及び期末テスト	文法のまとめ、と会話の口頭テストを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
オリジナルの会話パターンを作る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教員によるプリント配布

【参考書】
必要であればその都度に指定する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験の成績（60％）と発表（40％）で評価される。
term-end test:60%
presentation:40%

【学生の意見等からの気づき】
自由会話の時間を増やす。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
HSKや中国語検定の受験も推奨される。
留学生の受講も歓迎される。

【Outline (in English)】
This is the Chinese conversation course for upper intermediate learners.　The aim of this course is to master upper intermediate level conversation skill.　We will study intermediate vocabulary and grammar, and improve Chinese speaking skill.
We should talk by accurate pronunciation.
We should talk daily conversation well.
We should prepare and review about two hours a week.
Term-end test:60%
Presentation:40%

LANc300LA（中国語 / Chinese language education 300）

中国語コミュニケーション中級Ｂ　2017年度以降入学者

周　重雷

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火**3/Tue.3
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文法を確認しつつ、中国語のさまざまな会話パターンを作り、練習していく。
中国語コミュニケーション能力のさらなる向上を図る。

【到達目標】
１、文法をきちんと把握する。
２、作文能力を高める。
３、日常会話をできるようにする。
４、面接やスピーチなど、より高度なコミュニケーション能力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
文法と作文の練習を踏まえた上で、さまざまな会話パターンを作り、授業内発表をする。
また発表した内容の訂正版の音声をLINEなどで受け取ることができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	持続態と進行形 作文	文法を確認したのち、「私の夏休み」を作る
第2回	程度補語 作文のチェック	程度補語について勉強する 作文の添削をする
第3回	比較文と連動文 会話（１）	文法を確認する ホテルでの会話パターンを作る
第4回	構文分析 授業内発表（１）	構文を分析する ホテルでの会話を発表する
第5回	強調と重複	強調構文と重複表現について勉強する
第6回	方向補語	方向補語の用法を学ぶ
第7回	複合方向補語の派生的用法 会話（２）	文法を確認したのち、乗り物を使う場合の会話を作る
第8回	結果補語 授業内発表（２）	文法を確認したのち、会話を発表する
第9回	可能補語 会話（３）	可能補語を学ぶ スピーチ/ものを語る
第10回	使役と受身 授業内発表（３）	文法を確認したのち、スピーチを発表する
第11回	処置と倒置 ヒアリング（１）	処置文と倒置文について勉強する 映像教材を使って聞き取りをする
第12回	複文一 ヒアリング（２）	複文について勉強する 映像教材の聞き取り
第13回	複文二	接続詞を確認する 復習と質疑応答
第14回	まとめ	口頭テストと総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
オリジナルの会話パターンを作る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教員によるプリント配布

【参考書】
必要であればその都度指定する。

【成績評価の方法と基準】
期末テストの成績（60％）と発表（40％）で評価される。
term-end test:60%
presentation:40%

【学生の意見等からの気づき】
自由会話の時間を増やす。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
HSKや中国語検定の受験も推奨される。
留学生の受講も歓迎される。

【Outline (in English)】
This is the Chinese conversation course for upper intermediate learners. The aim of this course is to master upper intermediate level conversation skill. We will study intermediate vocabulary and grammar, and improve Chinese speaking skill. We should do some writing and talk by accurate pronunciation. Achieve the high-level that we can use the language for study-abroad or working.
We should prepare and review about two hours a week.
Term-end test:60%
Presentation:40%

LANc300LA（中国語 / Chinese language education 300）

中国語翻訳･通訳 A

2017年度以降入学者

王　安

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月**3/Mon.3
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国語入門～初級を修了した学習者を対象に、HSK3級～5級（中国語中級～準上級）のレベルの習得を目標とするクラスです。前期はHSK3級～4級レベル（中国語検定試験3級）における重要文法項目を確実に把握することによって、中国語文章力、読解力、そして理解力を向上させます。また、大量の作文練習を通して、中級中国語学習者にとって学習の難点となる文法事項を着実に身に着け、中国語の実力や翻訳力を高めていきます。

【到達目標】
１、高度な中国語文章力、読解力、理解力を身に着ける。
２、中国語中級レベルの重要文法事項を把握する。
３、大量の作文練習を通して、中国語の翻訳力、総合力を向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
授業では、毎回３、4個の重要文法項目を中心に、それぞれについて詳細に説明し、HSK試験や中検試験の受験ポイントを解説する。そのうえ、大量の作文練習を行い、文章力と翻訳力を鍛える。最後に、練習問題の解説を通して、学習成果を定着させる。
課題に対するフィードバックは授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	授業のやり方、内容、成績評価に関する説明。HSKに関する説明
第2回	中国語重要文型の復習（その１）	名詞述語文、形容詞述語文、動詞述語文、二つの否定副詞
第3回	中国語重要文型の復習(その２）	各種の疑問文、主述述語文
第4回	動作の状態の表し方（その１）	将来の動作、動作の進行と持続、動作の経験の表し方
第5回	動作の状態の表し方（その２）	アスペクト助詞の”了”と語気助詞”了”（その１）
第6回	動作の状態の表し方（その３）	アスペクト助詞の”了”と語気助詞”了”（その２）
第7回	中国語の離合詞と動詞の重ね型について	離合詞の特徴と文型、重ね型の文型と機能
第8回	これまでの復習	総合復習（１）、中間テスト
第9回	翻訳・通訳練習	様々な翻訳パターン
第10回	重要な前置詞（介詞、その１）	“在”“从"“到”“離”
第11回	重要な前置詞（介詞、その２）	“往”“朝”“向”“对于”“对”“通過”“按照”“关于”など）
第12回	様々な形容詞について	性質形容詞と状態形容詞の特徴と使い方
第13回	連体修飾と連用修飾	連体修飾の作り方、連用修飾の作り方
第14回	期末まとめ	これまでの復習と期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・本授業の準備学習・復習時間は、各３時間を標準とします。
・当日授業で説明した重要ポイントを必ず整理し、復習してください。

【テキスト（教科書）】
授業で資料を配布する。

【参考書】
『WHY？ にこたえるはじめての中国語の文法書』相原茂・石田知子・戸沼市子著　2,500円（同学社）

【成績評価の方法と基準】
平常点（課題）４０％＋中間テスト（３０％）＋期末テスト（３０％）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
授業の雰囲気が明るく、文法の説明が分かりやすいとの評価を頂いてうれしいです。今後もたくさんの用例を提示しながら丁寧に文法項目を説明し、様々な工夫をして学習効果を確実に上げていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
１日中中日辞書を用意してください。
２授業で配布する資料を必ずファイリングしてください。テキストを使用しないため、配布資料は中間・期末試験の復習資料となります。
３、授業中メモをたくさん取るので、ノートを用意してください。

【Outline (in English)】
Outline:
This class is aimed at students who have completed beginner Chinese and are seeking to acquire the level of HSK level 3 to 5 (intermediate to advanced level). In the first semester, you will improve your writing, reading, and understanding of Chinese by grasping the essential grammar items of HSK levels 3 to 4. In addition, through a lot of writing practice, we will steadily acquire difficult grammar points for intermediate Chinese learners, improving Chinese proficiency and translation ability.
Objectives
1.　To develop advanced Chinese writing, reading, and understanding ability.
2.　to master the important grammar items of intermediate Chinese.
3.　to improve Chinese translation and comprehensive ability through much writing practice.
Grading method:
assignment（40%） + mid-term test (30%) + final test (30%)
Work to be done outside of class (preparation:
The standard time for preparation and review is ３ hours each.

LANc300LA（中国語 / Chinese language education 300）

中国語翻訳･通訳Ｂ

2017年度以降入学者

王　安

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月**3/Mon.3
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国語初級を修了した学習者を対象に、HSK3級～5級（中国語中級～準上級）のレベルの習得を目標とするクラスです。前期に引き続き、後期ではＨＳＫ4級～５級レベル（中国語検定試験3～２級）における重要文法項目を確実に把握することによって、中国語文章力、読解力、そして理解力を向上させます。また、大量の作文練習を通して、中級中国語学習者にとって学習の難点となる文法事項を着実に身に着け、中国語の実力や翻訳力を高めていきます。

【到達目標】
１、高度な中国語文章力、読解力、理解力を身に着ける。
２、中国語中級～上級レベルの重要文法事項を把握する。
３、大量の作文練習を通して、中国語の翻訳力、総合力を向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
授業では、毎回３、4個の重要文法項目を中心に、それぞれについて詳細に説明し、HSK試験や中検試験における受験ポイントを解説する。そのうえ、大量の作文練習を行い、文章力と翻訳力を鍛える。最後に、練習問題の解説を通して、学習成果を定着させる。
課題に対するフィードバックは授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	授業のやり方、内容、成績評価に関する説明。前期の復習
第2回	中国語の助動詞	各種の助動詞の使い方
第3回	引用、伝聞を表す構文	引用を表す構文、伝聞を表す構文
第4回	特殊構文（その１）	使役文
第5回	特殊構文（その２）	受け身文
第6回	特殊構文（その３）	“是…的”構文
第7回	翻訳・通訳練習	様々な翻訳パターン
第8回	これまでの復習	総合復習（１）、中間テスト
第9回	特殊構文（その４）	”把”構文
第10回	中国語の補語（その１）	結果補語と方向補語
第11回	中国語の補語（その２）	可能補語、数量補語
第12回	中国語の補語（その３)）	数量補語、様態補語
第13回	翻訳通訳練習	日中通訳の現場でよく使われる表現
第14回	期末まとめ	これまでの復習と期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・本授業の準備学習・復習時間は、各３時間を標準とします。
・当日の授業で紹介した重要ポイントを必ず復習してください。

【テキスト（教科書）】
授業で資料を配布する。

【参考書】
『WHY？ にこたえるはじめての中国語の文法書』相原茂・石田知子・戸沼市子著　2,500円（同学社）

【成績評価の方法と基準】
平常点（課題）４０％+中間テスト（３０％）+期末テスト（３０％）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
授業の雰囲気が明るく、文法の説明が分かりやすいとの評価を頂いてうれしいです。今後もたくさんの用例を提示しながら丁寧に文法項目を説明し、様々な工夫をして学習効果を確実に上げていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
１日中中日辞書を用意してください。
２授業で配布する資料を必ずファイリングしてください。テキストを使用しないため、配布資料は期末試験の復習資料となります。
３、授業中メモをたくさん取るので、ノートを用意してください。

【その他の重要事項】
連絡先：　annwang@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】
Outline:
This class is aimed at students who have completed beginner Chinese and are seeking to acquire the level of HSK level 3 to 5 (intermediate to advanced level). In the second semester, you will improve your writing, reading, and understanding of Chinese by grasping the essential grammar items of HSK levels 4 to 5. In addition, through a lot of writing practice, we will steadily acquire grammar points that are difficult for intermediate advanced Chinese learners, improving Chinese proficiency and translation ability.
Objectives
1. To develop advanced Chinese writing, reading, and understanding ability.
2. to master the important grammar items of intermediate advanced Chinese.
3. to improve Chinese translation and comprehensive ability through much writing practice.
Grading method:
assignment（40%） + mid-term test (30%) + final test (30%)
Work to be done outside of class (preparation:
The standard time for preparation and review is 3 hours each.

LANc300LA（中国語 / Chinese language education 300）

中国語講読中級Ａ

2017年度以降入学者

岩田　和子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水**3/Wed.3
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国政府公認の中国語検定試験「HSK（漢語水平考試）」の読解問題（閲読）に慣れるための授業です。春学期はHSK３、４級レベルの読解問題を中心に扱います。語彙と文法を理解することを第一に、短文からゆっくり読み進めていきます。中国語文を読むのに苦手意識のある方はぜひ受講してください。

【到達目標】
中国語文の精読を通して、HSK３，４級レベルの読解力を養うことが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
課題文を配布するので、各自で単語を調べ、日本語に訳して授業に臨んでください。授業では文法解説や語彙説明をしながら、各自の日本語訳を確認していきます。また、文字情報だけではイメージできない事柄については、映像や写真を見て理解を深めます。適宜、受講者と話し合いながら授業を進めていきます。質問や確認テスト等へのフィードバックは授業内におこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方の説明・確認。
2	HSK３，４級閲読対策：練習問題①	HSK３，４級レベルの閲読練習①の翻訳と解説
3	HSK３，４級閲読対策：練習問題②	HSK３，４級レベルの閲読練習②の翻訳と解説
4	HSK３，４級閲読対策：練習問題③	HSK３，４級レベルの閲読練習③の翻訳と解説
5	HSK３，４級閲読対策：練習問題④	HSK３，４級レベルの閲読練習④の翻訳と解説
6	HSK３，４級閲読対策：練習問題⑤	HSK３，４級レベルの閲読練習⑤の翻訳と解説
7	HSK３，４級閲読対策：練習問題⑥	HSK３，４級レベルの閲読練習⑥の翻訳と解説
8	HSK３，４級閲読対策：練習問題⑦	HSK３，４級レベルの閲読練習⑦の翻訳と解説
9	HSK３，４級閲読対策：練習問題⑧	HSK３，４級レベルの閲読練習⑧の翻訳と解説
10	HSK３，４級閲読対策：練習問題⑨	HSK３，４級レベルの閲読練習⑨の翻訳と解説
11	HSK３，４級閲読対策：練習問題⑩	HSK３，４級レベルの閲読練習⑩の翻訳と解説
12	HSK３，４級閲読対策：練習問題⑪	HSK３，４級レベルの閲読練習⑪の翻訳と解説
13	練習問題①～⑪の復習	HSK３，４級レベルの閲読練習①～⑪の復習
14	まとめ	①～⑪のまとめと確認テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜プリントを配布します。

【参考書】
千葉謙悟・熊進監修、三省堂編修所編『ベーシッククラウン中日・日中辞典』（三省堂）
そのほか、適宜教場で示します。

【成績評価の方法と基準】
①平常点（授業への参加度）50%
②期末試験（授業で扱った内容を翻訳する確認テスト）50%

【学生の意見等からの気づき】
引きつづき丁寧な分かりやすい授業をこころがけます。

【学生が準備すべき機器他】
最終回の授業内試験はオンラインで実施しますので、PCで受講できる環境を整えておいてください。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to pass 4th grade of HSK (Hanyu Shuiping Kaoshi) test. To achieve this aim, it is especially important to improve the reading skill, therefore we use past HSK questions and do a lot of reading exercises in class.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your final grade will be calculated according to the following process:
Usual performance score 50%，Term-end examination: 50%.

LANc300LA（中国語 / Chinese language education 300）

中国語講読中級Ｂ

2017年度以降入学者

岩田　和子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水**3/Wed.3
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国政府公認の中国語検定試験「HSK（漢語水平考試）」の読解問題（閲読）に慣れるための授業です。秋学期はHSK４、５級レベルの読解問題を中心に扱います。語彙と文法を理解することを第一に、短文からゆっくり読み進めていきます。中国語文を読むのに苦手意識のある方はぜひ受講してください。

【到達目標】
中国語文の精読を通して、HSK４，５級レベルの読解力を養うことが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
課題文を配布するので、各自で単語を調べ、日本語に訳して授業に臨んでください。授業では文法解説や語彙説明をしながら、各自の日本語訳を確認していきます。また、文字情報だけではイメージできない事柄については、映像や写真を見て理解を深めます。適宜、受講者と話し合いながら授業を進めていきます。質問や確認テスト等へのフィードバックは授業内におこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方の説明・確認。
2	HSK４，５級閲読対策：練習問題①	HSK４，５級レベルの閲読練習①の翻訳と解説
3	HSK４，５級閲読対策：練習問題②	HSK４，５級レベルの閲読練習②の翻訳と解説
4	HSK４，５級閲読対策：練習問題③	HSK４，５級レベルの閲読練習③の翻訳と解説
5	HSK４，５級閲読対策：練習問題④	HSK４，５級レベルの閲読練習④の翻訳と解説
6	HSK４，５級閲読対策：練習問題⑤	HSK４，５級レベルの閲読練習⑤の翻訳と解説
7	HSK４，５級閲読対策：練習問題⑥	HSK４，５級レベルの閲読練習⑥の翻訳と解説
8	HSK４，５級閲読対策：練習問題⑦	HSK４，５級レベルの閲読練習⑦の翻訳と解説
9	HSK４，５級閲読対策：練習問題⑧	HSK４，５級レベルの閲読練習⑧の翻訳と解説
10	HSK４，５級級閲読対策：練習問題⑨	HSK４，５級レベルの閲読練習⑨の翻訳と解説
11	HSK４，５級級閲読対策：練習問題⑩	HSK４，５級レベルの閲読練習⑩の翻訳と解説
12	HSK４，５級級閲読対策：練習問題⑪	HSK４，５級レベルの閲読練習⑪の翻訳と解説
13	練習問題①～⑪の復習	HSK４，５級レベルの閲読練習①～⑪の復習
14	まとめ	①～⑪のまとめと確認テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜配布します。

【参考書】
千葉謙悟・熊進監修、三省堂編修所編『ベーシッククラウン中日・日中辞典』三省堂
そのほか、適宜教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】
①平常点（授業への参加度）50%
②期末試験（授業で扱った内容を翻訳する確認テスト）50％

【学生の意見等からの気づき】
引きつづき丁寧な分かりやすい授業をこころがけます。

【学生が準備すべき機器他】
最終回の授業内試験はオンラインで実施しますので、PCで受講できる環境を整えておいてください。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to pass 5th grade of HSK (Hanyu Shuiping Kaoshi) test.　To achieve this aim, it is especially important to improve the reading skill, therefore we use past HSK questions and do a lot of reading exercises in class.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your final grade will be calculated according to the following process:
Usual performance score 50%，Term-end examination: 50%.

LANc300LA（中国語 / Chinese language education 300）

資格中国語上級Ａ

2017年度以降入学者

任　麗潔

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火**3/Tue.3
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は今まで習得した中国語の基礎を生かし、聞く、話す、読む、書く力の向上を図ります。そして、HSK（漢語水平考試）の5級に合格できるレベルの中国語力の育成を目的とします。

【到達目標】
過去問題や模擬問題を解くことで、HSKレベル5に合格するために必要な力、文法力、語彙力、作文力を身につけましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
毎回プリントを配布し、過去問題や模擬問題の一部を課題とします。授業前に解いてもらい、授業中答え合わせした上で、受講生の疑問点をチェックしながら、説明する方法で進んでいきます。受講生の出来具合を確認しながら進み具合を調整する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要 HSK概要 レベルチェック
2	HSK5級の聴解対策①	聴解の一回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
3	HSK5級の聴解対策②	聴解の二回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
4	HSK5級の聴解対策③	聴解の三回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
5	HSK5級の聴解対策④	聴解の四回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
6	HSK5級の読解対策①	読解の一回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
7	HSK5級の読解対策②	読解の二回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
8	HSK5級の読解対策③	読解の三回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
9	HSK5級の読解対策④	読解の四回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
10	HSK5級の作文対策①	作文の一回目 宿題（過去問題や模擬問題）の添削及び解説
11	HSK5級の作文対策②	作文の二回目 宿題（過去問題や模擬問題）の添削及び解説
12	HSK5級の作文対策③	作文の三回目 宿題（過去問題や模擬問題）の添削及び解説
13	HSK5級の作文対策④	作文の四回目 宿題（過去問題や模擬問題）の添削及び解説
14	総まとめ	期末試験 まとめ 質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の宿題・復習時間は、合わせて2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
プリント配布

【参考書】
辞書

【成績評価の方法と基準】
学習態度 40%
宿題と課題 40%
期末試験 20%

【学生の意見等からの気づき】
受講生の中国語習熟度を適宜確認しつつ、授業を進めていきたい。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This class will utilize the basic Chinese you have learned so far to improve your listening, speaking, reading and writing skills, and aim to develop Chinese language skills to the level of passing the HSK (Chinese Language Qualification Examination) Level 5.
【Learning Objectives】
By solving past exam questions and mock tests, acquire the listening, grammar, vocabulary, and writing skills necessary to pass HSK Level 5.
【Learning activities outside of classroom】
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
Attendance and learning attitude 40%
Homework completion 40%
Final exam 20%

LANc300LA（中国語 / Chinese language education 300）

資格中国語上級Ｂ

2017年度以降入学者

任　麗潔

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火**3/Tue.3
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は今まで習得した中国語の基礎を生かし、聞く、話す、読む、書く力の向上を図ります。そして、HSK（漢語水平考試）の6級に合格できるレベルの中国語力の育成を目的とします。

【到達目標】
過去問題や模擬問題を解くことで、HSKレベル6に合格するために必要な力、文法力、語彙力、作文力を身につけましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
毎回プリントを配布し、過去問題や模擬問題の一部を課題とします。授業前に解いてもらい、授業中答え合わせした上で、受講生の疑問点をチェックしながら、説明する方法で進んでいきます。受講生の出来具合を確認しながら進み具合を調整する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要 HSK概要 レベルチェック
2	HSK6級の聴解対策①	聴解の一回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
3	HSK6級の聴解対策②	聴解の二回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
4	HSK6級の聴解対策③	聴解の三回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
5	HSK6級の聴解対策④	聴解の四回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
6	HSK6級の読解対策①	読解の一回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
7	HSK6級の読解対策②	読解の二回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
8	HSK6級の読解対策③	読解の三回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
9	HSK6級の読解対策④	読解の四回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
10	HSK6級の作文対策①	作文の一回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
11	HSK6級の作文対策②	作文の二回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
12	HSK6級の作文対策③	作文の三回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
13	HSK6級の作文対策④	作文の四回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
14	総まとめ	期末試験 まとめ 質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の宿題・復習時間は、合わせて2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
プリント配布

【参考書】
辞書

【成績評価の方法と基準】
学習態度 40%
宿題と課題 40%
期末試験 20%

【学生の意見等からの気づき】
受講生の中国語習熟度を適宜確認しつつ、授業を進めていきたい。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This class will utilize the basic Chinese you have learned so far to improve your listening, speaking, reading and writing skills, and aim to develop Chinese language skills to the level of passing the HSK (Chinese Language Qualification Examination) Level 6.
【Learning Objectives】
By solving past exam questions and mock tests, acquire the listening, grammar, vocabulary, and writing skills necessary to pass HSK Level 6.
【Learning activities outside of classroom】
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
Attendance and learning attitude 40%
Homework completion 40%
Final exam 20%

ARSa200LA（地域研究（ヨーロッパ）/ Area studies(Europe) 200）

ドイツの文化と社会ＬＡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

小川　敦

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月**4/Mon.4
単位数：**2単位**
定員制（30）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「ドイツ」や「ドイツ語圏」と聞いて、みなさんは何を思い浮かべるでしょうか？
本授業ではドイツやドイツ語圏についてトピックをとりあげ、少し深く考えてみたいと思います。
ドイツ語の学習は前提としません。

【到達目標】
ドイツ語圏に関する様々なテーマを見ることで、社会や歴史について理解し、今後探求していく糸口を見つけることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
講義形式で行います。授業の最初に、前回の授業で提出されたリアクションペーパーに反応したいと思います。また、授業中に受講生のみなさんにこちらから問いかけたり、受講生同士で話し合っていただくこともあることもあるかと思います。積極的な参加を期待します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ドイツとドイツ語圏について。
第2回	ドイツ語の歴史と多様性	ドイツ語が成立した歴史や地域的な違いを見ます。英語の知識が役に立つかもしれません。
第3回	ビール	ビールの歴史と現状について。
第4回	ドイツの環境政策	ドイツの環境政策について。
第5回	ドイツの交通政策	トラムや電気自動車、アウトバーンなど交通政策について。
第6回	ドイツの鉄道	ドイツの鉄道の歴史と現在について。
第7回	自動車産業から見るドイツ経済	ドイツ経済について、自動車産業から。
第8回	ドイツの教育制度	マイスター制度など、日本とは異なる教育制度について。
第9回	東ドイツ	かつて存在した東ドイツ（ドイツ民主共和国）やベルリンの壁について。
第10回	ドイツの歴史教育	過去をどう扱うのかについて。
第11回	多様化するドイツ	移民の歴史と現在、統合政策について。
第12回	オーストリアとウィーン	カフェ文化など独自の文化を形成するオーストリアの首都ウィーンについて。
第13回	日本の中のドイツ、ドイツの中の日本	ハリボー、バウムクーヘン、アニメ文化等、日本にあるドイツ語やドイツ語圏の文化、ドイツ（語圏）にある日本の文化について。
第14回	まとめ	これまでの話題について補足しながら振り返ります。期末レポートの書き方について確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
予習：次回のテーマについて、思いつくことをいくつかメモしておいてください。
復習：ハンドアウトを読み直し、気になるテーマについては図書館で本を探してみてください。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しません。ハンドアウトを配布し、スライドを用いて授業します。

【参考書】
授業ごとに提示します。

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパーを含めた授業への積極的な参加40％、期末レポート60％

【学生の意見等からの気づき】
受講生が意見を述べやすいようにつとめます。

【学生が準備すべき機器他】
授業資料（ハンドアウト）はLMSなどを通じて配布します。スマートフォン以外にPCやタブレットなどがあると便利です。

【その他の重要事項】
春学期と秋学期は独立して履修できます。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
This course introduces and explores topics about Germany and the German-speaking world.
Students do not need to learn German to take this course.
【到達目標（Learning Objectives）】
Students will develop an understanding of the society, culture and history of the German-speaking world.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Active participation 40%
Final report 60%

ARSa200LA（地域研究（ヨーロッパ）/ Area studies(Europe) 200）

ドイツの文化と社会ＬＢ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

小川　敦

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月**4/Mon.4
単位数：**2単位**
定員制（30）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、ドイツ語が／ドイツ語も使われる／使われた地域の歴史や文化について扱います。言語の話も出ますが、ドイツ語の知識は不要です。

【到達目標】
ドイツ語圏の文化や社会、人々の多様性について理解を深めます。日本社会への気づきにもつなげます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
講義形式で行います。授業の最初に、前回の授業で提出されたリアクションペーパーに反応したいと思います。また、授業中に受講生のみなさんにこちらから問いかけたり、受講生同士で話し合っていただくこともあることもあるかと思います。積極的な参加を期待します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業で扱うテーマについて概観します。
第2回	オーストリアの歴史	オーストリアの現代史を中心に扱います。ハプスブルク帝国に遡ることもあります。
第3回	オーストリアの現代史と現在	オーストリアの現代史と現在のオーストリアの社会や文化を扱います。
第4回	スイスの歴史	多言語国家であり永世中立国であるスイスがどのように成立したのかを見ます。
第5回	スイスの現代史と現在	スイスの現代史と現在のスイス社会を考えます。
第6回	ベルギーの歴史	ベルギーの歴史を扱います（ベルギーには小さなドイツ語共同体があります）。
第7回	ベルギーの現代史と現在	ベルギーの現代史を扱いながら、EUの中心地でありながら今日でも言語問題でゆれるベルギーの今を考えます。
第8回	ルクセンブルクの歴史	GDPが世界トップクラスである小国ルクセンブルクの歴史を扱います。
第9回	多様化するルクセンブルク	多言語社会・移民社会となった今日のルクセンブルクについて考えます。
第10回	アルザス・ロレーヌの歴史	ドイツなのかフランスなのか、帰属をめぐってゆれたフランス東部のアルザス地方・ロレーヌ地方の歴史について扱います。
第11回	アルザス・ロレーヌ（言語）	アルザス・ロレーヌについて、特に言語問題に焦点を当てます。
第12回	ドイツ騎士団と東プロイセン	かつて東に移住したドイツ系住民の歴史を扱います。
第13回	アメリカ合衆国のドイツ系住民	かつて、ドイツ語圏からは多くの人々がアメリカに移住しました。今日にも残る移民の歴史を扱います。
第14回	まとめ	これまでの話題について補足しながら振り返ります。期末レポートの書き方について確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
予習：次回のテーマについて、思いつくことをいくつかメモしたり、インターネット等で検索してください。
復習：ハンドアウトを読み直し、気になるテーマについては図書館で本を探してみてください。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しません。ハンドアウトを配布し、スライドを用いて授業します。

【参考書】
授業ごとに提示します。

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパーを含めた授業への積極的な参加40％、期末レポート60％

【学生の意見等からの気づき】
講生が意見を述べやすいようにつとめます。

【学生が準備すべき機器他】
授業資料（ハンドアウト）はLMSなどを通じて配布します。スマートフォン以外にPCやタブレットなどがあると便利です。

【その他の重要事項】
春学期と秋学期は独立して履修できます。春学期に履修した人も履修しなかった人も積極的な参加を期待します。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
This course focuses on the history and culture of the regions where German is also used or where it was used.
【到達目標（Learning Objectives）】
In this course, students deepen their understanding of the diversity of cultures, societies and people in German-speaking areas.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Active participation 40%
Final report 60%

ARSa200LA（地域研究（ヨーロッパ）/ Area studies(Europe) 200）

フランス語の世界ＬＡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

廣松　勲

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水4**/Wed.4
単位数：**2単位**
定員制（40）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、世界に広がる「フランス語圏（フランコフォニー）」を知ることを主たる目的とします。そのような（フランス共和国を含めた）広い地域をも対象としつつ、各地域にどのような地理・歴史的背景、社会状況、各種の文化（言語、芸術、習慣、食生活など）が存在するのかについて検討する。

「フランス的なるもの」がどのような要素で成り立っているのかを広く紹介しながら、新たな視点から「フランス語の世界」を把握できるようにすることを目指す。

なお、春学期は主にフランス共和国本土にある「地域圏」を中心として、それぞれの地域の特性について紹介・解説する。

【到達目標】

1）フランス共和国の各地域の紹介を介して、その差異と共通性の大枠を理解できる。
2）フランコフォニー（フランス語圏）の紹介を介して、フランス語の世界的拡がりについて理解できる。
3）「フランス的なるもの」が現在どのような要素によって成り立っているのかについて、簡単に説明ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業については、主に講義形式で進める。各回において一つの地域または国の歴史・地理・文化を概説しながら、フランス語の世界の多様性・複雑性を解説する。また、講義形式に加えて、映像資料や音楽の視聴も取り入れることで、少しでも具体的に各地域・国を想像できるように授業を進める。

授業ではコメントシートを提出してもらうことで、予習・復習のきっかけとしてもらう。期末レポートでは一つの地域または国について、選択したテーマから調査結果をまとめてもらうが、そのためにできるだけ参考資料の提示に努める。

提出されたコメントシートについて、できるだけ次回以降の授業に反映させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション：国内の歴史、県・地域圏などの成立経緯	・本授業の流れについて説明 ・フランス共和国及びフランコフォニーの地理・歴史について簡単に紹介
2	①Île-de-France	・イル＝ド＝フランス地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
3	②Bretagne	・ブルターニュ地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
4	③Normandie	・ノルマンディー地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
5	④Hauts-de-France	・オー＝ド＝フランス地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
6	⑤Grand-Est	・グラン・テスト地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
7	⑥Pays de la Loire	・ペイ・ド・ラ・ロワール地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
8	⑦Centre-Val de Loire	・サントル＝ヴァル・ド・ロワール地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
9	⑧Bourgogne-Franche Conté	・ブルゴーニュ＝フランシュ・コンテ地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
10	⑨Nouvelle-Aquitaine	・ヌーヴェル＝アキテーヌ地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
11	⑩Auvergne-Rhône-Alpes	・オーヴェルニュ＝ローヌ・アルプ地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
12	⑪Occitanie	・オクシタニー地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
13	⑫Provence-Alpes-Côte d'Azur (PACA)	・プロヴァンス＝アルプ＝コート・ダジュール地域圏（PACA）に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
14	⑬Corse まとめ	・コルス地方公共団体に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など ・春学期授業のまとめ ・秋学期授業の予告：世界のフランコフォニー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1）各地域圏に関する情報を、主に学術書や論文（場合によっては各地域圏サイト）を参照しつつ、予習・復習を行って欲しい。
2）映像資料については、多くの場合、授業内で全てを見ることができるわけではないため、できるだけ個人的に視聴して欲しい。
3）期末レポートの執筆に向けて、各地域圏を調べる際の「きっかけ」となる「テーマや関心領域」を早めに決定して欲しい（或る程度、自分の「テーマや関心領域」を特定しないと、レポート執筆だけでなく、その準備も難しいと思われるため。）
4）期末レポートの執筆に向けて、レポート執筆の方法・手続き・注意点（特に引用の仕方、参考文献の書き方）について確りと学習しておいて欲しい。
・本授業の準備学習・復習時間は、合計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・教科書は、特になし
・原則、各回において資料を配布する予定

【参考書】

Ⅰ．以下の4冊の参考書は、フランス共和国やフランコフォニーについて基礎知識が得られるため、簡単にでも参照するようにしてほしい。
1）剣持久木編著『よくわかるフランス近現代史』ミネルヴァ書房，2018年．本体2600円＋税
2）ジャック・レヴィ編（土居佳代子訳）『地図で見るフランスハンドブック』原書房，2018年．本体2800円＋税
3）ジャン＝ブノワ・ナドー，ジュリー・バーロウ著（立花英裕監修・中尾ゆかり訳）『フランス語のはなし：もうひとつの国際共通語』大修館書店，2008年．本体2400円＋税
4）鳥羽美鈴著『多様性の中のフランス語：フランコフォニーについて考える』関西学院大学出版会，2012年．本体3400円＋税
Ⅱ．以下の2冊の参考書はフランス語教科書であるが、比較的情報が充実しているため、フランス語学習者は参照してみて欲しい。
5）Fabienne Guillemin著『Tour de France（フランス，地方を巡る旅）』駿河台出版社，2017年．本体1900円＋税

６）小松祐子，Gilles Delmaire 著『Destination francophoneie: nouvelle édition（フランコフォニーへの旅：改訂版）』駿河台出版社，2019年．本体2300円＋税

【成績評価の方法と基準】

・平常点と期末レポートに基づき、総合的に評価する。
①平常点（コメントシートなど）：30％
②期末レポート：70％

【学生の意見等からの気づき】

・歴史的要素の説明が多くなりがちであるため、もう少し他の社会文化的要素の説明にも時間をさけるように心がけたい。

【その他の重要事項】

・受講に当たって、フランス語に関する予備知識は必要ない。

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of the French speaking world (la Francophonie) including the French republic. Students taking this course become able to understand in summary the situations of geography, history, (regional) languages and various cultures in each region or country.
The goals of this course are to understanding and explaining the socio-cultural situation of each French regions.
Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to read the relevant documents.
Your overall grade in the class will be decided based on the followings:
in class contributions (discussion, reaction paper, etc.): 30%, term-end report: 70%.

ARSa200LA（地域研究（ヨーロッパ）/ Area studies(Europe) 200）

フランス語の世界ＬＢ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

廣松　勲

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水4**/Wed.4
単位数：**2単位**
定員制（40）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、世界に広がる「フランス語圏（フランコフォニー）」を知ることを主たる目的とします。そのような（フランス共和国を含めた）広い地域をも対象としつつ、各地域にどのような地理・歴史的背景、社会状況、各種の文化（言語、芸術、習慣、食生活など）が存在するのかについて検討する。

「フランス的なるもの」がどのような要素で成り立っているのかを広く紹介しながら、新たな視点から「フランス語の世界」を把握できるようにすることを目指す。

なお、秋学期はフランス共和国本土以外の「地域圏」、そしてフランス共和国以外の「フランコフォニー」について扱い、それぞれの地域の特性について紹介・解説する。

【到達目標】

1）フランス共和国の各地域の紹介を介して、その差異と共通性の大枠を理解できる。
2）フランコフォニー（フランス語圏）の紹介を介して、フランス語の世界的拡がりについて理解できる。
3）「フランス的なるもの」が現在どのような要素によって成り立っているのかについて、簡単に説明ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業については、主に講義形式で進める。各回において一つの地域または国の歴史・地理・文化を概説しながら、フランス語の世界の多様性・複雑性を解説する。また、講義形式に加えて、映像資料や音楽の視聴も取り入れることで、少しでも具体的に各地域・国を想像できるように授業を進める。

毎回の授業において学生にはコメントシートを提出してもらうことで、予習・復習のきっかけとしてもらう。期末レポートでは一つの地域または国について、選択したテーマから調査結果をまとめてもらうが、そのためにできるだけ参考資料の提示に努める。

毎回の授業においてコメントシートを執筆・提出してもらい、できるだけ次回以降の授業に反映させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション：フランス共和国外にある地域圏、フランコフォニーの成立経緯	・本授業の流れについて説明 ・フランス共和国外にある県・地域圏について簡単に紹介 ・フランコフォニーの地理・歴史について簡単に紹介
2	カリブ海域の地域圏 Martinique et Guadeloupe	・カリブ海域の地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
3	南米大陸の地域圏 Guyane française	・南米大陸の地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
4	インド洋の地域圏 Réunion et Mayotte	・インド洋の地域研に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
5	太平洋の海外領土 Nouvelle-Calédonie	・太平洋の海外領土に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
6	北米大陸のフランス語圏① Québec (Canada)	・北米大陸カナダにおけるフランコフォニーに関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
7	北米大陸のフランス語圏② Louisiane	・北米大陸アメリカ合衆国におけるフランコフォニーに関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
8	北アフリカのフランス語圏① Algérie	・マグレブ中央部のフランコフォニーに関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
9	北アフリカのフランス語圏② Maroc et Tunisie	・マグレブ西部および東部のフランコフォニーに関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
10	サハラ以南のフランス語圏① Sénégal	・サハラ以南アフリカのフランコフォニー（旧仏領）に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
11	サハラ以南のフランス語圏② Congo-Kinshasa et Congo-Brazzaville	・サハラ以南アフリカのフランコフォニー（旧仏領およびベルギー領）に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
12	サハラ以南のフランス語圏③ Rwanda	・サハラ以南アフリカのフランコフォニー（旧ベルギー領）に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
13	ヨーロッパのフランス語圏① Belgique	・西ヨーロッパのフランコフォニーに関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
14	ヨーロッパのフランス語圏② Suisse まとめ	・西ヨーロッパのフランコフォニーに関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など ・秋学期授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1）各地域圏に関する情報を、主に学術書や論文（場合によっては各地域圏サイト）を参照しつつ、予習・復習を行って欲しい。
2）映像資料については、多くの場合、授業内で全てを見ることができるわけではないため、できるだけ個人的に視聴して欲しい。
3）期末レポートの執筆に向けて、各地域圏を調べる際の「きっかけ」となる「テーマや関心領域」を早めに決定して欲しい（或る程度、自分の「テーマや関心領域」を特定しないと、レポート執筆だけでなく、その準備も難しいと思われるため。）
4）期末レポートの執筆に向けて、レポート執筆の方法・手続き・注意点（特に引用の仕方、参考文献の書き方）について確りと学習しておいて欲しい。
本授業の準備学習・復習時間は、合計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・教科書は、特になし
・原則、各回において資料を配布する予定

【参考書】

Ⅰ．以下の4冊の参考書は、フランス共和国やフランコフォニーについて基礎知識が得られるため、簡単にでも参照するようにしてほしい。
1）剣持久木編著『よくわかるフランス近現代史』ミネルヴァ書房，2018年．本体2600円＋税
2）ジャック・レヴィ編（土居佳代子訳）『地図で見るフランスハンドブック』原書房，2018年．本体2800円＋税
3）ジャン＝ブノワ・ナドー，ジュリー・バーロウ著（立花英裕監修・中尾ゆかり訳）『フランス語のはなし：もうひとつの国際共通語』大修館書店，2008年．本体2400円＋税
4）鳥羽美鈴著『多様性の中のフランス語：フランコフォニーについて考える』関西学院大学出版会，2012年．本体3400円＋税

Ⅱ．以下の2冊の参考書はフランス語教科書であるが、比較的情報が充実しているため、フランス語学習者は参照してみて欲しい。
５）Fabienne Guillemin著『Tour de France（フランス，地方を巡る旅)』駿河台出版社，2017年．本体1900円＋税
６）小松祐子，Gilles Delmaire著『Destination francophoneie: nouvelle édition（フランコフォニーへの旅：改訂版)』駿河台出版社，2019年．本体2300円＋税

【成績評価の方法と基準】
・平常点と期末レポートに基づき、総合的に評価する。
①平常点（コメントシート等）：30％
②期末レポート：70％

【学生の意見等からの気づき】
・歴史的要素の説明が多くなりがちであるため、もう少し他の社会文化的要素の説明にも時間をさけるように心がけたい。

【その他の重要事項】
・受講に当たって、フランス語に関する予備知識は必要ない。

【Outline (in English)】
This course introduces the foundations of the French speaking world (la Francophonie) including the French republic. Students taking this course become able to understand in summary the situations of geography, history, (regional) languages and various cultures in each region or country.
The goals of this course are to understanding and explaining the socio-cultural situation of each French regions.
Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to read the relevant documents.
Your overall grade in the class will be decided based on the followings:
in class contributions (discussion, reaction paper, etc.): 30%, term-end report: 70%.

LANf200LA（フランス語 / French language education 200）

フランス語コミュニケーション(初級) Ⅰ

2017年度以降入学者

ニコラ　ガイヤール

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木**3/Thu.3
単位数：**1単位**
定員制（30）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初心者向けの会話の授業です。フランス人の日常生活に触れながら、フランス語のコミュニケーションの基礎を学ぶことができます。

【到達目標】
この授業の目的はフランス語でのベーシックコミュニケーション能力とフランスに対する好奇心や興味を高めることです。日常生活に必要な表現を取得することができます。その上、フランス語圏の文化や社会の面白いテーマを取り上げます。聞く、読む、話す、書くの４つの能力も鍛えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
音声で聞き取りをし、文法の練習問題を行います。その後、ペアーになり会話のロールプレーをします。また、フランス文化に関するテーマについてディスカッションをし、フランス語で文章をまとめます。基本的に授業時間内にフィードバックを行うが、LMSなどを活用する場合もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Se présenter	自己紹介
2	Présenter quelqu’un	第三者の紹介
3	Parler des choses que l’on possède ; parler des animaux domestiques	持っている物について話す。ペットについて話す。
4	「J’adore ça ! 」; les petits plaisirs de la vie	aimer動詞を使い、好き嫌いについて話す。
5	「Je pense que les Français sont ... 」 Les stéréotypes sur les Français	フランス人のステレオタイプ
6	「Vous avez des frères et sœurs ? 」	兄弟がいますか。家族について話す
7	Que faites-vous le week-end ? Verbes aller et faire.	週末の過ごし方(ビデオ)
8	À la boulangerie	パン屋で（ビデオ）
9	「Je me lève à 7 heures.」	日常生活を話す
10	Décrire quelqu’un : apparence physique et vêtements	人を描写する。外見、服装
11	Un café français	フランスのカフェ（ビデオ）
12	Présentation de la France	フランスの簡単な紹介（ビデオ）
13	「Où voudriez-vous partir en vacances ?」	「バカンスでどこに行きたいですか。」夏休みしたいことを言う。
14	révisions	復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前の授業の勉強したことを生かし会話を書いて提出します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は不要です。

【参考書】
仏和・和仏の辞書があると便利です。

【成績評価の方法と基準】
平常点100％(授業中の発言50%及び宿題の提出50％)。この授業は5回以上欠席する者は評価の対象外になりますので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】
フランス人の生活の話をもっとします。

【Outline (in English)】
This course introduces French conversation and culture to students taking this course at a beginner level. Students will improve their speaking, listening and writing skills. The goal of this course is to practice French conversation at beginner level and help students have a better knowledge of everyday life in France. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following:
- In-class contribution and participation: 50%
- Homework: 50%

LANf200LA（フランス語 / French language education 200）

フランス語コミュニケーション(初級) Ⅱ

2017年度以降入学者

ニコラ　ガイヤール

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木**3/Thu.3
単位数：**1単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初心者向けの会話の授業です。フランス人の日常生活に触れながら、フランス語のコミュニケーションの基礎を学ぶことができます。

【到達目標】
この授業の目的はフランス語でのベーシックコミュニケーション能力とフランスに対する好奇心や興味を高めることです。日常生活に必要な表現を取得することができます。その上、フランス語圏の文化や社会の面白いテーマを取り上げます。聞く、読む、話す、書くの４つの能力も鍛えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
音声で聞き取りをし、文法の練習問題を行います。その後、ペアーになり会話のロールプレーをします。また、フランス文化に関するテーマについてディスカッションをし、フランス語で文章をまとめます。基本的に授業時間内にフィードバックを行うが、LMSなどを活用する場合もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Qu’est-ce que vous avez fait pendant les vacances ?	ヴァカンスの時したことを言う。（ビデオ）
2	Chez le boucher	肉屋で（ビデオ）
3	Parler de son petit boulot	バイトについて話す（ビデオ）
4	Protester	クレームを言う（音声）
5	Parler de sa chambre	自分の部屋について話す。（ビデオ）
6	Acheter des vêtements	服を買う会話（ビデオ）
7	C’est comment chez vous ?	自分の住んでいる家について話す（ビデオ）
8	Parler de son quartier	自分の住んでいる町を話す。（ビデオ）
9	「J’ai déjà fait de la plongée.」	スキューバーダイビングをやったことある」経験・したことを話す
10	Présentation de Paris	パリの紹介のビデオ
11	Parler de sa ville	自分の住んでいる市町村について話す。（ビデオ）
12	Noël en France	フランス人のクリスマスの過ごし方
13	Parler de ses bonnes résolutions	新年の抱負を言う
14	Révision	復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前の授業の勉強したことを生かし会話を書いて、提出します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は不要です。

【参考書】
仏和・和仏の辞書があると便利です。

【成績評価の方法と基準】
平常点(授業中の発言50%や宿題の提出50％)。この授業は5回以上欠席する者は評価の対象外になりますので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】
フランス人の生活をもっと話します。

【Outline (in English)】
This course introduces French conversation and culture to students taking this course at a beginner level. Students will improve their speaking, listening and writing skills. The goal of this course is to practice French conversation at beginner level and help students have a better knowledge of everyday life in France. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following:
- In class contribution and participation: 50%
- Homework: 50%

LANf200LA（フランス語 / French language education 200）

時事フランス語Ⅰ

2017年度以降入学者

大中　一彌

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火3**/Tue.3
単位数：**1単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この科目「時事フランス語Ⅰ」の目的は、あなたのフランス語を、できる限り専門的な学びに近づけ、就職など実社会で役立てていくための、いわば基礎体力を作ることにあります。毎週、フランス語圏の公共放送のニュースサイト（TV5Monde や Radio France Internationale）で提供されている無料の教材に、皆で取り組みます。やさしい内容から始まりますので、1年生でも心配はいりません。この授業のテーマを紹介するショート動画をご覧ください　https://youtube.com/shorts/0NmZ4iyyvSQ?feature=shared

【到達目標】
リスニング力や語彙（ごい）力を増すことが「時事フランス語」科目の全体としての目標です。ただし、スタート地点が、人により異なりますので、ゴールとして目指すべき到達目標も人により異なります。次のA～Dのカテゴリー分けを参考に、あなた自身の到達目標を設定しましょう。
・カテゴリーA（大学で初めてフランス語を学び始めた1年生や、第3外国語としてフランス語を勉強し始めた学生、千代田コンソからの履修者を主に想定）：「時事フランス語Ⅰ」「時事フランス語Ⅱ」の2科目を履修し終えた時点で、ヨーロッパ言語共通参照枠のレベルA1．1、「実用フランス語技能検定試験」5級にあたるリスニング力や語彙（ごい）力を、もっている。教材でとりあげられた時事問題の内容に関し、第1言語（日本で主に学校教育を受けた人なら日本語）であれば、内容に関する前提知識をあまり持たない人として、簡単な質問や意見を述べることができる。
・カテゴリーB（大学入学後フランス語を学び始め、1年以上が経過した2年生を主に想定）：「時事フランス語Ⅰ」「時事フランス語Ⅱ」の2科目を履修し終えた時点で、ヨーロッパ言語共通参照枠のレベルA1、「実用フランス語技能検定試験」4級にあたるリスニング力や語彙（ごい）力を、もっている。教材でとりあげられた時事問題の内容に関し、第1言語（日本で主に学校教育を受けた人なら日本語）であれば、ある程度関心をもって質問や意見を述べることができる
・カテゴリーC（フランス語を2年以上、ある程度は続けて勉強してきた学生を主に想定）：「時事フランス語Ⅰ」「時事フランス語Ⅱ」の2科目を履修し終えた時点で、ヨーロッパ言語共通参照枠のレベルA2～B1、「実用フランス語技能検定試験」3級～準2級にあたるリスニング力や語彙（ごい）力を、もっている。教材でとりあげられた時事問題の内容に関し、フランス語で、キーワードを使った簡単な質問や意見を述べることができる。
・カテゴリーD（日本語が第1言語＝いわゆる「母語」＝ではない人。外国人留学生を主に想定）：「時事フランス語Ⅰ」「時事フランス語Ⅱ」の2科目を履修し終えた時点で、ヨーロッパ言語共通参照枠のレベルA1．1、「実用フランス語技能検定試験」5級にあたるリスニング力や語彙（ごい）力を、もっている。教材でとりあげられた時事問題の内容に関し、第1言語（日本語を除く）の情報源も使い、日本語または英語で、簡単な質問や意見を述べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】で示した2つのニュースサイトに掲載されている教材に、皆で取り組みます。外国人向けに「やさしいフランス語 français facile」で制作された番組にもとづく、実践的な教材が多いです。聞き取り（リスニング）やシャドーイング、内容面の理解（時事問題に関する知識）を確認しながら、授業は進みます。この授業では、わからない、知らないからという理由で怒られたり、馬鹿にされたりすることはありません。質問するのが恥ずかしいという受け身の学校文化から、フランス語で分からないこと、できないことを1つずつ減らしていこうという積極的な方向に意識を変えるのが、この授業の狙いです。この授業は基本的に対面ですが、体調不良等を理由とするリアルタイム・オンラインでの参加に積極的に対応します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Séance 1	世界を知るためのもう1つの視点	パリ18区に住む小学3年（CE2）生たちのなぞなぞから見える世界
Séance 2	現代フランスの生活風景	結婚のプロポーズ（同性婚）やスクワット（空き住居の不法占拠）など
Séance 3	フランス移住の第一歩は共和主義の理解から	国歌ラ・マルセイエーズが歌えるのは、フランスではポイント高いです。
Séance 4	グローバル化（mondialisation）に対するフランス的見方＝ものづくりの衰退	フランスの伝統的な産品を知っているアジアからの留学生がいたら、フランスの人は喜ぶでしょう。
Séance 5	グアドループ：中南米のカリブ海に浮かぶフランスの海外県	クレオール語に代表される文化の混淆で有名。1980年代には「ワールド・ミュージック」としてグアドループ発信のズークが流行
Séance 6	デモやストライキ	ストライキになると色々不便だと怒る人もいる一方、ストライキは労働者の重要な権利とみなされてもいます。
Séance 7	フランス語で炎暑は canicule といいます	毎夏、山火事や40度を超える高温が南ヨーロッパを中心に伝えられるようになりました。
Séance 8	カンヌ映画祭	この季節に毎年開かれる有名文化イベント。娯楽作よりも芸術性の高い作品が受賞する傾向があり、日本人の活躍が目立ちます。
Séance 9	ラップとユーチューバー	さまざまな国や地域の出身者が、フランス語ラップのYouTube動画を制作
Séance 10	男女平等の理想と現実	女性の就業率が比較的高いフランスだが、男女の賃金格差など課題も残る。女性の権利への関心は高い。
Séance 11	ツール・ド・フランス	この季節に毎年開かれる有名スポーツイベント。7月の3週間、フランスや隣接国の路上を自転車レースが駆け抜ける。
Séance 12	格差社会アメリカの批判	大企業の経営者たちとその従業員の給与格差が大きすぎるというのも、フランス語圏のメディアではありがちな話題
Séance 13	環境問題の語彙（ごい）・表現①	絶滅危惧種を守ることをめぐる外交。「フカヒレ」や「象牙」が登場します。

Séance 14	環境問題の語彙（ごい）・表現②	コンゴ民主共和国（RDC）はフランス語圏ニュースではよく登場する国です。内戦などの要因で安全を脅かされる国立公園職員たちの話題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・「時事フランス語Ⅰ」のような科目では、１回の授業につき、１時間以上、授業時間外に学習をおこなうことが、法政大学では標準になっています。
・「毎回授業内容表 Tableau de bord /Dashboard」等に教材へのリンクが置いてあります。
・（ア）音声ファイルの内容でシャドーイングできる範囲を、１単語→１文→複数の文、のように広げていくことや、（イ）番組内でひんぱんに使われる語彙（ごい）を分野ごとに整理して覚えるといったことに取り組むと、実践的な語学力が向上します。
・「毎回授業内容表」は次のリンクから閲覧してください　https://x.gd/IQfRj

【テキスト（教科書）】
1.　Radio France Internationale - RFI Savoirs　https://savoirs.rfi.fr/fr
2.　TV5Monde - Apprendre le français　https://apprendre.tv5monde.com/fr
※フランス語圏の公共放送が提供し、無料、かつ全世界のフランス語学習者が用いている教材です。

【参考書】
仏和辞典が必要です。持っていない人は、法政大学図書館オンラインデータベース上で『ポケプロ仏和』『ロベール仏和』が利用できます（自宅など学外からもアクセス可）。

【成績評価の方法と基準】
１．授業への毎週の参加（50%）※この科目「時事フランス語Ⅰ」は対面に分類される授業であるため、原則として教室での出席が求められますが、学期14回の授業のうち１人あたり合計７回まで、Zoomでのリアルタイム・オンライン授業の形式による参加を認めています（オンライン参加を希望する授業回ごとに、事前にメールで申し出ること）。
２．授業への貢献の量と質、到達目標の達成に向けた努力（50%）※フランス語の学習歴に応じて、カテゴリーＡ、Ｂ、Ｃ、Ｄの３つに学生を分けており、カテゴリーごとに努力していただきたい方向性を下↓に示しています。
３．実用フランス語技能検定試験（仏検）やDELFやTCFを受検したか、また合格したか（100%の枠外で5～20%程度の加点をします）
※期末試験、期末レポートはありません。
―-
・カテゴリＡの方にお願いしたい方向性：フランス語が初歩の段階なのは問題ありません。語学面で授業内容に喰らいつこうという努力の跡をお示しください。
・カテゴリＢの方にお願いしたい方向性：ニュースの内容理解の面を中心とした、質問や意見の表明など、授業への参加の姿勢をお示しください。
・カテゴリＣの方にお願いしたい方向性：聞きやすい発音や構文の理解、ある程度多くの語彙をもっていることを何らかの形でお示しください。
・カテゴリＤの方にお願いしたい方向性：ご自身の第１言語（日本語ではない）と、日本語、フランス語の３つの言語や、それらの言語から得られる時事問題に関する知識や情報をお示し下さい。
―-
※なんらかの障がいや疾患、メンタルな面を含むハンディキャップなど、諸事情により対面授業に参加することが困難な方は、法政大学障がい学生支援室に「就学上の配慮」をできるだけ早い時期に求めてください。「就学上の配慮」が認められた場合は、障がい学生支援室から担当教員に連絡が来ますので、代わりとなる課題に取り組んでいただきます。
※この科目が開講されている期間中に「学校保健安全法に定める感染症」に感染した方は、所属する学部に連絡し「感染症等に係る授業欠席等配慮願」を受け取ってください。そして、所属する学部が発行する「配慮願」を担当教員にご提出ください。学生側の都合による欠席とは異なる、感染拡大防止のための出席停止として扱います。

【学生の意見等からの気づき】
・フランスに留学して、リスニング力や語彙（ごい）の不足を痛感したという声をよく耳にします。その一方で、リスニング力や語彙力を伸ばす目的で、TV5Monde や Radio France Internationale (RFI)を留学先で自習したという経験談も聞きます。TV5Monde や RFI は、日本でも視聴できますが、フランス語圏に詳しくない人が独りで学ぼうとしても、ニュースの内容がよく理解できない場合があります。この「時事フランス語Ⅰ」を履修すれば、ニュースや表現の解説を、あなたのフランス語発音に対する指導とともに、日本の環境で学ぶことができます。
・努力を続けるにはモチベーションが必要です。モチベーションを高めるには、じっさいに手の届きそうな目標をもつとよいでしょう。下記のリンク先にある資料が、目標やモチベーションについて考えるための、参考となればさいわいです　https://x.gd/ZvduG

【学生が準備すべき機器他】
スマートフォンやタブレット、ノートパソコン等の情報端末が必要です。

【その他の重要事項】
「時事フランス語」って怖いのかな、自分に向いているのかどうか…と迷っている方は、次のリンク先にあるプレイスメント・テストをお試し受験してみてください。問題文は英語とフランス語で書かれています。« Commencer » と書かれたボタンをクリックすると問題が表示されます。https://savoirs.rfi.fr/fr/apprendre-enseigner/langue-francaise/test-de-placement-a1/1
もし半分ぐらい正答できるようなら、この授業を履修するのにちょうど良いレベルではないかと思います。

【Outline (in English)】
[Outline and objectives]
This course aims to promote students' understanding of French society, politics, and news media.　An emphasis is placed on oral communication and using specialized vocabulary. By participating in proposed activities, students will become familiar with French-speaking news websites.
[Goal]
The goals to be achieved differ according to the starting level of the student.
* Learning objective for false beginners and intermediate learners:　the student will be able to acquire, at the end of the two semesters of "Jiji-Furansugo", a linguistic ability equivalent to level A2 of the European Framework of Reference for Languages or to Futsuken jun 2 kyû.
** Pedagogical goal for those who already have a more or less good command of the French language (learners at the higher level as well as French-speaking international students): the student will be able to formulate relevant comments that demonstrate a solid understanding of local and global issues covered by the French-speaking media.
[Method(s)]
In each class session, the teacher will suggest materials available on the Internet. Learners will be asked to identify the essential elements. To do so, they are allowed to consult books and dictionaries written in their respective first language (the "mother tongue").　However, all participants are expected to express themselves in French, and to contribute to the discussion on what is said in the material.
The language of instruction in the classroom is primarily French, while administrative information will be provided in Japanese via LMS and e-mail.
[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]
1) Try to make use of the learning materials yourself.　The URLs for these materials are already listed in the Dashboard for Jiji-Furansugo.
2) According to the Standards for the Establishment of Universities, the minimum time of preparation and review required to earn two credits for a lecture or seminar is four hours per session.
[References]
1.　Nexis Unis (Hosei University Library - E Database : Overseas Newspapers)

2. PressReader (Hosei University Library - E Database : Overseas Newspapers)
3. Cairn.info (Hosei University Library - E Database : Overseas articles)
4. Encyclopædia Universalis (Hosei University Library - E Database : Dictionaries/Encyclopedias)
5. Shogakukan Robert Grand Dictionnaire Français-Japonais (Hosei University Library - E Database : Dictionaries/ Encyclopedias - « JapanKnowledge »)
Note: Off-campus access to these databases requires a connection through a Virtual Private Network ("VPN"). See the Hosei Network System Service website for information on how to connect to the university VPN. URL https:// netsys.hosei.ac.jp/
[Grading criteria]
Your final grade in this seminar will be decided on the following:
1. Quantity and quality of "summary comments" = 50%
2. In-class activity participation and various contributions to the class = 50%
[Equipment student needs to prepare]
A stable and unlimited internet connection as well as a personalized IT device such as a computer, tablet or smartphone are required. Two LMS platforms are used, of which (1) Google Classroom is mainly used to share documents and (2) learners can consult some notes on the Hoppii website. In case of remote courses, video conferencing systems such as Zoom or Google Meet will be used to ensure the educational continuity.
[Others]
1) If you are uncertain of your language level, try taking a "placement test" at the A1 level on the RFI web-site https://savoirs.rfi.fr/en/apprendre-enseigner/langue-fran%C3%A7aise/test-de-placement-a1/1 Enroll in this course if you can answer more than half of the questions correctly.
2) The above schedule is still subject to change.

LANf200LA（フランス語 / French language education 200）

時事フランス語Ⅱ

2017年度以降入学者

大中　一彌

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**火3/Tue.3**
単位数：**1単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この科目「時事フランス語Ⅱ」の目的は、あなたのフランス語を、できる限り専門的な学びに近づけ、就職など実社会で役立てていくための、いわば基礎体力を作ることにあります。毎週、フランス語圏の公共放送のニュースサイト（TV5Monde や Radio France Internationale）で提供されている無料の教材に、皆で取り組みます。やさしい内容から始まりますので、１年生でも心配はいりません。この授業のテーマを紹介するショート動画をご覧ください　https://youtube.com/shorts/RQtay4cmhW8?feature=shared

【到達目標】
リスニング力や語彙（ごい）力を増すことが「時事フランス語」科目の全体としての目標です。ただし、スタート地点が、人により異なりますので、ゴールとして目指すべき到達目標も人により異なります。次のＡ～Ｄのカテゴリー分けを参考に、あなた自身の到達目標を設定しましょう。
・カテゴリーＡ（大学で初めてフランス語を学び始めた１年生や、第３外国語としてフランス語を勉強し始めた学生、千代田コンソからの履修者を主に想定）：「時事フランス語Ⅰ」「時事フランス語Ⅱ」の２科目を履修し終えた時点で、ヨーロッパ言語共通参照枠のレベルＡ１．１、「実用フランス語技能検定試験」５級にあたるリスニング力や語彙（ごい）力を、もっている。教材でとりあげられた時事問題の内容に関し、第１言語（日本で主に学校教育を受けた人なら日本語）であれば、内容に関する前提知識をあまり持たない人として、簡単な質問や意見を述べることができる。
・カテゴリーＢ（大学入学後フランス語を学び始め、１年以上が経過した２年生を主に想定）：「時事フランス語Ⅰ」「時事フランス語Ⅱ」の２科目を履修し終えた時点で、ヨーロッパ言語共通参照枠のレベルＡ１、「実用フランス語技能検定試験」４級にあたるリスニング力や語彙（ごい）力を、もっている。教材でとりあげられた時事問題の内容に関し、第１言語（日本で主に学校教育を受けた人なら日本語）であれば、ある程度関心をもって質問や意見を述べることができる
・カテゴリーＣ（フランス語を２年以上、ある程度は続けて勉強してきた学生を主に想定）：「時事フランス語Ⅰ」「時事フランス語Ⅱ」の２科目を履修し終えた時点で、ヨーロッパ言語共通参照枠のレベルＡ２～Ｂ１、「実用フランス語技能検定試験」３級～準２級にあたるリスニング力や語彙（ごい）力を、もっている。教材でとりあげられた時事問題の内容に関し、フランス語で、キーワードを使った簡単な質問や意見を述べることができる。
・カテゴリーＤ（日本語が第１言語＝いわゆる「母語」＝ではない人。外国人留学生を主に想定）：「時事フランス語Ⅰ」「時事フランス語Ⅱ」の２科目を履修し終えた時点で、ヨーロッパ言語共通参照枠のレベルＡ１．１、「実用フランス語技能検定試験」５級にあたるリスニング力や語彙（ごい）力を、もっている。教材でとりあげられた時事問題の内容に関し、第１言語（日本語を除く）の情報源も使い、日本語または英語で、簡単な質問や意見を述べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】で示した２つのニュースサイトに掲載されている教材に、皆で取り組みます。外国人向けに「やさしいフランス語 français facile」で制作された番組にもとづく、実践的な教材が多いです。聞き取り（リスニング）やシャドーイング、内容面の理解（時事問題に関する知識）を確認しながら、授業は進みます。この授業では、わからない、知らないからという理由で怒られたり、馬鹿にされたりすることはありません。質問するのが恥ずかしいという受け身の学校文化から、フランス語で分からないこと、できないことを１つずつ減らしていこうという積極的な方向に意識を変えるのが、この授業の狙いです。この授業は基本的に対面ですが、体調不良等を理由とするリアルタイム・オンラインでの参加に積極的に対応します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Séance 1	多様性と出会うためのもう１つの入り口	フレキシタリアン・ダイエットとフランスの駄菓子（食文化から近づいてみる）
Séance 2	気が早いですがクリスマスの話題	宗教を信じる・信じない、家族のあり方、消費社会について考えます。
Séance 3	移民の気持ちを（教員の補助付きで）疑似体験してみる。	移民を念頭においたフランス語検定試験の例題に取り組む。
Séance 4	職業と平等	職業名の女性形を認めさせるというフェミニズムのかたち
Séance 5	デパートの歴史	19世紀のパリの文化的影響力は大きく、鉄筋とガラスで作られたデパートは最先端の建築やファッションの舞台だった
Séance 6	フランスの「サラメシ」	フランスの会社員たちは昼食に何をどんな風に食べているのか？
Séance 7	モナ・リザを一言でたとえるなら？	ポルトレ・シノワについて学びます。
Séance 8	ある日のニュースのヘッドライン	年金問題やローマ教皇が登場
Séance 9	少子化問題	2010年を越えたあたりから出生率が低下傾向のフランス。その原因は？
Séance 10	コートジボワールから見た世界	起業家の女性が訪れたいと夢見る国は？
Séance 11	ブルキナファソから見た世界	外からの支援ではなく、地元に根差した住宅の改善とは？
Séance 12	アフリカやアジアからヨーロッパを目指す多くの避難民を渡航させる業者たち	どんな国にでも行けるパスポートは、あなたを含めた世界の一握りの人しかもっていない。
Séance 13	ボーヴォワール	« On ne naît pas femme, on le devient. » という文を知っておきましょう。
Séance 14	エメ・セゼール	ネグリチュードとは？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・「時事フランス語Ⅱ」のような科目では、１回の授業につき、１時間以上、授業時間外に学習をおこなうことが、法政大学では標準になっています。
・「毎回授業内容表 Tableau de bord /Dashboard」等に教材へのリンクが置いてあります。
・（ア）音声ファイルの内容でシャドーイングできる範囲を、１単語→１文→複数の文、のように広げていくことや、（イ）番組内でひんぱんに使われる語彙（ごい）を分野ごとに整理して覚えるといったことに取り組むと、実践的な語学力が向上します。
・「毎回授業内容表」は次のリンクから閲覧してください　https://x.gd/VHfLE

【テキスト（教科書）】
1. Radio France Internationale - RFI Savoirs https://savoirs.rfi.fr/fr
2. TV5Monde - Apprendre le français https://apprendre.tv5monde.com/fr
※フランス語圏の公共放送が提供し、無料、かつ全世界のフランス語学習者が用いている教材です。

【参考書】
仏和辞典が必要です。持っていない人は、法政大学図書館オンラインデータベース上で『ポケプロ仏和』『ロベール仏和』が利用できます（自宅など学外からもアクセス可）。

【成績評価の方法と基準】
１．授業への毎週の参加（50%）※この科目「時事フランス語Ⅰ」は対面に分類される授業であるため、原則として教室での出席が求められますが、学期14回の授業のうち１人あたり合計７回まで、Zoomでのリアルタイム・オンライン授業の形式による参加を認めています（オンライン参加を希望する授業回ごとに、事前にメールで申し出ること）。
２．授業への貢献の量と質、到達目標の達成に向けた努力（50%）※フランス語の学習歴に応じて、カテゴリーＡ、Ｂ、Ｃ、Ｄの３つに学生を分けており、カテゴリーごとに努力していただきたい方向性を下↓に示しています。
３．実用フランス語技能検定試験（仏検）やDELFやTCFを受検したか、また合格したか（100%の枠外で5～20%程度の加点をします）
※期末試験、期末レポートはありません。
―-
・カテゴリＡの方にお願いしたい方向性：フランス語が初歩の段階なのは問題ありません。語学面で授業内容に喰らいつこうという努力の跡をお示しください。
・カテゴリＢの方にお願いしたい方向性：ニュースの内容理解の面を中心とした、質問や意見の表明など、授業への参加の姿勢をお示しください。
・カテゴリＣの方にお願いしたい方向性：聞きやすい発音や構文の理解、ある程度多くの語彙をもっていることを何らかの形でお示しください。
・カテゴリＤの方にお願いしたい方向性：ご自身の第１言語（日本語ではない）と、日本語、フランス語の３つの言語や、それらの言語から得られる時事問題に関する知識や情報をお示し下さい。
―-
※なんらかの障がいや疾患、メンタルな面を含むハンディキャップなど、諸事情により対面授業に参加することが困難な方は、法政大学障がい学生支援室に「就学上の配慮」をできるだけ早い時期に求めてください。「就学上の配慮」が認められた場合は、障がい学生支援室から担当教員に連絡が来ますので、代わりとなる課題に取り組んでいただきます。
※この科目が開講されている期間中に「学校保健安全法に定める感染症」に感染した方は、所属する学部に連絡し「感染症等に係る授業欠席等配慮願」を受け取ってください。そして、所属する学部が発行する「配慮願」を担当教員にご提出ください。学生側の都合による欠席とは異なる、感染拡大防止のための出席停止として扱います。

【学生の意見等からの気づき】
・フランスに留学して、リスニング力や語彙（ごい）の不足を痛感したという声をよく耳にします。その一方で、リスニング力や語彙力を伸ばす目的で、TV5Monde や Radio France Internationale (RFI)を留学先で自習したという経験談も聞きます。TV5Monde や RFI は、日本でも視聴できますが、フランス語圏に詳しくない人が独りで学ぼうとしても、ニュースの内容がよく理解できない場合があります。この「時事フランス語Ⅱ」を履修すれば、ニュースや表現の解説を、あなたのフランス語発音に対する指導とともに、日本の環境で学ぶことができます。
・努力を続けるにはモチベーションが必要です。モチベーションを高めるには、じっさいに手の届きそうな目標をもつとよいでしょう。下記のリンク先にある資料が、目標やモチベーションについて考えるための、参考となればさいわいです　https://x.gd/0NtiE

【学生が準備すべき機器他】
音声ファイルやストリーミング動画をWifiのある環境で視聴したり、学習支援システム-HoppiiやGoogle Classroomを閲覧するために、タブレットやノートパソコン等の情報端末が必要です。

【その他の重要事項】
「時事フランス語」って怖いのかな、自分に向いているのかどうか…と迷っている方は、次のリンク先にあるプレイスメント・テストをお試し受験してみてください。問題文は英語とフランス語で書かれています。« Commencer » と書かれたボタンをクリックすると問題が表示されます。https://savoirs.rfi.fr/fr/apprendre-enseigner/langue-francaise/test-de-placement-a1/1
もし半分ぐらい正答できるようなら、この授業を履修するのにちょうど良いレベルではないかと思います。

【Outline (in English)】
[Outline and objectives]
This course aims to promote students' understanding of French society, politics, and news media. An emphasis is placed on oral communication and using specialized vocabulary. By participating in proposed activities, students will become familiar with French-speaking news websites.
[Goal]
The goals to be achieved differ according to the starting level of the student.
* Learning objective for false beginners and intermediate learners: the student will be able to acquire, at the end of the two semesters of "Jiji-Furansugo", a linguistic ability equivalent to level A2 of the European Framework of Reference for Languages or to Futsuken jun 2 kyû.
** Pedagogical goal for those who already have a more or less good command of the French language (learners at the higher level as well as French-speaking international students): the student will be able to formulate relevant comments that demonstrate a solid understanding of local and global issues covered by the French-speaking media.
[Method(s)]
In each class session, the teacher will suggest materials available on the Internet. Learners will be asked to identify the essential elements. To do so, they are allowed to consult books and dictionaries written in their respective first language (the "mother tongue"). However, all participants are expected to express themselves in French, and to contribute to the discussion on what is said in the material.
The language of instruction in the classroom is primarily French, while administrative information will be provided in Japanese via LMS and e-mail.
[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]
1) Try to make use of the learning materials yourself. The URLs for these materials are already listed in the Dashboard for Jiji-Furansugo.
2) According to the Standards for the Establishment of Universities, the minimum time of preparation and review required to earn two credits for a lecture or seminar is four hours per session.
[References]
1. Nexis Unis (Hosei University Library - E Database : Overseas Newspapers)
2. PressReader (Hosei University Library - E Database : Overseas Newspapers)
3. Cairn.info (Hosei University Library - E Database : Overseas articles)
4. Encyclopædia Universalis (Hosei University Library - E Database : Dictionaries/Encyclopedias)
5. Shogakukan Robert Grand Dictionnaire Français-Japonais (Hosei University Library - E Database : Dictionaries/Encyclopedias - « JapanKnowledge »)
Note: Off-campus access to these databases requires a connection through a Virtual Private Network ("VPN"). See the Hosei Network System Service website for information on how to connect to the university VPN. URL https://netsys.hosei.ac.jp/
[Grading criteria]
Your final grade in this seminar will be decided on the following:
1. Quantity and quality of "summary comments" = 50%

2. In-class activity participation and various contributions to the class = 50%
[Equipment student needs to prepare]
A stable and unlimited internet connection as well as a personalized IT device such as a computer, tablet or smartphone are required. Two LMS platforms are used, of which (1) Google Classroom is mainly used to share documents and (2) learners can consult some notes on the Hoppii website. In case of remote courses, video conferencing systems such as Zoom or Google Meet will be used to ensure the educational continuity.
[Others]
1) If you are uncertain of your language level, try taking a "placement test" at the A1 level on the RFI website https://savoirs.rfi.fr/en/apprendre-enseigner/langue-fran%C3%A7aise/test-de-placement-a1/1 Enroll in this course if you can answer more than half of the questions correctly.
2) The above schedule is still subject to change.

ARSa200LA（地域研究（ヨーロッパ）/ Area studies(Europe) 200）

フランスの文化と社会ＬＡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：**フランスの映画**

鈴木　正道

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月**3/Mon.3
単位数：**2単位**
定員制（30）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、映画を通して、フランスの社会の様々な面について考えます。フランスは世界有数の映画大国です。特に国家は映画製作に多額の補助を出しています。こうした映画を通して、フランスの人々の生活の様々な面、問題、喜びや悲しみ、苦しみが見えてきます。この授業では、フランス映画の特徴や歴史とともに、これらフランス社会の様々な面について考えます。
フランスに関心のある学生を対象としています。フランス語を履修している必要はありません。

【到達目標】
フランスの映画に関する知識を増やし、アメリカや日本の映画、他のヨーロッパ映画やほかの地域の映画との違いに関して考えることを目標とします。さらに映画作品から見て取れる、フランスで暮らす人々（フランス国籍を持つとは限りません）の生活、諸問題に関して考えることを目指します。そこから、日本さらには他の国との違いや共通点について考え、なぜそのような違いがあるのか、なぜ同じようなことになるのかを考えます。
「文化論」のようなものは「実用性がない」ように言われがちですが、「衣食足りて」、「モノ」から「コト」へと消費が移ってきた現在において、「文化大国」であるフランスに関する知識を身に着けることで、今後の職業生活で必要な「ネタ」を蓄え、さらには自ら探り当てる習慣を身に着けます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
誰でもが知っている大ヒット作、今では古典となったフランス映画の代表的作品、映画の歴史を創った作品、知る人ぞ知る映画などを扱います。テーマとなっている作品を鑑賞し、監督や製作者がそこに込めた意図、もしくは意識していないが見て取れる問題について考えます。また自分が製作者になった立場で場面の演出を考えてみましょう。
皆さんは学習支援システムを通して課題を数回出すことになります。私はやはり学習支援システムを通してお返しします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	『アメリ』1 2001年の大ヒット作 パリという空間： モンマルトルからあちこちへ	空想に駆られる主人公： 他人の幸せのために
2	『アメリ』2 なぜヒットしたか	空想から現実へ モンマルトルは理想郷？
3	『アメリ』3 オードリー・トトゥとマティユー・カソヴィッツ	刑事とシャネル／監督と俳優
4	『太陽がいっぱい』1 名優アラン・ドロン主演のフランス・イタリア合作映画	このタイトルはどういう意味か。誤訳かわざとか。外国映画の邦題について。
5	『太陽がいっぱい』2 格差と犯罪	金持ちの傲慢青年と貧しき悪の天才青年。
6	『太陽がいっぱい』3 犯罪は「太陽のせい」？ 映画音楽	地中海の熱い太陽と哀愁の音楽。映画を知らずとも音楽は聴いたことがある。
7	映画の始まり	世界初の映画上映：リュミエール兄弟。 初期の映画：『月世界探検旅行』『ファントマス』
8	ヌーヴェル・ヴァーグ 『勝手にしやがれ』1 ゴダールの代表作： 原題は「息切れ」	映画の「新しい波」 「外国映画の邦題について」その２
9	『勝手にしやがれ』2 おかしなカップル： ジャン＝ポール・ベルモンドとジーン・セバーグ	これは犯罪映画か？
10	『勝手にしやがれ』3 モンパルナス	右岸のモンマルトルと左岸のモンパルナス シャンソンとジャズ
11	ヌーヴェル・ヴァーグその２： トリュフォー	アントワーヌ・ドゥワネルのシリーズ：成長する主人公を成長する同じ俳優が演じる
12	『女優マルキーズ』1 旅役者	ソフィー・マルソー演じる17世紀の実在の女優はアクロバットもこなす旅役者
13	『女優マルキーズ』2 ルイ14世の時代	太陽王の古典主義時代： モリエールとジャン・ラシーヌ；宮廷の豪華絢爛と場末の猥雑さ
14	『女優マルキーズ』3 舞台に死す	謎多き女優の生涯 ソフィー・マルソーとベルナール・ジロドー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
取り上げる映画作品は授業内ではさわりの部分しか紹介できないので、興味のある人はAVライブラリなどで借りて全体を観ておくといいかと思います。
1：モンマルトルについて調べる。
2：アメリの行く様々な地域について調べる。
3：出演者の他の作品について調べる。
4：フランス人にとっての地中海はどのようなものかを考える。
5：「完全犯罪」は可能かを考える。
6：フランス人および他の国の人々にとってアラン・ドロンとはどのような俳優かを考える。
7：創世期の映画について調べる。
8：外国映画の邦題について考える。
9：『勝手にしやがれ』のどこが新しいのか考える。
10：モンパルナスとモンマルトルの共通点と違いについて調べる。
11：トリュフォーやその他のヌーヴェル・ヴァーグの監督について調べる。
12：17世紀の俳優について調べる。
13：17世紀の古典主義作家について調べる。
14：出演者たちの他の作品について調べる。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指定した教科書はありません。学習支援システムに資料を載せます。

【参考書】
『フランス映画史の誘惑』中条省平、集英社新書0179
『大学生のためのレポート・論文術』小笠原喜康、講談社現代新書1603.
『論文レポートの文章作法』古郡廷治、有斐閣新書C164
『悪文の構造』千早耿一郎　ちくま学芸文庫　C0180
『著作権とは何か』、福井建策、集英社新書0924A

その他随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
テーマごとの作品の鑑賞と分析が一区切りついた時点で、400字ほどの書き物を学習支援システムの「課題」を通して出していただき、その評価の合計で成績を出します（100％）。

【学生の意見等からの気づき】
広い教室でまばらに座るために、「議論」が成り立ちにくいので、学習支援システムをもう少し有効に使う工夫をしようと考えています。

【Outline (in English)】
This course deals with various aspects of lives in France with the aid of movies. France is one of the most movie-loving countries. The French government gives a large sum of subsidies to moviemakers. Through films we see different aspects of lives in France, problems, people's joys, sorrows, and pains. In this course, the students not only learn characteristics and history of French movies but reflect on these subjects, which we can find in films.
The goals of this course are to get knowledge about French films and to analyze differences between them and films of other countries, as well as to reflect on various problems in the French society.
The students are expected to see the whole of each film, which we can see only partially during the class, and to make some research on subjects concerning social or historical backgrounds of the film. After each film, the students must submit an assignment. This work will require two hours for each class.
The final grade will be calculated according to the total score of assignments (100%).
All students who are interested in France are welcome; the knowledge of the French language is not indispensable.

ARSa200LA（地域研究（ヨーロッパ）/ Area studies(Europe) 200）

フランスの文化と社会ＬＢ

2017年度以降入学者

サブタイトル：**フランスの映画**

鈴木　正道

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月**3/Mon.3
単位数：**2単位**
定員制（30）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期に続いて、この授業では、映画を通して、フランスの社会の様々な面について考えます。フランスは世界有数の映画大国です。特に国家は映画製作に多額の補助を出しています。こうした映画を通して、フランスの人々の生活の様々な面、問題、喜びや悲しみ、苦しみが見えてきます。この授業では、フランス映画の特徴や歴史とともに、これら社会の様々な面について考えます。
フランスに関心のある学生を対象としています。フランス語を履修している必要はありません。

【到達目標】
フランスの映画に関する知識を増やし、アメリカや日本の映画、他のヨーロッパ映画やほかの地域の映画との違いに関して考えることを目標とします。さらに映画作品から見て取れる、フランスで暮らす人々（フランス国籍を持つとは限りません）の生活、諸問題に関して考えることを目指します。そこから、日本さらには他の国との違いや共通点について考え、なぜそのような違いがあるのか、なぜ同じようなことになるのかを考えます。
「文化論」のようなものは「実用性がない」ように言われがちですが、「衣食足りて」「モノ」から「コト」へと消費が移ってきた現在において、「文化大国」であるフランスに関する知識を身に着けることで、今後の職業生活で必要な「ネタ」を蓄え、さらには自ら探り当てる習慣を身に着けます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
21世紀に入って大ヒットしたいかにもフランスらしい？ 映画、アメリカのミュージカルのアンチテーゼのようなミュージカル映画、そして戦時中に創られた不朽の名作、さらに演劇の人気ナンバーワンのヒーローの映画化作品などを扱います。テーマとなっている作品を鑑賞し、監督や製作者がそこに込めた意図、もしくは意識していないが見て取れる問題について考えます。また自分が製作者になった立場で場面の演出を考えてみましょう。
皆さんは学習支援システムを通して課題を数回出すことになります。私はやはり学習支援システムを通してお返しします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の説明、『最強のふたり』１：2011年のヒット作	「ふたり」とはどんな人たちか？
2	『最強のふたり』２：格差社会と移民	パリの郊外とは？富裕層の多い区域は？
3	『最強のふたり』３：北の海岸での出会い	「介護者」と「パートナー」：助ける人とお膳立てする人
4	『シェルブールの雨傘』1 フランスのミュージカル；原題そのままの邦題は何を意味しているのか	誰もが聞いたことのあるミシェル・ルグランの音楽；1960年代のフランスの地方都市：やはり北の港町
5	『シェルブールの雨傘』2 フランスにとっての1960年代はじめ	アルジェリア戦争：様々な分断
6	『シェルブールの雨傘』3 *Westside Story*の向こうを張った？	「曖昧な」結末：雪のクリスマスでの再会と別れ
7	『天井桟敷の人々』1 1945年の大作 19世紀のパリの下町という空間	伝説的名優勢ぞろい「犯罪大通り」
8	『天井桟敷の人々』2 庶民にとっての劇場	「言葉」の俳優とパントマイム役者
9	『天井桟敷の人々』3 カーニバルという空間	またしても「曖昧な」結末：追いかけても追いつけない悪夢
10	『おかしなおかしな訪問者』1 中世からのタイムスリップ。ジャン・レノとクリスチャン・クラヴィエ共演	フランスのお笑い映画：フランス北部の中世と現代。名優たちの一人二役が見所
11	『おかしなおかしな訪問者』2 めでたしめでたしの結末？	お笑い映画の定番的な演出と筋書。続編を予想させる、終わったようで終わらない結末？
12	『シラノ・ド・ベルジュラック』１：17世紀の実在の人物をモデルにした19世紀末の芝居	フランスのヒーロー人気ナンバーワン：剣にすぐれて弁もたつが、コンプレックスが恋を妨げる
13	『シラノ・ド・ベルジュラック』2：17世紀の宮廷と社会状況	過剰な繊細華麗（préciosité）と過酷な戦争（30年戦争とアラスの包囲）
14	『シラノ・ド・ベルジュラック』3：普遍的な価値	「型破り」と自己犠牲、「身を引く」美学

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
取り上げる映画作品は授業内ではさわりの部分しか紹介できないので、興味のある人はAVライブラリなどで借りて全体を観ておくといいかと思います。
1：フランス映画に関する一般的なイメージについてまとめる。
2：フランスの社会階層について調べる。
3：なぜ『最強のふたり』がヒットしたのか考える。
4：「ミュージカル」とは何であるかまとめる。
5：アルジェリア戦争について調べる。
6：『シェルブールの雨傘』の結末を他の作品の結末と比べて、その意味合いについて考える。
7：『天井桟敷の人々』が公開された1945年ごろのフランスの状況について調べる。
8-9：19世紀前半のパリについて調べる。
10：『おかしな訪問者』で紹介されるフランスの中世と現代の生活について調べる。
11：主人公を演じた俳優たちの経歴について調べる。
12：『シラノ・ド・ベルジュラック』の主人公のモデルとなった17世紀の人物について調べる。
13：17世紀当時のフランスの宮廷や社会の状況について調べる。
14：なぜシラノという人物が時代と国を超えて人々を惹き付けるのかを考える。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指定した教科書はありません。学習支援システムに資料を載せます。

【参考書】
『フランス映画史の誘惑』中条省平、集英社新書 0179
『大学生のためのレポート・論文術』小笠原喜康、講談社現代新書 1603.
『論文レポートの文章作法』古郡廷治、有斐閣新書C164
『悪文の構造』千早耿一郎　ちくま学芸文庫　C0180
『著作権とは何か』、福井建策、集英社新書0924A
その他随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
テーマごとの作品の鑑賞と分析が一区切りついた時点で、400字ほどの書き物を学習支援システムの「課題」を通して出していただき、その評価の合計で成績を出します（100％）。

【学生の意見等からの気づき】
広い教室でまばらに座るために、「議論」が成り立ちにくいので、学習支援システムをもう少し有効に使う工夫をしようと考えています。

【Outline (in English)】
This course deals with various aspects of lives in France with the aid of movies. France is one of the most movie-loving countries. The French government gives a large sum of subsidies to moviemakers. Through films we see different aspects of lives in France, problems, people's joys, sorrows, and pains. In this course, the students not only learn characteristics and history of French movies but reflect on these subjects, which we can find in films.
The goals of this course are to get knowledge about French films and to analyze differences between them and films of other countries, as well as to reflect on various problems in the French society.
The students are expected to see the whole of each film, which we can see only partially during the class, and to make some research on subjects concerning social or historical backgrounds of the film. After each film, the students must submit an assignment. This work will require two hours for each class.
The final grade will be calculated according to the total score of assignments (100%).
All students who are interested in France are welcome; the knowledge of the French language is not indispensable.

ARSa200LA（地域研究（ヨーロッパ）/ Area studies(Europe) 200）

フランス生活文化論ＬＡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：**「美食の国　フランス」のルーツをたどる(近代フランスの食文化とその社会的要因)**

梶谷　彩子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火4**/Tue.4
単位数：**2単位**
定員制（40）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、19世紀～20世紀フランスの食文化を中心に、そのあり方を学びます。「フランスの食文化」という表現から、どのようなことをイメージするでしょうか。「華やか・おしゃれ」、あるいは「特別な日の料理」など様々な印象があると思いますが、実は、現代の私たちがフランス料理に対して持つイメージのルーツの多くは、近代のフランスにあります。空腹を満たす以上の価値を自国の食に見出していったフランス。なぜそうなったのか？ その背景を知って、フランス文化への理解を深めていきましょう。

【到達目標】
フランスの食文化について、歴史の流れとともに理解できるようになること。また、意見の記述や発表を通して資料を自分なりに考察し、知見をまとめることができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
講義形式。イメージを描きやすいようできるだけ図像を用意して進めていきます。映像資料も見る予定です。
原著の資料を見ることもありますが、解説をしますのでフランス語の知識はなくても大丈夫です。
毎回授業の最後にコメントカードを提出していただき、そこで出た質問には次回の授業でできる限りフィードバックします。質問をきっかけに時に食文化の話を超えて、フランスの他の文化や歴史に触れることもあります。
また、受講する皆さんのフランスの食や文化に関する興味関心を共有していただく発表の機会も設けます。授業とは異なる視点に触れることも目的としていますので、大枠のテーマを逸脱していなければ広く様々なテーマを歓迎します。
最終課題は、期末レポートの作成です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、参考資料の紹介。日本においてフランスの食文化はどのように紹介されているかについても解説。
第2回	テーブルに「映える」料理	テーブルに「映える」料理はなぜ必要だったか？ ／宮廷料理について
第3回	「華やかな食卓」の特徴の変遷	「映える」料理から「味で魅せる」料理へ／18世紀までの価値観と、19世紀からの価値観
第4回	美食を支える背景	パリの美食を支えた市場／給仕の変化
第5回	「美食」は誰のものか：レストラン	「おいしい」が皆のものになる時代：レストラン興隆史
第6回	「美食」は誰のものか：「おいしい」の基準の誕生	「おいしい」を評価するということ：ガストロノミー(前編)
第7回	「美食」は誰のものか：情報が生み出す「美食」	「おいしい」の評価の変遷：ガストロノミー(後編)
第8回	資料で見るフランスの美食	フランスの美食についての映像資料を視聴します。コメントカードを通して、感想や考察をまとめてください。
第9回	高級料理の変遷	ヌーヴェル・キュイジーヌの誕生と、その後
第10回	文化としての「郷土料理」	フランスにおける郷土料理の位置／郷土料理＝文化的遺産という視点の原点
第11回	報告会①	フランスの食や文化にまつわる興味関心を発表しあいましょう。授業とは異なる視点に触れることが目的です。
第12回	報告会②	報告会は、履修者の人数により２回から３回に渡る可能性があります。
第13回	報告会③(予備日) 郷土料理でめぐるフランス 映像資料視聴	フランスの代表的な地方の位置の確認・その土地に根差した郷土料理を網羅的に見ていきます。ほか、一部となりますが第8回とは異なる映像資料を視聴します。
第14回	まとめ・レポート作成の手引き	現代から見た、近代フランスの食文化の重要性／レポートの書き方案内 (映像資料視聴予備日)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。下記参考書のうち、①を読み切ること。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用せず、資料配布を行ないます。資料はすべて学習支援システムを通じての配信となります。授業中に使いますので、各自手元に用意の上出席してください。

【参考書】
①池上俊一『お菓子でたどるフランス史』、岩波書店、岩波ジュニア新書、2013年。
②ジャン・ピエール＝プーラン、エドモン・ネランク『フランス料理の歴史』、山内秀文訳・解説、角川ソフィア文庫、2017年。
③北山晴一『世界の食文化⑯　フランス』、農村漁村文化協会、2008年。

【成績評価の方法と基準】
平常点(コメントカードの提出・発表を含む受講態度全般)60%、期末レポート40%の総合評価。
特に、平常点評価に含まれる授業期間内の「報告会での発表」、授業期間終了後の「期末レポートの提出」は必須です。

【学生の意見等からの気づき】
テーマを十分にお伝えするため、授業中は講義形式を採用しています。しかしその分、可能な限り皆さんからのご質問にお答えすることを心掛けてきました。フィードバックコーナーが長くなってしまうこともあるのですが、テーマを深める機会であると考えているので、今年度も継続していきたいと思います(質問多数の場合、調整することはあります)。コメントカードは、ぜひ存分に活用してください。

【学生が準備すべき機器他】
資料は配信による事前配布が主となりますので、授業開始までに各自対応してください。印刷した資料か、資料をダウンロードしたPC、タブレット端末等を持参すること。原則として教室内での紙媒体配布はいたしません。

【その他の重要事項】
履修申請者が41人を超えてしまった場合、定員が40人の授業であるため、履修者を抽選とします。

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to study the gastronomic culture of modern France. The goals of this course are to understand this culture and have own view through studying and discussion.
Students will be expected to read the references as below. Your study time will be more than 2 hours for a class.
Final grade will be calculated according to the following process:
in-class contribution (60%) and term-end report (40%).

ARSa200LA（地域研究（ヨーロッパ）/ Area studies(Europe) 200）

フランス生活文化論ＬＢ

2017年度以降入学者

サブタイトル：**フランスの食文化史(古代から現代まで)**

梶谷　彩子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火4**/Tue.4
単位数：**2単位**
定員制（40）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、フランスの食文化史を学びます。「美食の国」として名高いフランスはどのようにその食生活を営んできたのでしょうか。古代からの料理術の変遷を中心に、歴史の動きと連動させながら学びます。後半には、日本がフランスの食に与えた影響についても触れてゆきます。

【到達目標】
フランスの食文化について理解を深めること。また、意見の記述やディスカッションを通して資料を自分なりに考察し、知見をまとめることができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
講義形式。イメージを描きやすいようできるだけ図像を用意して進めていきます。
原著の資料を見ることもありますが、解説をしますのでフランス語の知識はなくても大丈夫です。
毎回授業の最後にコメントカードを提出していただき、そこで出た質問には次回の授業でできる限りフィードバックします。小さなことだと思っても、気づきはぜひ言葉にして表現してみましょう。
最終回の前には、簡単な発表の機会も設けます。授業とは異なる視点に触れることも目的としていますので、大枠のテーマを逸脱していなければ広く様々なテーマを歓迎します。
最終課題は、期末レポートの作成です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、参考資料の紹介／現在のフランス食文化の最前線についての解説
第2回	古代から中世まで	何をどのように食べてきたのか／香辛料について
第3回	中世とルネサンス	マナーの確立／イタリアとの関わり
第4回	17世紀	グランド・キュイジーヌの誕生／「過剰」からの脱却と洗練
第5回	18世紀	宮廷料理の最盛期／「豪勢な料理」とは？
第6回	フランス革命～19世紀初頭	「レストラン」とは何か／「ガストロノミー」の誕生／「スターシェフ」の出現
第7回	19世紀後半～19世紀末	19世紀後半～世紀末のレストラン／現代フランス料理の基礎の時代
第8回	20世紀初頭	第一次世界大戦とフランスの食文化／新しい「ガストロノミー」
第9回	20世紀半ば	全国の美食を求めて―ガストロノミーとツーリズム／「美食ガイドブック」の誕生
第10回	20世紀半ば～20世紀末	ヌーヴェル・キュイジーヌ―健康と美食
第11回	日本食文化のフランス食文化への影響	美しさを求めるということ／日本的味覚の広がり
第12回	フランス食文化の日本食文化への影響	「洋食」誕生物語
第13回	発表会①	レポートの構想、授業を通しての自分なりのまとめなど、いくつかのトピックの中から1つ選び、発表しましょう。
第14回	発表会② まとめ・レポート作成の手引き	発表会の予備日です。 主に「美食の国　フランス」のイメージはいかにして形成されたか、授業全体のまとめを行ないます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。参考書のうち②を授業期間中に読み切ること。授業中にも、おすすめの図書を紹介します。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しませんが、適宜、資料を主に学習支援システムを通じて配信します。授業開始までに、各自手元に用意してきてください。

【参考書】
①池上俊一『お菓子でたどるフランス史』、岩波書店、岩波ジュニア新書、2013年。
②ジャン・ピエール＝プーラン、エドモン・ネランク『フランス料理の歴史』、山内秀文訳・解説、角川ソフィア文庫、2017年。
③北山晴一『世界の食文化⑯　フランス』、農村漁村文化協会、2008年。

【成績評価の方法と基準】
平常点(コメントカード提出・発表参加を含む受講態度全般)60%、期末レポート40%の総合評価
特に、平常点評価に含まれる授業期間内の「報告会での発表」、授業期間終了後の「期末レポートの提出」は必須です。

【学生の意見等からの気づき】
テーマを十分にお伝えするため、授業中は講義形式を採用しています。しかしその分、可能な限り皆さんからのご質問にお答えすることを心掛けてきました。フィードバックコーナーが長くなってしまうこともあるのですが、テーマを深める機会であると考えているので、今年度も継続していきたいと思います(質問多数の場合、調整することはあります)。コメントカードは、ぜひ存分に活用してください。

【学生が準備すべき機器他】
資料は配信による事前配布が主となりますので、授業開始までに各自対応してください。印刷した資料か、資料をダウンロードしたPC、タブレット等を持参すること。原則として教室での紙媒体配布はいたしません。

【その他の重要事項】
履修申請者が41名を超えてしまった場合、定員が40人の授業であるため、履修者を抽選とします。

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to learn the historical background of the gastronomic culture of France. The goals of this course are to understand this culture and have own view through studying and discussion.
Students will be expected to read the references as below. Your study time will be more than 2 hours for a class.
Final grade will be calculated according to the following process:
in-class contribution (60%) and term-end report (40%).

LANc200LA（中国語 / Chinese language education 200）

中国語コミュニケーション初級Ⅰ　2017年度以降入学者

周　重雷

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火2**/Tue.2
単位数：**1単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国語の発音及び基礎的な文法事項を固めつつ、中国語のコミュニケーションに必要な知識を養成する。

【到達目標】
構文をしっかり覚える。
発音を正確にする。
日常会話ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
教材を使って文法の勉強をする。また履修者のレベルを確認した上、様々な会話パターンを作って練習していく。
課題などのフィードバックは授業時間に、もしくはメールにて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	シラバスの配布と説明
第2回	発音	ピンインの復習
第3回	あいさつ	あいさつなどの日常用語の練習をする
第4回	人称代名詞と指示代名詞 会話（1）	文法を確認したのち、自己紹介の練習をする
第5回	述語 授業内発表（1）	文法を確認したのち、自己紹介を発表する
第6回	受け答え	「是」その他
第7回	場所と方位	在と有
第8回	数量詞と連体修飾語	数量詞と連体修飾語を学ぶ
第9回	疑問文 会話（2）	ものの尋ね方 レストランでの会話を作成する
第10回	連用修飾語 授業内発表（2）	副詞と時間詞を学ぶ 講師と一対一またはグループでレストランでの会話をする
第11回	完了と変化 会話（3）	「了」の様々を知る 買い物する時の会話パターンを作成する
第12回	助動詞と前置詞構造 授業内発表（3）	文法を確認したのち、講師と一対一またはグループで買い物のシミュレーションをする
第13回	三量補語	三量補語と離合詞
第14回	まとめ及び期末テスト	文法をまとめ、会話の口頭テストを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
宿題や発表の準備など、毎回1時間ほどの予習・復習をする。
また、HSKや中国語検定の受験も推奨される。

【テキスト（教科書）】
教員による教材配布

【参考書】
日中・中日辞書（電子機器も可）

【成績評価の方法と基準】
期末テスト：60％
発表：40％
term-end test:60%
presentation:40%

【学生の意見等からの気づき】
受講者それぞれのレベルの差に配慮をする。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline (in English)】
This is the Chinese conversation course for intermediate learners. The aim of this course is to master intermediate level conversation skill. We will study basic vocabulary and grammar, and improve Chinese speaking skill.
We should talk the Chinese language by accurate pronunciation,
and talk the Chinese daily conversation well.
We should prepare and review about one hour a week.
It is better to take the test of HSK.
Term-end test:60%
Presentation:40%

LANc200LA（中国語 / Chinese language education 200）

中国語コミュニケーション初級Ⅱ　2017年度以降入学者

周　重雷

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火2**/Tue.2
単位数：**1単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国語の基礎的な文法事項の基礎を固めつつ、中国語のコミュニケーションに必要な知識を養成する。

【到達目標】
「読む、書く、聞く、話す」を全体的にスキルアップを図る。
日常の中国語のコミュニケーションが取れるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
履修者のレベルに合わせ、文法を復習しつつ、会話の練習を強化していく。
課題などのフィードバックは授業時間に、もしくはメールにて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	持続態と進行形 作文	持続態と進行形を確認したのち、「私の夏休み」を作成する
第2回	程度補語 作文の添削	程度補語を確認したのち、作文の添削をする
第3回	比較と連動	比較文と連動文
第4回	構文分析	構文分析と助動詞の補説
第5回	強調と重複 会話（1）	強調文と重複表現 待ち合わせの会話を作る
第6回	方向補語 授業内発表（1）	方向補語の用法 待ち合わせの会話の発表
第7回	複合方向補語の用法	複合方向補語の派生的用法
第8回	結果補語	結果補語の説明
第9回	可能補語 会話（2）	可能補語の説明 道を尋ねる・教える会話の作成
第10回	使役と受身 授業内発表（2）	使役と受身の確認と比較 道を尋ねる・教える会話の発表
第11回	処置と倒置	処置文と倒置文
第12回	複文一	複文の様々を知る
第13回	複文二	複文の後半
第14回	まとめ	口頭による試験を行う　まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週1時間を目途に予習・復習する。
単語を調べて、オリジナルの長文及び会話文を作る。
また、HSKや中国語検定の受験も推奨される。

【テキスト（教科書）】
教員による教材配布

【参考書】
日中・中日辞書（電子機器も可）

【成績評価の方法と基準】
期末テスト：60％
発表：40％
term-end test:60%
presentation:40%

【学生の意見等からの気づき】
受講者それぞれのレベルの差に配慮する。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline (in English)】
This is the Chinese conversation course for intermediate learners. The aim of this course is to master intermediate level conversation skill. We will study basic vocabulary and grammar, and improve Chinese speaking skill.
We should do the exercise of reading,writing,listening and talking.
We should talk the chinese daily conversation well.
We should prepare and review about one hour a week.
It is better to take the test of HSK.
Term-end test:60%
presentation:40%

LANc200LA（中国語 / Chinese language education 200）

資格中国語初級Ⅰ

2017年度以降入学者

青木　正子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水4**/Wed.4
単位数：**1単位**
定員制（40）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
HSK（☒☒水平考☒）１級～３級合格レベルの中国語を身につけることが、この授業の目的ですが、例年レベルが高い学生が多いため、春学期中に２－３級、秋学期中に３－４級に合格できるよう指導します。HSKのリスニングは難しいので、中国検定準4級程度からトレーニングを始めていきます。向上心のある学生の参加を歓迎します。単位のためだけの履修は向きません。中国語を１年以上履修した学生に限ります。中国語が好きな人が集まりますので、気軽に情報交換できる楽しいクラスを目指します。毎年全員が高得点で合格しています。

【到達目標】
春学期はHSK２－３級に合格できるリスニング力と読解力を身につけてもらいます。秋学期はHSK3－4級合格を目指します。昨年の３級合格者の平均点は２４７点で、内訳は、聴力７８点、閲読８６点、写作８３点でした。日本人が苦手な聴力の得点も良好で、閲読では４人が１００点（満点）でした。また４級には３人合格しました。履修者は２年生が多いですが、就活を終えた４年生もいます。１年生のとき使用した教科書ポイント学習を復習しながら、初級中国語の基礎文法のしくみを解説します。必ずレベルアップを感じていただけると思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
HSKの過去問プリントを使って学習します。必要な単語と文法を学び、実際の過去問を解いて実践力を養います。単語帳のテキストを使って、単語テストを行い、語彙力を高めます。ポイント学習の教科書を使って初級中国語の文法の構造を把握し理解します。フィードバックは授業内とメールで行います。メールは、qingm@live.jp

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	レベルチェックテスト	メンバーのレベルをチェックします。
2	HSK１級過去問①	HSK１過去問①を解き解説します。
3	HSK１過去問②	HSK１過去問②を解いて解説します。
4	HSK２過去問①	HSK２過去問①を解いて解説します。
5	HSK２過去問②	HSK２過去問②を解いて解説します。
6	HSK２級過去問③	HSK２級過去問③を解いて解説します。
7	HSK２級過去問④	HSK２級過去問④を解いて解説します。
8	HSK３級過去問①	HSK３級過去問①を解いて解説します。
9	HSK３級過去問②	HSK３級過去問②を解いて解説します。
10	HSK３級過去問③	HSK３級過去問③を解いて解説します。
11	HSK３級過去問④	HSK３級過去問④を解いて解説します。
12	HSK３級過去問⑤	HSK３級過去問⑤を解いて解説します。
13	HSK３級過去問⑥	HSK３級過去問⑥を解いて解説します。
14	春学期復習と学習のまとめ	復習テストと学習のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
良く復習すること。覚えた単語は忘れないようにすること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
過去問はプリントを配布します。法政大学のHSK合格講座のサイトも活用します。次のテキストを使用します。履修を決めてから購入してください。HSK/中検対応『中国語基本単語帳』　早稲田大学商学部中国語教室（編著）朝日出版社。ポイント学習中国語を毎回持参してください。

【参考書】
HSK過去問、HSK公式アプリ単語、法政大学HSK合格講座

【成績評価の方法と基準】
出席状況80％と期末テスト20％で評価します。HSK合格者は、S評価とします。

【学生の意見等からの気づき】
単語帳テキストを使って、単語テストを実施し、語彙力を高めます。同時にリスニングのトレーニングを多く行います。文法がもっとわかるようになりたいという要望が多いので、ポイント学習中国語を使って解説します。文法の基礎や構造を理解していただけるように工夫します。プリント教材の質を向上させて、復習しやすいように心がけます。また欠席者が困らないように、授業内容は、hoppiにアップするようにします。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン、スマホ

【Outline (in English)】
The aim of this course is to pass 1st 2nd grade of HSK (Hanyu Shuiping Kaoshi) test. To achieve this aim, we will review the basic Chinese grammar and vocabulary, and do past HSK questions.
One hour is required for each lesson for preparation and review of this class.
The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc200LA（中国語 / Chinese language education 200）

資格中国語初級Ⅱ

2017年度以降入学者

青木　正子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水4**/Wed.4
単位数：**1単位**
定員制（40）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
HSK３－４級合格レベルの中国語を身につけることが目的です.この授業は春学期から継続しています。秋学期からの参加も歓迎しますが、春学期のシラバスを読んで、初回の授業に出てから履修を決めてください。中国語が好きで意欲的な学生の参加を歓迎します。

【到達目標】
HSK３－４級合格以上を目指します。昨年は４級は３人合格しました。詳細は春学期のシラバスをご覧ください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
プリント教材を使って、HSK３－４級の単語と文法を学びます。リスニング練習を重視します。そのほか単語帳とポイント学習中国語の教科書で初級文法の構造を解説します。フィードバックは授業内とメールで行います。qingm@live.jp

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	HSK３級昨年度の過去問を使ったレベルチェックテスト	HSK３級昨年度の過去問を使って皆さんのレベルをチェックします。
2	HSK３級過去問①	HSK３級過去問①を解いて解説します。
3	HSK４級単語解説	HSK４級に出る単語を解説します。
4	HSK４級過去問リスニングチェックテスト①	HSK４級過去問リスニングを解いてリスニング力をチェックします。
5	HSK４級過去問リスニング②	HSK４級過去問リスニング②を解いて解説します。
6	HSK４級過去問リスニング③	HSK４級過去問リスニング③を解いて解説します。
7	HSK４級過去問リスニング④	HS４級過去問④を解いて解説します。
8	HS４級過去問閲読①	HSK４級過去問閲読①を解いて解説します。
9	HSK４級過去問閲読②	HSK４級過去問閲読②を解いて解説します。
10	HSK４級過去問閲読③	HSK４級過去問③を解いて閲読の解説します。
11	HSK４級過去問閲読④	HSK４級過去問閲読④を解いて、閲読の解説をします。
12	HSK４級過去問作文①	HSK４級過去問の２作文練習をします。
13	HSK４級過去問	HSK４級過去問の作文②を学習します。
14	授業の総まとめ期末テスト実施	期末テスト実施、解説をしながら学習の総まとめをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で学んだことを忘れないように、よく復習すること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
プリント教材を配布します。プリント以外に、次の単語帳テキストを使用します。
『中国語基本単語帳』　早稲田大学商学部中国語教室（編著）朝日出版社。またポイント学習中国語を持参することが望ましいです。

【参考書】
HSK－４３級過去問、単語集。法政大学HSK合格講座

【成績評価の方法と基準】
出席状況80％、期末テスト20％で評価します。HSK３級以上合格者はSランクで評価します。

【学生の意見等からの気づき】
欠席者が困らないように、授業内容はhoppiにアップするようにします。

【学生が準備すべき機器他】
スマホ、PC。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to pass 1st 2nd grade of HSK (Hanyu Shuiping Kaoshi) test. To achieve this aim, we will review the basic Chinese grammar and vocabulary, and do past HSK questions.
One hour is required for each lesson for preparation and review of this class.
The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

ARSe200LA（地域研究（東アジア）/ Area studies(East Asia) 200）

中国語の世界ＬＡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

髙柳　浩平

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火4**/Tue.4
単位数：**2単位**
定員制（60）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ことばは一般的に「コミュニケーションのための手段」と見なされることが多いですが、ことばが使われる時、その背後には整然としたしくみが存在しています。本授業は、何かの手段としての中国語を学ぶのではなく、中国語を中国語たらしめているしくみがどのように形成されたのか、どのように運用されているのかを、言語学的見地から「文字」「語彙」「音韻」「文法」といった分野に分けて学んでいきます。つまり、ことばとして中国語そのものを深く理解することこそが本授業の目的です。

【到達目標】
中国語のしくみを分析・探求する学問を「中国語学」と呼びますが、本授業の到達目標は、中国語学の根幹をなす「文字」「語彙」「音韻」「文法」といった各分野における基礎知識を習得することと、いくつか取り上げる個別の事例について自力で分析が出来るようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
教員が作成して配布した資料をもとに講義をおこない、各回の終わりにはリアクションペーパーを提出してもらいます。質疑応答、課題等へのフィードバックは授業時におこなうほか、随時大学の学修支援システムやメールも利用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	ガイダンス	授業に関する留意点の説明等
②	中国語の文字（１）	漢字の起源と変遷
③	中国語の文字（２）	漢字の簡略化及び文字改革と簡体字
④	中国語の音韻（１）	古代の音とその表記法
⑤	中国語の音韻（２）	古代の音から現代の音へ
⑥	中国語の音韻（３）	ピンインの成立とその表記法
⑦	中国語の語彙（１）	古代の語彙とその分類
⑧	中国語の語彙（２）	古代の語彙から現代の語彙へ
⑨	中国語の語彙（３）	日中語彙交流と外来語・新語・流行語
⑩	中国語の文法（１）	中国語の文構造と品詞分類
⑪	中国語の文法（２）	中国語文法研究の変遷
⑫	共通語と方言（１）	共通語の成立と広がり
⑬	共通語と方言（２）	共通語と諸方言の比較
⑭	まとめと試験	講義のまとめと筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書はありません。教員が作成した教材を印刷して授業時に配布します。

【参考書】
参考書は授業内にて適宜お知らせします。

【成績評価の方法と基準】
平常点（40％）、期末試験（60％）とします。
※平常点には、毎回提出するリアクションペーパーや、数回実施する小レポート等が含まれます。
※期末試験は一切参照不可にて実施しますので、基本事項は早めに覚えておきましょう。

【学生の意見等からの気づき】
新任のため無し。

【学生が準備すべき機器他】
中日辞典を毎回持参することが望ましい。

【その他の重要事項】
授業計画は変更する可能性がありますので、参考程度に考えてください。
なお、本授業は中国語を全く学んだことのない方でも履修可能です。中国語や言語学に触れたことのない方にとっても、面白いと思ってもらえる授業を心がけます。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course deals with the Chinese Linguistics. The purpose of this course is to gain a deep understanding of the Chinese language itself.
【Learning Objectives】
The goal of this course is to acquire basic knowledge of Chinese Linguistics .
【Learning activities outside of classroom】
4 hours for preparation and review for each class.
【Grading Criteria /Policy】
Term-end examination: 60%、Short reports and in class contribution: 40%

ARSe200LA（地域研究（東アジア）/ Area studies(East Asia) 200）

中国語の世界ＬＢ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

髙柳　浩平

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火4**/Tue.4
単位数：**2単位**
定員制（60）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
前期に引き続き本授業では、何かの手段としての中国語を学ぶのではなく、中国語を中国語たらしめているしくみがどのように形成されたのか、どのように運用されているのかを、言語学的見地から学んでいきます。つまり、ことばとして中国語そのものを深く理解することこそが本授業の目的です。

【到達目標】
中国語のしくみを分析・探求する学問を「中国語学」と呼びますが、本授業の到達目標は、中国語学の根幹をなす「文字」「語彙」「音韻」「文法」といった各分野における基礎知識を習得することと、いくつか取り上げる個別の事例について自力で分析が出来るようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
教員が作成して配布した資料をもとに講義をおこない、各回の終わりにはリアクションペーパーを提出してもらいます。質疑応答、課題等へのフィードバックは授業時におこなうほか、随時大学の学修支援システムやメールも利用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	ガイダンス	授業に関する留意点の説明等
②	類型論からみる中国語（１）	形態的類型論における中国語
③	類型論からみる中国語（２）	語順類型論における中国語
④	中国語文法の分析（１）	中国語と西洋文法の受容
⑤	中国語文法の分析（２）	中国語とアスペクト
⑥	中国語文法の分析（３）	中国語と補語
⑦	中国語文法の分析（４）	中国語と類像性
⑧	中国語史（０）	中国語史における時代区分
⑨	中国語史（１）	上古中国語の特徴
⑩	中国語史（２）	中古早期中国語の特徴
⑪	中国語史（３）	中古中国語の特徴
⑫	中国語史（４）	近代中国語の特徴
⑬	応用演習	中国語と能格性
⑭	まとめと試験	講義のまとめと筆記試験をおこないます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書はありません。教員が作成した教材を印刷して授業時に配布します。

【参考書】
参考書は授業内にて適宜お知らせします。

【成績評価の方法と基準】
平常点（40％）、期末試験（60％）とします。
※平常点には、毎回提出するリアクションペーパーや、数回実施する小レポート等が含まれます。
※期末試験は一切参照不可にて実施しますので、基本事項は早めに覚えておきましょう。

【学生の意見等からの気づき】
新任のため無し。

【学生が準備すべき機器他】
中日辞典を毎回持参することが望ましい。

【その他の重要事項】
授業計画は変更する可能性がありますので、参考程度に考えてください。
なお、本授業は中国語を全く学んだことのない方でも履修可能です。中国語や言語学に触れたことのない方にとっても、面白いと思ってもらえる授業を心がけます。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course deals with the Chinese Linguistics. The purpose of this course is to gain a deep understanding of the Chinese language itself.
【Learning Objectives】
The goal of this course is to acquire basic knowledge of Chinese Linguistics .
【Learning activities outside of classroom】
4 hours for preparation and review for each class.
【Grading Criteria /Policy】
Term-end examination: 60%、Short reports and in class contribution: 40%

ARSe200LA（地域研究（東アジア）/ Area studies(East Asia) 200）

中国の文化と社会ＬＡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：**台湾の文化と社会**

山本　律

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木**2/Thu.2
単位数：**2単位**
定員制（60）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年、台湾は日本人の旅行先として人気となっています。
日本と台湾は長い歴史の中で深いかかわりを持っています。
本授業では映像資料を用いて日本と台湾の文化的関係についてみていきます。

【到達目標】
日本と台湾との文化的関係についての理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
講義形式で授業を行います。
毎回コメントペーパーを出してもらいます。
その次の回の授業でコメントペーパーの内容や質問についてフィードバックします。
最終回には教場レポートを提出してもらいます。
出席や遅刻など毎回の授業態度と教場レポートが主な成績判定となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方について
第2回	映画で学ぶ中国の文化と社会1	映画『あの頃、君を追いかけた』（第1回） 教員による解説・講義
第3回	映画で学ぶ中国の文化と社会1	映画『あの頃、君を追いかけた』（第2回） 教員による解説・講義
第4回	映画で学ぶ中国の文化と社会1	映画『あの頃、君を追いかけた』（第3回） 教員による解説・講義
第5回	映画で学ぶ中国の文化と社会2	映画『私の少女時代』（第1回） 教員による解説・講義
第6回	映画で学ぶ中国の文化と社会2	映画『私の少女時代』（第2回） 教員による解説・講義
第7回	映画で学ぶ中国の文化と社会2	映画『私の少女時代』（第3回） 教員による解説・講義
第8回	映画で学ぶ中国の文化と社会3	映画『海角七号』（第1回） 教員による解説・講義
第9回	映画で学ぶ中国の文化と社会3	映画『海角七号』（第2回） 教員による解説・講義
第10回	映画で学ぶ中国の文化と社会3	映画『海角七号』(第3回) 教員による解説・講義
第11回	映画で学ぶ中国の文化と社会4	映画『KANO』（第1回） 教員による解説・講義
第12回	映画で学ぶ中国の文化と社会4	映画『KANO』（第2回） 教員による解説・講義
第13回	映画で学ぶ中国の文化と社会4	映画『KANO』（第3回） 教員による解説・講義
第14回	授業の総まとめとレポート	授業の総まとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて4時間を標準とします。
映画は各自で観てください。

【テキスト（教科書）】
使用しない。
必要に応じて資料を配布する。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点（出席、授業態度、コメントペーパー）60％、レポート40％

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
In this course, we will learn about Chinese culture and society by using various materials such as movies.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Final grade will be calculated according to the following Report(40%), in-class contribution(60%).

ARSe200LA（地域研究（東アジア）/ Area studies(East Asia) 200）

中国の文化と社会ＬＢ

2017年度以降入学者

サブタイトル：**香港の文化と社会**

山本　律

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木**2/Thu.2
単位数：**2単位**
定員制（60）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　中国の文化と社会について、中国映画や中国の映像資料を用い学んでいきます。
　映画は、その国の文化と社会を映し出します。
　今期では、2008年に公開されて以降、人気を博しシリーズ化されたカンフーアクション映画を軸として香港の社会と文化についてみていきます。

【到達目標】
　中国香港の文化と社会についての理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
　基本的には講義形式で授業を行います。
　毎回コメントペーパーを出してもらいます。
　その次の回の授業でコメントペーパーの内容や質問についてフィードバックします。
　最終回には教場レポートを提出してもらいます。
　出席や遅刻など毎回の授業態度と教場レポートが主な成績判定となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方について
第2回	映画で学ぶ中国の文化と社会2	映画『イップマン　序章』（第1回） 教員による解説・講義
第3回	映画で学ぶ中国の文化と社会2	映画『イップマン　序章』（第2回） 教員による解説・講義
第4回	映画で学ぶ中国の文化と社会2	映画『イップマン　序章』（第3回） 教員による解説・講義
第5回	映画で学ぶ中国の文化と社会2	映画『イップマン　葉問』（第1回） 教員による解説・講義
第6回	レポート映画で学ぶ中国の文化と社会2	映画『イップマン　葉問』（第2回） 教員による解説・講義
第7回	映画で学ぶ中国の文化と社会2	映画『イップマン　葉問』（第3回） 教員による解説・講義
第8回	映画で学ぶ中国の文化と社会3	映画『イップマン　継承』（第1回） 教員による解説・講義
第9回	映画で学ぶ中国の文化と社会3	映画『イップマン　継承』（第2回） 教員による解説・講義
第10回	映画で学ぶ中国の文化と社会3	映画『イップマン　継承』（第3回） 教員による解説・講義
第11回	映画で学ぶ中国の文化と社会4	映画『イップマン　外伝』（第1回） 教員による解説・講義
第12回	映画で学ぶ中国の文化と社会4	映画『イップマン　外伝』（第2回） 教員による解説・講義
第13回	映画で学ぶ中国の文化と社会4	映画『イップマン　外伝』（第3回） 教員による解説・講義
第14回	授業の総まとめと試験	授業の総まとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて4時間を標準とします。映画は各自で観てきてください。

【テキスト（教科書）】
使用しない。
必要に応じて資料を配布する。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点（出席、毎回のコメントペーパー）60％、レポート40％。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
In this course, we will learn about Chinese society and culture by using various materials such as movies.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Final grade will be calculated according to the following Report(40%), in-class contribution(60%).

ARSe200LA（地域研究（東アジア）/ Area studies(East Asia) 200）

中国の文化と社会ＬＣ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

陳　瀟瀟

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金**3/Fri.3
単位数：**2単位**
定員制（60）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、中国の文化と社会に関する基礎知識を学ぶ。中国の食文化、民俗行事、芸術工芸及び文化遺産について概観し、現代中国社会における学校教育、ジェンダー構造、消費者意識、流行物などを紹介・解説する。中国文化の多様性及び現代中国社会の実態への理解を深め、異文化理解と異文化交流の力を養うことを目的とする。

【到達目標】
・中国の文化と社会に関する基礎知識を習得する。
・中国社会に関する知識や事柄を理解する。
・中国のマナー・文化風習・商習慣への理解を深める。
・現代中国社会の事柄と流行物を客観的・多角的に捉える。
・異文化理解と異文化交流の力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
テーマごとに講義を行う。また、受講生が練習問題の解答や自分の考えを発表する機会も設ける。グループディスカッションがある。課題とリアクションペーパーへのフィードバックは授業内及び学習支援システムにて行う。
※対面授業。授業形態に変更がある場合は大学の方針が確定された後、学習支援システムでその都度知らせる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	・シラバス、授業内容の説明 ・授業計画と進め方、成績評価の方法と基準を説明
第2回	行政区画・地理	・中国の東西南北と地理概念 ・地域の差
第3回	漢民族と少数民族	・漢民族 ・少数民族
第4回	中国語という言語	・漢字の歴史 ・普通話と方言
第5回	食文化	・中華料理とは ・「南」と「北」の食文化 ・円卓文化 ・デリバリーの流行
第6回	コミュニケーション文化１	・茶文化 ・酒文化
第7回	コミュニケーション文化２	・ビジネスマナー ・「メンツ」について
第8回	祝祭日と民俗行事	・二十四節気と祝祭日 ・民俗行事
第9回	芸術：音楽、絵画と戯曲	・音楽：燕楽、琴楽、民謡 ・絵画：花鳥画、山水画 ・戯曲：昆劇、京劇、川劇
第10回	学校教育	・「科挙」と「高考」 ・現代社会の教育制度 ・都市と農村での教育格差
第11回	「巻」と「躺平」	・「巻」とは何か ・「躺平」とは何か ・若者世代の現状
第12回	「二次元文化」と「国潮」	・急成長の二次元文化 ・新しいカルチャー：国潮
第13回	異文化コミュニケーション	・異文化コミュニケーション・ギャップ ・異文化コミュニケーション・スキル ・ディスカッション
第14回	授業内容のまとめ レポートの提出	・まとめと質疑応答 ・期末レポートの提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各２時間（計4時間）を標準とする。
・授業前に学習支援システムにアップロードされた講義資料を読んでおくこと。
・授業後は関連知識の振り返り、疑問点や感想を整理してまとめること。
・授業内で示される課題・ディスカッションの内容を対応すること。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。
講義資料は事前に学習支援システムにアップロードする。
必要に応じて資料を配布する。

【参考書】
中国研究所編『中国年鑑』（2024年版）明石書店、2024年
許倬雲『中国文化的精神』九州出版社、2024年
楼宇烈『中国文化十五講』東方出版中心、2024年
程愛民『中国概況（修訂版）』上海外語教育出版社、2024年
藤野彰編著『現代中国を知るための54章（第7版）』明石書店、2024年
藤野彰編著『現代中国を知るための52章（第6版）』明石書店、2018年
王力編『中国古代文化常識』北京聯合出版公司、2014年
毛里和子・園田茂人編『中国問題キーワードで読み解く』東京大学出版会、2012年
並木頼壽・杉山文彦編著『中国の歴史を知るための60章』明石書店、2011年
※その他の参考文献は授業中に必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（課題・リアクションペーパー・授業への参加度）を60％、期末レポートを40％として合計100点満点とする。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60％以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
授業の理解度を高めるために、音声・映像などのコンテンツを活用する。
私語などを注意し、授業に集中しやすい環境づくりに心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
学習支援システム上の本授業の連絡事項を確認すること。
不明な点がある場合、xiaoxiao.chen.77@hosei.ac.jpまで連絡してください。

【Outline (in English)】
This course provides fundamental knowledge of Chinese culture and society.It offers an overview of Chinese food culture, folk traditions, arts and crafts, and cultural heritage. Additionally, the course introduces and explains aspects of contemporary Chinese society, including education, gender structures, consumer awareness, and popular trends.
【Learning Objectives】
・Acquire basic knowledge of Chinese culture and society.
・Understand key aspects and characteristics of Chinese society.
・Gain a deeper understanding of Chinese etiquette, cultural customs, and business practices.

・Be able to analyze contemporary Chinese society and trends from an objective and multifaceted perspective.
・Develop intercultural understanding and communication skills.
【Learning activities outside of classroom】
Students are expected to spend approximately two hours each on preparation and review, totaling four hours per session.
【Grading Criteria /Policies】
Grading will be based on in-class contribution(60%) and term-end report(40%).Students who achieve 60%or more of the course objectives will pass.

ARSe200LA（地域研究（東アジア）/ Area studies(East Asia) 200）

中国の文化と社会ＬＤ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

陳　瀟瀟

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**金**3/Fri.3
単位数：**2単位**
定員制（60）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、中国の文化と社会に関する基礎知識を学ぶ。中国の宗教、文学、美術工芸、世界遺産、冠婚葬祭について概観し、歴史的・文化的背景を理解する。次に、現代中国社会に焦点を当て、情報化とグローバル化に伴う価値観の変化、消費行動の変化、ジェンダー構造の変容について考察する。本授業を通じて中国の文化と社会の特徴を理解し、その変遷を多角的に捉える力を養うことを目指す。また、異文化理解と異文化交流の視点を深めるとともに、自らの考えを発展させることを目的とする。

【到達目標】
・中国の文化と社会に関する基礎知識を習得する。
・中国社会に関する知識や事柄を理解する。
・中国の冠婚葬祭のマナー・文化風習への理解を深める。
・現代中国社会の事柄と流行物を客観的・多角的に捉え、自分なりの考えを深める。
・異文化理解と異文化交流の力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
テーマごとに講義を行う。また、受講生が練習問題の解答や自分の考えを発表する機会も設ける。グループディスカッションがある。課題とリアクションペーパーへのフィードバックは授業内及び学習支援システムにて行う。
※対面授業。授業形態に変更がある場合は大学の方針が確定された後、学習支援システムでその都度知らせる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	宗教	・民間信仰と祖先崇拝 ・道教と仏教
第2回	文学	・古代文学 ・唐詩と宋詞 ・近現代文学
第3回	美術工芸	・ガラス工芸 ・陶器、磁器、景泰藍 ・刺繍
第4回	中国の世界遺産１	・故宮 ・万里の長城 ・始皇帝陵と兵馬俑
第5回	中国の世界遺産２	・パンダ保護区群 ・莫高窟、龍門石窟、雲崗石窟、大足石刻 ・九寨溝、黄龍、黄山、桂林
第6回	冠婚葬祭	・結婚式 ・葬儀
第7回	SNSとショート動画	・SNSと「自媒体」 ・ショート動画の急成長 ・娯楽性と実用性
第8回	消費行動の変化	・店頭購入とネットショッピング ・爆買いから理性消費へ ・モノ消費からコト消費へ
第9回	ジェンダー構造の変容とフェミニズム	・男尊女卑と男女平等 ・フェミニズム ・ジェンダー構造の変容
第10回	異文化コミュニケーション１	・カルチャーショック ・異文化受容と異文化適応 ・自文化の変容
第11回	プレゼンテーション・ディスカッション１	・カルチャーショック ・異文化理解・自文化理解 ・グループディスカッション
第12回	異文化コミュニケーション２	・多文化社会とは ・多文化共生へ ・マイノリティへの理解
第13回	プレゼンテーション・ディスカッション２	・プレゼンテーション ・グループディスカッション
第14回	授業内容のまとめ レポートの提出	・まとめと質疑応答 ・期末レポートの提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間（計4時間）を標準とする。
・授業前に学習支援システムにアップロードされた講義資料を読んでおくこと。
・授業後は関連知識の振り返り、疑問点や感想を整理してまとめること。
・授業内で示される課題・ディスカッションの内容を対応すること。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。
講義資料は事前に学習支援システムにアップロードする。
必要に応じて資料を配布する。

【参考書】
中国研究所編『中国年鑑』（2024年版）明石書店、2024年
許倬雲『中国文化的精神』九州出版社、2024年
楼宇烈『中国文化十五講』東方出版中心、2024年
程愛民『中国概況（修訂版）』上海外語教育出版社、2024年
藤野彰編著『現代中国を知るための54章（第7版）』明石書店、2024年
藤野彰編著『現代中国を知るための52章（第6版）』明石書店、2018年
王力編『中国古代文化常識』北京聯合出版公司、2014年
毛里和子・園田茂人編『中国問題キーワードで読み解く』東京大学出版会、2012年
並木頼壽・杉山文彦編著『中国の歴史を知るための60章』明石書店、2011年
※その他の参考文献は授業中に必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（課題・リアクションペーパー・授業への参加度）を60％、期末レポートを40％として合計100点満点とする。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60％以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
授業の理解度を高めるために、音声・映像などのコンテンツを活用する。
私語などを注意し、授業に集中しやすい環境づくりに心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
学習支援システム上の本授業の連絡事項を確認すること。
不明な点がある場合、xiaoxiao.chen.77@hosei.ac.jpまで連絡してください。

【Outline (in English)】
This course provides fundamental knowledge of Chinese culture and society. It offers an overview of China's religion, literature, arts and crafts, world heritage, and traditional ceremonies. This course also explores contemporary Chinese society, analyzing shifts in values, consumer behavior, and gender dynamics.
【Learning Obejectives】
· Acquire basic knowledge of Chinese culture and society.
· Understand key aspects and characteristics of Chinese society.
· Gain a deeper understanding of Chinese customs and traditions.
· Develop the ability to analyze contemporary Chinese society and trends from an objective, multifaceted perspective, while forming independent insights.
· Develop intercultural understanding and communication skills.
【Learning activities outside of classroom】
Students are expected to spend approximately two hours each on preparation and review, totaling four hours per session.
【Grading Criteria /Policies】
Grading will be based on in-class contribution (60%) and term-end report (40%). Students who achieve 60%or more of the course objectives will pass.


法政大学
HOSEI University